岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 126

北方下沼遺跡
北方横田遺跡
北方中溝遺跡
北方地蔵遺跡

都市計画道路万成・国富線
建設に伴う発掘調査 I

1998

岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 126

北方下沼遺跡
北方横田遺跡
北方中溝遺跡
北方地蔵遺跡

都市計画道路万成・国富線
建設に伴う発掘調査 I

1998

岡山県教育委員会

北方横田遺跡１区水田４・５、溝５（東上空から）

巻頭図版2

1．北方下沼遺跡水田２Ｂ（東から）

２．北方中溝遺跡２区溝35網代編み遺構（北から）

磨製石包丁 S2

S2 拡大

北方中溝・地蔵遺跡出土サヌカイト製石鏃

北方中溝遺跡土器溜り出土弥生土器

巻頭図版4

勾玉 S24

勾玉 S26

有孔円盤 S25

施釉陶器 713

北方下沼・横田遺跡出土緑釉陶器

北方下沼・横田遺跡出土緑釉陶器

緑釉陶器 879

白磁 386

青磁 387

北方下沼・横田遺跡出土古代土器

北方下沼・横田遺跡出土中世土器

序

岡山県では、瀬戸大橋の開通と山陽自動車道の県内全線開通、ついで山陰と山陽を結ぶ岡山自動車道の開通などが相次ぎました。これらは、文字通り日本海と太平洋を結ぶ交通の要として地理的、経済的な面で大きな役割を果たしています。

一方で、県都岡山市周辺でも昭和63年３月の新岡山空港の開港などに伴い都市交通網の整備が進められてきました。これらの大規模な開発事業と埋蔵文化財の保護・保存について、岡山県教育委員会では日々、調整・協議に努めているところです。

都市計画道路万成・国富線も都市交通網の整備の一環として、昭和50年に国・県・市で構成する「県南地域総合交通研究会」が計画をまとめたものです。これは、市内の幹線道路をバイパス的に結ぶ３本の環状道路の一つ、中環状線として計画されたもので、国・県・市がそれぞれ受け持ち、区域を分担して整備が進められてきました。この計画路線の北側部分すなわち学南町の西側、総合グランド一帯には弥生時代前期の水田跡が発見されたことで注目された国指定史跡「津島遺跡」が広がっており、岡山県教育委員会では建設計画に先立ち、昭和62年度から関係部局と埋蔵文化財の保存について慎重に協議を重ねて参りました。その結果、まず遺跡の存在や広がりを確かめるための確認調査を昭和62年度に実施しました。対象範囲は、北方下沼遺跡から北方中溝遺跡までの東西約450ｍにわたりましたが、事業予定地内にはほぼ全面にわたって弥生時代の水田跡や溝などが存在することが明らかになりました。その後、都市計画道路万成・国富線街路改良事業に伴う事前協議が行なわれ、遺跡の保存について調整が図られました。しかし、現状での保存はきわめて困難であるとの結論に達し、昭和63年度からは、止むを得ず記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなりました。

平成４年度から７年度にかけては、道路敷部分の全面的な発掘調査が実施され、弥生時代前期にさかのぼる水田遺構や古墳時代の住居群をはじめ、古代から中世にかけて存続した長大な溝などが相次いで姿を現し、旭川の西側に展開される古代吉備文化の一端を知る上で貴重な発見となりました。これらの成果を収めた報告書が今後の吉備の古代史研究や、文化財の保護に役立つことができれば望外の喜びであります。

発掘調査の実施、報告書の作成にあたっては、専門委員会の先生方には種々ご指導を賜りました。また地域住民の皆様をはじめ、岡山県土木部都市局都市計画課ならびに岡山地方振興局には暖かいご理解とご協力を賜りました。関係各位に対し、記して深甚の謝意を表する次第であります。

平成10年３月

岡山県古代吉備文化財センター

所長　簸本克之

例　　言

1．本報告書は、都市計画道路万成・国富線建設に伴って岡山県古代吉備文化財センターが岡山県土木部都市局都市計画課から依頼を受けて発掘調査を実施した北方下沼（きたかたしもぬま）遺跡・北方横田（きたかたよこた）遺跡・北方中溝（きたかたなかみぞ）遺跡・北方地蔵（きたかたじぞう）遺跡の発掘調査報告である。遺跡名は発掘調査当初の名称を変更し、その照合については第3表に明記した。

2．北方下沼遺跡・北方横田遺跡は、岡山市学南町二丁目、北方中溝遺跡は同三丁目、北方地蔵遺跡は大和町一丁目に所在する。

3．発掘調査は、確認調査・全面調査を1987（昭和62）年10月から1996（平成8）年3月まで実施した。

4．発掘調査および報告書の作成にあたっては下記の方々に専門委員を委嘱した。専門委員各位からは終始有益なご指導とご助言をいただいた。記して深く感謝の意を表する次第である。

水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）　　近藤義郎（岡山大学名誉教授）

5．本報告書の作成は、1996年度に岡山県古代吉備文化財センターにおいて、センター職員岡田博、前田能成、小嶋善邦が担当して行なった。

6．本報告書の編集は、岡田が中心となって行なった。また、各遺構の執筆については、基本的には発掘調査担当者が分担し、文責は文末に明記した。

7．遺物写真については、江尻泰幸氏の協力と援助を仰いだ。

8．図版19－3、図版38－2は、ＯＨＫ（岡山放送）社屋の屋上から撮影したものである。撮影に際しては下山宏昭報道制作局長のご配慮を賜った。録して深謝する次第である。

9．本報告書に関わる自然遺物などのうち、一部のものについて鑑定・同定および分析を下記の諸氏機関に依頼し、有益な教示を得るとともに、そのいくつかについては報文を頂いた。記して厚くお礼申し上げる次第である。

墨書文字の釈読	久野修義（岡山大学教授）
緑釉陶器の産地同定	高橋照彦（国立歴史民俗博物館助教授）
施釉陶器の産地同定	江浦　洋（大阪府文化財調査研究センター）
石器・石製品の石材鑑定	妹尾　護（倉敷芸術科学大学助教授）
種子の同定	沖　陽子（岡山大学環境理工学部）
木製品樹種同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
花粉分析・珪藻分析ほか	パリノ・サーヴェイ株式会社
緑釉陶器蛍光Ｘ線分析	白石　純（岡山理科大学）
土師質土器の胎土分析	〃

10．出土遺物ならびに図面・写真類はすべて岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－3）に保管している。

凡　　例

1．本報告書にもちいた高度は海抜高であり、北方位については第１・２・３図が真北で、それ以外はすべて磁北である。なお遺跡付近の磁北は西偏６度50分を測る。

2．本報告書の遺構および遺物実測図の縮尺については明記しているが、特殊なものについては一部例外はあるものの以下のように統一している。

遺構

竪穴住居・建物（1/60）　　土壙（1/30）

遺物

土器（1/4）　　土製品（1/3）　　石器・石製品（1/2）

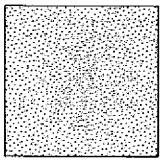
木製品（1/3、1/4）　　金属製品（1/3）

3．遺構番号については、便宜上各遺跡ごとに通し番号で表記した。北方下沼遺跡と北方横田遺跡については、まとめて掲載した。

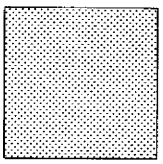
遺物番号については、北方下沼遺跡から北方地蔵遺跡まで通して表記した。

4．本報告書における土層名称、ことに色調については、各発掘調査担当者によって表記方法が異なっており、統一できていない。調査担当者の記載を尊重して表記した。

5．本報告書に掲載した熱影響部分のある遺構図においては、被熱している範囲と、炭・焼土の分布範囲とを下記のスクリーントーンで表現している。



……被熱範囲



……炭・焼土分布範囲

6．本報告書に掲載した遺物の番号については、土器・土製品、石器・石製品、金属製品、木器・木製品にわけて通し番号をつけ、土器以外については、下記の番号の前に付している。

土製品：C　　石器・石製品：S　　金属製品：M

木器・木製品：W

7．本報告書に掲載した地図のうち、第３図は国土地理院発行の1/25,000地形図「岡山北部」を、第２図は岡山市役所作製の1/2,500地形図を縮小複製し、加筆したものである。

8．本報告書に掲載した土器の拓本のうち、口径の計測が不可能な個体については、断面図の左側に内面、右側に外面の拓本を載せている。

9．土器観察表における色調は『新版標準土色帖（1988年版）』（農林水産省・農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所票監修）によっている。

10．本報告書にもちいた遺構・遺物の時期については、弥生時代から古墳時代前期については第１表の編年対比表を参考に表記し、それ以外の時期については各執筆者の意向に沿っており、あえて統一していない。なお、本報告書における古代・中世については、概ね８世紀から16世紀までを指している。

時代＼遺跡			百間川(註１)	雄町(註２)	上東・川入(註３)	南溝手・窪木(註4)
弥生時代	前期	津島	百間川前期Ⅰ			弥生時代前期前葉
		門田	百間川前期Ⅱ	雄町 1		弥生時代前期中葉
			百間川前期Ⅲ	雄町 2		弥生時代前期後葉
				船山 3		
	中期	南方	百間川中期Ⅰ	高田		弥生時代中期前葉
				雄町 3		
		菰池	百間川中期Ⅱ	船山 5		弥生時代中期中葉
				菰池		
				雄町 4		
		前山Ⅱ	百間川中期Ⅲ	前山東		弥生時代中期後葉
				雄町 5		
		仁伍		雄町 6	上東・鬼川市０	
	後期	上東	百間川後期Ⅰ	雄町 7	上東・鬼川市Ⅰ	弥生時代後期前葉
				雄町 8		
			百間川後期Ⅱ	雄町 9	上東・鬼川市Ⅱ	弥生時代後期中葉
				雄町 10		
		グランド上層	百間川後期Ⅲ	＋	上東・鬼川市Ⅲ	弥生時代後期後葉
		酒津	百間川後期Ⅳ	雄町 11	才の町Ⅰ	弥生時代後期末葉
					才の町Ⅱ	
古墳時代	前期	王泊六層	百間川古墳時代Ⅰ	雄町 12	下田所	古墳時代前期前葉
				雄町 13		
			百間川古墳時代Ⅱ		亀川上層	
				雄町 14	＋	
			百間川古墳時代Ⅲ	雄町 15	川入・大溝上層	古墳時代前期後葉

註１　岡山県教育委員会が1977年から実施している「百間川遺跡群」の発掘調査で用いられている編年である。（文献『旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅰ～Ⅻ』　岡山県教育委員会1980～1997年）

註２　「雄町遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告１』　岡山県教育委員会　1972年

註３　「川入・上東遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16』　岡山県教育委員会　1977年

註４　「南溝手遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告100』　岡山県教育委員会　1995年

第１表　編　年　対　比　表

本 文 目 次

序
例言
凡例
目次
第１章　発掘調査および報告書作成の経緯…… 1
　第１節　発掘調査の契機…… 1
　第２節　発掘調査の体制…… 1
　第３節　発掘調査の経過…… 7
　　１．確認調査…… 7
　　２．全面調査…… 7
　第４節　報告書作成の体制…… 10
第２章　遺跡の位置と環境…… 11
第３章　発掘調査の概要…… 17
　第１節　調査区の概要…… 17
　第２節　北方下沼遺跡・北方横田遺跡の概要…… 18
　　１．　概要…… 18
　　２．　弥生時代前期の遺構・遺物…… 19
　　(1)　水田…… 19
　　(2)　溝…… 26
　　(3)　その他の遺構・遺物…… 31
　　３．　弥生時代中期～後期の遺構・遺物…… 32
　　(1)　水田…… 32
　　(2)　河道…… 38
　　(3)　溝…… 40
　　(4)　土壙…… 42
　　(5)　その他の遺構・遺物…… 43
　　４．　古墳時代の遺構・遺物…… 47
　　(1)　竪穴住居…… 47
　　(2)　掘立柱建物…… 52
　　(3)　溝…… 55
　　(4)　土壙…… 56
　　(5)　その他の遺構・遺物…… 59
　　５．　古代・中世の遺構・遺物…… 62
　　(1)　溝…… 62
　　(2)　土壙…… 81

(3) 水田…… 86
(4) その他の遺構・遺物…… 86
第3節 北方中溝遺跡の概要…… 88
1. 概要…… 88
2. 弥生時代前期前半以前の遺構・遺物…… 91
(1) 溝…… 91
(2) その他の遺構・遺物…… 91
3. 弥生時代前期中葉の遺構・遺物…… 91
(1) 水田…… 91
(2) 溝…… 97
(3) 土壙…… 98
(4) その他の遺構・遺物…… 100
4. 弥生時代中期～後期の遺構・遺物…… 100
(1) 水田…… 100
(2) 溝…… 107
(3) 土壙…… 117
(4) その他の遺構・遺物…… 118
5. 古墳時代の遺構・遺物…… 121
(1) 水田…… 121
(2) その他の遺構・遺物…… 122
6. 古代～中世の遺構・遺物…… 124
(1) 溝…… 124
(2) その他の遺構・遺物…… 141
第4節 北方地蔵遺跡の概要…… 143
1. 調査の概要…… 143
2. 弥生時代前期の遺構・遺物…… 152
(1) 水田…… 152
(2) 溝…… 156
(3) 土壙…… 157
(4) その他の遺構・遺物…… 157
3. 弥生時代中期～後期中葉の遺構・遺物…… 158
(1) 溝…… 158
(2) 土壙…… 169
(3) たわみ…… 172
(4) その他の遺構・遺物…… 173
4. 弥生時代後期後葉の遺構・遺物…… 175
(1) 水田…… 175
(2) 溝…… 179

(3) その他の出土遺物…… 179
5． 古墳時代の遺構・遺物…… 180
(1) 溝…… 180
(2) 柵列状遺構…… 183
(3) その他の出土遺物…… 186
6． 古代・中世の遺構・遺物…… 187
(1) 水田…… 187
(2) 溝…… 190
(3) 土壙…… 195
(4) 粘土採掘坑…… 198
(5) その他の出土遺物…… 206
第4章 まとめ…… 208
付載
付載1 北方地蔵遺跡出土土師質土器の胎土分析……（白石）…… 213
付載2 北方下沼・北方横田・北方中溝・北方地蔵遺跡出土緑釉陶器の分析……（白石）… 219
付載3 北方下沼・北方中溝遺跡から出土した木製品の樹種……（パリノ・サーヴェイ）… 223
付載4 北方横田遺跡2区・北方中溝遺跡1区土壌の自然科学分析調査（植物珪酸体）
（パリノ・サーヴェイ株式会社）…… 231
付載5 北方地蔵遺跡・北方中溝遺跡の自然科学分析（花粉分析ほか）
（パリノ・サーヴェイ株式会社）…… 243

挿図目次

第1図 遺跡の位置
第2図 都市計画道路万成・国富線建設にかかる発掘調査区の位置(1/7,500)…… 2
第3図 周辺遺跡分布図(1/25,000)…… 12
第4図 発掘調査区域図・発掘調査位置図・発掘調査新旧比較図(1/800)……13·14
第5図 遺跡の名称と発掘区(1/1,500)……15·16
第6図 北方横田遺跡2区出土縄文土器(1/4)…… 18
第7図 北方下沼遺跡北壁土層断面図(1/80)…… 18
第8図 北方下沼・北方横田遺跡弥生時代前期水田と溝（黒塗り：畦、1/1,250)…… 19
第9図 北方下沼遺跡水田1、溝1(1/300・1/150)…… 20
第10図 北方下沼遺跡・北方横田遺跡1区水田2・3、溝2・5(1/400)…… 21
第11図 水田2A・3断面図(1/150)…… 22
第12図 水田1・2関連遺物(1/2・1/4)…… 22
第13図 水田3出土遺物(1/4)…… 23
第14図 北方横田遺跡2区西半水田4・5、溝5・6(1/400)…… 23
第15図 水田4・5、溝5断面図(1/150)…… 24
第16図 北方横田遺跡2区西半水田6・7、溝7～11(1/400・1/150)…… 25
第17図 水田9出土遺物(1/2・1/4)…… 26
第18図 溝3出土遺物(1/4)…… 26
第19図 北方横田遺跡2区東半水田8・9(1/400・1/150)……27·28
第20図 北方下沼遺跡大畦、溝3・4・出土遺物(1/300・1/30・1/4)…… 29
第21図 北方横田遺跡1区溝5土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 29

第22図　北方横田遺跡２区溝５土層断面図・出土遺物(1/60・1/2) …… 30
第23図　溝６断面図(1/60)…… 30
第24図　北方下沼遺跡包含層ほか出土弥生前期土器(1/4) …… 31
第25図　北方横田遺跡１区水田10(1/400) …… 33
第26図　北方横田遺跡１区水田11、溝12･13(1/400・1/150・1/60)…… 33
第27図　北方横田遺跡１区東半水田12・13、溝14(1/400・1/150)…… 34
第28図　北方横田遺跡２区水田14(1/400・1/150) ……35･36
第29図　北方横田遺跡２区水田15、土壙１(1/400) …… 37
第30図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区河道、溝15～17(1/400) …… 38
第31図　河道土層断面図・出土遺物(1/60・1/4) …… 39
第32図　溝12出土遺物(1/4) …… 40
第33図　溝13出土遺物(1/4) …… 40
第34図　溝15～17土層断面図・出土遺物(1/30・1/4) … 40
第35図　溝16出土遺物(1/4) …… 41
第36図　溝17出土遺物(1/4) …… 41
第37図　北方横田遺跡２区溝18・19(1/400・1/60) …… 41
第38図　土壙１・出土遺物(1/30・1/4) …… 42
第39図　北方下沼遺跡古代～中世遺構出土弥生土器(1/4) …… 43
第40図　北方横田遺跡包含層・中世遺構ほか出土弥生土器(1/4) …… 44
第41図　北方横田遺跡包含層ほか出土石器(1)(1/2) …… 45
第42図　北方横田遺跡包含層ほか出土石器(2)(1/2) …… 46
第43図　竪穴住居１・出土遺物(1/60・1/4) …… 47
第44図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区古墳時代遺構配置図(1/400) …… 48
第45図　竪穴住居２・出土遺物(1/60・1/4) …… 49
第46図　竪穴住居３・出土遺物(1/60・1/4) …… 49
第47図　竪穴住居４・出土遺物(1/60・1/4) …… 50
第48図　竪穴住居５・出土遺物(古；1/60・1/4) …… 51
第49図　竪穴住居５・出土遺物(新；1/60・1/3) …… 52
第50図　竪穴住居６、土壙５・６(1/60)…… 53
第51図　堀立柱建物１・出土遺物(1/60・1/4) …… 54
第52図　溝20・21・出土遺物(1/400・1/4・1/3) …… 55
第53図　土壙２・出土遺物(1/30・1/4) …… 56
第54図　土壙３・出土遺物(1/30・1/4) …… 56
第55図　土壙４～６・出土遺物(1/30・1/4) …… 57
第56図　土壙７・８・出土遺物(1/30・1/4) …… 58
第57図　柱穴出土遺物(1/30・1/2・1/4)…… 59
第58図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡古代～中世溝出土遺物(1/2・1/4)…… 59
第59図　北方下沼遺跡･北方横田遺跡１区出土遺物(土師器；1/4)…… 60
第60図　北方下沼遺跡出土ミニチュア土器(1/4) …… 61
第61図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区出土鍛冶関連遺物(鞴の羽口・炉底滓)…… 61
第62図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡古代～中世溝全体図(1/1,250) …… 62
第63図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡溝22～27、杭列(1/400・1/60)……63･64
第64図　北方下沼遺跡溝22出土遺物(土師器ほか；1/4) 65
第65図　北方下沼遺跡溝23出土遺物(須恵器ほか；1/4) 65
第66図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(1)(緑釉陶器・須恵器；1/4)…… 66
第67図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(2)(黒色土器・瓦器；1/4)…… 66
第68図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(3)(上層出土土師器；1/4)…… 67
第69図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(4)(下層出土土師器；1/4)…… 68
第70図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(5)(瓦；1/4) …… 69
第71図　北方横田遺跡溝24出土遺物(6)(土師器ほか；1/4)…… 69
第72図　北方下沼遺跡溝24出土遺物(7)(木製品；1/3・1/4)…… 70
第73図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区溝24出土遺物(8)(土製品・鉄器；1/3) …… 71
第74図　北方横田遺跡１区溝25土層断面図(1/60)…… 71
第75図　北方横田遺跡１区溝群と杭列、土壙９・10(1/400・1/60) …… 72
第76図　北方横田遺跡１区杭列断面図(1/60)…… 73

第77図　北方横田遺跡１区東半溝全体図(1/400・1/30)……74
第78図　北方横田遺跡２区遺構全体図・溝30～33土層断面図(1/400・1/60)……75・76
第79図　北方横田遺跡２区溝30西半出土遺物(須恵器・瓦器・土師器；1/4)……77
第80図　北方横田遺跡２区溝30東半出土遺物(1)(黒色土器；1/4)……77
第81図　北方横田遺跡２区溝30東半出土遺物(2)(須恵器・瓦器・緑釉陶器；1/4)……78
第82図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物(3)(土師器ほか；1/4)……80
第83図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物(4)(磁器・墨書土器；1/4)……80
第84図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物(5)(土製品・銭貨・鉄器；1/3・1/2)……80
第85図　北方横田遺跡２区溝32出土遺物(1/4)……81
第86図　北方横田遺跡１区土壙９土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)……81
第87図　北方横田遺跡２区土壙11～13(1/30)……82
第88図　北方横田遺跡２区土壙14・15・出土遺物(1/30・1/4)……83
第89図　北方横田遺跡２区土壙16・17(1/30)……84
第90図　北方横田遺跡２区土壙17出土遺物(1/4)……85
第91図　北方横田遺跡２区土壙18出土遺物(1/30・1/3)……85
第92図　北方横田遺跡１区水田16(1/400)……86
第93図　北方横田遺跡２区西半水田17(1/400)……87
第94図　水田17出土遺物(1/4)……87
第95図　北方中溝遺跡１区ｙ18ライン付近土層断面図(1/80)……88
第96図　北方中溝遺跡１区・２区西半部土層断面図(1/80)……89
第97図　北方中溝遺跡２区東半部土層断面図(1/80)……90
第98図　溝１土層断面図(1/60)……91
第99図　溝２土層断面図(1/60)……91
第100図　北方中溝遺跡包含層ほか出土縄文土器(1/4)…91
第101図　北方中溝遺跡弥生時代前期水田と溝(1/1,250)　92
第102図　水田１出土遺物(1/4)……92
第103図　北方中溝遺跡１区溝１・２(1/400)……93・94
第104図　北方中溝遺跡１区弥生時代前期遺構図(1/400)……93・94
第105図　北方中溝遺跡１区水田１～６断面図(1/150)…95
第106図　北方中溝遺跡２区水田７(1/400)……96
第107図　北方中溝遺跡２区水田７断面図(1/150)……97
第108図　溝３土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)……97
第109図　溝３断面図(1/60)……98
第110図　溝４・５合流部土層断面図(1/60)……98
第111図　溝６断面図・出土遺物(1/60・1/4)……98
第112図　北方中溝遺跡１区東半土壙群(1/400)……99
第113図　土壙１～６(1/30)……99
第114図　土壙７(1/30)……100
第115図　包含層ほか出土遺物(1/4)……100
第116図　北方中溝遺跡１区弥生時代後期遺構配置図(1/400)……101・102
第117図　北方中溝遺跡１区弥生時代後期水田・溝(1/400)……103・104
第118図　北方中溝遺跡１区水田断面図(1/150)……105
第119図　北方中溝遺跡２区水田(1/400・1/150)……106
第120図　北方中溝遺跡２区水田18・19(1/400)……107
第121図　溝７～９土層断面図(1/60)……107
第122図　溝９出土遺物(1/4)……108
第123図　壺形土器418線刻絵画(1/1)……109
第124図　溝10断面図(1/60)……110
第125図　溝11断面図(1/60)……110
第126図　溝12断面図(1/60)……110
第127図　溝13・30土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…110
第128図　溝14断面図・出土遺物(1/30・1/4)……111
第129図　溝15断面図・出土遺物(1/60・1/4)……111
第130図　溝16断面図(1/60)……111
第131図　溝17付近出土遺物(1/4)……111
第132図　溝18・19断面図(1/60)……111
第133図　溝20断面図・出土遺物(1/60・1/4)……112
第134図　溝21断面図(1/60)……112
第135図　溝22断面図(1/60)……112
第136図　溝23断面図(1/60)……112

第137図　溝24断面図(1/60) …… 112
第138図　溝25土層断面図(1/60) …… 112
第139図　北方中溝遺跡２区遺構配置図(1/400)…… 113
第140図　溝26断面図(1/60) …… 114
第141図　溝27土層断面図(1/60) …… 114
第142図　溝28土層断面図(1/60) …… 114
第143図　溝29断面図(1/60) …… 114
第144図　溝30・31土層断面図・出土遺物(上段：溝30、下段：溝31；1/60・1/4) …… 114
第145図　溝30・31・水田12(1/400)…… 115
第146図　溝32～34土層断面図(1/60) …… 115
第147図　溝32出土遺物(1/4)…… 116
第148図　溝34出土遺物(1/4)…… 116
第149図　土壙８～11(1/30) …… 117
第150図　土器溜り出土遺物(1/4)…… 119
第151図　溝状たわみ断面図(1/60) …… 120
第152図　包含層ほか出土遺物(1/2・1/4) …… 120
第153図　水出20関連出土遺物(1/4)…… 121
第154図　水田20(1/400)…… 122
第155図　古墳時代水田関連出土遺物(1/4)…… 123
第156図　包含層ほか出土遺物(1)(土師器・ミニチュア土器；1/4) …… 123
第157図　包含層ほか出土遺物(2)(韓式土器・須恵器；1/4) …… 123
第158図　古代～中世溝35流路図(1/6,000)…… 124
第159図　北方中溝遺跡１区遺構配置図(溝35ほか；1/400)……125・126
第160図　溝35土層断面図(1/60) …… 127
第161図　溝35部分図・網代編み遺構(1/150・1/80・1/50) …… 128
第162図　溝35出土遺物(1)(西半、須恵器；1/4)…… 129
第163図　溝35出土遺物(2)(西半、須恵器・瓦・備前焼；1/4) …… 130
第164図　溝35出土遺物(3)(東半、須恵器；1/4)…… 131
第165図　溝35出土遺物(4)(西半、土師器ほか；1/4)…… 132
第166図　溝35出土遺物(5)(東半、土師器；1/4)…… 133
第167図　溝35出土遺物(6)(西半、黒色土器・瓦器・土師器；1/4) …… 134
第168図　溝35出土遺物(7)(１区東半、黒色土器・土師器；1/4) …… 135
第169図　溝35出土遺物(8)(２区、黒色土器・瓦器・土師器；1/4) …… 135
第170図　溝35出土遺物(9)(墨書土器；1/4)…… 136
第171図　溝35出土遺物(10)(緑釉陶器ほか；1/4)…… 136
第172図　溝35出土遺物(11)(施釉陶器713；1/1) …… 136
第173図　溝35出土遺物(12)(鉄器；1/3、銭貨・石器；1/2) …… 137
第174図　溝35出土遺物(13)(土製品；1/3)…… 138
第175図　溝35出土遺物(14)(木製品；上段1/3、下段1/4) …… 139
第176図　北方中溝遺跡２区遺構配置図(1/400・1/60) … 140
第177図　北方中溝遺跡包含層出土遺物(1)(須恵器・土師器・陶磁器；1/4) …… 141
第178図　北方中溝遺跡包含層出土遺物(2)(土製品・金属製品・石製品；1/3・1/2)…… 142
第179図　北方地蔵遺跡１区西壁土層断面図(1/60) …… 143
第180図　北方地蔵遺跡２区東壁土層断面図(1/60) …… 144
第181図　北方地蔵遺跡３区東壁土層断面図(1/60) …… 144
第182図　北方地蔵遺跡弥生時代前期遺構配置図(1/600) ……145・146
第183図　北方地蔵遺跡弥生時代中期～後期中葉遺構配置図(1/600) ……145・146
第184図　北方地蔵遺跡弥生時代後期後葉遺構配置図(1/600) ……147・148
第185図　北方地蔵遺跡古墳時代遺構配置図(1/600) ……147・148
第186図　北方地蔵遺跡古代～中世遺構配置図(1)(1/600) ……149・150
第187図　北方地蔵遺跡古代～中世遺構配置図(2)(1/600) ……149・150
第188図　北方地蔵遺跡土層柱状図(弥生時代以前) …… 151
第189図　包含層出土遺物(1/4)…… 151
第190図　水田１出土遺物(1/4)…… 152
第191図　水田１断面図(１区)(1/150)…… 152
第192図　弥生時代前期遺構配置図(１区)(1/400)…… 153
第193図　弥生時代前期遺構配置図(２区)・水田１断面図

(1/400・1/150) …… 154
第194図　溝１・２断面図(1/30・1/60) …… 155
第195図　溝３～７土層断面図(1/30)・溝６出土遺物(1/4)…… 155
第196図　弥生時代前期遺構配置図(３区)(1/400)…… 156
第197図　土壙１・出土遺物(1/30・1/4)…… 157
第198図　包含層ほか出土遺物(1/4)…… 157
第199図　溝８・９断面図・出土遺物(1/30・1/4・1/2) …… 158
第200図　北方地蔵遺跡弥生時代中期～後期中葉遺構配置図(１区)(1/400)…… 159
第201図　溝10～12断面図・溝12出土遺物(1/30・1/4)… 160
第202図　溝13断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 160
第203図　溝14・15断面図・溝15出土遺物(1/30・1/4)… 161
第204図　溝12・16～21断面図(1/30) …… 161
第205図　溝22～25断面図(1/30) …… 162
第206図　溝26土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 162
第207図　溝27～29断面図・溝29出土遺物(1/30・1/60・1/4・1/2)…… 163
第208図　溝30土層断面図・出土遺物(1/60・1/2)…… 163
第209図　溝31～33土層断面図・溝33出土遺物(1/30・1/4) …… 164
第210図　溝34～37土層断面図(1/30) …… 164
第211図　北方地蔵遺跡２区弥生時代中期～後期中葉遺構配置図(1/400)…… 165
第212図　溝38～45断面図(1/30) …… 166
第213図　北方地蔵遺跡３区弥生時代中期～後期中葉遺構配置図(1/400)…… 166
第214図　溝46～49断面図(1/30) …… 167
第215図　溝50土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 167
第216図　溝51～54土層断面図(1/30) …… 168
第217図　溝55・56土層断面図・出土遺物(1/30・1/4)… 169
第218図　土壙２～６(1/30) …… 170
第219図　土壙７・８、溝44・45・49・50・55・56(1/200)…… 171
第220図　土壙７土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 171
第221図　土壙８断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 171
第222図　たわみ１出土遺物(1/4)…… 172
第223図　たわみ２土層断面図(1/60) …… 173
第224図　たわみ３断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 173
第225図　たわみ４断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 173
第226図　包含層ほか出土石器(石鏃・石錐；1/2)…… 173
第227図　包含層ほか出土遺物(1/4・1/3) …… 174
第228図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図(微高地部分；1/30)…… 175
第229図　北方地蔵遺跡１区水田２断面図(1/150)…… 175
第230図　北方地蔵遺跡１区弥生時代後期後葉遺構配置図(1/400)…… 176
第231図　北方地蔵遺跡２区弥生時代後期後葉遺構配置図(1/400)…… 177
第232図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図(大畦部分；1/30)…… 178
第233図　北方地蔵遺跡２区水田２断面図(1/150)…… 178
第234図　溝57・58土層断面図(1/60・1/30)…… 179
第235図　包含層ほか出土遺物(1/4)…… 179
第236図　溝59・60土層断面図、溝59出土遺物(1/60・1/4) …… 180
第237図　北方地蔵遺跡１区古墳時代遺構配置図(1/400) …… 181
第238図　溝61～63土層断面図(1/30) …… 182
第239図　北方地蔵遺跡３区古墳時代遺構配置図(1/400) …… 182
第240図　溝64～67土層断面図(1/30) …… 183
第241図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図(柵列状遺構部分；1/30)…… 183
第242図　北方地蔵遺跡２区古墳時代遺構配置図(1/400) …… 184
第243図　柵列状遺構１～３(1/150・1/60)…… 185
第244図　包含層ほか出土遺物(1/4・1/3) …… 186
第245図　北方地蔵遺跡２区古代遺構配置図(1/400)…… 188
第246図　北方地蔵遺跡３区古代遺構配置図(1)・(2)(1/400)…… 189
第247図　溝68～71断面図(1/30) …… 190
第248図　北方地蔵遺跡３区古代遺構配置図(3)(1/400)… 191
第249図　溝72～76断面図(1/30) …… 191
第250図　北方地蔵遺跡１区中世遺構配置図(1/400)…… 192

第251図　溝77土層断面図・出土遺物(1/60・1/4)…… 193
第252図　溝78断面図・出土遺物(1/30・1/4)…… 193
第253図　溝79・80断面図・溝80出土遺物(1/30・1/4)… 194
第254図　溝81・82断面図・出土遺物(1/30・1/4)…… 194
第255図　溝83～86断面図(1/30・1/60) …… 195
第256図　溝87～90断面図・溝88・90出土遺物(1/30・1/4) …… 195
第257図　土壙９～13(1/60・1/30) …… 196
第258図　土壙14～18(1/30) …… 197
第259図　北方地蔵遺跡２・３区中世遺構配置図(1/800) …… 198
第260図　北方地蔵遺跡２区中世遺構配置図・粘土採掘坑断面図(1/400・1/300) …… 199
第261図　北方地蔵遺跡２区粘土採掘坑部土層断面図(1/60) …… 200
第262図　北方地蔵遺跡３区中世遺構配置図(1/400)…… 200
第263図　北方地蔵遺跡３区粘土採掘坑断面図(1/300)… 201
第264図　北方地蔵遺跡３区粘土採掘坑部土層断面図(1/60) …… 201
第265図　粘土採掘坑１～４(1/60) …… 201
第266図　粘土採掘坑５～14(1/60) …… 202
第267図　粘土採掘坑15～24(1/60) …… 203
第268図　粘土採掘坑25～31(1/60) …… 204
第269図　粘土採掘坑出土遺物(２区；1/4)…… 204
第270図　粘土採掘坑出土遺物(３区；1/4)…… 205
第271図　包含層ほか出土遺物(古代；1/4・1/3) …… 206
第272図　包含層ほか出土遺物(中世；1/4・1/3・1/2)… 213

表　目　次

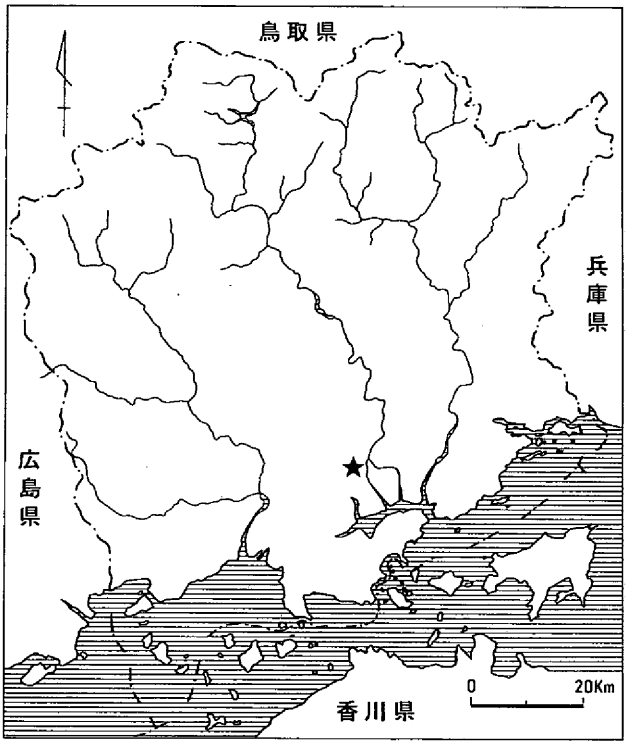
第１表　編年対比表……凡例
第２表　発掘調査実施期間一覧表…… 6
第３表　発掘調査概要一覧表…… 9
第４表　土製品一覧表…… 257
第５表　石器・石製品一覧表…… 258
第６表　緑釉陶器観察表…… 259
第７表　土器観察表…… 259

図　版　目　次

巻頭カラー図版１　北方横田遺跡１区水田４・５、溝５(東上空から)
巻頭カラー図版２－１　北方下沼遺跡水田２Ｂ(東から)
巻頭カラー図版２－２　北方中溝遺跡２区溝35網代編み遺構(北から)
巻頭カラー図版３　出土遺物(弥生時代)
巻頭カラー図版４　出土遺物(古墳時代～中世)
図版１－１．発掘調査着手前の北方下沼遺跡(東から)
－２．街路建設に伴う発掘調査(西から)
－３．水田１畦畔検出状態(北方下沼遺跡；北東から)
図版２－１．水田１・溝１(北方下沼遺跡；北から)
－２．大畦と溝１(北方下沼遺跡；南から)
－３．溝２(北方下沼遺跡；北から)
図版３－１．水田２(北方下沼遺跡；北から)
－２．水田３(北方横田遺跡１区；東から)
－３．溝５、水田４・５(北方横田遺跡１区；北西から)
図版４－１．水田５・９西半(北方横田遺跡２区；東から)
－２．水田９磨製石包丁出土状態(北から)
－３．水田９(北方横田遺跡２区；西から)
図版５－１．水田８検出状況(北方横田遺跡２区；南西から)
－２．溝３土器出土状態(北方下沼遺跡；北から)
－３．溝５(北方横田遺跡１区；北西から)
図版６－１．溝５南壁断面(北方横田遺跡１区；北から)
－２．溝５断面(北方横田遺跡１区；北西から)
－３．水田６・７全景(北方横田遺跡１区；南西から)
図版７－１．水田６・７全景(北方横田遺跡１区；西から)
－２．水田６畦畔痕跡(北方横田遺跡１区；北西から)
－３．溝５、水田４(北方横田遺跡１区；北から)
図版８－１．水田６・７全景(北方横田遺跡１区；西から)
－２．水田６畦畔痕跡(北方横田遺跡１区；北西から)
－３．溝５・水田(北方横田遺跡１区；北から)

図版９－１．水田９（北方横田遺跡２区；東から）
－２．水田12・13（北方横田遺跡１区；東から）
－３．水田11、溝12・13（北方横田遺跡１区；東から）
図版10－１．水田14（北方横田遺跡２区；東から）
－２．水田14東半（北方横田遺跡２区；東から）
－３．河道（北方横田遺跡１区；北東から）
図版11－１．溝18（北方横田遺跡２区；南東から）
－２．土壙１（北方横田遺跡１区；北西から）
－３．竪穴住居１（北方下沼遺跡；北西から）
図版12－１．竪穴住居２（北方下沼遺跡；南から）
－２．竪穴住居３（北方下沼遺跡；南東から）
－３．竪穴住居３遺物出土状態（北方下沼遺跡；北西から）
図版13－１．竪穴住居４周辺（北方下沼遺跡；北西から）
－２．竪穴住居４検出状態（北方下沼遺跡；南西から）
－３．竪穴住居５古段階（北方下沼遺跡；北東から）
図版14－１．竪穴住居５新段階（北方下沼遺跡；北西から）
－２．竪穴住居６（北方下沼遺跡；北西から）
－３．竪穴住居６、Ｐ４断面（北方下沼遺跡；南から）
図版15－１．掘立柱建物１（北方下沼遺跡；西から）
－２．溝21（北方下沼遺跡；南から）
－３．土壙７（北方下沼遺跡；北から）
図版16－１．溝22～24（北方下沼遺跡；北から）
－２．溝22杭列（北方下沼遺跡；北から）
－３．溝22杭列（北方下沼遺跡；南から）
図版17－１．溝22（北方下沼遺跡；南から）
－２．溝22西端杭列（北方下沼遺跡；西から）
－３．溝22断面（北方下沼遺跡；南から）
図版18－１．溝24周辺全景（北方横田遺跡１区；北東から）
－２．土壙10（北方横田遺跡１区；南東から）
－３．溝24土層断面（北方横田遺跡１区；南から）
図版19－１．溝31（北方横田遺跡２区；東から）
－２．水田16（北方横田遺跡１区；北東から）
－３．道路完成後の北方横田遺跡（東から）
図版20－１．北方中溝遺跡発掘調査着手前の状況（西から）
－２．溝１（北方中溝遺跡１区；南西から）
－３．溝２（北方中溝遺跡１区；北から）
図版21－１．水田１（北方中溝遺跡１区；北東から）
－２．溝３、水田１（北方中溝遺跡１区；南西から）
－３．水田２、溝11（北方中溝遺跡１区；南西から）
図版22－１．水田３（北方中溝遺跡１区；東から）
－２．水田３、溝５（北方中溝遺跡１区；南西から）
－３．水田５、溝６（北方中溝遺跡１区；南から）
図版23－１．水田６（北方中溝遺跡１区；北東から）
－２．水田７検出作業（北方中溝遺跡２区；北から）
－３．水田７東半（北方中溝遺跡２区；北から）
図版24－１．水田７西半（北方中溝遺跡２区；北西から）
－２．溝４・５付近北壁（北方中溝遺跡１区；南東から）
－３．溝４断面（北方中溝遺跡１区；南から）
図版25－１．溝32・34、水田11（北方中溝遺跡１区；西から）
－２．水田11（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．水田11（北方中溝遺跡１区；東から）
図版26－１．水田12（北方中溝遺跡１区；西から）
－２．水田13検出状況（北方中溝遺跡１区；東から）
－３．水田13畦畔断面（北方中溝遺跡１区；南から）
図版27－１．水田13東端（北方中溝遺跡１区；北東から）
－２．溝34、水田13（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．水田13（北方中溝遺跡１区；西から）
図版28－１．水田13（北方中溝遺跡１区；東から）
－２．水田８（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．水田12西半（北方中溝遺跡１区；北から）
図版29－１．水田11、溝32・34（北方中溝遺跡１区；西から）
－２．溝30・31、水田12（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．水田12（北方中溝遺跡１区；東から）
図版30－１．水田８畦畔痕跡（北方中溝遺跡１区；南西から）
－２．水田12（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．水田18（北方中溝遺跡２区；北から）
図版31－１．水田17（北方中溝遺跡２区；西から）
－２．水田20（北方中溝遺跡１区；西から）
－３．溝９周辺（北方中溝遺跡１区；北東から）
図版32－１．溝32～34（北方中溝遺跡１区；西から）
－２．溝32～34（北方中溝遺跡１区；北東から）
－３．溝32上層洪水砂（北方中溝遺跡１区；東から）
図版33－１．溝34断面（北方中溝遺跡１区；西から）
－２．溝27（北方中溝遺跡２区；南西から）

—3．溝13・30(北方中溝遺跡1区；北東から)
図版34—1．溝24～26(北方中溝遺跡1区；北東から)
—2．土器溜り(北方中溝遺跡1区；西から)
—3．水田19(北方中溝遺跡2区；西から)
図版35—1．水田20(北方中溝遺跡1区；東から)
—2．溝35(北方中溝遺跡1区；東から)
—3．溝35(北方中溝遺跡1区；東から)
図版36—1．溝35(北方中溝遺跡1区；東から)
—2．溝35(北方中溝遺跡1区；東から)
—3．溝35(北方中溝遺跡1区；西から)
図版37—1．溝35杭検出状況(北方中溝遺跡2区；南から)
—2．溝35断面(北方中溝遺跡2区；南東から)
—3．溝35断面(北方中溝遺跡1区；西から)
図版38—1．溝35網代編み遺構(北方中溝遺跡2区；東から)
—2．北方中溝遺跡から北東方向(道路完成後、中央の森が神宮寺山古墳)(南西から)
—3．北方地蔵遺跡の発掘調査着手前の状況(東から)
図版39—1．水田1(北方地蔵遺跡1区；南東から)
—2．水田1(北方地蔵遺跡1区；南東から)
—3．水田1畦畔、溝1(北方地蔵遺跡1区；南から)
図版40—1．水田1(北方地蔵遺跡1区；西から)
—2．水田1(北方地蔵遺跡2区；西から)
—3．土壙1(北方地蔵遺跡3区；東から)
図版41—1．水田2(北方地蔵遺跡1区；東から)
—2．溝26・27・29・30(北方地蔵遺跡1区；西から)
—3．水田2(北方地蔵遺跡2区；北東から)
図版42—1．水田2(北方地蔵遺跡2区；北東から)
—2．水田2(北方地蔵遺跡2区；東から)
—3．水田2(北方中溝遺跡2区；北西から)
図版43—1．水田2、溝58(北方地蔵遺跡2区；東から)
—2．水田2大畦(北方地蔵遺跡2区；南から)
—3．水田2(北方地蔵遺跡2区；東から)
図版44—1．溝4～7、ピット群(北方地蔵遺跡3区；南から)
—2．溝4～7周辺(北方地蔵遺跡3区；西から)
—3．溝12・13(北方地蔵遺跡1区；南東から)
図版45—1．溝30・32周辺(北方地蔵遺跡1区；東から)
—2．溝33～36周辺(北方地蔵遺跡1区；東から)
—3．溝49・50周辺(北方地蔵遺跡3区；東から)
図版46—1．溝55周辺(北方地蔵遺跡3区；北西から)
—2．土壙7・8、溝56(北方地蔵遺跡3区；南から)
—3．土壙4(北方地蔵遺跡2区；西から)
図版47—1．土壙5(北方中溝遺跡2区；北から)
—2．柵列状遺構1～3(北方地蔵遺跡2区；東から)
—3．柵列状遺構1～3(北方地蔵遺跡2区；南から)
図版48—1．鋤痕跡(北方地蔵遺跡3区；北西から)
—2．溝80(北方地蔵遺跡1区；西から)
—3．溝90周辺(北方地蔵遺跡2区；東から)
図版49—1．粘土採掘坑ｙ35～36ライン(北方地蔵遺跡2区；東から)
—2．粘土採掘坑10付近(北方地蔵遺跡2区；東から)
—3．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡2区東半；東から)
図版50—1．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡2区東半；西から)
—2．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区東半；東から)
—3．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区東半；東から)
図版51—1．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区東半；西から)
—2．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区東半；西から)
—3．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区東半；南東から)
図版52—1．粘土採掘坑群(北方地蔵遺跡3区；北から)
—2．粘土採掘坑126(北方地蔵遺跡3区；東から)
—3．粘土採掘坑16(北方地蔵遺跡3区；西から)
図版53—1．粘土採掘坑26(北方地蔵遺跡3区；北東から)
—2．粘土採掘坑29(北方地蔵遺跡3区；東から)
—3．北方地蔵遺跡3区(道路完成後；東から)
図版54　弥生土器・土師器・韓式土器
図版55　土師器・黒色土器・瓦・須恵器
図版56　土師器・墨書土器・黒色土器
図版57　縄文土器・弥生土器
図版58　弥生土器
図版59　弥生土器
図版60　須恵器・韓式土器・土師器・黒色土器
図版61　縄文土器・弥生土器
図版62　弥生土器・土師器・瓦・土錘・石鏃
図版63　石器(石包丁・石斧・石鏃)・勾玉・土鈴ほか
図版64　木製品(下駄・卒塔婆・木札ほか)・鉄器(刀子・紡錘車・鋤先ほか)・砲弾



第１図　遺跡の位置

第１章　発掘調査および報告書作成の経緯

第1節　発掘調査の契機

都市計画道路万成・国富線は、岡山市中心部を取り巻く三本の環状線計画があり、その一つ中環状線の一区画である。昭和33年、岡山市万成から国富までの約５キロメートルが都市計画街路として決定され、昭和58年事業認可に至っている。そのうち学南町から大和町まで約800㍍の区間は、国道53号線から分岐しＪＲ津山線の手前の市道までを第Ⅰ期計画区間、津山線を越えて県道岡山・美作線（現岡山・吉井線）までが第Ⅱ期計画区間とされ、昭和58年から用地買収も進められていた。

昭和61年６月、県教育委員会は当年度予定の北側溝部分の工事計画についての協議を都市計画課から受け、埋蔵文化財への対応を依頼された。この地は津島遺跡の東北部一帯にあたり、昭和42年武道館建設においても弥生時代前期の水田などが検出され国指定史跡になった重要な遺跡に接していることを踏まえ、県教育庁文化課は都市計画課に対し、今年度は調査要員を確保できないので来年度以降に計画変更を要望したうえ、文化財保護法第57条３の提出を求め、さらに今後も協議を続けていくことで合意した。

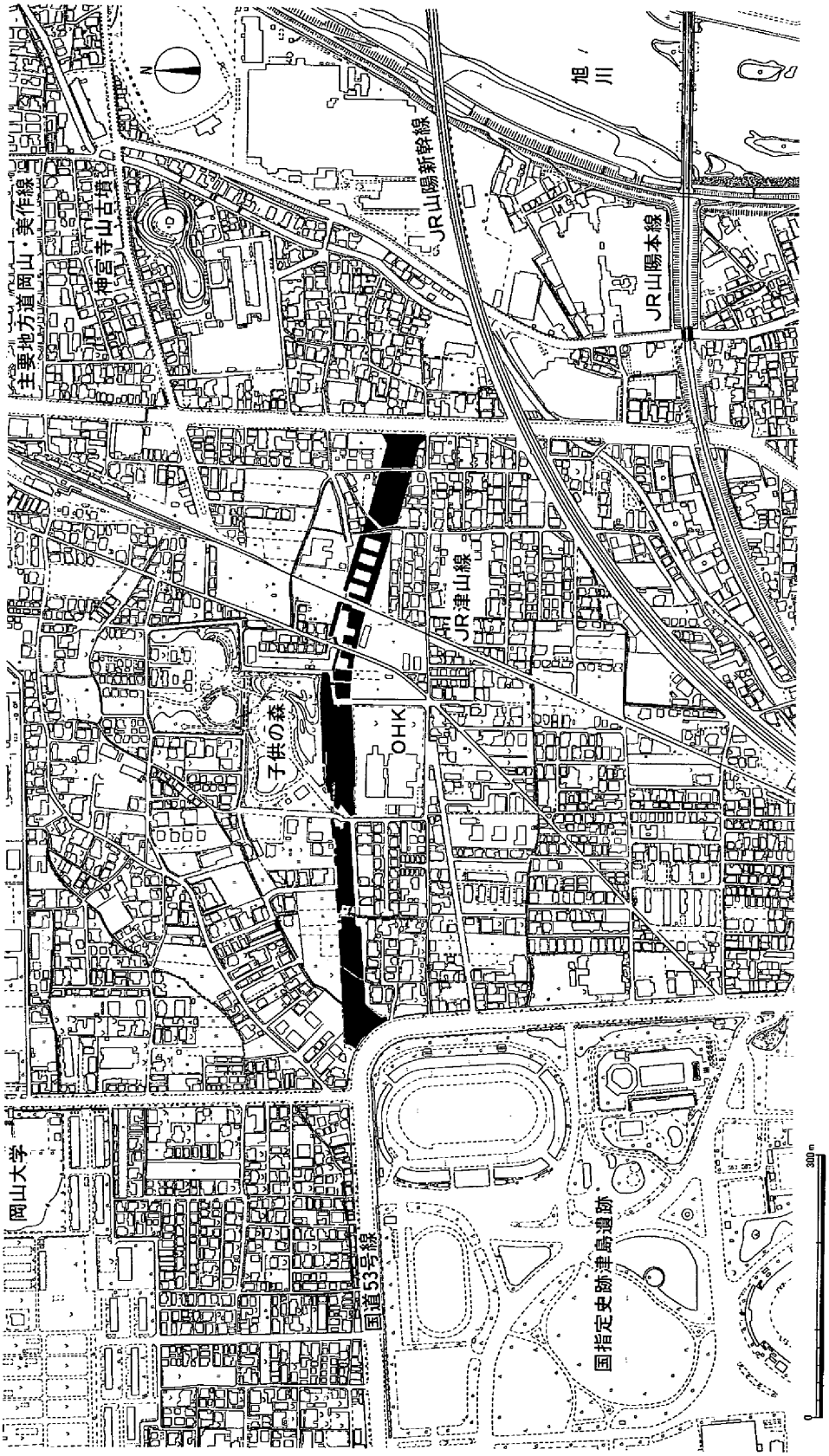
昭和62年には第Ⅰ期工事区間についての両者協議が整い、10月から県古代吉備文化財センターが確認のための第１次調査に着手した。この調査結果の詳細については後述するが、平安時代の条里制に伴う東西・南北の溝、弥生時代前期・後期・古墳時代前半期・古代・中世の各時代の水田層等が確認されたため、工事区間ほぼ全域の調査が必要と判断された。そして、これらは膨大な調査面積になり、長期間の調査に亘る可能性がでてきたため、担当部局に対して用地買収を急がれることを要望した。しかし、前年から協議を受けていた北側の側溝部分については未買収地が残り、次年度以降の調査を余儀なくされ翌昭和63年後半になってようやく側溝部の調査が可能になった。そして、平成元年度、平成３年度は水路ボックスなどの部分的な調査に終始せざるを得なかった。

用地買収がほぼ完了した平成４年度以降は県教育委員会としても調査体制を整え、調査員３・４名が年間を通して対応できるようになった。そして、平成５年度には第二期工事区間の北方地蔵遺跡の確認調査を、平成６・７年度には第二期工事区間の全面調査をそれぞれ行い、平成７年度末には岡山・吉井線までの調査を完了したものである。　（伊藤　晃・柳瀬昭彦）

第2節　発掘調査の体制

都市計画道路万成・国富線の建設に伴う発掘調査は、岡山県教育委員会が岡山県土木部都市局都市計画課から依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センターが1987（昭和62）年度に確認調査を、そして翌1988（昭和63）年度から1995（平成７）年度にかけて全面調査および確認調査を実施した。

また発掘調査ならびに報告書作成にあたっては、遺跡の保護・保存ならびに発掘調査にあたっての専門的な指導・助言を得るために、岡山県文化財保護審議会委員の方々に「専門委員会」の２名の委員を委嘱した。（例言参照）　（岡田）



第2図　都市計画道路万成・国富線建設にかかる発掘調査区の位置　(1/7,500)

発掘調査

1987（昭和62）年度

岡山県教育委員会

教育長	宮地暢夫
教育次長	竹内康夫

文化課

課長	高橋誠記
課長代理	河野　衛
課長補佐	伊藤　晃

（埋蔵文化財係長事務取扱）

主査	藤川洋二

岡山県古代吉備文化財センター

所長	橋本泰夫

（総務課）

課長	佐々木清
総務主幹	藤本信康

（調査課）

第一課長	河本　清
文化財保護主査	井上　弘

（第一係長事務取扱）

文化財保護主事	平井泰男

1988（昭和63）年度

岡山県教育委員会

教育長	竹内康夫
教育次長	前　亮治

文化課

課長	吉尾啓介
課長代理	河野　衛
課長補佐	伊藤　晃

（埋蔵文化財係長事務取扱）

主査	藤川洋二

岡山県古代吉備文化財センター

所長	水田　稔
次長	河本　清

（総務課）

課長	佐々木清
総務主幹	藤本信康
主任	花本静夫
〃	岡田祥司
〃	片山淳司

（調査課）

第一課長	河本　清
課長補佐	井上　弘

（第一係長事務取扱）

文化財保護主事	平井泰男

1989（平成元）年度

岡山県教育委員会

教育長	竹内康夫
教育次長	竹本博明

文化課

課長	鬼澤佳弘
課長代理	河野　衛
課長補佐	伊藤　晃

（埋蔵文化財係長事務取扱）

主査	藤川洋二

岡山県古代吉備文化財センター

所長	長瀬日出明
次長	河本　清

（総務課）

課長	竹原成信
課長補佐	藤本信康

（総務係長事務取扱）

主任	岡田祥司
〃	平松郁男
〃	片山淳司

（調査課）

第一課長事務取扱　河本　清
課長補佐　柳瀬昭彦
主　事　椿　真治

1991（平成3）年度

岡山県教育委員会
教育長　竹内康夫
教育次長　森崎岩之助
文化課
課　長　鬼澤佳弘(1991年12月まで)
渡邊淳平(1992年1月から)
課長代理　大橋義則
課長補佐　柳瀬昭彦
（埋蔵文化財係長事務取扱）
主　査　時長　勇
岡山県古代吉備文化財センター
所　長　横山常實
次　長　河本　清
（総務課）
課　長　藤本信康
課長補佐　小西親男
（総務係長事務取扱）
主　査　平松郁男
（調査課）
第一課長　葛原克人
課長補佐　松本和男
（第一係長事務取扱）
文化財保護主事　長川　優

1992（平成4）年度

岡山県教育委員会
教育長　竹内康夫
教育次長　森崎岩之助
文化課
課　長　渡邊淳平
課長代理　松井新一
課長補佐　柳瀬昭彦
（埋蔵文化財係長事務取扱）
主　任　石井善晴
主　査　石井　茂
（調査課）
第一課長事務取扱　葛原克人
主　査　時長　勇
岡山県古代吉備文化財センター
所　長　横山常實
次　長　河本　清
文化財保護参事　葛原克人
（総務課）
課　長　北原　求
課長補佐　小西親男
（総務係長事務取扱）
課長補佐　高畑知功
文化財保護主幹　松本和男
文化財保護主事　平松義則
文化財保護主事　椿　真治
主　事　高田知樹

1993（平成5）年度

岡山県教育委員会
教育長　竹内康夫
教育次長　森崎岩之助
文化課
課　長　渡邊淳平
課長代理　松井新一
課長補佐(埋蔵文化財係長)
高畑知功
主　査　時長　勇
岡山県古代吉備文化財センター

所　　長　　横山常實
次　　長　　葛原克人
（総務課）
課　　長　　北原　求
課長補佐　　小西親男
（総務係長）
主　　査　　石井　茂
主　　査　　石井善晴
主　　任　　三宅秀吉
（調査課）
第一課長　　正岡睦夫
課長補佐　　松本和男
（第一係長事務取扱）
文化財保護主査　　光永真一
文化財保護主事　　山本晋也
文化財保護主事　　宮野義治

1994（平成6）年度

岡山県教育委員会
教 育 長　　森崎岩之助
教育次長　　岸本憲二
文化課
課　　長　　大場　淳
課長代理　　松井新一
課長補佐　　高畑知功
（埋蔵文化財係長事務取扱）
主　　任　　若林一憲
岡山県古代吉備文化財センター
所　　長　　河本　清
次　　長　　葛原克人
（総務課）
課　　長　　丸尾洋幸
課長補佐　　杉田卓美
（総務係長事務取扱）
主　　査　　石井　茂
主　　査　　石井善晴
主　　任　　三宅秀吉
（調査課）
第一課長　　正岡睦夫
文化財保護主幹　　浅倉秀昭
課長補佐　　岡田　博
（第二係長事務取扱）
文化財保護主事　　宮野義治
主　　事　　谷口広幸

1995（平成7）年度

岡山県教育委員会
教 育 長　　森崎岩之助
教育次長　　岸本憲二
文化課
課　　長　　大場　淳
課長代理　　樋本俊二
参　　事　　葛原克人
課長補佐　　高畑知功
（埋蔵文化財係長事務取扱）
主　　任　　若林一憲
岡山県古代吉備文化財センター
所　　長　　河本　清
次　　長　　高塚恵明
次　　長　　葛原克人
（文化課本務）
（総務課）
課　　長　　丸尾洋幸
課長補佐　　井戸丈二
（総務係長事務取扱）
総務主幹　　守安邦彦
主　　査　　石井　茂
主　　任　　木山伸一
（調査課）
第二課長　　伊藤　晃
課長補佐　　福田正継
（第二係長事務取扱）

文化財保護主査	中野雅美	主　事	前田能成
文化財保護主事	宮野義治		

発掘調査協力者

山田悌二　　濱本雅樹

調査遺跡名（旧遺跡名）	調査担当者他	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年
北方下沼遺跡(津島遺跡) 北方横田遺跡(津島遺跡) 北方中溝遺跡(中溝遺跡)	平井 確認調査	—									
北方下沼遺跡(津島遺跡) 北方横田遺跡(津島遺跡)	平井 側道部分調査			—							
北方下沼遺跡(津島遺跡) 北方横田遺跡(津島遺跡) 北方中溝遺跡(中溝遺跡)	柳瀬・椿 側溝部分調査				—						
北方下沼遺跡(津島遺跡) 北方横田遺跡(津島遺跡)	松本・長川 全面調査						—				
北方下沼遺跡(津島遺跡) 北方横田遺跡(津島遺跡)	椿・平松・高田 全面調査						——	—			
北方横田遺跡(津島遺跡) 北方中溝遺跡(中溝遺跡)	松本・光永・ 山本・宮野 全面調査							——	—		
北方中溝遺跡(中溝遺跡) 北方地蔵遺跡 (北方地蔵遺跡)	岡田・宮野・ 谷口 全面調査								——	—	
北方中溝遺跡(中溝遺跡) 北方地蔵遺跡 (北方地蔵遺跡)	中野・宮野・ 前田 全面調査									——	—

第２表　発掘調査実施期間一覧表

第３節　発掘調査の経過

１．確認調査

確認調査は、遺跡の範囲や残存状況などを把握する目的で1987年度に実施した。場所は、当時未買収地が多く存在していたため、第４図に示しているように北方下沼遺跡と北方横田遺跡、および北方中溝遺跡１～７区に限られ、またその地区においても希望する場所ですべて行えたわけではない。調査の方法はトレンチ調査で、規模は基本的には３×２ｍとし、北方下沼遺跡と北方横田遺跡および北方中溝遺跡・中溝２区については、調査前の状況が畑地や水田であったため人力によって、また北方中溝遺跡の中溝１・３～７区は駐車場になっていたため重機によって掘り下げを行い、遺構の確認と土層観察および図面作成、写真撮影などを行った。調査の結果、トレンチを設定した範囲には全面にわたって水田跡や溝などが存在していることが明らかとなった。水田跡は、弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世の各時期にわたり、特に弥生時代末の水田は洪水砂で埋没しており、残存状態は良好であった。また、おもに平安時代の遺物を出土する大規模な溝の存在が注目された。　（平井）

２．全面調査

北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡は都市計画道路万成・国富線建設に伴い、新たに命名した遺跡名である。発掘調査着手当初すなわち確認調査実施の時点では、西方の国指定史跡「津島遺跡」関連遺跡として取り扱われていた。また、北方中溝遺跡は民間開発に伴う事前の発掘調査では、「中溝遺跡」として呼称されており、岡山県教育委員会による発掘調査の拡大・東進に伴い、同様な遺跡名を用いることとした。

北方地蔵遺跡は、確認調査によって遺構の広がりが認められた時点で、調査担当者が岡山市役所に出向き、字を調査して確定命名したものである。しかし、当初は北方中溝遺跡の東端、当時の発掘区名で中溝９区の位置するＪＲ津山線から以東この小字になると思われていたが、実際には中溝９区の途中から「地蔵」となることが後に判明した。したがって第４図では、その境界を明示しているが、発掘区の設定上、ＪＲ津山線のすぐ西側の部分については、当初のままの「中溝」を踏襲し、北方中溝遺跡の中に包括することとした。

これらの遺跡名の命名根拠は、条里の坪名である。永山卯三郎氏による研究では、岡山市内の克明な条里坪名が綿密に精査調査されており、この名称を遺跡名とすることとした。（註１）

西から下沼、横田、中溝、としたのはこの業績によるものである。地蔵は先述のように、切り図による小字である。現在の町名は、下沼・横田が学南町一丁目、中溝が学南町二丁目である。なお、これらの小字の前に冠する「北方」は大字である。

発掘調査は、第２表に示すとおり1990（平成２）年度を除く、1987年から1996年にかけての足掛け10年にわたる長期間実施した。（註２）

全面調査は大きく二つの発掘調査の形態があり、ひとつは道路（都市計画道路）改良事業に伴う側溝敷設に係る発掘調査、ひとつは都市計画道路の道路敷（土盛り部分と橋脚部分）部分の発掘調査である。いずれも記録保存を前提とした発掘調査であるが、前者はいわば狭長なトレンチ調査ともいう

べく、甚だ狭い調査区を対象とした発掘調査であった。そのため様々な制約があり、隣接する水田や民家・道路などの保全や安全対策には常に万全の注意を払った。注目される弥生時代前期の水田遺構面までは、地表から深さ約1.5ｍを測り、発掘調査の安全確保のために、鋼矢板を使用した地点もある。

1988（昭和63）年度からは、本格的に全面発掘調査に着手することとなったが、用地買収の遅れなどにより、通年的に発掘調査を実施し始めるのは1992（平成４）年度からである。以降、発掘調査担当調査員３名の体制で1995（平成７）年度までの４年間が充てられた。以上の発掘調査総面積は約17,000㎡である。

おわりに発掘調査上の問題点を挙げると、まず発掘調査が不可能な地点が何箇所か存在したことが挙げられるだろう。たとえば、北方下沼遺跡と北方横田遺跡１区の間、北方横田遺跡１区と２区の間、さらに北方横田遺跡と北方中溝遺跡１区の間、北方中溝遺跡１区と２区の間など生活道路や用水路の確保のため、発掘調査の実施は不可能であった。

また、遺跡の周辺が市街地であるため、道路を付け替えて発掘調査を実施しようにも、道路下にはガス管や水路などがすでに敷設されているために、地域住民に及ぼす影響を考慮すると断念せざるをえなかった。さらに北方中溝遺跡の東端、北方地蔵遺跡との間には、ＪＲ津山線があり、線路敷きの両側それぞれ約４ｍは列車運行の安全上、発掘調査を実施することができなかった。

発掘調査では、全面調査にはいってからはほとんど電動式のベルトコンベヤーを使用したため、騒音はキシミ音に配慮すればそれほど周辺に影響を及ぼすほどではなかったが、運搬する土埃については、防ぎようがなかった。広い範囲に飛散するものではないが、狭い調査区ではやはり発掘に従事する作業員・調査員にとっては厳しい作業環境といえたかもしれない。

表土掘削では主としてバックホーを使用したが、使用時の振動には細心の注意を払ったが、北方中溝遺跡では南側にテレビ放送局があり、振動によって精密な放送機器等に影響がある可能性が高く、細心の注意を払った。とくにこの周辺は簡易アスファルト舗装面があり、この除去の際に振動や揺れがしばしば生じたのも事実である。このような作業に人力で対応すれば所要時間はともかく、物理的にとても手に負えるものではない。重機に依存しなければ他に方法がないのである。

以上のように、市街地での発掘調査における問題点の一端を記してみた。作業の安全確保は元より、周囲に及ぼす影響を推し量りながら、発掘調査を慎重に進めるうえで今後の参考にすべき問題と考えている。

発掘調査の実施にあたっては、隣接地域の住民の皆様のご理解を賜った。記して深謝の意を表する次第である。最後に、炎天下あるいは、寒冷な時期に発掘調査に従事して頂いた作業員の皆様にも、さらなる深謝の意を表する次第である。

（岡田）

註

（註１）　永山卯三郎「岡山県通史」岡山県1930

（註２）　岡山県教育庁文化課埋蔵文化財係と岡山県古代吉備文化財センターが年次毎に埋蔵文化財保護行政の報告を行なう『岡山県埋蔵文化財報告』に発掘調査を実施した年の概要報告を、発掘調査担当者が行なっている。

- 『岡山県埋蔵文化財報告18・19・21』岡山県教育委員会1988（昭和63）・1989（平成元）1990（平成３）
- 『岡山県埋蔵文化財報告23～27』岡山県教育委員会1993（平成５）～1997（平成９）

遺跡名（新遺跡名）	調査年度（期間）	面積（㎡）	調査担当者	調査目的（内容）	調査成果	確認遺構	遺物	備考
津島遺跡（北方下沼・横田・中溝遺跡）	S62.10.5～10.30	200	平井	確認調査	・水田、溝等の確認。	溝（条里坪境？）・水田	土器	2×3mのトレンチ（19カ所）
津島遺跡（北方下沼・横田遺跡）	S63.12.1～H1.1.28	312	平井	道路改良工事に伴う側溝敷設に伴う発掘調査	・大溝、水田、溝、竪穴住居等	溝8、竪穴住居2、水田2面以上、土壙2	土器	3×100mの調査区
津島遺跡（北方下沼・横田遺跡）	H2.1.19～2.22	100	柳瀬・椿	道路改良工事に伴う側溝敷設に伴う発掘調査	弥生～中世にかけての集落跡・水田跡	溝2以上、水田2面以上、土壙	弥生土器・須恵器・土師器・鉄滓	
津島遺跡（1区）（北方下沼遺跡）	H4.1.4～3.31	800	松本・長川	都市計画道路万成・国富線建設に伴う発掘調査	弥生～中世にかけての集落跡・水田跡	竪穴住居2、掘立柱建物2、土壙11、溝15	土器・石器木製品・勾玉など	津島遺跡の一部完了、残りは次年度に継続。
津島遺跡（1～3区、4区水路、5区北水路）（北方下沼・横田・中溝遺跡）	H4.4.1～H5.3.31	2,927	椿・平松・高田	〃	弥生～中世にかけての集落跡・水田跡	竪穴住居2、土壙5、溝42、水田3面以上、柱穴多数	土器・石器木製品・瓦鉄器など	
津島遺跡（4・6区）中溝遺跡（1～5区）（北方横田・中溝遺跡）	H5.4.1～H6.3.31	4,100	松本・光永山本・宮野	〃	水田遺構とこれに伴う灌漑水路によって構成される生産遺跡。	土壙16、溝42、水田5画、柱穴多数	土器・石器木製品・鉄器など	・北方地蔵遺跡の確認調査実施。
中溝遺跡（6～9区）北方地蔵遺跡（1区）（北方中溝・地蔵遺跡）	H6.4.1～H7.3.31	4,320	岡田・宮野谷口	〃	〃	土壙6、水田5画以上、大溝1、溝32、井戸1、杭列4、柱穴多	土器・石器木製品・鉄器など	
北方地蔵遺跡（1～3区）（北方地蔵遺跡）	H7.4.1～H8.3.31	4,320	中野・宮野前田	〃	弥生～中世にかけての集落跡・水田跡、粘土採掘跡（穴）多数検出。	土壙9、溝81、落込み6、杭列3、粘土採掘坑602、水田5面	土器・石器など	・中井町確認調査実施 ・中溝調査区一部調査（前年度未調査区）
		17,079						

第3表　発掘調査概要一覧表

第４節　報告書作成の体制

報告書の作成は、1987（昭和62）年度から1995（平成７）年度までの発掘調査区域を対象とし、1996（平成８）年度に実施することとなった。

整理作業については、岡田　博、前田能成、小嶋善邦（1996年６月まで）があたった。収載対象面積は、約17,000㎡で発掘調査時の遺構総数は約940、出土遺物は約250箱であった。

出土遺物の水洗・注記は発掘調査中にほぼ終了しており、平成８年４月からはただちに土器の復元作業を行い、写真撮影対象品の選定や実測対象遺物の抽出を行なった。これらの作業と平行して石器・土製品・鉄器などの抽出も行い、台帳の作成や実測対象遺物の選定を行なった。また、金属製品については保存化学的処理について細心の注意を払った。このようにして選定した遺物については、土器が980点、石器・石製品51点、金属製品30点、木器２点、炉壁片５点などの実測を行なうことができた。出来上がった実測図については、担当者が入念な検討を加え、浄写・編集段階で厳選し、報告書に掲載できた土器は914点、石器・石製品は51点、土製品66点、金属器および関連遺物24点、木器21点である。

遺構については、担当者が調査区を分担して図面整理を行い、トレースについては原図および下図を元に担当者および補助員が行なった。（岡田）

報告書作成協力者（順不同）

田中淑子　　柳　晴美　　村岡雅子　　井上弘子　　阿部典子　　三垣佐知子

報告書作成体制

1996（平成８）年度

岡山県教育委員会

教育長	森崎岩之助
教育次長	黒瀬定生

文化課

課　長	大場　淳
課長代理	松井英治
参　事	葛原克人
課長補佐	平井　勝

（埋蔵文化財係長事務取扱）

主　査	若林一憲

岡山県古代吉備文化財センター

所　長	河本　清
次　長	高塚惠明
次　長	葛原克人

（文化課本務）

文化財保護参事	正岡睦夫

（総務課）

課　長	丸尾洋幸
総務主幹	守安邦彦
課長補佐	井戸丈二

（係長事務取扱）

主　査	木山伸一

（調査課）

第三課長	柳瀬昭彦
課長補佐	岡田　博

（第三係長事務取扱）

主　事	前田能成
主　事	小嶋善邦

第２章　遺跡の位置と環境

北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡は、岡山平野のほぼ中央を南北に流れる旭川の西約１㎞から500ｍの間にひろがる複合遺跡である。すぐ西側には国指定史跡「津島遺跡」がひろがり、本来は広大な沖積地の遺跡として一体のものと理解される。古地形は、旭川の自然堤防上に位置していることは明確で、北東から南西方向に地形は緩やかに下降している。

周辺でもっとも古い時期の遺跡は、北方約800ｍに広がる津島岡大遺跡（註１）のほか、朝寝鼻貝塚（註２）などがある。これらは縄文時代中期に遡る遺跡で、ことに津島岡大遺跡は中世に至るまで集落として継続する。

弥生時代では、はやり津島遺跡が最大規模の集落遺跡で、弥生時代前期に遡る水田の発見は考古学史上画期的な発見であった。（註３）弥生時代中期になると、南方約800ｍあたりから始まる南方遺跡が著名である。近年の発掘調査によって多くの発見や成果があげられており、とりわけ弥生時代中期の墓の発見や、多量の木製品の出土など特筆すべき知見が得られている。（註４）

弥生時代終末期から古墳時代にかけては、北西方約1.5㎞の半田山丘陵の西端に位置する都月坂墳墓・古墳群や七つ坑古墳群などが知られている。（註５）一方で、北方地蔵遺跡から北東方約300ｍには神宮寺山古墳が所在する。全長約150ｍを測る前方後円墳で、岡山平野での傑出した古墳の一つであるが、丘陵上の古墳ではなく平地に築かれた点で注目される。直径約70ｍの後円部を北東とし、前方部を南西という自然堤防の地形にのった立地を示している。（註６）

弥生時代後期から古代にかけての複合遺跡として知られているのが津島江道遺跡である。北方中溝遺跡の北方約600ｍでは、発掘調査によって古代の建物群が発見され、古代山陽道との関わりや御野郡の公的な施設の一部であった可能性も考えられる遺跡として注目される。（註７）

古代の行政区画では、御野郡広西（世）郷にあたり、北方（きたかた）・南方（みなみかた）はともにこの郷の中で使用された地名とされている。（註８）古代から中世にかけては、集落の数の増大し、先に述べた津島岡大遺跡や北方地蔵遺跡の周辺でも、考古学的な知見が得られているが、旭川の東側一帯にひろがる百間川遺跡群の在り方と対比すべきであろう。現在、北方地蔵遺跡の東方ではやはり都市計画道路の東延長部として、「藪ノ内遺跡」の発掘調査が行なわれており、今後の発掘成果が注目されている。　（岡田）

註

（註１）　『岡山大学津島北地区小橋法目黒（ＡＷ14区）の発掘調査』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第１集ほか岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1985

（註２）　鎌木義昌・亀田修一「朝寝鼻貝塚」『岡山県史第18巻考古資料』岡山県史編纂室1986

（註３）　『岡山県津島遺跡調査概報（昭和44年）』津島遺跡調査団　1969
『岡山県津島遺跡調査概報』岡山県教育委員会　1970

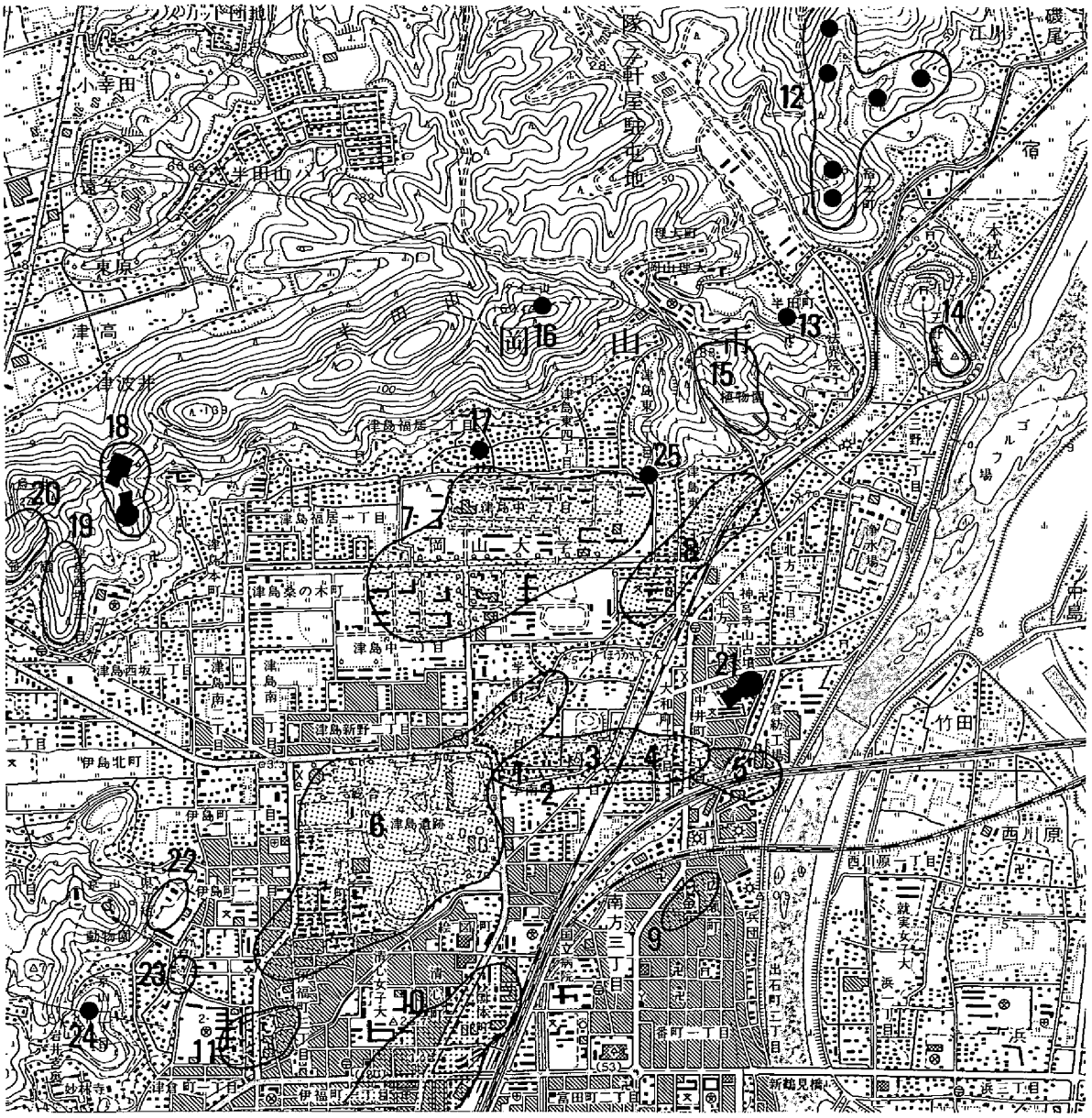
（註４）　扇崎　由ほか「上伊福・南方（済生会）遺跡（南方蓮田調査区Ⅱ）『岡山市埋蔵文化財調査の概要1995（平成７）年度』岡山市教育委員会　1997

（註５）　『岡山市七つ坑古墳群』七つ坑古墳群発掘調査団　1987

（註６）　鎌木義昌「岡山市域の古墳」『瀬戸内考古学研究』所収　河出書房新社　1996

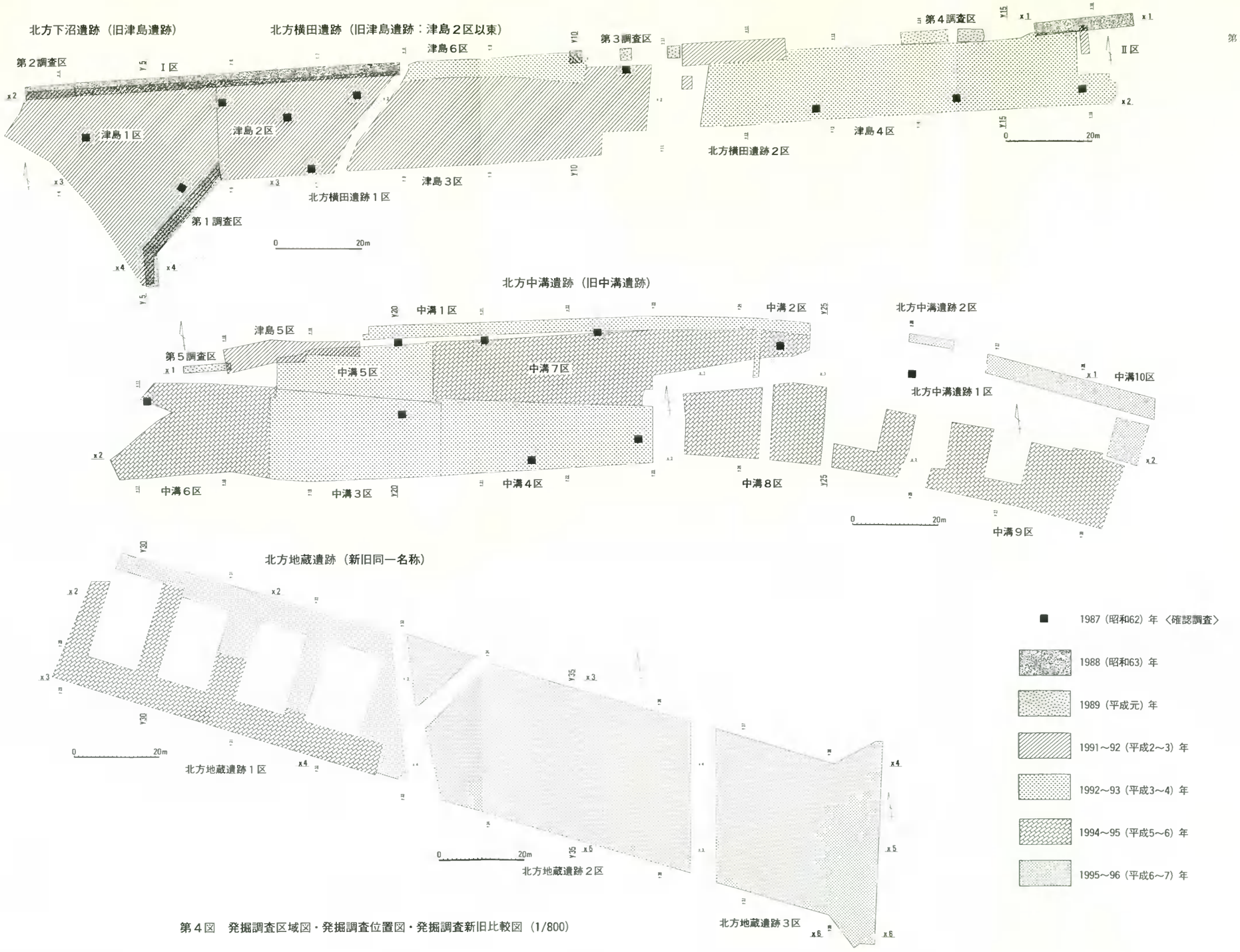
（註７）　高畑知功「津島江道遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告』18　岡山県教育委員会　1988

（註８）　池邊　彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館　1979

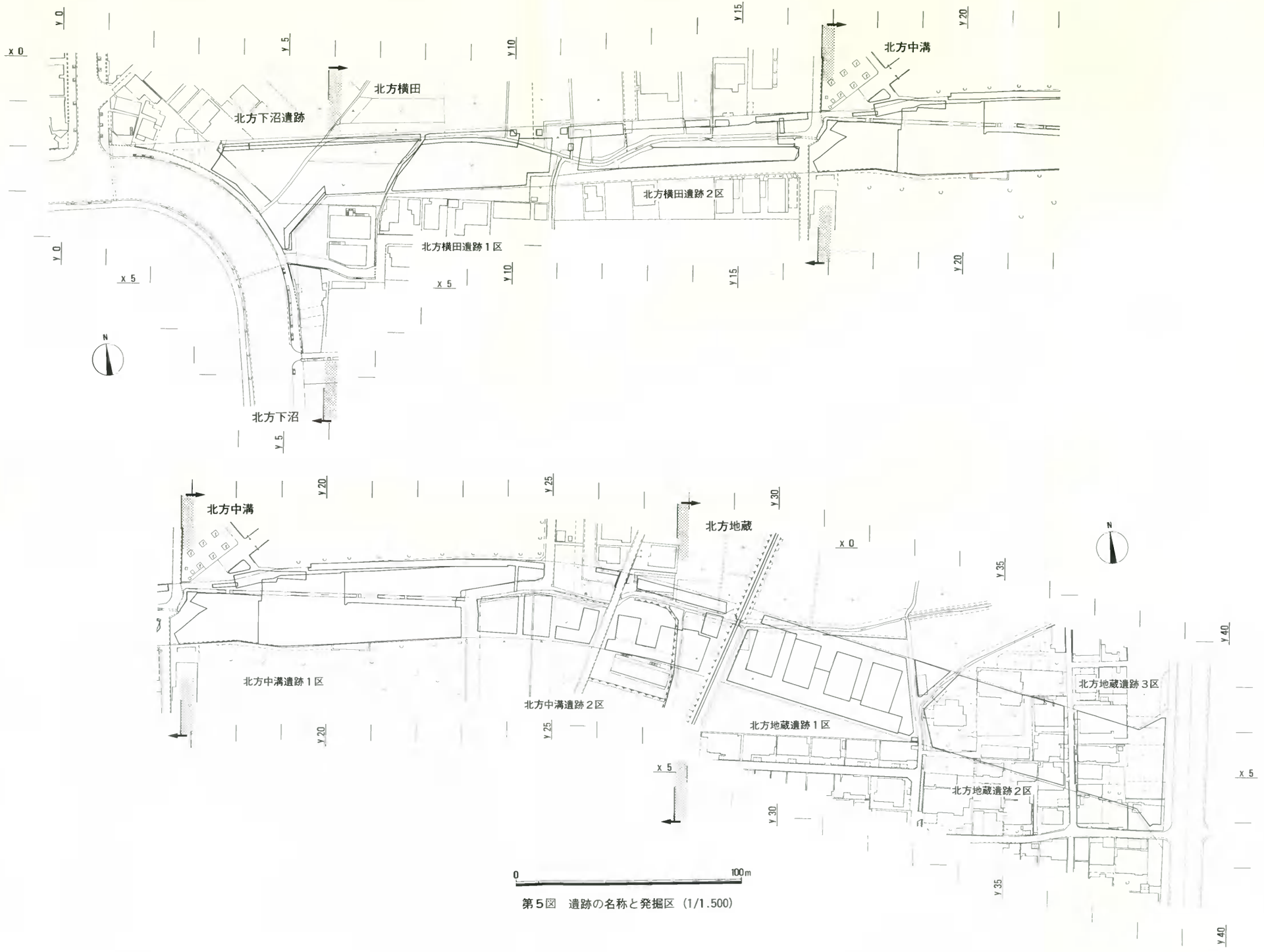


1．北方下沼遺跡	2．北方横田遺跡	3．北方中溝遺跡	4．北方地蔵遺跡
5．北方藪ノ内遺跡	6．津島遺跡	7．津島岡大遺跡	8．津島江道遺跡
9．広瀬遺跡	10．南方遺跡	11．伊福定国前遺跡	12．宿古墳群
13．不動堂古墳	14．妙見山城跡	15．一本松古墳群	16．ダイミ山古墳
17．お塚様古墳群	18．都月坂墳墓・古墳群	19．七つ坊古墳群	20．烏山城跡
21．神宮寺山古墳	22．上伊福西遺跡	23．尾針神社南遺跡	24．津倉古墳
25．朝寝鼻貝塚			

第３図　周辺遺跡分布図（1/25,000）



第４図　発掘調査区域図・発掘調査位置図・発掘調査新旧比較図（1/800）



第５図　遺跡の名称と発掘区（1/1.500）

第3章　発掘調査の概要

第1節　調査区の概要

第5図に掲げるように、長年にわたった発掘調査の実施の際には、岡山県総合グラウンド内に所在する国指定史跡「津島遺跡」の関連遺跡として取り扱われていた。したがって、北方下沼遺跡から北方横田遺跡2区までと北方中溝遺跡の一部の調査区にかけては、津島遺跡として記録の保存が行なわれていた。

今回の報告書の編集・刊行に際してはまず遺跡名称の検討から始めた。岡山市役所での切り図の調査や条里の坪名などを参考に、専門委員会での検討・承認を得て表記のように改めることにした。

西から「北方下沼遺跡」、「北方横田遺跡」、「北方中溝遺跡」、「北方地蔵遺跡」としたのは、以上の検討の結果である。本来、遺跡名の決定には大字、小字のいずれかの名称を併記あるいは選択して命名しているが、今回は条里の坪名が歴史的な遺称であることから、これを積極的に採用したものである。

すでに前章で述べたように、発掘調査は長年にわたり、しかもトレンチによる確認調査や、道路敷部分の発掘調査に先行する、街路の発掘調査など近接した箇所を幾度かに分けて発掘したような結果となっている。したがって、同一の遺構を地点をかえて再度発掘調査がなされた場合もある。

北方下沼遺跡から北方地蔵遺跡まで、現在の水路や道路、鉄道などに分断されているが基本的に連続する広大な遺跡として理解して良いと考えている。各調査区でもっとも古い時期の明確な遺構は、弥生時代前期中葉前後に比定される水田遺構である。北方下沼遺跡から北方横田遺跡、そして北方中溝遺跡では明らかに給水・排水を担うと考えられる溝も検出されている。

北方中溝遺跡1区では、この水田面の下層から2条の溝が検出されているが、この面は遺跡全体においては普遍性を欠くが弥生時代前期前葉以前に比定できる遺構である。また、北方地蔵遺跡でもこの水田遺構の下層の精査が行なわれたが、水田層の存在は十分に認められたが、水田の明確な検出には至らなかった。

この水田遺構は、北方下沼遺跡から北方横田遺跡にかけては繰り返し利用されたことが明らかで、そのために弥生時代後期後葉の水田遺構が検出される間の層では、水田そのものの検出は困難となっている。加えて、後世の長大な溝（古代～中世）によって平面的な損壊も受けていることにもよる。すべての遺跡で検出された弥生時代後期後葉の水田遺構は百間川遺跡群と同様、洪水による砂で埋没していることが明らかとなっている。そのため畦畔の保存状態は良好である。

北方地蔵遺跡では古代に比定される時期まで確認されており、水田耕作に適した地勢であったことを示唆している。一方で、集落の一部が検出されたのは北方下沼遺跡での古墳時代の竪穴住居群のみである。この地点では「鍛冶」に関わる遺物が集中的に出土しており、周辺部の集落の広がりや性格に関心がもたれるが、神宮寺山古墳と同一の自然堤防上に位置する点で、特筆される知見である。

古代から中世にかけては、溝からの大量の出土遺物によって、大規模な集落の存在が推察される。古代山陽道の南側に位置することからも、御野郡の中心部との関わりが今後の検討課題となろう。

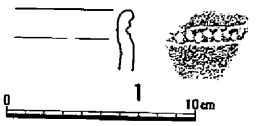
以下、各遺跡の発掘調査概要について遺構・遺物の事実報告を中心に概述したい。　　（岡田）

第２節　北方下沼遺跡・北方横田遺跡の概要

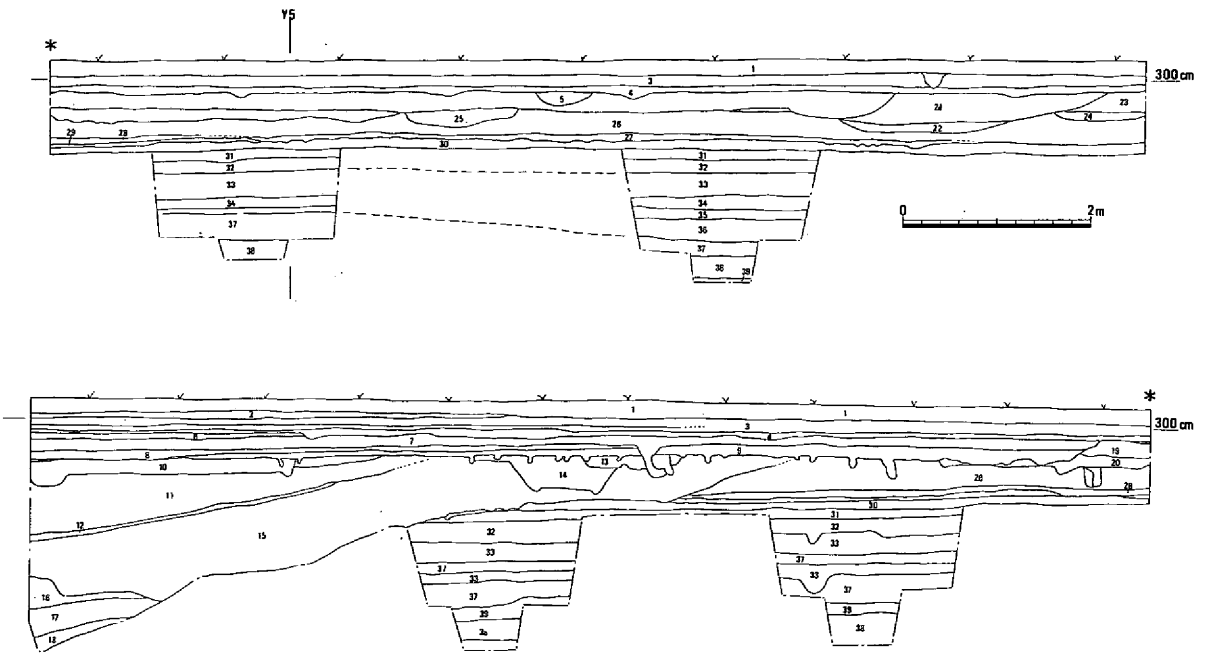
１．概　　要

これらの遺跡は今回報告する中では最も西側に位置するもので、調査時は現在運動公園となっている津島遺跡の一部として認識していたものである。遺跡は大きく見れば、西端部に弥生時代前期末の沖積作用（洪水砂）によって形成された微高地上の遺構群のほかは、すべて微高地の下とその東側に展開する水田、関連する水路等である。大半を占める水田は、時期的には弥生時代前期中頃にほぼ全面に形成された後、洪水による埋没を繰り返しながら現在に至るまで継続しており、この間に地表面は約1.5～２m上昇している。また、微高地は現在まで水田化されることはなく、平安期と推定される大溝もこの部分で大きく方向を変えている。この微高地は古墳時代中期の遺構や鍛冶関連遺物の出土などが見られる。なお縄文時代に遡る遺物は晩期の土器片がわずかに出土したのみで、明確な遺構は皆無である。

（椿）



第６図　北方横田遺跡２区
出土縄文土器（1/4）



1．表土（水田耕土）
2．灰黄色微砂質土
3．灰白色粘質土
4．淡灰色粘質土
5．淡黄褐灰色微砂質土
6．淡灰色粘質土
7．淡灰色粘質土
8．淡灰色粘質土
9．淡灰色粘質土
10．暗褐灰色粘質土
11．淡灰色粘質土（これより河道）
12．暗褐灰色粘質土
13．暗褐灰色微砂質土
14．褐灰色砂質土（竪穴住居２）
15．灰黄色微砂質土・細砂質土
16．淡青灰色粘質土（微砂混じり）
17．暗青灰色粘質土
18．淡青灰色粘質土（微砂混じり・木片含む）
19．黄淡褐灰色砂質土
20．淡灰色微砂質土
21．淡灰黄色微砂質土
22．灰色粘質土
23．淡褐灰黄色
24．淡黄色砂質土
25．淡黄褐灰色微砂質土
26．淡褐黄色微砂質土（上面にMn層）
27．灰褐色土
28．黄灰色細砂質土
29．黄灰色粘質微砂質土
30．暗灰褐色粘質土
31．黒灰褐色粘質土
32．淡灰褐色粘質土
33．褐灰色粘質土
34．淡黄色粘質土
35．暗灰色粘質土
36．黄灰白色粘質土
37．黄色粘質土
38．青灰色微砂質土・細砂質土
39．青灰色粘質土

第７図　北方下沼遺跡北壁土層断面図（1/80）

２．弥生時代前期の遺構・遺物

(1)　水　　田

概要

弥生時代前期の水田は本遺跡だけではなく、後述する東側に展開する遺跡の水田と一連のものである。これらはいずれもこの付近一帯に認められている黒色系粘質土（第７図31層）を基盤層としているのが特徴で、県内でこれまでに確認された水田の中では最古級のものである。このことは、北約0.5㎞に所在する岡山大学構内の前期水田と同様で、小区画を配する点も共通している。

この前期水田は場所によりその枚数や埋没状況が異なっており、このことは同じ県内の弥生時代後期の水田で、一度に広範囲が埋没した百間川遺跡群のものと大きく異なる点である。

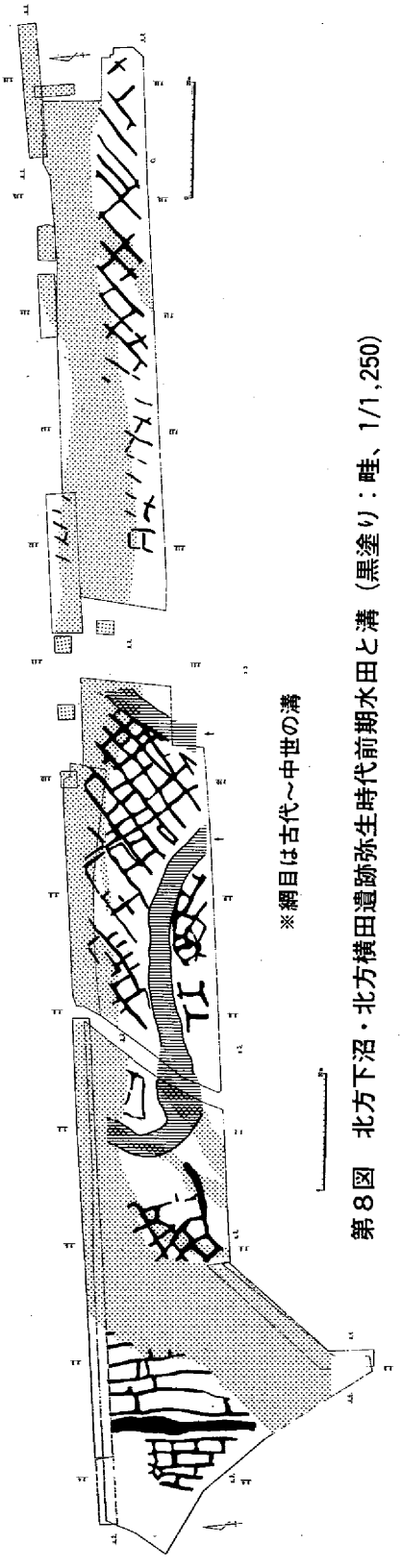
上記したように水田は広範囲で眺めると、場所によりその継続状況が異なっている。洪水砂が厚いところでは埋没した水田は比較的良好に残るが、洪水砂がわずかな場合では、そのまま耕作をするために、田面のレベルの上昇は認められても、確実に前者と同時期の水田畦畔は残らないのである。しかし、この場合には大きく畦畔を変更するようなことはないようで、ほぼ下層水田の形態を踏襲している様子が認められた。

こうしたことから、厳密には今回前期水田として示したものは、全てが同時期の姿とは言えず、以下ではこの点を踏まえた上で各水田の解説を読み取っていただきたい。この点は本報告書では十分説明し切れないが、むしろ水田調査の一般的あり方と考えて間違いないと認識している。　　（椿）

水田１（第９・12図）

後述する水田２Ａの下層で、薄い間層（洪水砂）を挟んで検出されたものである。東側には南北方向に走る大畔とそれに平行する小水路があり、畦畔もこれと同方向に配されている。南北畦畔は比較的良好に検出できたが、東西方向のものは色調がやや異なり、検出が困難な状況であった。

水田区画は上層のものよりやや大型であるが、南北方向に長い形態をとる点は共通しており、田面はほぼ水平であるが、わずかに東に向かって傾斜しているようである。



第８図　北方下沼・北方横田遺跡弥生時代前期水田と溝（黒塗り：畦、1/1,250）

遺物は土器片が少量出土したのみであるが、水田２や大畔の時期から、弥生時代前期中頃から後半と考えられる。（椿）

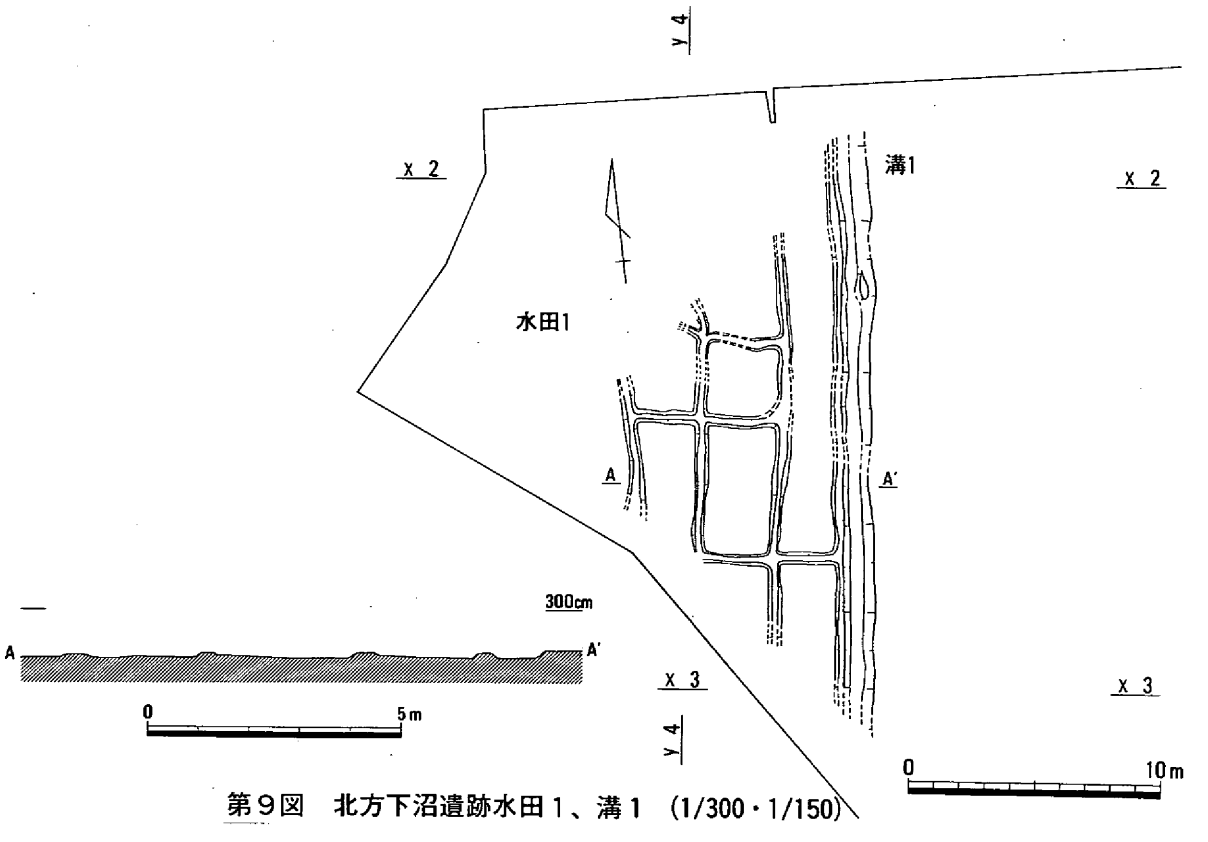
水田２Ａ（第10～12図）

水田１の上層で検出されたもので、水田１との間に数cmの薄い洪水砂が残存していた。上面は後に微高地の基盤となる厚い洪水砂で覆われており、微高地上の遺構調査が終了した後、初めて検出された水田遺構である。畦畔は下層水田と同様の配置を見せるが、南北方向のものは間隔が狭くなっている。大畦との境に水路（溝２）を配する点も同様で、基本的には下層水田を踏襲したものとなっている。畦畔を形成する土は下層水田のものより灰黄色が強いもので、やはり東西方向のものは検出が困難であった。なお、西～北側は弥生時代後期の河道によって削平されており、畦畔が一部乱れているのは検出時の誤認の可能性がある。時期は出土土器(第12図10)から弥生時代前期後半と考えられる。

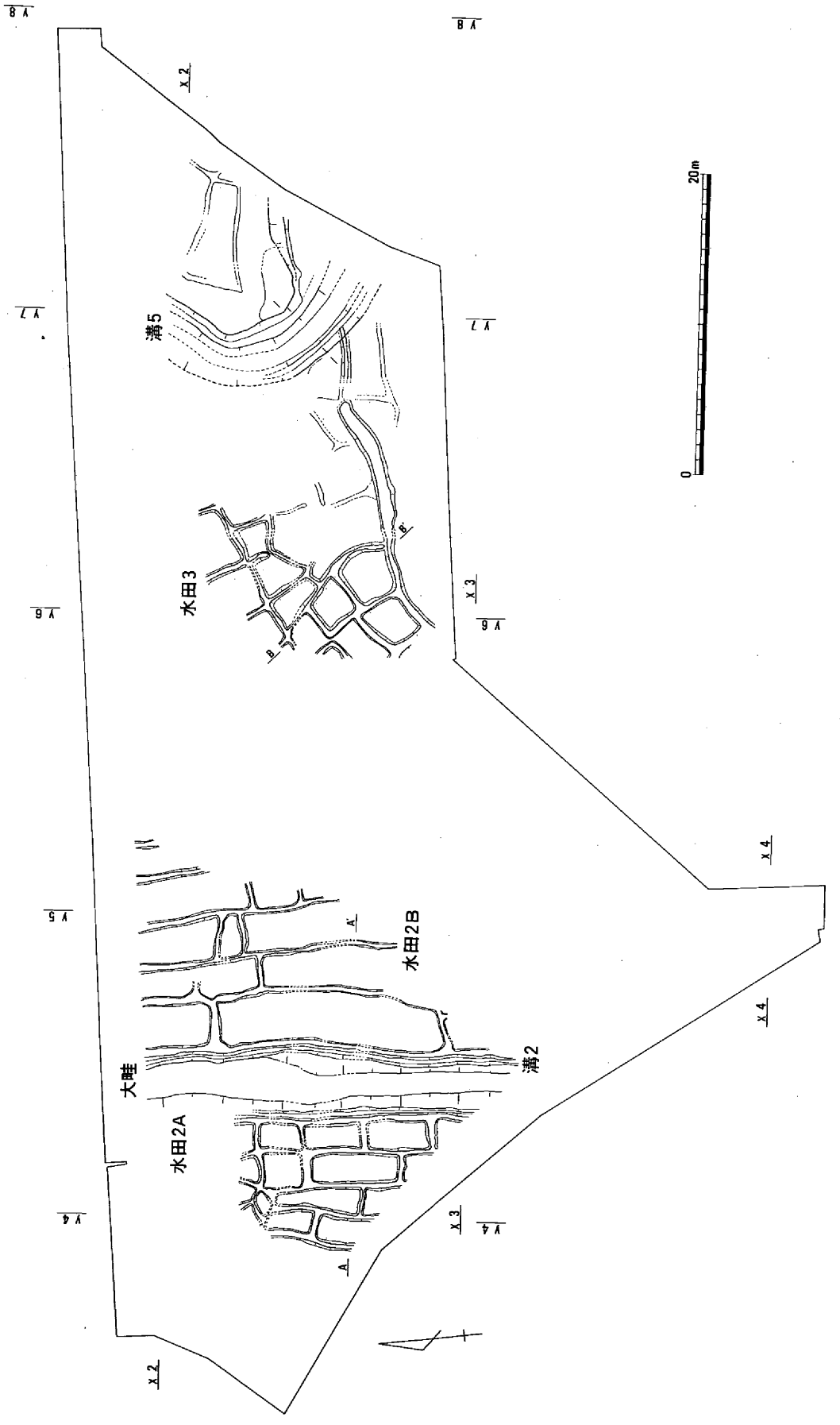
水田２Ｂ（第10・12図）

大畦の東側に展開する水田で、水田２Ｂと同時期の洪水砂で埋没したことが明らかとなっている。畦畔の配置は水田２Ａと同様な状況であるが、東西方向の畦畔は検出が非常に困難で、その一部を確認したに過ぎない。東側は平安期の大溝によって削平されており、対岸の水田との関係が不明確になっている。田面はわずかながら東・南側に下降している様子が窺えたが、全体としては不明確な点が多い。

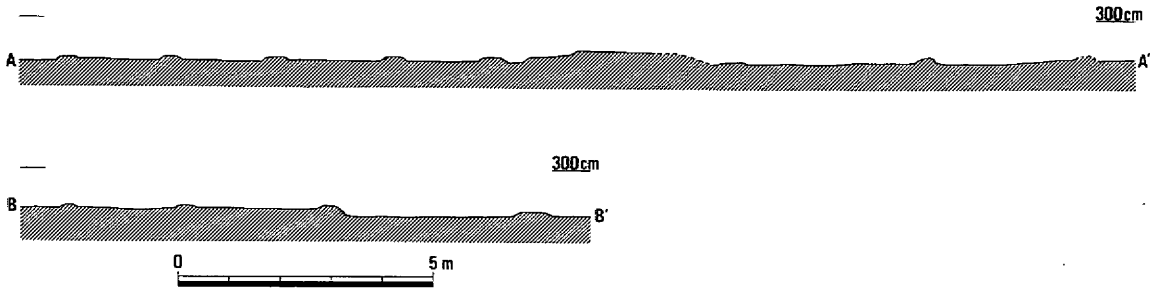
水田関連の出土土器（第12図）を整理すると、水田層直上から洪水砂中のもの（７～15)、水田層中のもの（17)、そして大畦の盛り土中から出土したもの（２～６、16）がある。遺構の性格から詳細な時期決定は困難であるが、これらは概ね弥生時代前期中頃から末にかけてのものであり、大畦出土品が古相を呈することから、開田時期と埋没時期をほぼ反映していると見てよいであろう。また、これより東側に展開する水田は伴う遺物が少なく、この資料は非常に貴重といえる。（椿）



第９図　北方下沼遺跡水田１、溝１（1/300・1/150）



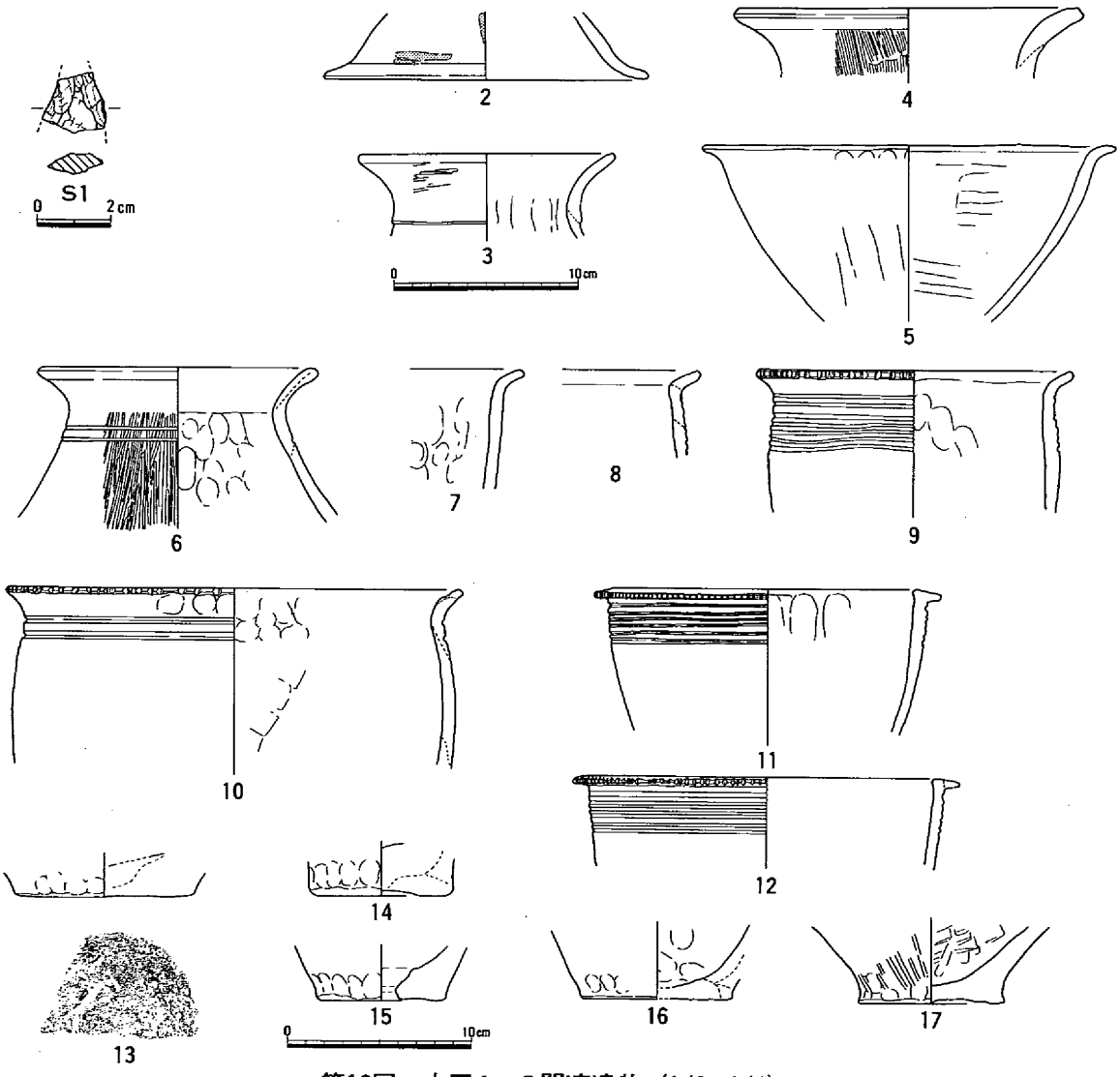
第10図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡1区水田２・３、溝２・５（1/400）



第11図　水田２A・３断面図（1/150）

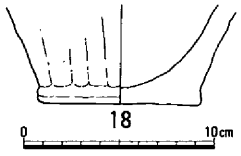
水田３（第10・11・13図）

水田１・２の東側で検出された水田で最も古い時期のもので、やはり基盤となる黒色土上に形成されていたものである。畦畔全体の様子は、周辺部を走る平安期の溝によって明確でないが、同時期の土と異なっており、確認はしていないが、下層に古い時期の河道が存在している可能性がある。また、水田２と畦畔の方向が異なるのは、この間に水路、あるいは河道が存在していたことを意味するかも知れない。水田は洪水砂で覆われているが、水田２よりは薄いものであり、これと確実に同時期

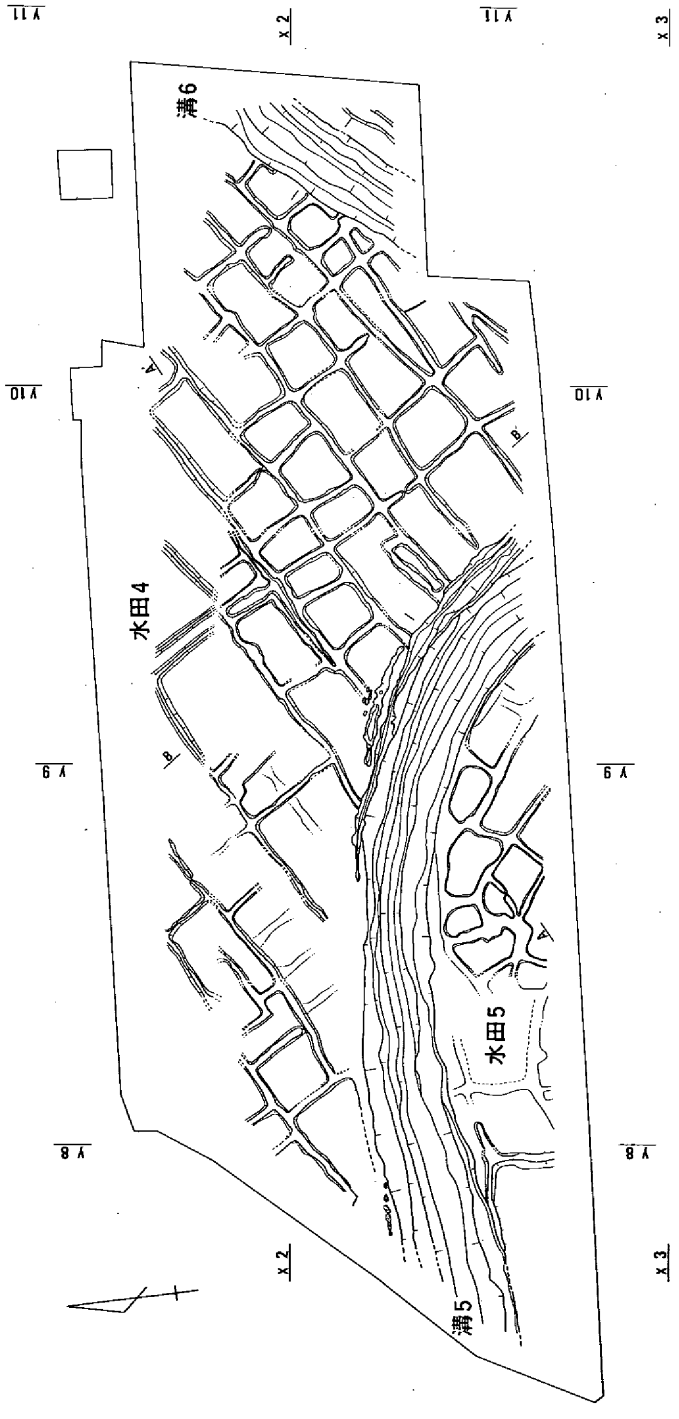


第12図　水田１・２関連遺物（1/2・1/4）

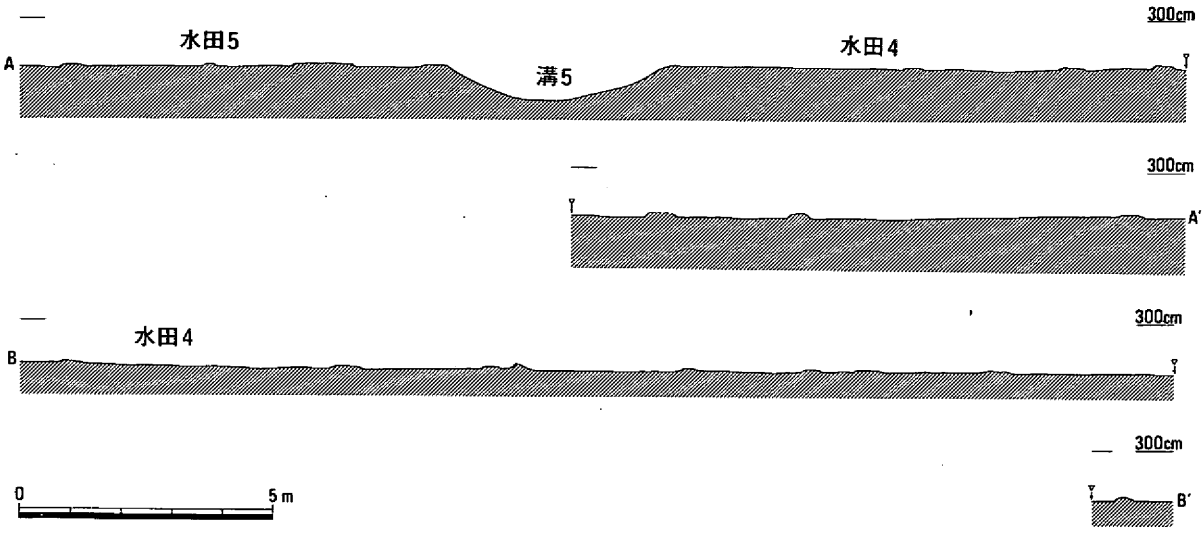
の洪水砂かどうか確証は得られていない。水田層中から弥生時代前期の土器が出土しており、土層関係とも矛盾していないことから、概ね水田１・２と同時期のものといえよう。　　（椿）



第13図　水田３出土遺物（1/4）



第14図　北方横田遺跡２区西半水田４・５、溝５・６（1/400）



第15図　水田４・５、溝５断面図（1/150）

水田４・５（第14・15図）

これらは他の前期水田と同様、黒色系の基盤層に形成されたものである。しかし、この水田層を覆っていた土層は、明らかに次の時期の水田層であり、場所によっては３層以上が確認されている。最終的に洪水砂で覆われた田面を示すのが後述する水田６・７であり、この水田は言わば開田時の姿の痕跡を検出した状況と言える。このことは基盤層が黒色土であったことから、これを造成した初期水田の畦畔の検出が容易になったとも言え、厳密に言えば、初期水田の造成痕跡のうち、後の水田耕作の影響を受けなかった部分と言うことになろう。

水田４の畦畔の配置は、北東～南西に直線的に走るものを基本線としているようで、これに直交する畦畔は検出がしにくい色調を呈していた。このことは他と同様で、畦畔にはほとんど位置を変更しない「本線」と、頻繁に位置を変更する「副線」が存在することを意味しているのではないだろうか。

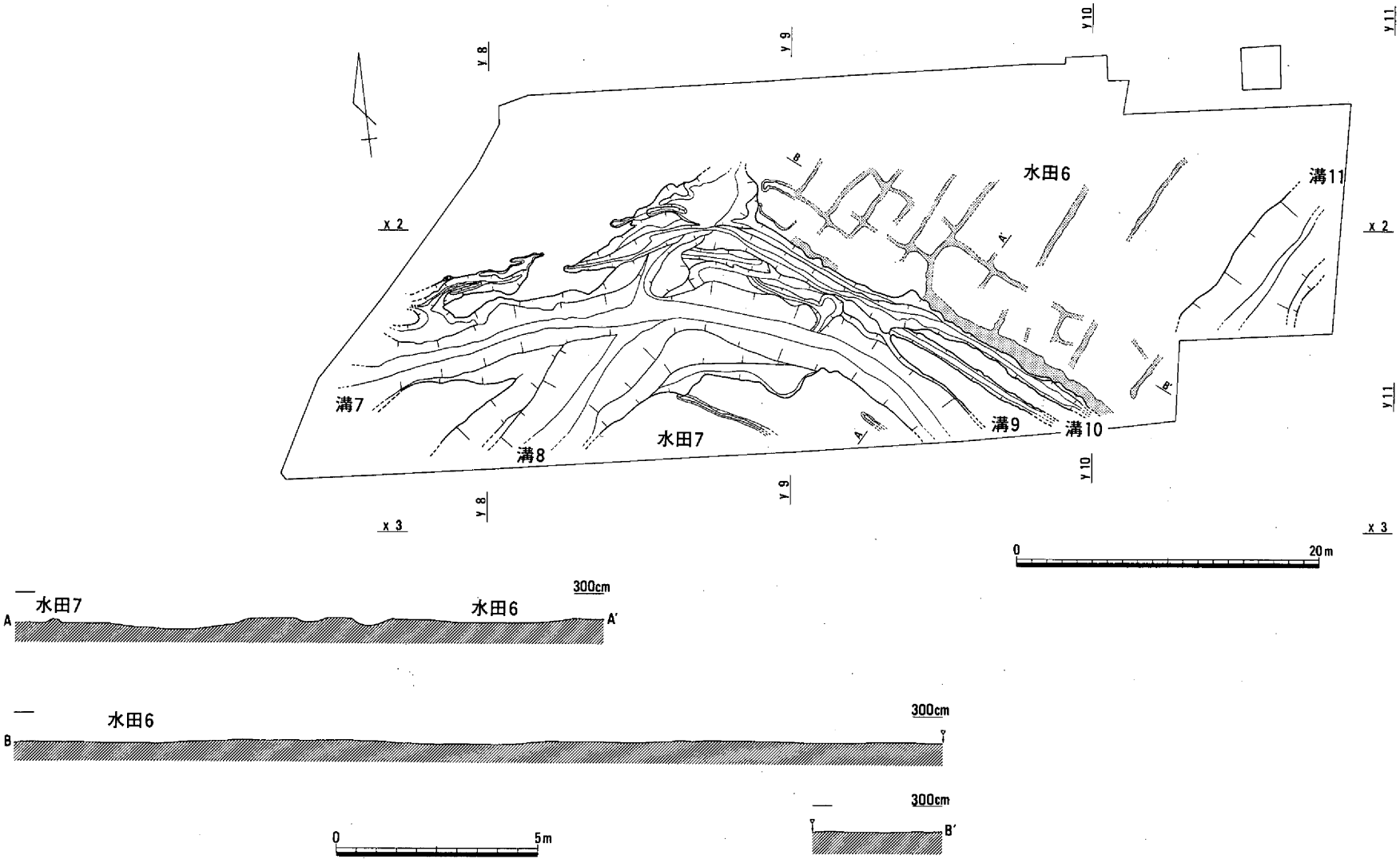
水田５は溝５の南側に展開するもので、水田４と同時に検出したものである。畦畔の配置がやや乱れているのは溝５の影響によるものと考えられ、一部は基盤層上では畦畔痕跡が遺存していない状況であった。また、図示していないが、調査時の観察では、一枚上層に位置する水田層の方が畦畔痕跡が明瞭であり、溝方向に添ったものであった点を付け加えておきたい。さらにこれらの水田層を取り除いた後、下層水田の有無を確認したところ、水田４・５の畦畔痕跡であるマンガン帯を検出した。この畦畔痕跡は、水田４ではほぼ畦畔と重複していたが、水田５では畦畔と全く異なり、全体として水田４の畦畔配置がそのまま水田５につながる状況を呈していた。このことは、溝５が形成される以前の水田の存在を意味しているものと考えられ、同様な理由で溝６付近の畦畔の乱れも当初は存在していないことが明らかとなった。開田の時期は他と同様、前期中頃から後半と考えている。　（椿）

水田６・７（第16図）

前記したように水田４・５はその後数枚の水田層を形成した後、弥生時代前期末の洪水砂で埋没したことが判明している。この埋没時の状況が水田６・７として図示したもので、洪水時の攪乱を受けていることが明らかである。特に水田７ではほとんど畦畔を検出できておらず、多数の溝が切り合っている点とあわせて、言わば水田の壊滅時の様子を示していると言える。　（椿）

水田８（第19図）

北方横田遺跡２区西部は、中央を溝30に切られているため調査区北東端のわずかな部分と南半にの

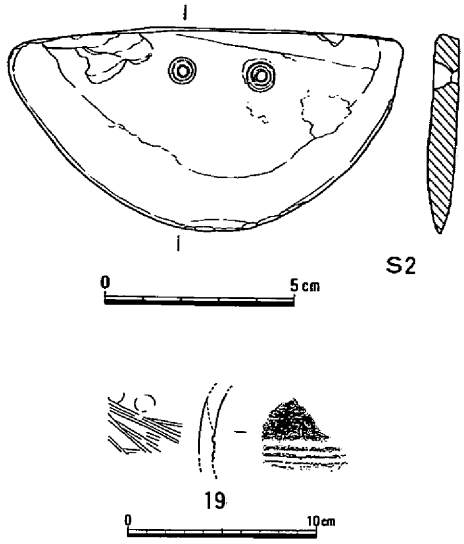


第16図　北方横田遺跡２区西半水田６・７、溝７～11（1/400・1/150）

み水田層が残る。畦畔痕跡は、ほとんどが鉄分やマンガンの帯状の集積により確認されたもので、高さは１cm未満で、幅20～35cm内外である。水田の区画は、北東―南西方向の畦畔により幅2.6～2.9mに区画されるが、残存部分が細長いため直交する畦畔が少なく、長さ、面積が計測しにくい。田面の標高は2.12～2.15mである。時期は土層等の状況により弥生前期と思われる。　（山本）

水田９（第17・19図）

褐灰色粘質土を除去した面で検出された水田である。畦畔は調査区に対し斜行しており、北東―南西方向が幅35～55cm、北西―南東方向が幅25～45cm内外で、高さ２～６cmを測る。水田の面積は10.2～24.5㎡のものが確認されており、標高は東端で2.36m、西端で2.23mである。三日月型磨製石包丁Ｓ２と弥生前期の壺19が出土しており、時期は弥生前期と考えられる。　（山本）



第17図　水田９出土遺物（1/2・1/4）

(2)　溝

溝１（第９図）

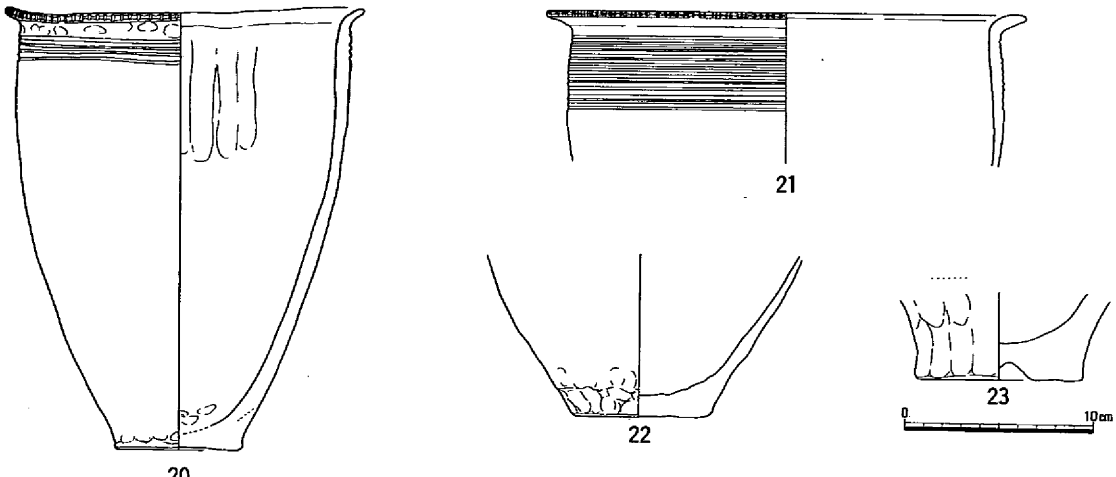
水田１と同様に機能していた溝で、幅1.5cm前後、深さ約20cmを測り、東側の大畦に平行する水田用の水路と判断したものである。土層状況から大畦と同時に形成されたものと考えており、埋没土を大畦に盛った形跡も認められた。時期は水田１と同様、弥生時代前期中頃から後半と考えられる。（椿）

溝２（第10図）

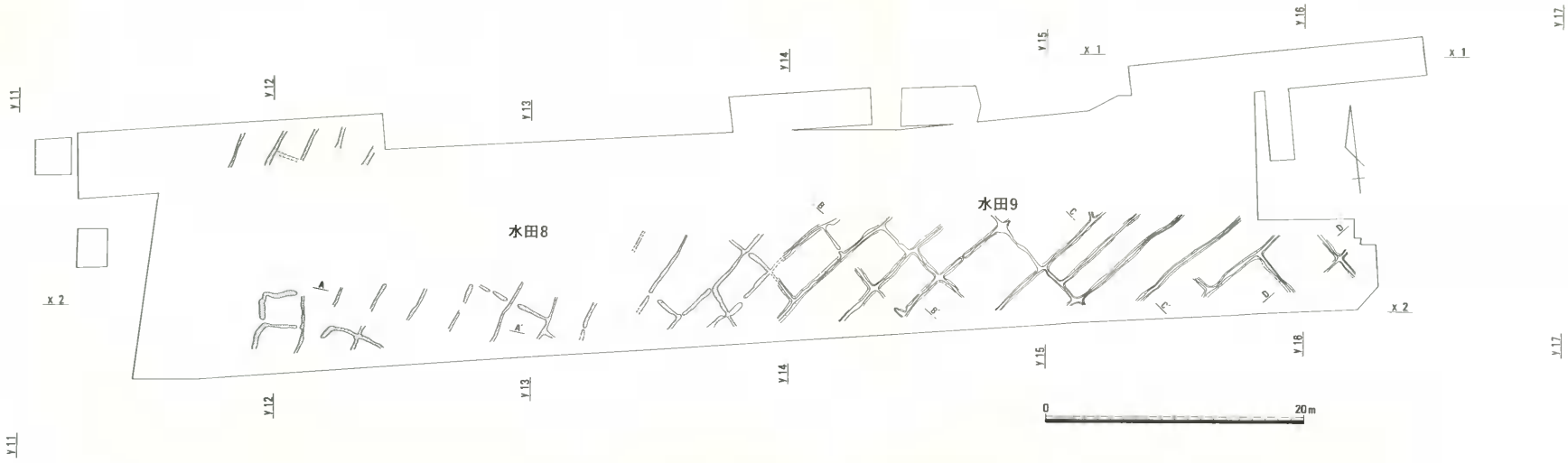
溝１と同様、大畦東側に平行する水路で、規模も同様である。水田２Ｂと同時期に埋没しており、これと同時に機能していたことが明確である。埋没時期は弥生時代前期末である。　（椿）

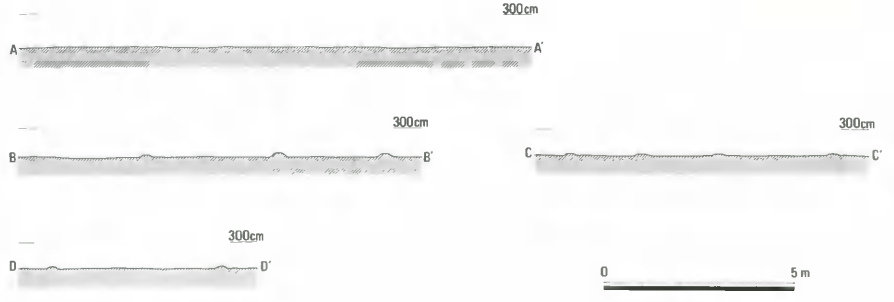
溝３（第18・20図）

下層の水田が洪水砂により埋没した後、最初に造られた遺構であり、調査区北側の土層観察により北半部にも伸びていたことが確認されている。下層の水路１をほぼ踏襲したような位置と方向をもっ

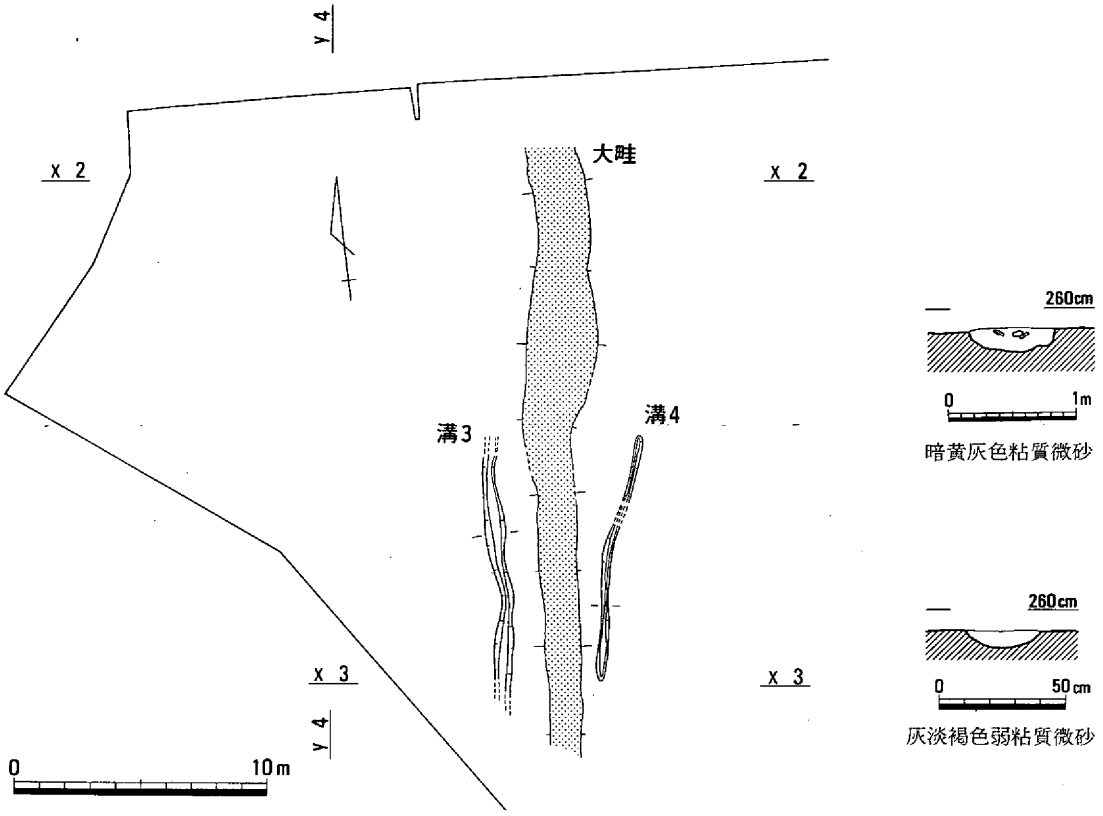


第18図　溝３出土遺物（1/4）



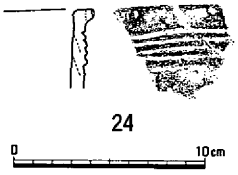


第19図　北方横田遺跡２区東半水田８・９（1/400・1/150）



第20図　北方下沼遺跡大畦、溝３・４・出土遺物（1/300・1/30・1/4）

ているが、これに伴う水田は土層自体も認められず、下層と同様の機能を有していた可能性は低いであろう。出土土器から弥生時代前期末のものと考えられる。（椿）

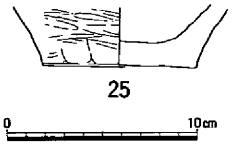


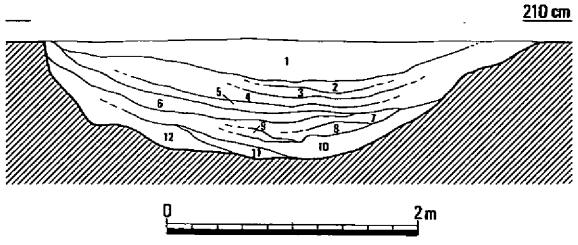
溝４（第20図）

溝３、下層大畦とほぼ平行して走るもので、わずかに残存していた。方向、出土土器から溝３と同時期に機能していたことはほぼ間違いないであろう。（椿）

溝５（第10・14・15・21・22図）

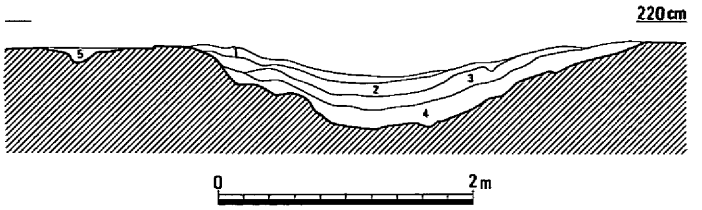
北方横田遺跡の１区と２区西半部を蛇行して流れるやや大型の溝で、前期水田と同時に検出したものである。溝の幅は約３～４ｍ前後を測り、断面は基本的に緩やかな弧状を呈するものであるが、部分的に溝が重複した様な痕跡も認められる。土層観察等から埋没しながら機能していたことが明らかであり、当初の深さは約60cm前後であるが、最終的に洪水砂で埋まった時点では深さ約25cmとなっている。これ





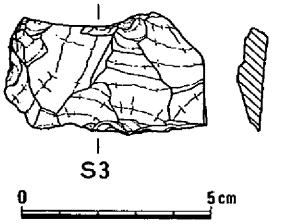
1．黄灰褐色粘土（微砂を少し含む）
2．暗青灰色粘土（下半に炭化物薄層をはさむ）
3．青灰色粘土（下半に炭化物薄層をはさむ）
4．暗青灰色粘土（炭化物含まず）
5．暗青灰色粘土（下半に炭化物薄層をはさむ）
6．淡青灰色粘土（下半に炭化物薄層をはさむ）
7．青灰色粘土と細砂の互層
8．粗砂（黄～青色）
9．粗砂（黄～青色）
10．暗灰黄色粘土
11．粗砂（黄～青色）
12．黒灰色粘土と細砂の互層（炭化物混じる）

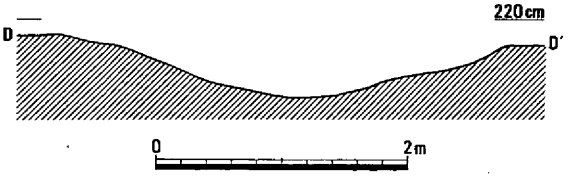
第21図　北方横田遺跡１区溝５土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）



第22図　北方横田遺跡２区溝５土層断面図・出土遺物（1/60・1/2）

と平行して走る小水路の痕跡も検出されている。溝底面のレベルにはほとんど変化が見られないが、コーナー部での浸食状況から東に流れている可能性が強いものと考えている。また、後述する溝６と連続あるいは合流する可能性が強く、連続するとすれば、この溝は複雑な流れをしながら低位部へ向かっていると言える。時期は土層関係やわずかながら出土した土器片から前期後半と推定されるが、前記したように、畦畔痕跡との関係から、開田時には存在していなかったものと判断している。このことはこの溝が蛇行しているとはいえ、人工的に掘削されたものである可能性が高いことを示していると考えられる。（椿）





第23図　溝６断面図（1/60）

溝６（第14・23図）

溝５と同様の形態を持つもので、土層関係からも同時期のものであることが判明している。埋没時にも機能していたことが判明しており、この点も溝５と共通する点で、両者は調査区南側で接続するものと推定される。（椿）

溝７（第16図）

水田６・７と同時に検出したもので、水田と同じ洪水砂に覆われていたことが判明している。前記した溝５の埋没時の様子を示したのがこの溝７といえ、北側には後述する数本の溝が平行して走っている様子が窺える。埋没時期は土層関係から、弥生時代前期末と推定される。（椿）

溝８（第16図）

溝７と基本的に同じ洪水砂で埋没した浅い溝であるが、明らかに溝７を切り込んだ状態であった。この点は、この溝の北側から小石混じりの洪水砂が流れ込んだ様子から見て、調査区北側からの洪水により、集中して押し流された結果にできた流路として説明できるものと考えている。（椿）

溝９（第16図）

溝７と平行して東西に走る水路で、溝７との境には畦状の土手があった様子が部分的に認められた。調査区西側でやや途切れた状態となっているが、この部分はレベルがやや高くなっており、この部分に北側から流れる水路が存在していた可能性を考えている。（椿）

溝10（第16図）

溝９と同様なもので、溝９よりやや新しい可能性がある。（椿）

溝11（第16図）

溝６が最終的に洪水砂で埋没した時の状況を示したもので、これと同様な状況であった。（椿）

(3)　その他の遺構・遺物

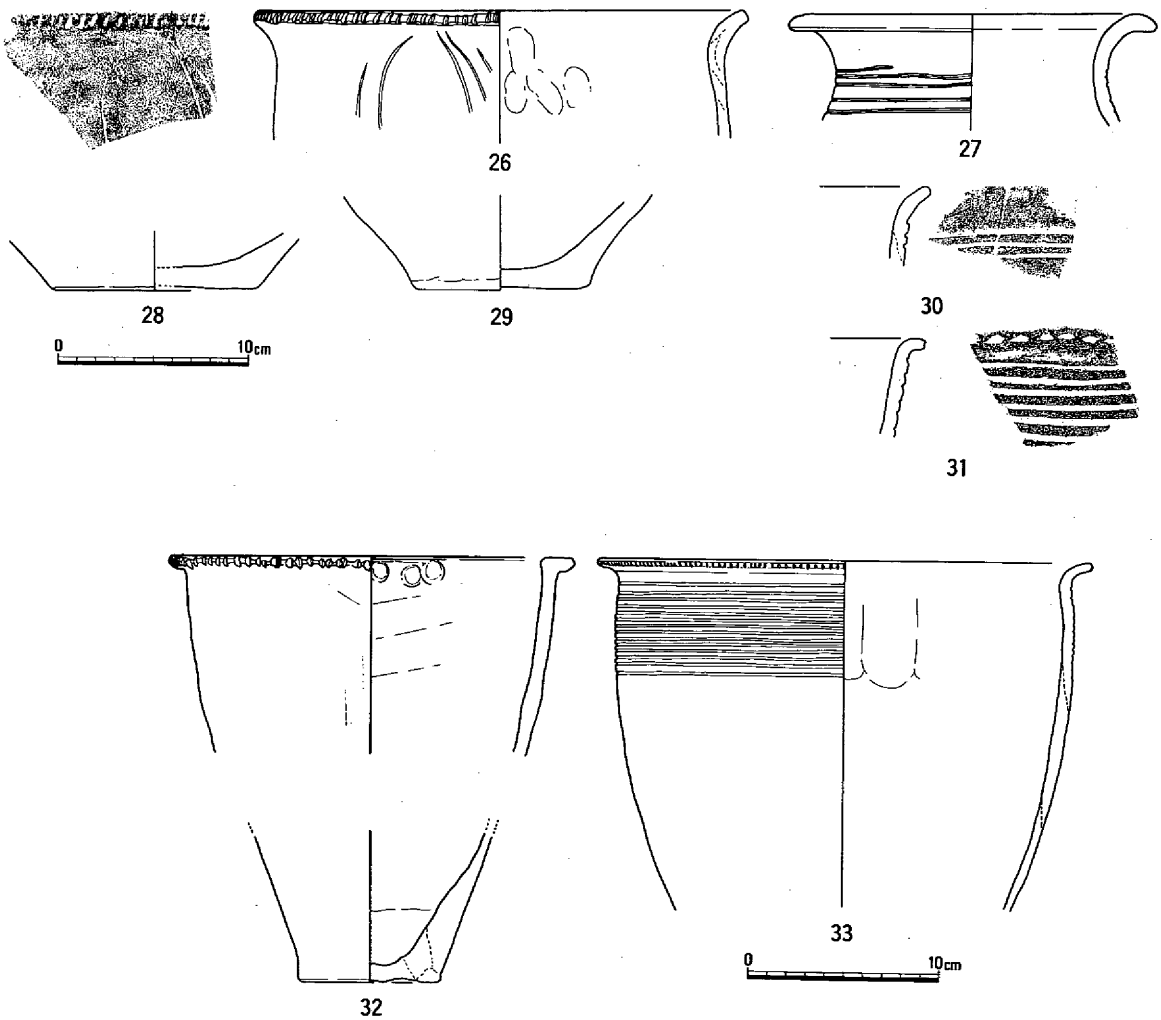
遺構

前期の遺構は水田とこれに関連する水路がほとんどあるが、この他にわずかながら気がついた点があるので、ここに記しておきたい。それは前期水田を除去した際に検出した小ピット群で、図示していないが、人工的なものと推定しているものである。いずれも径10cm以下、深さは検出面から10数cmを測る杭痕跡状のものであり、前期水田から打ち込まれたものかどうかは確認できていない。また、基盤となる黒色土については場所により質が異なっており、一つの層と認識するよりは、むしろある時期の地表面が黒色化したような印象を受けるものであった点は強調しておきたい。　（椿）

遺物（第24図）

水田に直接伴うものではないが、前期の土器は包含層中（32・33）や、後の平安期の大溝（26～31）などからも出土しており、ここで一括して取り上げることにしたい。

図化できたものは大半が前期でも終わりに近い時期のものであり、多条化した沈線を施されたものが多い。これらはいずれも前期水田が埋没する時期以前のものといえ、北方下沼遺跡側で集中して出土している点は、集落の位置をある程度反映しているものと言えないであろうか。　（椿）



第24図　北方下沼遺跡包含層ほか出土弥生前期土器（1/4）

３．弥生時代中期～後期の遺構・遺物

(1) 水　　田

これまで述べてきたように、弥生時代前期末と考えられる洪水により、かなりの水田が埋没したことが明らかになっている。しかし、その後いつから再び水田化されたのかは不明確な点が多く、これから記述する水田はその後のものであることは確かであるが、この問題の答えと言えるかどうかは確証が今一つ得られていない。（椿）

水田10（第25図）

北方横田遺跡１区の水田11の下層で検出された水田痕跡であるが、やや幅広の畦畔があるのは上層の水田と共通し、極めて短期間に作り直されたものと推定される。時期は不明確であるが、土層関係や、水田11の状況から、弥生時代中期前半のうちにあることは間違いないであろう。（椿）

水田11（第26図）

水田10の上層で検出されたもので、薄い洪水砂に覆われていたものである。検出部分の中央にほぼ東西方向に走る幅広の畦畔が存在し、北側と南側にはそれぞれ水路を配しながら小畦畔が展開している様子が見て取れる。水田層と洪水砂は断面では明確に区分できたが、色調が極めて近似しており、検出時には土層の質感でようやく分かる部分も存在した。畦畔の遺存状況は南西側を除きやや不明瞭であったが、これは周辺に存在する後の時期の溝等によるものと、下層の基盤層が粘質土で検出のしにくい状況であったことによるものである。同時期に埋没した水路（溝12・13）から弥生時代中期中葉の土器が出土しており、水田の機能していた時期を示していることになろう。（椿）

水田12・13（第27図）

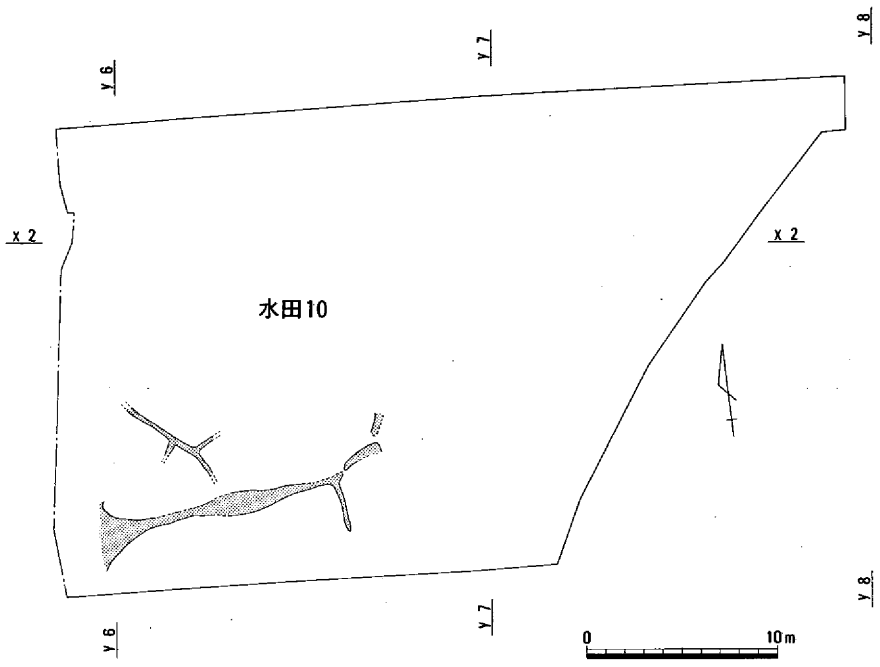
この水田は、北方横田遺跡２区で検出された弥生時代中期と推定されるものであるが、洪水砂に覆われていなかったため、水田基盤層の加工（耕作）状況から把握した水田痕跡といえるものである。

検出前に土層断面によって水田層を確認したが、上層の水田層により畦畔の検出は無理と判断した。しかし、基盤となる土は黄色系のもので、暗灰色系の水田層とは明瞭に区別できたため、各田面のレベル差があることを前提に水田層を除去することによって水田区画の検出を試みたものである。結果的に目的をほぼ達成でき、想像していたより小区画の水田痕跡が検出できた。また、下層において前期の溝部分はすでに水田化されている点や、この下層溝とほぼ平行して水路が走ることも確認できた。しかし、１区の中期水田との関係は明確にできておらず、遺物（第41図S12）もわずかであることから、やや問題を残しているといえる。また調査担当者の経験からは、この基盤層は洪水砂と言うよりはむしろ微高地を削平した造成土ではないかと感じている点を記しておきたい。

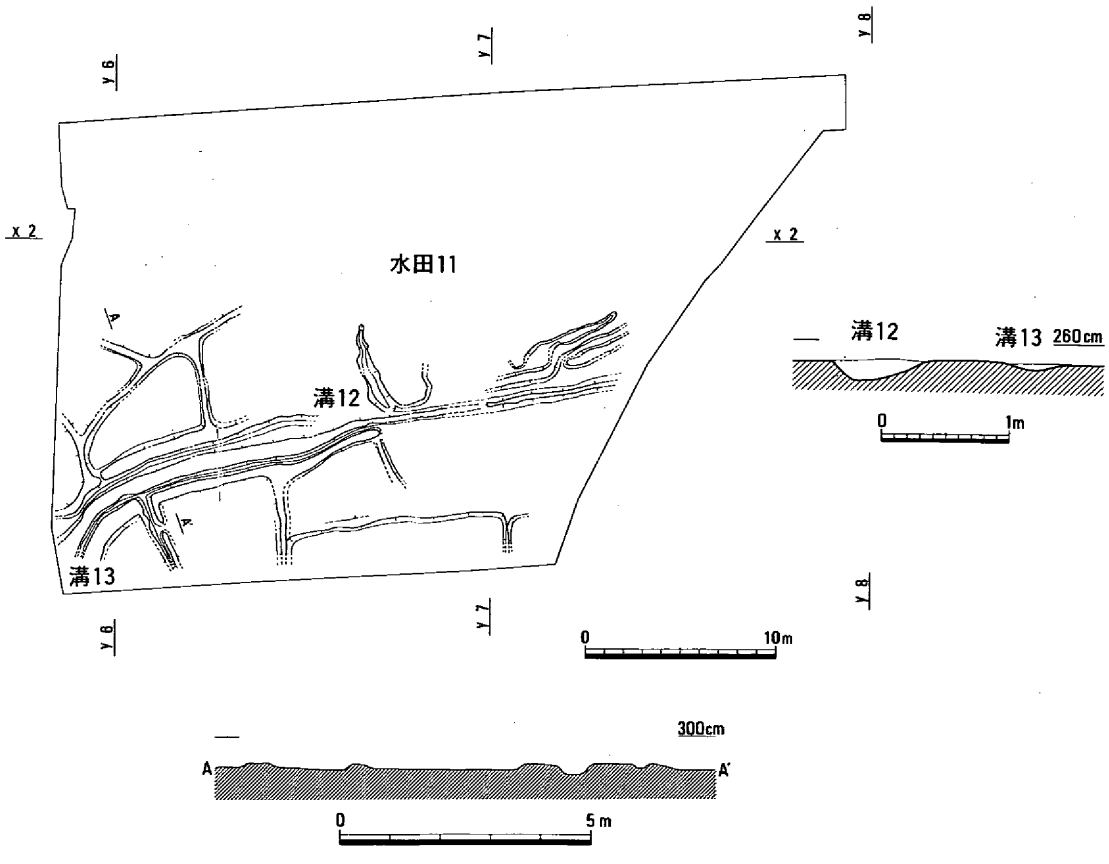
水田の時期は前記したように不明確な点があるが、前期末の洪水以後に形成されている点や、土層関係から中期と考えており、出土した石器とも矛盾しない。（椿）

水田14（第28図）

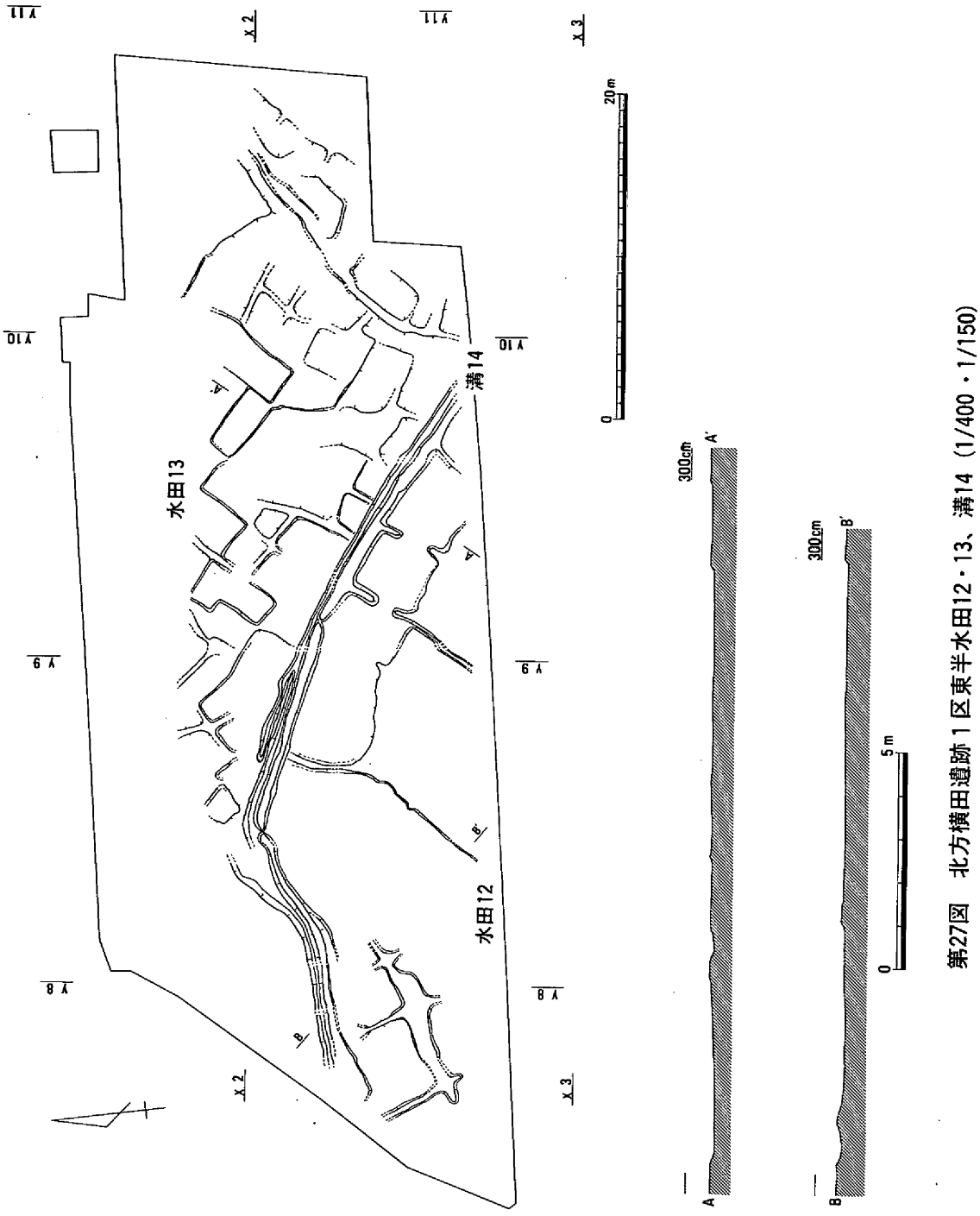
北方横田遺跡の２区で検出された。洪水砂で埋没した水田であるが、大部分は溝30の掘削によって失っているため、畦畔は調査区の南東部でのみ検出ができた。南西部では畦畔が検出されてないが、土層断面において水田層を確認している。畦畔は北東―南西の方向に規則性がみられる。水田の規模はかなり不規則であるが、比較的に大形の水田と水田の間に小形の水田が挟まるような配置がみうけ



第25図　北方横田遺跡１区水田10（1/400）

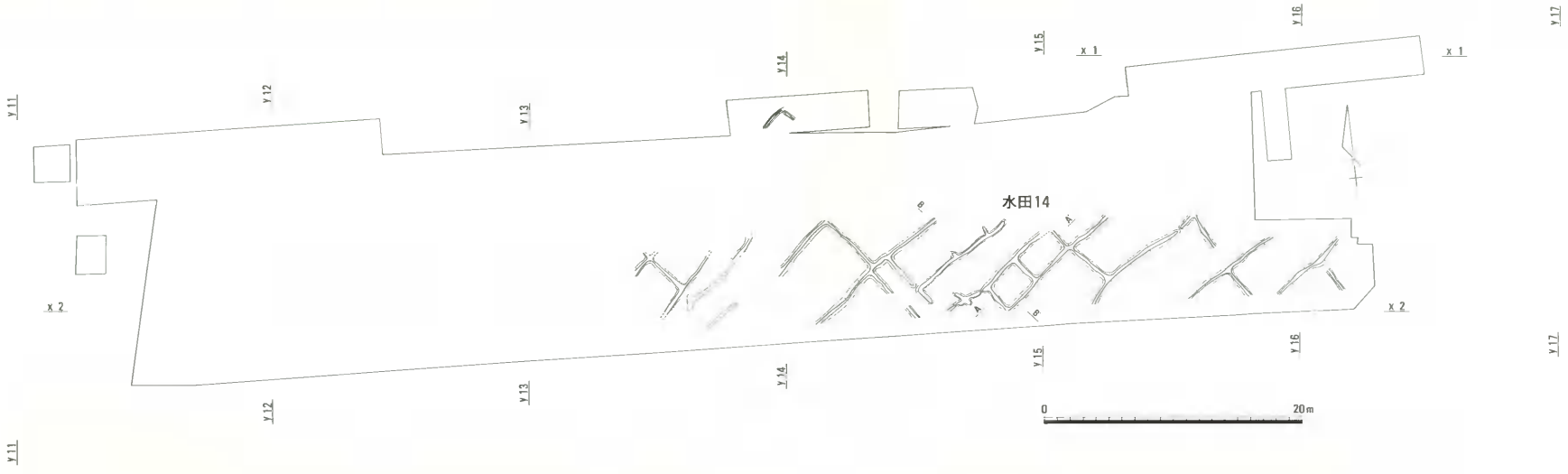


第26図　北方横田遺跡１区水田11、溝12・13（1/400・1/150・1/60）

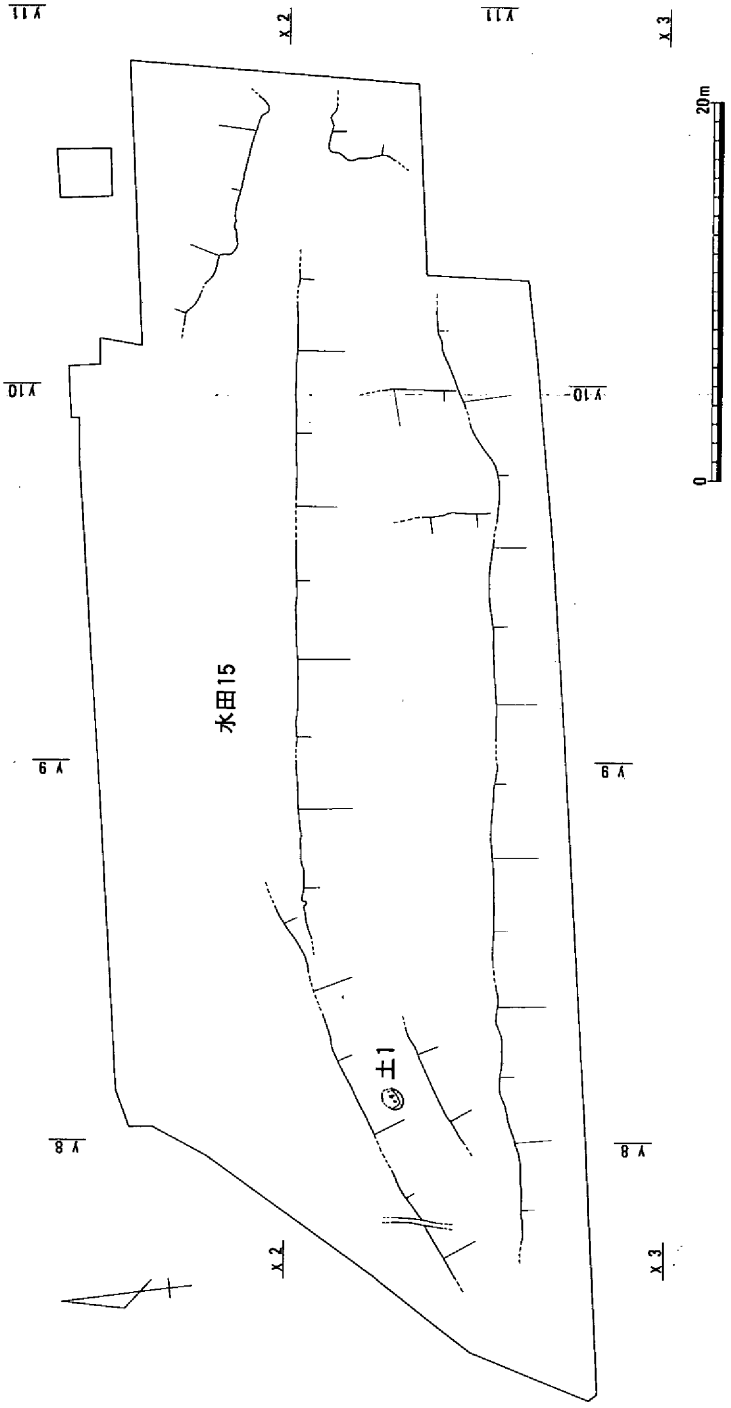


第27図　北方横田遺跡1区東半水田12・13、溝14（1/400・1/150）

られた。田面の標高は東で245cm、西で232cmを測り、その比高差は13cm程あり、西に向けて低くなっている。畦畔の高さは0.5～9cmを測り、残存状態は北西部がよくない。幅は20～70cmを測り、南北方向の畦畔が広い。この畦畔によって仕切られたおよそ26面の区画は長さ3.5～7.8m、幅3.3～4.8mの長方形のものが大部分であるが、2.8m四方の正方形を呈するものもみられる。畦畔の残存状態からみて、1区画の面積を算出することは困難であるが、2.4～3.0㎡に近い小形の水田が確認されている。この水田層は灰褐色の粘質土であり、厚さ約10cmの土層である。遺物の出土はみられないが、土層関係から弥生時代後期の水田と考えられる。（松本）



第28図　北方横田遺跡２区水田14（1/400・1/150）



第29図　北方横田遺跡２区水田15、土壙１（1/400）

水田15（第29図）

前記した水田12・13の水田層上面で検出した水田痕跡で、畦畔の痕跡は全く遺存していなかったが、水田面の段差と考えられるライン等を検出できた。この痕跡はさらに上層の水田耕作の痕跡が基盤層（中期の水田層）に残ったものと推定され、その時期は層位関係や、後述する土壙１との切り合い関係などから、弥生時代後期から古墳時代にかけてのものと考えられる。いずれにせよ弥生時代中期以降ではこの調査区では純粋な洪水砂が遺存しておらず、東側の北方中溝遺跡２区東半の後期水田との関係は不明確な点が多い。　（椿）

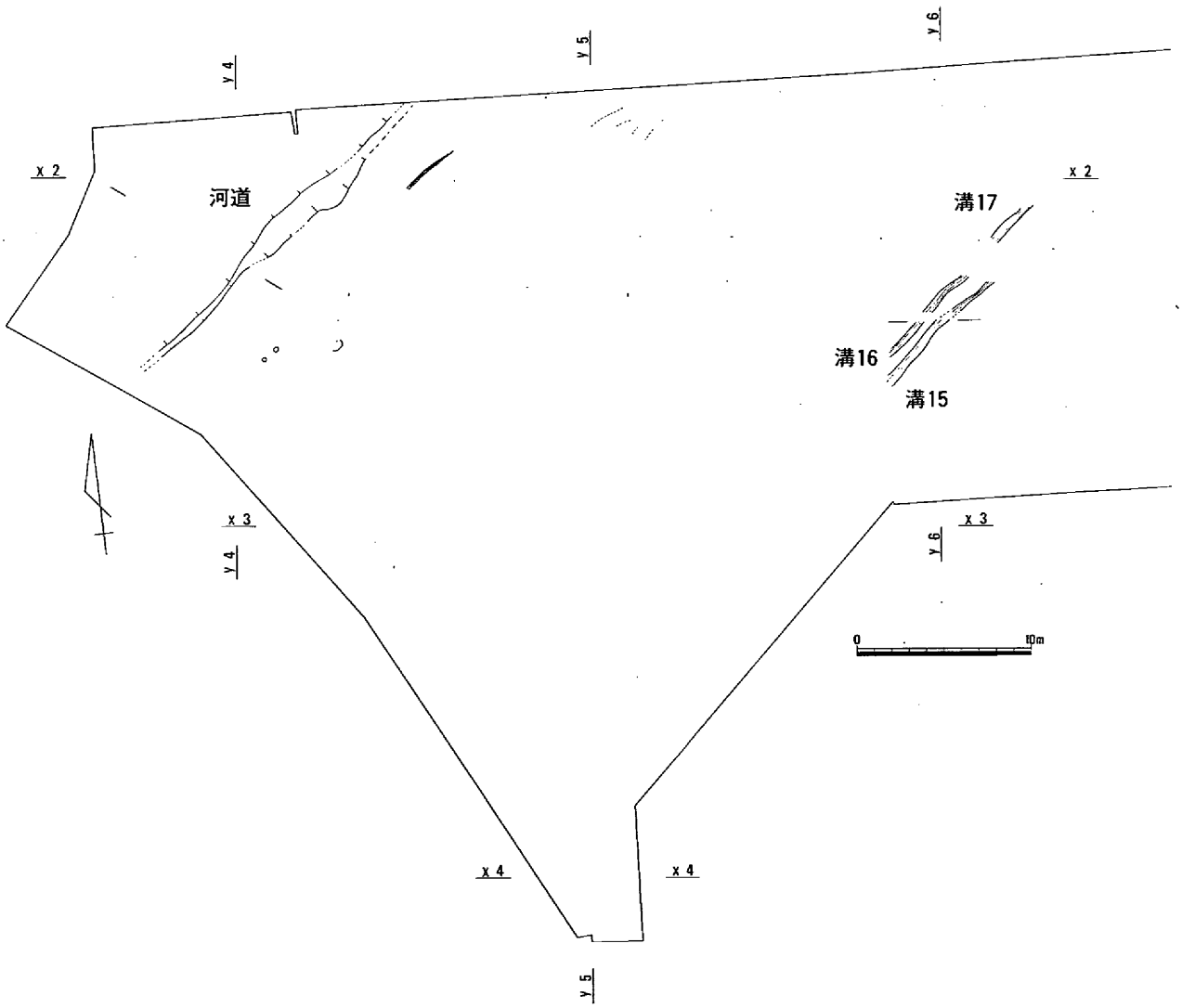
(2) 河　　道

北方下沼遺跡の調査区の北西隅に位置する。東側の肩口のみが検出できているが、幅や深さ・埋土の状況から、旧河道と考えている。

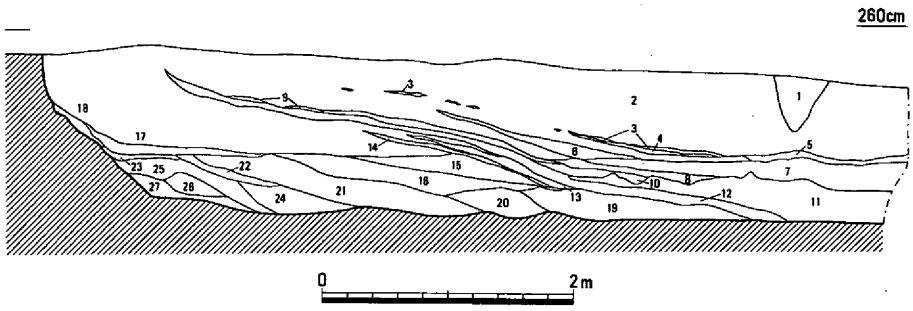
方向は調査地内では北東一南西方向で、幅は12m以上、検出面からの深さは最大で1.2mを測る。東の肩口は緩やかではない。埋土の状況は、検出面から約70cmまでは微砂が多く堆積しており、それから底までの約50cmには砂と粘土が縞状に堆積していた。

出土遺物は土器がほとんどで、量的には多くなかった。土器のうち実測可能なものについては第31図に示している。34・40は中期中葉の甕、35～39は後期前葉の壺、41は後期前葉の甕ではなかろうか。37の口縁端部には凹線が３条巡らされている。また頸部の凹線は螺旋状に施されている。36・39の接合痕は明瞭ではない。

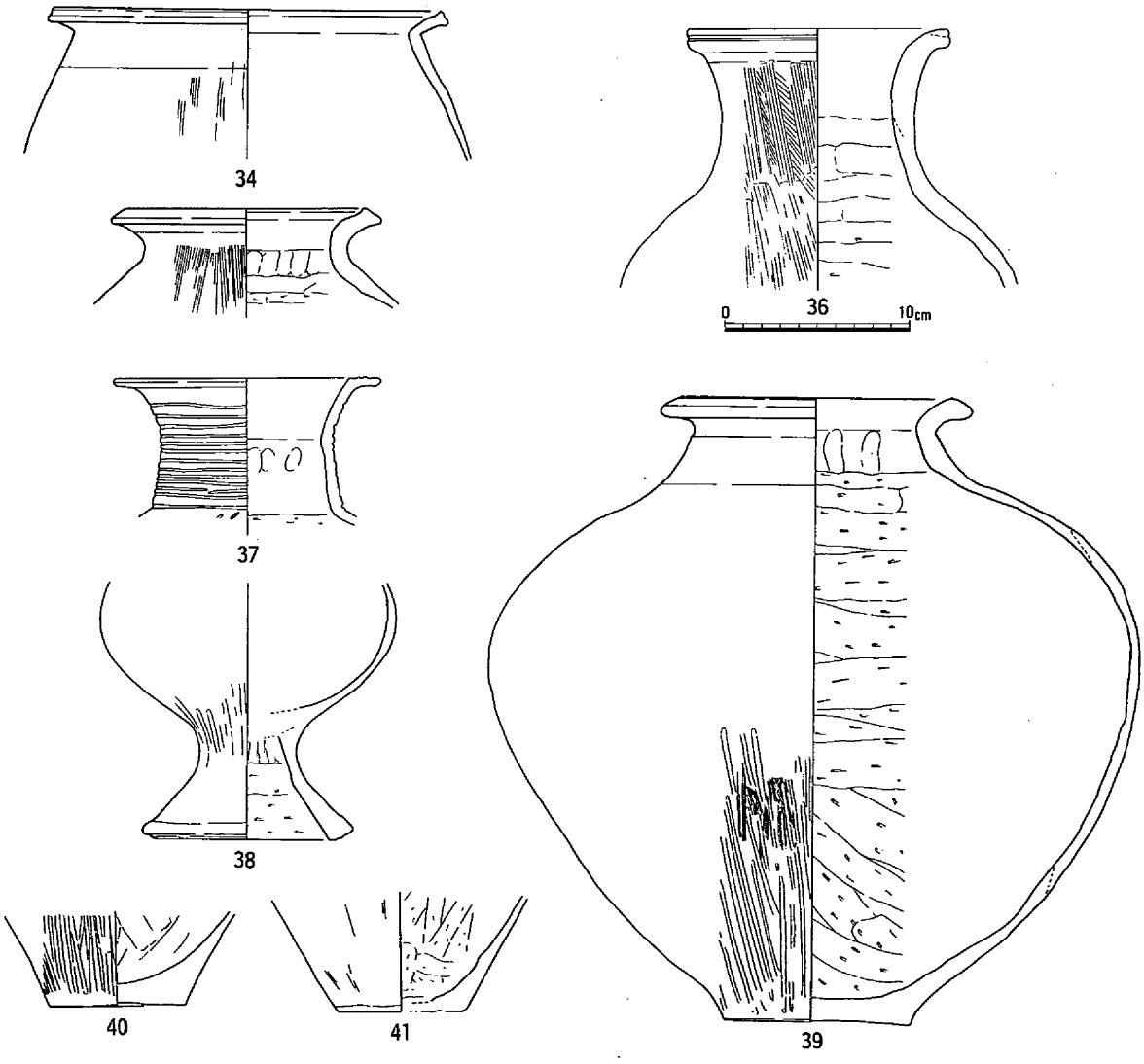
この河道の時期については、出土した土器からは弥生時代中期中葉～後期前葉に機能していたものと考えられる。また第７図に示した調査区北壁の断面図にみられるように、古墳時代中期には河道（図の11・12・15～18層）はすでに埋没し、かなり安定した状態にあり、竪穴住居２（図の14層）が掘り込まれている。　　（平井）



第30図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区河道、溝15～17（1/400）



1．暗灰黄褐色粘質微砂
（炭化粒を少し含む）
2．灰黄褐色粘質微砂
3．黒灰色粘土
4．暗灰黄色粘土
5．茶褐色粘質微砂
（鉄分沈着）
6．暗灰黄色粘土
7．暗青灰色粘土
（微砂バンド含む）
8．青灰色粘土
（微砂バンド含む）
9．暗灰黄色粘土
10．青灰色粘土
11．暗青灰色粘土
12．黒灰色粘土
13．黄灰色砂
14．黒灰色粘土
15．青灰色砂
16．暗青灰色砂
（粘土塊混じり）
17．茶褐色粘質微砂
（鉄分沈着）
18．黄色砂
19．暗青灰色粘土
20．淡青灰色粘土
21．青色砂
22．暗青灰色粘土
23．青灰砂
24．暗青灰色粘土
25．青灰砂
26．暗青灰色粘土
27．青灰砂

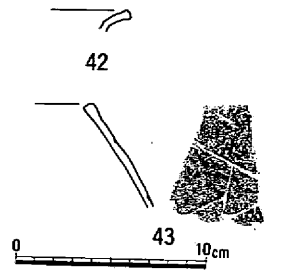


第31図　河道土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）

(3) 溝

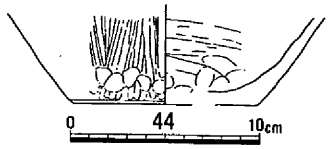
溝12・13（第26・32・33図）

北方横田遺跡1区で検出された弥生時代中期の水田に伴う水路で、やや大型の畦畔の両側に配されたものである。両者とも水田と同じ洪水砂で埋没しており、同時に機能していたことが明らかである。幅は70cm前後、深さは約10～20cmを測り、他の水田畦畔に付設する小水路とほぼ同様な規模を持っている。溝の方向や水田配置の状況から、後述する溝14と連続、あるいは関連するものと考えられるが、だとすれば弥生時代前期に掘削された溝5の痕跡がこの時期まで影響していたこととなろう。



第32図　溝12出土遺物（1/4）

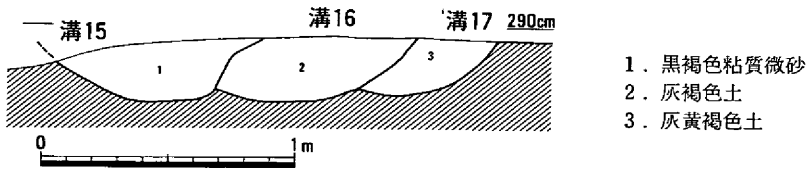
溝12からは甕の口縁部細片42と、壺の口縁部片43が、溝13からは壺の底部片が出土しており、この溝とこれに伴う水田が弥生時代中期中頃には機能していたことを示している。この時期の資料は遺跡全体では他にほとんど出土しておらず、その意味では中期水田が確実に存在することの根拠となるものである。（椿）



第33図　溝13出土遺物（1/4）

溝14（第27図）

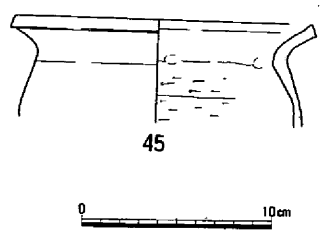
水田12・13と同時に検出できた小水路の痕跡で、溝12と関連するものと推定される。また、南側にはこれに沿うようにやや大型の畦畔が存在している点も特徴的である。（椿）



第34図　溝15～17土層断面図・出土遺物（1/30・1/4）

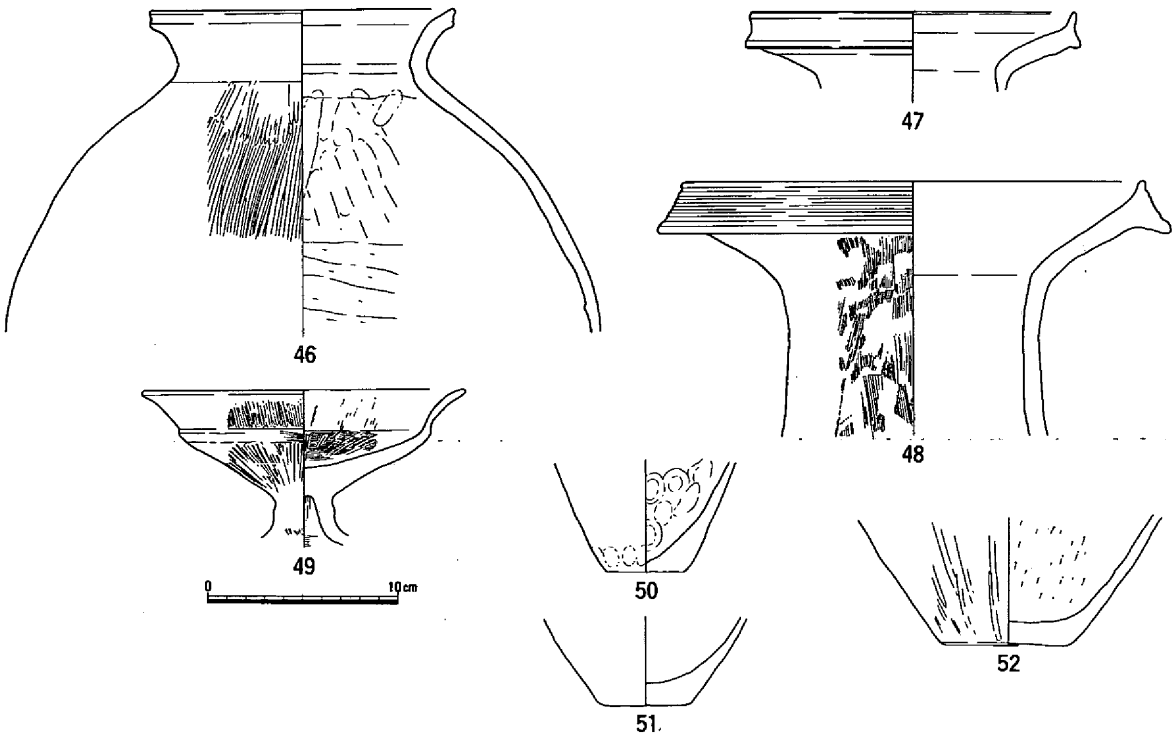
溝15（第30・34図）

この溝は溝16・17溝と伴に、検出したもので、平安期の大溝によって不明な点が多いが、おそらく西側に存在する微高地と、東側に展開する水田部の境に位置する水路と推定されるものである。幅は80cm前後を測り、北東～南北方向に位置する点は前記した河道との関連を検討すべきかも知れない。時期は出土土器から弥生時代後期中葉と推定される。（椿）



溝16（第30・34・35図）

溝15と同様の規模、方向を持つもので、切り合い関係からこれに先行することが明らかとなっている。堆積土層は溝15より粘性のない、やや明るい色調であることから、人為的に埋められた可能性を考えている。出土土器はやや多く、頸部の短い壺46、頸部の長い壺47・48、そして縦方向にヘラミガキされた短脚の高杯49などが見られる。時期はこれら土器の特徴から、溝15と大差ない弥生時代後期中葉と推定される。（椿）

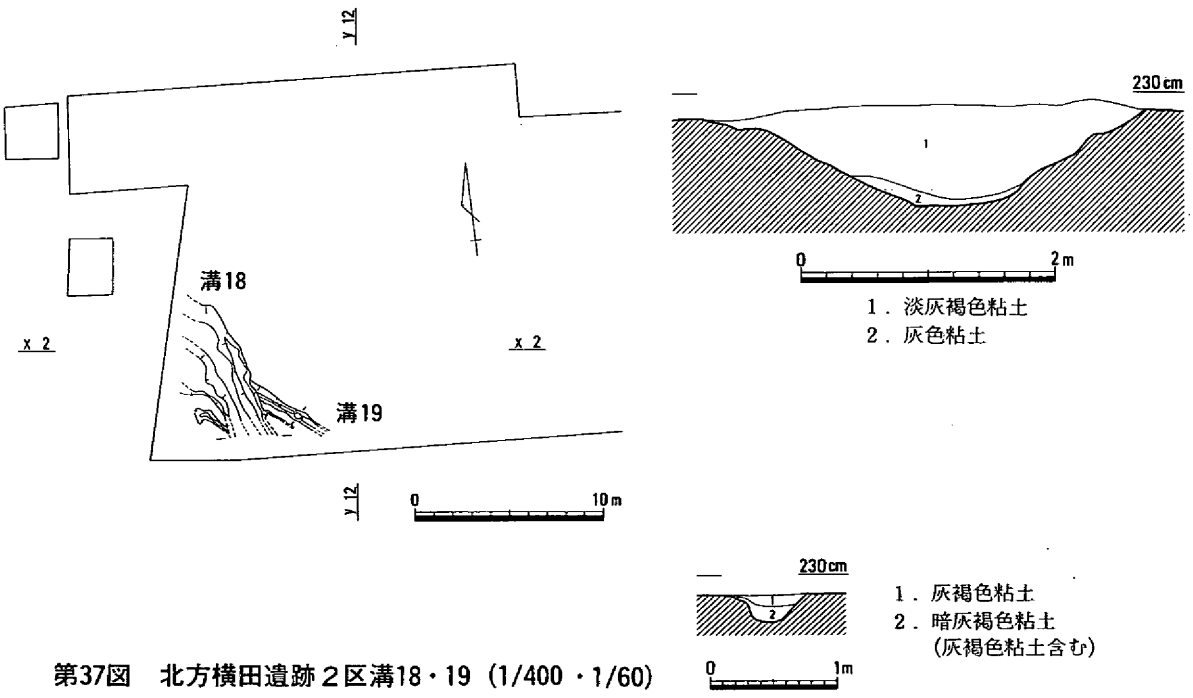


第35図　溝16出土遺物（1/4）

溝17（第30・34・36図）

この溝も他と同様の規模、方向を持つもので、切り合い関係からこれらに先行する時期のものであることが判明している。堆積土もさらに色調の明るいもので、やはり人為的に埋められたものと考えている。図化できた出土土器はわずかであるが、高杯の特徴は溝16のものよりやや古相を呈しており、後期中葉でも古い段階のものと考えられる。　（椿）

第36図　溝17出土遺物（1/4）



第37図　北方横田遺跡２区溝18・19（1/400・1/60）

溝18（第37図）

ｘ２～３・ｙ12で検出された。南北に流路をもつが、北端で西に曲がる様相を呈している。検出面での溝幅は1.9～3.3m、深さは50～80cmを測り、北に向けて深くなっている。埋土は２層に区分される。出土遺物は無いが、土層断面からみて、弥生時代後期頃の溝と考えられる。（松本）

溝19（第37図）

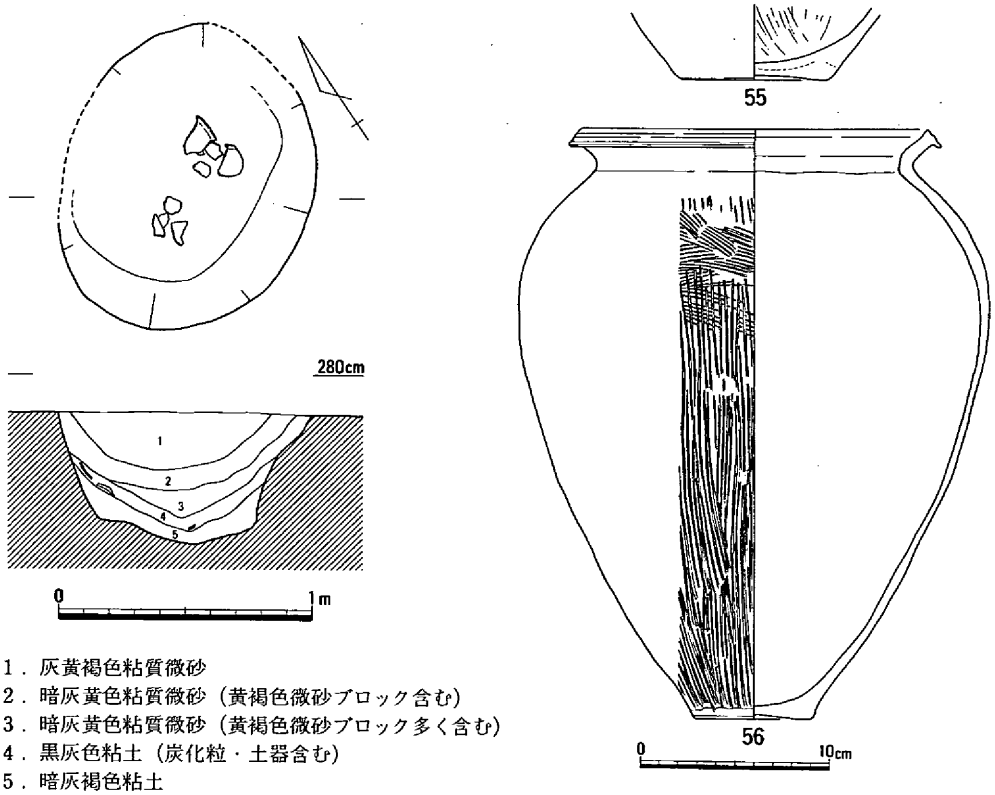
溝18に切られる状態で検出された遺構である。検出面での溝幅は50～75cm、深さは16～25cmを測る。溝の流走方向は不明であった。断面はＵ字状を呈する。埋土は灰褐色系の粘質土が２層堆積していた。出土遺物は無いが、溝19と同様に弥生時代後期のものと思われる。（松本）

(4) 土　　壙

土壙１（第29・38図）

北方横田遺跡１区で検出されたもので、弥生時代としては唯一の土壙である。この土壙は中期の水田層を切り込んで作られたもので、古墳時代以降の水田層によって上部を削平されているように観察された。検出面での規模は径100～124cm、深さ52cmを測り、平面は長楕円形を呈している。堆積土は２・３層が微砂ブロックを含むことから、人為的に埋められた可能性も考慮しておきたい。また４層からは炭化物と伴に土器２点が出土しており、１点は完形に近い状態に復元可能なものである。時期はこの土器（56）の特徴から弥生時代後期前葉と考えられる。

土壙の性格についてはその形態から小規模な井戸と推定しているが、このことは土壙の掘り込まれた場所が水田中とは言え、下層に前期末に埋没した溝５が存在することも根拠となろう。仮に井戸であった場合、この地点を選択した事実は興味深い点である。（椿）



1．灰黄褐色粘質微砂
2．暗灰黄色粘質微砂（黄褐色微砂ブロック含む）
3．暗灰黄色粘質微砂（黄褐色微砂ブロック多く含む）
4．黒灰色粘土（炭化粒・土器含む）
5．暗灰褐色粘土

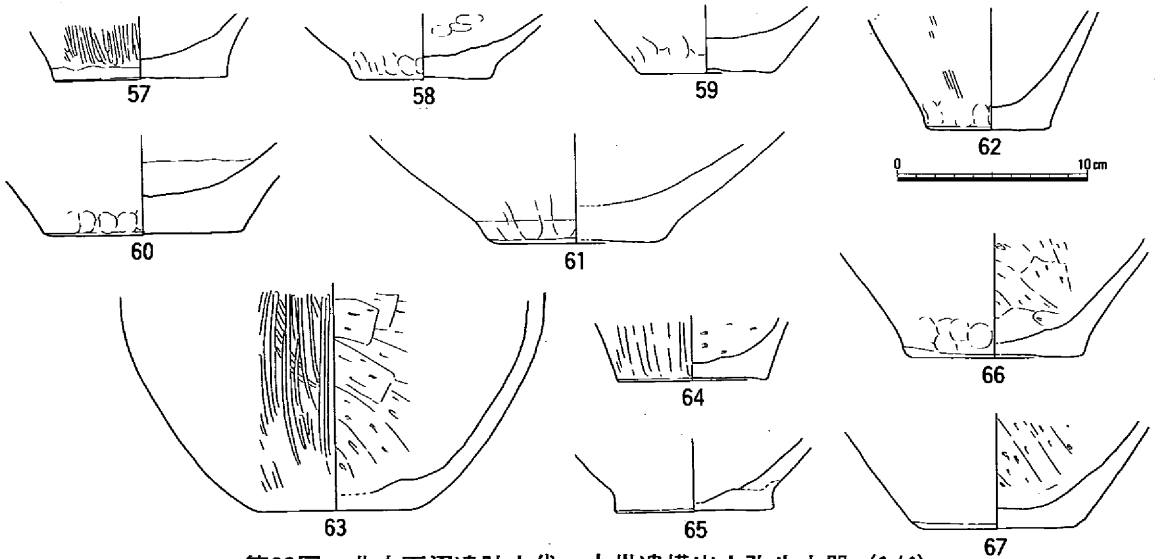
第38図　土壙１・出土遺物（1/30・1/4）

(5)　その他の遺構・遺物

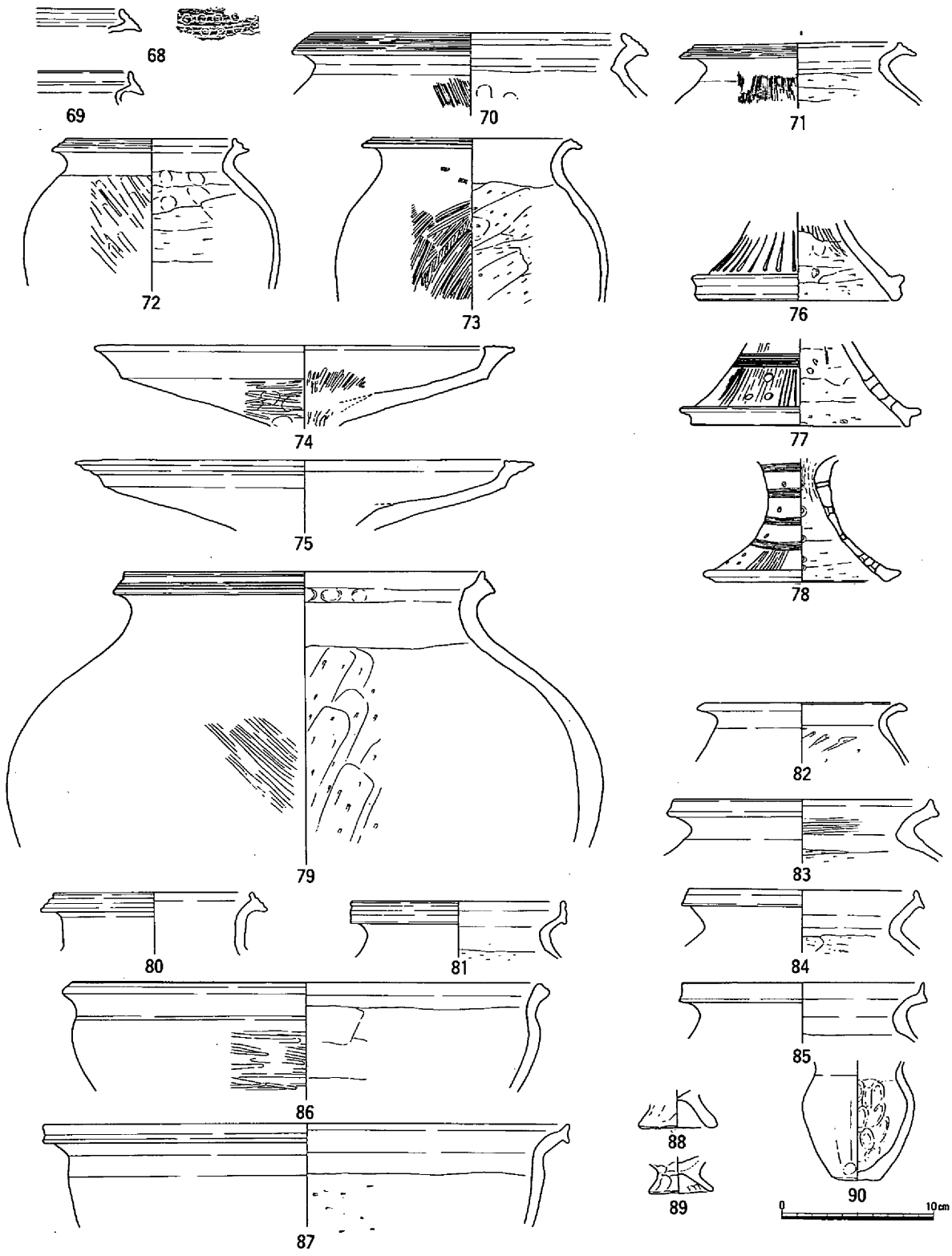
これまでに紹介した水田や、これに関連する溝からはわずかな遺物が出土したにすぎず、この点は水田遺跡の調査にとっての宿命とも言えるだろう。しかし、平安時代以降に掘削された溝を中心に以下に述べる各種の遺物が少なからず存在している事実は、この遺跡の周辺部に居住区となる微高地が存在していることを暗示させるものであり、注意しておきたい点である。ここで紹介する土器は大半が弥生時代後期のものであり、中期に遡るものは68～70などわずかである。後期の土器も中葉に下るものも見られるが、大半は前葉のものであり、全体として中期末葉から後期中葉にかけて継続性のあるものと考えられる。

中期末葉の土器68・69は北方下沼遺跡で検出された微高地上のピット内から出土したもので、この時期の建物の存在を示していることになる資料である。また、後期中葉の土器は溝15～17との関連を考慮すべきかもしれないが、微高地の広がりが調査区北側に及んでいることから、前葉の資料と合わせてこの時期の集落場所をここに想定しておきたい。底部については弥生時代前期に遡るものを含む可能性もあるが、大半はやはり後期の特徴を持っているものが多く、中期末葉の特徴を持つものも見受けられる。

石器については大半が中期以前のものと考えられ、前期にまで遡る可能性のあるものも含めて図示している。Ｓ４～７は石鏃で、いずれも前期の水田層中から出土したもので、石材はサヌカイトである。Ｓ８はスクレーパー片と考えられるが、欠損後の調整も見られる。Ｓ９～14はいずれもサヌカイト製で、S12は中期の水田層中から、他は平安期の溝から出土したものである。Ｓ９～12はスクレーパーで、いわゆる石包丁的なものである。S13は剝片端部を刃部として使用した痕跡を持つもので、S14は石錐の可能性がある。S15は試掘時の排土中から出土した粘板岩製の石器片、S16は平安期の溝から出土した磨製扁平片刃石斧で、石材は花崗斑岩である。S17は竪穴住居４の堆積土中から出土した太型蛤刃石斧で、基部に著しい敲打痕が認められる。S18～23も平安期の溝から出土したものである。S18は花崗岩、S19は閃緑岩製の石錘と推定されるものである。重量はそれぞれ269ｇ、268ｇ

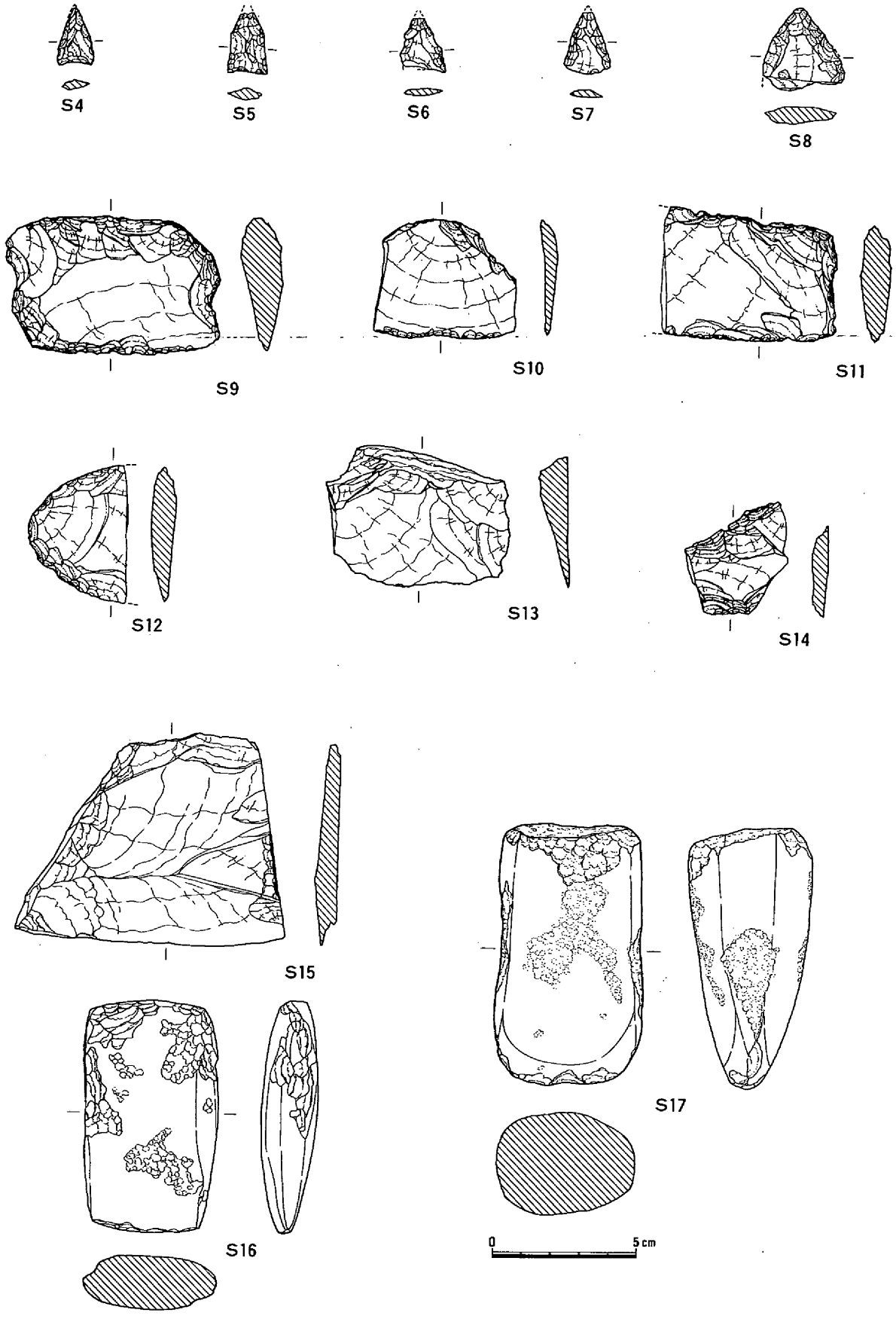


第39図　北方下沼遺跡古代～中世遺構出土弥生土器（1/4）

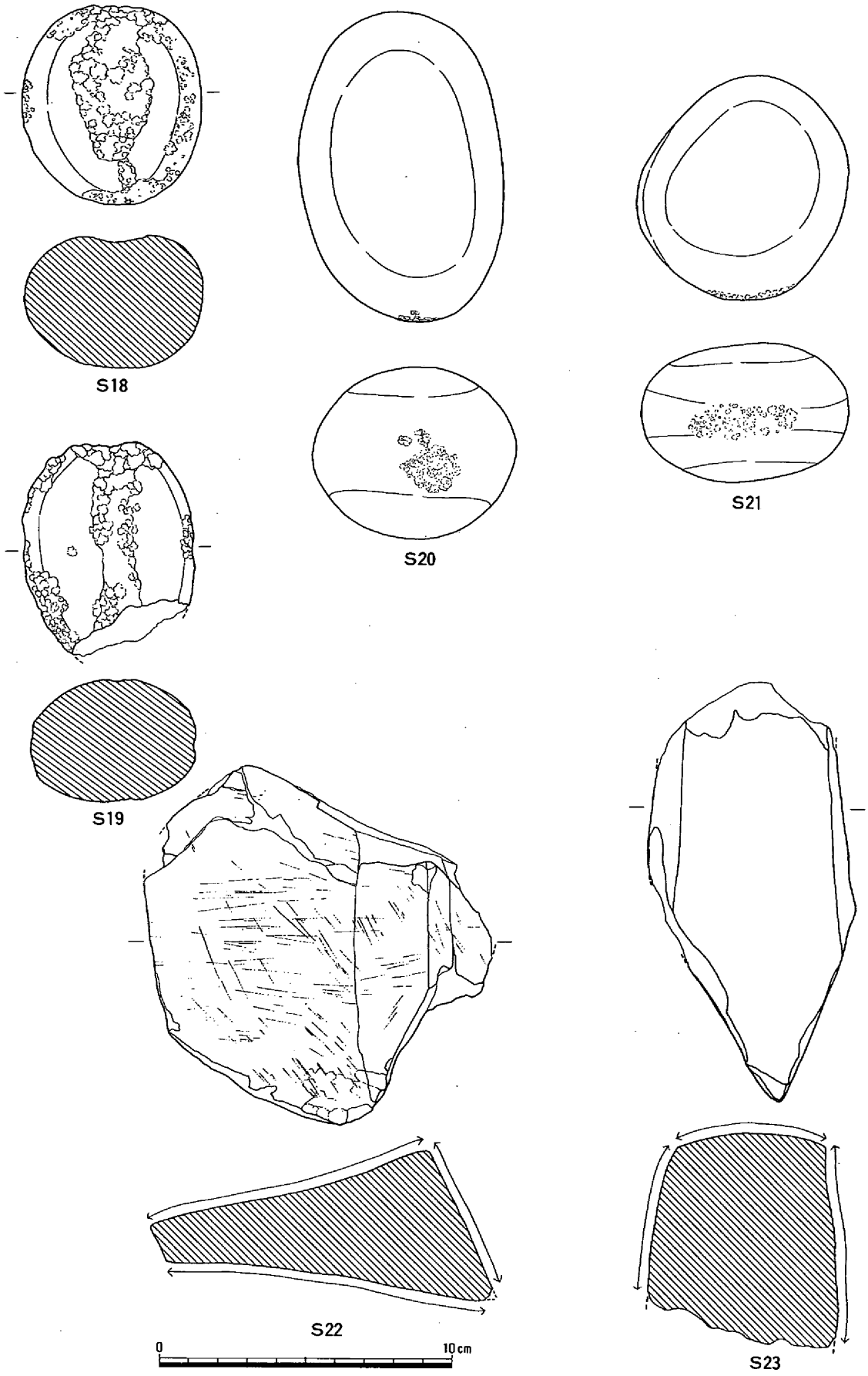


第40図　北方横田遺跡包含層・中世遺構ほか出土弥生土器（1/4）

を測る。S20・21は花崗斑岩製の敲石で、片側に微かな敲打痕が見られる。S22・23はいずれも流紋岩製の砥石で、各面ともよく使用されている。これら石器のうち水田耕作に関係すると推定され、時期の明らかなものはS12のみであり、土器以上に水田調査の実体を反映しているものと言える。（椿）



第41図　北方横田遺跡包含層ほか出土石器（1）（1/2）



第42図　北方横田遺跡包含層ほか出土石器（2）（1/2）

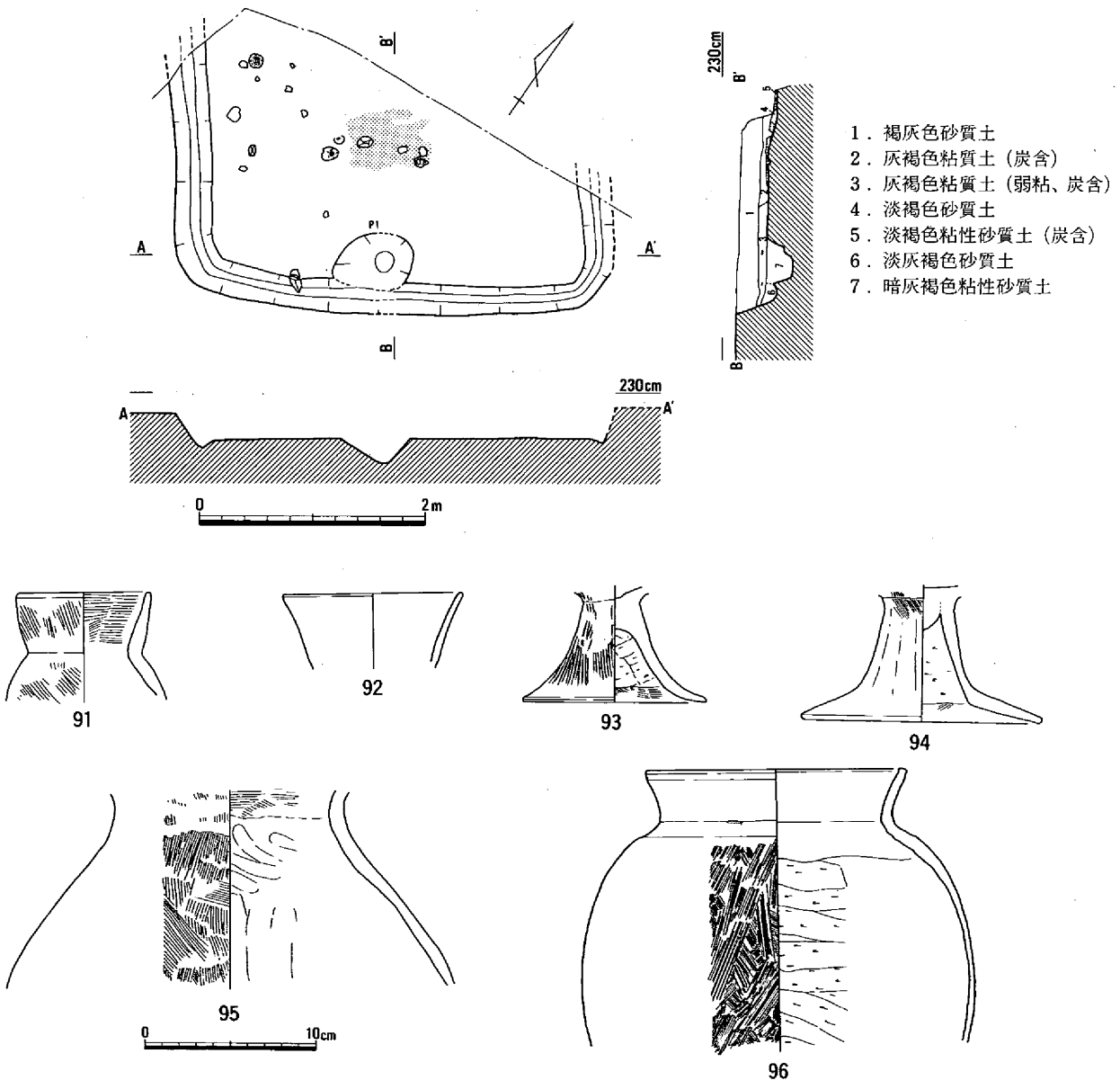
４．古墳時代の遺構・遺物

(1) 竪穴住居

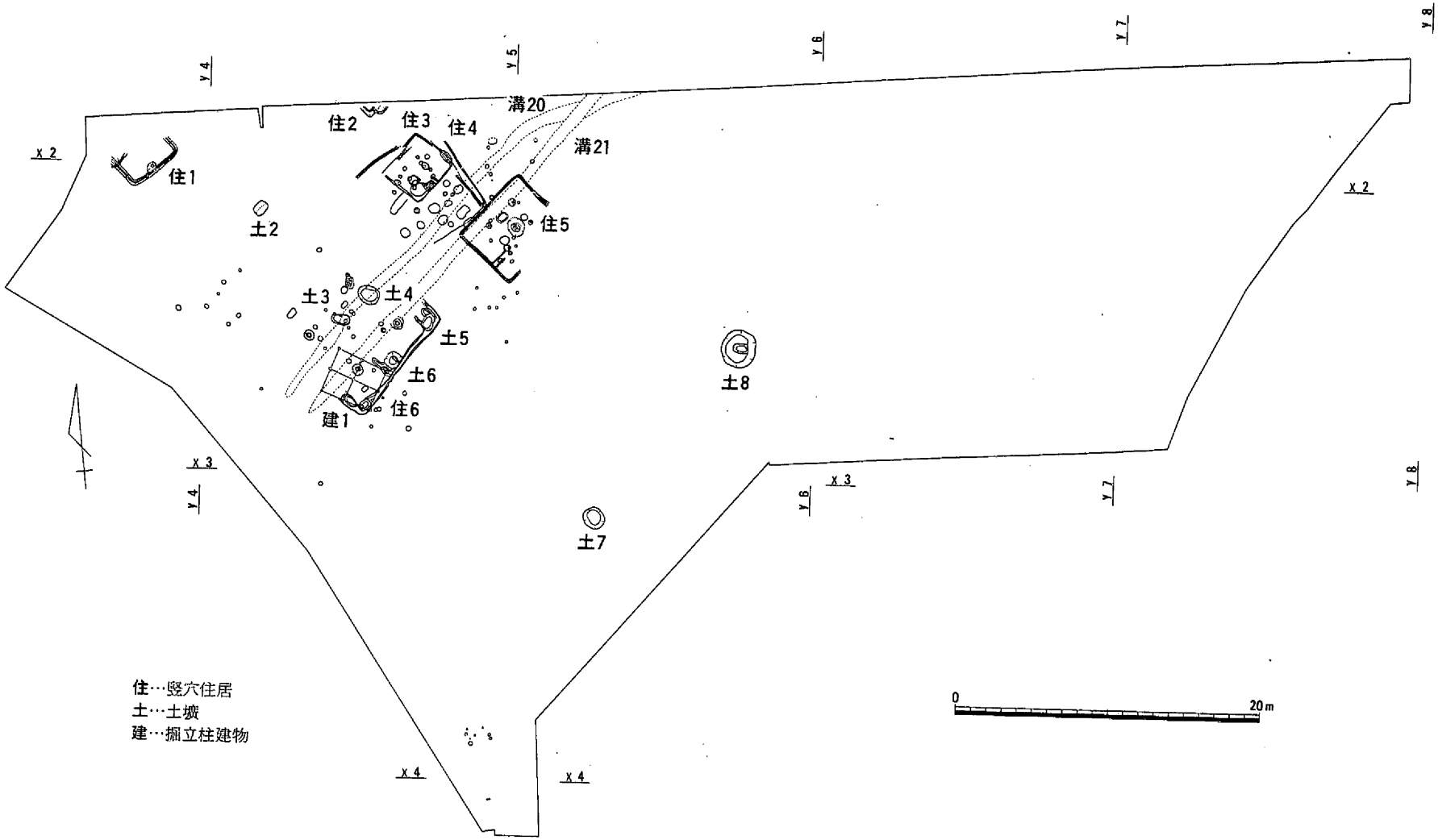
竪穴住居１（第43・44図）

ｘ２・３・ｙ４で検出された竪穴住居である。住居の北側約半分は調査区外となる。規模は１辺が約3.8m程の方形を呈するプランである。遺構の検出レベルは海抜2.15mで、壁高は床面から25cmを測り、床面には幅７～10cm、深さ４～６cmの壁体溝がみられる。床面中央からやや南の位置で50×90cmの炭層範囲が認められたことから、床面中央に炉があったと考えられる。また、住居の南辺中央部に径50×60cm、深さ約20cmを測るポケットが認められた。柱穴は検出されていない。

遺物は覆土、床面直上から土器（91～96）が出土している。これらの遺物からみて古墳時代前期後半の遺構と考えられる。（松本）



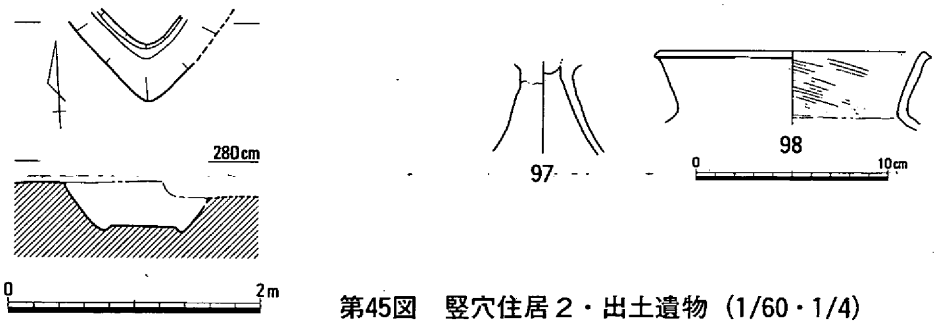
第43図　竪穴住居１・出土遺物（1/60・1/4）



第44図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区古墳時代遺構配置図（1/400）

竪穴住居２（第44・45図）

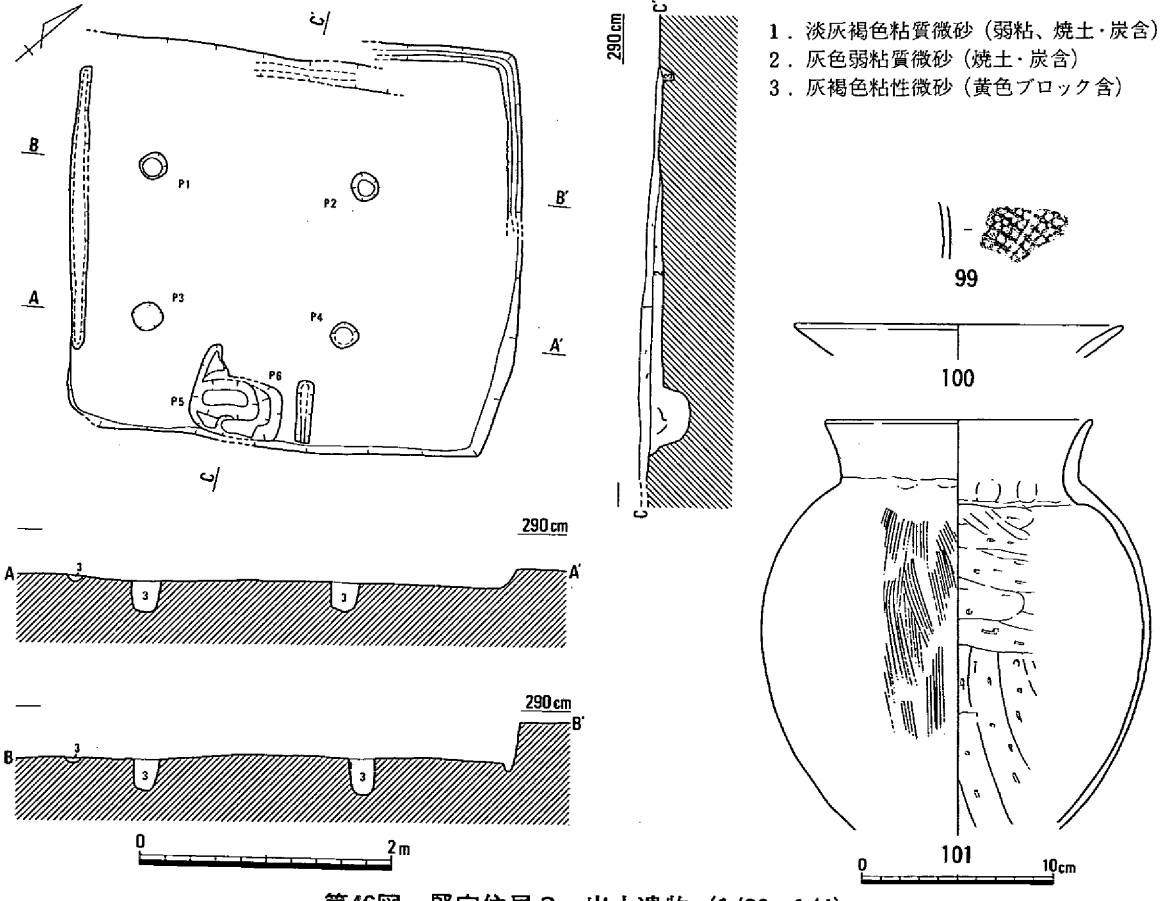
北方下沼遺跡の調査区の北端中央部に位置する。検出できたのは約1.3×0.6mの小規模な三角形ではあるが、壁面の立ち上がりの状態や壁面に沿って浅い溝が掘られていること、および底面がほぼ水平であることから、竪穴住居であると考えられる。埋土は炭を含む褐灰色砂質土が一層のみであった。遺物は土器片が少量出土しており、時期は古墳時代中期と考えられる。（平井）



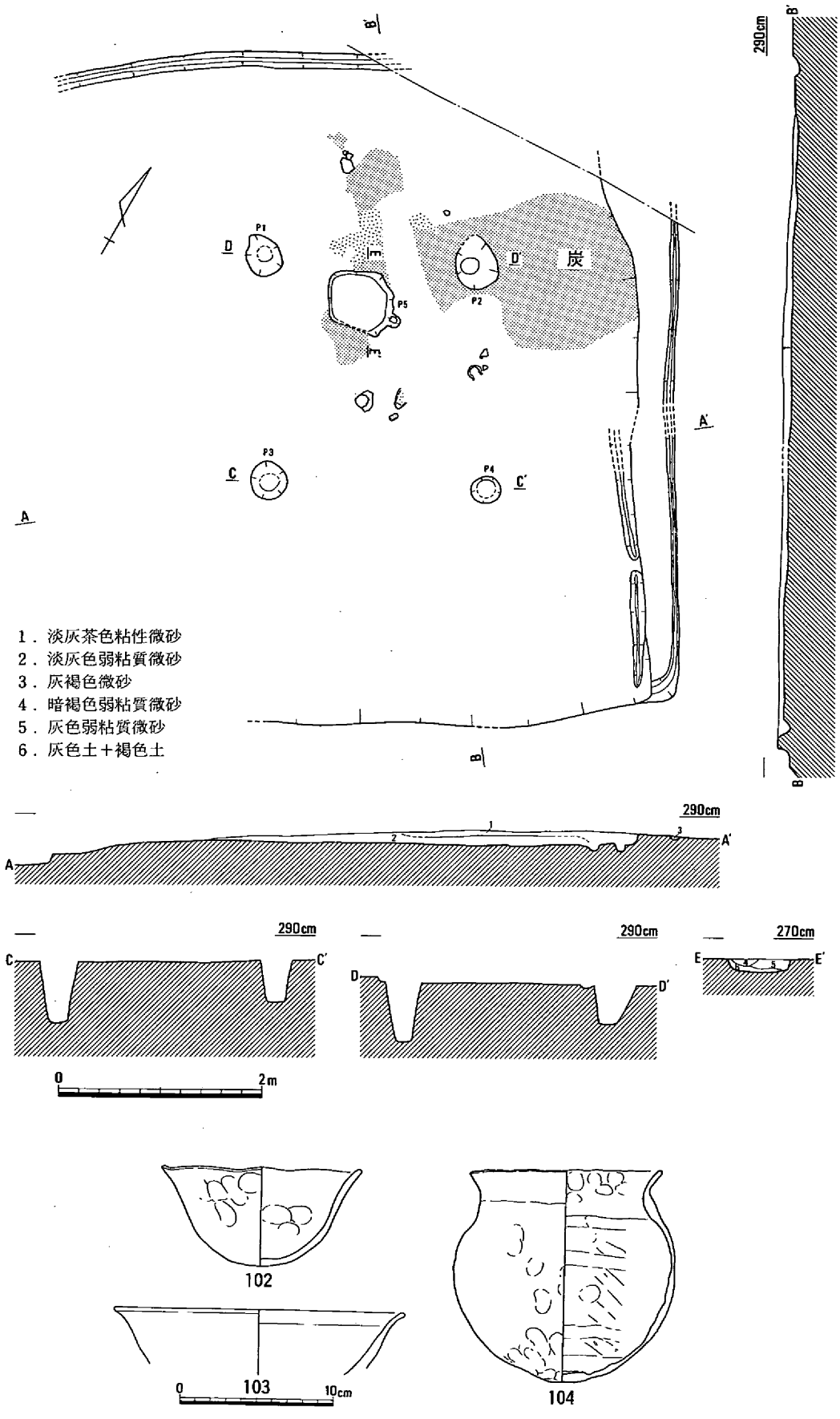
第45図　竪穴住居２・出土遺物（1/60・1/4）

竪穴住居３（第44・46図）

竪穴住居４に重複して検出されたもので、切り合い関係からこれに先行する時期のものであることが分かっている。平面は方形で、４本柱を構成する柱穴は南西側にやや偏った位置に配置する。壁際には方形土壙とこれに隣接した溝が存在しているが、これらも柱穴に対応してやや偏った位置に配置している。時期は方形土壙から出土した土師器甕101から、古墳時代中期前半頃と考えられる。この他朝鮮系軟質土器と考えられる小片99も出土している。（椿）



第46図　竪穴住居３・出土遺物（1/60・1/4）



第47図　竪穴住居４・出土遺物（1/60・1/4）

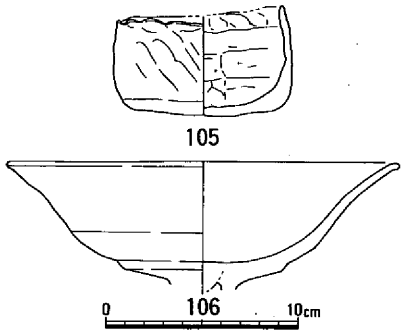
竪穴住居４（第44・47図）

竪穴住居３に後出するもので、１回の建て替え痕跡が認められる。平面形は方形を呈し、柱穴配置から４本柱、中央やや北寄りに方形土壙を伴っている。この方形土壙の周辺部には焼土と炭化物の広がりが検出されており、特徴的である。堆積土中より土師器の杯、高杯、小型の甕などが出土しており、古墳時代中期前半頃の時期に廃絶されたものと推定される。（椿）

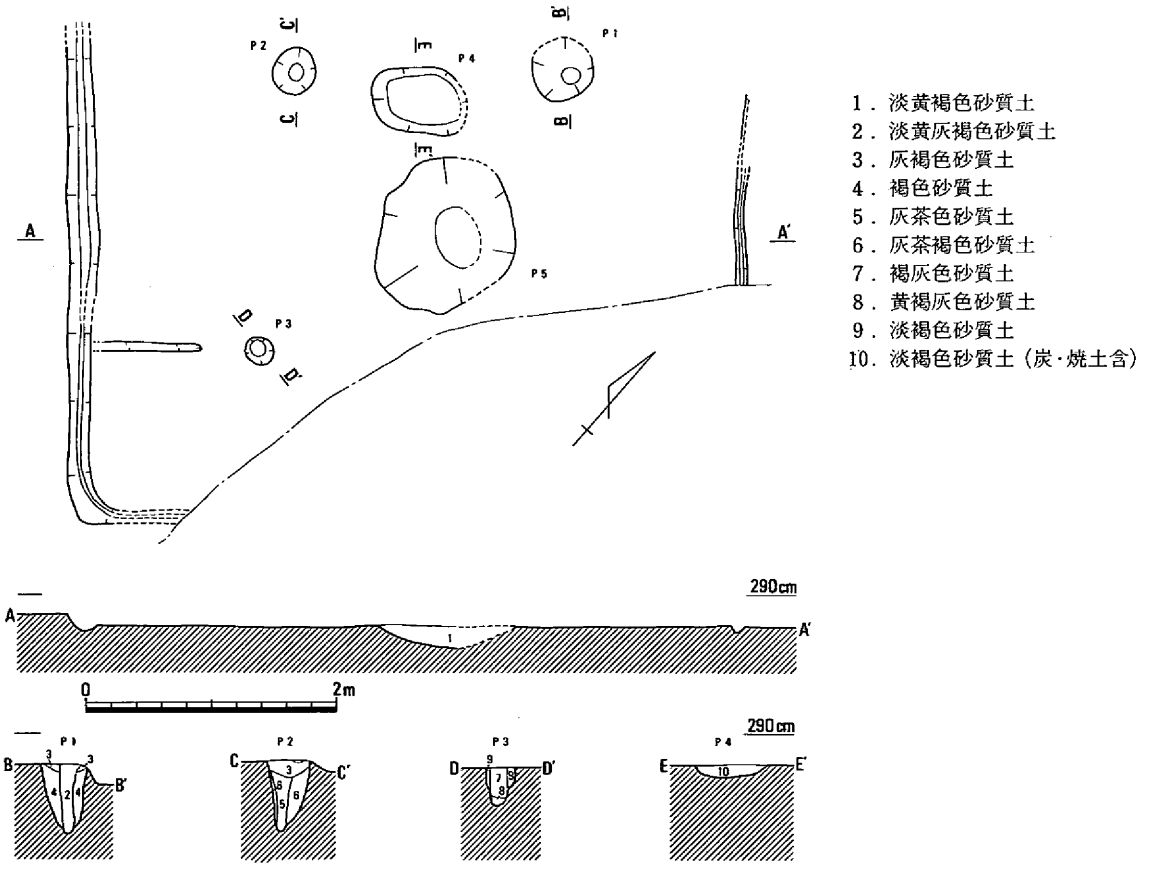
竪穴住居５（第44・48・49図）

他と同様の４本柱、方形の平面形を持つもので、ほぼ同位置で１回の建て替えを行なっていることから、以下では新・古に分けて記述する。

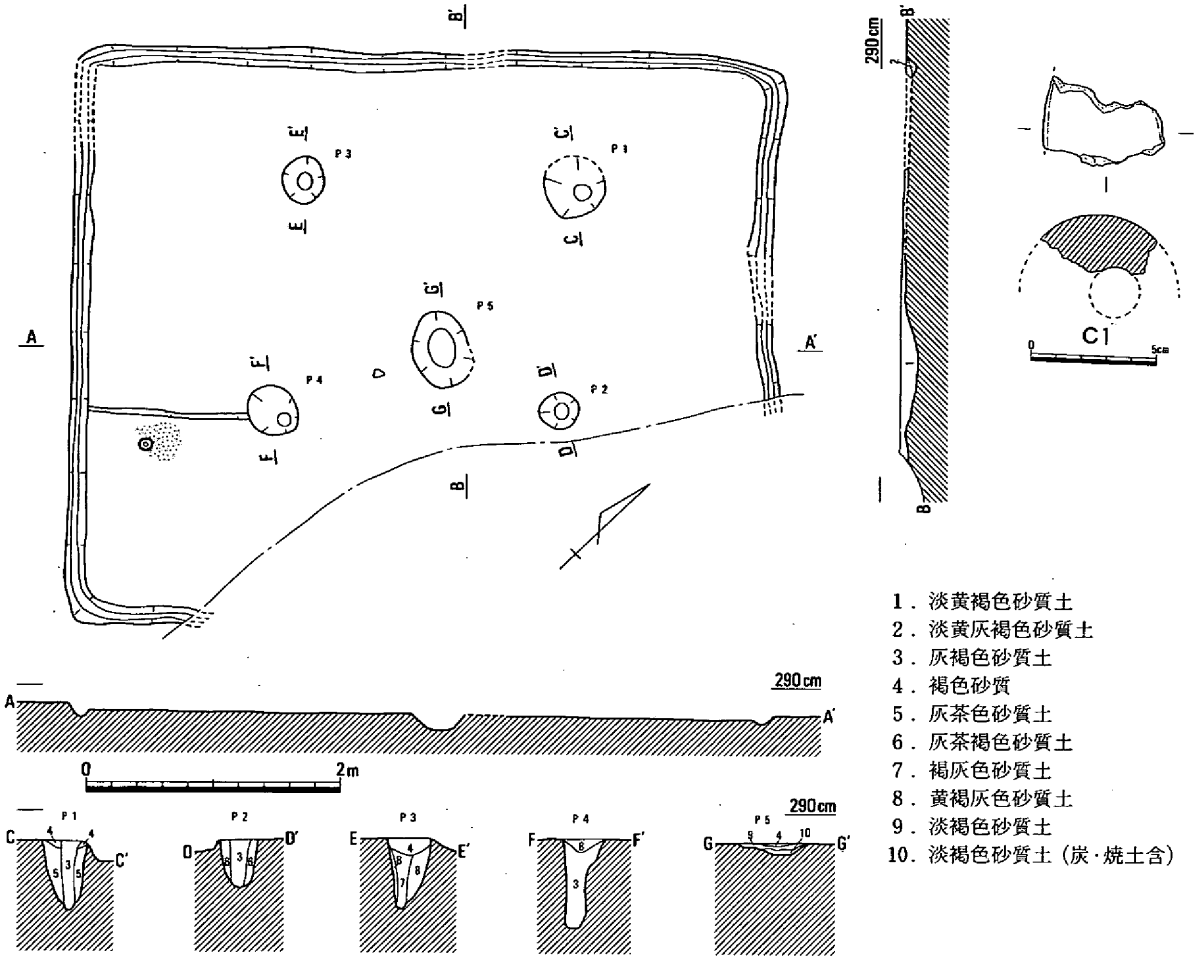
古（第48図）は新（第49図）の床面検出作業によってその存在を把握したもので、ほぼ同規模の竪穴住居である。壁溝から柱穴Ｐ３に向かって細い溝が走っており、間仕切り溝と推定される。床面中央部には、浅い皿状の土壙（Ｐ５）と、これに付設するような配置で小型方形土壙（Ｐ４）が存在する。後者の堆積土中には炭化物・焼土が含まれており、火気を使用する機能（鍛冶関連を含む）が伴っていたと考えられる。柱穴の土層観察から径15㎝前後の柱材痕跡を確認しており、先端はやや先細り状となっている。



新は壁溝の状況から5.55×4.6ｍの方形竪穴住居であることが明確で、４本柱の配置はやや北西側に偏っている。間仕切り



第48図　竪穴住居５・出土遺物（古；1/60・1/4）



第49図　竪穴住居５・出土遺物（新；1/60・1/3）

溝の存在や、南東側の柱穴２本が浅く掘り込まれている点は古と共通するが、床面中央の土壙は小型なもの（Ｐ５）だけである。この小土壙は古の床面小土壙と同様に堆積土中に炭化物・焼土が含まれており、これと同様の機能を有していたことはほぼ間違いないであろう。

これらの時期は出土土器から古墳時代中期前半と考えられ、堆積土中とは言え、床面に近い位置から出土したフイゴの羽口片Ｃ１は、この建物の性格を示している可能性が強いと言える。　（椿）

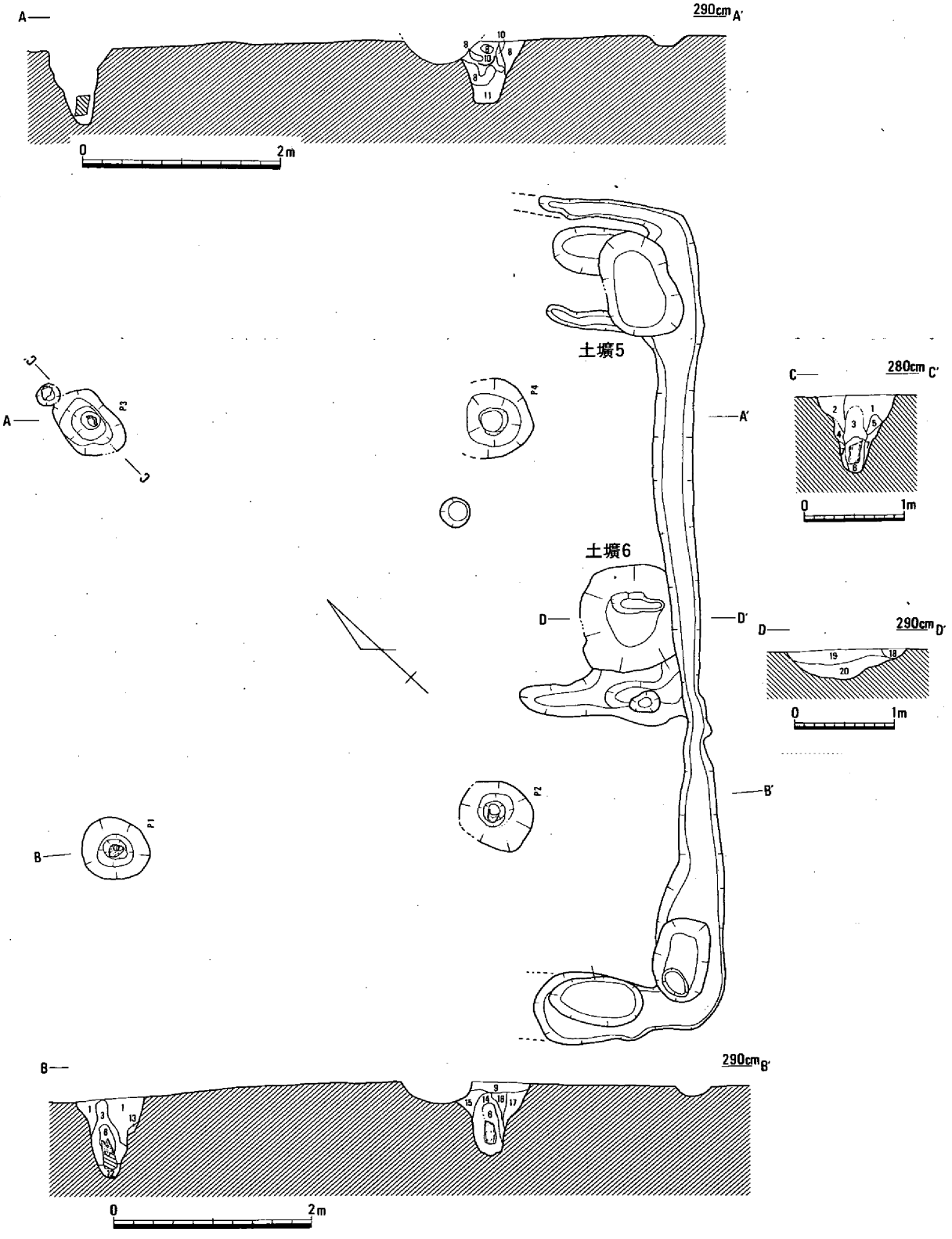
竪穴住居６（第44・50図）

この住居は４本の柱穴と壁溝の一部などが残存していたものであり、床面の大半は消失していた。復元される規模は約8.5×8.0ｍと、調査区内では最大を測り、主軸も他と同方向をとっている。柱穴内には柱根が残っており、径は15㎝前後で、小型住居とほぼ同規模である。壁溝には短い間仕切り風の溝が取り付くほか、浅い土壙が認められる部分もあり、壁際土壙の可能性のあるもの（土壙６）も存在する。時期は、他と同様の古墳時代中期前半であろう。　（椿）

(2)　掘立柱建物

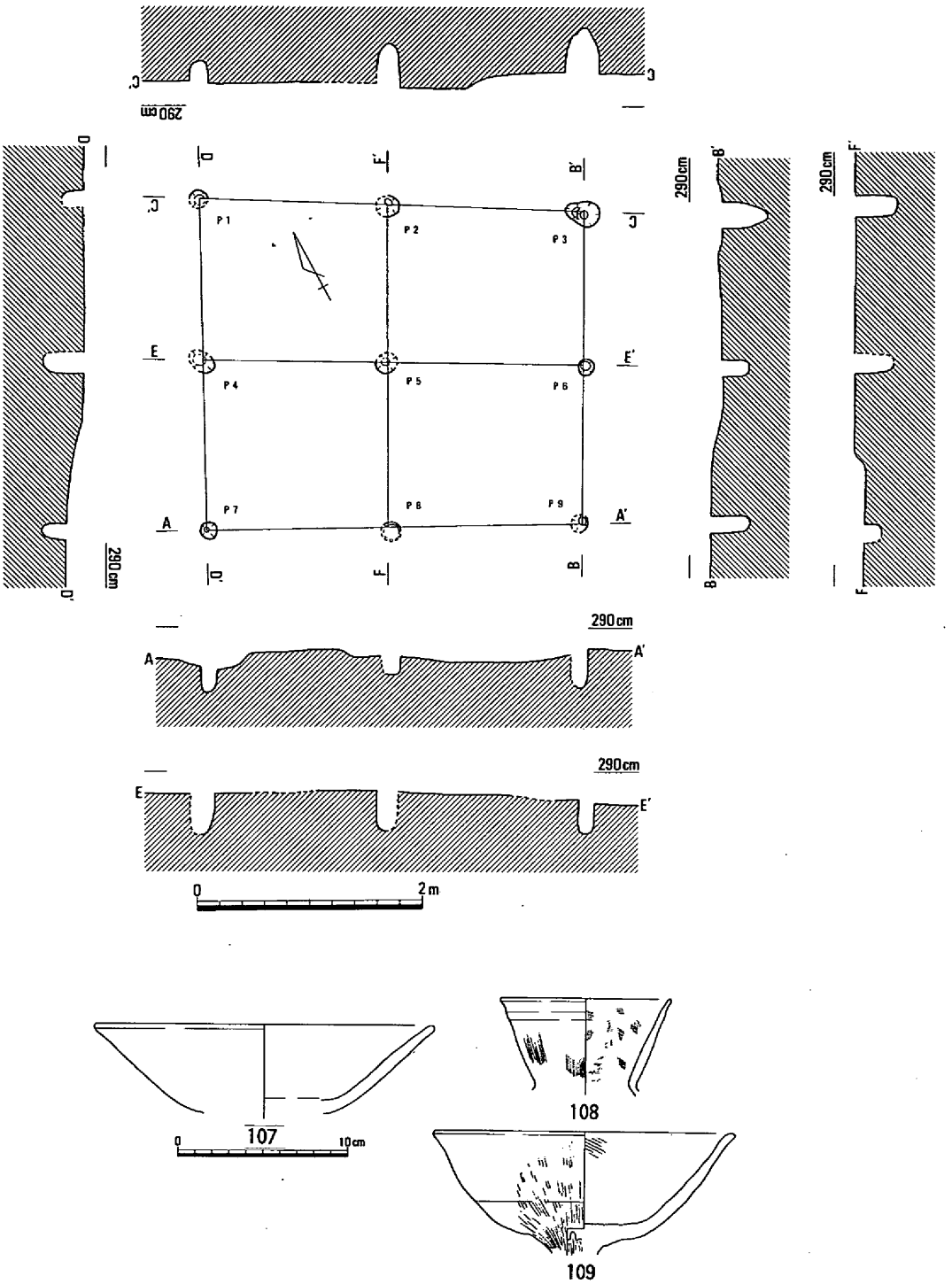
掘立柱建物１（第44・51図）

ｘ４・ｙ５の位置で検出された掘立柱建物である。遺構の前後関係としては竪穴住居６を切り、溝21に切られている状態であった。建物規模は２×２間の総柱の掘立柱建物で、棟方向は決めがたい



1．灰褐色粘質微砂（炭・焼土含）
2．黄灰色粘質微砂（炭・焼土含）
3．淡黄灰色粘質微砂
4．灰色砂
5．黄灰色粘質微砂
6．灰白色粘土
7．灰色粘土
8．暗灰褐色粘性微砂（炭・焼土含）
9．黒灰色粘質微砂（炭・焼土含）
10．灰黄色粘性微砂（炭・焼土含）
11．橙褐色粘質微砂
12．灰緑色粘質微砂
13．明淡褐色粘質微砂
14．灰茶褐色粘質微砂
15．灰茶褐色粘質微砂（弱粘）
16．灰黄褐色粘質微砂
17．灰黄茶色粘質微砂
18．灰黄褐色粘質微砂
19．灰茶褐色粘質微砂
20．褐灰色粘性砂質土

第50図　竪穴住居６、土壙５・６（1/60）



第51図　掘立柱建物１・出土遺物（1/60・1/4）

が、およそ東西方向を示していると考えられる。東西長は3.3m、南北長は東が2.5m、西が３mである。上部がかなり削平をうけているが、柱穴の掘り方は円形を呈し、大きさは最小で約15cm、最大で30cmを測るが、15～20cmのものが多い。深さは遺構検出面から最も浅いもので約15cm、最も深いもので約40cmを測るが、20～35cmのものが多い。柱痕跡はＰ３で約10cm前後を測る。

遺物は柱穴内から出土している。Ｐ１から107、Ｐ２から108・109が出土した。107・109は高杯、108は壺である。107・109は古墳時代前期前半、108は古墳時代前期後半～中期の遺物と考えられる。

時期は柱穴内の遺物からみて、古墳時代前期後半から中期の遺構と考えられる。　（松本）

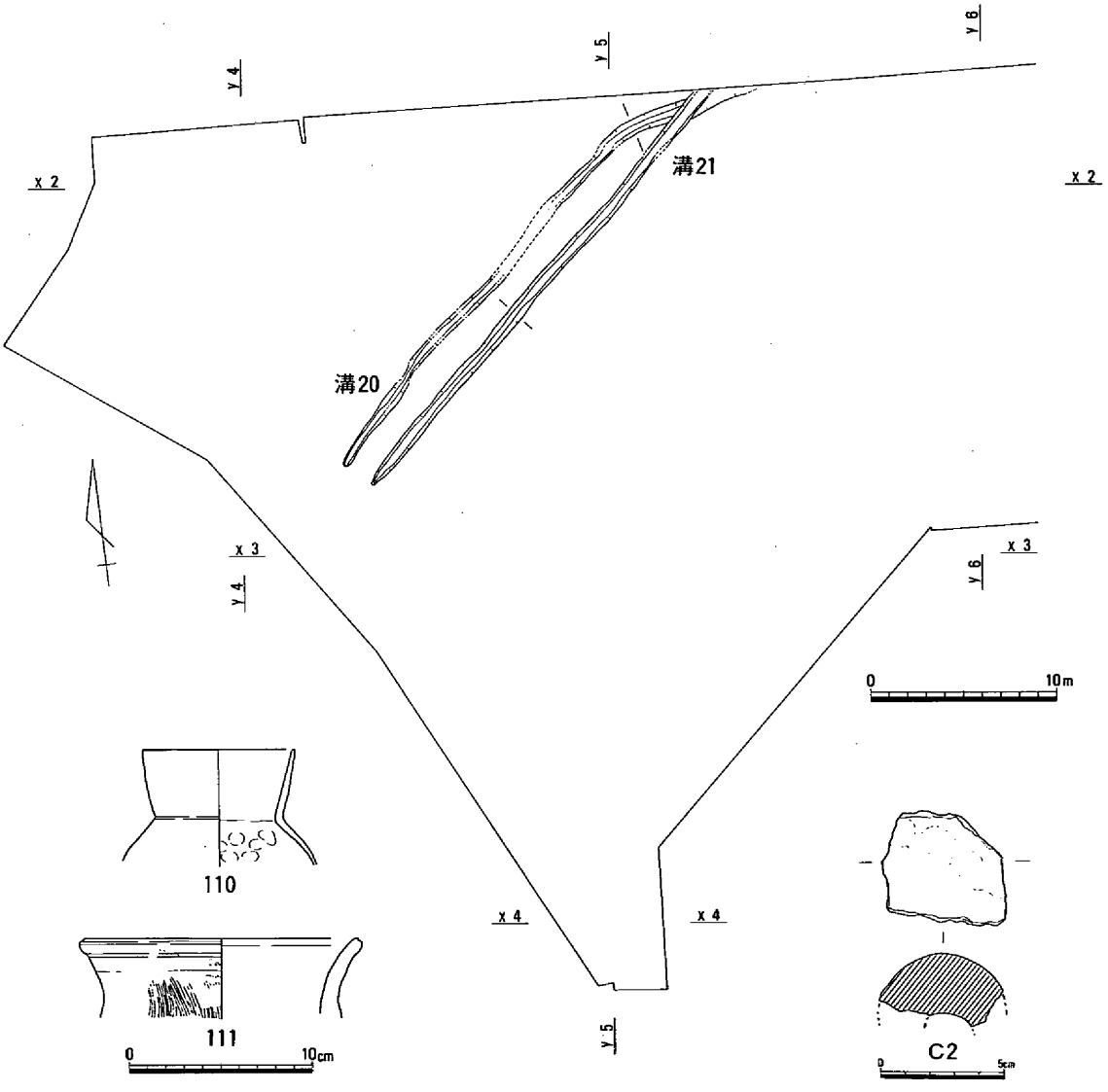
(3)　溝

溝20（第52図）

北方下沼遺跡のほぼ中央部において、微高地の緩斜面に沿う形で検出された溝で、北東端では溝21に切られている。上部はかなり削平されているが、溝幅は40～60cm、深さ５～17cmを測り、流路は北東から南西方向となっている。断面は皿状を呈する。埋土は灰褐色の微砂である。遺物は溝内から坩110、壺111、フイゴの羽口Ｃ２などが出土している。溝21に切られてはいるが、時期差のあまりない遺構と考えられる。（松本）

溝21（第52図）

溝20を切る状態で検出された溝で、微高地の緩斜面に沿って流路は北東から南西に向けて走行する。上部はかなり削平を受けているが、溝幅は50～80cm、深さ15～25cmを測る。断面は皿状を呈し、底面は平坦である。埋土は場所によって異なるが、２～４層に区分され、灰茶色系の微砂で埋まっていた。出土遺物は認められないが、時期は古墳時代中期～後期と思われる。（松本）

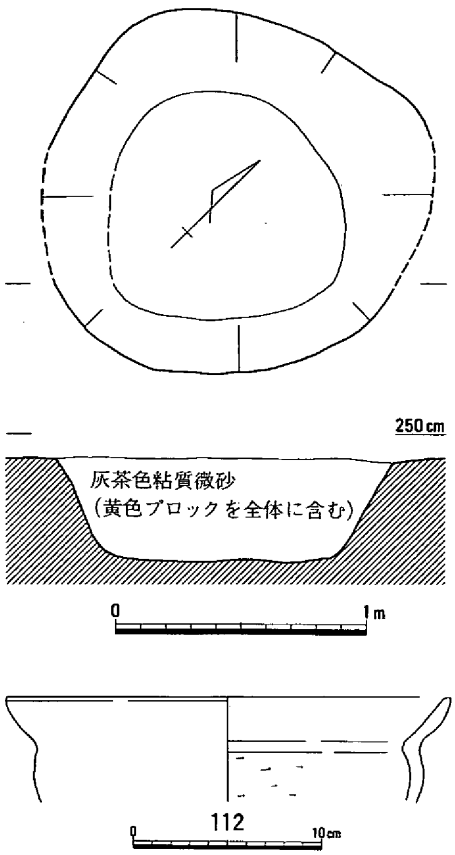


第52図　溝20・21・出土遺物（1/400・1/4・1/3）

(4) 土　　壙

土壙２（第44・53図）

ｘ３・ｙ５の北西端近くで、竪穴住居１の南東７ｍにある。平面形は不整な楕円形で、規模は142×154cmを測る。検出面からの深さは42cmである。断面形は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は灰茶色の粘質微砂で埋まっていた。遺物は鉢112が出土しているが、古墳時代前半期の遺構と考えられる。　（松本）



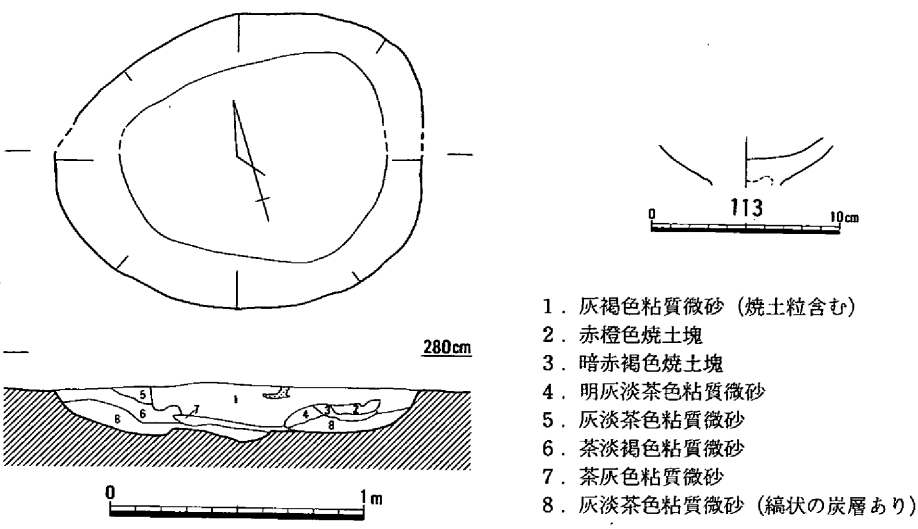
第53図　土壙２・出土遺物（1/30・1/4）

土壙３（第44・54図）

ｘ３・ｙ５の中央部で検出された遺構で、竪穴住居６と溝20が重複する位置である。平面形は不整な楕円形を呈し、規模は115×146cmを測る。検出面からの深さは22cmである。断面形は皿状を呈し、底面には若干の凹凸がある。埋土は８層に区分されるが、上層には焼土塊、底面付近には炭層が縞状に堆積していた。遺物は高杯113が出土している。本遺構が古墳時代中期～後期の溝20を切っていることから、それ以後のものであるが、あまり時期差はないものと思われる。　（松本）

土壙４（第44・55図）

土壙３の北東２ｍに位置する。平面形は不整な楕円形で、規模は66×128cmを測る。検出面からの深さは46cmである。断面は逆台形状を呈し、底面は若干の凹凸がある。埋土は６層に区分され、最下層は灰色粘土であるが、他は灰褐色、茶褐色系の粘質微砂がレンズ状に埋まっていた。遺物の出土はないが、土



第54図　土壙３・出土遺物（1/30・1/4）

壙３と同時期と考えられる。（松本）

土壙５（第44・55図）

竪穴住居６の東端コーナーを切る状態で検出された遺構である。平面形は不整な楕円形で、規模は65×108cmを測る。検出面からの深さは32cmである。断面はU字状を呈する。埋土は２層に区分されるが、下層内には炭、焼土塊が多量に含まれていた。遺物は高杯114があるが、時期は土壙３・４と同時期と考えられる。（松本）

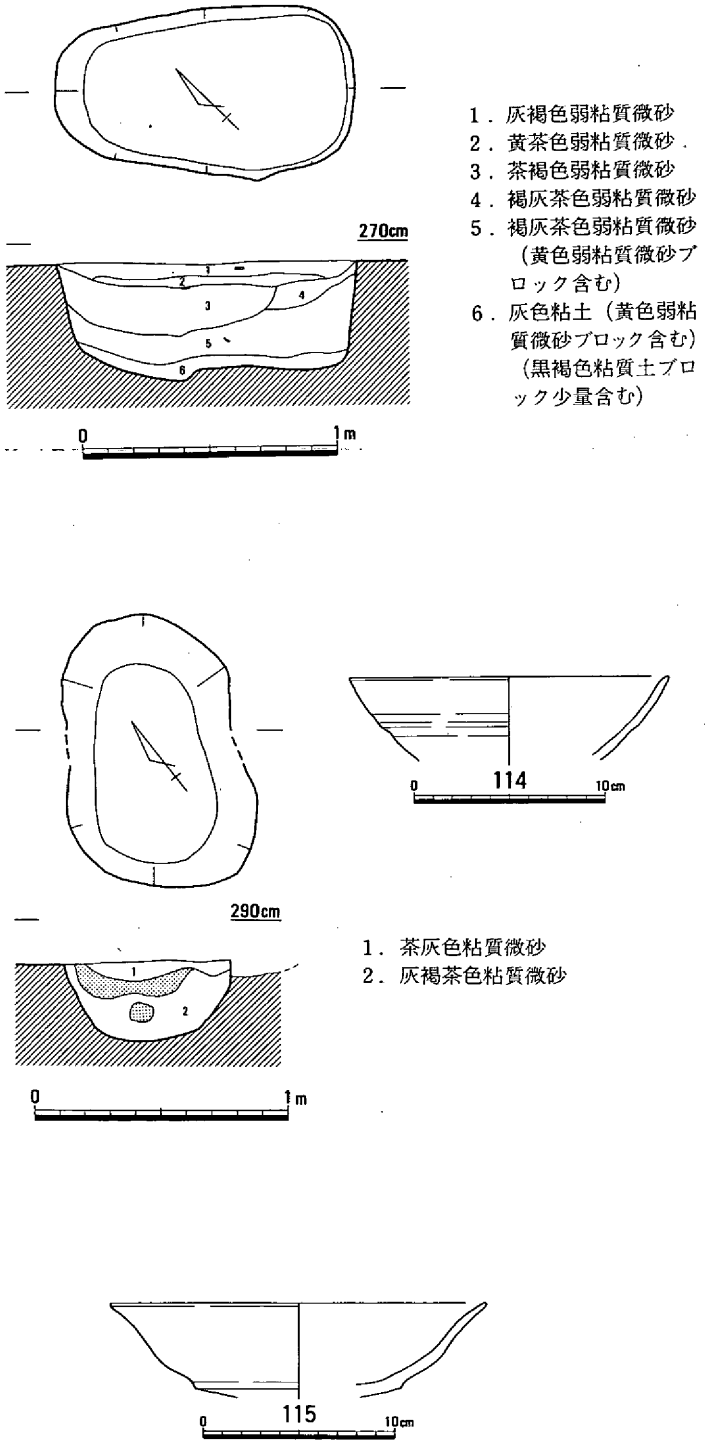
土壙６（第44・50・55図）

竪穴住居６に付設する可能性のあるもので、検出面では隅丸方形を呈するものである。最下層には粘性土が堆積しており、このことも住居に伴う可能性を高めている。時期は、出土した土師器の高杯の特徴から古墳時代中期前半と推定され、壁際土壙とすれば住居の時期を示していることになる。（椿）

土壙７（第44・56図）

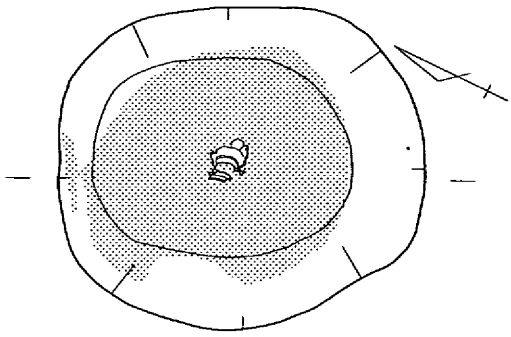
やや長楕円を呈する土壙で、規模は径145×128cm、検出面からの深さ55cmを測る。堆積のある時点で被熱面を形成しており、特徴的である。底面の海抜高は1.8mで、調査区内で検出した竪穴住居床面より約80cm低い関係となる。３層上面から土師器の甕片が出土しており、その形態から古墳時代中期前半のものと推定される。（椿）

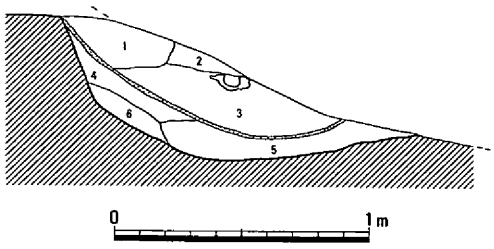
土壙８（第44・57図）

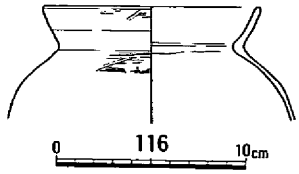


第55図　土壙４～６・出土遺物（1/30・1/4）

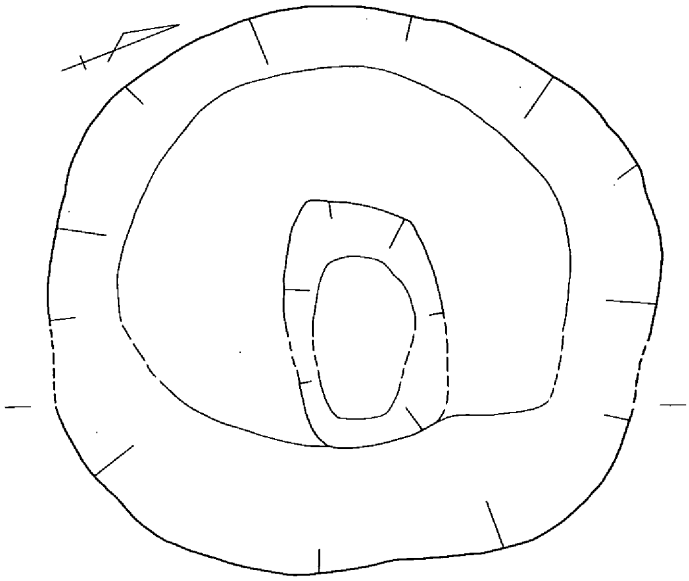
平面形はほぼ円形を呈し、規模は径240×225cm、検出面からの深さ125cmを測るやや大型の土壙である。土壙底面の海抜高は0.7mで、竪穴住居床面との比高差は約1.9mを測る。深さ、形態から井戸とも考えられる。堆積土のうち６・８層は黄色土のブロックを含んでおり、人為的に埋められている可能性がある。上層より土師器が出土しており、竪穴住居とほぼ同時期のものと考えられる。（椿）

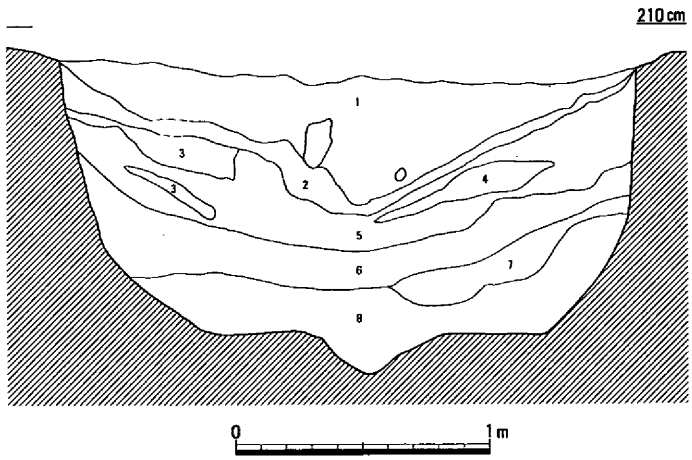


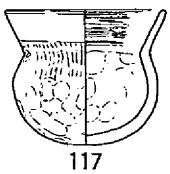


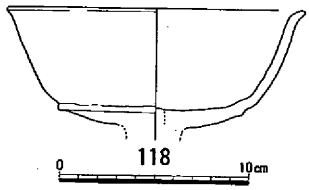


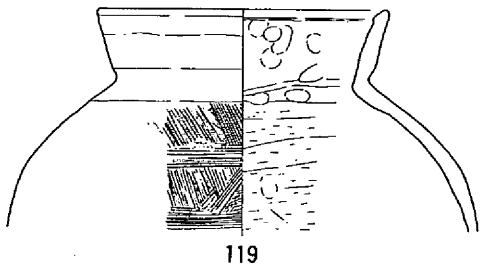
1．灰茶色粘質土
2．灰茶色粘性土
3．灰色粘質土
4．淡灰色粘質土
5．青灰色粘質土
6．黄灰色粘性砂質土











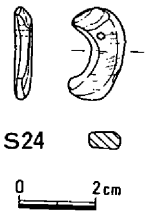
1．灰青色粘質土
2．暗灰青色粘質土
3．淡灰色粘土
4．淡灰黄色粘質土
5．灰色粘土
6．灰青色粘土（黄色土ブロック含む）
7．暗灰色粘土
8．淡灰青色粘土（黄色土ブロック含む）

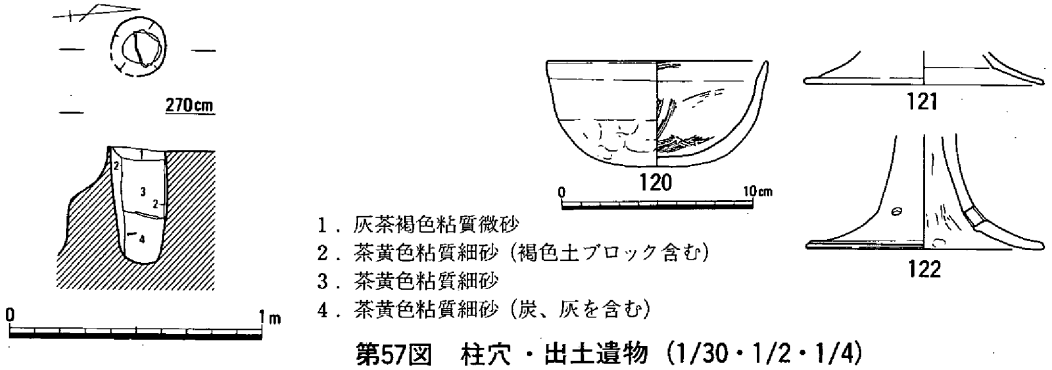
第56図　土壙７・８・出土遺物（1/30・1/4）

(5)　その他の遺構・遺物

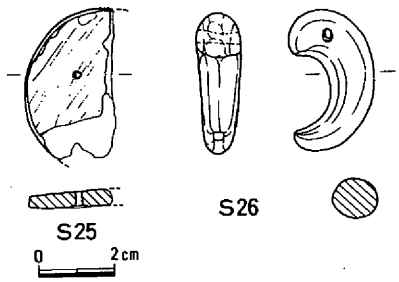
柱穴群（第44・57図）

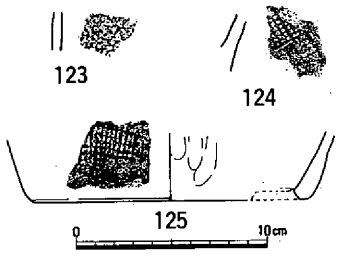
ｘ３・ｙ５を中心に柱穴など小ピット群が検出された。特に古墳時代前半期の遺構は調査区全体での削平が著しいため、残存状態はよくない。遺物は柱穴内から土器120～122、石製品の勾玉Ｓ24などが出土している。Ｓ24は石材は滑石製で、穿孔は片側から行っている。遺物は弥生時代後期から古墳時代前半期までみられるが、いずれも古墳時代前期～中期のものと考えられる。（松本）

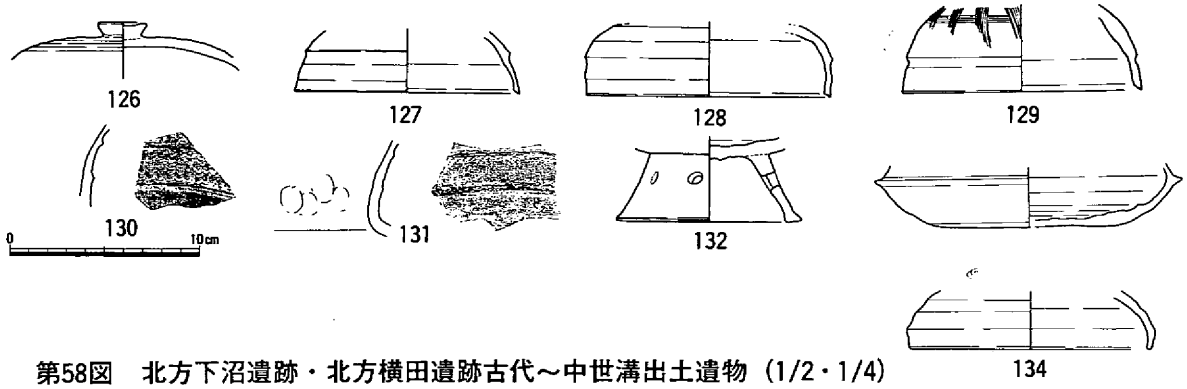




第57図　柱穴・出土遺物（1/30・1/2・1/4）







第58図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡古代～中世溝出土遺物（1/2・1/4）

包含層出土遺物（第58～61図）

ここでは平安期の溝や包含層出土の遺物から古墳時代に該当すると考えられるものを抽出して記述したい。これらは概ね微高地上の古墳時代集落の時期と共通しており、やや新相を呈するものも含まれるが、これは調査区外近隣に存在する集落に関連するものを反映しているためと考えてよいであろ

う。

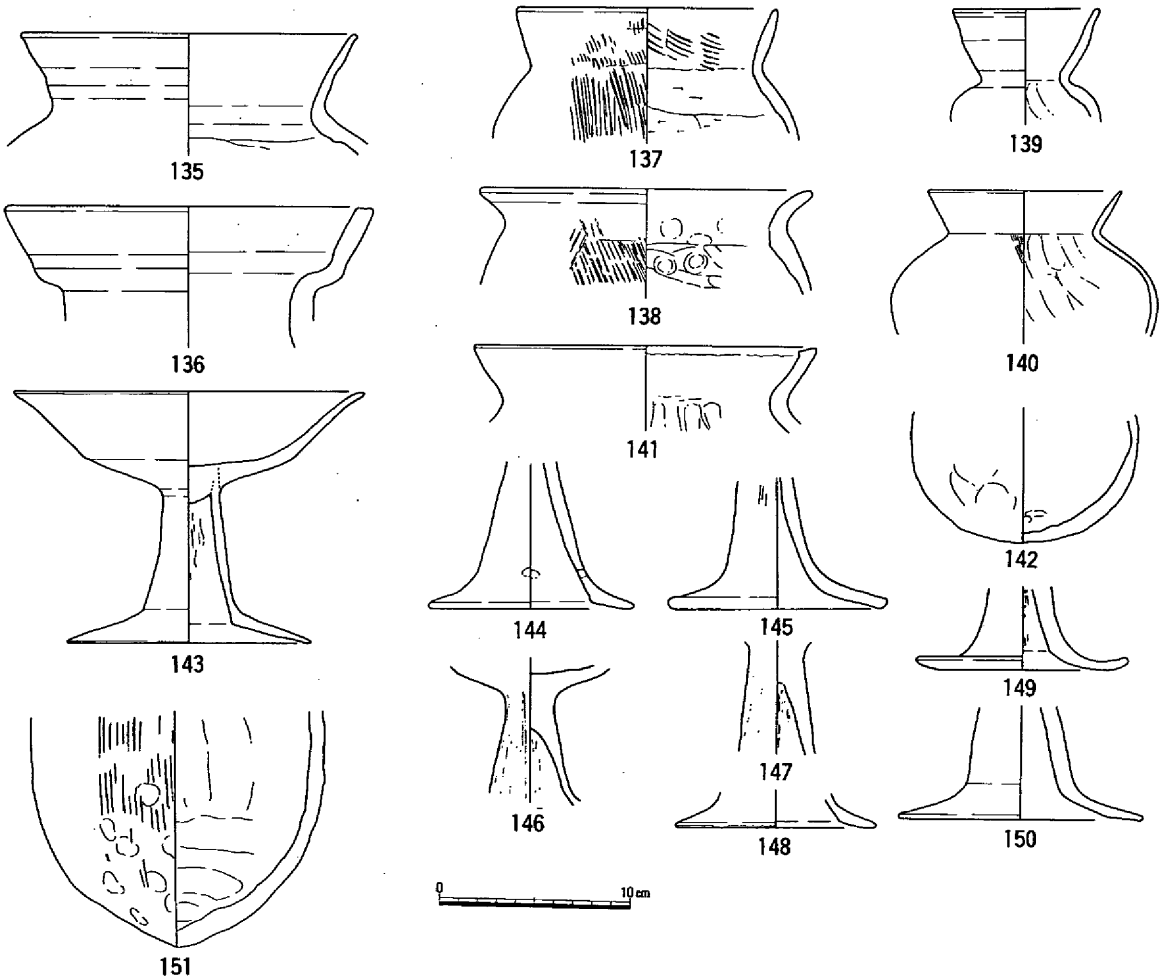
Ｓ25は滑石製の有孔円盤で過半を欠損する。復元形は約45㎜、孔径約２㎜を測る。Ｓ26は碧玉製の勾玉で、全長37.5㎜、厚さ11.3㎜を測り、頭部孔は両面穿孔による。これらは平安期の溝25から出土したものであるが、形態・技法から古墳時代中期のものとしてよいであろう。

123～125はいわゆる朝鮮系軟質土器と考えられるもので、外面は格子目状タタキ、内面は当て具痕をナデ消しているものと推定される。色調は黄橙～黄灰色を呈し、胎土は２㎜以下の砂粒を含んでいる。125は形状から甑の底部片と推定されるものである。

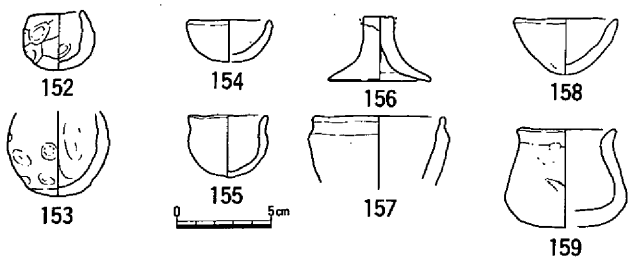
126～134は須恵器で、５～６世紀代のものを中心に、定形化以前と推定されるもの、129を含んでいる点が注意されよう。これらは調査区内で検出した竪穴住居より新しい時期のものがほとんどであることから、周辺集落の様子を考える上で参考となる資料である。

135～159は土師器で、竪穴住居群とほぼ同時期のものが多いが、138の甕のように６世紀代に下るものも含んでいる。136は大型の壺口縁部で、口縁部の形態は前代の特徴を残している。143の高杯はその形態から、中期初頭（あるいは前期末）のものと推定され、前記した壺と伴に、この中では最古のものと考えられる。152～159の小型の杯やミニチュア土器が多い点も、この時期の特徴をほぼ反映していると考えられる。

鍛冶関連の遺物も少なからず出土しており、これらは明確な時期決定は困難であるが、全体の状況



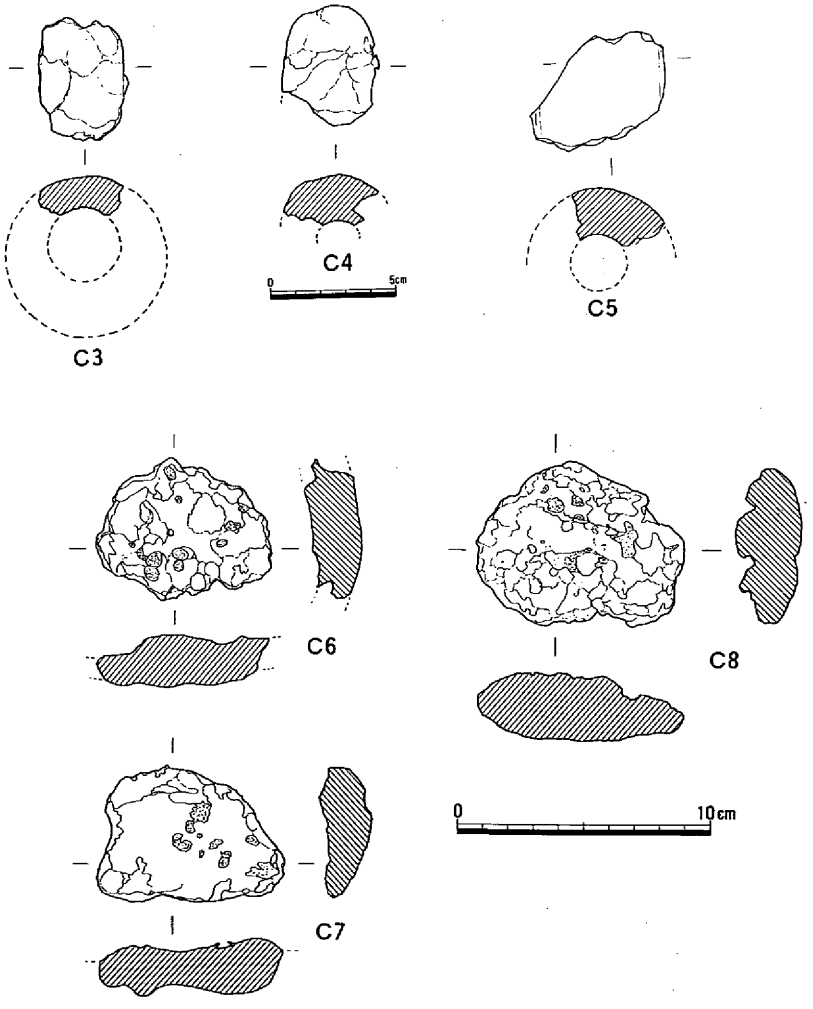
第59図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区出土遺物（土師器；1/4）



第60図　北方下沼遺跡出土ミニチュア土器（1/4）

から古墳時代のものと考えて大過ないと思われる。Ｃ３～５は鞴の羽口片で、鍛冶関連として間違いないであろう。Ｃ３は黄橙色を呈し、被熱部分をわずかに残す。外径５cm前後、内径2.5cm前後を測るものと推定される。Ｃ４は黄橙～灰白色を呈し、先端外面部に滓が付着している。外径4.5cm前後、内径２cm前後と推定される。Ｃ５は橙～黄橙色を呈し、外径６cm前後、内径2.2cm前後と推定される。Ｃ６～８は鉄滓で、炉壁粘土部分の遺存状況や、形態等からいずれも炉底滓（椀形滓）と考えられる。Ｃ６は下半部に厚さ１cm前後の炉壁が依存している。同様に、Ｃ７は1.5cm前後の、Ｃ８は0.5cm前後の炉壁片が付着している。

以上の遺物で特に注意しておきたいのは、その時期と鍛冶関連遺物の存在であろう。時期的には、弥生時代後期から古墳時代前期の特徴的な土器様式が廃絶した直後と、それ以降のものと考えられ、鉄器生産も同時に開始されている可能性が強い。これらの現象は多量の鉄器を出土した神宮寺山古墳の出現と無関係ではないと考えられる。（椿）



第61図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区出土鍛冶関連遺物（鞴の羽口・炉底滓）；1/3）

５．古代・中世の遺構・遺物

(1)　溝

はじめに

北方下沼遺跡、北方横田遺跡では古代・中世と考えられる溝が多く検出された。特に調査区を東から西に流れる大溝は、調査区の大半を占めており、多量の遺物が出土している。また、大溝の西端では水路の改修がみられたが、溝は南西方向に蛇行しながら流れており、条里の坪境とは言い得ない複雑な状況を呈する溝であった。　（松本）

溝22（第63・64図）

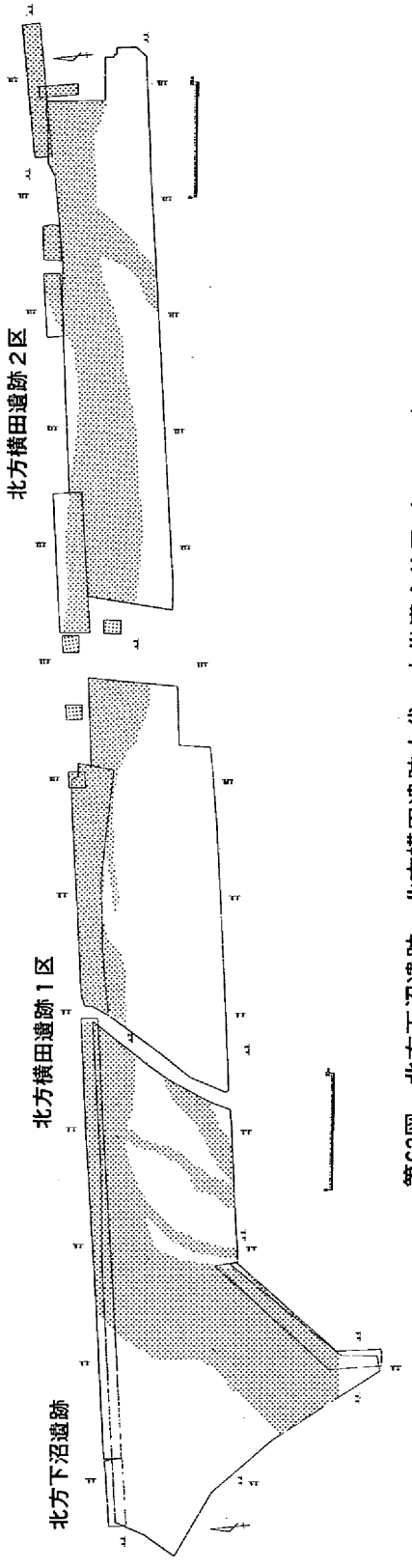
北方下沼遺跡の中央部で検出されたＳ字状に蛇行する溝である。この調査区では３条の大溝が検出されているが、溝22が土層断面観察において最も新しく、溝23・溝24と順次古くなることを確認している。

溝22は北東から南西方向にゆるやかに流れる溝である。北東端では溝24に接しているが、恐らく調査区外で溝24が溝22に改修されたと思われる。検出面での標高2.8ｍ、溝の規模は幅５～９ｍを測り、下流部が狭くなっている。深さは1.1～1.2ｍを測り、埋土の堆積状況から数回の溝浚えが行われていたと想定できる。断面形は皿状を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は位置ごとに必ずしも同じではないが、主に粘質微砂、細砂と粘土の互層堆積となっているが、基底面には暗緑灰色の粘質土や粗砂～砂利層がみられた。下層遺物として取り上げたものはこの粗砂～砂利層から出土している。また、溝内では杭列を検出している。杭列には水が強く当たる位置を補強するもの、旧溝との境を補強するもの、そして、溝内中央部でみられるような堰構造を示すものがある。

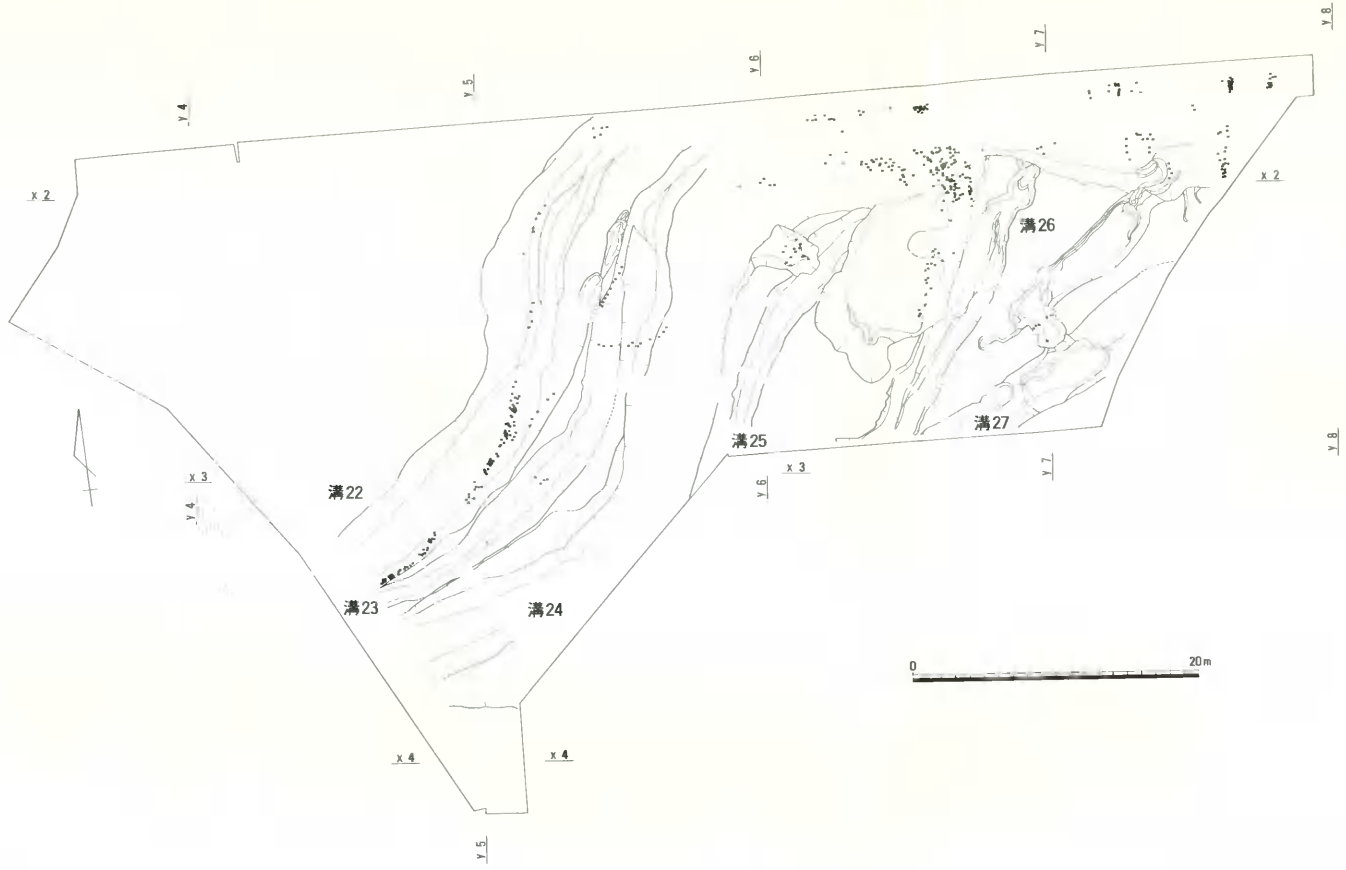
遺物は弥生時代中期後半から13世紀前半までの土器と獣骨（牛、馬の臼歯）が出土している。図示した主な遺物は土師器の杯、皿、椀、瓦器椀などである。これらの遺物から13世紀前半頃には埋没していたと考えられる。　（松本）

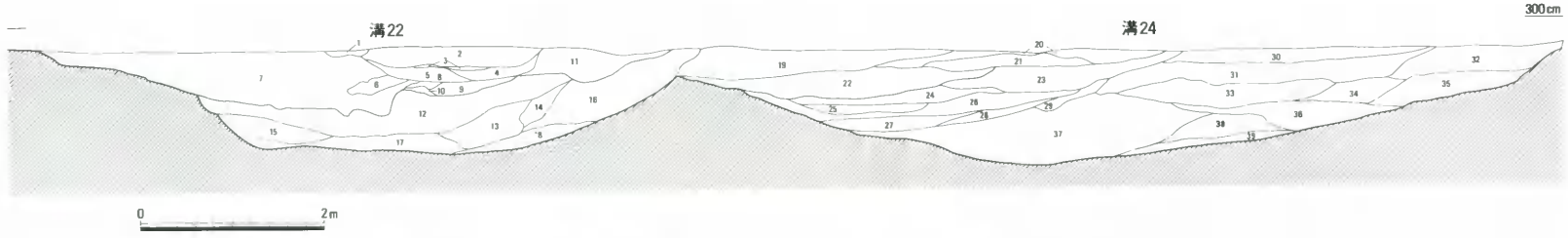
溝23（第63・65図）

溝24を切る状態が断面で確認されたため、本遺構は溝24を改修したものと判断して調査を実施した。別個の溝と認識して調査を実施したが、底面の高さが溝22・24と比べて約50cm程高くなるため、むしろ溝24の分流として機能する溝を想定



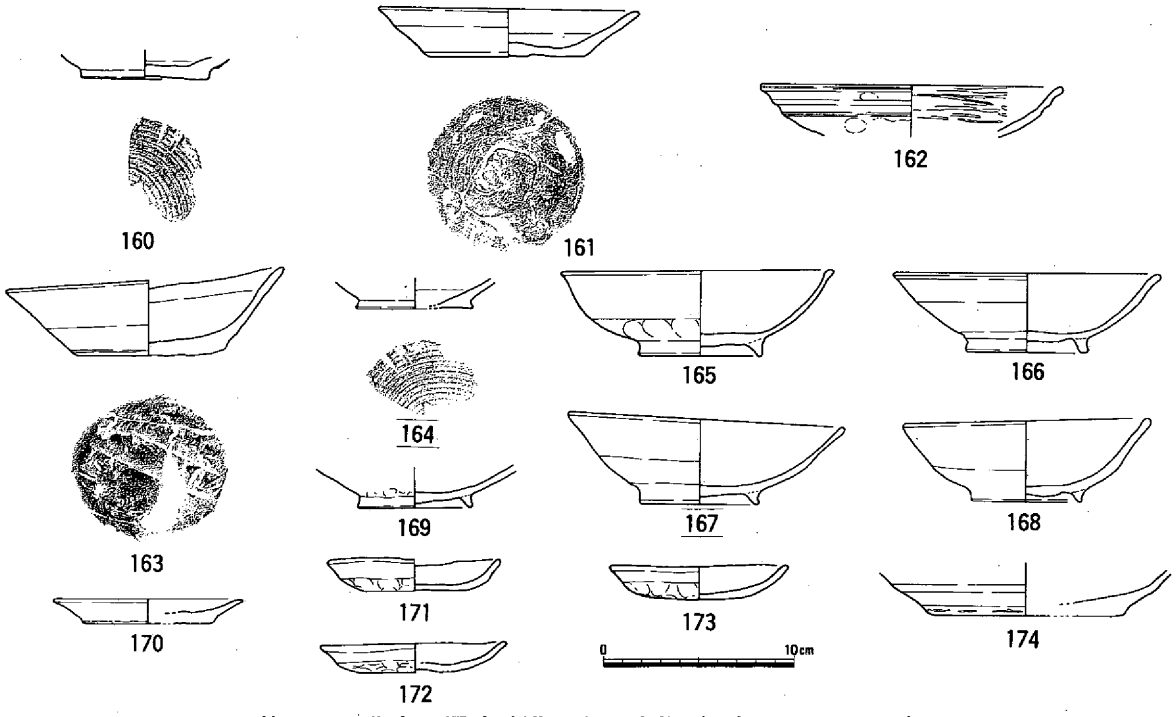
第62図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡古代～中世溝全体図（1/1,250）





1．灰茶色砂と粘土がブロック状に混合
2．灰褐茶色粘質微砂〔炭を微量含む〕
3．暗灰色粘土
4．灰茶色粘土
5．灰色粘土
6．灰黒色粘土
7．砂の堆積層
8．暗灰褐色粘土
9．細砂層
10．灰黒色粘土
11．茶灰色粘質土
12．灰黒色粘土〔微～粗砂含む〕
13．粗砂
14．緑灰黒色粘質土
15．暗緑色粘質土
16．微～細砂層
17．粗砂～砂利層
18．暗緑灰色粘土
19．淡橙灰茶色粘質微砂
20．茶灰色粗質微砂
21．灰色粗質土
22．粗砂層
23．灰色粘質土と細砂層の互層
24．淡茶灰色粘質土
25．細～粗砂
26．淡黒灰色粘質土
27．細～粗砂
28．微砂
29．細砂
30．淡橙灰茶色粘質土
31．灰色粘質微砂
32．橙灰茶色砂質土
33．砂層
34．灰色粘質土
35．灰色粘質微砂
36．青灰色粘質土
37．淡黒灰色粘質土
38．淡黒灰褐色砂質土
39．細砂層

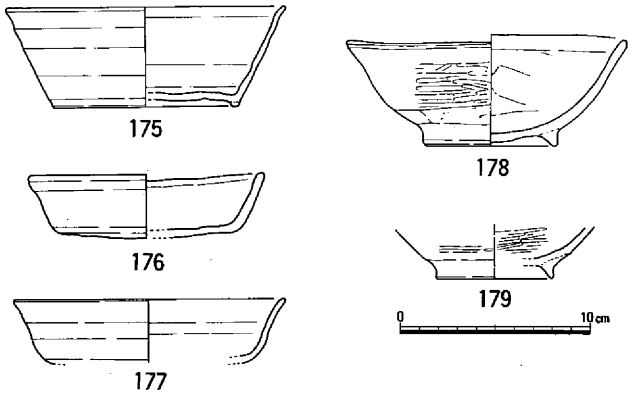
第63図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡溝22～27、杭列（1/400・1/60）



第64図　北方下沼遺跡溝22出土遺物（土師器ほか；1/4）

することが妥当であり、ここでは、分流として説明をしておきたい。

検出面での標高は2.8m、溝の規模は1.4～3.2mを測り、蛇行部が広くなっている。深さは約50cm、断面はU字状を呈する。埋土は上層が粘質微砂、下層が細砂～粗砂であり、他の溝と同様に流水量の多さが看取れる。杭列は蛇行部底面と主流路から分流となる位置において、流れに直交する形で打たれていた。



第65図　北方下沼遺跡溝23出土遺物（須恵器ほか；1/4）

遺物は須恵器の杯175～177や土師器の椀178・179などが出土している。178は黒色土器の可能性をもつ土器である。179は黒色土器である。（松本）

溝24（第63・66～73・75・77図）

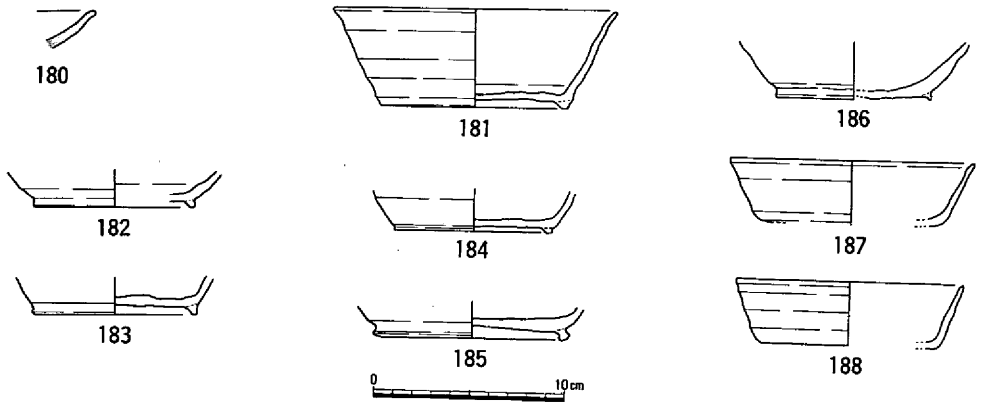
溝24は北方横田遺跡２区では、溝30の名称となる大溝である。溝は東から南西方向に蛇行して流走する大溝であるが、溝の検出はｙ８ライン東は南肩部を中心に、ｙ６ライン西では溝のほぼ全体を検出している。検出面の標高は2.7～2.8mで、溝の規模は幅８～10m、深さは1.2mを測り、埋土の堆積状況から数回の溝浚えが行われていたと思われる。断面形は皿状を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は溝22と同様に粘質微砂、細砂と粘土の互層堆積となっているが、基底面には淡黒灰色の粘質土や細砂層がみられた。下層遺物として取り上げたものは主に37層の淡黒灰色粘質土から出土している。また、溝内では杭列群がみつかっている。特に蛇行部上流でみられるように、流れに直交する形をとる杭列群がみられるが、これは堰構造を示すものであろう。この位置で水位を上昇させ、溝26に分流

していたものと思われる。

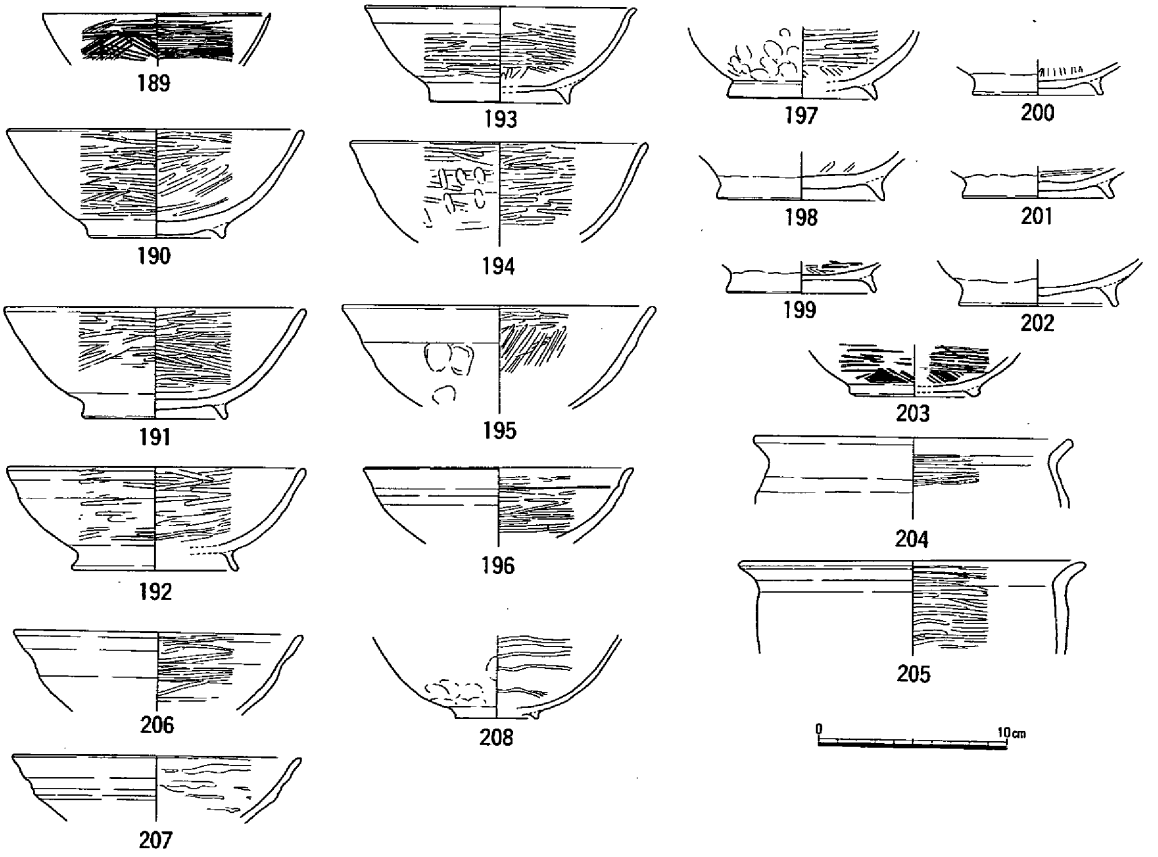
遺物は弥生時代前期から中世まで大量に出土したが、本溝が弥生時代前期の水田層までを破壊しているため、混入遺物が多く含まれている。ここでは主に溝に関連する遺物について概略を述べたい。

土器では土師器、須恵器、施釉陶器、磁器、瓦器があり、瓦は平瓦、土製品では土錘、土鈴などが出土している。木製品には下駄、卒塔婆、杭、鉄製品では鉄鏃、釘などがある。また獣骨は上層で馬の臼歯、下層では牛、馬の臼歯や骨が出土しているが、下層では牛が多い。

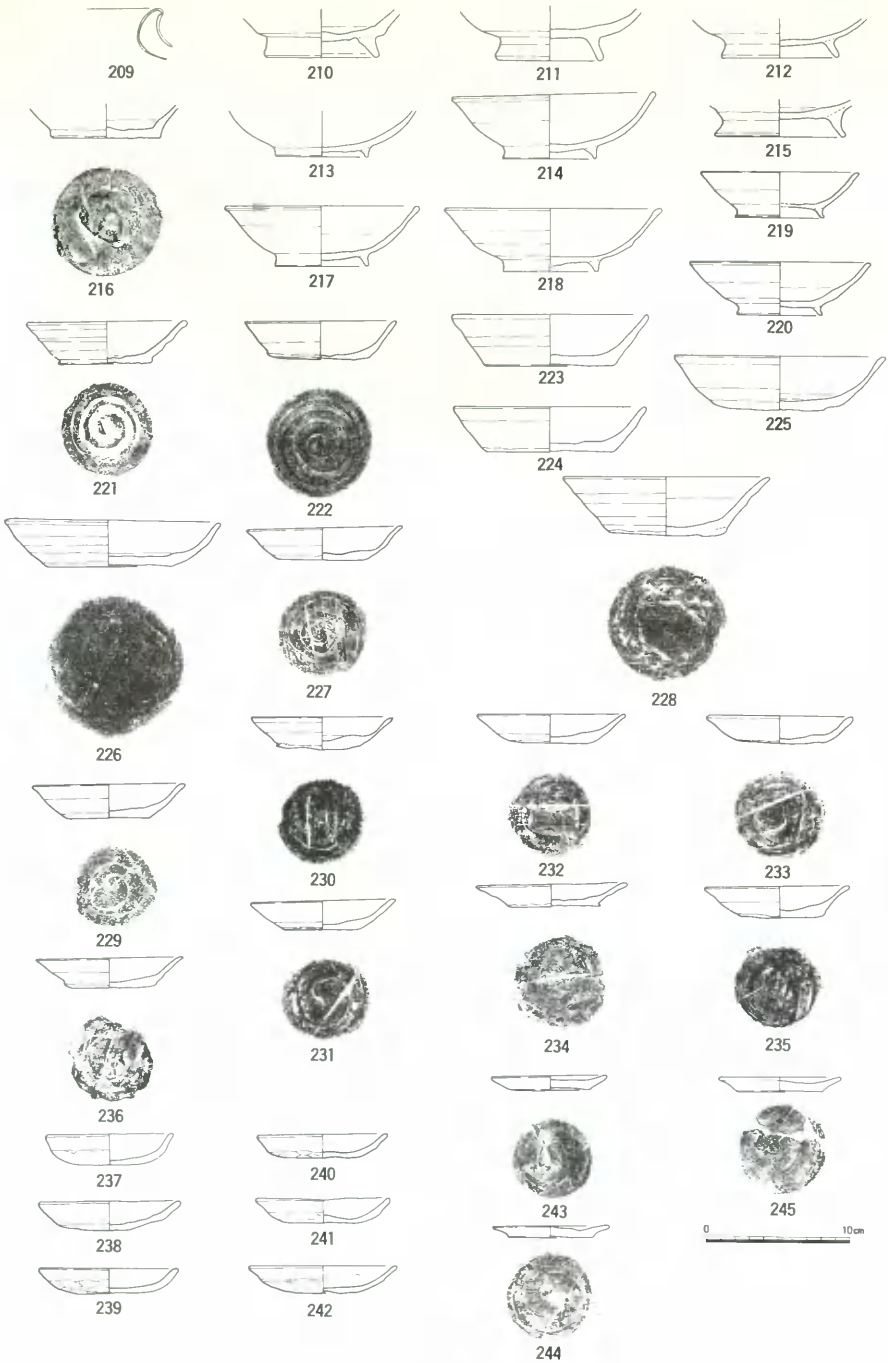
緑釉陶器180は京都産である。磁器では青磁209が１点出土している。須恵器181～188・298は土師器に比べて出土率が低い。181～186・298は高台付の杯である。184～188は下層で出土している。瓦器206～208・209は和泉型である。土師器は焼成状態によって黒色土器189～205・297、早島式土器213・214・217・218・252・253・288・289・300、そして、いわゆる土師器と呼ばれるものの３種類



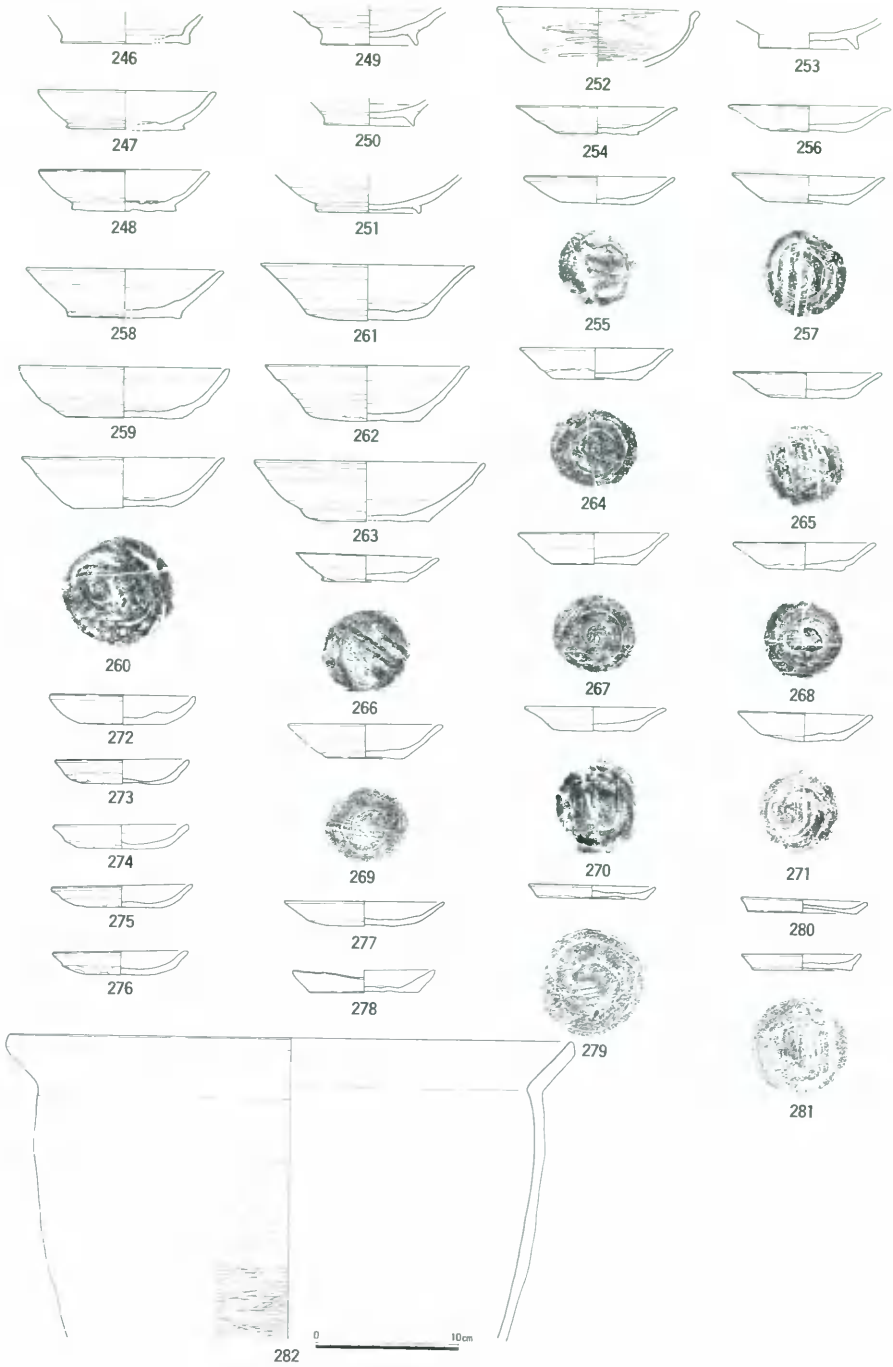
第66図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（1）（緑釉陶器・須恵器；1/4）



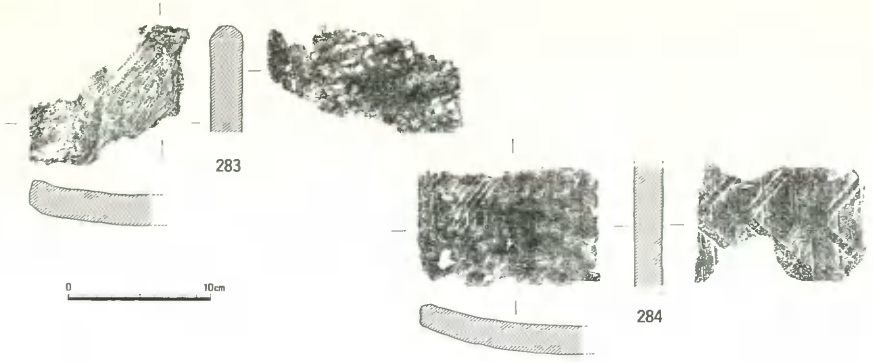
第67図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（2）（黒色土器・瓦器；1/4）



第68図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（3）（上層出土土師器；1/4）

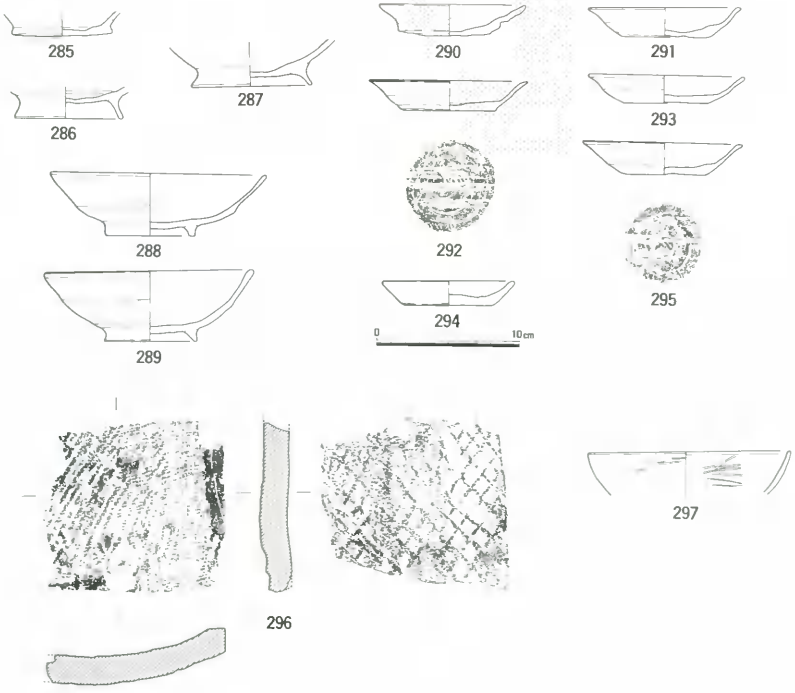


第69図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（4）（下層出土土師器；1/4）

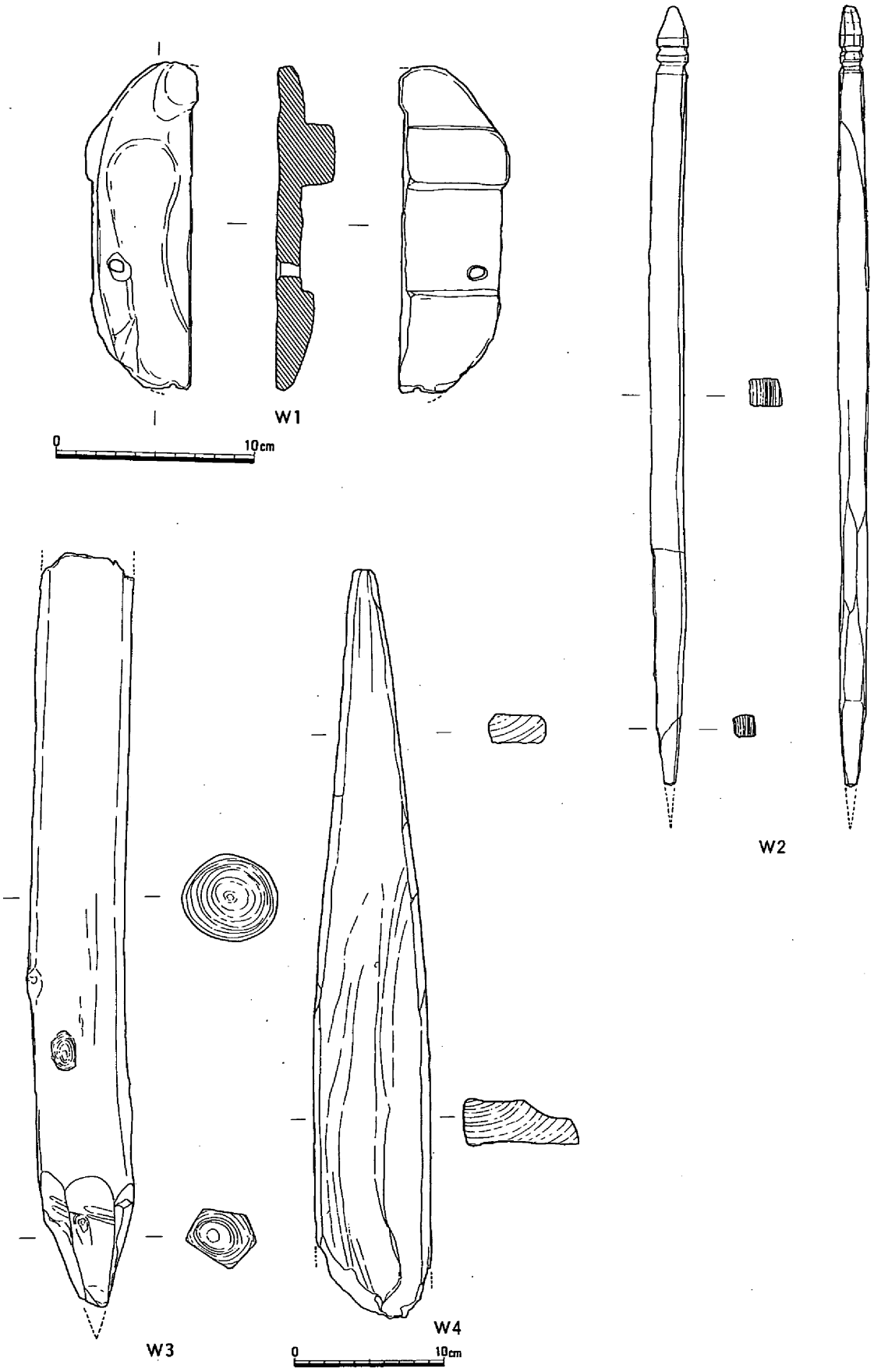


第70図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（5）（瓦；1/4）

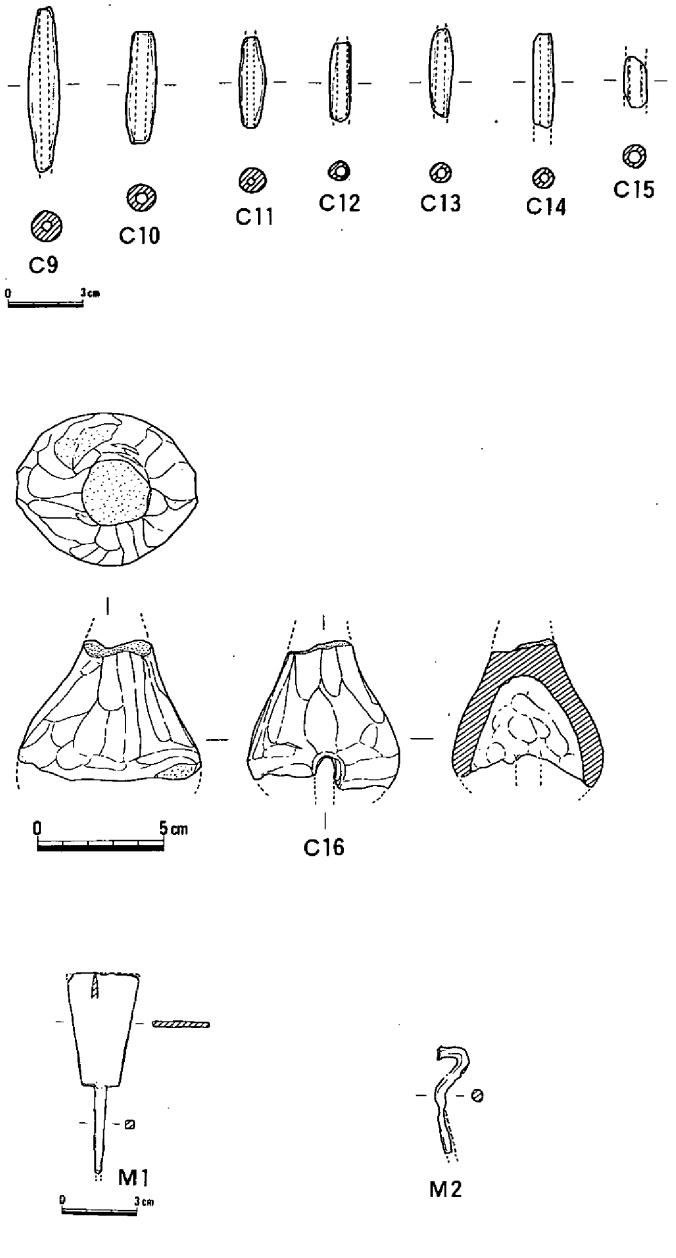
がある。土師器の器種としては椀、杯、皿、鍋がある。木製品では卒塔婆の出土が注目される。現存長は39.4cmを測る。約1.5cm四方の角柱で、頭部を尖らせ、その下には２条の抉り込みがみられる。下端は尖らしている。各表面には文字等がみられないが、形状からみて卒塔婆と思われる。材質は椹である　土製品では土鈴が上層から出土している　上、下端部が欠損している。形態からみて、古代のものと考えられる。鉄鏃M１は形態からみて、古代のものと思われる。このように主に10世紀代～11世紀代を中心にして、13世紀前半代までの遺物が出土している。（松本）



第71図　北方横田遺跡溝24出土遺物（6）（土師器ほか；1/4）



第72図　北方下沼遺跡溝24出土遺物（7）（木製品；1/3・1/4）



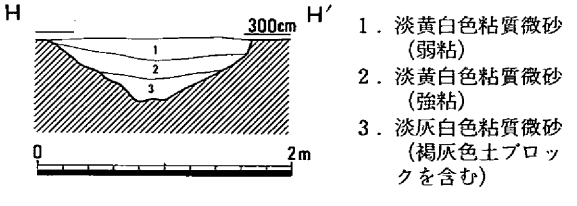
第73図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡１区溝24出土遺物（8）（土製品・鉄器；1/3）

溝24周辺杭列（第63・75・76図）

溝24の南岸部からその中心部にかけて多数の杭が打ち込まれており、そのうち明らかに列をなすものも認められたが、これらが付設された時期の関係や、周辺水路との関係は明確にできていない。このうちＤ－Ｄ’ラインやＧ－Ｇ’ラインは溝24の内部、つまり常に水没する部分にあることから、井堰となる可能性が強いであろう。また、Ｅ－Ｅ’、Ｆ－Ｆ’ラインは明らかに盛土部分に打ち込まれた箇所があり、この盛土部分の補強材的役割を持っていた可能性もある。杭列の方向は基本的に水流に対して直交しており、この部分を塞き止めることにより、底面レベルの高い周辺部の溝へ水を取り込んだものと考えられる。杭はＥ－Ｅ’ライン周辺が最も集中しており、この部分が井堰の最も使用頻度の高い部分であることは間違いないであろう。（椿）

溝25（第63・74・75図）

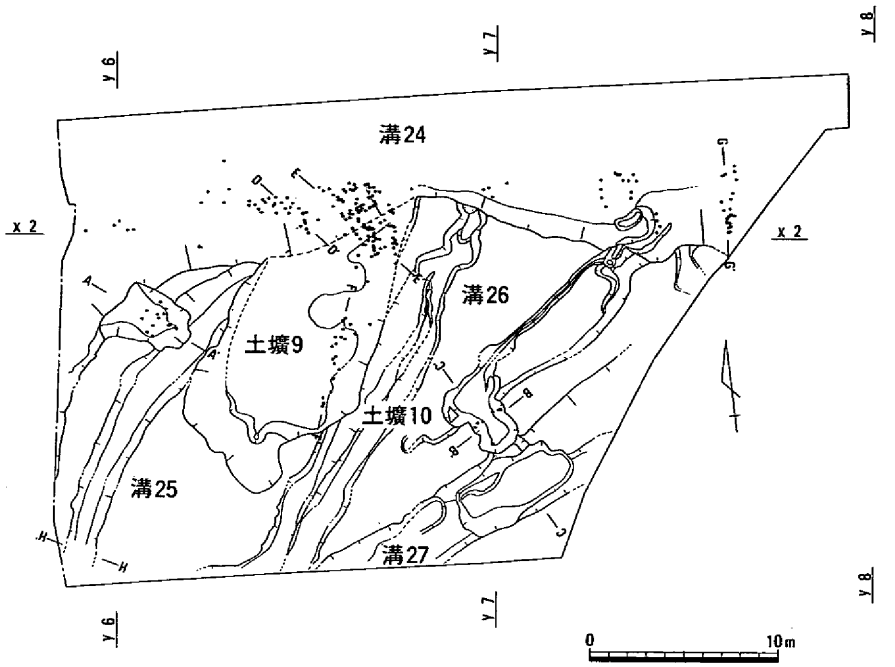
溝24に平行する水路で、土壙９によって切られているか、あるいは同時に機能していたものと判断している。他と同様、直交する「水落とし状」の水利遺構を付設しており、この施設底面は滝壺状の窪みを形成し、杭列を伴っている。（椿）

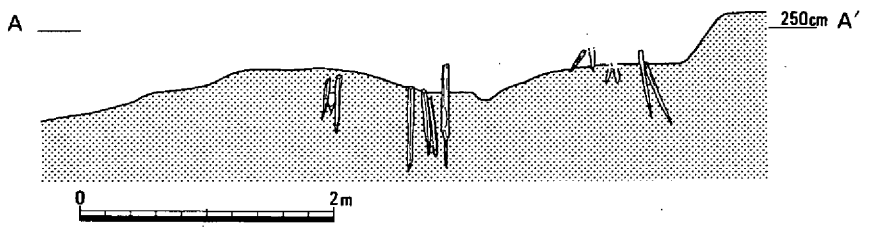


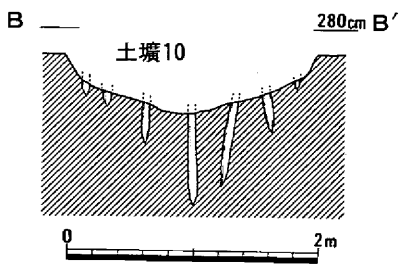
第74図　北方横田遺跡１区溝25土層断面図（1/60）

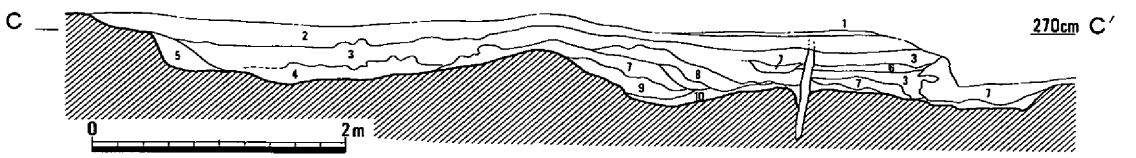
溝26（第63・75図）

溝24に向かって下降する水路で、１、２回の作り替えが行なわれている。北側は盛土によって形成されている部分があり、土壙９より新しくなる可能性が強い。傾斜や、水落とし状の形跡があることから、取水路ではなく、排水路と推定される。（椿）







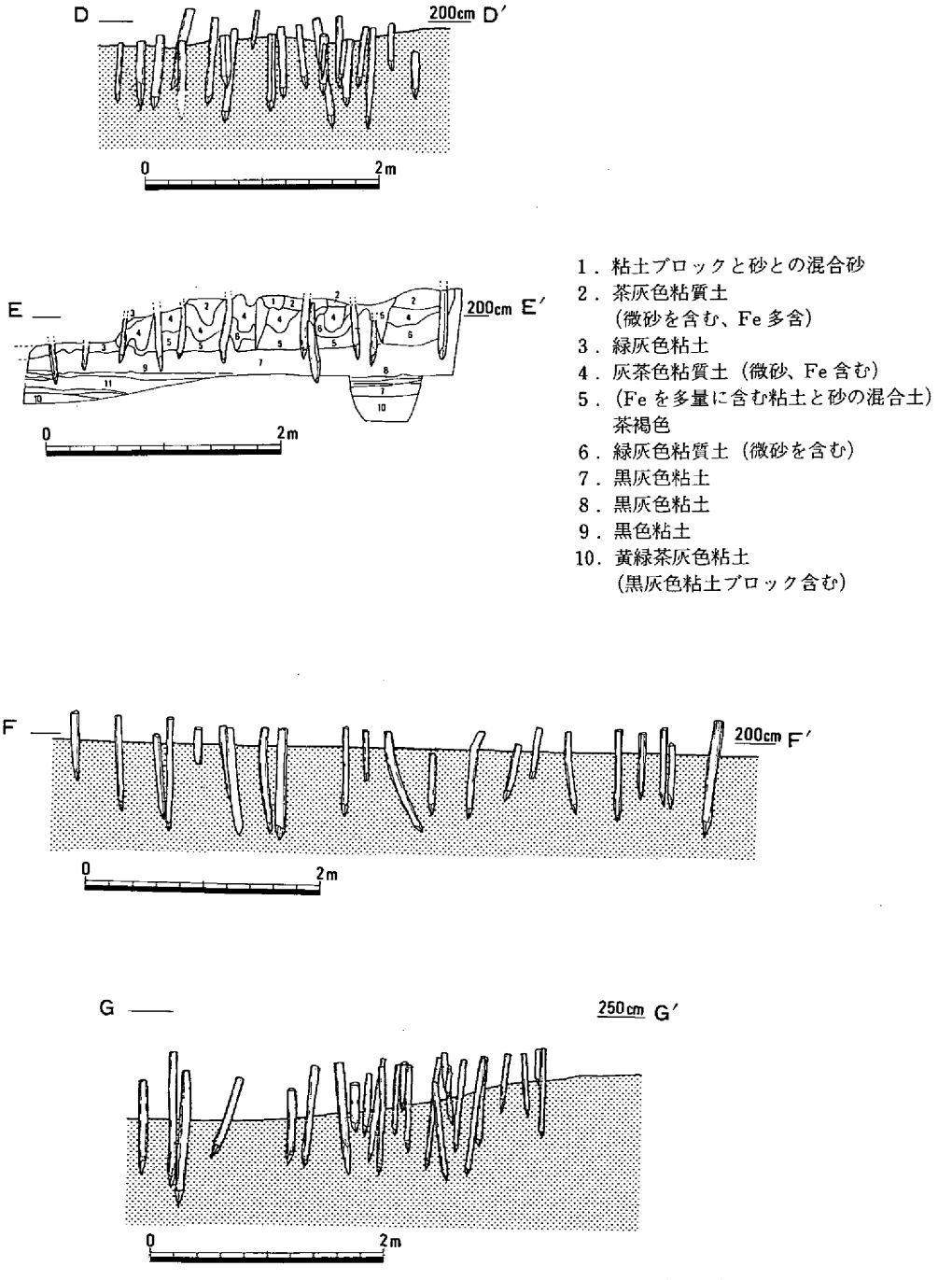


1．暗灰色粘質土
2．暗灰色粘質土
（下層ブロックを含むFe沈着多）
3．暗灰色粘土
（微砂層をはさむ）
4．暗灰色粘土
5．黄灰色粘土
6．灰黄色砂層
7．下層ブロック土
8．下層ブロック土
9．灰色微砂
（下層ブロック多含）
10．暗灰色粘土
（植物質含）

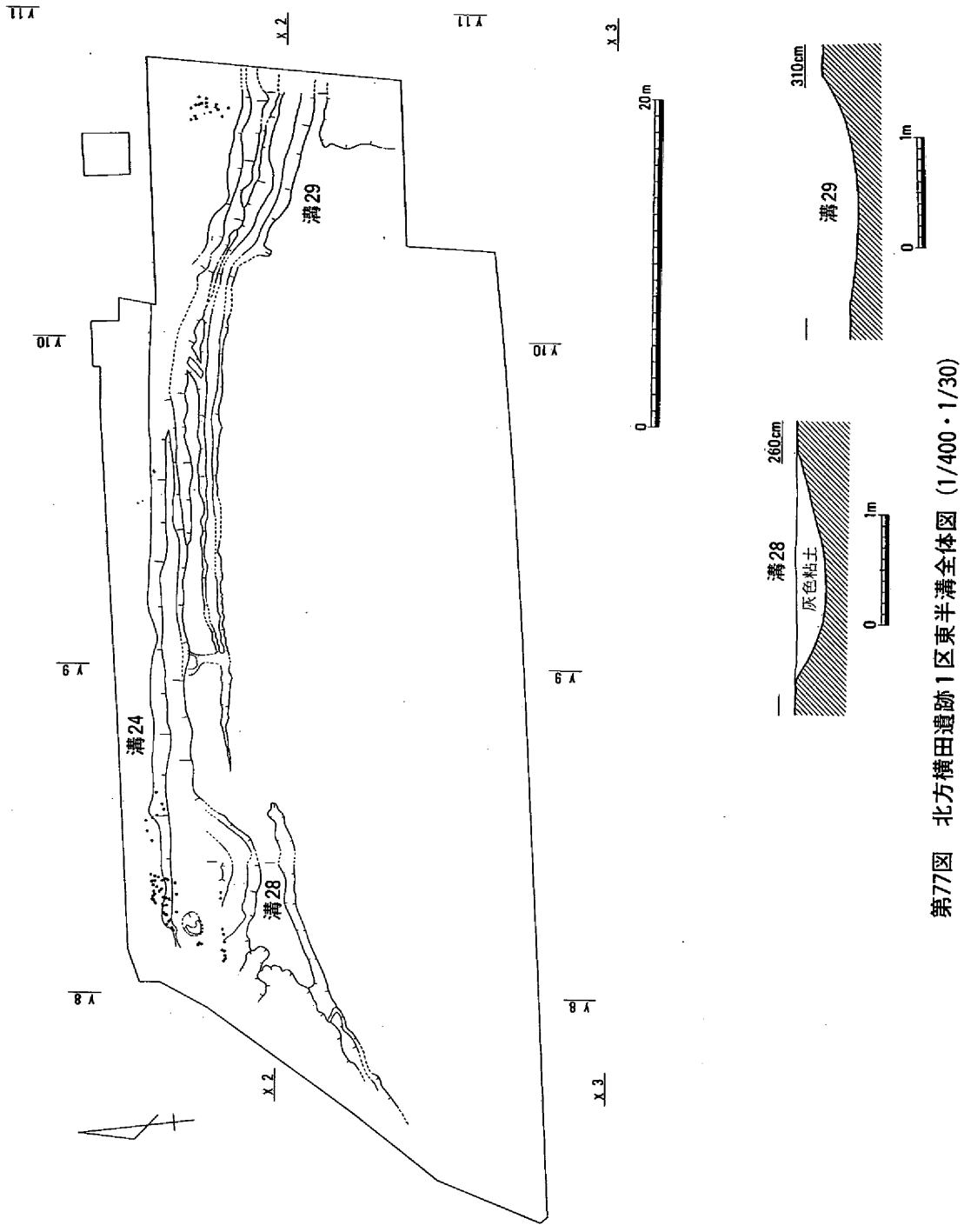
第75図　北方横田遺跡１区溝群と杭列、土壙９・10（1/400・1/60）

溝27（第63・75図）

中世の水田層を除去した段階で検出した水路で、南側の主水路と北側低位部にある関連施設とからなり、溝28と関連する可能性もある。主水路と杭列を伴う関連施設の接続部分では人工的な盛土を数回施した形跡が明瞭に残っており、ここで何らかの水量調節を行なっていたのは間違いない。また、主水路底面もこの部分は浅い土壙状に窪んでおり、盛土採取によるものと推定している。ここで調整された水は溝24に再び戻されるように小水路が配されており、周辺部の他の水路と基本的に同じ構造をもっている点が重要である。時期は溝24とほぼ同時期と考えられるが、周辺の水路との前後関係は明確にしえなかった。（椿）



第76図　北方横田遺跡１区杭列断面図（1/60）



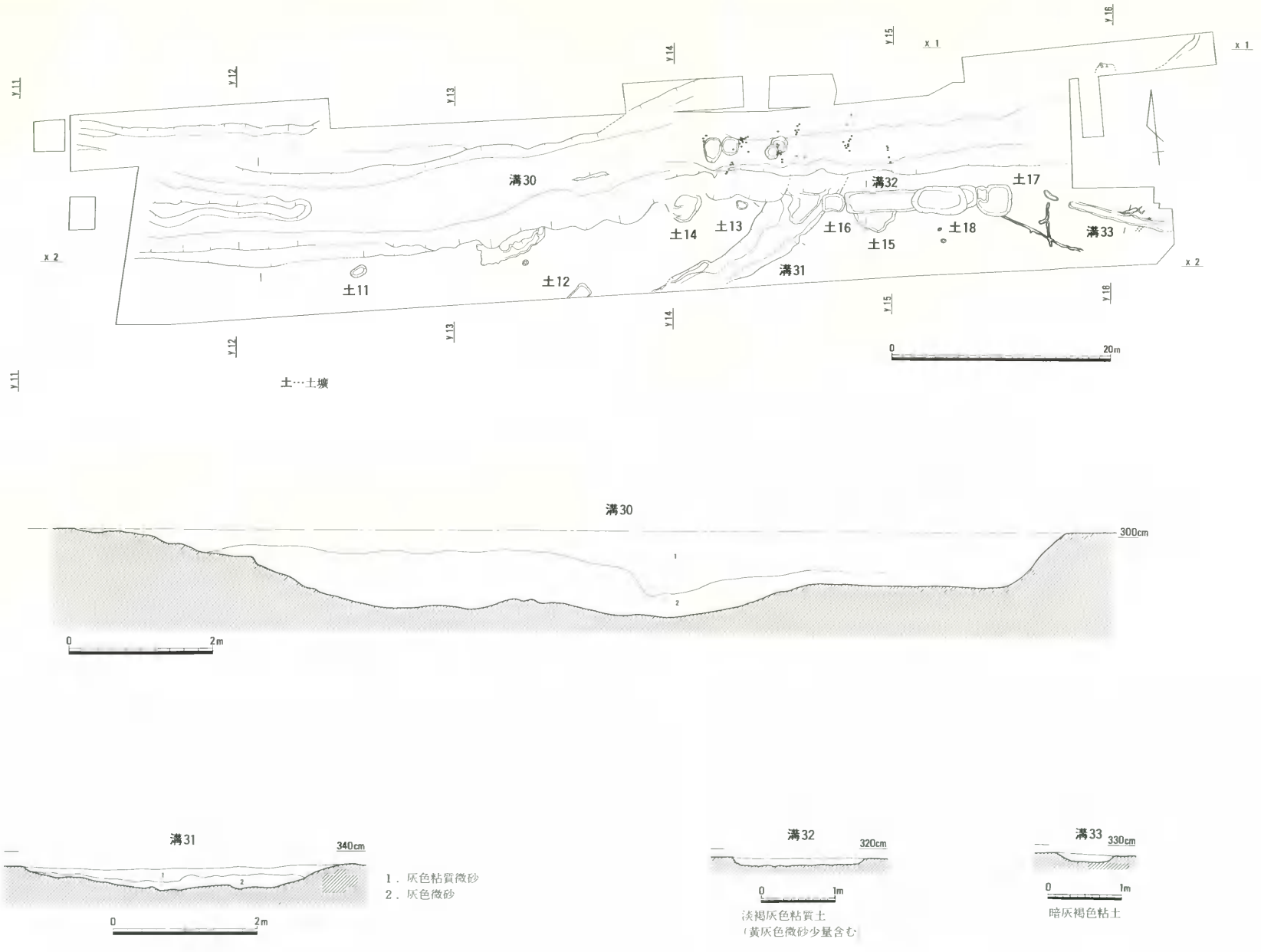
第77図　北方横田遺跡1区東半溝全体図（1/400・1/30）

溝28（第77図）

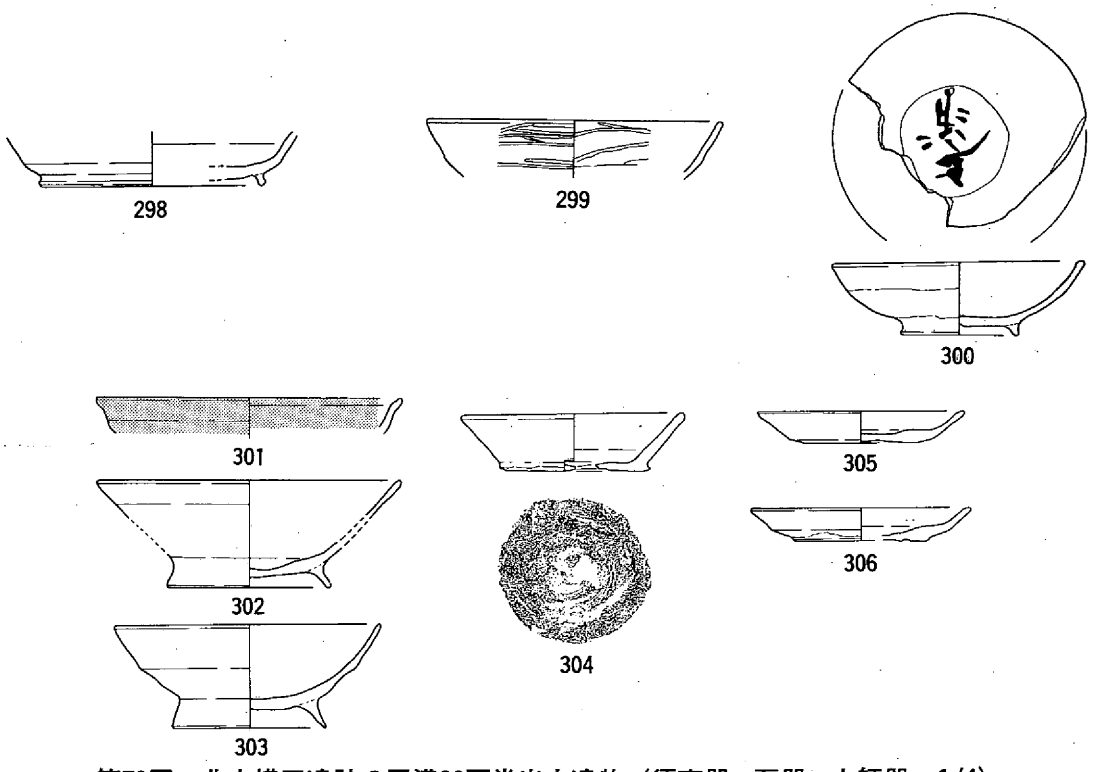
溝24にほぼ平行するもので、東側は上部水田層により削平されている。調査時には、後述する溝29と同一とも考えたが、明確にしえなかった。仮にこれと関連するとすれば、その接点となる場所になんらかの水利施設を伴っていた可能性が強いと考えている。時期は平安期と推定される。　（椿）

溝29（第77図）

溝24に平行して走る水路で、東側の北方横田遺跡2区で検出された溝30の分岐水路と連続する可能性が強いものである。西側で溝24に向かう小水路が取り付いており、その状況からこの部分で、不要な水を溝24に戻していたものと考えられる。廃絶の時期は溝24と同時期と推定される。　（椿）



第78図　北方横田遺跡２区遺構全体図・溝30～33土層断面図（1/400・1/60）

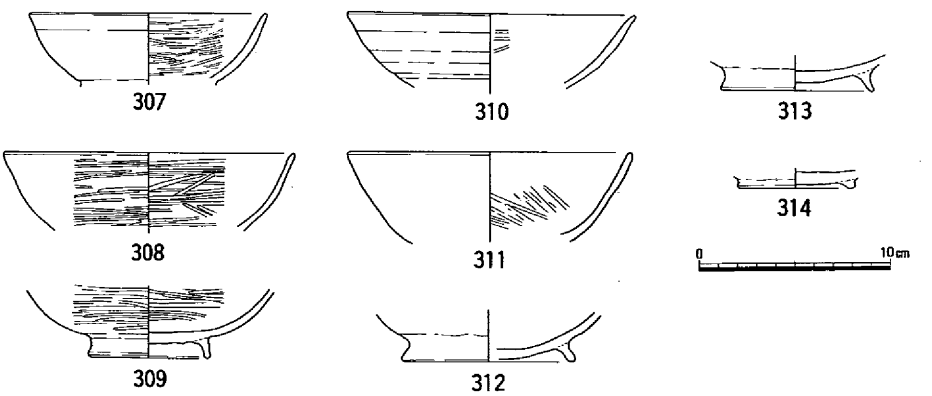


第79図　北方横田遺跡２区溝30西半出土遺物（須恵器・瓦器・土師器；1/4）

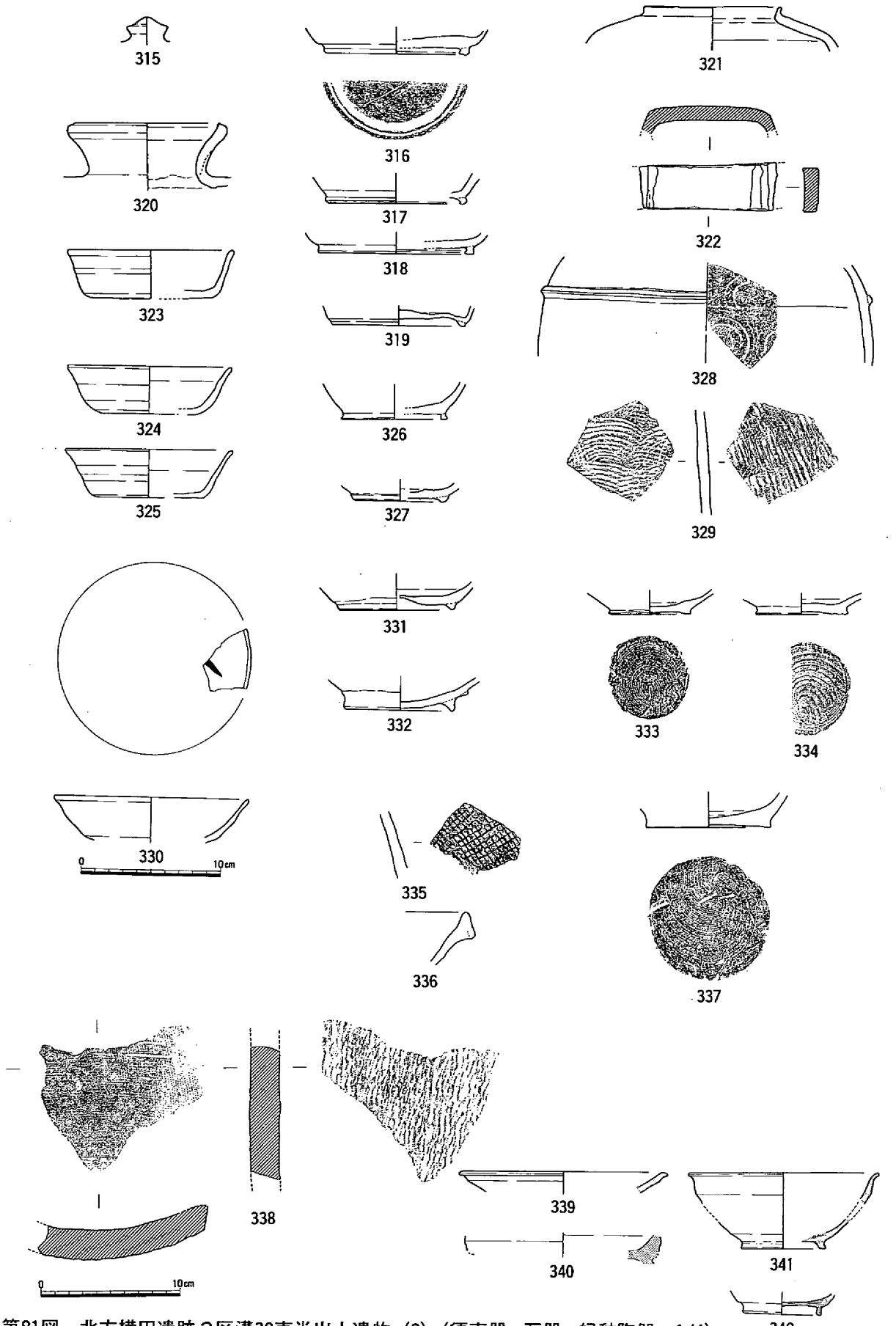
溝30（第78～84図）

北方横田遺跡２区では溝30と呼称するが、北方下沼遺跡、北方横田遺跡１区では溝24と呼ばれている溝である。この溝は２区の大部分を占めているが、溝の全容がわかるのは調査区西端付近のみである。検出面での標高は2.95～３m、溝の規模は幅12～13m、深さは約1.2mを測る。埋土は上、下層に大別されるが、上層には茶灰色微砂、下層には暗灰色の粗砂と粘質微砂が堆積する。断面図作成位置ではみられないが、溝の基底面には砂利層が確認されており、流水はかなりのものであったと思われる。また、溝内では杭列を確認している。杭列は溝31と分岐する位置に集中している。いずれも水の流れに対して直交しており、堰の構造を示すものと思われる。この辺りで溜まった水は恐らく溝31に流れていくものと思われる。

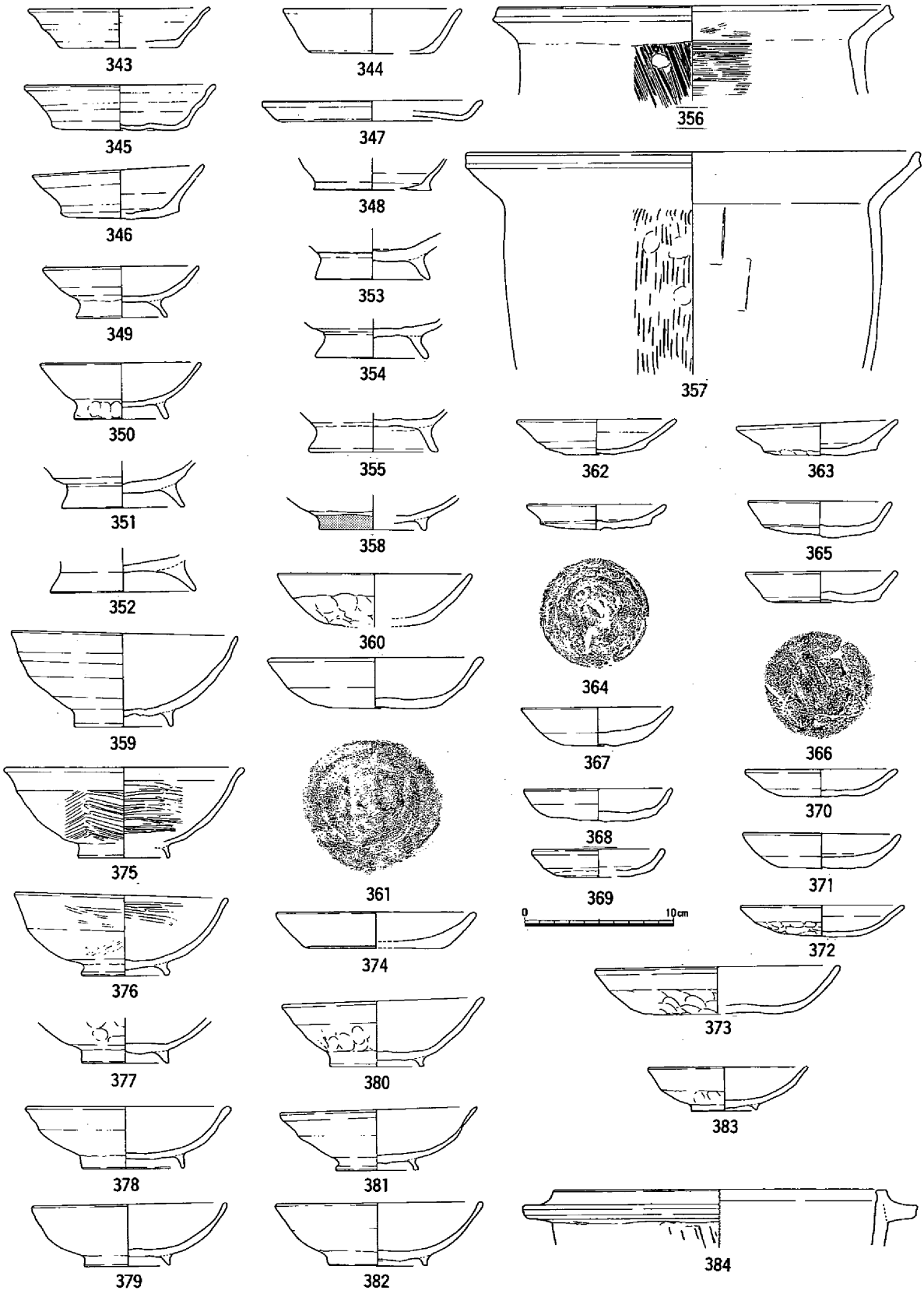
遺物は古墳時代から中世までのものが出土している。土器は土師器が最も多い。土師器では黒色土器307～314、早島式土器375～383・388～392といわゆる土師器343～374・384がある。須恵器は315～



第80図　北方横田遺跡２区溝30東半出土遺物（1）（黒色土器；1/4）

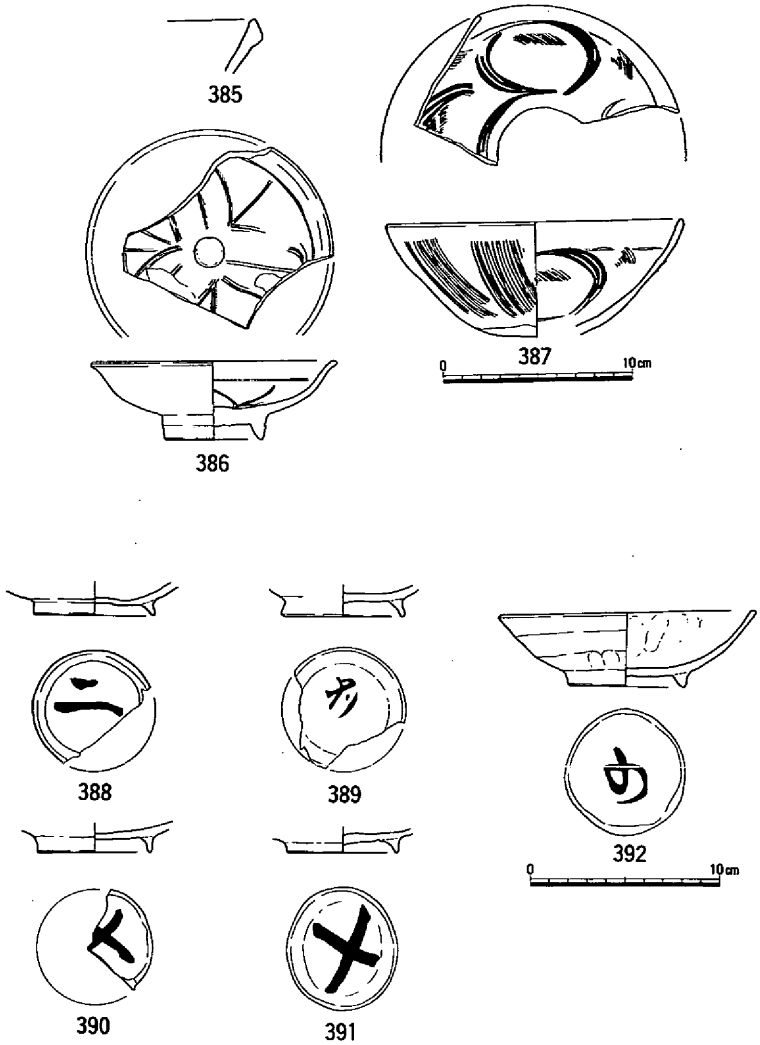


第81図　北方横田遺跡２区溝30東半出土遺物（2）（須恵器・瓦器・緑釉陶器；1/4）

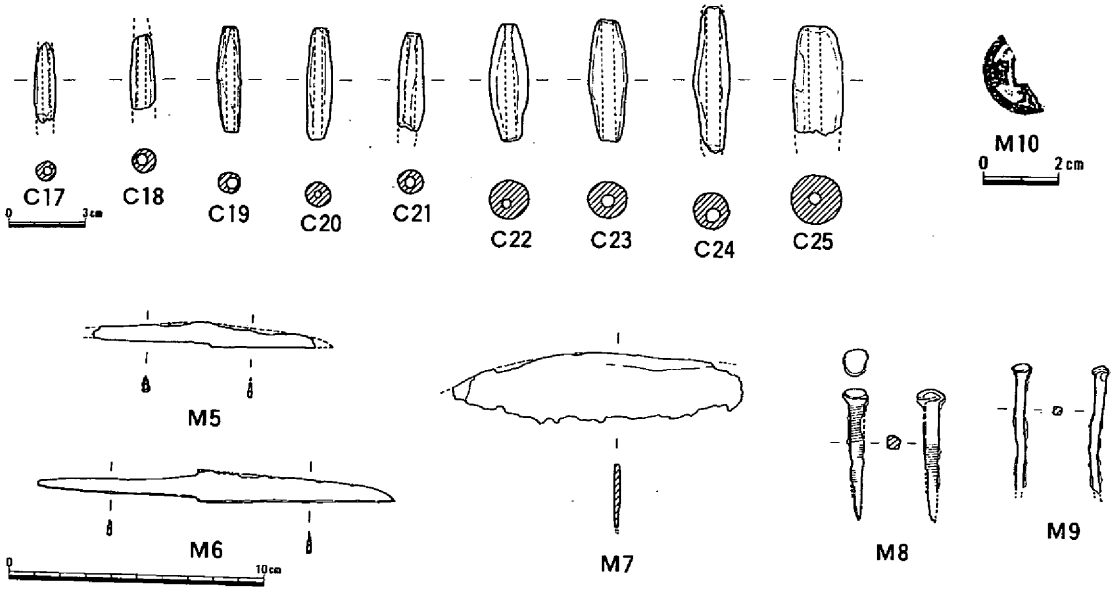


第82図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物（3）（土師器ほか；1/4）

334・347、施釉陶器は339～342、磁器は385～387、陶器は335・336である。瓦は平瓦338、土製品では土錘Ｃ17～25がある。鉄、銅製品では銭貨M10、刀子Ｍ５・６、鎌Ｍ７、釘Ｍ８・９などが出土している。330、388～392には墨書がみられる。335は亀山焼、336は東播系（魚住窯）の捏鉢である。341は近江産の緑釉である。385・386は白磁、387は同安窯のⅠ類に分類される青磁碗である。このように各種の遺物が出土しているが、本溝は下流域において出土した遺物と時期差がない。北方横田遺跡、北方中溝遺跡の一部では、溝はほぼ直線的に流れるが、西端では大きく蛇行する。この蛇行は当時の地形にほぼ沿うものと思われ、決して坪境を認識させる状況のものではなかった。　（松本）



第83図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物（4）（磁器・墨書土器；1/4）



第84図　北方横田遺跡２区溝30出土遺物（5）（土製品・銭貨・鉄器；1/3・1/2）

溝31（第78図）

２区の中央部において検出された北東から南西に流走する溝である。検出面での幅は北東部で4.5m、南西部では2.4m、深さは34cm程度で、北東端は溝30に接する。切り合い関係がはっきりしないが、溝30と同時期に存在した可能性が考えられる。時期は古代～中世に属する。（山本）

溝32（第78・85図）

２区の東部に位置する。長さは東西に約12m、幅は約２mで深さは10cmを測り、両端は上がっている。溝30の検出面より上層で検出されており、時期は中世に属する。遺物は須恵器の杯393が出土している。（山本）

第85図　北方横田遺跡２区溝32出土遺物（1/4）

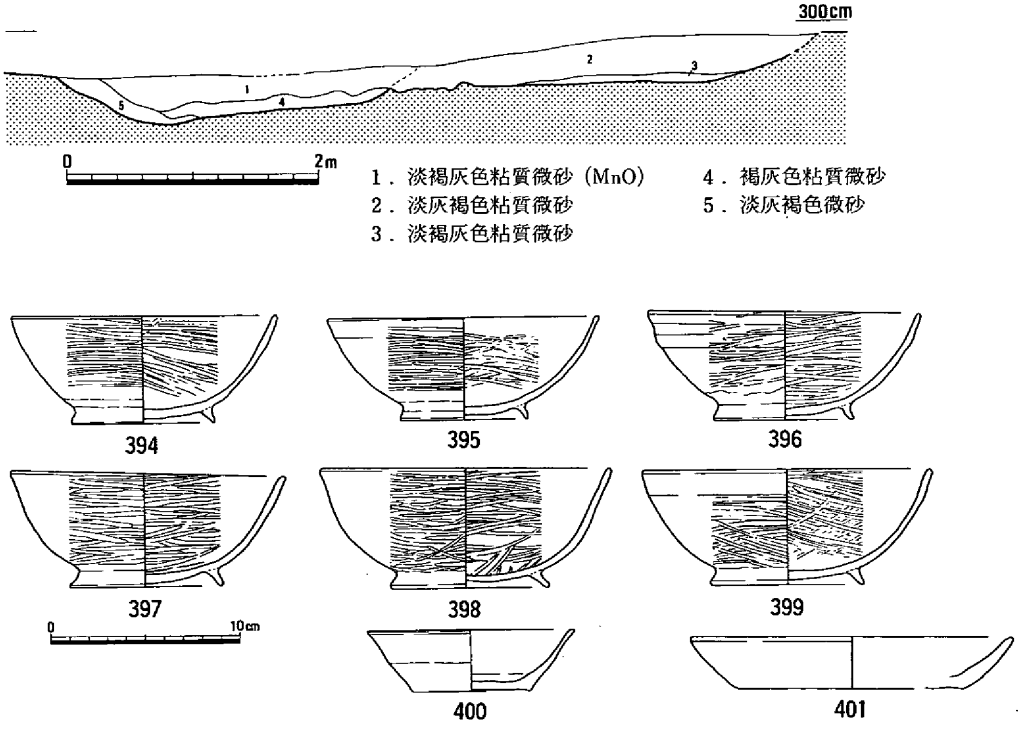
溝33（第78図）

２区の東端部、南寄りに位置する。長さは東西に約10mが検出されているが、東は調査区域外に延びるため、全容は不明である。幅は60～90cm、深さは12cmを測る。溝30の検出面より上層で検出されており、出土遺物はないが、時期は中世と考えられる。（山本）

(2) 土　　壙

土壙９（第75・86図）

溝24～26に挟まれた位置で検出された浅い皿状を呈した土壙で、形態や堆積土の様子から、溝24と（ある時点では）同時に機能していたものと考えられる。底面は北に向かって緩やかに下降しており、また、南側に滝壺状の窪みが認められることから、本来は排水に関連した遺構とも考えられる。北端底面からは、完形に近い黒色土器椀がまとまって出土しており、遺構の機能していた時期を示している可能性が高い。これらはいずれも内外面が丁寧なミガキ調整を施されており、口径14cm～15cm、器高６cm前後を測り、内面は黒色に焼成されている。時期は10世紀の後半頃と考えられる。（椿）



第86図　北方横田遺跡１区土壙９土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）

土壙10（第75図）

土壙９の東側に位置する小土壙で、溝24からの南西方向に延びる溝を切り込んだような状況で検出された。直交するように７本の杭痕跡がみられ、水利的な施設の可能性もある。

出土遺物は少量の土師器が認められるにすぎない。　（椿）

土壙11（第78・87図）

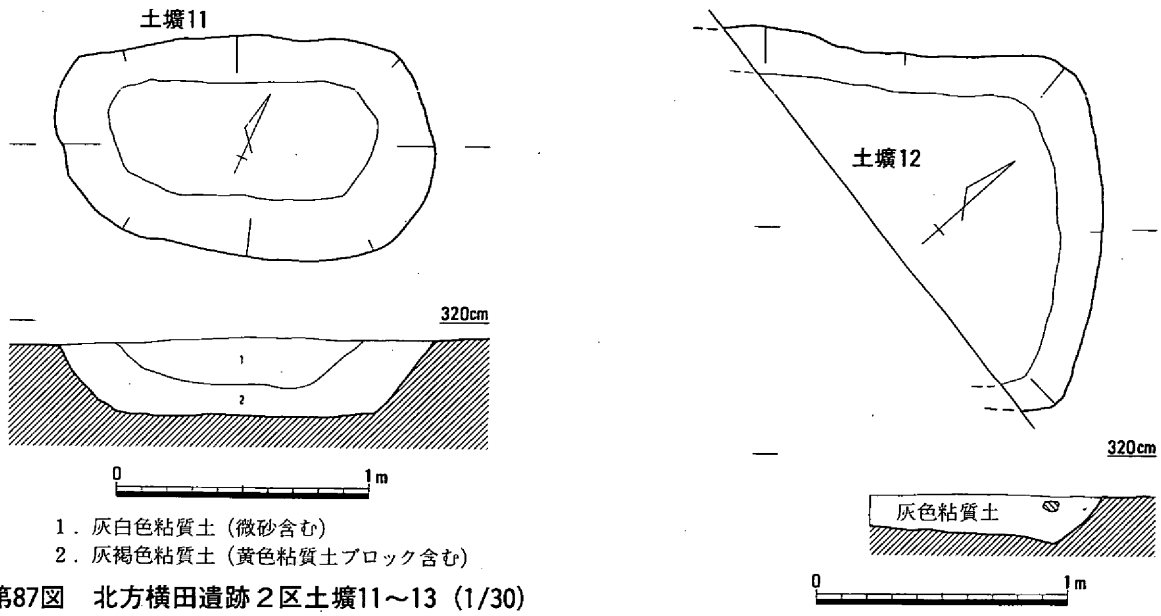
ｘ２・ｙ13の西９ｍに位置する。平面形は198×88cmのいびつな隅丸長方形を呈し、断面形は皿形で深さは30cm残存していた。遺物の出土はみられないが時期は中世であると思われる。　（山本）

土壙12（第78・87図）

土壙11の東20ｍに位置する。南側が調査区域外へのびているため全容は不明だが、現状では、平面形が長軸133cm、短軸90cm、深さ18cmを測る。出土遺物はないが時期は中世であろう。　（山本）

土壙13（第78・87図）

土壙12の北東７ｍに位置する。平面形は長軸が106cm、短軸が74cmのいびつな楕円形を呈し、検出面からの深さは16cmを測る。遺物の出土はみられないが時期は中世であると思われる。　（山本）



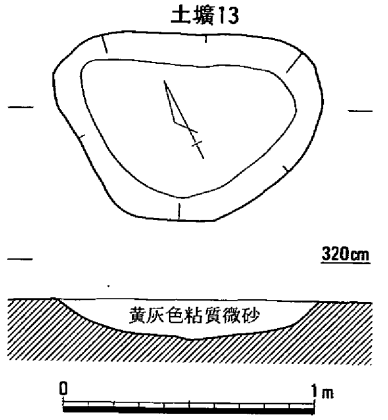
第87図　北方横田遺跡２区土壙11～13（1/30）

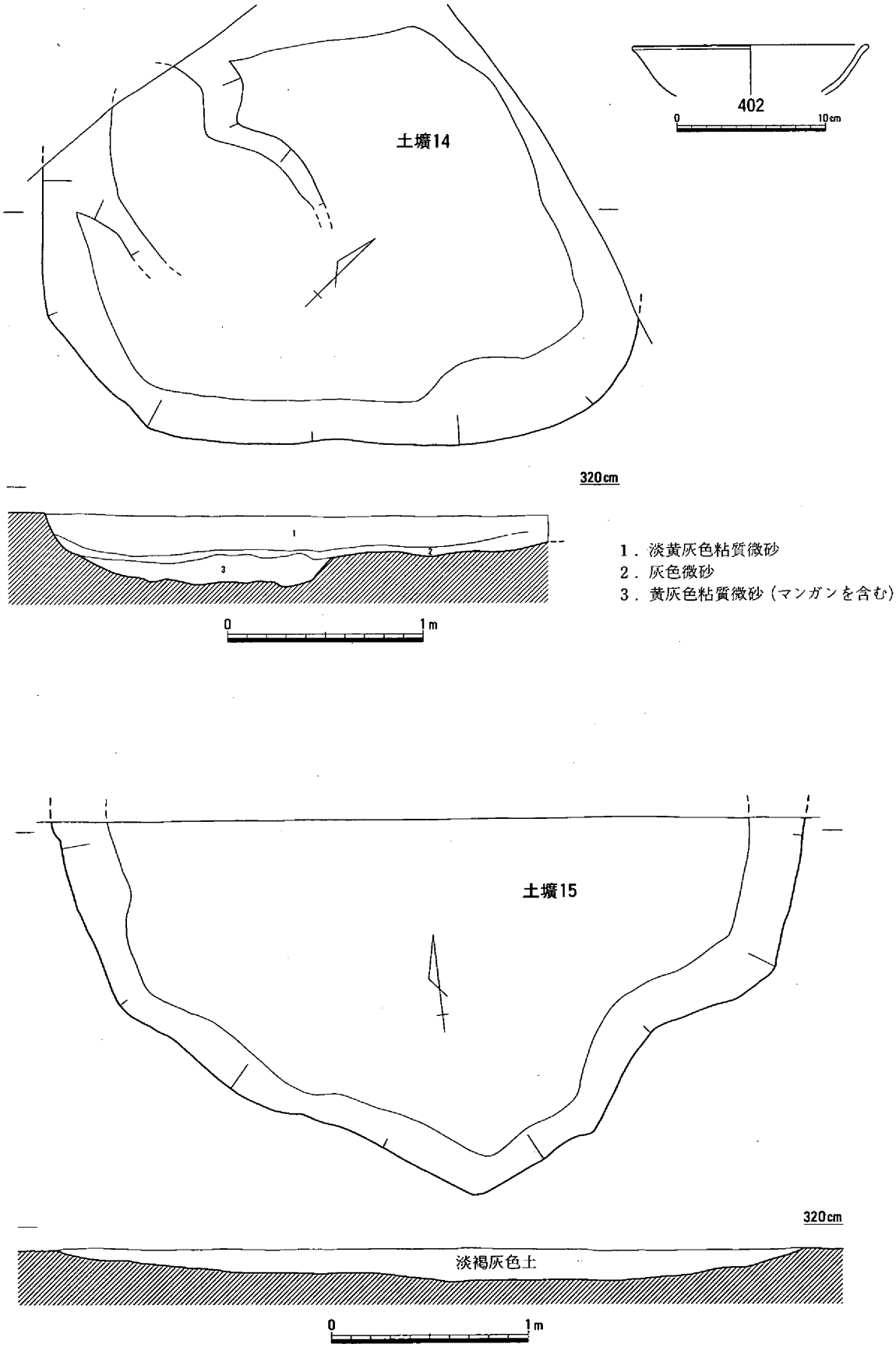
土壙14（第78・88図）

ｘ２・ｙ14付近で溝30の南肩口に位置する。溝と切り合う部分は明らかにできなかったが、現状での規模は、長軸305cm、短軸224cm、深さは最深部で約36cmを測る。遺物は、土師器（早島式土器）の椀402が出土するのみであった。時期は出土遺物から中世と考えられる。　（山本）

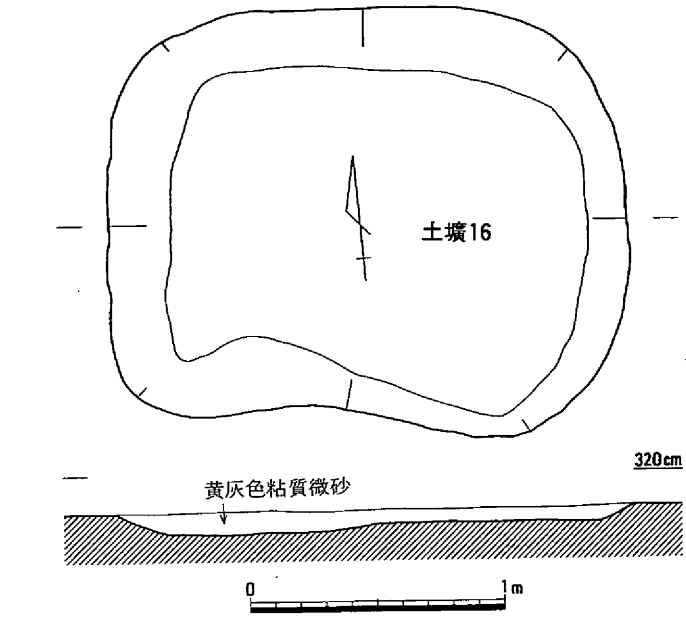
土壙15（第78・88図）

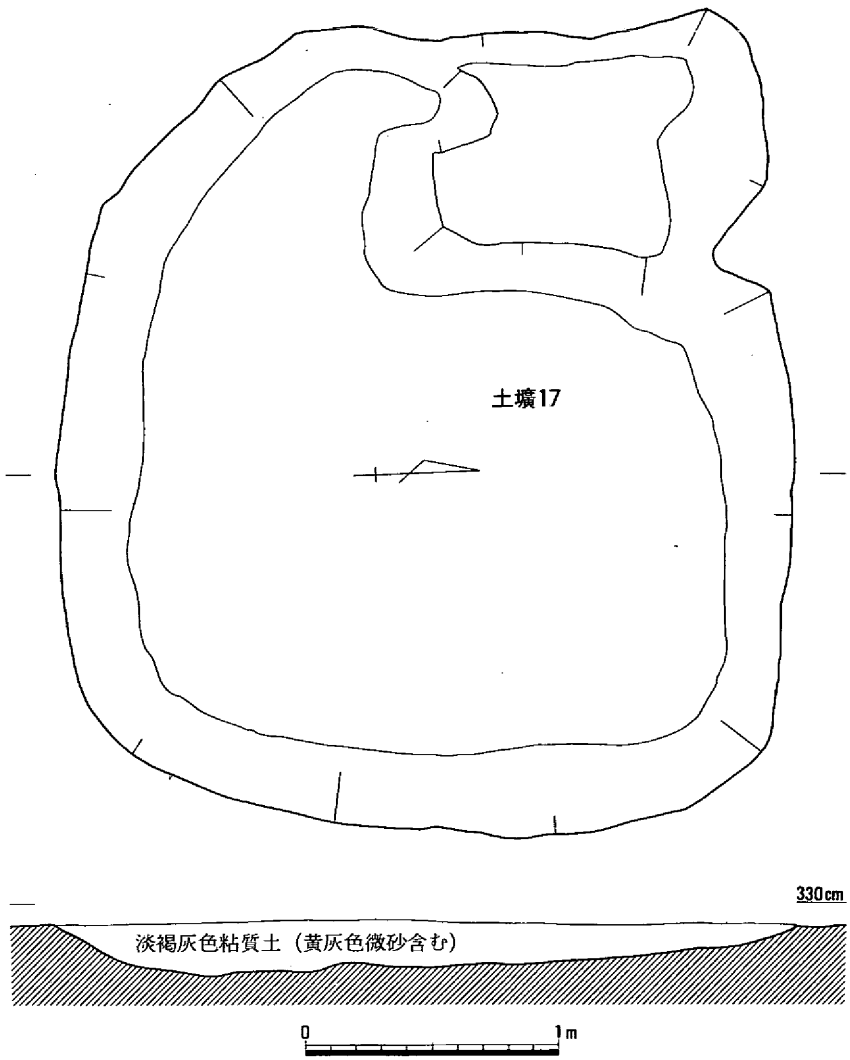
土壙13の東10ｍに位置する。溝32に切られ、全容は不明であるが、現状で、長軸353cm、短軸188cm、深さは最深部で16cmを測る。時期は中世と考えられる。　（山本）





第88図　北方横田遺跡２区土壙14・15・出土遺物（1/30・1/4）





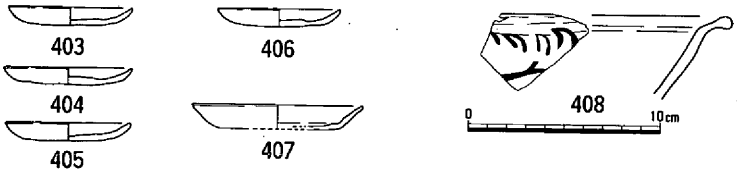
第89図　北方横田遺跡２区土壙16・17（1/30）

土壙16（第78・89図）

土壙15の北西１ｍに位置する。平面形は206㎝×170㎝の隅丸長方形を呈し、断面形は皿形で、深さは９㎝を測る。遺物の出土はみられないが、検出状況から時期は中世と考えられる。　（山本）

土壙17（第78・89・90図）

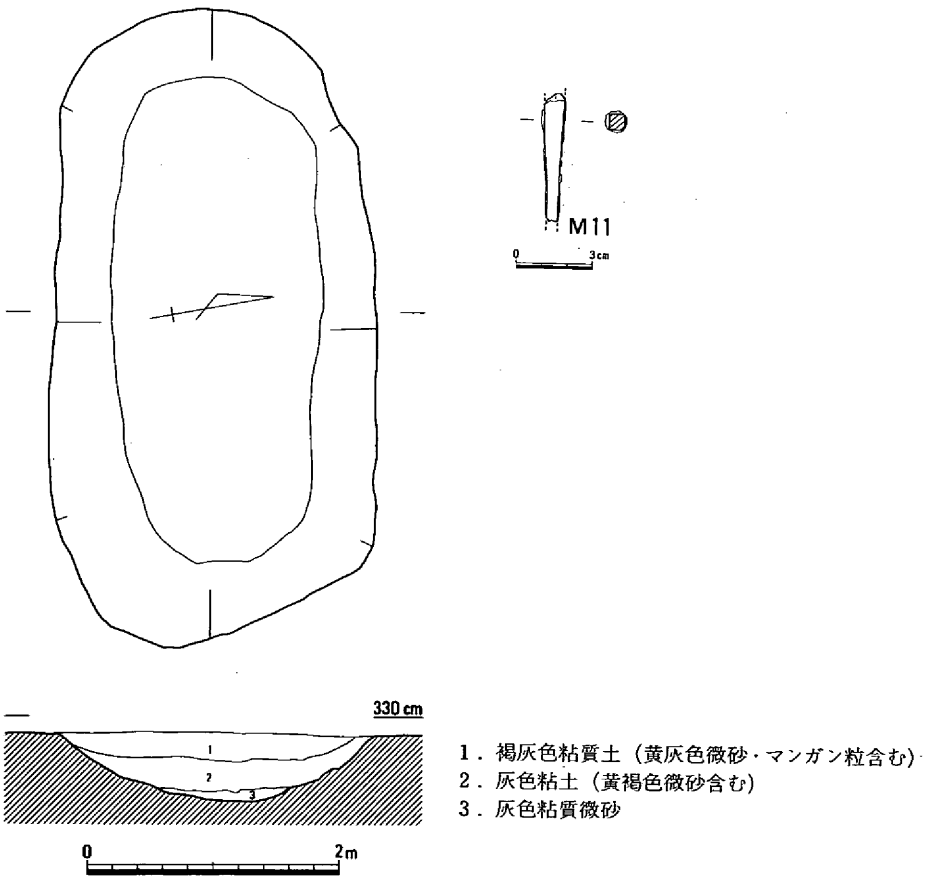
土壙16の東約13ｍに位置する。平面形はいびつな隅丸方形を呈し、主軸となる東西軸が309㎝、南北軸が297㎝を測る。断面形は皿形で、最深部の深さが検出面より21㎝、埋土は淡褐灰色粘質土の一層のみであった。遺物は、土師器の小皿403～407、青磁の鉢408などが出土しており、時期は中世であると考えられる。　（山本）



第90図　北方横田遺跡２区土壙17出土遺物（1/4）

土壙18（第78・91図）

土壙17の西２ｍに位置する。平面形は505×264㎝のいびつな長方形で、埋土は３層をなし、深さ54㎝を測る。遺物は鉄製の釘M11があり、土壙墓の可能性もある。時期は中世と思われる。　（山本）



第91図　北方横田遺跡２区土壙18・出土遺物（1/30・1/3）

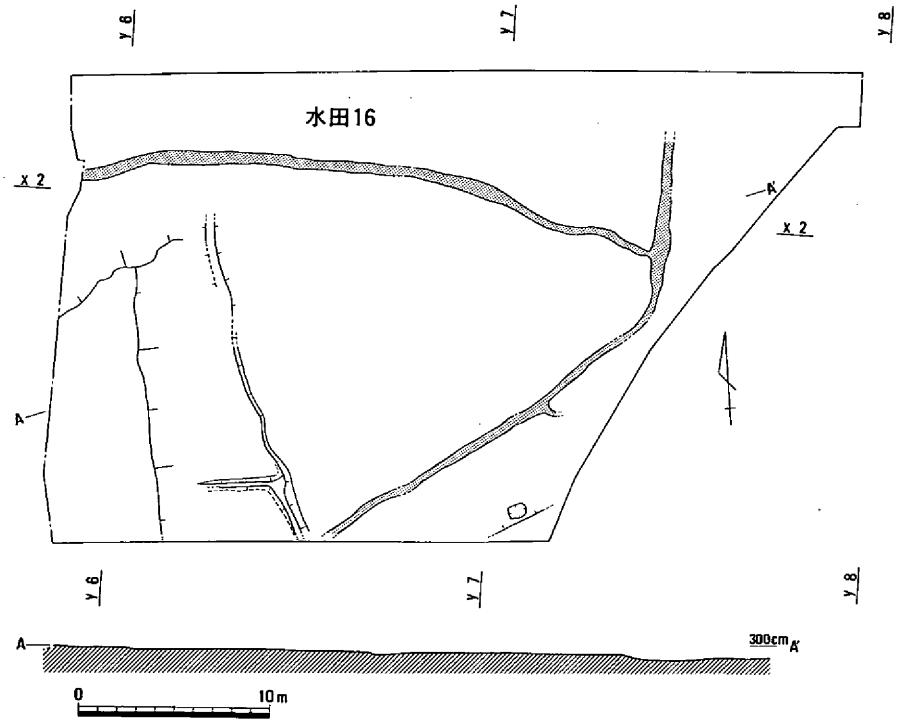
(3) 水　　田

水田16（第92図）

北方横田遺跡1区西半で検出された水田で、網かけ部分は畦畔を、それ以外は水田痕跡を示している。この水田は平安期の大溝が埋没した後に形成されたもので、東西方向に延びる畦畔は大溝の南岸に対応している。この畦畔より北側、すなわち旧大溝にあたる部分の水田層は非常に厚く、他と異なり耕作による攪乱痕跡が残るほど短期間しか使用されなかったものである。時期は、中世と考えられるが、土層観察から複数面が確認されている。（椿）

水田17（第93・94図）

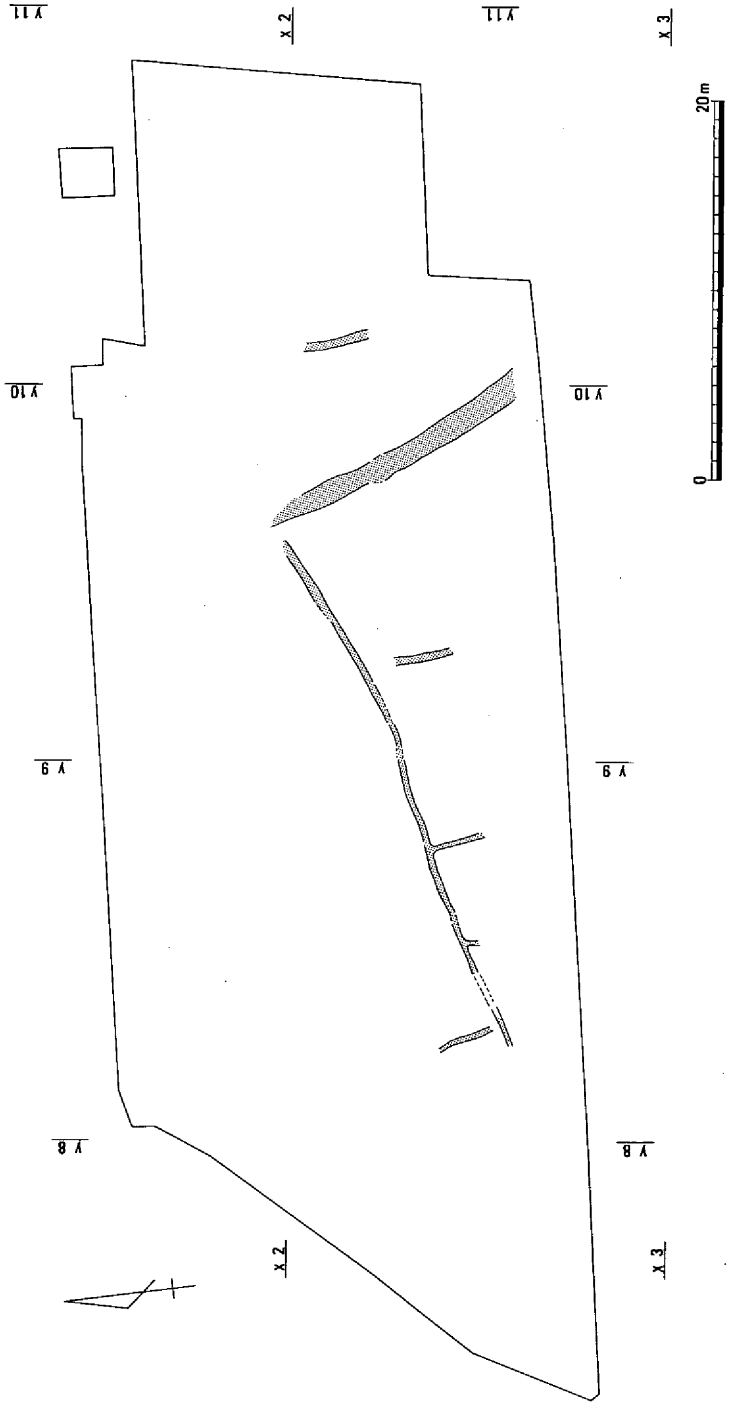
北方横田遺跡1区東半部で最初に検出した水田層である。畦畔はいずれも痕跡であり、特に大畦についてはマンガンバンドとして検出したものである。この地点は厚い中近世の水田層を重機により取り去った後検出作業を開始したために、時期については不明確な点が多いが、土層関係から、大畦痕跡は中世以降の水田に、他は古墳時代～古代にかけてのものと推定される。（椿）



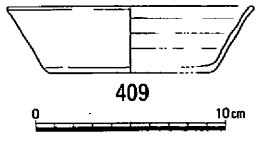
第92図　北方横田遺跡1区水田16（1/400）

(4) その他の遺構・遺物

北方横田遺跡では近世の遺構も若干検出されている。近世の遺構としては、土壙が最も多い。x2・y15の位置で2基ずつ切り合い関係をもちながら、4基の土壙が東西に並ぶ状態で検出されている。上部はかなり削平を受けているが、規模は1.3～1.7mの円形と方形を呈し、深さは40～50cmを測る。出土遺物は無い。これらの土壙は野壺として使用されていたものと思われる。その他に中世の時期と思われる溝や土手状の高まりなどが検出されている。（松本）



第93図　北方横田遺跡２区西半水田17（1/400）



第94図　水田17出土遺物（1/4）

第３節　北方中溝遺跡の概要

１．概　　要

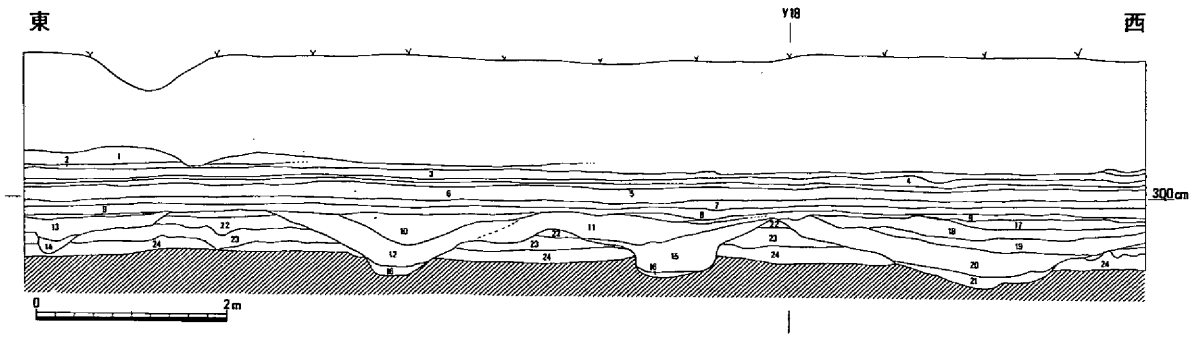
北方中溝遺跡は、北方横田遺跡と道路をはさんで東側に位置する。そして北方地蔵遺跡とはＪＲ津山線を境としてその西側に接する。報告書の記述は、調査区は西側の１区と東側の２区に分割しているが発掘調査は、１～10区まで分割して実施した。

発掘調査区域の大半は、国際児童年記念公園「子供の森」の南側にあたり、早くから駐車場や簡易舗装された進入道路として造成利用されていた。また戦前には、農業試験場の構内の一画であったことから、かなり深い部分まで掘削が及び構造物の基礎などが残存していた。そのため、現在まで利用されていた用水路とともに、遺構の存在が確認できなかった場所も多い。さらに生活道路や用水路などが供用されているため、止むを得ず発掘調査の実施を断念した箇所もある。

遺跡の発掘調査は、1989（昭和64）年度に北側の街路・側溝部分の狭長な区域の着手に始まる。平面的な遺構の検出には大きな困難を伴ったが、土層断面の観察によって北方横田遺跡とほぼ同様な遺構の存在や、層位が確認された。そして1991（平成２）年以降、発掘調査を継続した。

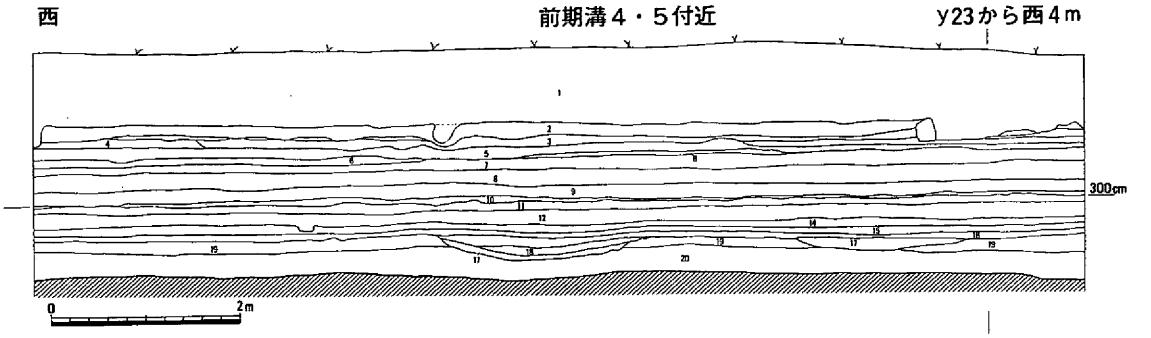
１区の南側の岡山放送株式会社（OHK）の社屋や浄化槽の建設部分では、事前に発掘調査が行なわれ、弥生時代前期および後期の水田遺構・溝など北方横田遺跡とほぼ同様な成果が得られており、発掘調査実施の際にはそれらの成果についても認識していた。

発掘調査を行なった広範な範囲で、まず検出されたのは古代から中世にかけて存続したと考えられる溝である。溝というよりは「川」といった方が適切かもしれないが、北東方から南西方向の流路を示す長大な遺構である。出土遺物も多量に埋没していたため、周辺に集落の存在が予想されたが、発

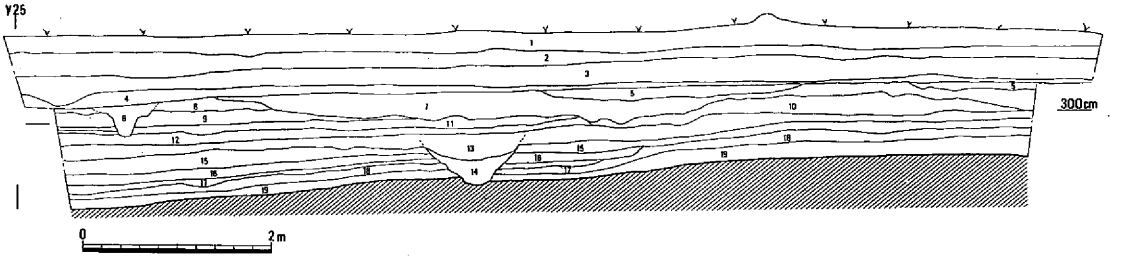


1．黄灰色微砂質土
2．暗黄灰色粘質土（水田層）
3．淡灰色土
4．明黄色微細砂質土
5．淡灰色土
6．淡黄色細砂質土（砂層）
7．白灰色粘質土
8．灰色粘質土
9．淡黄褐灰色微細砂質土（水田洪水砂層）
10．淡褐灰色土（洪水砂層）
11．褐灰色土（微砂層）
12．褐灰色微砂質粘質土
13．褐灰色粘質土
14．灰色微砂質粘質土
15．灰青粘質土
16．灰青粘質土
17．暗褐灰色粘質土
18．灰褐色土（黄色ブロック含む）
19．褐灰色土
20．灰青色粘質土（黄色ブロック含む）
21．暗黒褐灰色青粘質土（黄色ブロック含む）
22．灰褐色土
23．黄色土（灰色土ブロック含む）
24．黒褐色土

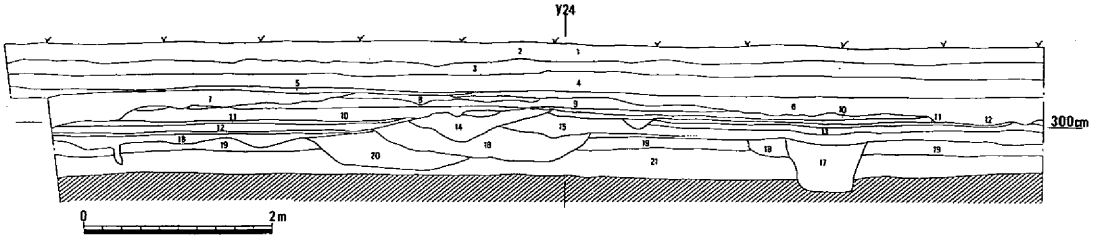
第95図　北方中溝遺跡１区ｙ18ライン付近土層断面図（1/80）



1．客土（造成土）
2．灰色土
3．暗灰黄色土
4．黄灰色土
5．淡灰色土
6．灰黄色土
7．灰色粘質土（粗砂（白）を含む）
8．淡黄灰色土
9．淡灰色土
10．灰黄色土（洪水砂）
11．淡灰褐色土（弥生後期水田層）
12．暗灰色土（弱粘）
13．灰色土
14．明黄色土
15．暗黄灰色土
16．灰黒色土（弱粘）
17．暗灰色粘質土（上層とほぼ同じ）
18．暗黄灰色土
19．灰黒褐色土（弥生前期水田面）
20．暗灰黄褐色土



1．水田耕土
2．淡青灰色粘質土
3．褐灰色砂質土
4．灰色土
5．ザラ目粗砂質土
6．砂を含む灰色粘質土
7．淡灰褐色細砂質土
8．黄灰色土
9．淡白灰土
10．灰色粘質土
11．淡灰黄色土
12．灰黄褐色土
13．灰混じり暗灰褐色粘質土
14．青灰色微砂質粘質土（木炭を含む）
15．褐灰色土
16．明橙黄色土
17．淡褐灰色粘質土
18．黒褐色土
19．暗灰色粘質土

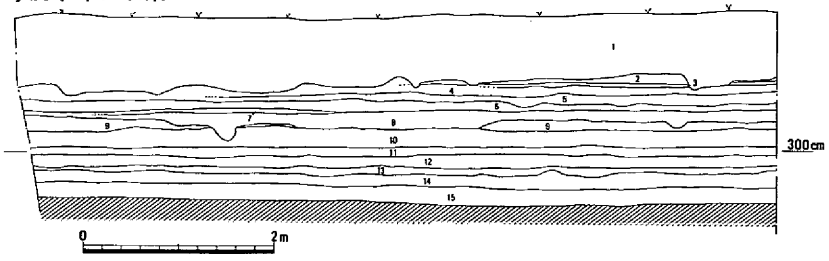


1．水田耕土
2．水田耕土
3．淡青灰色粘質土
4．褐灰色砂質土
5．淡褐灰色土
6．淡灰色土
7．明黄～灰色粗砂質土
8．黄褐灰色砂質土
9．明灰色土
10．黄灰色土
11．明黄色微砂質土（洪水砂層）
12．灰黄色褐色土
13．明黄灰色粘質土
14．淡灰褐色土
15．くすんだ灰黄色土
16．淡灰黄褐色土（やや粘質）
17．暗褐灰色土（黒褐ブロックを含む）
18．淡褐灰色土
19．灰黒褐色土
20．淡灰褐色土
21．淡青灰色粘質土

第96図　北方中溝遺跡１区・２区西半部土層断面図（1/80）

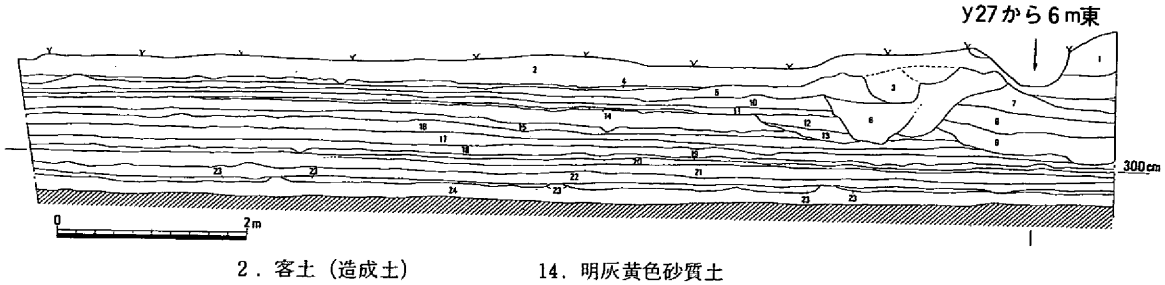
掘調査の対象範囲では、具体的な生活遺構は確認されていない。北方地蔵遺跡では、水田遺構も検出されているが、中溝遺跡ではそれも明らかではない。第95図の第５層は、古墳時代の水田層と考えられ須恵器などの出土遺物も散見する。この層は調査区のほぼ全体にみられるが、明確な畦畔が確かめられたのは１区の東側の一画の水田20だけである。弥生時代後期後半の水田遺構は、洪水砂に覆われた明瞭な畦畔痕跡を残し、１・２区のほぼ全面でその存在が確かめられた。ただ、１区の東端部（旧中溝８区）では第96図中段の土層断面図のように微高地の高まりが確かめられ、集落の存在が推定されたがやはり古代～中世の溝によってそれを確実に認識することができなかった。弥生時代後期後半以前でも溝が多数検出されているので、水田遺構についてもおそらく踏襲されていったことが推察される。しかし、層序的に整然とは検出されずそれぞれの溝について給水・排水などの有機的な機能については不明である。弥生時代前期の水田については北方横田遺跡と同様であるが、この水田下層から２条の溝（溝１・２）が検出された。いずれも前期前半以前、縄文時代の可能性もある。（岡田）

y25ライン以東



1．客土（造成土）
2．灰色土
3．黄色土
4．淡褐灰色土
5．淡褐灰色微砂質土
6．淡黄灰色微砂質土
7．黄灰色土
8．淡黄灰色微砂質土
9．淡黄灰色微砂質土
10．淡黄灰色微砂質粘質土
11．淡灰色粘質土
12．淡褐灰色粘質土
13．明灰黄色微砂質土（洪水砂層）
14．淡灰色粘質土（水田層）
15．暗灰褐色土

y27から６m東



2．客土（造成土）
3．暗灰色微砂質土
4．黄灰色土
5．淡黄色土
6．灰色微砂質土
7．灰褐色粘質土
8．黄褐灰細砂質土
9．砂質土
10．青灰色土
11．淡灰色土
12．黄灰色微砂質土
13．白灰色砂質土
14．明灰黄色砂質土
15．淡褐灰色微砂質土
16．淡黄灰褐色砂質土
17．淡黄灰褐色砂質土（微砂質土）
18．青灰色粘質土
19．明灰黄色洪水砂質土
20．淡褐灰色粘質土
21．褐灰色粘質土
22．淡黄色土
23．黄色土（黒褐色土混じり）
24．黒褐色土

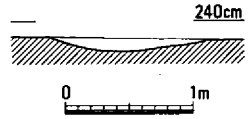
第97図　北方中溝遺跡２区東半部土層断面図（1/80）

２．弥生時代前期前半以前の遺構・遺物

(1)　溝

溝１（第98・103図）

北方中溝遺跡１区の西端、弥生前期の水田１の下層から検出された。北東方向から南西方向にほぼ一直線に検出された。幅約１ｍ、深さ約５㎝、検出全長は約16ｍである。肩の部分は凹凸が目立ち、溝も掘削が未熟な点と理解される。埋積土は、黒褐色土であるが、出土遺物はない。溝３あるいは、水田１より明らかに古く、縄文晩期の可能性も強い。　（岡田）

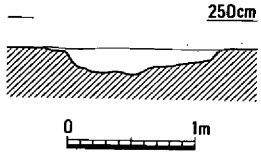


第98図　溝１土層断面図 (1/60)

溝２（第99・103図）

１区中央部のｙ20付近で、弥生時代前期の水田層下から検出された溝であり、流路をほぼ南北方向において、溝１の東約40ｍに位置する。

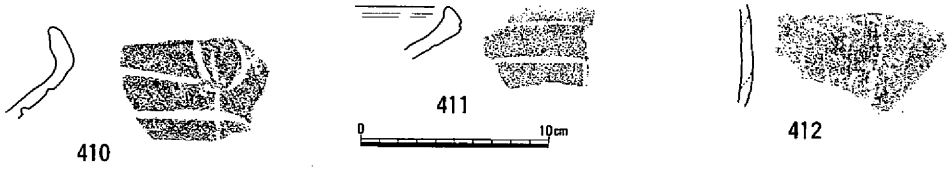
深さ20㎝、幅120㎝前後の規模であるが、不規則に蛇行し、形状も不安定で、検出された地点の周辺地形が浅い谷地形であることから、小河道とでも呼ぶべきものかもしれない。遺物は出土していない。　（光永）



第99図　溝２土層断面図 (1/60)

(2)　その他の遺構・遺物

２条の溝以外に明瞭な検出遺構はない。出土遺物としては、410～412の縄文土器がある。いずれも後世の遺構、おもに古代～中世の溝から出土しているため、ローリングを受けてかなり摩滅している。410・411は、いずれも深鉢で屈曲する口縁部が特徴的である。沈線文様と縄文あるいは磨り消し縄文の痕跡が看取される。412も体部の全体は不明であるが深鉢と考えられる小片である。　（岡田）



第100図　北方中溝遺跡包含層ほか出土縄文土器（1/4）

３．弥生時代前期の遺構・遺物

(1)　水　　田

はじめに

北方中溝遺跡の弥生前期の水田の検出範囲は第101図に示すとおり、ほぼ全域にわたっている。２区の西よりの部分すなわちｙ24～25ライン付近では、すでに触れたように微高地の高まりが存在し、そのため水田遺構は元から存在しなかった可能性が強い。

水田遺構は、具体的には畦畔の高まりの検出によって明確となる。水田面は基本的に黒褐色の比較的堅硬な土壌として検出される。この直上層にあるのが第96図上段に示す第16層や第97図の第22層の淡黄色土層である。これがいわば、洪水砂のように全面を薄く覆っているので、ある程度水平に堀り

下げてゆくと黒褐色～灰黒褐色の水田畦畔が検出される。

畦畔の幅は平均すると約40～60㎝前後で、周囲の水田面からの高さは約３～５㎝ときわめて低平である。

水田の形態としては、水田１のように比較的大きな区画の水田と小さな区画の水田とが、不揃いな形態で共存するもの、水田２のようにいびつな方格が連なる形態、水田３・４・７のように短冊形に検出されるものなどがある。

水田遺構と一体となって検出されたのが溝３～６の溝である。溝の肩が畦畔のように盛り上がって検出される特徴があり、北方横田遺跡の溝５と同様である。これらの溝は、水田の給・排水と密接に関わることはあきらかであろう。

これらの溝や畦畔の方向は、ほぼ北東から南西方向を指し示し、基本的には旭川の安定した自然堤防上に存在し、その地形に沿っているといえる。

水田の時期については、水田からの出土遺物がきわめて少量であるため断言できないが、水田１と共存する溝３からの出土土器などから前期中葉に比定される可能性が高い。　（岡田）

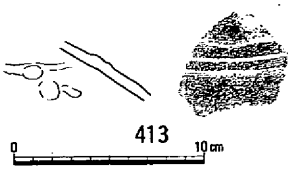
水田１（第102・104図）

北方中溝遺跡１区の西端で検出された。東よりの小区画水田と溝３に接して検出された西寄りの幅広で短冊形の水田形態が共存する。

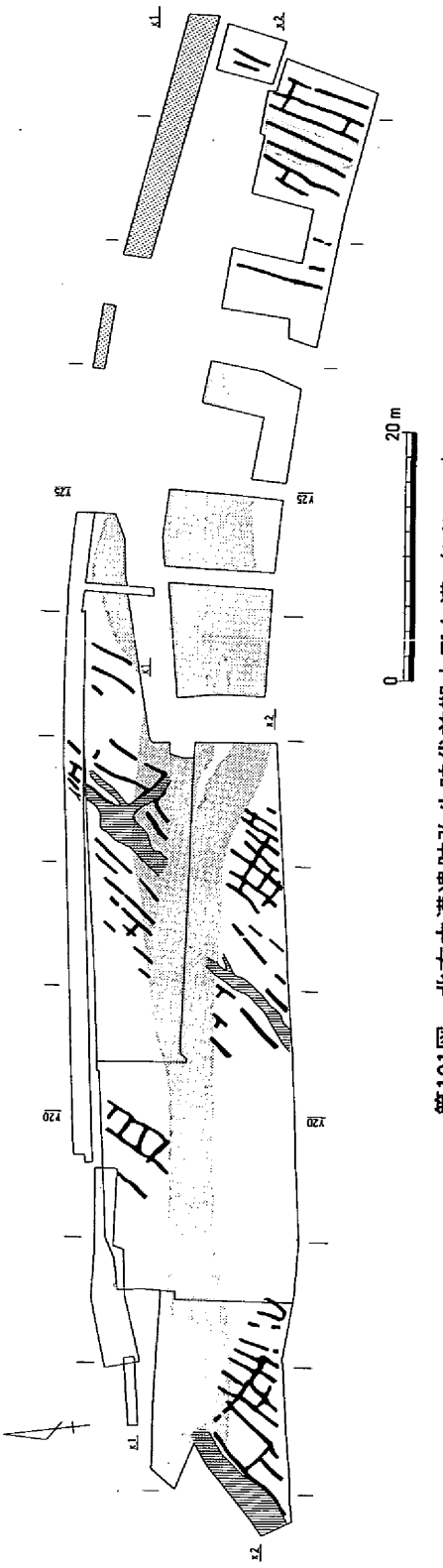
小区画水田は、もっとも小さいもので約６㎡前後を測り水田６などと近似する。

水口は一ケ所であるが、全体に畦の高さが低いため不明瞭である。

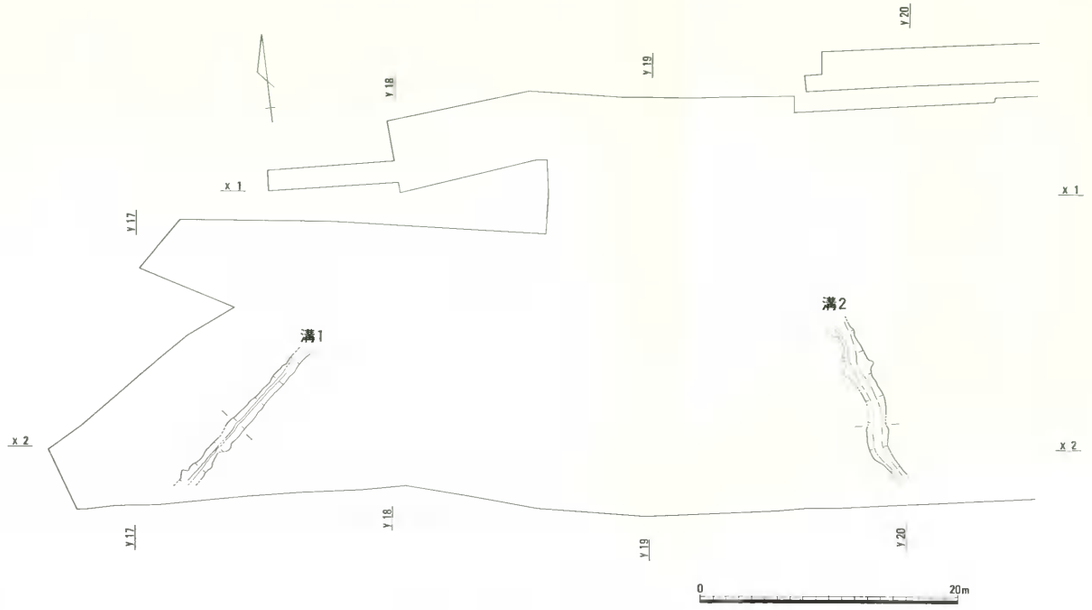
後述の溝３からの出土土器414や第102図の413の壺形土器により、前期中葉の水田であったことは確実であろう。　（岡田）



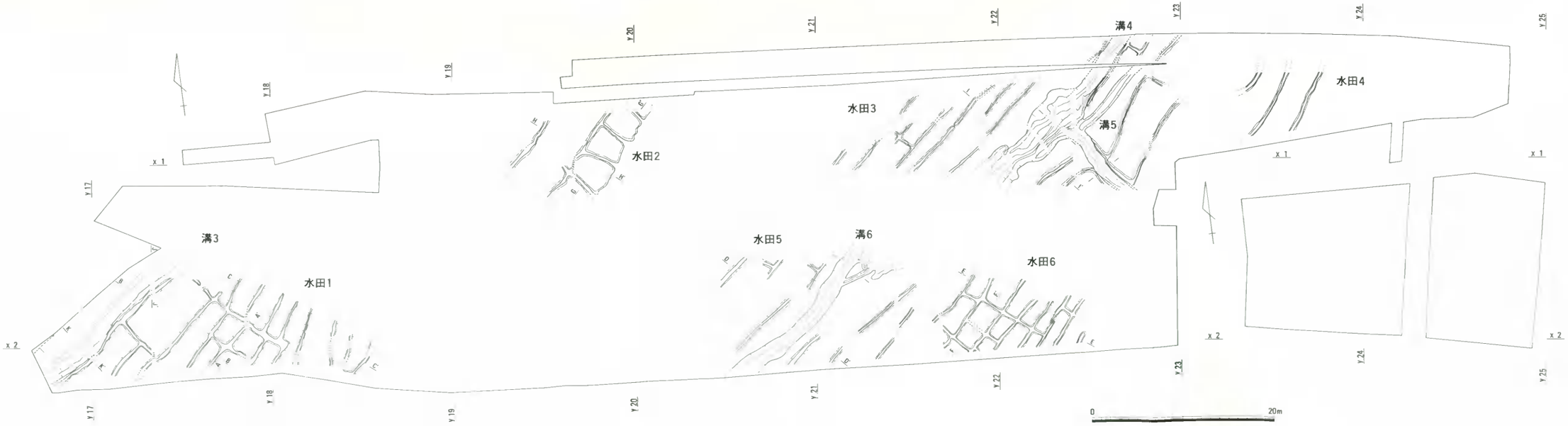
第102図　水田１出土遺物（1/4）



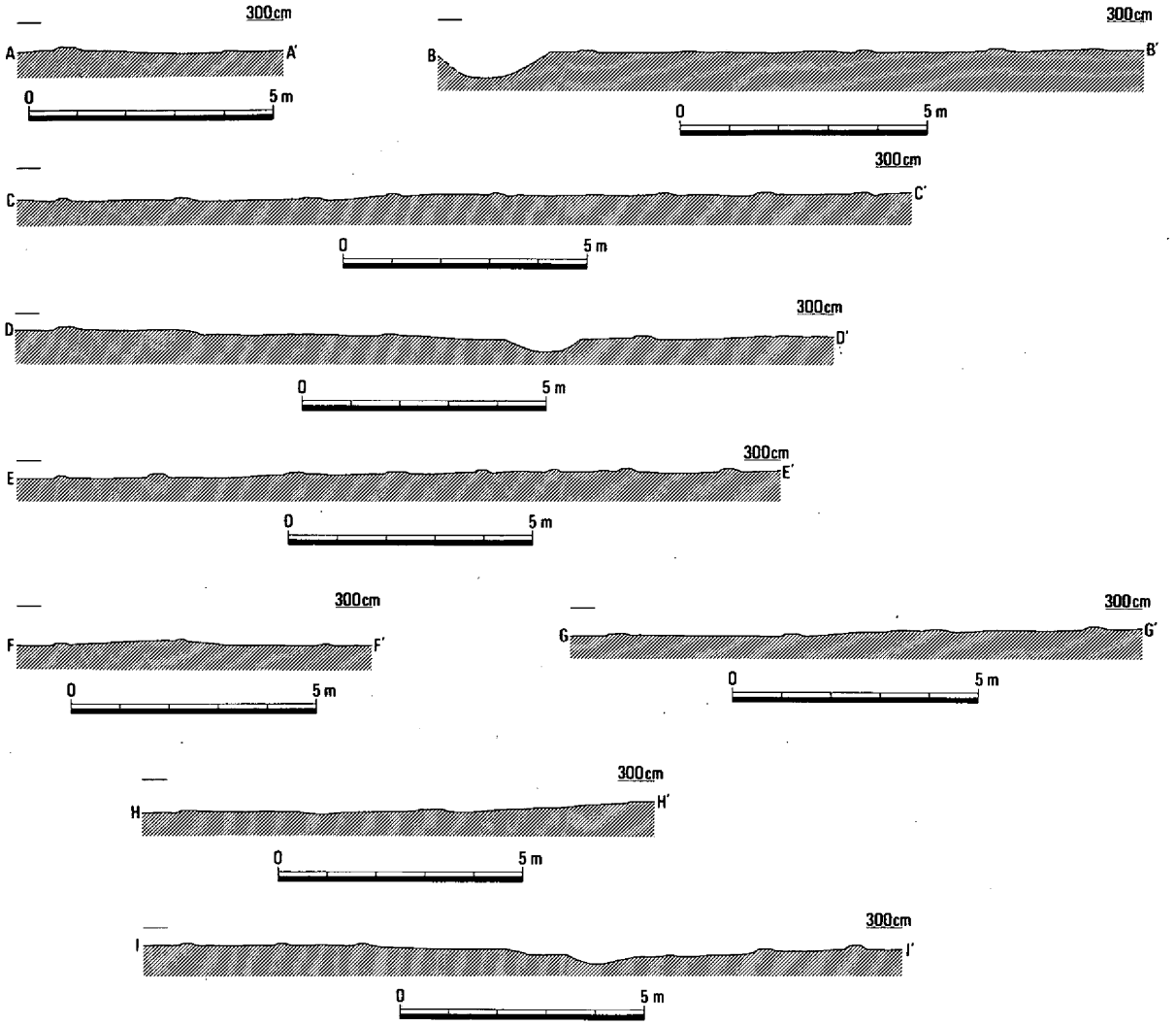
第101図　北方中溝遺跡弥生時代前期水田と溝（1/1,250）



第103図　北方中溝遺跡１区溝１・２（1/400）



第104図　北方中溝遺跡１区弥生時代前期遺構図（1/400）



第105図　北方中溝遺跡１区水田１～６断面図（1/150）

水田２（第104・105図）

１区中央部のｙ20付近北半で検出された。海抜2.75～2.82ｍの水田面は北東に高く、南西に低い傾向にあり、H'より南東部の高所では畦畔等が確認できない。３～４ｍ間隔につくられる北東－南西方向の畦畔が優先されるようで、その方向性には水田３・５との共通性がみられる。（光永）

水田３（第104・105図）

溝４の西側に沿って検出された、狭くて長い水田遺構である。水田５に連なることは疑いようもないが、後者の方が畦畔の幅が少し広いようである。畦畔は直線的ではあるが、緩やかな弧を描くような部分もある。出土遺物は皆無である。（岡田）

水田４（第104・105図）

溝４・５の東側に広がる水田である。長方形を基本とするようなやや大きな水田の区画が観察される。東端ではわずか３条のみの畦畔であるが、このｙ24ライン付近からは基盤層がやや高まって微高地となる。しかし、集落の存在を示す遺構は確認されていない。（岡田）

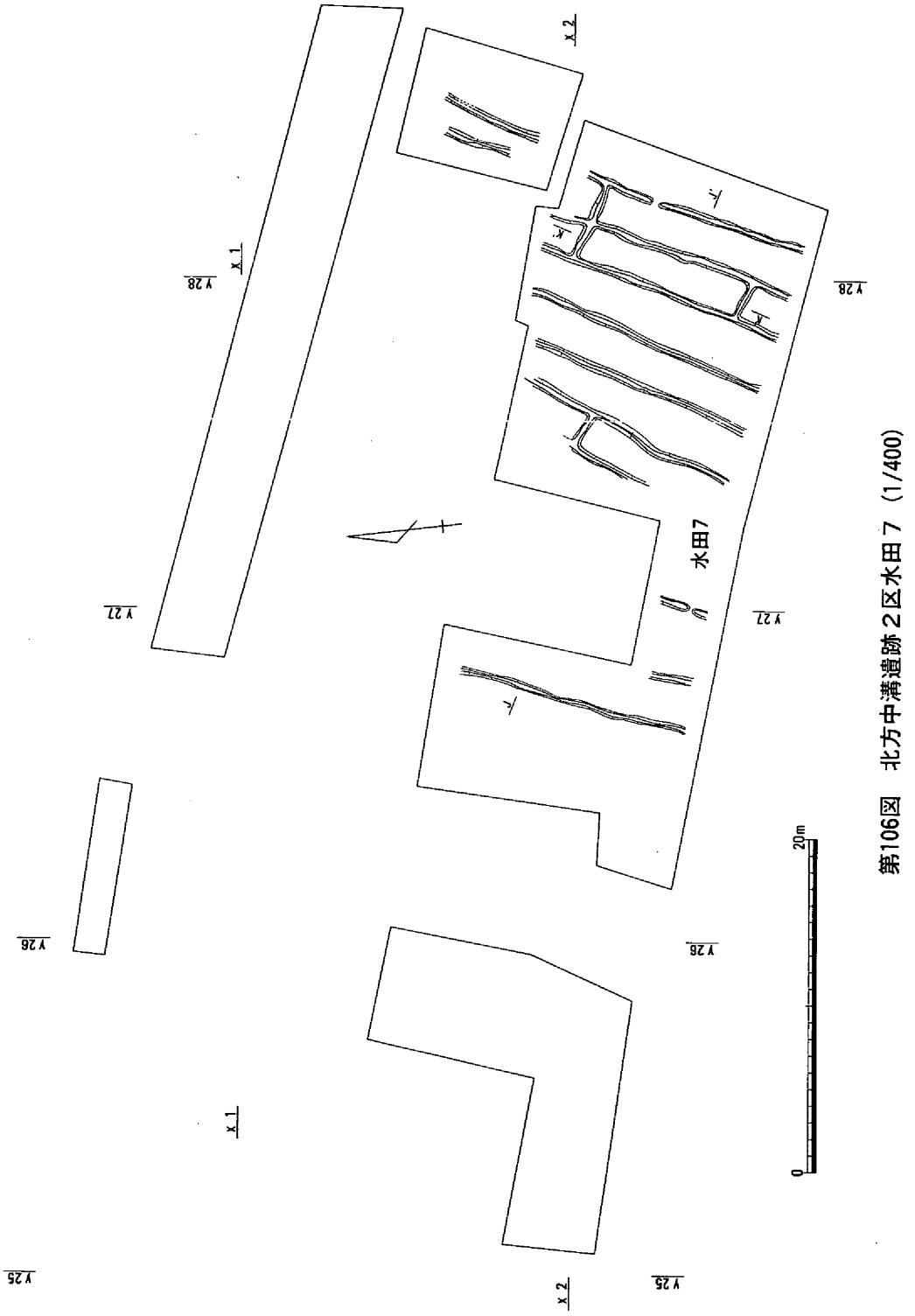
水田５（第104・105図）

１区南東部で水田６の西に検出された。中央部に溝６が位置し、北東－南西方向の畦畔にはこれとの平行関係が認められる。水田面は、溝６付近が海抜2.78ｍで低く、北西・南東方向へ緩やかに高く

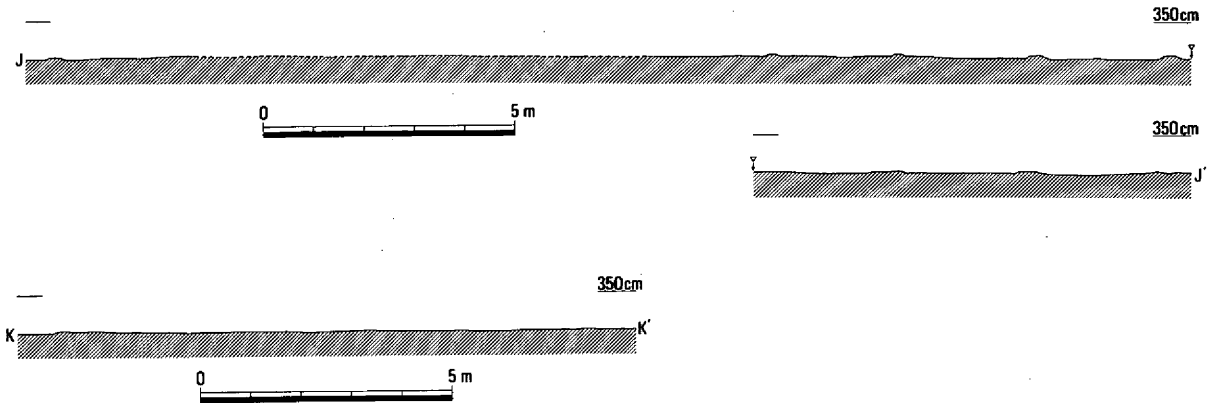
なっている。畦畔はいずれも低く、北西―南東方向はほとんど検出できなかった。　（光永）

水田６（第104・105図）

１区南東隅で検出され、水田３～５と同一面と考えられる。海抜2.85～2.90ｍの水田面は南東方向へ高まり、畦畔は１～２ｍと間隔の狭い北東―南西方向が優先される。これと直交する畦畔のうち、Ｅ―Ｅ′の南西では５列の水田をほぼ貫通するものがみられる。　（光永）



第106図　北方中溝遺跡２区水田７（1/400）



第107図　北方中溝遺跡２区水田７断面図（1/150）

水田７（第106・107図）

北方中溝遺跡２区で検出された。ｙ26ライン付近以西は微高地と考えられる。畦畔は、約1.8～2.6ｍ間隔で狭くて細長い水田区画を形成している。

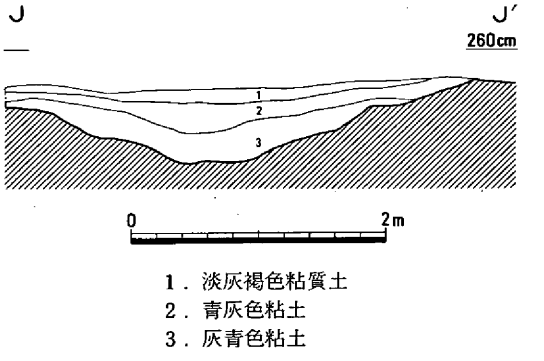
東西方向の畦はわずかであるが、低平であるため発見できなかった可能性もある。南北方向の畦に数箇所の水口が確認された。出土遺物は皆無である。　（岡田）

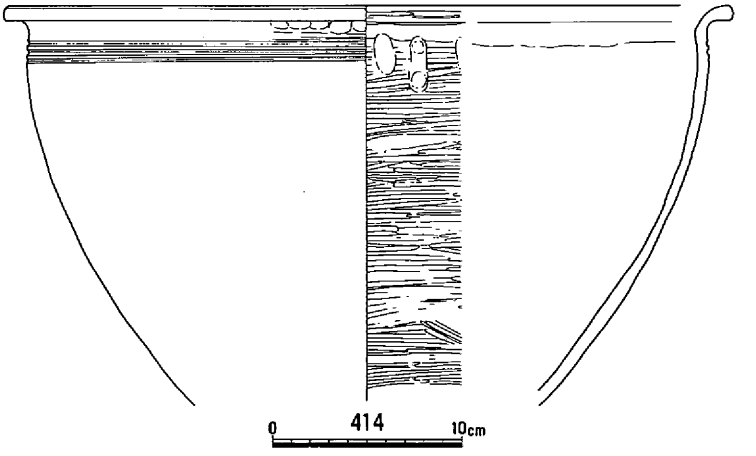
(2)　溝

溝３（第104・108・109図）

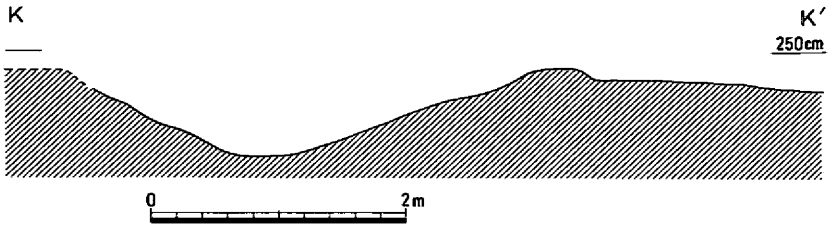
水田１の西側で検出された。検出全長約20ｍ、復元推定幅約４ｍ、深さ約60cmを測る。水田３と同時に検出された。この溝の東肩は水田１の畦であり、やや蛇行する溝に沿っている。溝底は窪んでおり、最下層にはグライ化した灰青色粘土が埋積している。

出土遺物には414の甕のやや大形の破片がある。体部の上位にヘラ描き沈線３条がめぐる。前期中葉の時期を示す重要な遺物である。　（岡田）





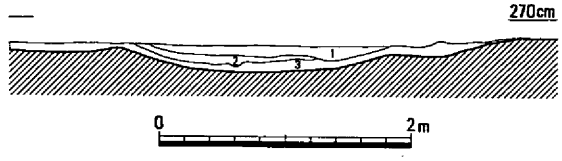
第108図　溝３土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）



第109図　溝３断面図（1/60）

溝４・５（第104・110図）

水田３と４に挟まれてほとんど平行して検出された同時期の溝である。検出層位は、第96図上段の土層断面図によって明確な形状が確認された。溝４は蛇行しながら溝６につながる可能性が高い。



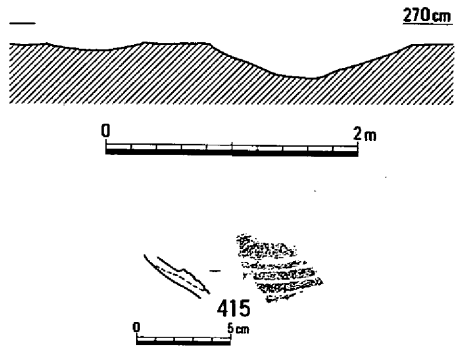
1．白灰粘質微砂
2．暗灰粘質微砂
3．灰褐色粘質土層（炭片を含む）

第110図　溝４・５合流部土層断面図（1/60）

溝４は北東から南北方向に流路をとるが、溝の肩は乱れている。検出部分の中程で、ほぼ直角に東方に枝溝が生じる。そこに溝５も合流する状況が観察される。これらの溝は、水田３～６の給・排水など密接な関わりがあったことが推察される。出土遺物はみられないが、埋積土は溝３とまったく同一であり、同時期と判断してよいだろう。（岡田）

溝６（第104・111図）

１区南東部で、水田５の中央部から検出された。幅1.5m前後、深さ30cm程度の規模で、流路はほぼ水田５の北東―南西方向の畦畔と平行する。北東端部近くで幅40cm、深さ５cm程度の小さな溝が合流するが、これの詳細は不明である。北東方向に検出された溝４と同一の遺構と考えられ、周辺の水田に伴う用排水路と考えられるが、肩口に土手状の構造は見られない。



弥生土器の壺415が出土しており、弥生時代前期前葉に比定される。（光永）

第111図　溝６断面図・出土遺物（1/60・1/4）

(3)　土　　壙

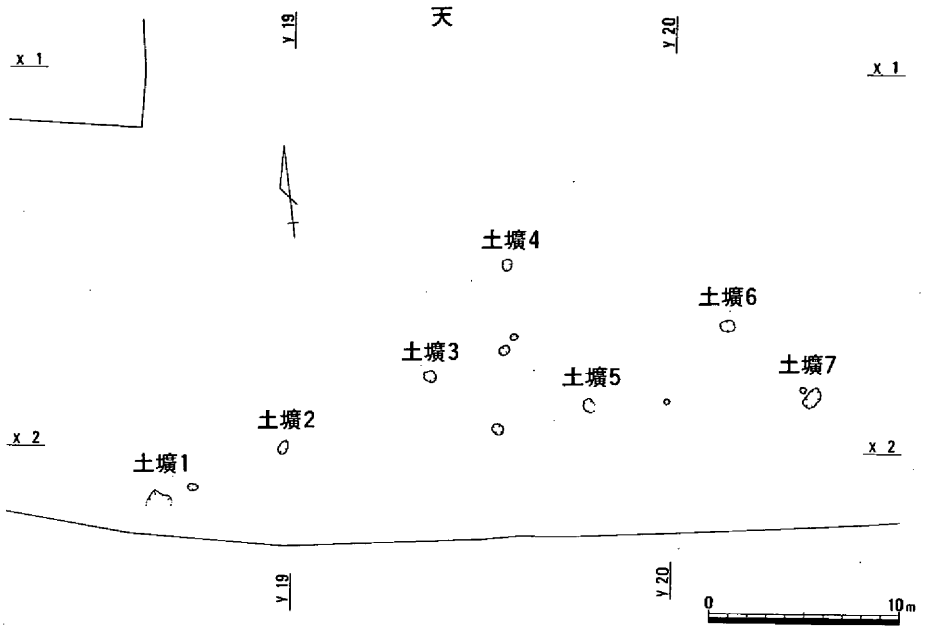
土壙１（第112・113図）

土壙１～７は、１区南半中央部のｙ19～ｙ20周辺に所在し、時期を限定する遺物に恵まれないが、その検出状況から弥生時代前期に属する可能性が高い。

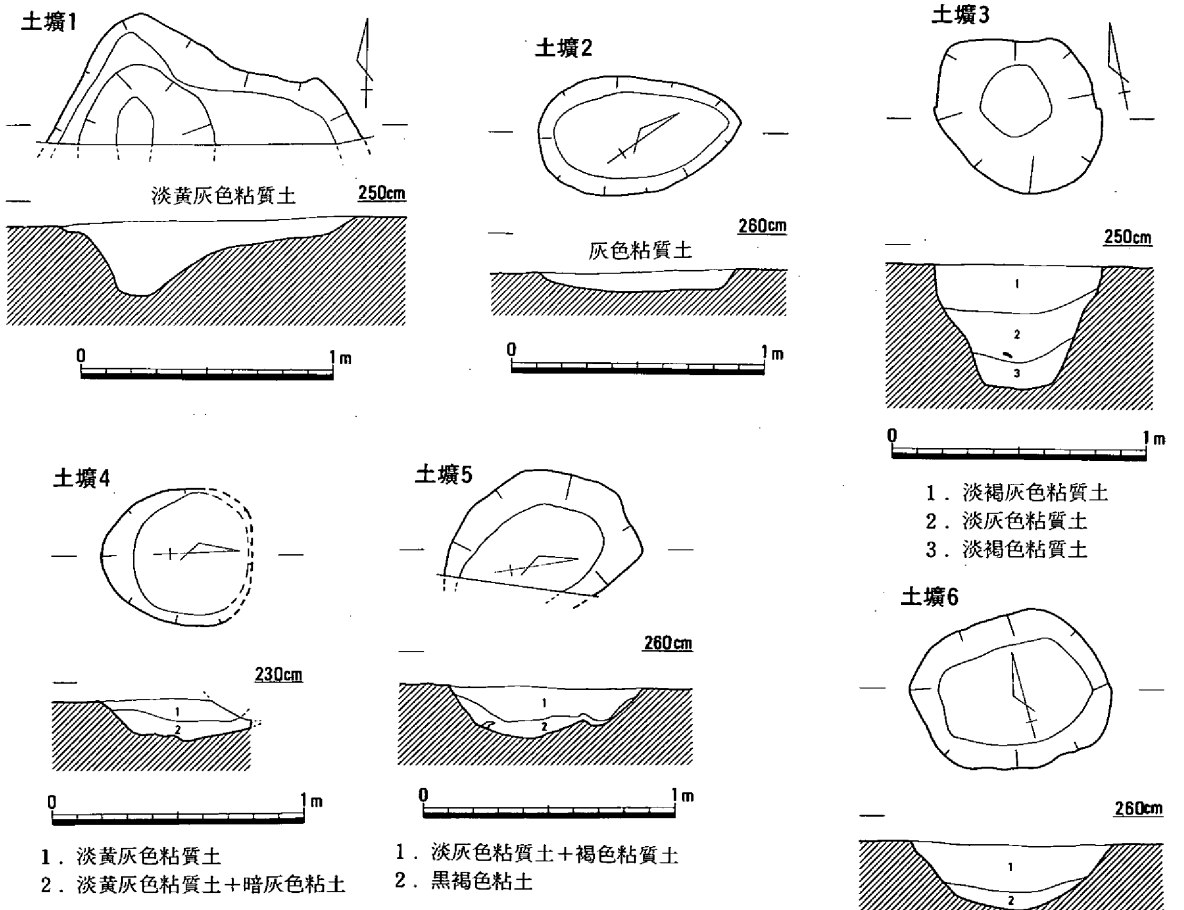
土壙１は、南半を調査区外において全容が不明であるが、最大長115cm、最大幅63cmで、底面は２段になり、深さ30cmの埋土は淡黄灰色粘質土である。（光永）

土壙２（第112・113図）

土壙１の北東６mに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径82cm、短径48cm、深さ８cmを測り、海抜高2.38mの底面はほぼ平坦で、埋土は灰色粘質土である。（光永）



第112図　北方中溝遺跡１区東半土壙群（1/400）



第113図　土壙１～６（1/30）

土壙３（第112・113図）

土壙２の北東約８ｍに位置する。平面形は楕円形を呈して、長径73cm、短径59cm、深さ50cmを測り、底面の海抜高は1.95ｍである。（光永）

土壙４（第112・113図）

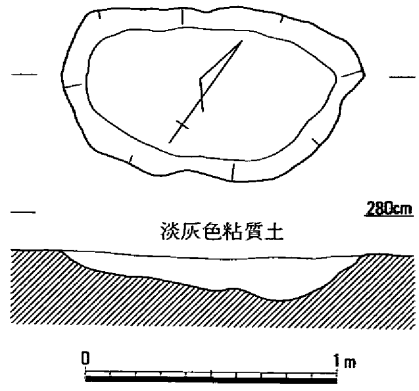
土壙３の北東約6.5mに位置する。北端を欠いているが、54×60×16cm程度の楕円形に復元される。（光永）

土壙５（第112・113図）

土壙４の南東約7.5mに位置し、平面楕円形と想定されて、最大長78cm、最大幅57cm、深さ21cmを測る。（光永）

土壙６（第112・113図）

土壙５の北東約7.5mに位置し、不整楕円形を呈して、73×62×28cmの規模である。（光永）



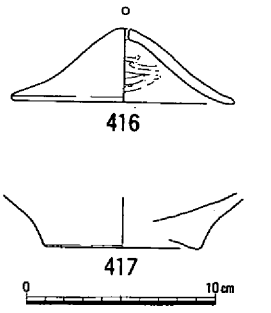
第114図　土壙７（1/30）

土壙７（第112・114図）

土壙６の南東約５mに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長径122cm、短径70cmを測る。底面は東へ傾斜し、最大深さ17cmで、海抜高2.47mである。（光永）

(4)　その他の遺構・遺物

弥生時代前期の遺構としては、以上の水田・溝・土壙以外には認められない。また、明瞭な包含層も認められず、検出遺構からの出土遺物もきわめて少量である。後世の遺構から出土した遺物に416の蓋がある。天井部のほぼ中央に小孔があけられており、紐などを通して使用されたことがわかる。417は、土壙３付近から出土した壺の底部と推定される破片である。外底部はやや揚げ底となっている。いずれも弥生前期中葉に比定される。（岡田）



第115図　包含層ほか出土遺物（1/4）

４．弥生時代中期～後期の遺構・遺物

(1)　水　　田

水田８（第116図）

溝12の両側で検出された水田の畦畔痕跡である。鉄分の凝集によってその存在が認められたが、直接伴う出土遺物はないが、弥生時代中期～後期中頃に比定されよう。（岡田）

水田９（第116図）

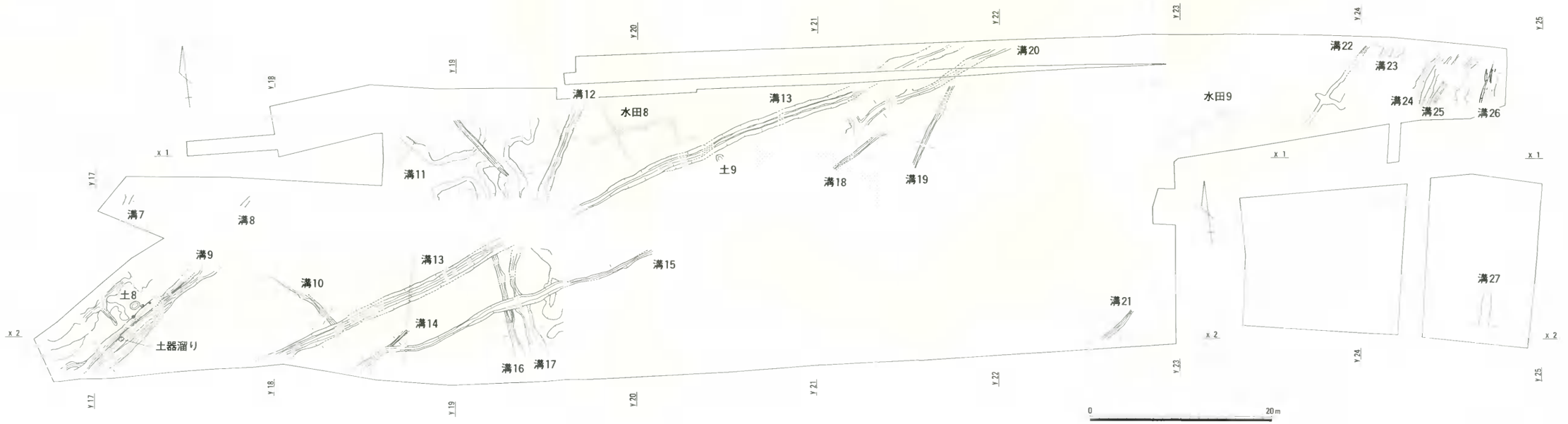
１区の東より、溝19の東約30mで検出された畦畔の痕跡である。水田８と同様な鉄分の凝集によってその存在が確認された。時期は水田８と同様であろう。（岡田）

水田10・11（第117・118図）

１区の西寄りで検出された畦畔である。洪水砂によって埋没した水田遺構で、水田12や水田13とほぼ同時期に存在したと考えられる。後期後半に比定される。水田10はやや小区画である。（岡田）

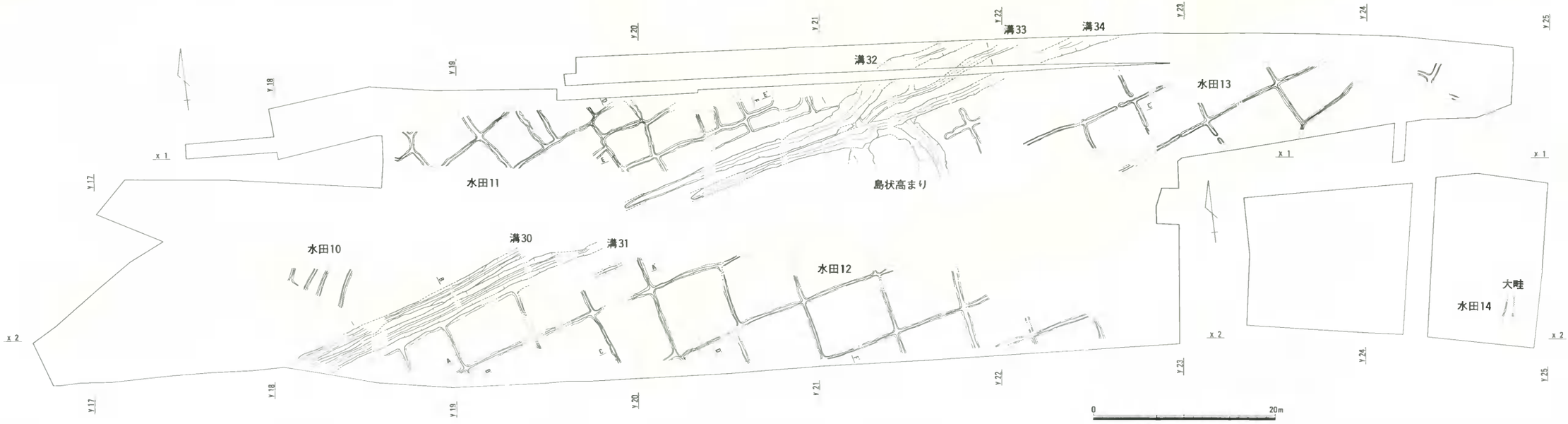
水田12（第117・118図）

１区南半で溝31の南東側に検出され、水田13と同一の面と考えられる。畦畔方向で測ると、長さ75m、幅30mとなる。北東―南西方向の畦畔が優先し、溝31の南岸から５本分を検出したが、その平行関係は北東方向へやや開く傾向にある。北西―南東方向の畦畔は11本を検出したが、南東から北西方



※ 網目は水田畦畔痕跡。
※ 土は土壙を示す。

第116図　北方中溝遺跡１区弥生時代後期遺構配置図（1/400）

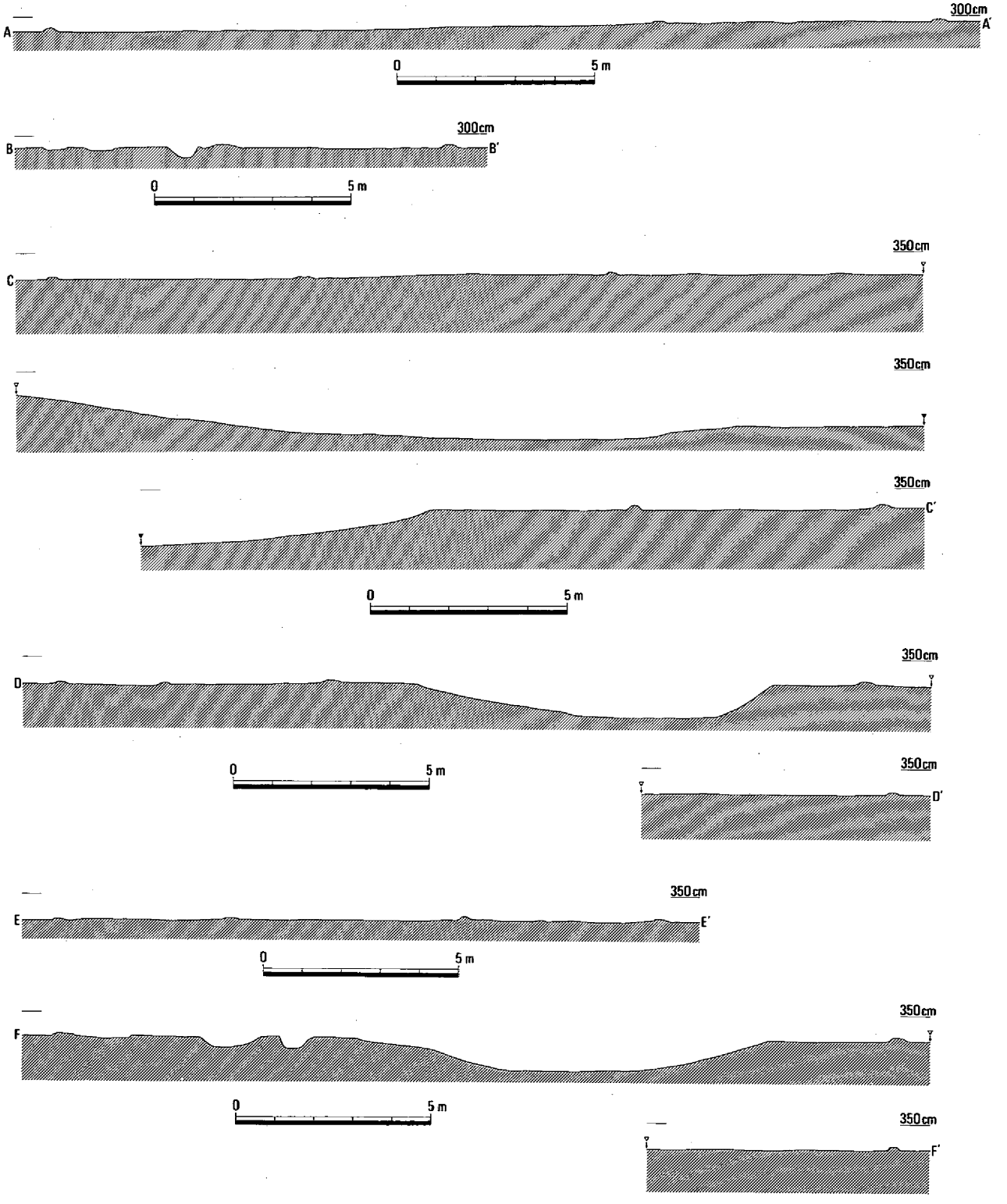


第117図　北方中溝遺跡１区弥生時代後期水田・溝（1/400）

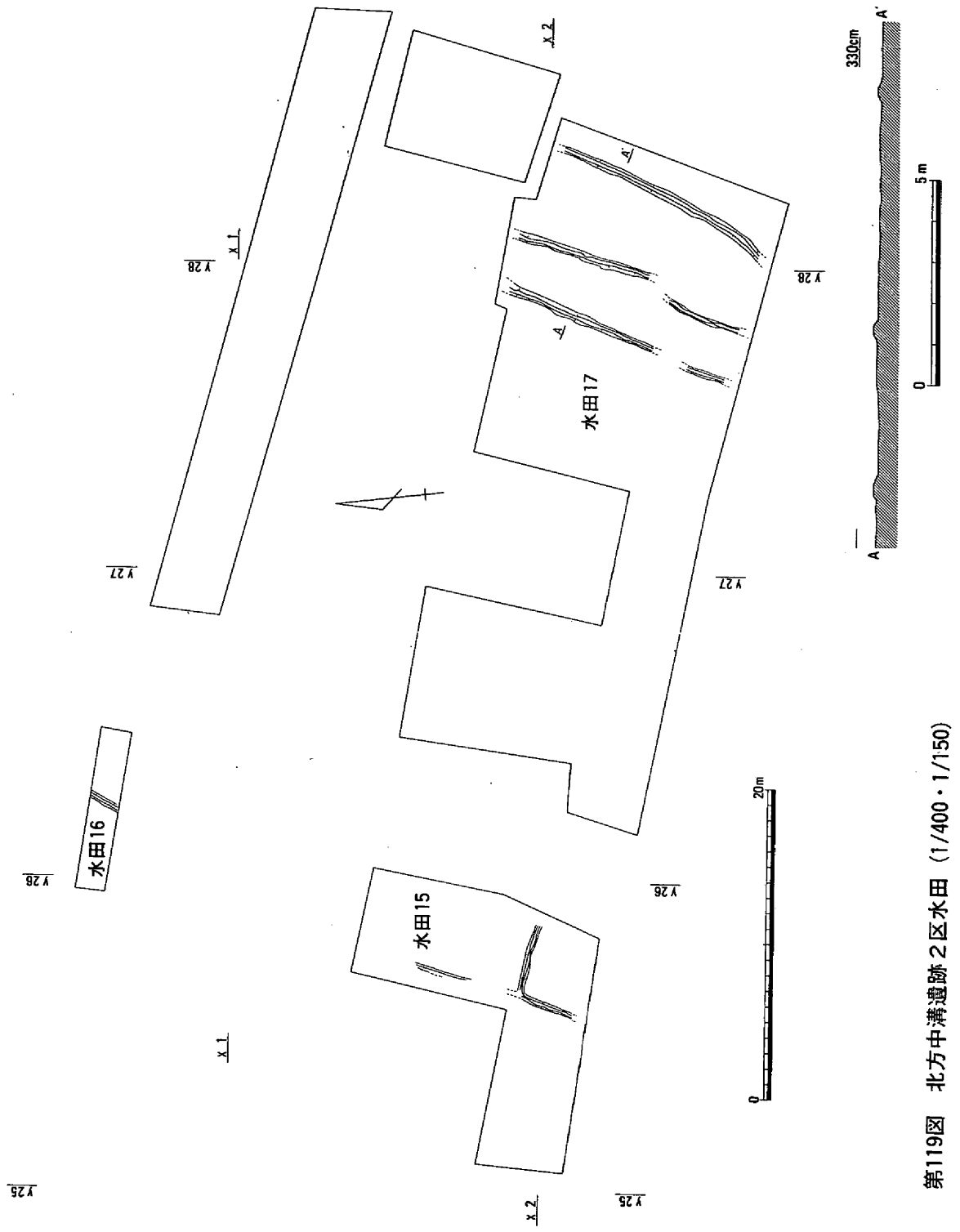
向へ開く傾向にある。いずれにも水口と考えられる切れ目はみられなかった。水田面の海抜高は2.85m～3.25mで、北東に高く南西に低くなっている。水田面の面積推定値の最小は約22㎡、最大は約54㎡である。（光永）

水田13（第117・118図）

１区の東寄りで検出された畦畔が明瞭に残存する水田遺構である。もっとも残りの良い区画では、約30㎡の正方形に近い方形を示している。時期は後期後半と推定される。（岡田）



第118図　北方中溝遺跡１区水田断面図（1/150）



第119図　北方中溝遺跡２区水田（1/400・1/150）

水田14（第117図）

北方中溝遺跡１区の東端の一画で検出された残存状態の良好な水田遺構である。水田12の北東方向の延長線上にあり、ほぼ同一の形状を示す。図版26―２のように畦畔も明瞭である。　（岡田）

水田15・16（第119図）

北方中溝遺跡２区で検出された水田遺構である。いずれも同一の水田と考えられる。水田16は、畦畔がわずかに検出されたにすぎない。　（岡田）

水田17（第119図）

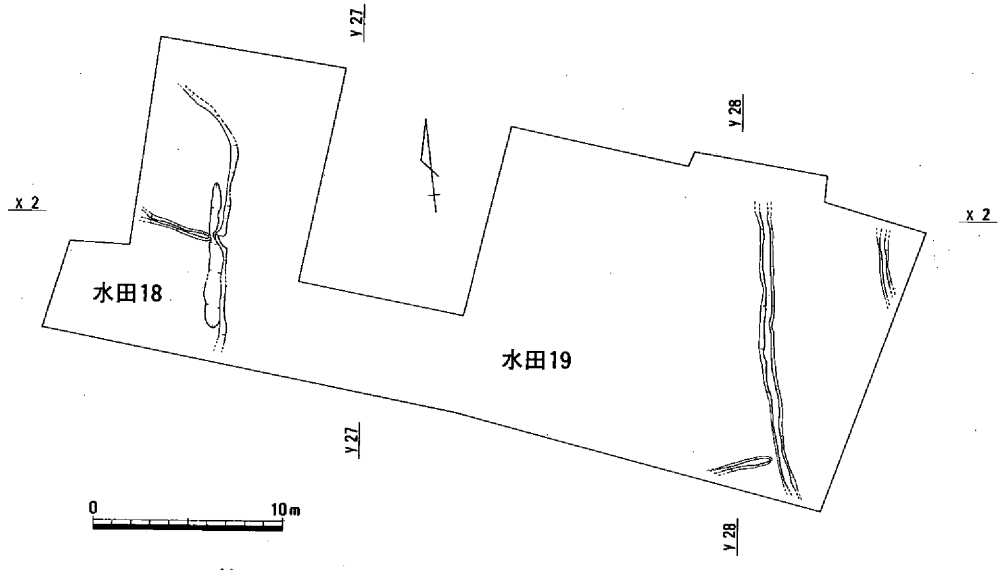
北方中溝遺跡２区の東端で検出された、南北方向のみの畦畔を残す水田遺構である。必ずしも平行した畦畔の方向を示さず、同時に存在した畦畔であるかどうか明らかではない。この地点まで水田遺構が検出されたことから、北方地蔵遺跡の確認調査、全面調査へと展開することになった。（岡田）

水田18（第120図）

北方中溝遺跡２区で検出された、水田15よりは新しい時期に推定される水田遺構である。水田19との関係は不明瞭で、おそらくこれらの間に微高地が存在するものと思われる。（岡田）

水田19（第120図）

北方中溝遺跡２区の東端で検出された。南北方向のほぼ平行する畦畔と、わずかに検出された東西方向の畦によって水田遺構と認識された。水田17よりは新しく、水田18とともに弥生時代終末期あるいは古墳時代にかけて存在した水田であった可能性が高い。（岡田）



第120図　北方中溝遺跡２区水田18・19（1/400）

(2)　溝

溝７・８（第116・121図）

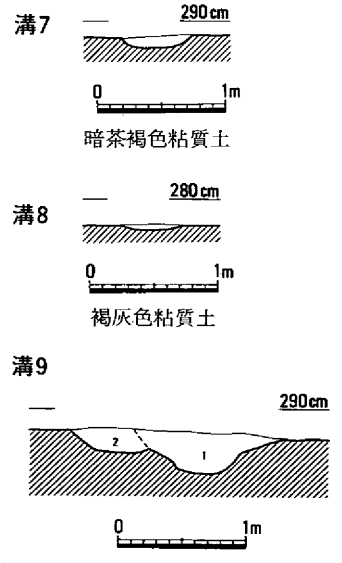
いずれも北方中溝遺跡１区の西端で検出された、北東から南西方向を示す溝である。古代～中世の溝35に南側の大半が失われており、検出された部分も深さ５～10cmと浅い。溝８は、溝９のいずれかの流路につながる可能性がある。出土遺物は皆無であるが、弥生時代後期後半に比定されるだろう。（岡田）

溝９（第116・121～123図）

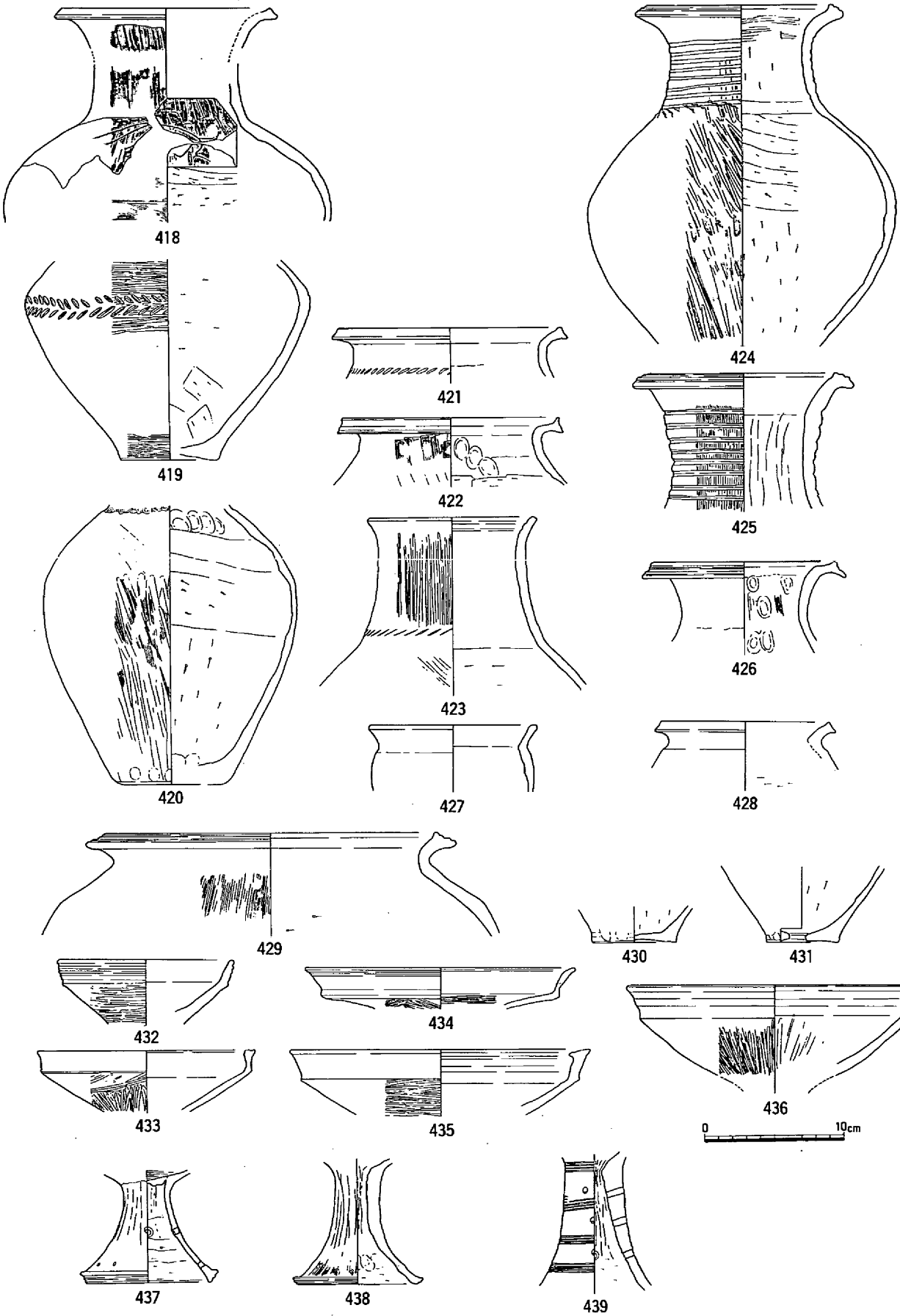
北方中溝遺跡１区の西端、南側で検出された北東から南西方向の溝で、新旧２条の流路が確認されている。断面形は逆台形を示し、幅約50cm、深さ約15～20cm前後を測る。

第121図の第１層は焼土の塊を多く含む淡灰褐色土、第２層は暗灰色粘土が埋積する。

出土遺物には第122図に掲げる多数の土器がある。いずれも上層



第121図　溝７～９土層断面図（1/60）



第122図　溝９出土遺物（1/4）

で出土したもので、破片が大半を占める。

とりわけ418の壺形土器には、胴部の肩部分に鋭い工具による線刻の絵画が描かれており、実物の大きさで第123図にも掲げる。左右の間や上部が欠落しているために完全な形態は確認できないが、脚が４本、尾か頭部と推定される複数の線が左右に見える。したがって、哺乳類の動物がモチーフになっていると考えてよいだろう。

詳細に観察してみると、右の方の前脚は鉤型に屈曲し、しかも細長く描かれる。右側の上位の線刻は、複数の線で跳ね上げるように描かれる。対して左側は対照的に緩やかな下降線を辿る。両方ともに尾のようにも見える。右側の脚は扁平な形状から、猿の手足のようにも見ることができる。

しかし、猿ならばもっと顔面が誇張されて表現される可能性が高いだろう。現実には存在しない想像上の動物を描いたとみることもできる。

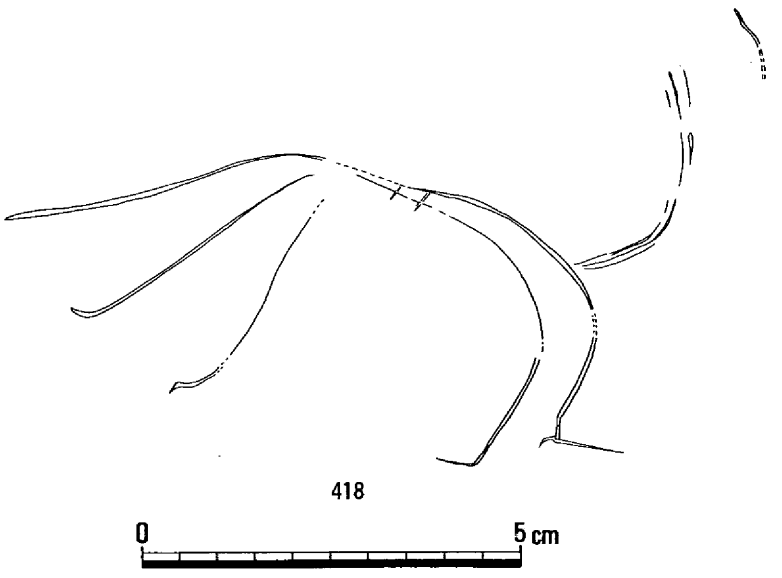
419～426は、いずれも壺である。423のように長頸壺でも肥厚した口縁部をもたないものと、424・425のように頸部に装飾的な凹線を巡らすもの、さらに421・422のような甕との中間形態もある。また419には、胴部の最大径部位に連続する押圧文が巡り、424では頸部の下端に貝殻の押圧文が装飾される。

427～431は、甕である。429の口縁部には明瞭な凹線が巡る。427・428は、いずれも底部の破片であるが後者には穿孔がある。

432～439は、高杯である。432や434は口縁端部が丸くおさまるが、433・435・436のように端部が拡張するものも含まれる。脚部には、437・438の比較的短脚の個体と、装飾的な櫛描き沈線で飾られた長脚の個体とがある。

以上の土器は比較的まとまって出土したもので、時期的にも弥生時代後期前葉に比定される可能性が高い。

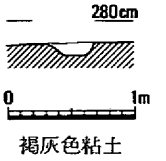
なお、この溝９を掘りあげたのちに検出された、後述の土器溜り（第150図）一括土器も時期的には近いものであり、溝の上部から掘られたなんらかの遺構が存在したかもしれない。しかし、上面ではほとんど同一の埋積土であったため、確認することはできなかった。　（岡田）



第123図　壺形土器418線刻絵画（1/1）

溝10（第116・124図）

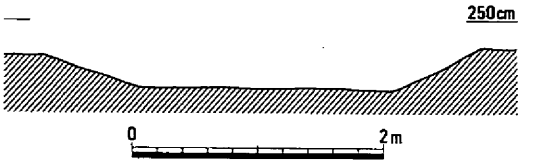
溝９の東方で検出され、直交するように北西から南東方向に検出された溝である。幅は30cm前後、深さ約20～30cmを測る。埋積土は褐灰色土である。遺物は皆無であるが、弥生後期の範囲に比定される。（岡田）

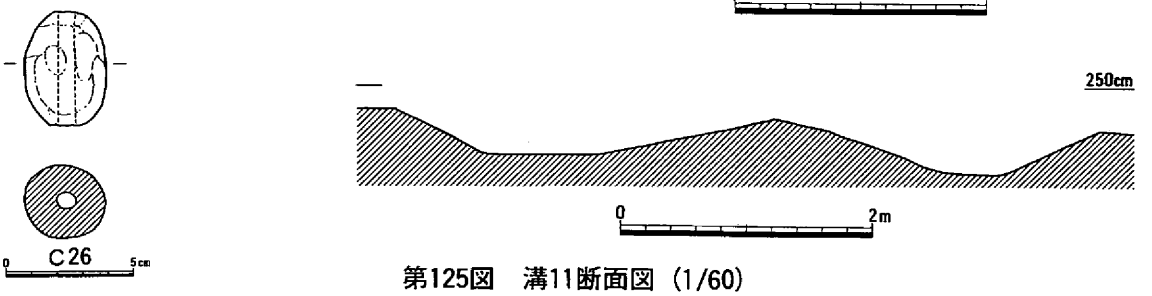


第124図　溝10断面図（1/60）

溝11（第116・125図）

１区北西部の溝13の北側で検出された。幅が２～3.5m、深さ20cm前後の凹地が不規則に繋がるもので、溝の機能は持たないと思われる。（光永）

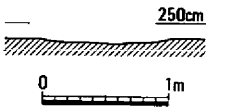




第125図　溝11断面図（1/60）

溝12（第116・126図）

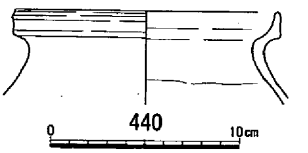
溝11の東を北東から南西方向へ流路を置き、南西方向への延長は溝17に繋がる可能性が高い。幅１m、深さ５cm程度の規模で、遺物は出土していない。（光永）

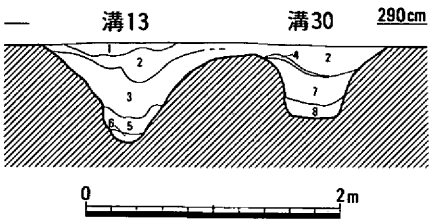


第126図　溝12断面図（1/60）

溝13（第116・127図）

溝30と平行して検出された検出全長85mに及ぶ溝である。ほぼ東から西に向けて流れ、きわめて直線的である。溝30には、水田を覆った洪水砂が確認されており、あい前後する時期と考えられるが後述の弥生後期後半の遺構配置図に掲載、記述した。





1．明淡褐灰色粘質微砂
2．淡褐灰色粘質微砂
3．明褐灰色粘土
4．白灰色粘質微砂
5．暗灰色粘土
6．灰色粘土
7．褐灰色粘土
8．灰色粘土

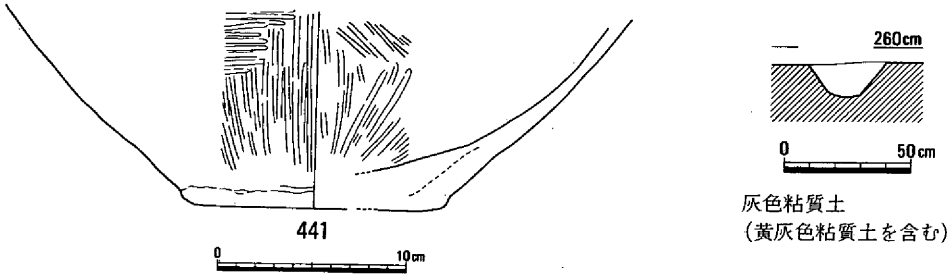
第127図　溝13・30土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）

溝の幅は約80～150cmと広く、深さ約70～80cmとかなり深く、ほぼＶ字形を示しているのが特徴的である。

出土遺物には、上層から出土した440の弥生時代後期後葉に比定される甕がある。（岡田）

溝14（第116・128図）

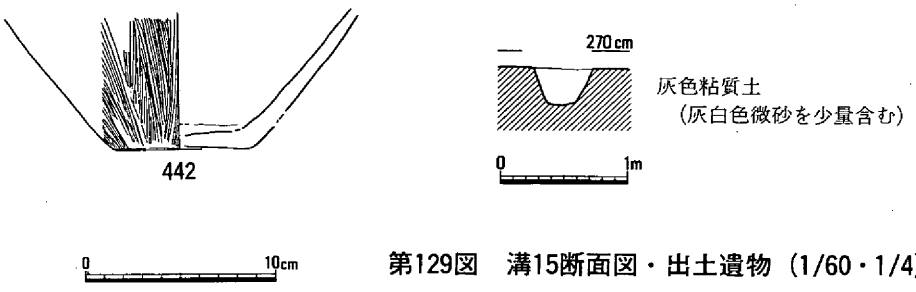
１区南西部に位置し、溝13の南東約４mで溝15に削られている。幅30cm、深さ13cm程度の規模で、断面形は逆台形を呈し、南西端では幅を広げている。埋土は灰色粘質土に黄灰色粘質土が含まれる。遺物は弥生土器の鉢441が出土しており、これと周辺の溝との関係から時期は弥生時代後期と考えられる。（光永）



第128図　溝14断面図・出土遺物（1/30・1/4）

溝15（第116・129図）

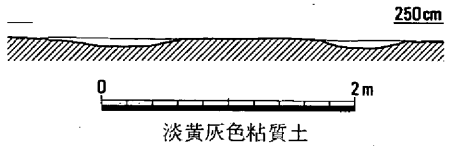
１区南半中央部で北東から南西へ流路を置いて、南西端で溝14を削りながら屈曲して途切れるが、溝10に繋がる可能性もある。断面規模に変化を見せるが、幅の狭い部分では幅45cm、深さ27cm程度の規模である。弥生土器の甕442により弥生時代後期後半に比定される。（光永）



第129図　溝15断面図・出土遺物（1/60・1/4）

溝16（第116・130図）

１区南半中央部で、溝17の西にほぼ平行して流路をほぼ南北に置いて検出され、溝13・15に削られている。幅60cm、深さ５cm程度の浅いもので、埋土は淡黄灰色粘質土である。（光永）

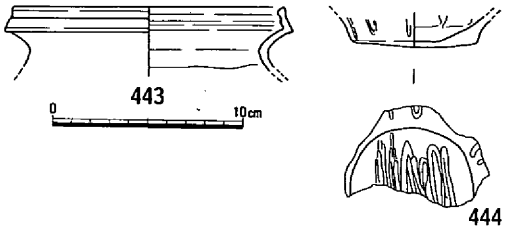


第130図　溝16断面図（1/60）

溝17（第116・131図）

溝16の東50cmを北東方向から屈曲して南東方向へ流路を置き、北東方向の延長は溝12に繋がる可能性が高い。南部での幅１m、深さ６cm程度の規模で、浅い。

弥生土器の甕443・444（同一個体）が出土しており、弥生時代後期後半に比定される。（光永）



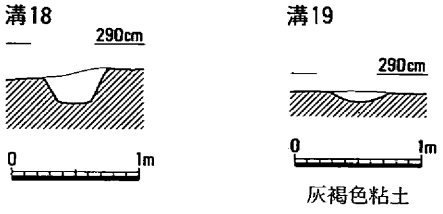
第131図　溝17付近出土遺物（1/4）

溝18（第116・132図）

検出全長５m足らずの細溝である。幅約50cm、深さ約30cmで断面形は逆台形を示す。出土遺物は見あたらないが、弥生時代後期に比定されよう。（岡田）

溝19（第116・132図）

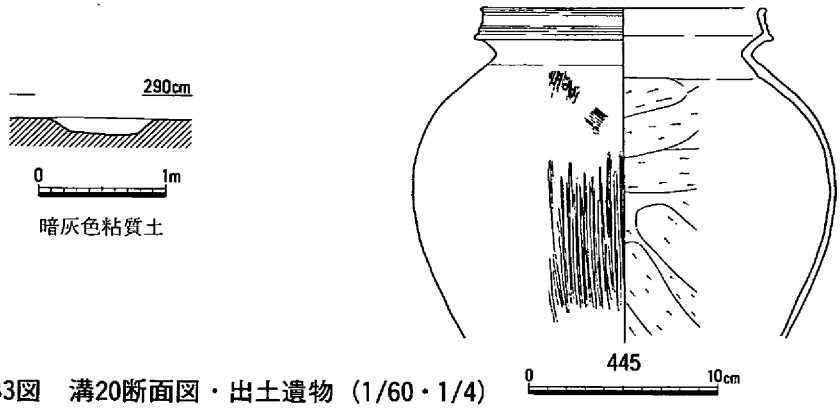
検出全長約10mの直線的な溝である。幅約40cm、深さ約10cmほどの浅い溝で、断面形は凸レンズ形を示す。出土遺物はないが、溝20に近い時期と考えられる。（岡田）



第132図　溝18・19断面図（1/60）

溝20（第116・133図）

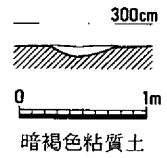
溝13の東で平行して検出された溝で、南西方の溝15に連なる可能性もある。溝18・19は、枝溝となる可能性もあるが確証はない。出土遺物には、445の甕があり水田11や溝34に近い時期に完全に埋没した可能性が高い。したがって溝33として第117図に再掲載したのは、このためである。　（岡田）



第133図　溝20断面図・出土遺物（1/60・1/4）

溝21（第116・134図）

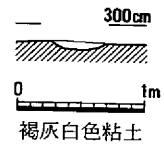
１区南東隅に位置し、北東から南西方向へ流路を置いて延長約5･5ｍが検出された。幅50cm、深さ８cm程度の規模で、遺物も出土していないが、弥生時代後期に比定される水田に先行する。　（光永）



第134図　溝21断面図（1/60）

溝22（第116・135図）

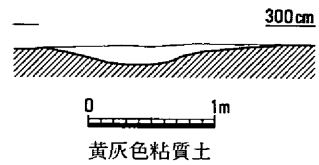
北方中溝遺跡１区の東端で検出された一群の溝のひとつで、検出部分はごくわずかである。北東から南西方向を示し、多くの溝と同様な傾向がある。出土遺物はほとんどみられないが、弥生時代後期の範囲に比定される可能性が高い。　（岡田）



第135図　溝22断面図（1/60）

溝23（第116・136図）

溝22の東方に位置する。同様に検出部分はごくわずかである。後に全面調査に先行する街路の側溝の発掘調査でその存在が確認された。出土遺物は皆無であるが、弥生時代後期に比定される可能性が高い。　（岡田）

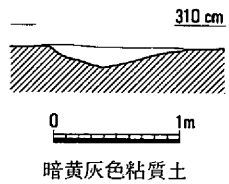


第136図　溝23断面図（1/60）

溝24（第116・137図）

溝23の東で検出された溝で、同様な方向を示す。溝の断面形は緩やかなＶ字形を呈する。埋積土は暗黄灰色を呈する粘質土層である。

出土遺物は皆無であるが、弥生時代後期に比定される。（岡田）

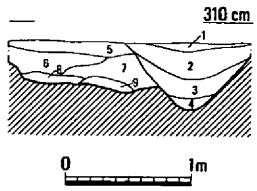


第137図　溝24断面図（1/60）

溝25（第116・138図）

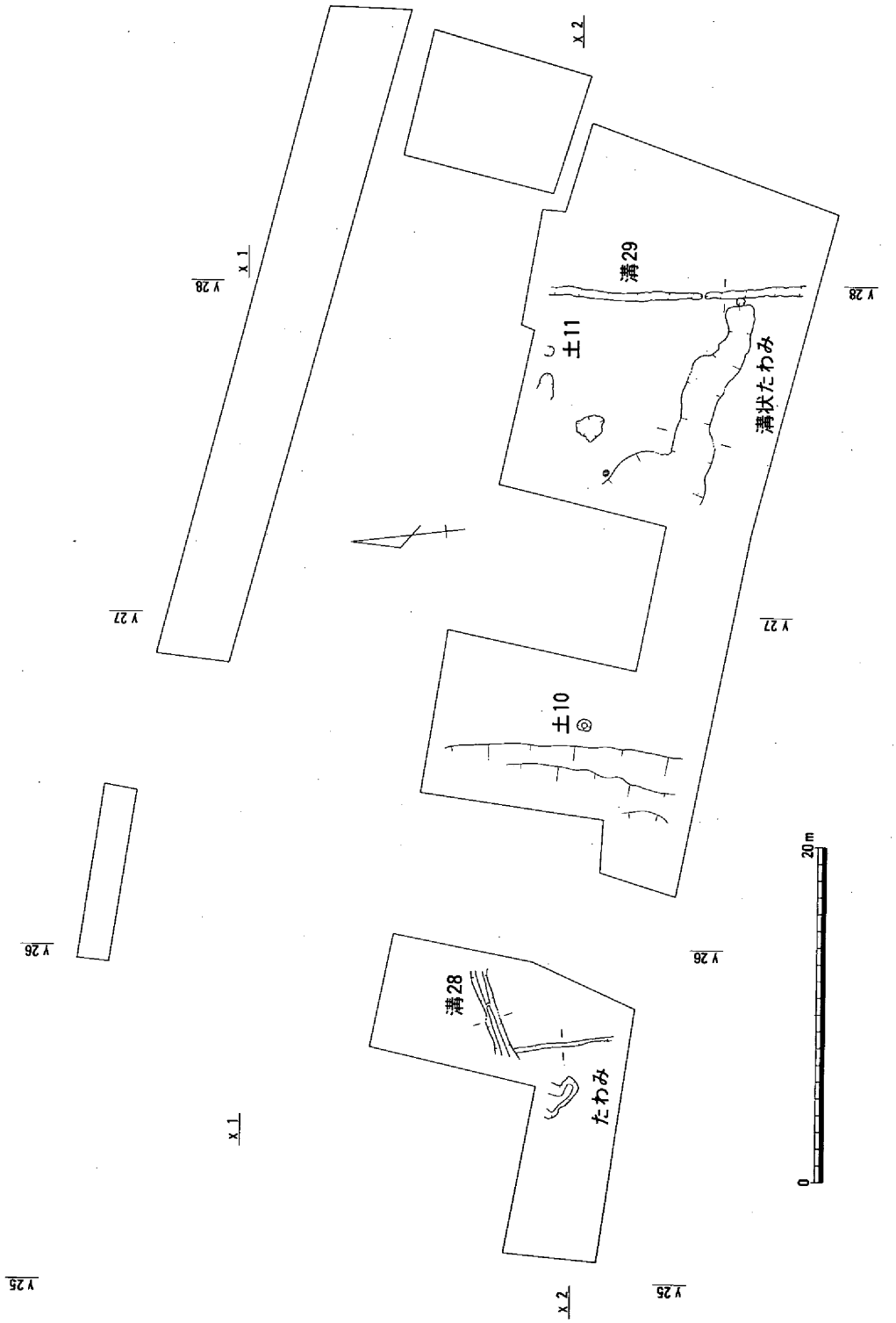
溝24ときわめて近接して検出された。幅約90cm、深さ約55cmを測り、Ｖ字形の断面が観察される。

出土遺物はほとんどみられないが、弥生時代後期に比定される。　（岡田）



1．黄灰色粘質土
2．灰褐色粘質土
3．褐灰色粘質土
4．灰色粘土
5．淡褐灰色粘質土
6．灰褐色粘質土
7．淡褐灰色粘質土（微砂含む）
8．褐灰色粘質微砂
9．褐灰色微砂

第138図　溝25土層断面図（1/60）

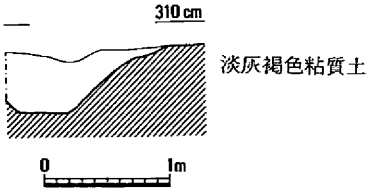


第139図　北方中溝遺跡２区遺構配置図（1/400）

溝26（第116・140図）

溝25の東で検出された。復元推定幅約２ｍはあろうかという幅広な溝で、深さ約50㎝を測り、断面形は逆台形を呈する。

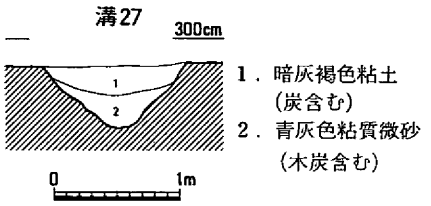
出土遺物はないが、弥生時代後期に比定される。　（岡田）



第140図　溝26断面図（1/60）

溝27（第116・141図）

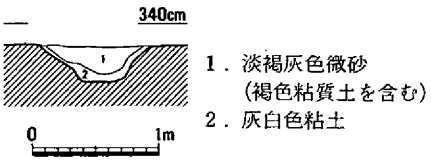
北方中溝遺跡２区西半部で検出された溝であるが検出範囲はわずかである。第96図の中段に掲げた土層断面図にも示すとおり、水田域が検出された北方中溝遺跡１区から東方にかけて、この溝27や溝22～26の範囲は微高地となっており、水田やそれに伴う洪水砂は確認されていない。しかし、すぐ東には水田14に伴う大畦があり、その時期や機能を考える上で重要である。出土遺物は少量であるが弥生時代後期の土器がみられる。　（岡田）



第141図　溝27土層断面図（1/60）

溝28（第139・142図）

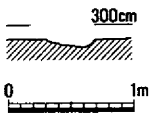
北方中溝遺跡２区の中央部、水田15の下層で検出された東西方向の溝である。幅約80㎝、深さ約30㎝を測る。出土遺物は皆無であるが、弥生時代後期に比定される可能性が高い。　（岡田）



第142図　溝28土層断面図（1/60）

溝29（第139・143図）

北方中溝遺跡２区の東端の調査区で検出された南北方向の溝できわめて浅く、しかも途切れる部分がある。水田19とほぼ平行している点に注意される。時期は溝28と同時期であろう。　（岡田）



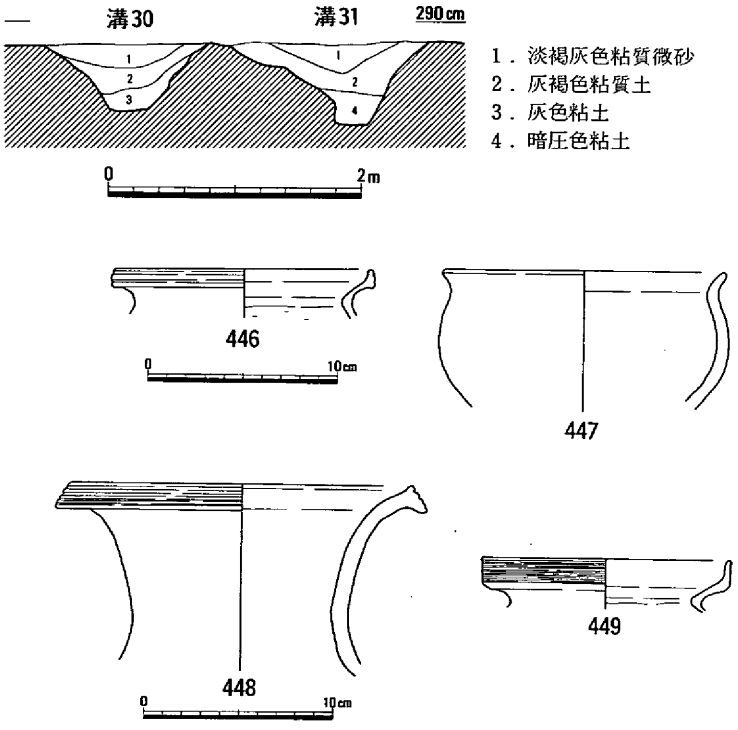
第143図　溝29断面図（1/60）

溝30・31（第117・144・145図）

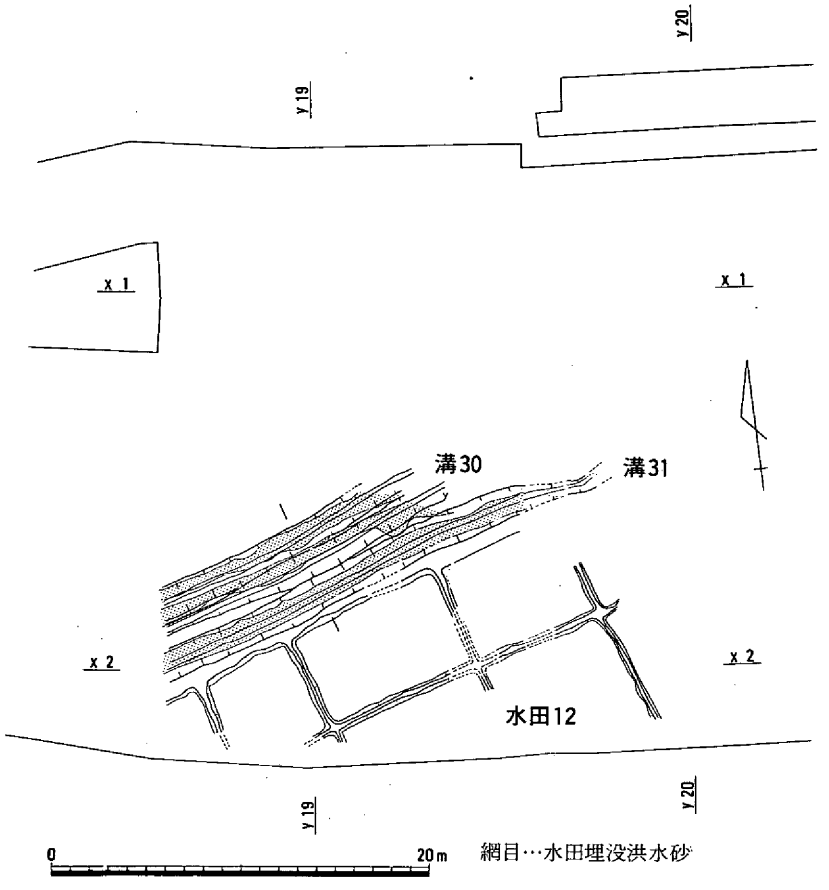
北方中溝遺跡１区で検出された溝で、同時に存在・機能した溝と考えられる。第145図に示すとおり、水田12の畦畔の方向とは明らかに平行しており、共存していたことはまちがいない。

しかも、水田の上面に堆積していた洪水砂と同質の砂層が第145図に網目で表現した部分であり、第144図の第１層がそれにあたる。

したがって、洪水による埋没直前まで、広範な水田域に給水・排水などの機能を果たしていたことになる。本来はＶ字形に近い、逆台形の深い溝であり、その最終時期は、弥生時代後期後半から終末期と考えられる。　（岡田）



第144図　溝30・31土層断面図・出土遺物（上段：溝30、下段：溝31；1/60・1/4）



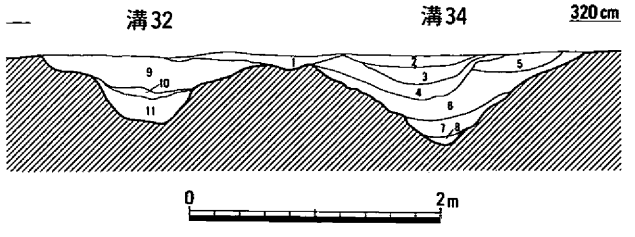
第145図　溝30・31、水田12（1/400）

溝32～34（第117・146～148図）

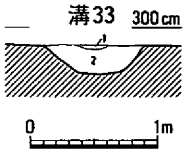
溝30・31の北東延長方向で検出された溝群で、基本的に溝の埋積土層は同じである。最終埋没の上層には、やはり水田11や12・13の上面に存在する洪水砂が共通して観察される。

溝32は幅約170cm、深さ約50cmを測り断面形は逆台形を呈している。溝33は溝32と溝34のちょうど中程で検出された細い溝で、幅約70cm、深さ約20cmを測る断面逆台形を呈している。

溝34は幅約220～230cm、深さ約70cmを測り断面形は明瞭なＶ字形を呈し、流水機能があったことは

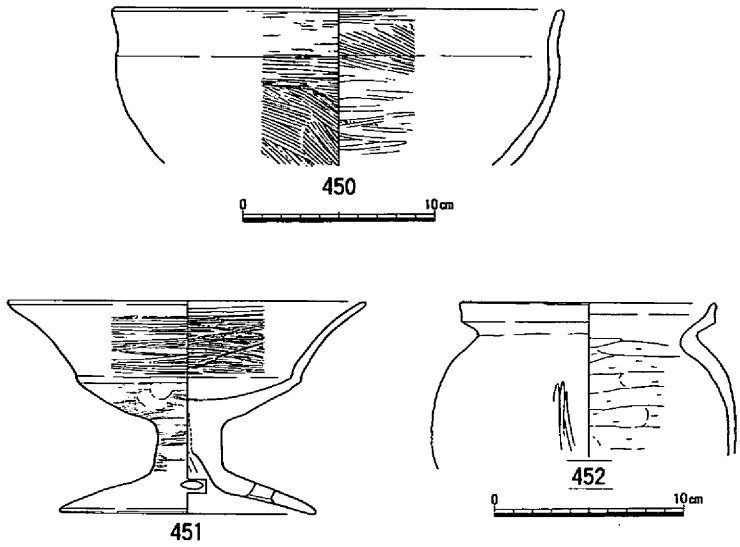


1．灰色細砂
2．黄灰褐色砂
3．灰黄褐色砂
4．褐灰黄色砂
5．淡灰色粘質土
6．褐灰色粘質土
7．青灰色粘土
8．明青灰色粘土
9．淡灰色砂質土
10．黄白灰色砂
11．暗灰粘質土

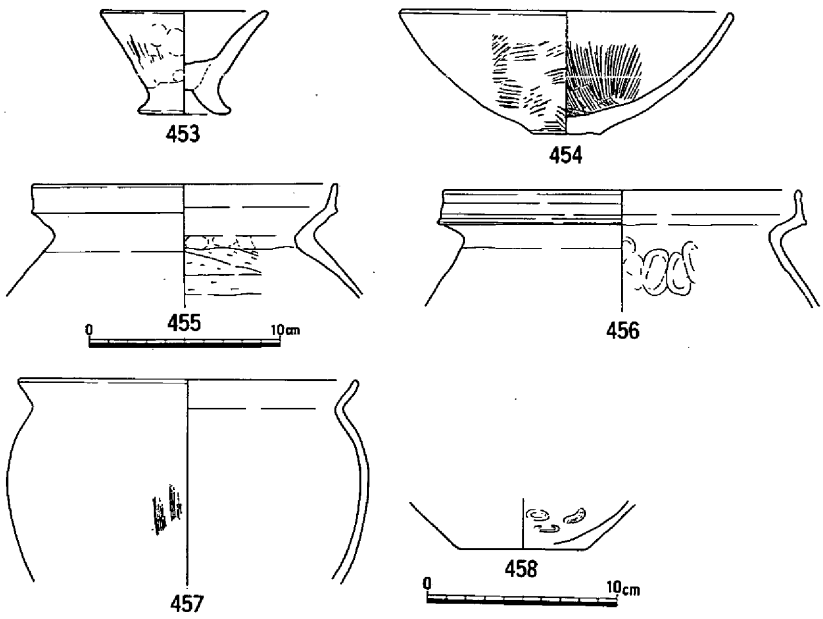


1．灰色微砂
2．暗褐灰色粘質土
（マンガンを含む）

第146図　溝32～34土層断面図（1/60）



第147図　溝32出土遺物（1/4）



第148図　溝34出土遺物（1/4）

明白である。

検出全長約80ｍを測る溝32・34、溝30・31をみると、それぞれ溝32は溝30、溝34は溝31に対応する可能性がきわめて高いといえる。

それぞれの溝の出土遺物は土器がすべてである。溝32からは第147図に掲げる鉢450・高杯451・甕452の土器が出土しており、いずれも弥生時代後期後葉に比定されるものである。

溝34からは第148図に掲げるように453～458の土器が出土しているが、いずれもやはり弥生時代後期後葉の範囲に比定されるもので、溝32と大差はない。453は小型の台付きの鉢でほとんど完形品である。454は内型で作られたような口縁部がほとんど正円を描く鉢である。455～458は甕であるが、概ね弥生時代後期後葉、「才の町」式に比定される。　（岡田）

(3) 土　　壙

土壙８（第116・149図）

溝９の西側で検出された長径約120cm、短径約80cm、深さ約10cmを測る長円形の土壙である。埋積土は灰褐色の粘質土で、出土遺物は皆無である。弥生時代後期に比定される。（岡田）

土壙９（第116・149図）

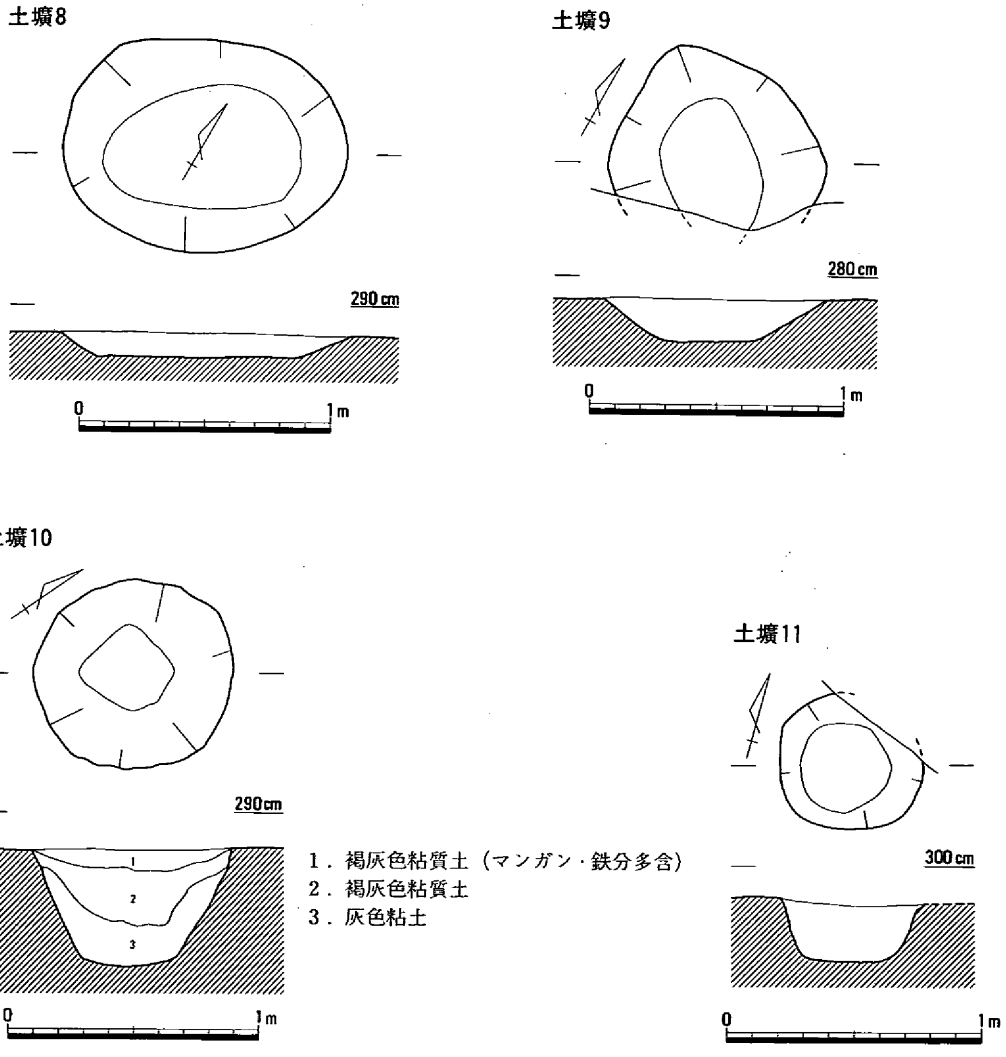
溝13の東側で検出された不整円形を呈する土壙である。長径・短径いずれも約80cmを測る。深さは約20cmで断面形は逆台形を呈している。時期は弥生時代後期の範囲に比定される。（岡田）

土壙10（第139・149図）

北方中溝遺跡２区で検出された。微高地の西肩口あたりに位置する径約70cm、深さ約40cmを測るほぼ正円形を呈する土壙である。出土遺物はないが、弥生時代後期に比定されよう。（岡田）

土壙11（第139・149図）

北方中溝遺跡２区の東端で検出された小土壙である。径約60cm前後、深さ約20cmを測りほぼ正円形を呈する。埋積土は淡褐灰色土で、出土遺物は皆無である。土壙10と同時期に比定される。（岡田）



第149図　土壙８～11（1/30）

(4)　その他の遺構・遺物

はじめに

本項では、おもに個々に触れることができなかった遺構や、おもに包含層出土の遺物、さらに後世の遺構すなわち、古代～中世の溝などから出土した弥生時代後期の遺物について所収しておくものである。

一方で溝14の東側、水田13の西端部分では「島状高まり」が検出されている。浅い溝に東側が囲まれるような形態であるが百間川遺跡群などで確認されているそれと比べると、明瞭な遺構と考えられなかったため、あえて項目は設けなかった。（岡田）

土器溜り（第116・150図）

北方中溝遺跡１区の西端、溝９の底面で検出された土器溜りである。土器は破片となって隙間のないほどびっしりと浅い土壙状のくぼみに埋積、検出された。

土器の多くは復元されて第150図や巻頭カラー図版３のように９個体がほぼ完形に復元されたが完全な土器が廃棄されて、押し潰された状態で検出されたのではなく、壊された土器片がまとめて捨てられた状況と考えて良いだろう。

すでに溝９の項で述べたように、この土器溜り付近の上面にあたる溝９では、第122図の一括遺物が出土しており、もともと土壙状の掘り込みがあった可能性もある。しかし精査にも拘らず、明瞭な掘り込みは確認できなかった。したがって、それらの関連性を指摘しながらも個別に報告することとした。

ただ溝９出土土器は、完形に復元されるものはなく、逆に土器溜りの方は少量の土器片を残すものの大半の破片は完形に復元されたという大きな相違点がある。

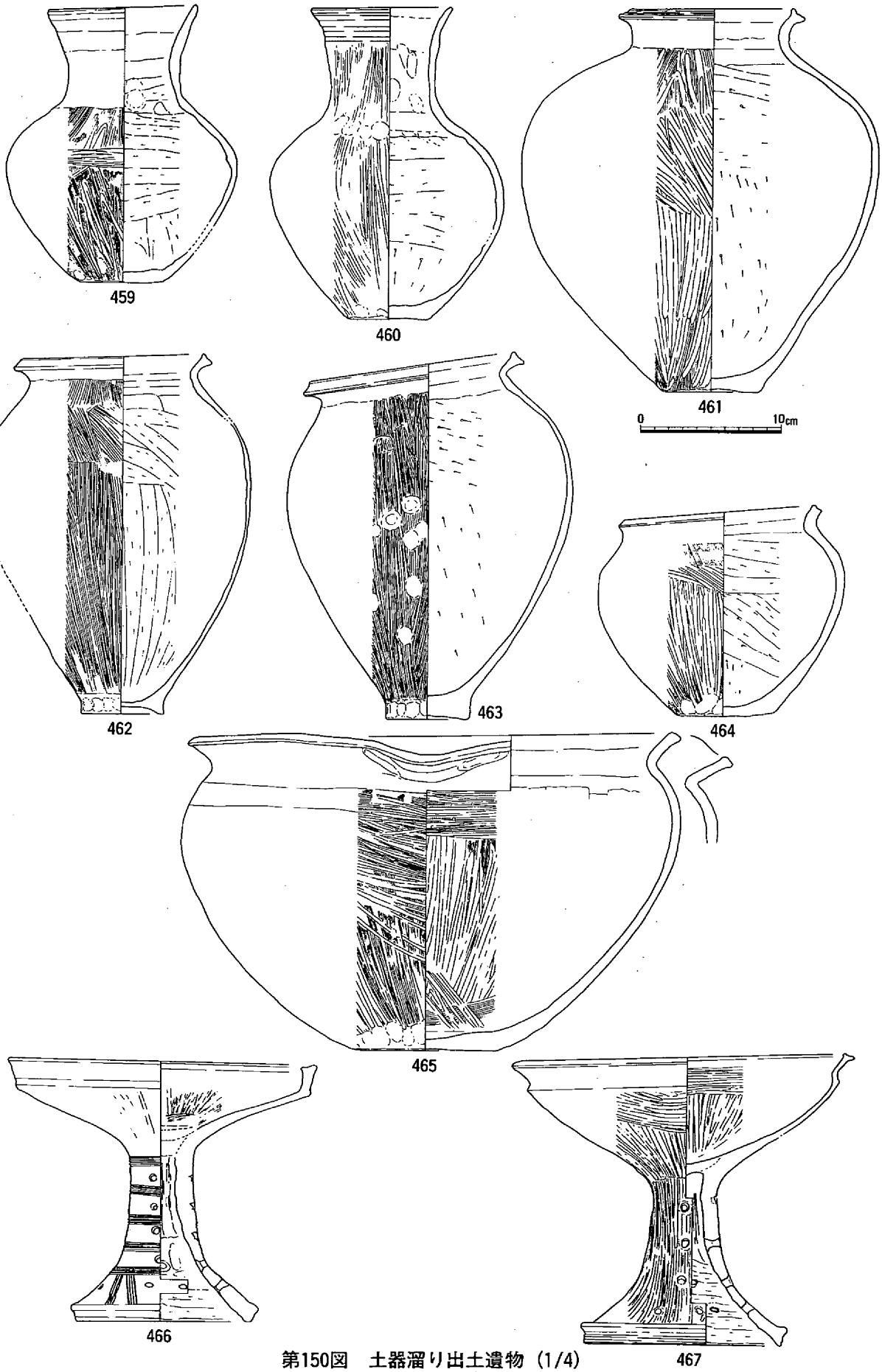
検出当初は、むしろ溝の祭祀的な遺構ではないかと考えていたがその可能性は低く、溝が機能しなくなってから上面から掘り込まれた土器廃棄壙と推察される。

459～461は壺形土器である。459・460は長頸壺で、いずれも口縁部はやや開いて終る。460は頸部上位には浅い凹線状の横位の起伏がみられるが、さほど装飾的とはいえない。461は胴部が大きく膨らんだ大形の壺である。頸部は短いが直立している。

462・463は甕形土器である。いずれも胴部内面は上位が横、下位は縦のヘラケズリが施されている。また外底部は、上げ底で底部そのものも胴部下位で直立している。外面は、基本的に縦方向のハケメ調整が認められる。いずれも熱影響が認められ、胴部外面には煤が付着していることから、使用された土器と断定できる。462は底部は極端に薄く作られ、熱効率の利点が考えられる。

464・465は鉢形土器である。464は小型の鉢で短く分厚い口縁部が特徴的である。底径は器体の大きさに比べ大きめである。465は大型の鉢で口縁部には一ケ所の片口がある。器壁は464に比べるとむしろ薄いほどで、器体の大きさの割りには重量が抑えられているといってよい。

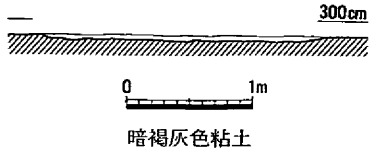
466・467はいずれも高杯で長脚の完形品である。466は杯部の中央には円盤が充塡された痕跡が明瞭に看取される。脚部には横位の平行櫛描き文様が４条と、脚端部にも２条を一単位とする装飾が、筒部とともに、円孔の間に加飾されている。467は脚部の筒部と裾部分に円孔が穿たれただけの装飾に乏しい器体である。466とは若干の時期的なずれが感じられるが、同時に廃棄された状況からさほど大きなものではないだろう。これらの土器は弥生時代後期前葉に比定される。（岡田）



第150図　土器溜り出土遺物（1/4）

溝状たわみ（第139・151図）

北方中溝遺跡２区東半で検出された浅い溝状の凹地である。溝29のすぐ西側で検出されているが時期的な前後関係は不明瞭である。埋積土は暗褐灰色の粘質土である。出土遺物は皆無であるが弥生時代後期に比定される。（岡田）

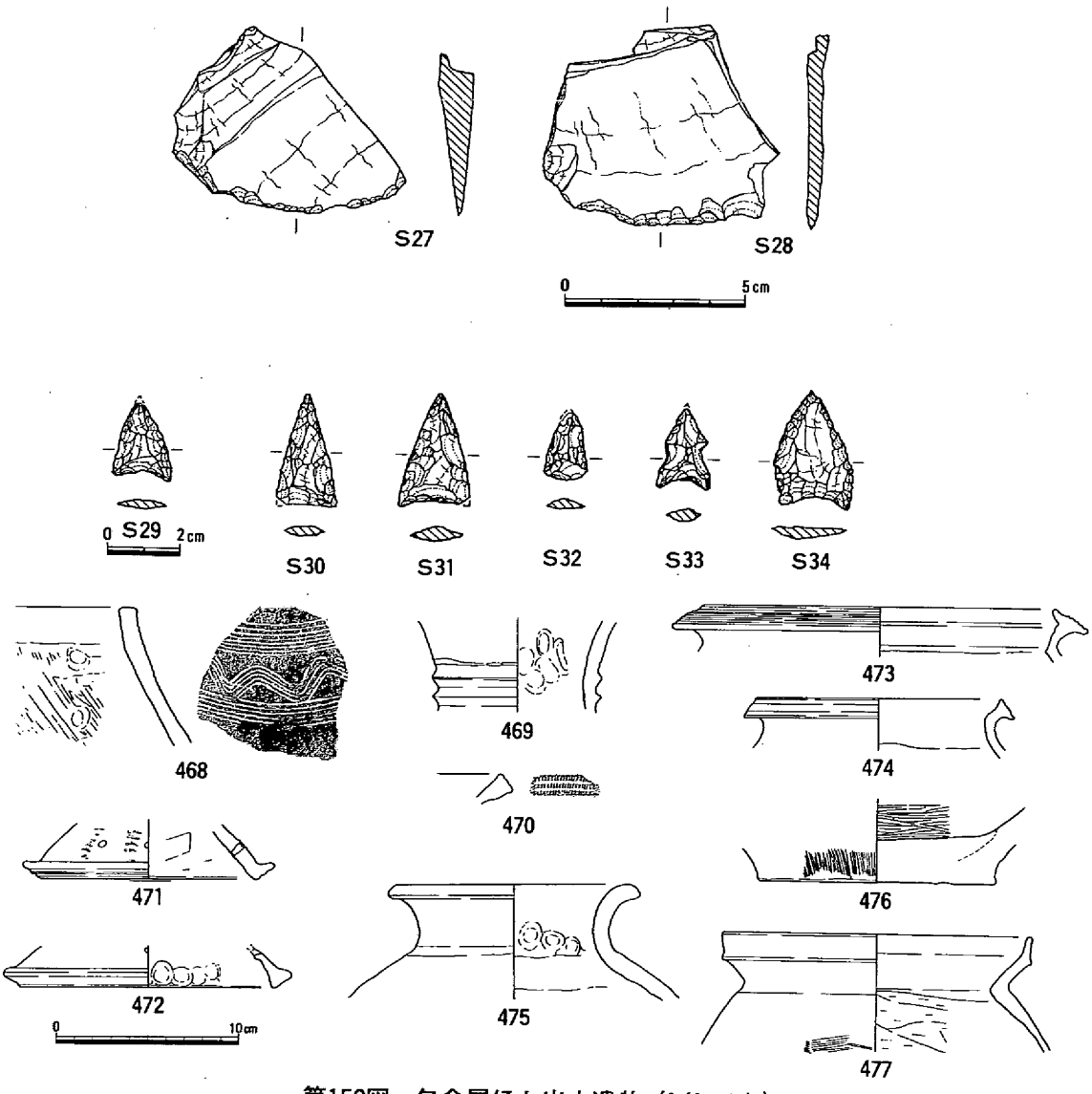


第151図　溝状たわみ断面図（1/60）

包含層出土遺物（第152図）

第152図の上段に掲げるものは、いずれもサヌカイトを素材とした石器である。S27・28はスクレーパー状の石器である。S29～34は多様な石鏃である。いずれも無茎であるが、平基・凹基式の両方がみられる。中には、弥生時代前期に遡る可能性があるものも含まれるが一括して掲載する。

包含層出土の土器としては、弥生時代中期前葉の壺形土器468のほかに中期中葉に比定される壺形土器469や甕470がある。また後葉には高杯471・472や甕473があるが、471には貝殻の腹縁による刺突文が脚部に飾られる。472は外面に丹と思われる赤色顔料が塗布される。475～477はいずれも後期の範囲に比定される土器である。（岡田）



第152図　包含層ほか出土遺物（1/2・1/4）

５．古墳時代の遺構・遺物

はじめに

古墳時代の遺構・遺物は、本遺跡では少なく狭間の時期といえる。遺物に関しては、後世の遺構からの出土が確認されたに過ぎない。しかし、一部で水田遺構もみられ項を設けて述べることとした。

(1)　水　　田

水田20（第153～155図）

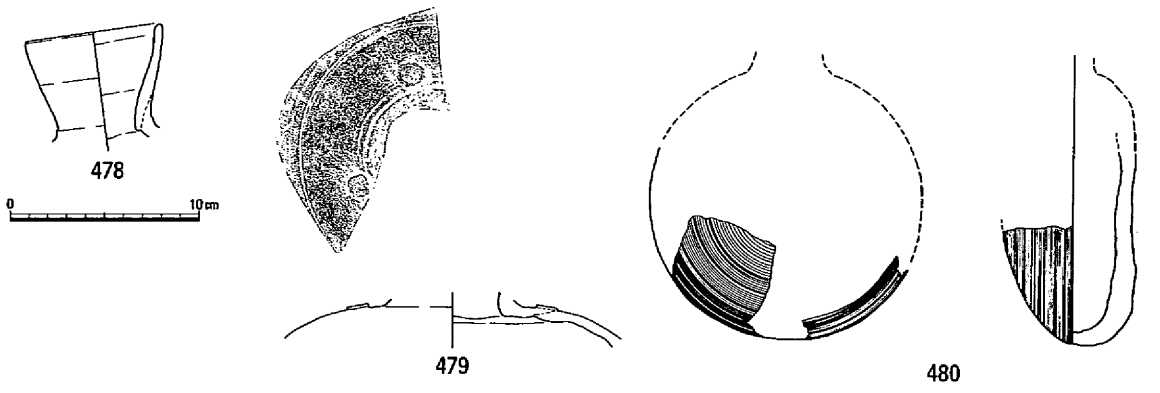
１区南東部で、東西40m強、南北10m程の範囲で検出された。この地点は、１区の中でもやや高位になる。

東西方向の畦畔１条と南北方向の畦畔４条を検出したが、その方向性は地形に規制されたと考えられる前段階の畦畔に比べて方位に則った在り方を示している。南北方向の畦畔のうち東から２条目の畦畔は幅100～150cm、高さ５～11cmの規模を有しており、幅50～90cm、高さ４cm弱の他の畦畔に比べて卓越している。また、これ以西で検出された東西方向の畦畔が東側には続かないことからも、この南北方向の大畦畔が大きな区画変換を示すものと考えられる。大畦畔の西側２箇所で見られる南北方向と東西方向の畦畔の交差状況は、東寄りではほぼ十字に交差するのに対して、西寄りでは約70cmのずれが生じている。水田区画の大きさを確認することはできなかったが、東西方向の長さについては９～11.5mの数値が得られ、南北方向については７m以上と考えられる。水田面の海抜高は3.10m前後を測り、前段階の田面より20cm以上高い数値となるが、検出された範囲内では田面ごとに顕著な差異は認められない。

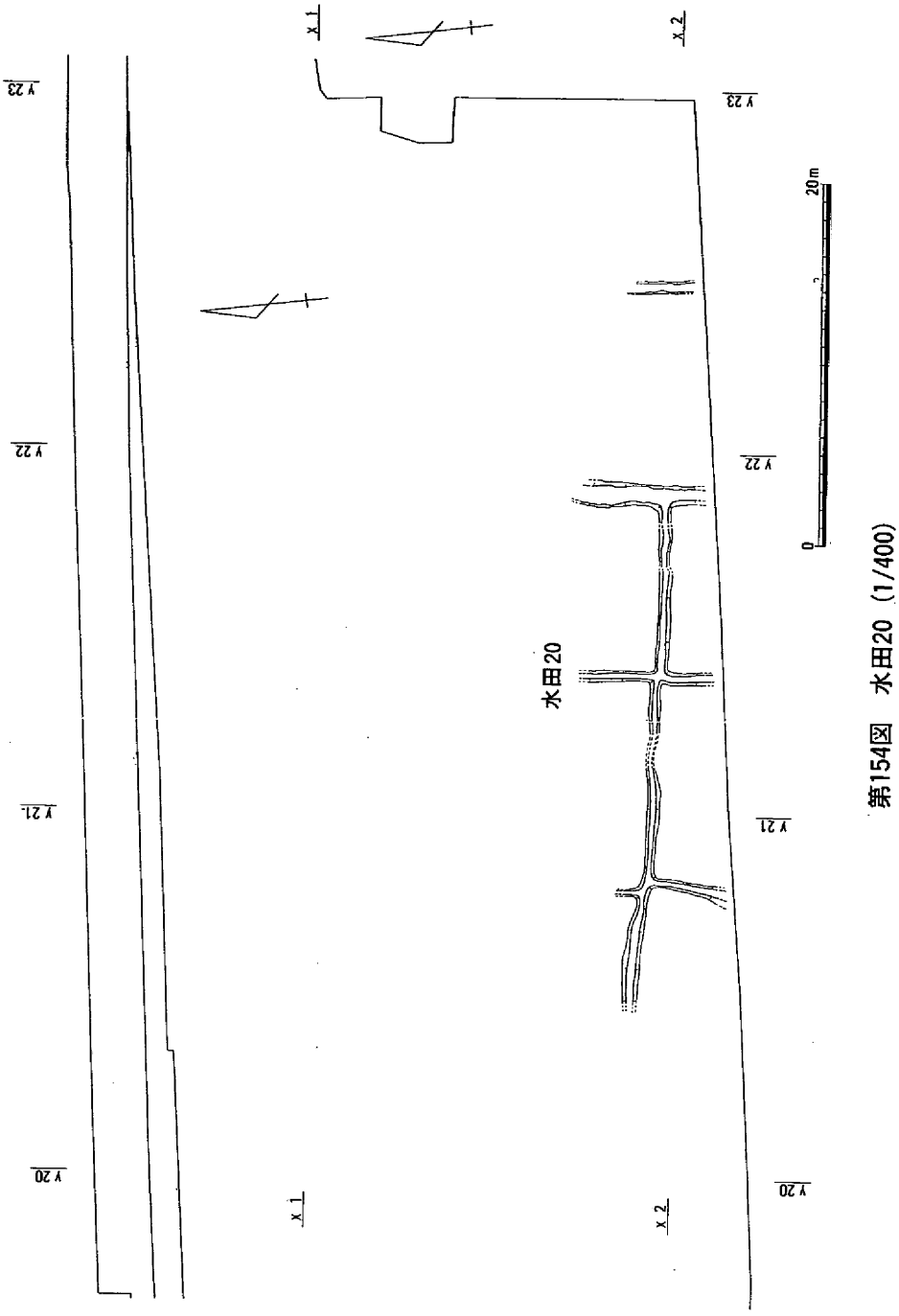
水田面からは須恵器の平瓶478・壺479・提瓶480が出土しており、水田層下からは土師器の高杯481・甕482、須恵器の杯蓋483・同484・平瓶485等が出土している。これらから想定される水田の埋没時期は古墳時代後半（６世紀半～７世紀）に求められる。

この水田と同時期の水田は北方下沼遺跡から北方地蔵遺跡にかけての調査範囲内には検出されていないが、南西に10数m離れた中溝遺跡の調査において検出されたG層水田が同一の水田となる可能性が高い。その成果によれば、水田区画は150～200㎡の面積を有し、５世紀末～６世紀初頭に比定されて、「正方位方格地割の先駆的存在」と考えられている(1)。　　（光永）

(1)　根木修「水田造成の歴史」『新版［古代の日本］④　中国・四国』角川書店　1992



第153図　水田20関連出土遺物（1/4）



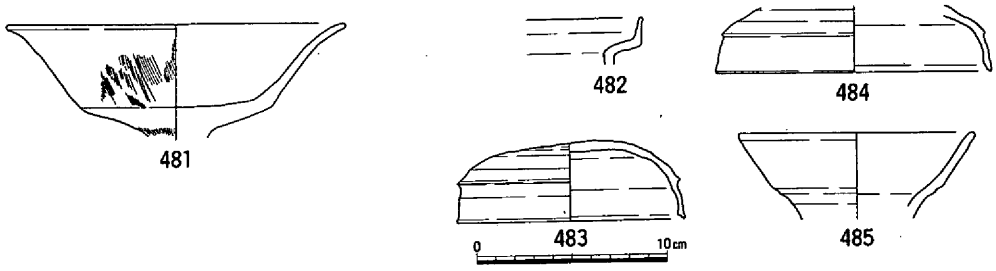
第154図　水田20（1/400）

(2)　その他の遺構・遺物

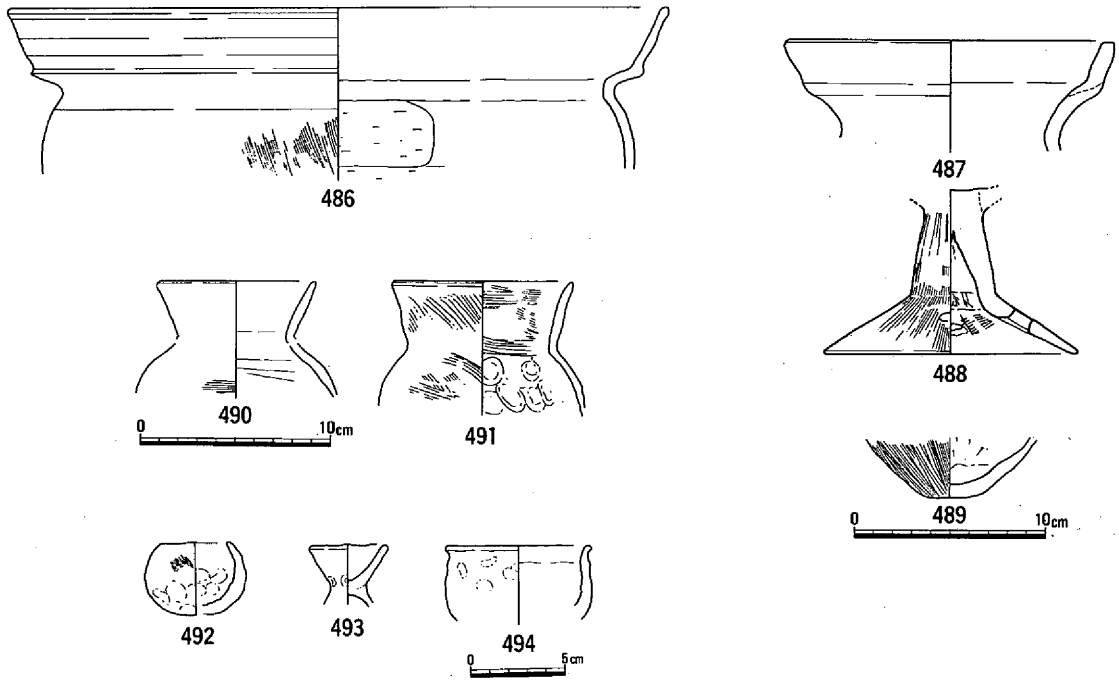
包含層ほか出土遺物（第156・157図）

古墳時代の純粋な包含層はほとんど存在しないが、第95図の第5層などの発掘調査担当者によっては水田層と想定した土層に含まれる遺物が認められることから、これらも関連づけて触れることとしたい。

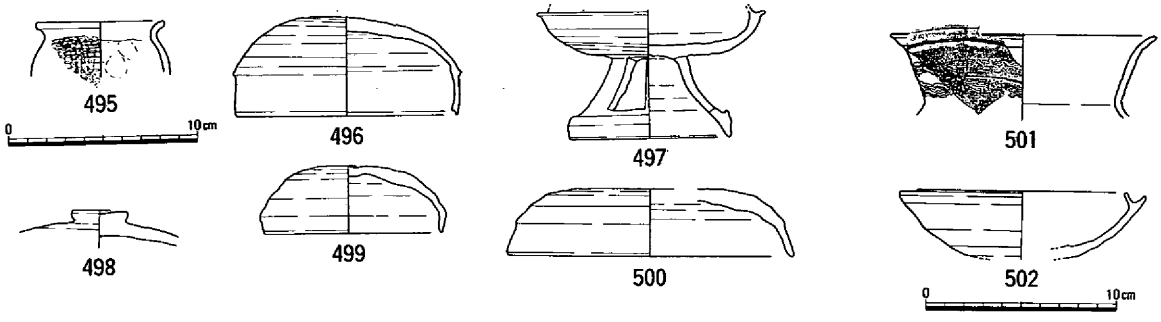
第156図には古代～中世の溝35などから出土した土師器を掲載した。なかでも注目されるのは492～494のミニチュア土器がある。すでに北方下沼・北方横田遺跡でも収載したように、甕形や鉢形のミ



第155図　古墳時代水田関連出土遺物（1/4）



第156図　包含層ほか出土遺物（1）（土師器・ミニチュア土器；1/4）



第157図　包含層ほか出土遺物（2）（韓式土器・須恵器；1/4）

ニチュア土器は単純に「手捏ね土器」とはいえない忠実に模倣したものもみられる。また実測できなかった破片はおよそ30点にのぼっている。

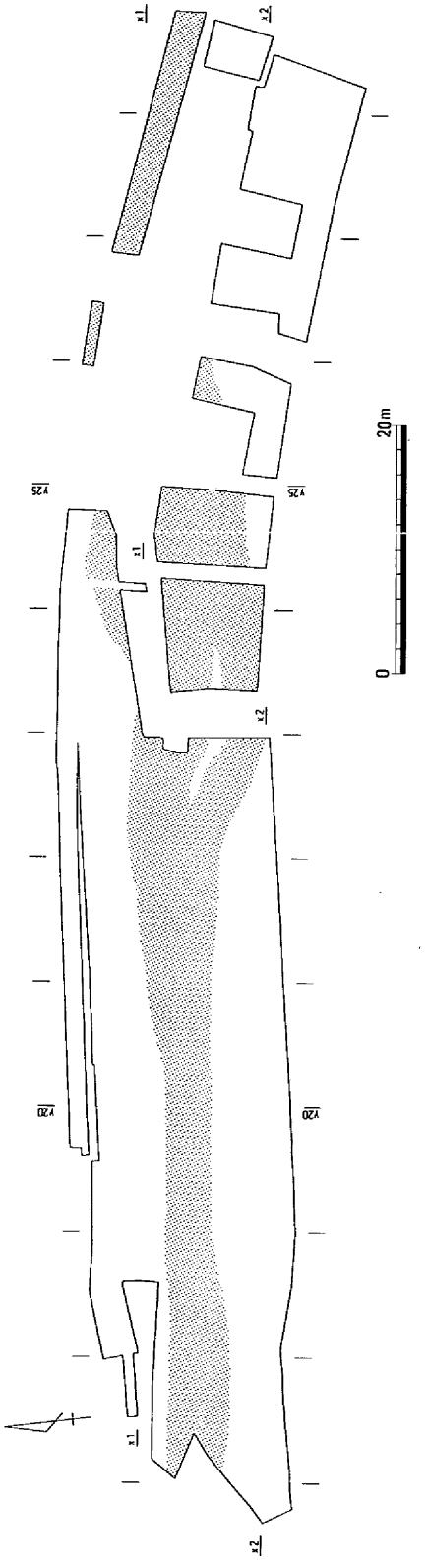
第157図には韓式土器と須恵器を収載する。495は小型の韓式土器で淡褐色の土師質である。細かな小片であるが、格子目のタタキが胴部外面から頸部にかけて明瞭にみられる。内面は指おさえのみの調整である。496・499・500は蓋で杯に伴うものである。497・498はそれぞれ高杯とその蓋である。501は広口の壺で、口頸部にはきめ細かな櫛描きの２条の波状文が装飾的に巡る。これらの出土遺物から発掘調査範囲にとどまらず周辺には、かなり大規模な集落の存在が推察される。　（岡田）

６．古代～中世の遺構・遺物

はじめに

古代～中世の遺構については、すでに北方下沼遺跡・北方横田遺跡の項でおもに溝について報告したところである。この溝は大溝あるいは、河道ともいうべき大規模かつ長大な遺構で、多数の杭が打ち込まれた痕跡が確かめられたり、多量の出土遺物が得られている。

第158図のように、この調査区を横断するように検出された状況は、ほぼ東西を指し示し、発掘調査着手当初は条里との関わりに関心が寄せられた。なお、津島岡大遺跡ではほぼ同時期の、条里の坪境と考えられる東西方向の溝が確認されており、検討を要するだろう。(岡田)



第158図　古代～中世溝35流路図（1/6,000）

(1)　溝

溝35・36（第159～175図）

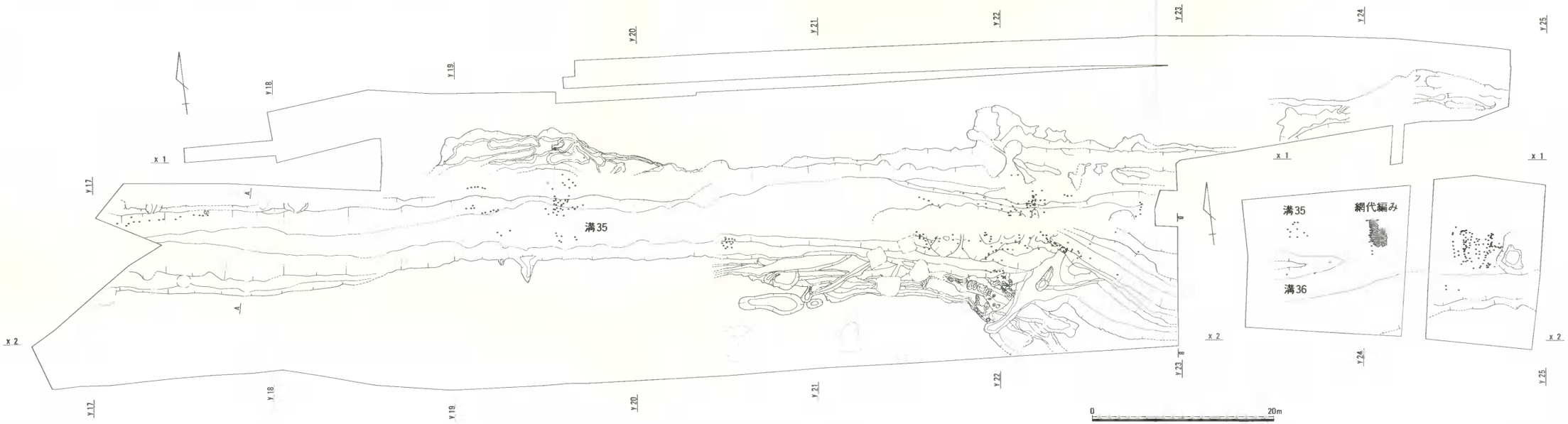
北方中溝遺跡の１区から２区の西半部にかけて検出された長大な溝である。検出全長は、約120ｍほどであるが実際には、西方の北方横田遺跡の溝30の延長でもあるので、さらに250ｍは西に延びる。したがってこの発掘調査で検出された最大規模の遺構といえるだろう。

溝の規模は、溝35と溝36の流路が重なった北方中溝遺跡１区と２区の境界あたりでは幅が20ｍを越える。一方、北方地蔵遺跡１区の中央部のもっとも狭まった所では約７ｍ前後、全体的に平均すると約10ｍ前後を測ることがわかる。

水の流れは、東方から西方であることは地形的にも明らかで、１区と２区の境界線の溝の底の海抜高は約1.9ｍ、１区の西端では、1.75ｍと15cmほど下降してゆく。ちなみに、北方下沼遺跡では、溝24の西端の底は海抜1.5ｍで明らかに徐々に下降していることがわかる。

溝35・36は１区と２区の境界付近のみ便宜上分けて表記しているが、基本的に同一の溝である。ｙ24ライン付近で検出された「網代編み」遺構のあたりで、流路が分岐してｙ22ラインの東で再び合流する形状が観察される。

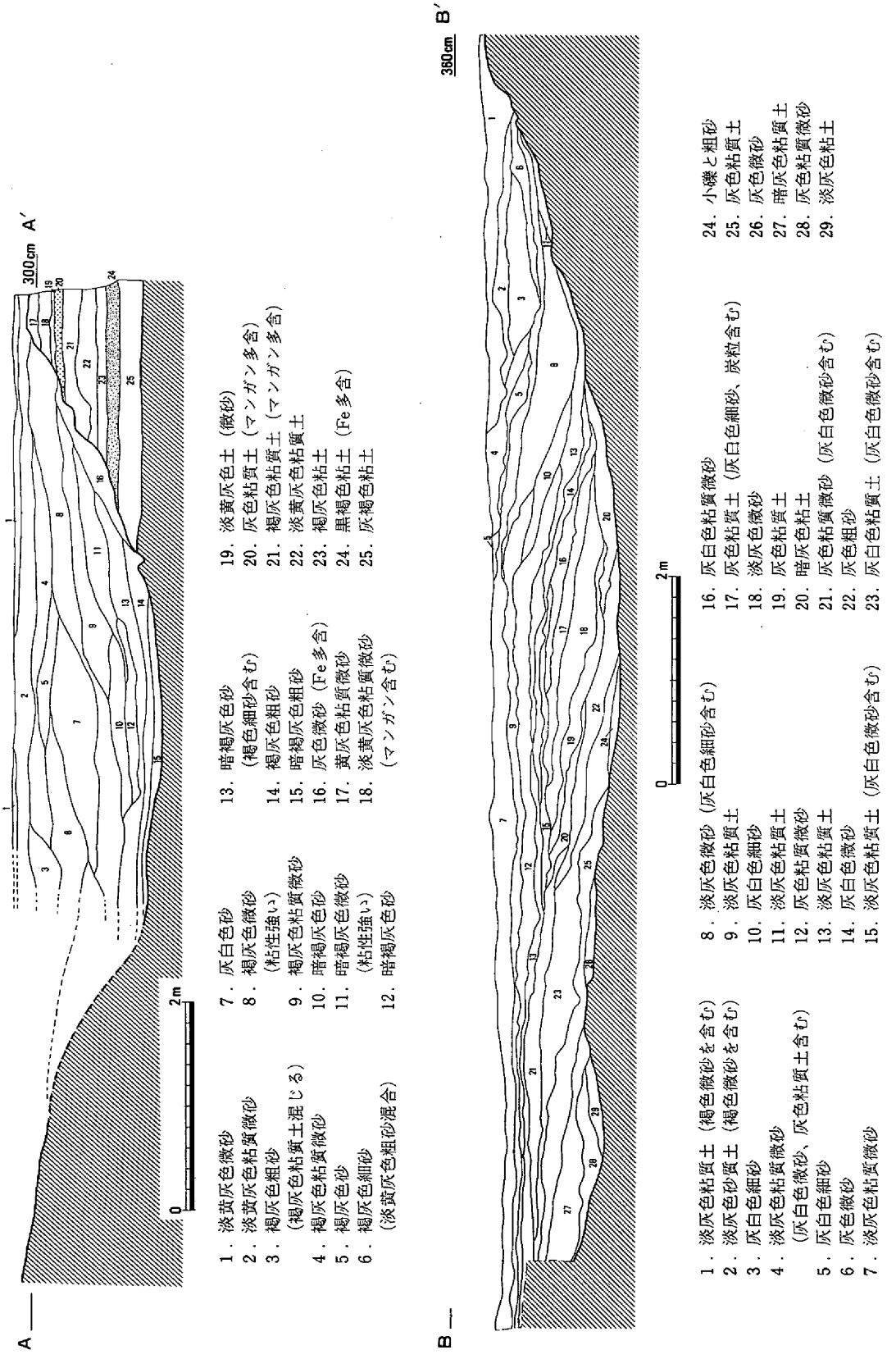
溝の底部から数箇所の杭列が検出されている。東からみるとまず、①ｙ25ラインの西側、②溝35と溝36の分岐



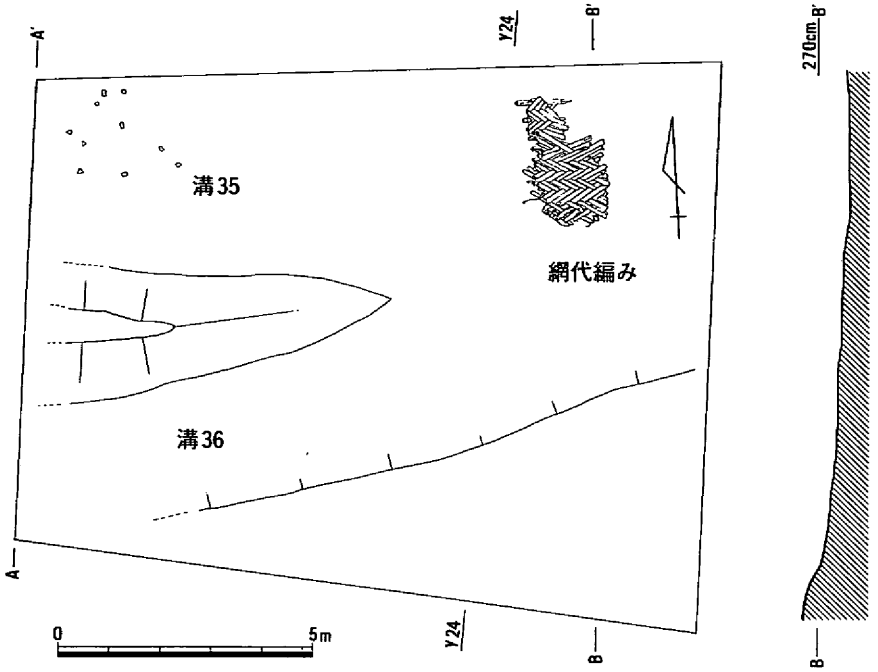
第159図　北方中溝遺跡１区遺構配置図（溝35ほか；1/400）

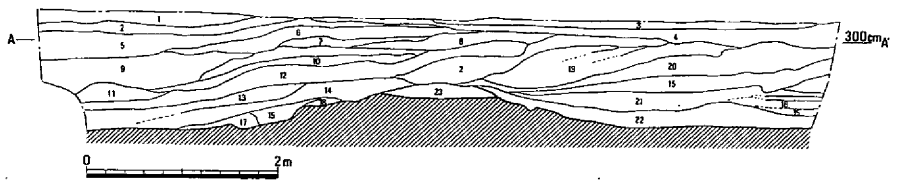
部、③ｙ22ライン付近、そして④ｙ20ラインとｙ19ラインの間、さらに⑤ｙ17ラインの東側である。①～④はいわば流れを塞き止める堰の役割が観察される。塞き止めることによって水量や水流の調整が行なわれたことも考えられる。

⑤は溝35の北側の法面に沿って打ち込まれていることから、護岸施設としての杭列と推定すること

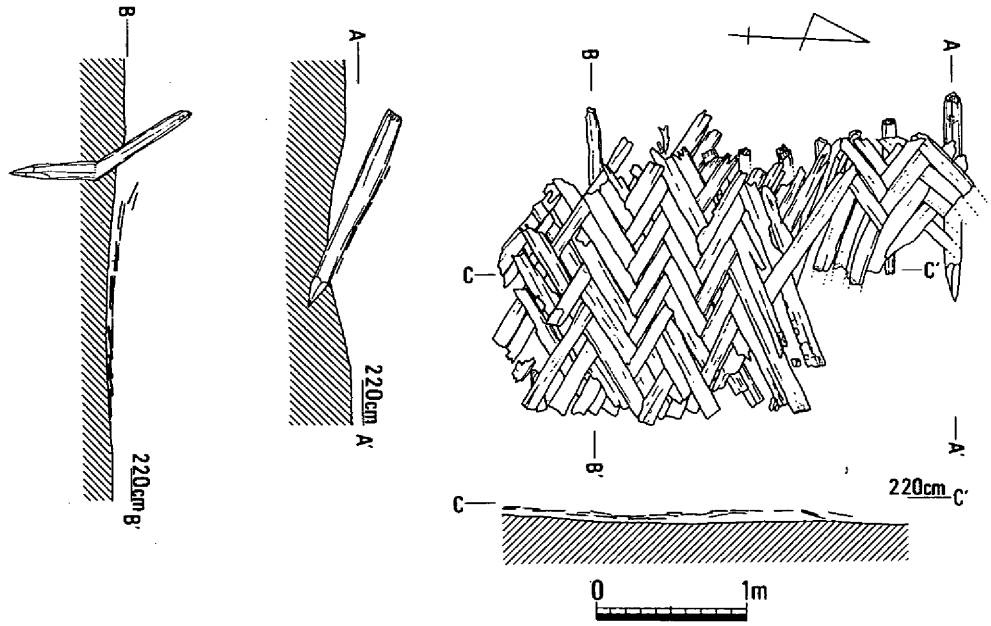


第160図　溝35土層断面図（1/60）

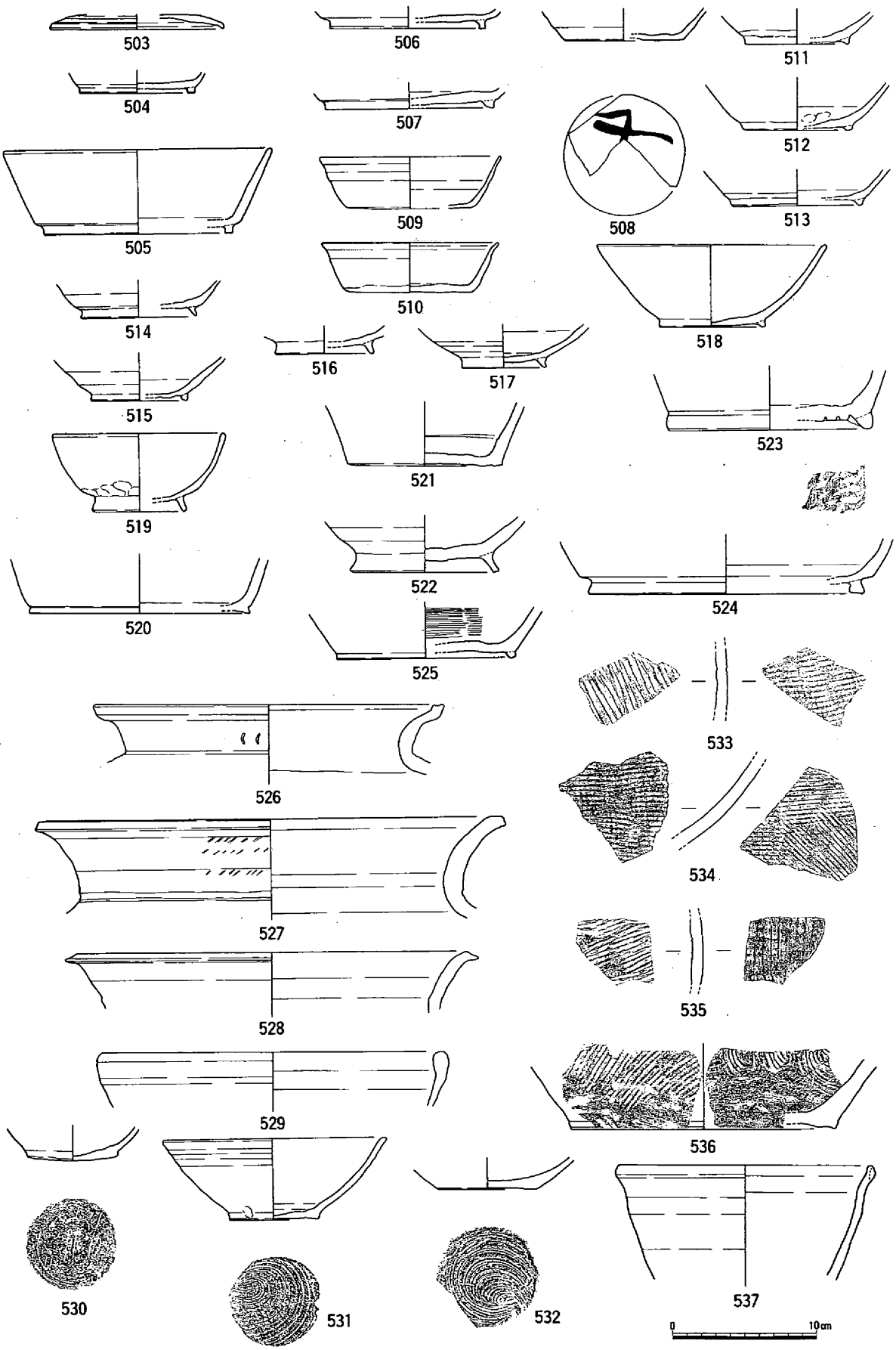




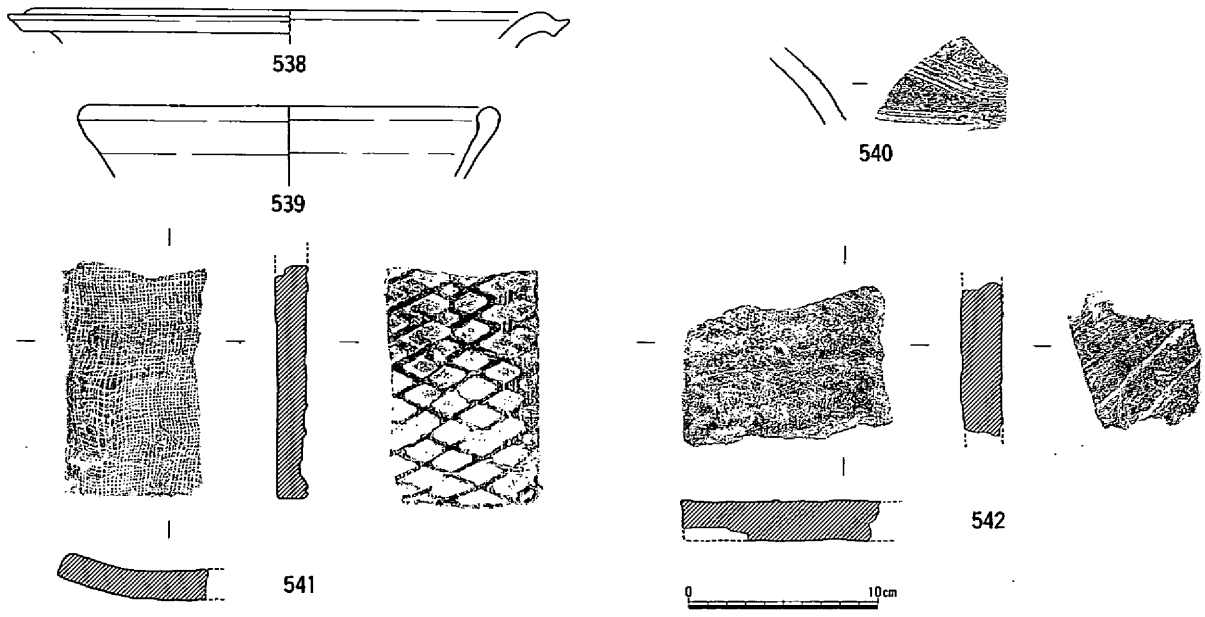
1．明黄褐灰色土（弱粘）
2．淡褐灰色微砂質粘質土
3．淡灰褐色土（弱粘）
4．淡黄褐灰色微砂質粘質土
5．淡黄褐灰色微砂質粘質土
6．淡褐灰色微砂質粘質土
7．褐灰色微砂質土
8．暗褐灰色微砂質土
9．明黄色細砂質土（縞状堆積）
10．淡褐灰色微砂質粘質土＋細砂質土
11．黒灰粘質土
12．淡褐灰色土～青灰色土
13．青灰色細砂土
14．暗青灰微砂質土
15．灰黒色細砂質土
16．白灰色組砂質土
17．灰黒色粘質土
18．灰青色砂利質土（小礫層）
19．白黄砂質土（縞状堆積）
20．灰～淡黄褐灰色微砂質土
21．灰黒色微砂質土（木質を含む）
22．暗青灰色細砂質土
23．灰黒褐色粘質土



第161図　溝35部分図・網代編み遺構（1/150・1/80・1/50）



第162図　溝35出土遺物（1）（西半、須恵器；1/4）



第163図　溝35出土遺物（2）（西半、須恵器・瓦・備前焼；1/4）

ができる。④も中央部が近世～近代の溝によって破壊されているが、護岸施設と堰の両方の機能が考えられる。塞き止めることによる分流する溝は明らかではないが、オーバーフロウしたとみられる痕跡はこの部分に顕著である。

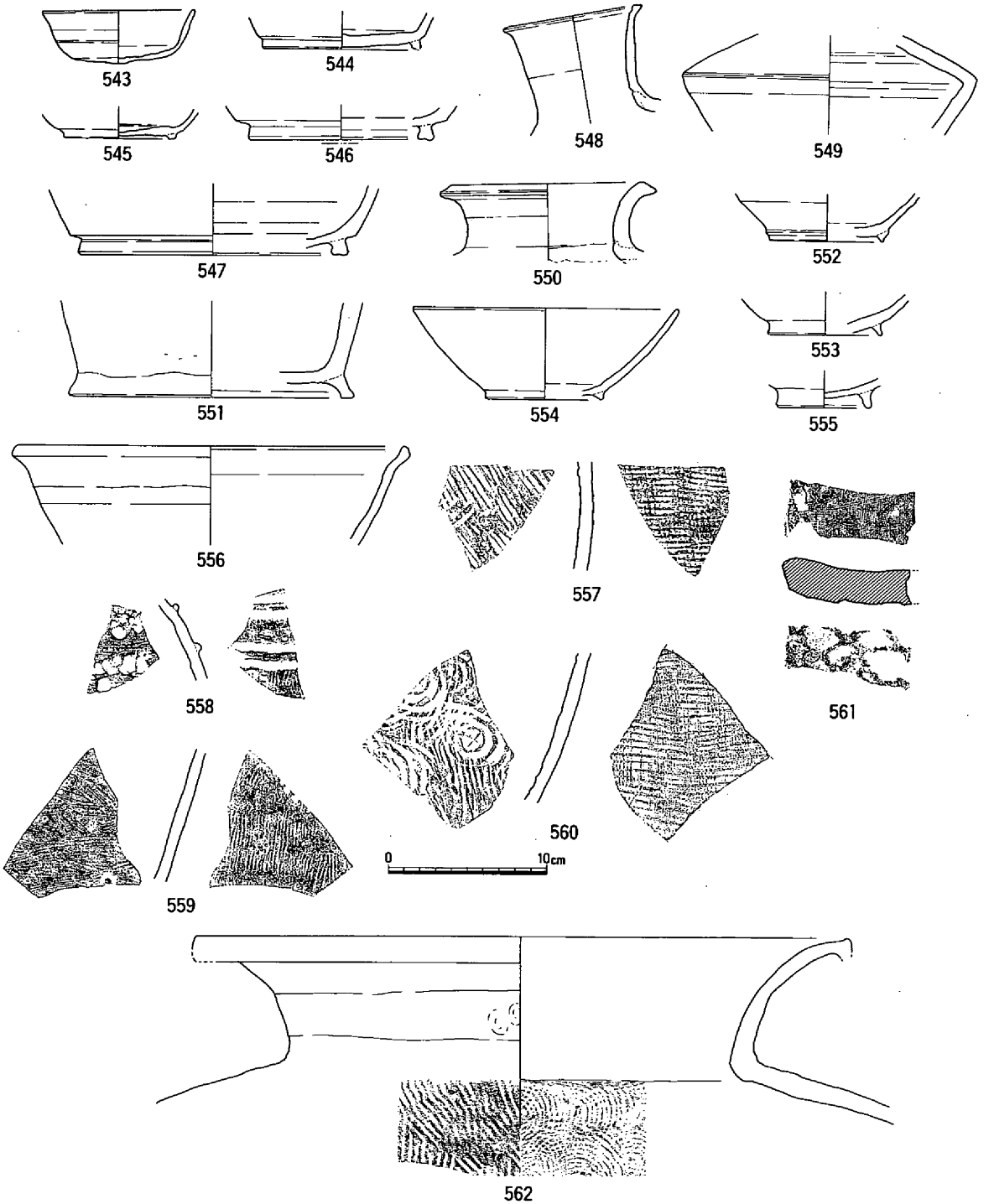
第161図に掲げる「網代編み」遺構についてふれてみたい。この遺構が検出された調査区は、南側は水田、北側には水路・道路と制約が多く用地ぎりぎりまでの発掘調査はできなかったが、幸い調査区の大半が溝35の中にあり、発掘した範囲は全面が砂層が埋没した状態であった。溝のほぼ中央部で検出されたのがこの「網代編み」である。西側には10本足らずの小さな杭が打ち込まれており、それらに立て掛けるような状態で、網代編みにしたしなやかなスギの板材（厚さ約１cm前後、幅約10cm前後）が検出された。比較的湿潤な溝の下層に位置していたため良好な状態が保たれていた。検出当初は、漂着した網代編みと理解していたが、背後から支えるように杭列が検出されたため、東側から流水を塞き止めて跳ね上がる魚を捕まえる、古来の漁法の一つである「やな」のような施設の可能性も指摘しておきたい。

溝35・36の出土遺物は、第162～175図に掲げるように、多種多様でしかも時期的な範囲はきわめて広汎である。上限は奈良時代、それも８世紀代前半に比定される。そして、平安時代の遺物とりわけ緑釉陶器や黒色土器にみるべきものが増大する。つづく鎌倉時代には、溝は埋没し始めてゆくという過程が推察される。

「網代編み」遺構が検出された周辺では、黒色土器を中心として平安時代の土器が多数出土しており、10世紀代を中心とした時期に溝の盛期があり、この時期にこの「網代編み」遺構も何らかの機能を果たしていた可能性がきわめて高いといえる。

しかし、溝の上層と下層の出土遺物を検討してみると、明確な時期を画すほどの差はなく、頻繁な増水や流路の移動によって混濁して出土していることがわかる。

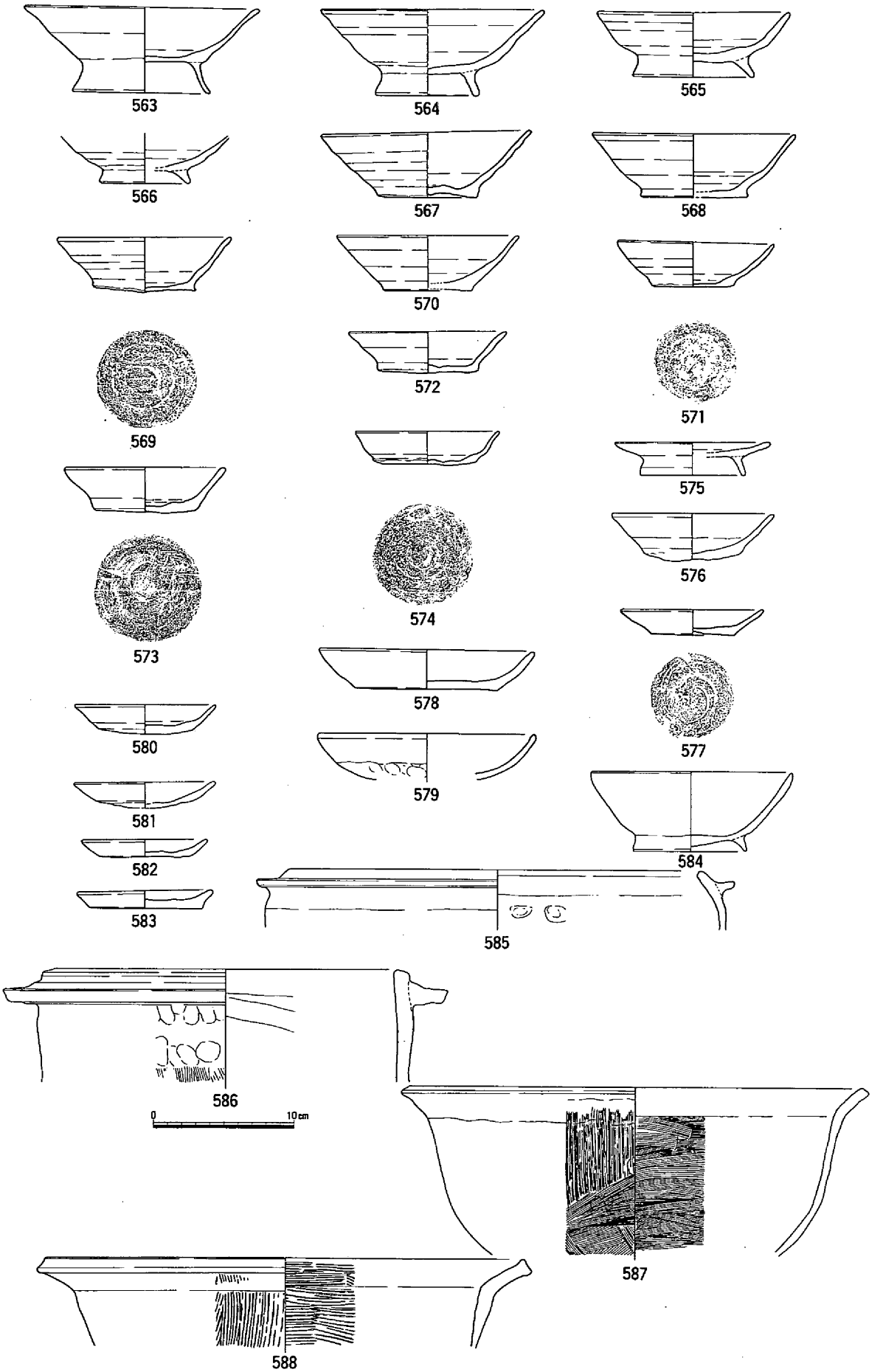
第164図には須恵器の実測図を掲載する。小型の須恵器としては、杯・壺・平瓶などがある。杯の中には、高台をもたない543もあるが、544～546のように多くは高台が付けられる。544は、北方中溝遺



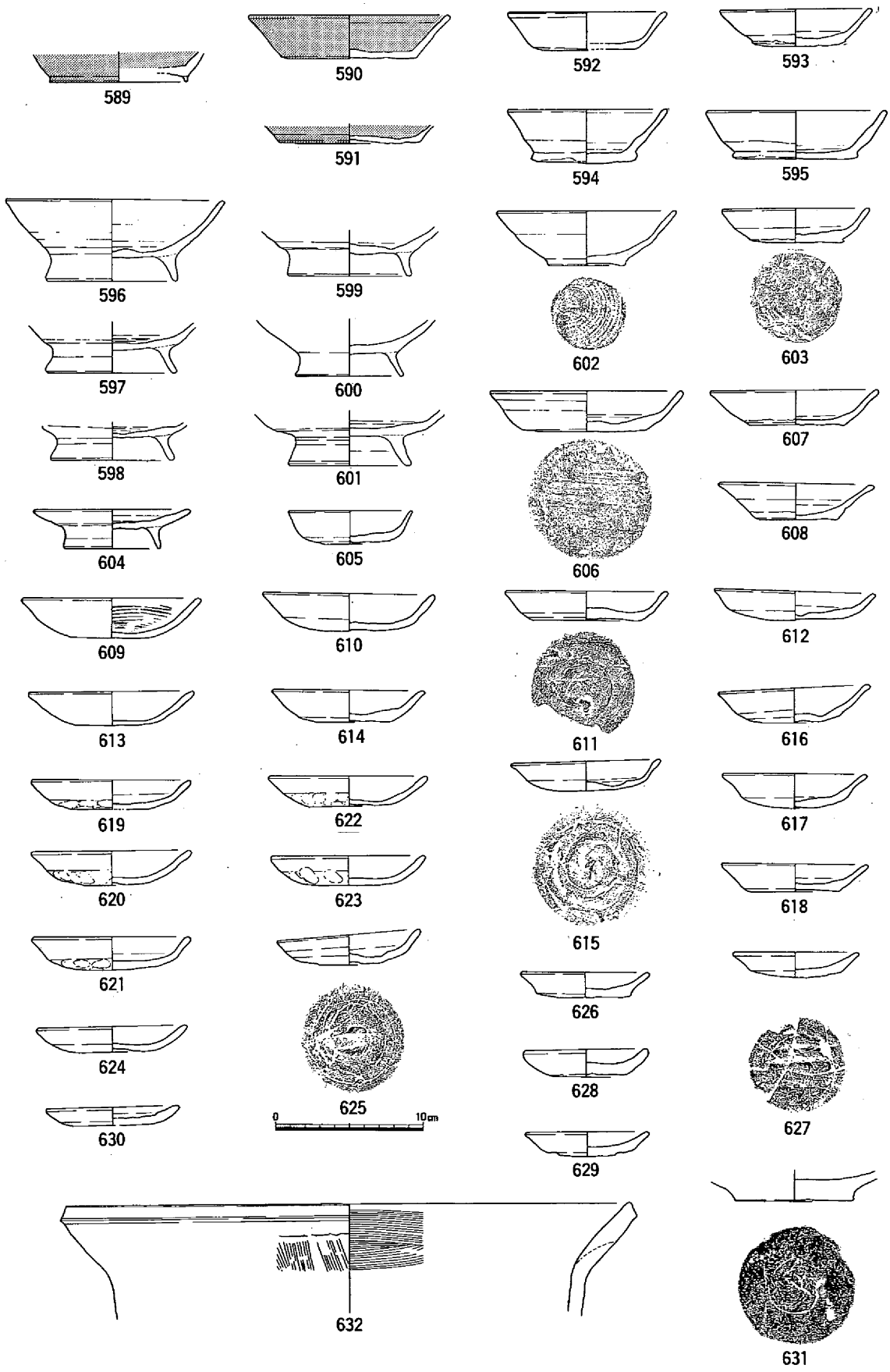
第164図　溝35出土遺物（3）（東半、須恵器；1/4）

跡２区の下層で出土したもので、８世紀前葉に比定される。壺には547・551のように外底部に高台が付けられたものがあるが、後者は９世紀代に降る。560は甕であるが、内面に十字形のタタキがあり、いわゆる車輪タタキに含まれるものである。平安時代以降、椀552～555や壺558・559のほかに557の内面に平行タタキが施されたものもみられる。

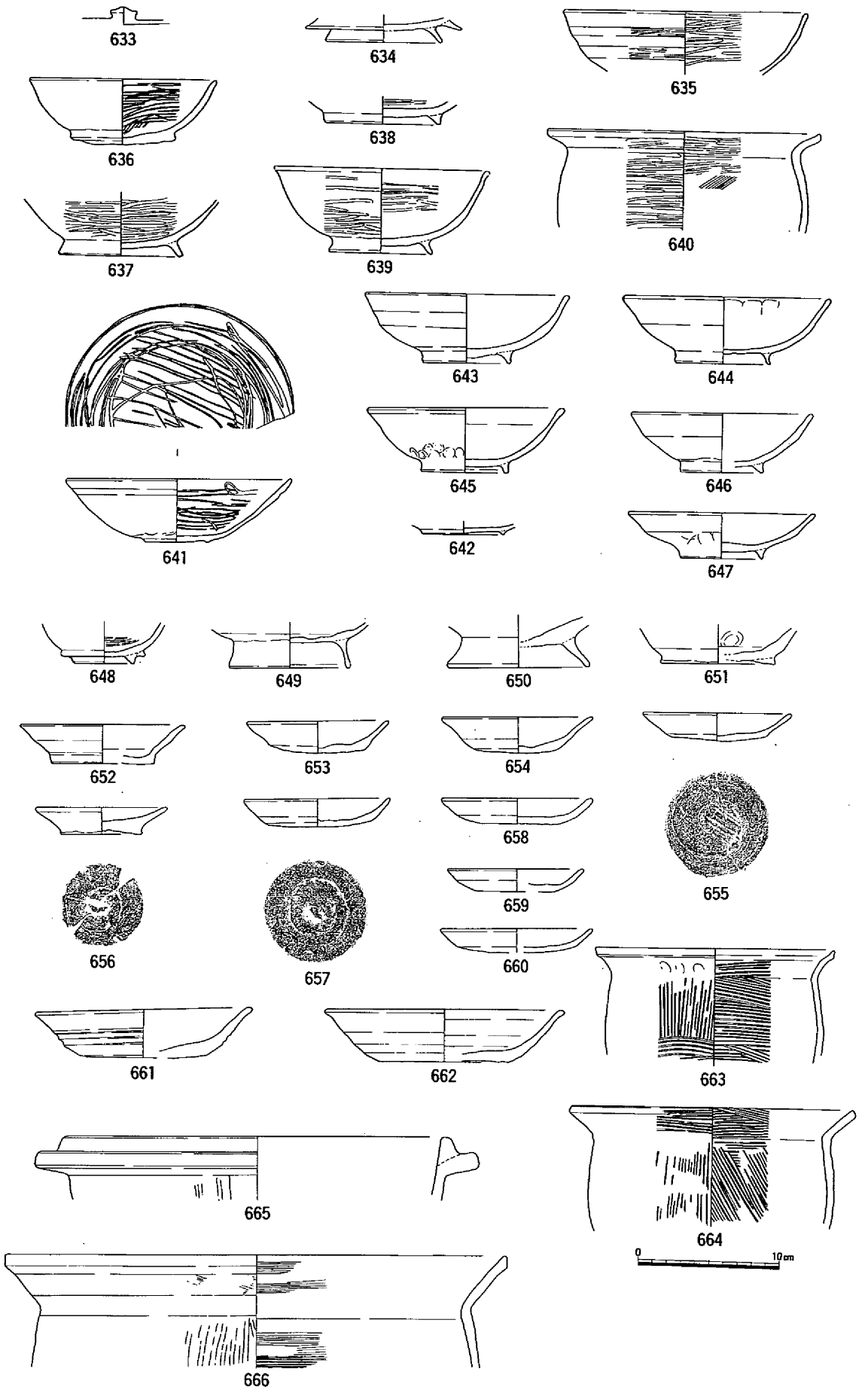
第165図は１区の東半部を中心として出土した土師器である。高台付きの椀のほか、杯あるいは皿を主体とした小型の日常什器が大半を占める。587・588は鍋で、煮沸容器として使用された煤の付着がいずれにも観察される。585・586は瓦質の羽釜である。以上の多くは、平安時代中ごろから鎌倉時



第165図　溝35出土遺物（4）（西半、土師器ほか；1/4）



第166図　溝35出土遺物（5）（東半、土師器；1/4）

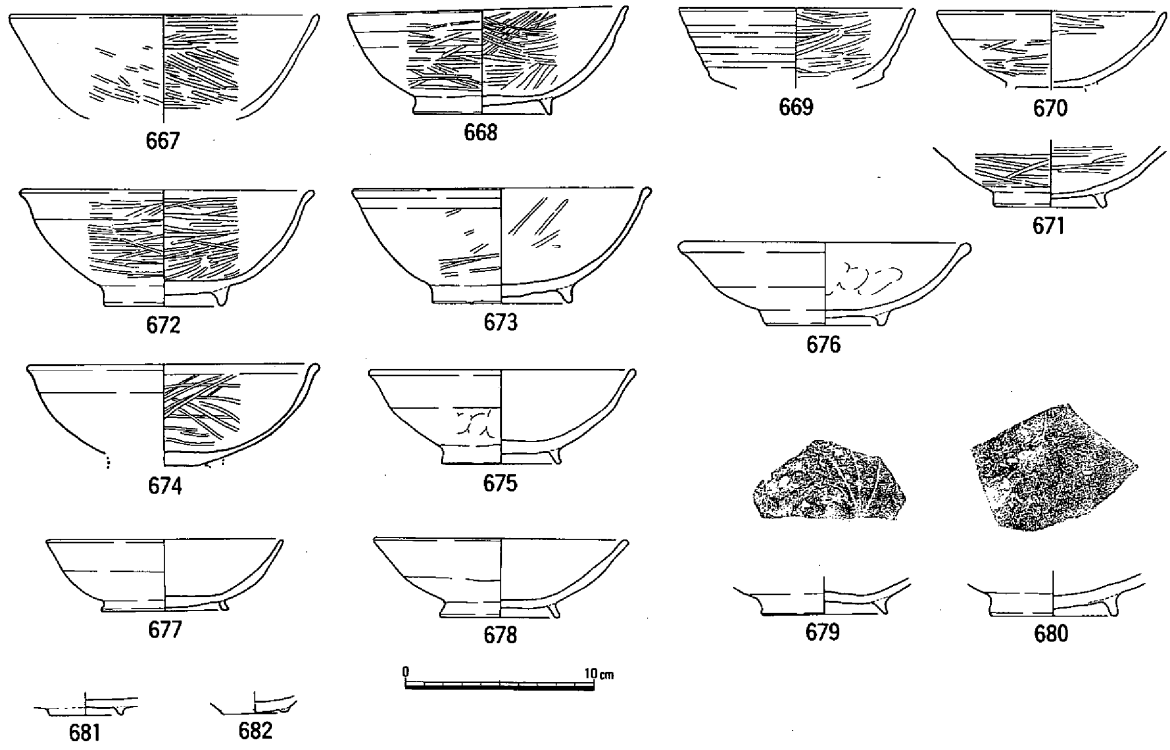


第167図　溝35出土遺物（6）（西半、黒色土器・瓦器・土師器；1/4）

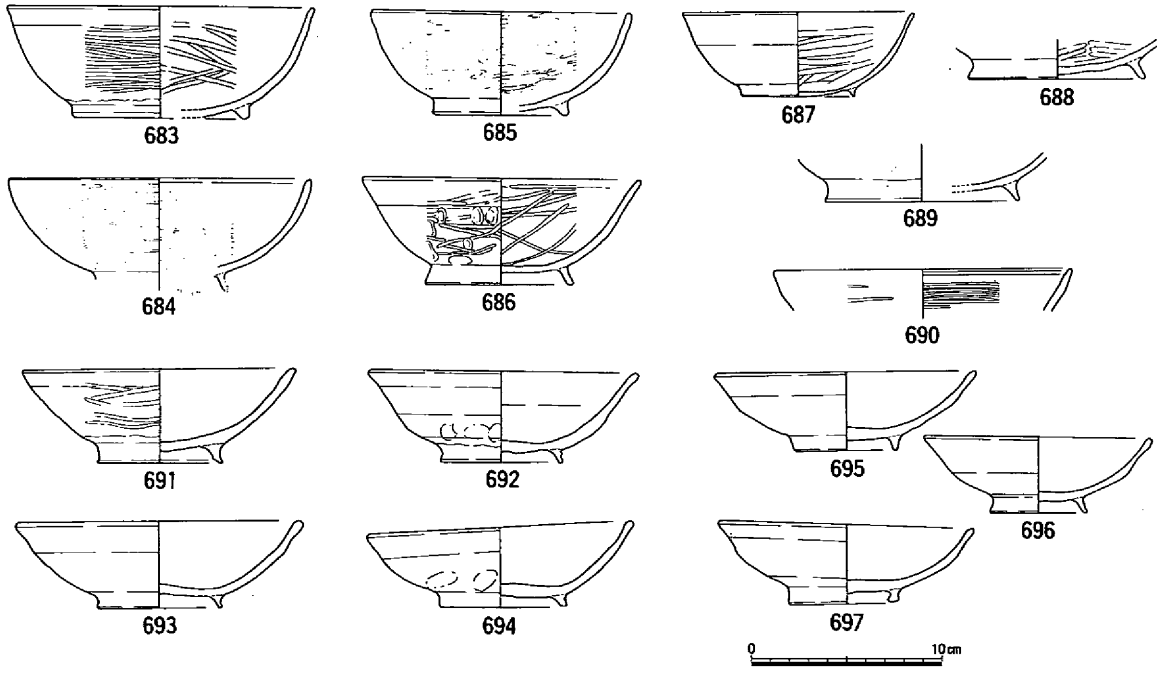
代に比定される。

第166図は２区の出土遺物で、すべて土師器である。589～591は丹塗りの土師器杯で平安時代前葉に比定される。やはり小型の日常什器である、杯・皿の占める割合が高い。

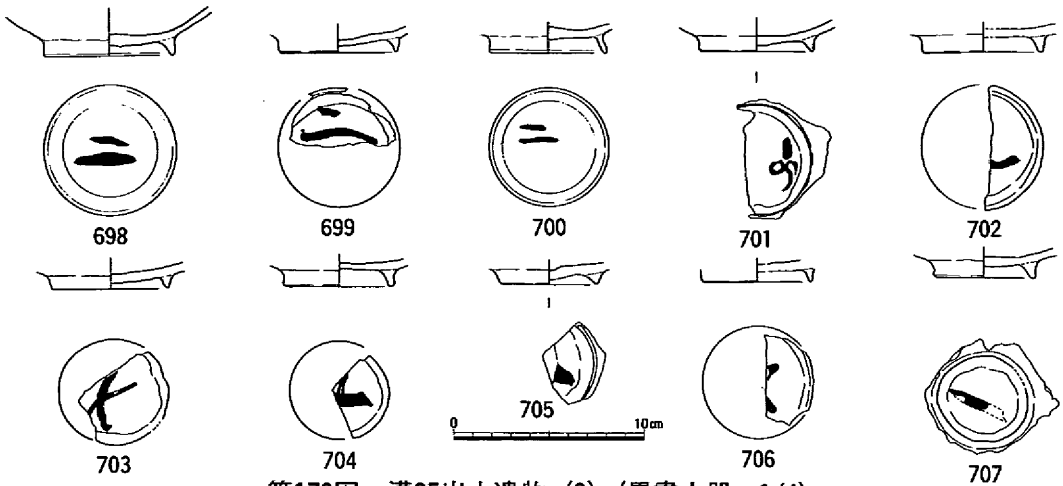
第167図には黒色土器（633～637・640）、土師器（早島式土器；639・643～647）、瓦器（641・642）、土師器（648～666）を掲載する。黒色土器および土師器の中には634・648のように体部と高台



第168図　溝35出土遺物（7）（１区東半、黒色土器・土師器；1/4）



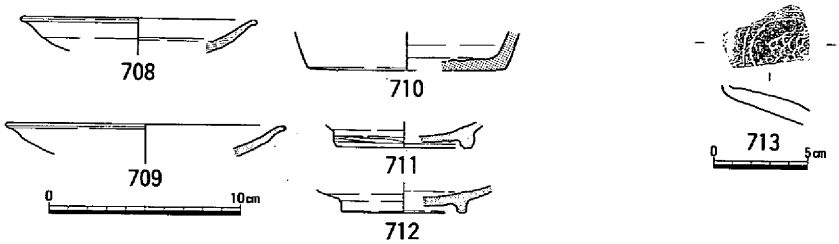
第169図　溝35出土遺物（8）（２区、黒色土器・瓦器・土師器；1/4）



第170図　溝35出土遺物（9）（墨書土器；1/4）

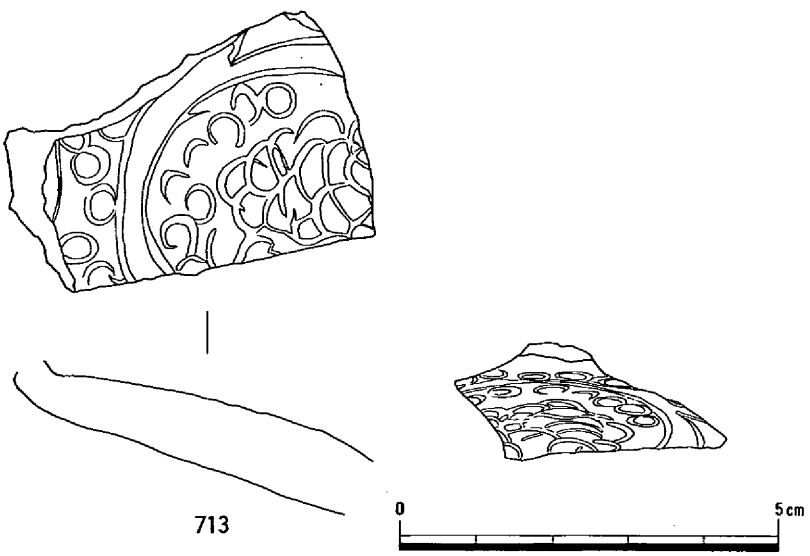
の境界に突帯状の鍔を飾るものがある。また640は小型の甕で、内外面には丁寧なヘラミガキが施されている。663・664は土師器の小型甕である。長胴の煮沸用の甕と考えられる。663は口唇端部のツマミアゲが特徴的である。これらの土器は概ね９世紀後葉から13世紀代の幅を示す。639は早島式土器の中でも最古のタイプと考えられ、11世紀代、平安時代後葉に比定される。

第168図には１区東半で出土した黒色土器と土師器である。前者はすべて椀で、後者はすべて早島式土器である。中には早島式土器としては高台が簡単に取り付けられ、器体の小型化が進んだ681・682があるがこの時期に、溝の埋没がかなり進行し、いわば機能消滅を示唆すると考えられる。



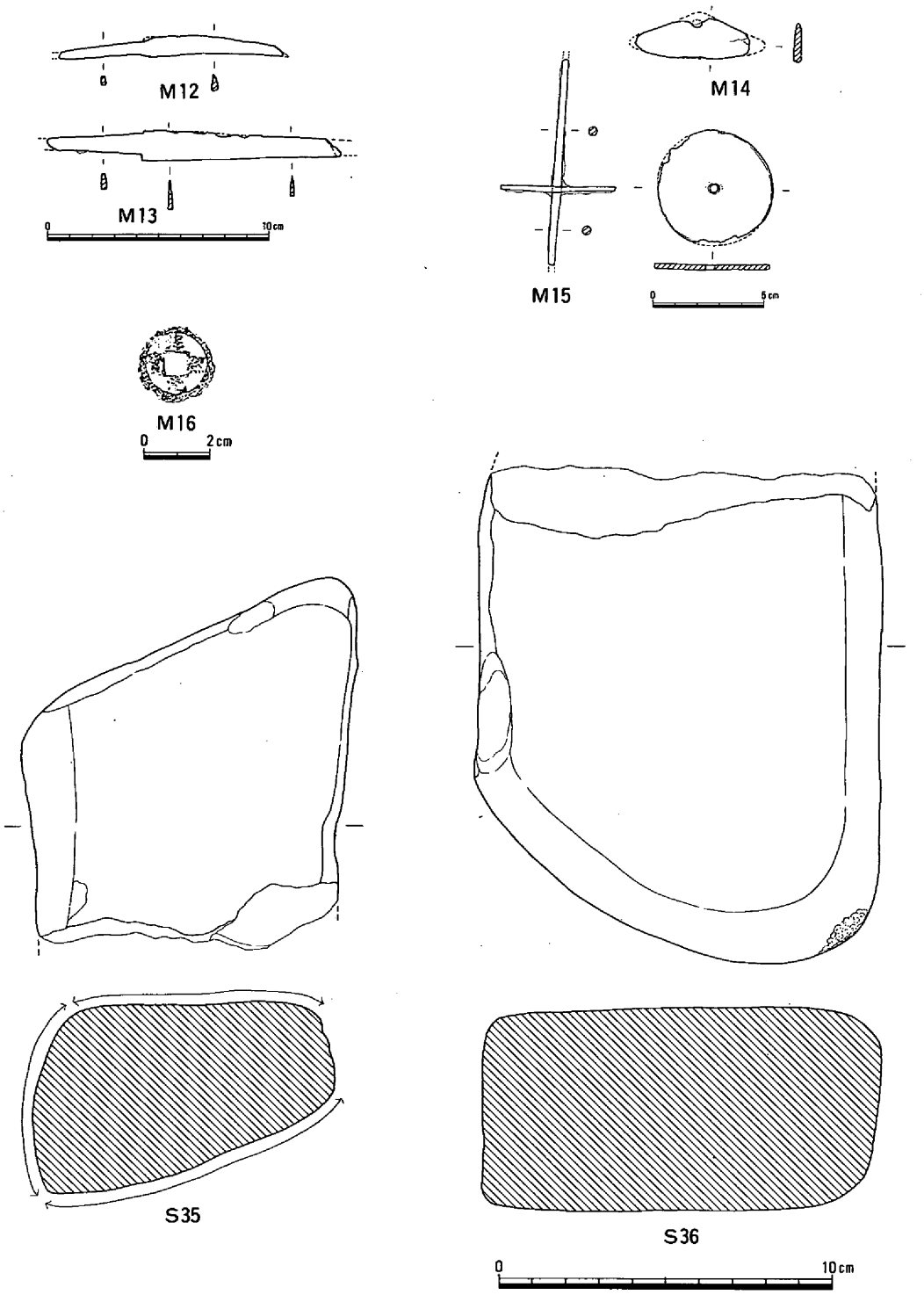
第171図　溝35出土遺物（10）（緑釉陶器ほか；1/4）

第169図には２区で出土した黒色土器・早島式土器・瓦器を掲げる。すべて椀であるが、690は楠葉タイプの古式の瓦器小片である。



第172図　溝35出土遺物（11）（施釉陶器713；1/1）

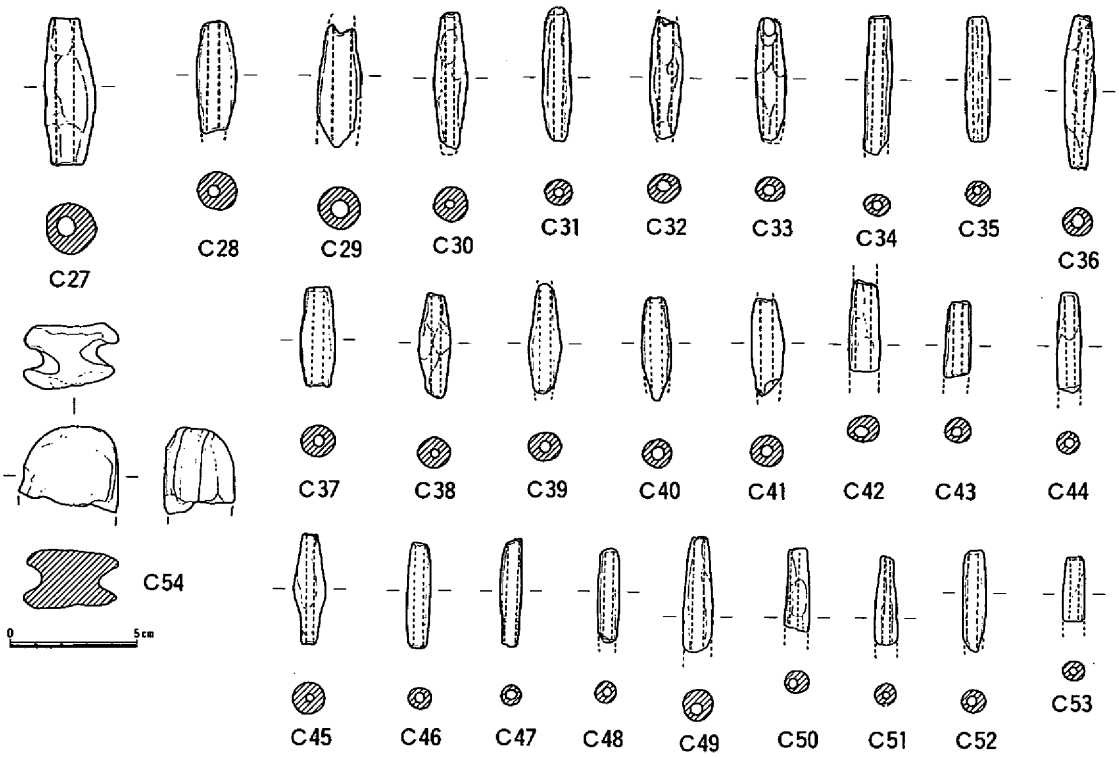
第170図はすべて早島式土器で、外底部に墨書がみられるも



第173図　溝35出土遺物（12）（鉄器；1/3、銭貨・石器；1/2）

のである。698～700は「二」、702～705は「十」と数字が書かれたものが多い。701は不明瞭ながらくずした漢字の可能性もある。

第171図には緑釉陶器である。710以外はすべて皿と考えられる。710はわずかに釉面が残されているがきわめて精良な胎土で、丁寧に磨かれた灰白色の須恵質焼成となっている。713は施釉陶器で灰釉陶器の釉調に近く、鈍い光沢を放つ灰緑色を呈している。体部の外面には細い線刻で文様が描かれるが、鱗のように連続する文様を円で囲むモチーフが看取される。一方で偏行唐草文のように連続す



第174図　溝35出土遺物（13）（土製品；1/3）

る「葡萄唐草文」にもみえる。器形は短頸壺とみられ、産地については当初は猿投窯など東海地方の灰釉陶器と考えていた。しかし、胎土が明らかにそれとは異なるという所見が多く、一方で朝鮮半島の新羅土器との関連も十分に考えられたが最終的な結論に至らなかった。今後の検討課題としたい。

第173図上段には鉄器を掲げる。溝内は比較的湿潤な状態であったが、むしろそれが一定であったためか錆膨れもさほどなく、形態が良く観察される。

M12・13は刀子である。前者は身幅も長さも後者より一回り小さいが、ほぼ全形を残す。後者は切っ先や茎部をかなり欠いている。鋒は極端に直線的である。

M14は火打ち金である。山形の上部には穿孔の痕跡がかすかに観察される。

M15は紡錘車である。正円を描く厚さ1.8㎜、径５㎝の円盤の中央に鉄製の心棒が貫通する。

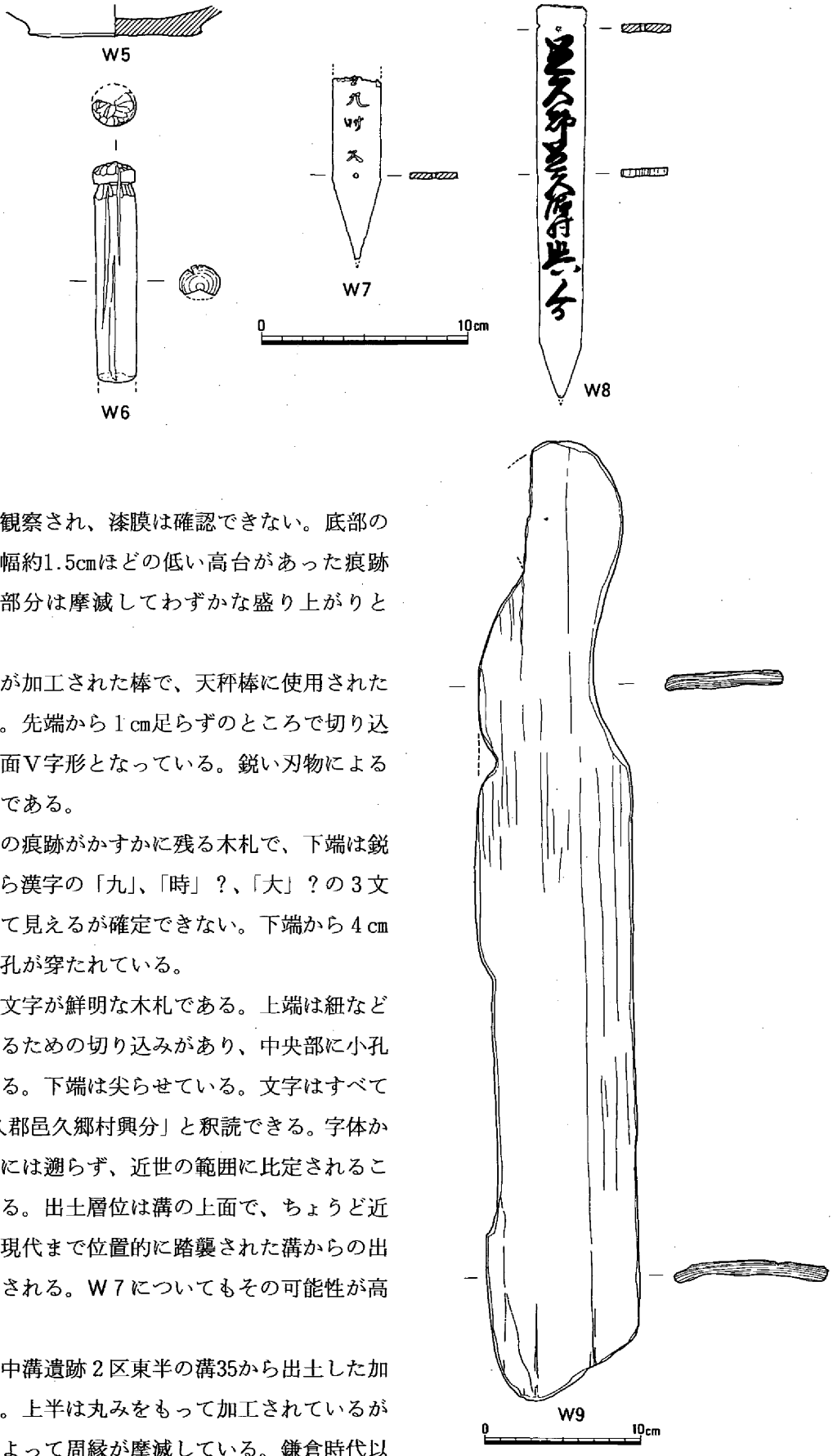
M16は宋銭である。「淳熙元宝」と推定判読され、初鋳年は1174年（南宋）である。これらの鉄器の個々の年代は特定できないが、刀子は古代の範囲に限定できる可能性が高い。紡錘車や火打ち金は中世まで降る可能性も考慮する必要があるだろう。

S35・36はいずれも砥石である。前者は細粒花崗岩、後者は石英斑岩で前者の方は側面も含む全面に使用痕跡がみられる。後者は上面と下面のみ使用痕跡が残される。磨耗の状態から基本的に鋭利な刃をもつ鉄器に使用された可能性が考えられる。

第174図は小型の土錘である。C54を除いたすべては単孔棒状の土錘で、破片を含めると総計50点にものぼる。すべて土師質焼成で、赤橙色を呈している。重量は完全に近いもので３～24ｇ前後を測るものが圧倒的に多い。

C54は少し大きめの土錘で、周縁に紐を巻き付けて使用されたものであろう。これらの土錘の使用された場所は、この溝35であった可能性も十分にある。

第175図は木製品である。W５は漆塗りの椀底部で、内外面に黒漆の塗膜が残る。外底部には使用



第175図　溝35出土遺物（14）（木製品；上段1/3、下段1/4）

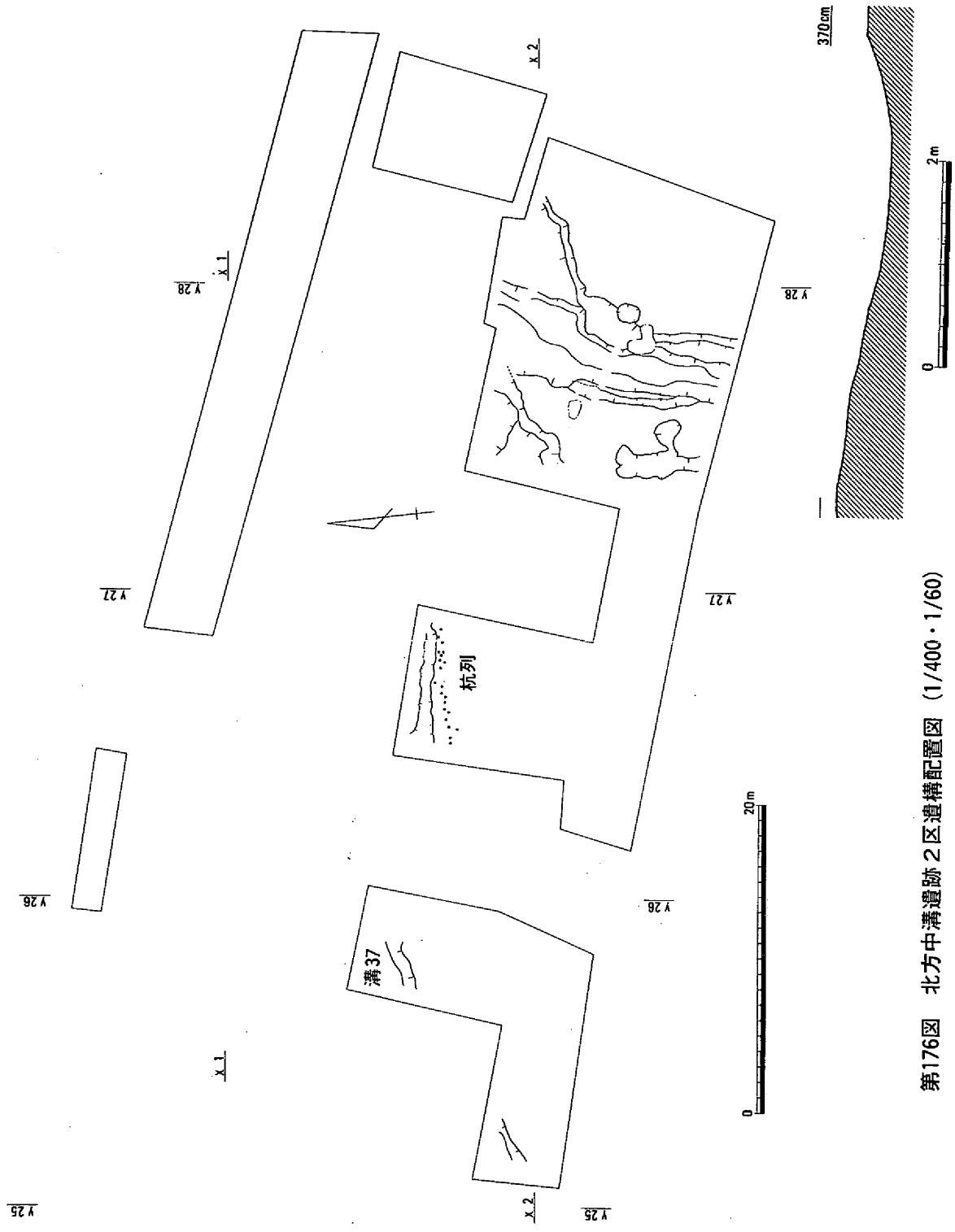
による摩滅が観察され、漆膜は確認できない。底部の周縁には元は幅約1.5cmほどの低い高台があった痕跡があり、その部分は摩滅してわずかな盛り上がりとなっている。

Ｗ６は端部が加工された棒で、天秤棒に使用された可能性がある。先端から１cm足らずのところで切り込みを入れ、断面Ｖ字形となっている。鋭い刃物による加工は念入りである。

Ｗ７は墨書の痕跡がかすかに残る木札で、下端は鋭く尖る。上から漢字の「九」、「時」？、「大」？の３文字がかろうじて見えるが確定できない。下端から４cmのところに小孔が穿たれている。

Ｗ８は墨書文字が鮮明な木札である。上端は紐などをくくり付けるための切り込みがあり、中央部に小孔が穿たれている。下端は尖らせている。文字はすべて漢字で、「邑久郡邑久郷村興分」と釈読できる。字体からは中世以前には遡らず、近世の範囲に比定されることは確実である。出土層位は溝の上面で、ちょうど近世から近代・現代まで位置的に踏襲された溝からの出土遺物と理解される。Ｗ７についてもその可能性が高い。

Ｗ９は北方中溝遺跡２区東半の溝35から出土した加工板材である。上半は丸みをもって加工されているがローリングによって周縁が摩滅している。鎌倉時代以前に比定される可能性が高い。　（岡田）



第176図　北方中溝遺跡２区遺構配置図（1/400・1/60）

溝37（第176図）

北方中溝遺跡２区の東半で検出されたたわみ状の溝の一部である。調査区の北側に想定される溝35の東延長部からの枝溝か、増水した際にできた流水痕跡とも見ることができる。　（岡田）

溝38（第176図）

溝37の東約40ｍで検出されたほぼ南北方向の溝状のたわみで、深さ約40㎝前後を測る。周囲は起伏に富んでおり、やはり溝35からの分流と推定される。出土遺物は土師器細片のみである。　（岡田）

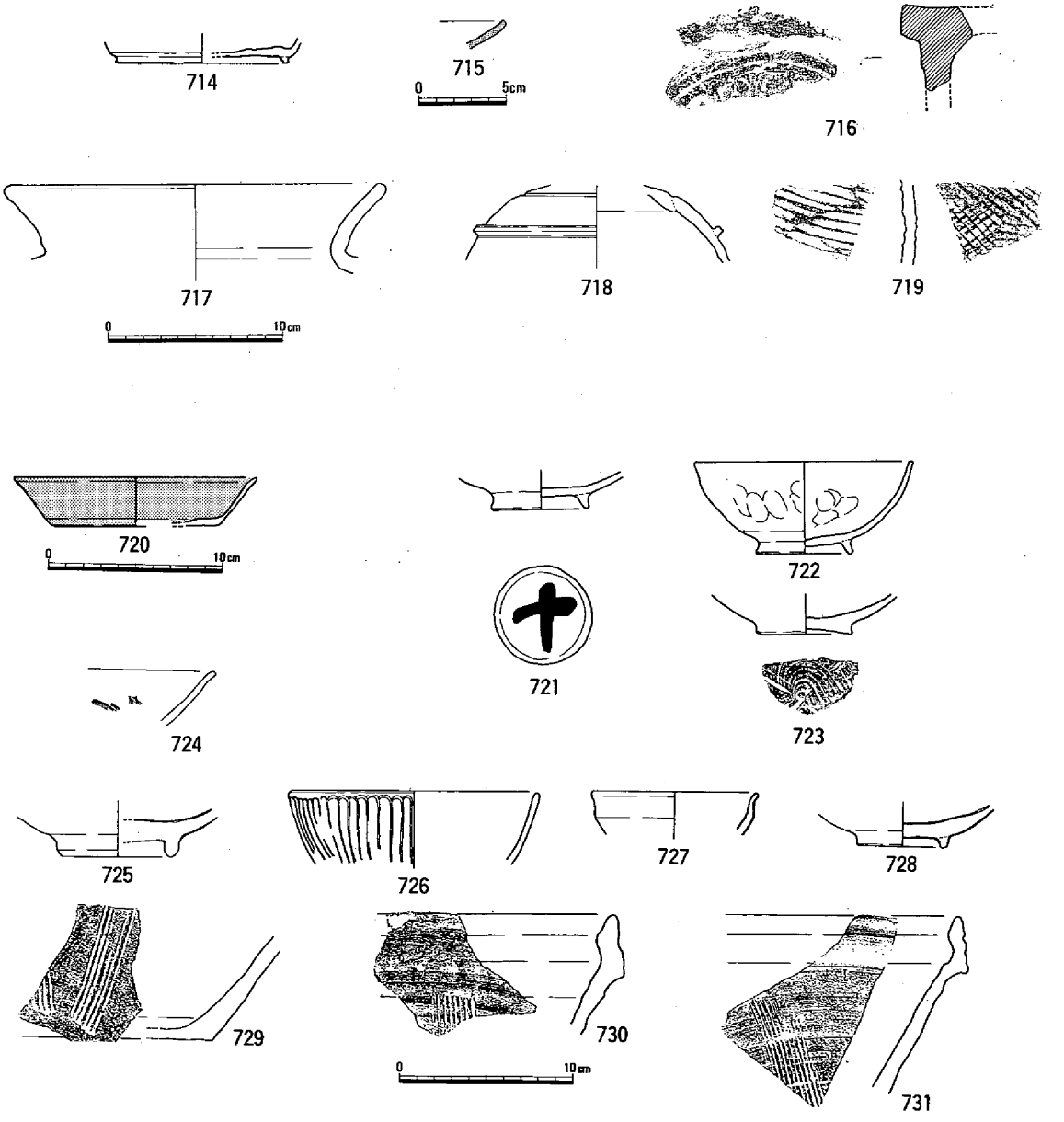
(2)　その他の遺構・遺物

遺構としては、溝が発掘調査の大半を占めていたが埋没後には周辺ではおもに水田経営が行なわれたようである。その痕跡は上層で多重な灰色土層となって観察されたが、平面的には古墳時代以前の水田のように明瞭な畦の痕跡を伴っては検出ができなかった。

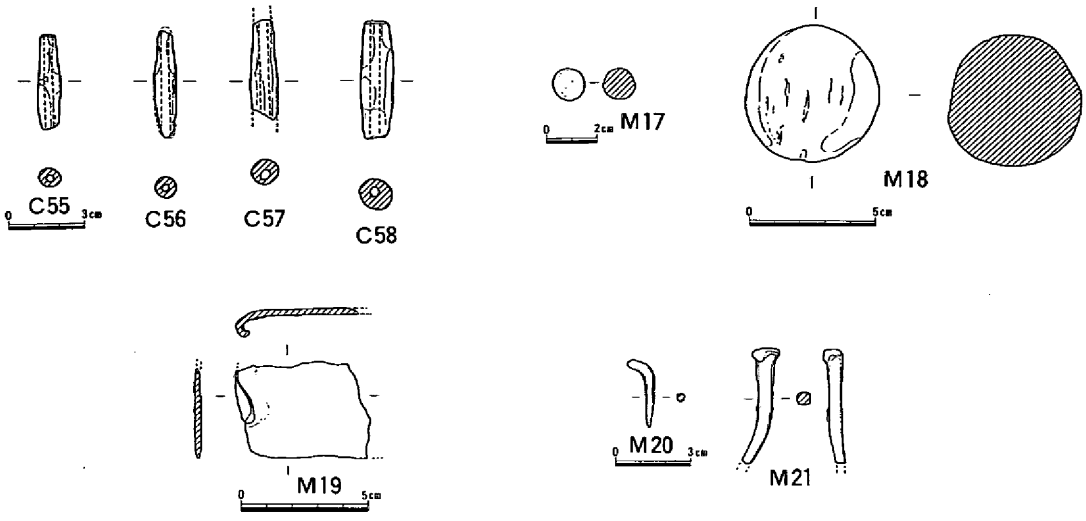
第177図に掲げる遺物は、包含層あるいは近世遺構の溝などから出土したもので古代から中世そして少量の近世の遺物を掲げる。

714・717～719・771は須恵器である。いずれも溝35の存続する時期的範囲におさまる。715は緑釉陶皿小片である。

716は軒丸瓦で、推定復元すると十葉複弁蓮華文の瓦当であった可能性が高い。720～722は土師器である。720の内外面は丹塗りである。



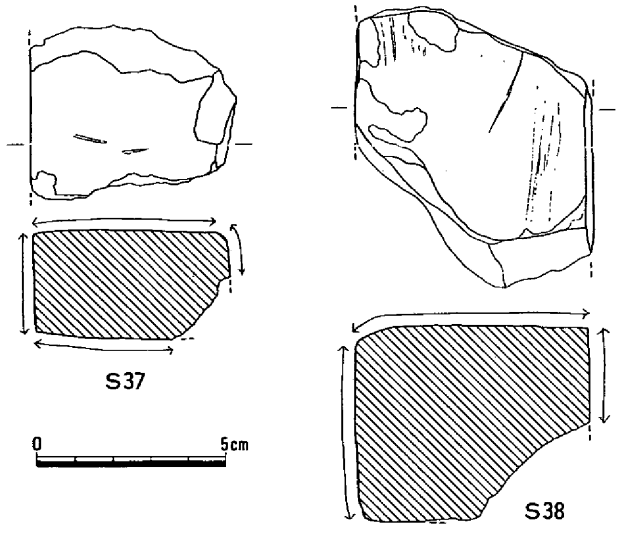
第177図　北方中溝遺跡包含層出土遺物（1）（須恵器・土師器・陶磁器；1/4）



721は早島式土器の椀で、外底部に「十」の墨書が鮮明に観察される。722も早島式土器の椀である。

724は白磁碗、725は青磁碗である。後者の見込みには1条の圏線がめぐる。726も青磁碗である。体部外面には退化した蓮弁文が飾られる。

727は小型の瀬戸天目碗で、体部上位は特有の屈曲がある。釉調は黒色を呈し部分的に褐色を帯びる。728は唐津の陶器碗で17世紀代に比定される。おそらく溝35の上面に位置した近世溝の初期の遺物であろう。



第178図　北方中溝遺跡包含層出土遺物（2）（土製品・金属製品・石製品；1/3・1/2）

729～731は備前焼である。いずれも擂鉢で、特徴的な卸し目が観察される。溝35からの備前焼の出土は、ごく少量にとどまっており、おそらく溝の埋没期以降の遺物と考えられる。

C55～58は土師質の土錘である。いずれも棒状の単孔土錘で、橙褐色を呈する。M17は鉛製の銃弾である。おそらく先込めの火縄銃の銃弾であろう。重さ10.8ｇを量る。M18はやはり鉛製の砲弾である。大筒の砲弾と考えられ、擦痕や変形がみられるので発射弾とみてよいだろう。当時、所有・使用が可能だったのは岡山藩であろうから、演習などが行なわれて飛来し、着弾したものと理解したい。重さは467ｇを量る。M19～21はいずれも鉄製品である。M19は鋤先で木製の鋤柄の先端に挟むように端を折り曲げている。M20・21は釘である。前者は角釘の稜が不明瞭である。後者は角釘で、使用されたものか曲がっている。

S37・38はいずれも直方体を呈する砥石である。前者は上下、両面すべて使用されている。石材は流紋岩である。後者は下面以外はすべて使用されている。石材は同様に流紋岩である。使用された平滑な表面の観察から、当然のことながら鋭利な鉄器の研ぎだしに使用されたものであろう。（岡田）

第４節　北方地蔵遺跡の概要

１．調査の概要

北方地蔵遺跡は、1994（平成６）年度に北方中溝遺跡の発掘調査を実施していた際に、ＪＲ津山線の東方にも遺跡が広がる可能性があるため、事前に数箇所のトレンチによる確認調査を行なったことによってその存在が周知された。

全体の調査区は、計画道路がＪＲ津山線を跨ぐ設計であるため、橋脚部分と主要地方道美作線に達する手前の盛土部分が発掘調査対象とされた。したがって橋脚間の高架下は、発掘調査の対象とせず原状のままでの保存部分となった。

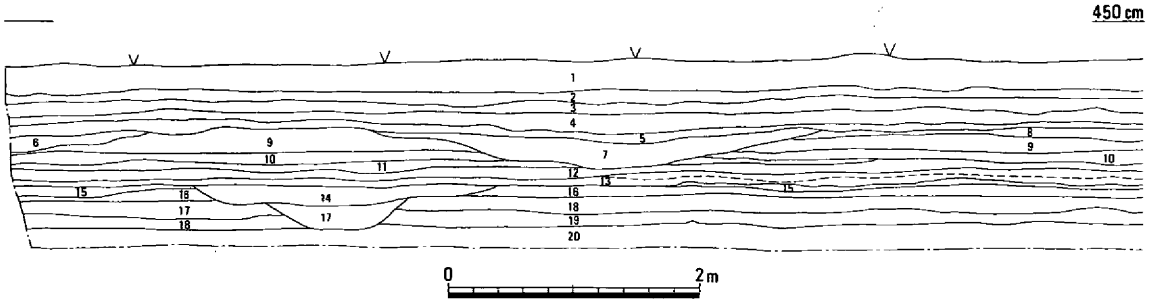
遺跡地では、基本的に北方中溝遺跡とほぼ同様な層位が確認され、一部では弥生時代の溝の存在も確かめられた。さらに水田層も北方中溝遺跡や北方横田遺跡と同様に、弥生時代後期後半の上位水田と下位に存在する弥生時代前期に比定される水田の双方が、ほぼ全面に存在することは、大きな成果であった。

調査区は、調査時期や生活道路等の制約により１～３区に分割して設定し、西方つまり１区から発掘調査を開始した。

すべての調査区で弥生時代前期の遺構がもっとも古く、１・２区では水田遺構と溝、３区では微高地となって溝群が検出された。

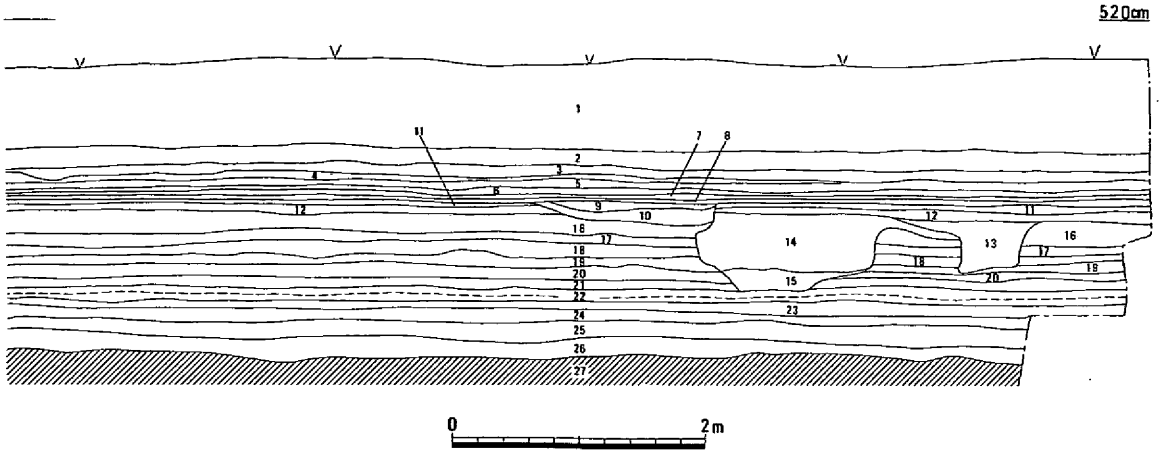
弥生時代中期から後期にかけては、全面に溝・たわみ状の遺構が検出され、近隣に水田遺構の存在を示唆している。この時期の水田層は発掘調査区では明確ではない。

弥生時代後期後半には１・２区のほぼ全面で水田遺構が検出された。北方下沼遺跡から連続して検出された水田遺構で、同時期に洪水によって砂層に覆われた、きわめて明瞭な水田遺構である。



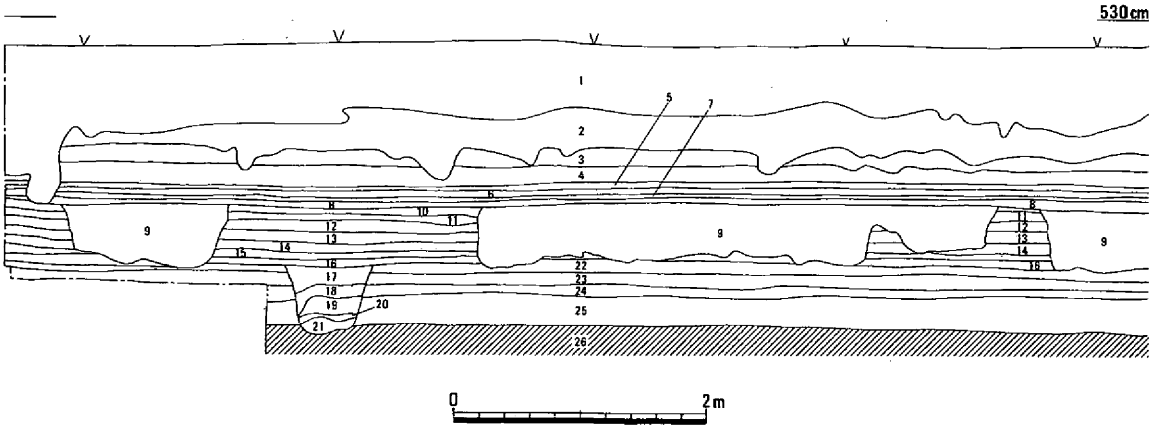
１．灰青色砂質土（近・現代水田層）
２．褐灰色砂質土
３．灰黄色砂質土
４．淡灰黄色砂質土
５．灰黄褐色砂質土
６．淡黄灰色微砂
７．淡灰黄色砂質土（溝79）
８．淡黄灰色砂質土
９．淡茶褐色砂質土（マンガン含む）
10．黄褐色砂質土
11．灰黄色砂質土
12．漆灰色粘質土（古墳時代）
13．灰褐色粘質土（古墳時代）
14．黄灰褐色砂質土（溝59）
15．黄灰色泥砂（洪水砂）
16．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
17．暗灰黄色砂質土（溝12）
18．暗褐灰色粘質土
19．黄褐灰色粘質土
20．黒褐色粘土（弥生時代前期）

第179図　北方地蔵遺跡１区西壁土層断面図（1/60）



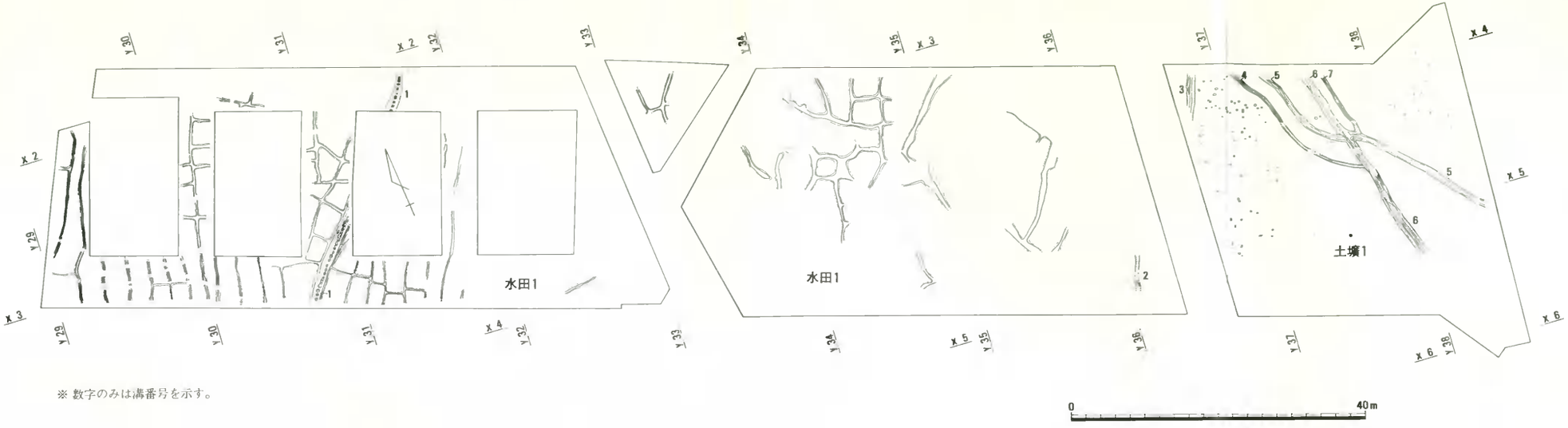
1．盛土
2．灰青色砂質土
（近・現代水田層）
3．暗黄灰色砂質土
4．黄灰褐色砂質土
5．黄灰色砂質土
6．淡黄灰色砂質土
7．黄灰褐色砂質土
8．灰黄褐色砂質土
9．灰色砂質土
10．淡灰色砂質土（砂ブロック含む）
11．淡黄灰色砂質土
12．灰黄褐色砂質土（粘土採掘土壙上層）
13．黄灰色砂質土
（灰色粘質土をブロック状に含む）
14．灰茶色砂質土
15．淡灰褐色砂質土
16．淡灰黄色砂質土
17．橙灰色泥砂
18．淡茶褐色砂質土（マンガン含む）
19．淡灰色粘質土（古墳時代）
20．灰褐色粘質土（古墳時代）
21．黄灰色泥砂（洪水砂）
22．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
23．黄褐灰色粘質土
24．黒褐色粘土（弥生時代前期）
25．茶灰褐色粘質土
26．茶灰色粘質土
27．淡茶褐色泥砂（基盤層）

第180図　北方地蔵遺跡２区東壁土層断面図（1/60）



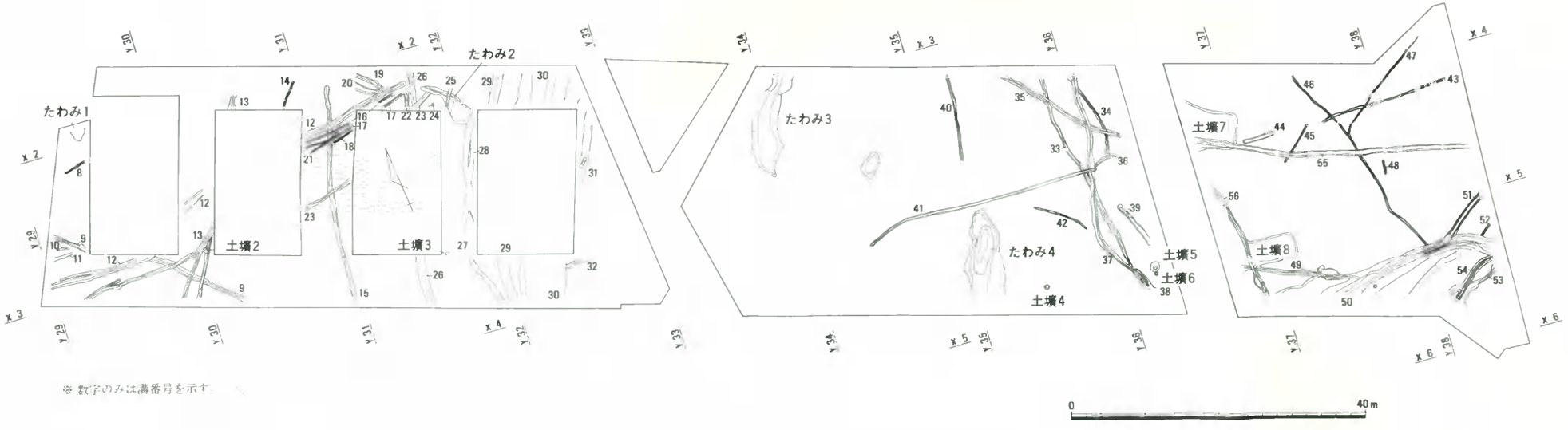
1．盛土
2．灰青色砂質土
（近・現代水田層）
3．暗黄灰色砂質土
4．黄灰褐色砂質土
5．黄灰色砂質土
6．黄灰褐色砂質土
7．淡黄灰色砂質土
8．灰黄褐色砂質土
（粘土採掘土壙上層）
9．黄灰色砂質土
（灰色粘質土をブロック状に含む）
10．淡灰黄色砂質土
11．橙灰色泥砂
12．淡茶褐色砂質土（マンガン含む）
13．淡灰色粘質土（古墳時代）
14．灰褐色粘質土（古墳時代）
15．黄灰色泥砂（洪水砂）
16．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
17．淡黄灰色砂質土
18．灰黄色砂質土
19．淡灰黄色砂質土
20．砂
21．淡灰黄色砂質土
（黒褐色粘土をブロック状に含む）
22．黄褐灰色粘質土
23．黒褐色粘土（弥生時代前期）
24．茶灰褐色粘質土
25．茶灰色粘質土
26．淡茶褐色泥砂（基盤層）

第181図　北方地蔵遺跡３区東壁土層断面図（1/60）



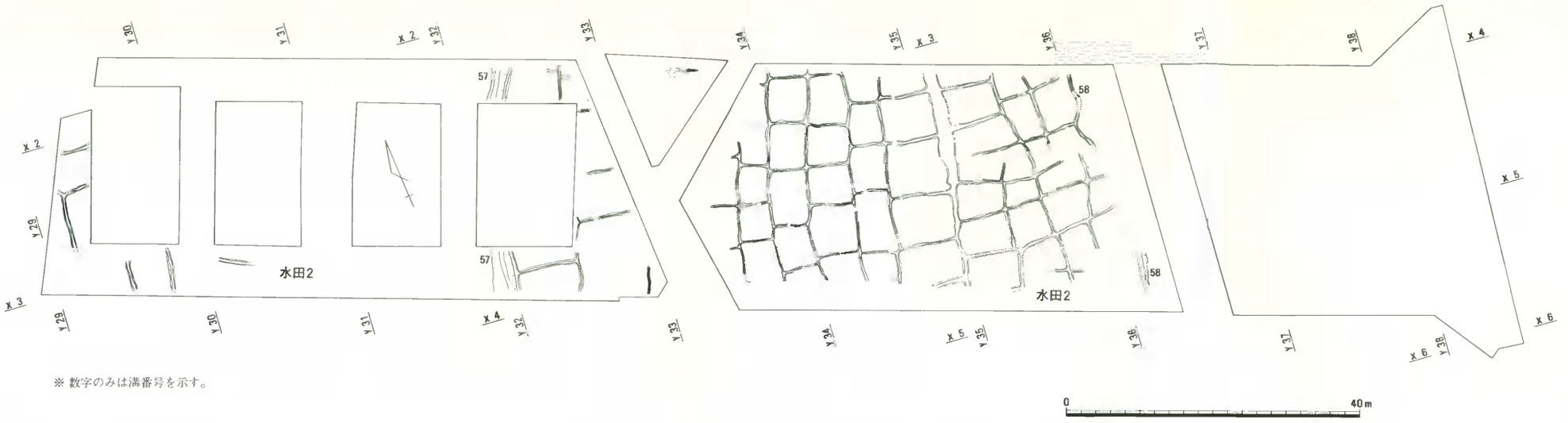
※ 数字のみは溝番号を示す。

第182図　北方地蔵遺跡弥生時代前期遺構配置図（1/600）



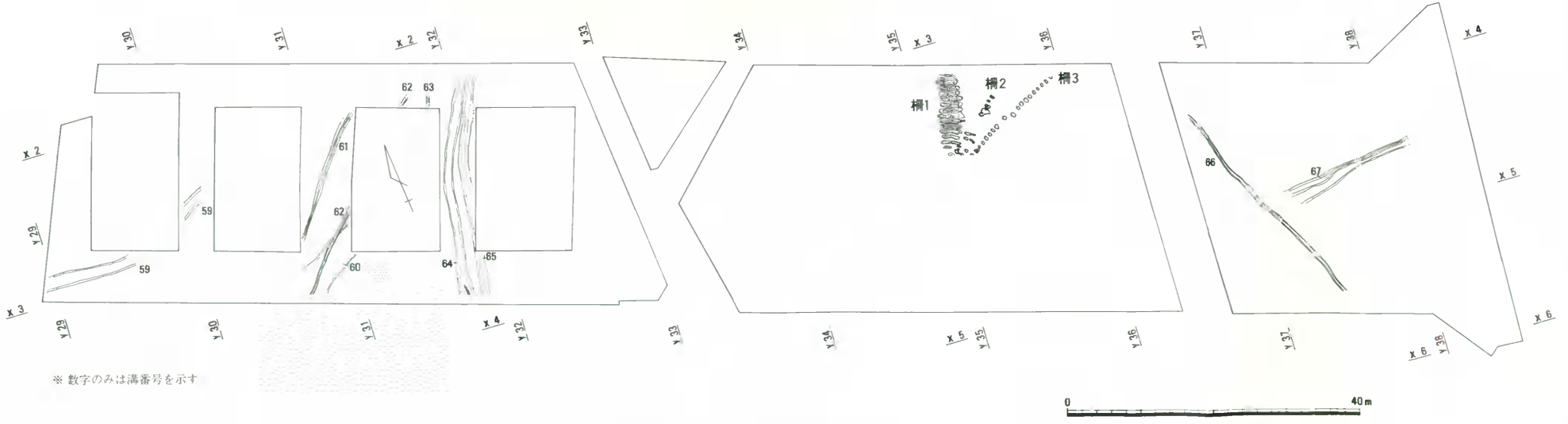
※ 数字のみは溝番号を示す。

第183図　北方地蔵遺跡弥生時代中期～後期中葉遺構配置図（1/600）



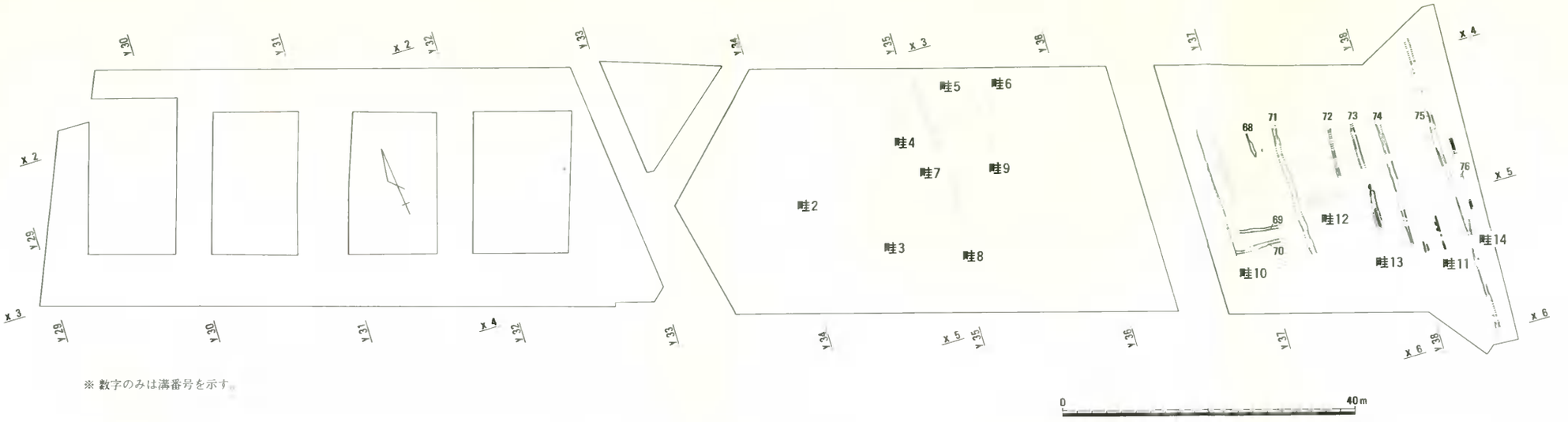
※ 数字のみは溝番号を示す。

第184図　北方地蔵遺跡弥生時代後期後葉遺構配置図（1/600）



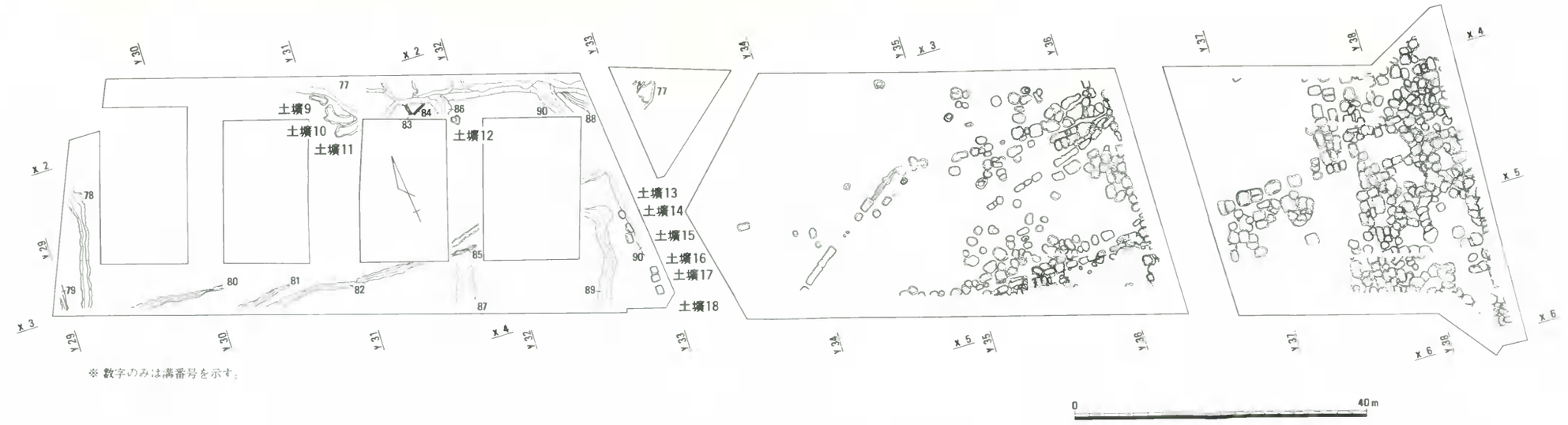
※ 数字のみは溝番号を示す

第185図　北方地蔵遺跡古墳時代遺構配置図（1/600）



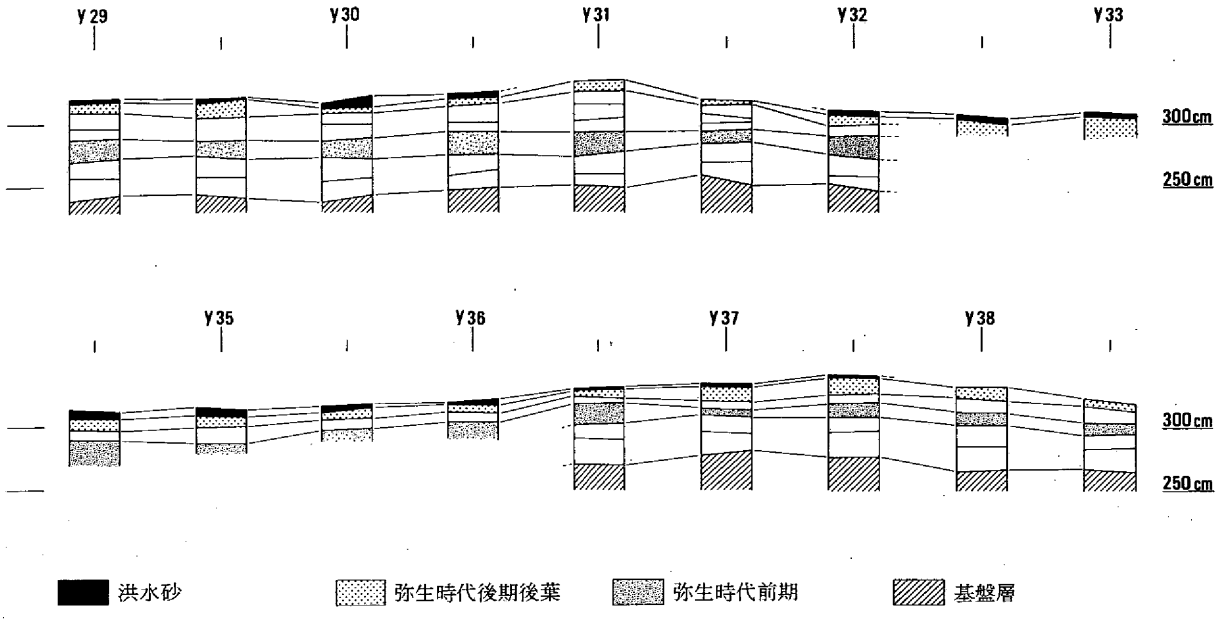
※ 数字のみは溝番号を示す。

第186図　北方地蔵遺跡古代～中世遺構配置図（1）（1/600）



※ 数字のみは溝番号を示す。

第187図　北方地蔵遺跡古代～中世遺構配置図（2）（1/600）



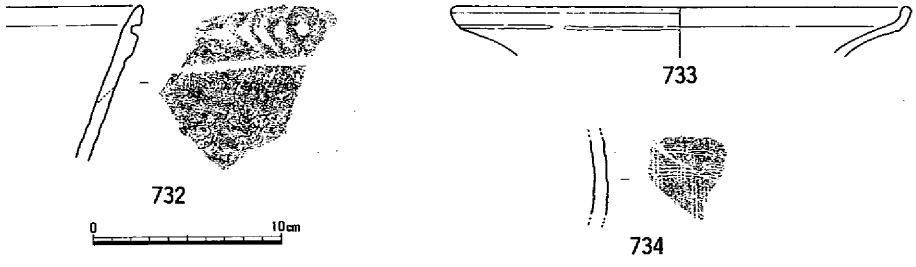
第188図　北方地蔵遺跡土層柱状図（弥生時代以前）

１区では、水田遺構に挟まれて狭い微高地の存在も確かめられた。

古墳時代から古代にかけても溝の検出が顕著で、水田耕作が継続的に営まれたことが推察される。第185図には、２・３区の溝と畦畔の痕跡を示しているが、いずれも東西あるいは、南北方向の規則性が観察される。これらの遺構は、北方中溝遺跡・北方横田遺跡などでは、明瞭に確認されなかったものである。

中世では、鎌倉時代に比定される溝や土壙そして、２・３区で集中的に検出された581基にものぼる粘土採掘坑が特筆される。第180・181図に示すように、採掘の対象となった土層は限定されており、発掘調査当初から土器生産との関わりを物語る遺構として注目されたが、土器と採取粘土の土壌分析も行い、巻末にその結果を付載することとした。

なお、第189図に示すように縄文土器が包含層中から発見されている。732は深鉢で口縁部に爪形文と円形の刺突文がめぐる。733は、浅鉢の口縁部で口縁下端に沈線がめぐる。734は、深鉢の小片で細い平行沈線が観察される。これらはいずれも中期から後期の時期的範囲のおさまるものと理解されるが、遺跡所在地に縄文時代の生活遺構がかつて存在したかあるいは、近接していたかを物語る良好な資料といえる。　（岡田）



第189図　包含層出土遺物（1/4）

２．弥生時代前期の遺構・遺物

はじめに

北方地蔵遺跡では、弥生前期においては、２区の東端（ｙ32ライン）から東側に微高地が存在する。調査区西の北方中溝遺跡から若干の起伏は認められるものの西から東へ徐々に地形が高くなっており、ｙ32ラインから東側は安定した微高地となっており、溝などの遺構が確認されている。調査区全域には、弥生前期の層である黒褐色粘土層が続いており、若干量の土器を包含している。

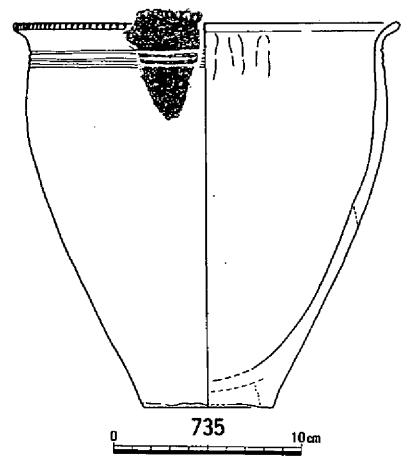
ｙ32ラインより西側は、北方横田・北方中溝遺跡から連続して続いている水田域が広がっている。水田は、１区中央部までは明瞭に畦畔が検出されるものの、１区より東側では水田層は存在するが畦畔の確認は困難な状況であった。特に２区では、畦畔の痕跡と思われる不規則な高まりは検出できたが１区中央部までに確認された整然とした区画のようなものではなかった。　（中野）

(1)　水　　田

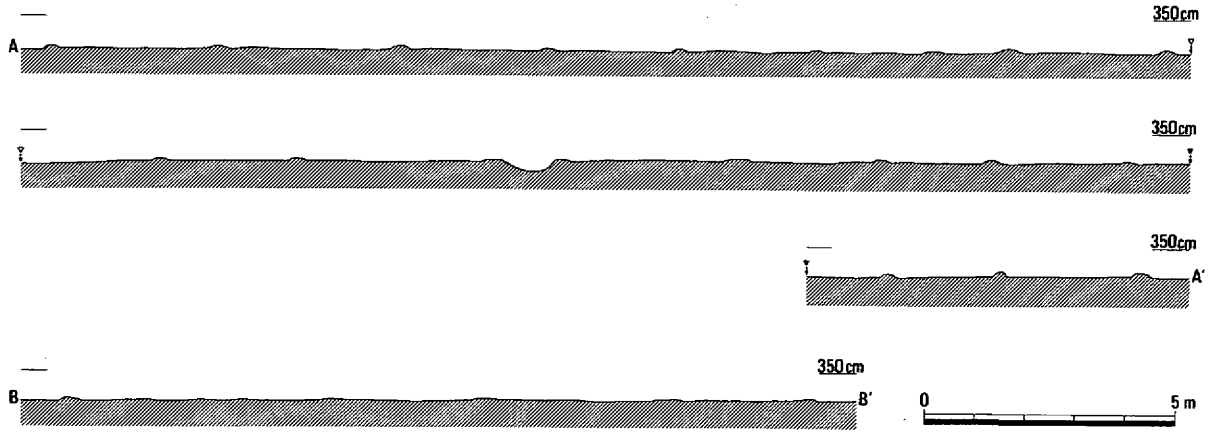
水田１（第182・190～193図）

弥生前期水田は、西の北方中溝遺跡から続いており、２区の東端（ｙ32ライン）まで確認できる。ｙ32ラインから東へは、徐々に高くなり微高地部となっている。

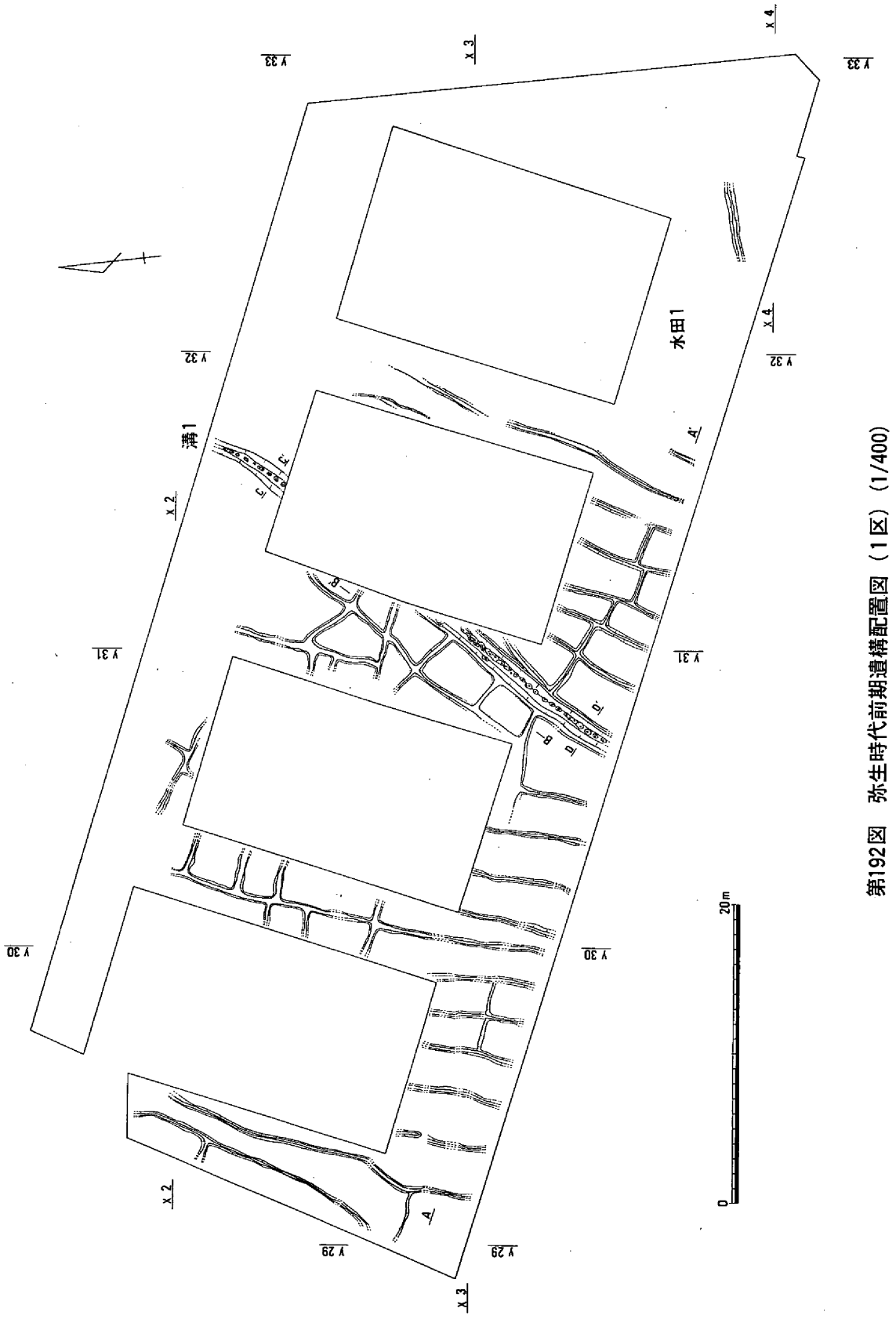
１区では、調査区の東側を除く全域で水田畦畔を検出した。畦畔は、幅約25cm、高さ約３cmの残存状態の悪いものであった。畦畔の検出は、南北方向のものがより明瞭で、東西方向の畦畔は確認しにくく、検出できない所もあった。畦畔で区画された１区画の単位は、南北方向に長い長方形を呈しているものが多かった。田面の高低差は調査区内ではほとんど認められない。１区の中央部には、両肩を畦畔状の高まりをもった溝１が存在しており、水田に伴う溝であると思われる。この溝の東側では、溝と方向が合致しない畦畔が確認されており、弥生前期水田中でも時期差のある区画が存在した可能性も考えられる。２区では、水田層は存在するものの畦



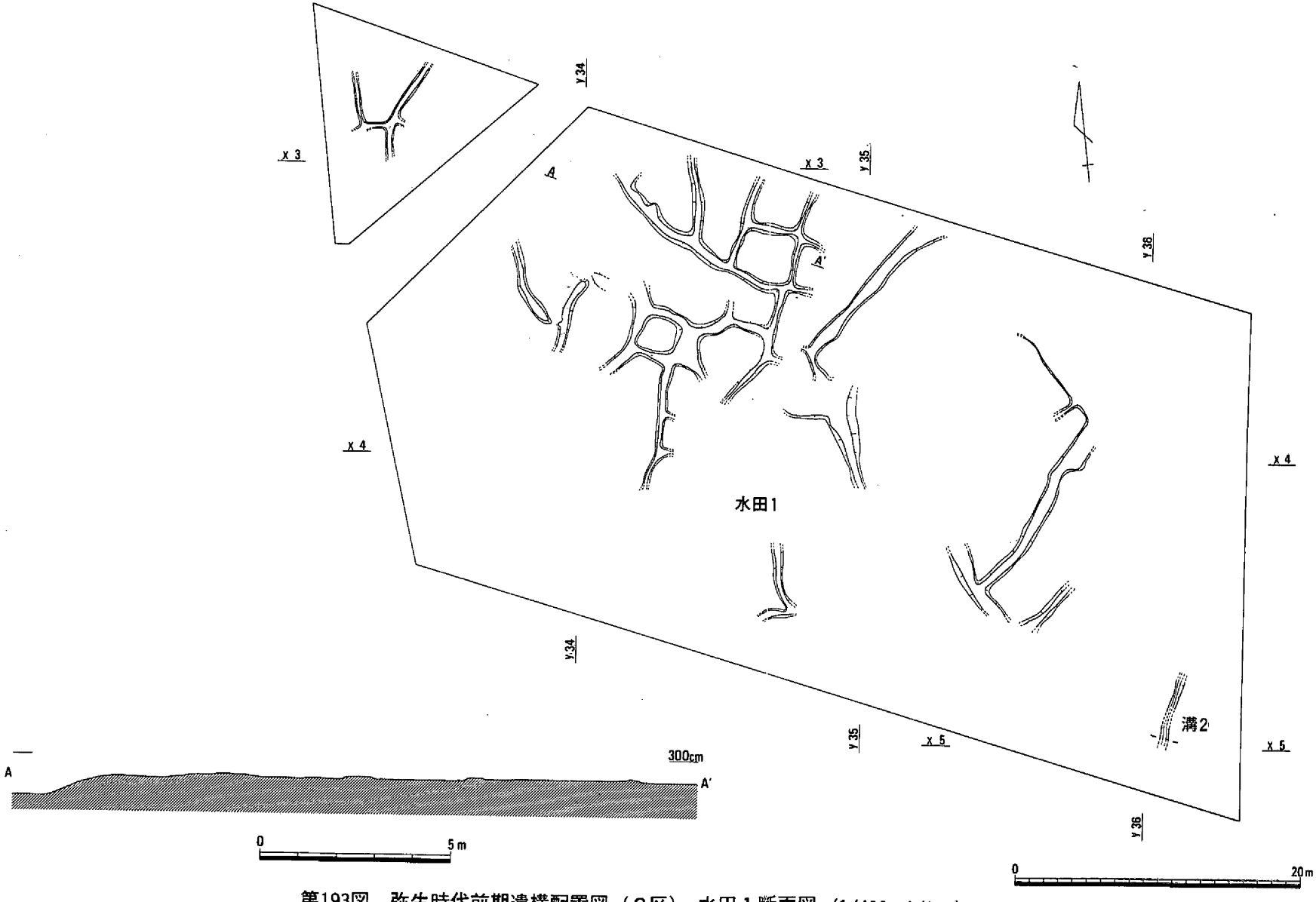
第190図　水田１出土遺物（1/4）



第191図　水田１断面図（１区）（1/150）



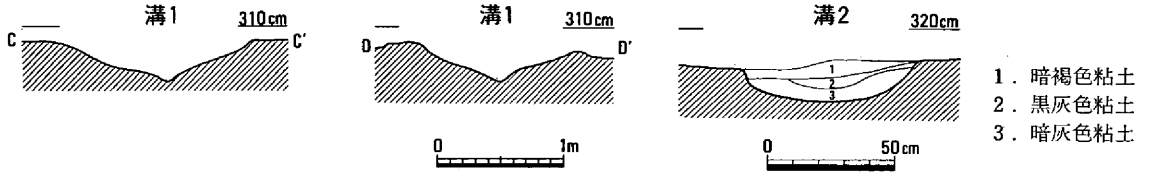
第192図　弥生時代前期遺構配置図（１区）（1/400）



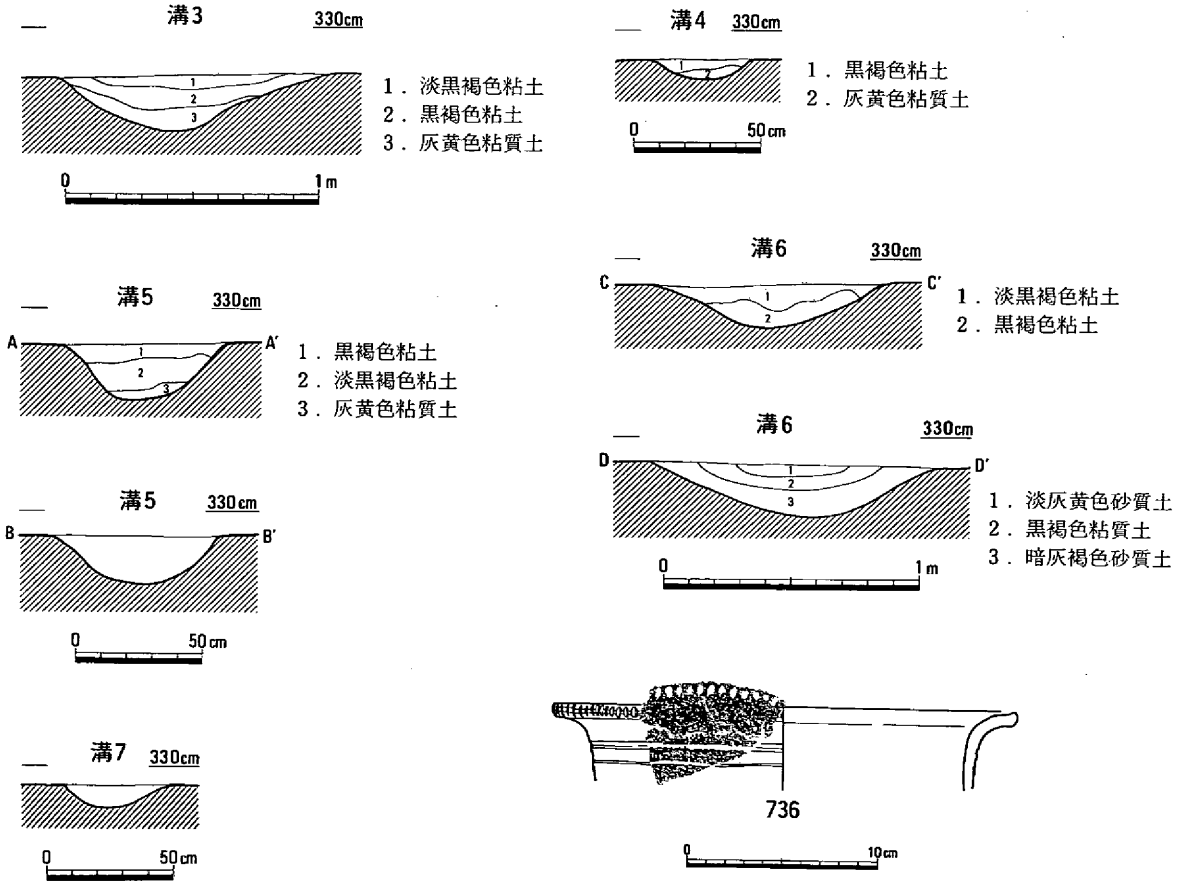
第193図　弥生時代前期遺構配置図（２区）・水田１断面図（1/400・1/150）

畔の残存状態は良くなく第193図のような状態で、一定程度の法則性をもった区画は検出されなかった。畦畔は、部分的に確認されたものの、不規則な高まりが断続的に検出された。田面も1区に比べて水平ではなく、凹凸が激しく水田中には、たわみ状のものが数箇所で認められた。このような状況は、水田耕作が停止されたのち長期間にわたって放置されたものと考えられる。以上のように、北方地蔵遺跡では、調査区の約2/3にわたる広大な水田域が存在し、その面積は調査区内だけでも約5,000㎡近くの水田が検出された。

また、この水田の下層には、第180図の第25層の下部に第26層が調査区全域に広がっており、弥生前期水田と類似した堆積層である。第26層も部分的に畦畔の検出に努めたが畦畔は確認できなかった。この層からは、弥生前期の遺物は検出されておらず、縄文晩期の細片が数点出土しており、第26層は縄文期の水田である可能性が高い。　（中野）



第194図　溝1・2断面図（1/30・1/60）



第195図　溝3～7土層断面図（1/30）・溝6出土遺物（1/4）

(2) 溝

溝１（第192・194図）

溝は、１区の中央部に検出された。溝は、北東から南西方向に流走し、溝の両側には水田が広がっている。溝の両肩部は水田とを境にする畦畔状を呈しており、水田との関連を示している。規模は、幅約120cm、深さは約20cmを測る。断面形は皿形を呈しており、底部は凹凸が激しく堆削痕が残存している。出土遺物はないが、水田と同時期と考えられる。しかし、溝南側の東部では不自然な畦畔が存在することから、水田耕作の後半期に溝が掘削され、不自然な畦畔は前半期の畦畔痕跡と判断した。

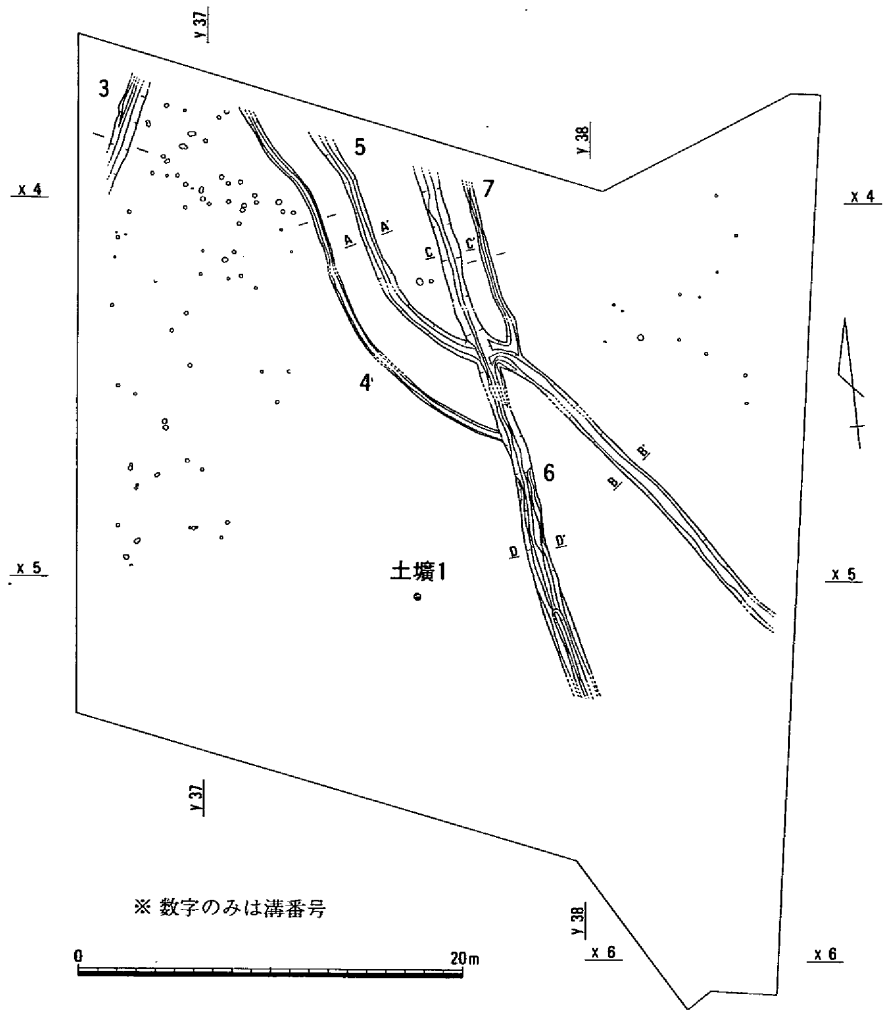
（中野）

溝２（第193・194図）

溝は、２区の南東隅に一部検出された。北北東から南南西方向に延びており、幅は約67cm、深さは約16cmを測る。溝内は、第１～３層の粘土層が堆積しており、出土遺物は認められなかった。この溝は、溝を境に東側は微高地部となり、西側は水田が展開する。（中野）

溝３（第195・196図）

この溝は、３区の北西隅部に検出され、溝２と同様に北北東から南南西方向に流れる。規模は、幅約104cm、深さは約21cmを測り、断面形は皿形を呈している。溝内は、第１～３層がレンズ状に堆積しており、出土遺物は弥生前期の土器が数点検出された。（中野）



第196図　弥生時代前期遺構配置図（３区）(1/400)

溝４（第195・196図）

溝は、３区の北側に検出された。溝はやや蛇行しながら、北西から南東方向に延び、調査区中央部で溝６と合流する。溝は溝６の東へは延びないため溝６の支流として存在したと考えられる。幅は約39cm、深さは約９cmを測る。出土遺物は、弥生前期の土器が数点検出された。（中野）

溝５（第195・196図）

この溝は、３区の溝４の東側に検出された。溝は、やや蛇行しながら北西から南東方

向に流走する。途中で溝７とＹ字状に合流する。規模は、幅約82cm、深さは約16cmを測る。出土遺物は、溝３・４と同様に弥生前期の土器が数点出土した。（中野）

溝６（第195・196図）

溝は、３区中央に溝５と交差するように検出された。方向はほぼ北から南に流走し、途中で溝４が合流する。溝６に溝４が合流するように溝５もまた同一点で溝７が合流し、同様な溝の存在のあり方を示している。規模は、幅約110cm、深さ約19cmを測り、断面形は皿形を呈する。出土遺物は、弥生前期の土器が少量出土した。（中野）

溝７（第195・196図）

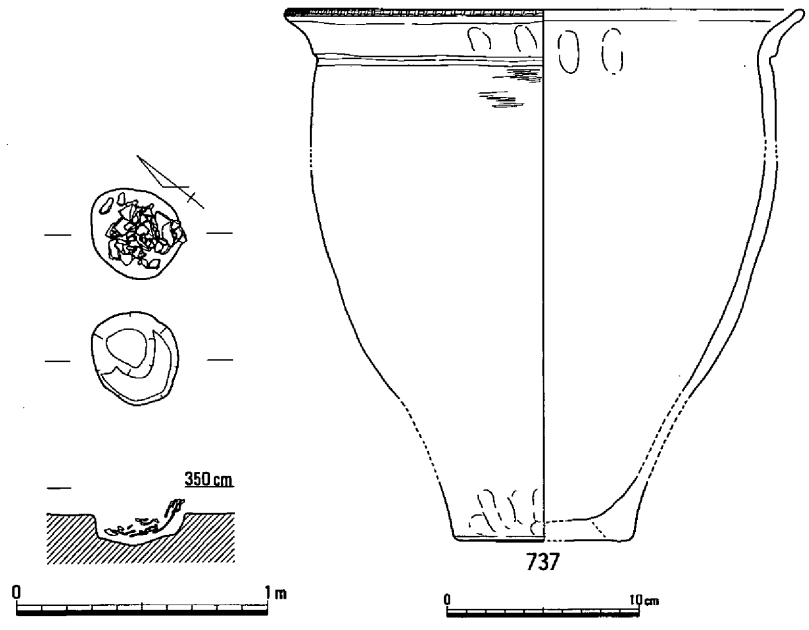
この溝は、３区中央部の北側に検出された。溝６と平行するように北から南に延びており、途中で溝５と合流する。規模は、幅約60cm、深さ約11cmを測る。出土遺物としては弥生前期の土器が数点検出されている。（中野）

(3) 土　　壙

土壙１（第197図）

この土壙は、３区の中央やや南よりに位置し、溝６の西約６ｍに検出された。土壙は、38×35cmの円形を呈し、深さは約11cmと残存状態は良くない。土壙内には甕が１個分横倒しに潰れた状態で検出された。

737の甕は、頸部から大きく外反する口縁部をもち、口唇部にはキザミ目を施す。頸部には下部を削り出して沈縁状の段にしている。（中野）

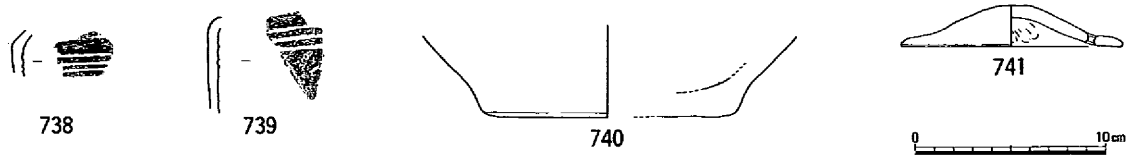


第197図　土壙１・出土遺物（1/30・1/4）

(4) その他の遺構・遺物

弥生前期のその他の遺構としては、３区北側を中心に直径約５cm前後の小ピット群が検出されている。小ピット内には、弥生前期の包含層と同質の土層が認められるものの、出土遺物は検出できない。深さも10cm前後である。

遺物は、調査区全域が居住域となっていないため少ない。図示した738～741の他に少量の土器が確認されたにすぎない。（中野）



第198図　包含層ほか出土遺物（1/4）

３．弥生時代中期～後期中葉の遺構・遺物

はじめに

弥生時代中期から後期中葉にかけての遺構は、その大半が溝である。後期後葉にいたって水田遺構が形成されるが、この時期から継続的に水田耕作は行なわれていたとみてよいだろう。この時期の遺構から出土する土器の多くは破片であり、多量に廃棄されたような遺構は存在しない。２区では土壙やたわみ状の遺構が確認されているが、住居など直接集落に結びつくような手がかりは得られていない。

出土遺物は土器をはじめサヌカイトを素材とした石器が得られているが、特に後者については、あるいは前期にさかのぼる可能性があるものも含まれている。その多くは石鏃で、ほかに石錐やスクレーパー状の石器もみられる。（岡田）

(1)　溝

溝８（第199・200図）

１区の西端で検出された、ほぼ東西方向を示す細い直線的な溝である。検出全長約３ｍ、幅約30㎝、深さ約５㎝前後を測る。出土遺物には、742の甕の口縁部と743の甕の底部の破片がある。いずれも弥生時代後期中葉に比定されるものである。（岡田）

溝９（第199・200図）

１区の西端、溝８の南約10ｍで検出された。検出全長約28ｍでやや蛇行するがほぼ北西から南東方向を示している。堆積土は暗灰褐色を呈し、炭片も多く含まれる。出土遺物にはＳ39のサヌカイト製の石鏃がある。（岡田）

溝10・11（第200・201図）

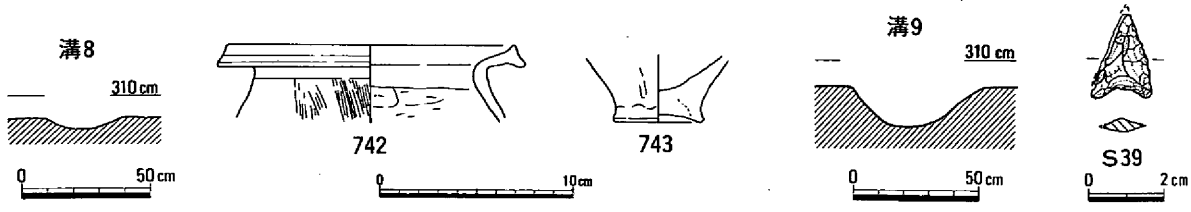
１区の西端でわずかに検出された東西方向の２条の溝である。約60㎝を隔てて平行して検出され、検出全長はいずれも３ｍ余りである。溝11は東方の溝12の延長線上の枝溝とも考えられるが断定できない。出土遺物には弥生時代後期の土器片が少量みられる。（岡田）

溝12（第200・201・204図）

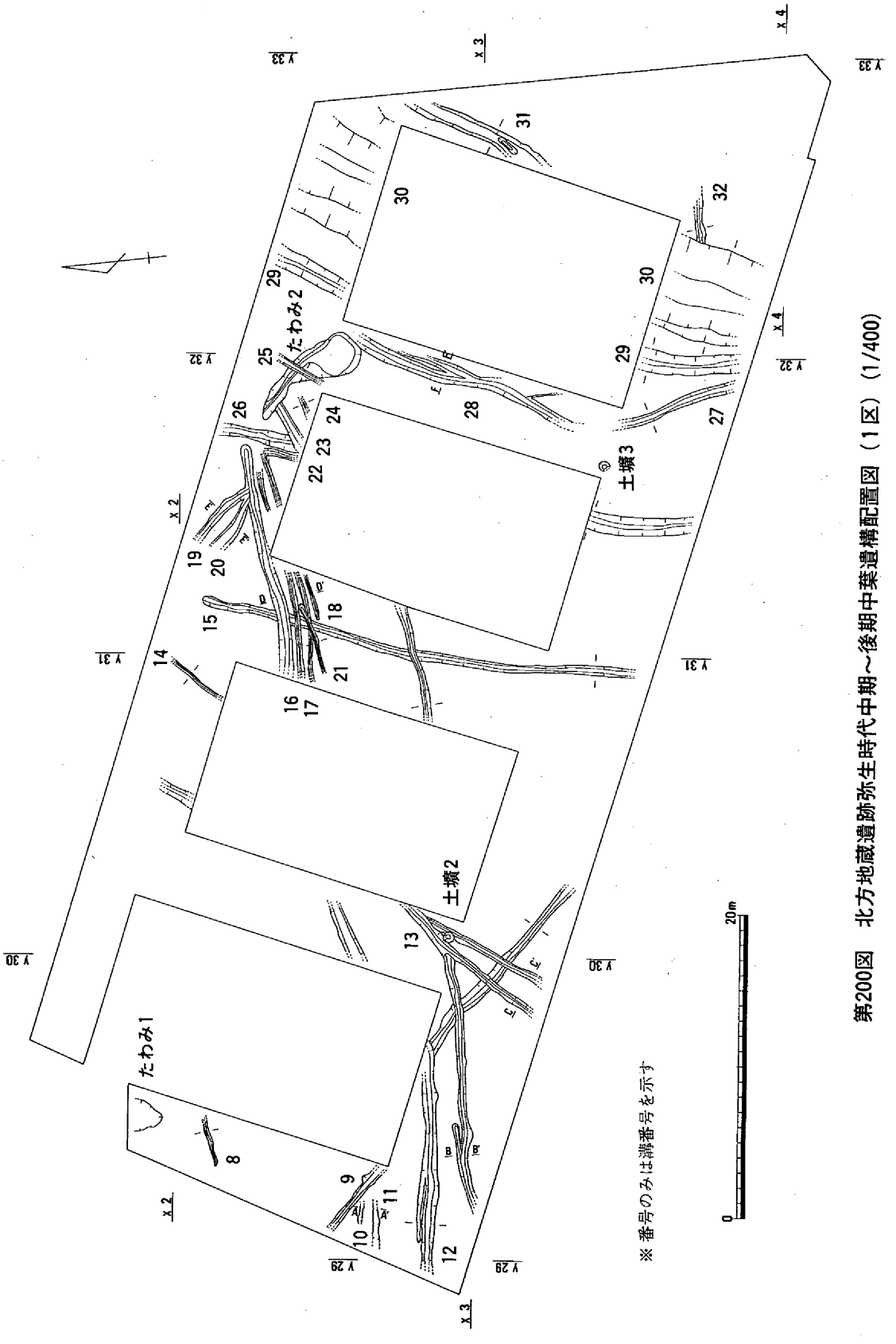
１区の西よりで検出された北東から南西方向の溝である。中央部の溝16・17のすぐ北よりに蛇行しつつ延びるが、溝26のあたりで途切れる。出土遺物には744の鉢があるが、他の土器片の観察からこの溝が弥生時代後期中葉から後葉にかけて存続したことが考えられる。（岡田）

溝13（第200・202図）

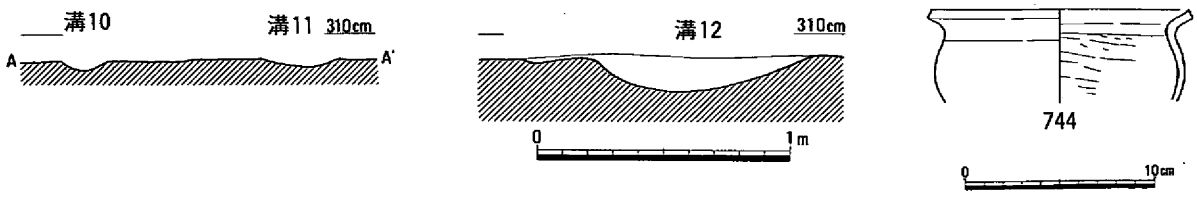
１区の西よりで検出された。ほぼ南北方向を示しているが、検出部分の南限のあたりで３本に分岐



第199図　溝８・９断面図・出土遺物（1/30・1/4・1/2）



第200図　北方地蔵遺跡弥生時代中期～後期中葉遺構配置図（１区）（1/400）



第201図　溝10～12断面図・溝12出土遺物（1/30・1/4）

する。西側の枝溝は直線的で、ほぼ東西方向を示している。主流となる中央の溝の断面は、基本的にＶ字形を示している。

出土遺物には745～748の土器がある。これらは弥生時代後期前葉から中葉に比定されるもので、この溝が使用された時期を知る手がかりとなっている。（岡田）

溝14（第200・203図）

溝は、１区の中央の北側に位置する。規模は、幅約10cm、深さ約２cmを測り、北東から南西方向に検出された。出土遺物は認められないものの埋土からみて弥生期のものであろう。（中野）

溝15（第200・203図）

この溝は、１区の中央部に位置し、ほぼ南北方向に検出された。規模は、幅約60cmで、深さは約17cmを測り、断面形は椀形を呈する。

出土遺物は、図示した749～752など少量の土器が検出された。749～752は、いずれも弥生後期前半期の特徴を示している。（中野）

溝16～18（第200・204図）

これらの溝は、１区中央北側に位置する溝12の南側に隣接していて、ほぼ平行して検出された。規模は幅が10～35cm、深さは、５～８cmを測る。

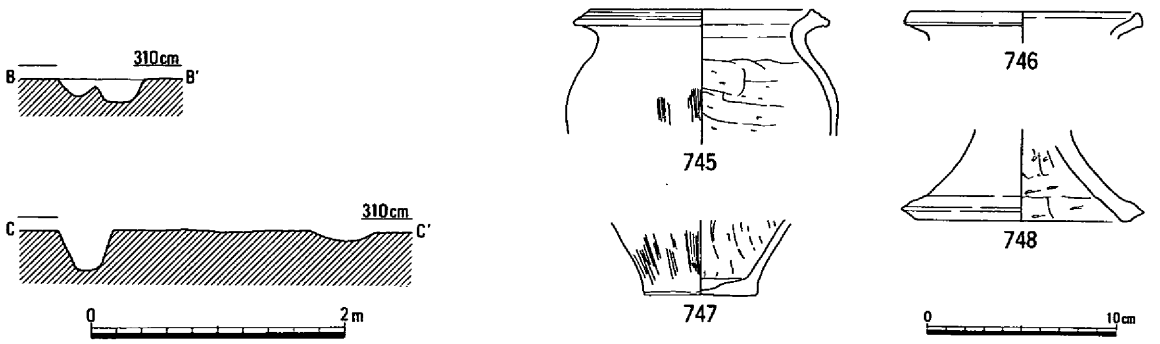
出土遺物は、ほとんどが認められなかったが溝12と同時期と考えられる。（中野）

溝19・20（第200・204図）

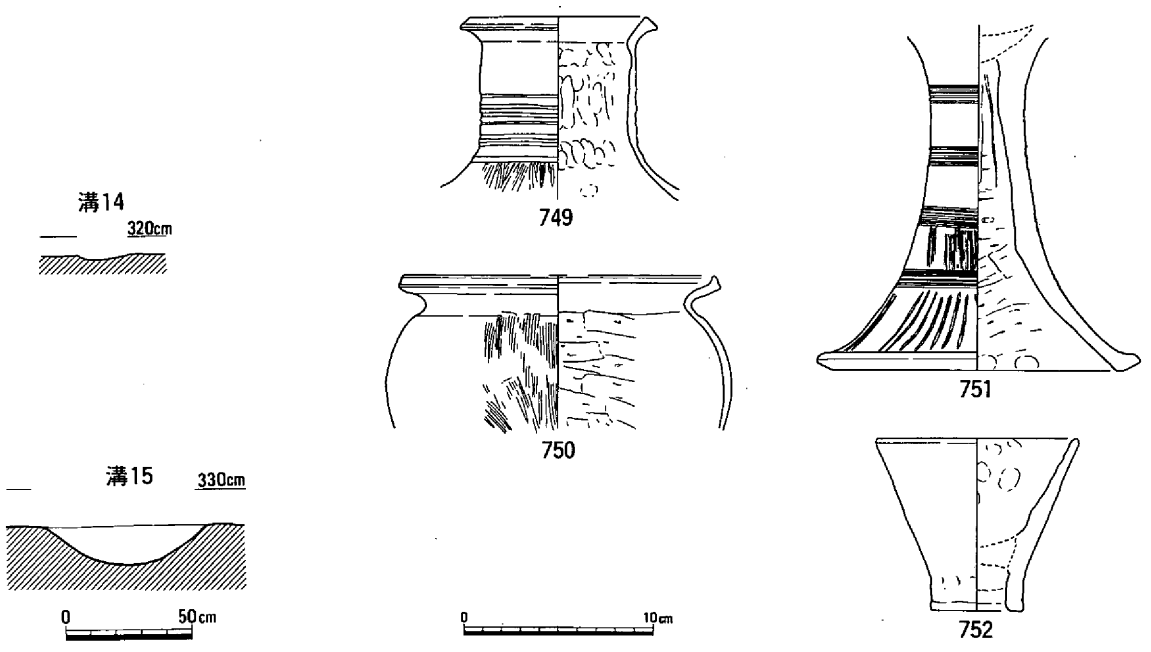
溝は、１区中央北側に位置し、溝77の下部に検出された。溝の上部は溝77によって削平を受けており残存状態は悪い。規模は、幅が60～70cm、深さは５～８mを測る。弥生後期。（中野）

溝21（第200・204図）

この溝は、１区中央部に位置し、溝17の上部に検出された。規模は、幅が約30cm、深さ約10cmを測る。出土遺物はないが弥生後期か。（中野）



第202図　溝13断面図・出土遺物（1/60・1/4）



第203図　溝14・15断面図・溝15出土遺物（1/30・1/4）

溝22（第200・205図）

溝は、１区の北側に一部検出された。溝26の西側に隣接して位置しており、幅約50cm、深さ約５cmを測る。断面形は皿形を呈する。出土遺物は認められなかったが弥生後期か。　（中野）

溝23（第200・205図）

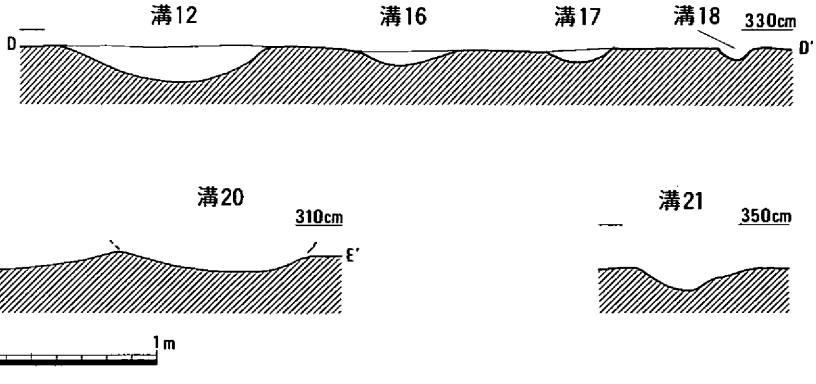
この溝は、１区の北側から調査区の南西端部にかけて断続的に検出された。幅は約50cm、深さは約10cmを測り、断面形は皿形を呈する。出土遺物としては弥生後期の土器を数点検出した。　（中野）

溝24（第200・205図）

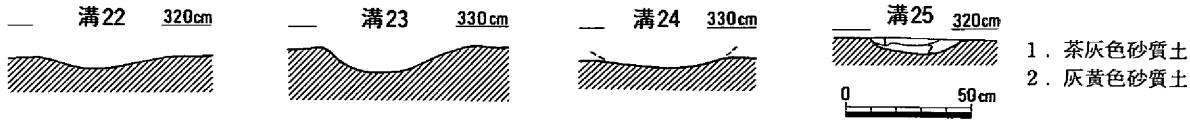
溝は、１区北側の溝23の南側に検出された。検出したのは一部であるが溝23とほぼ平行する。出土遺物はない。　（中野）

溝25（第200・205図）

溝は、１区北側の溝24の東側に位置する。この溝も一部分検出されただけであるが、北東から南西方向に延びる。規模は、幅約35cm、深さ７cmを測り、断面形は皿形を呈する。溝内には、下層に灰黄色砂質土、上層に茶灰色砂質土がレンズ状に堆積している。　（中野）



第204図　溝12・16～21断面図（1/30）



第205図　溝22～25断面図（1/30）

溝26（第200・206図）

この溝は、１区中央のやや東よりに位置し、ほぼ南北方向に検出された。溝は、微高地部の中央に位置しており、溝15・29などと平行している。規模は、幅約120cm、深さ約50cmを測り、断面形は「U」字形を呈する。溝内には、第206図の第１～５層がレンズ状に堆積している。出土遺物は、弥生後期の土器が少量検出された。（中野）

溝27・28（第200・207図）

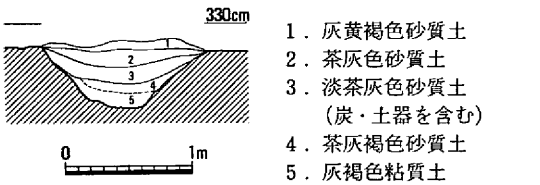
溝は、１区の溝26の東約６mに位置し、溝26とほぼ平行して北から南に延びる。溝の北側では、溝が重なりあっている。幅は55～65cmで、深さは５cmを測る。出土遺物はない。（中野）

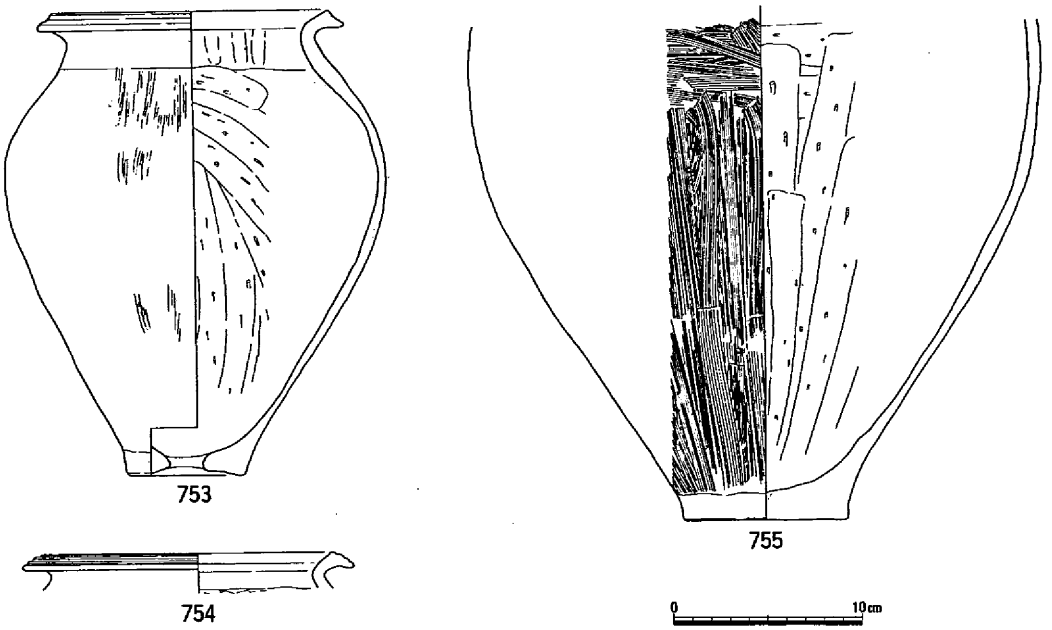
溝29（第200・207図）

この溝は、１区の東側に位置し、溝27・28の東側に検出された。溝は、北東方向からやや湾曲して南西方向に流走する。溝15・26・27・28と同様に微高地上に位置するものの、溝の東側数mからは微高地が東へ向かって下がっていく。規模は、幅約130cm、深さ約65cmを測り、断面形は「V」字状を呈する。遺物は、弥生後期前半期の土器が少量出土した。（中野）

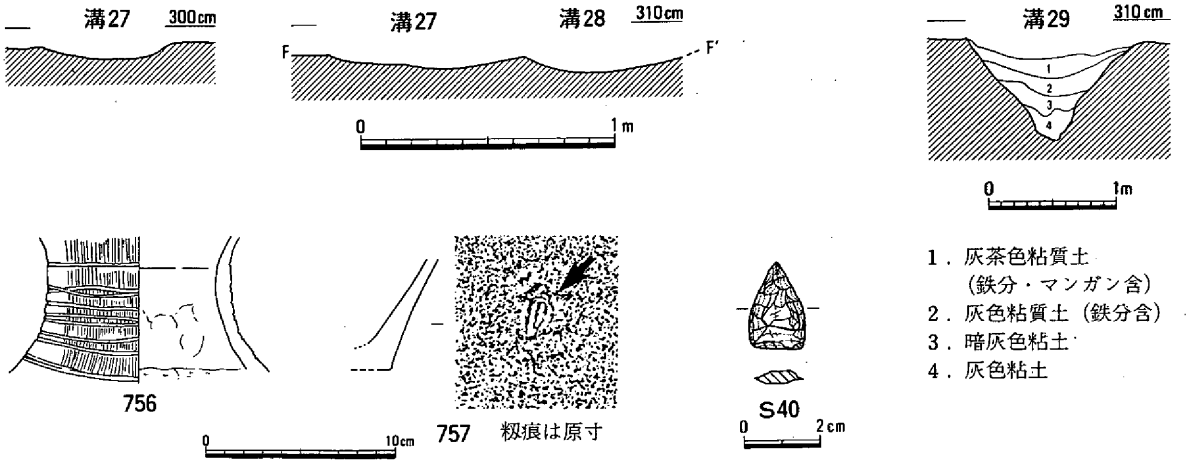
溝30（第200・208図）

溝は、１区の東端に位置し、溝29の東約２mに検出された。北東から南西方向に流走する溝は、微高地の東端に沿っている。





第206図　溝26土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）



第207図　溝27～29断面図・溝29出土遺物（1/30・1/60・1/4・1/2）

規模は、幅約630cm深さ約90cmを測る規模の大きな溝である。第１～５層がレンズ状に堆積しており、下層からは前期～中期の土器が検出されている。（中野）

溝31（第200・209図）

この溝は、１区の東端に位置し、微高地東側の低位部に検出された。溝は、北東から南西方向に流れる。規模は、幅が約100cm、深さは約13cmを測り、断面形は皿形を呈する。出土遺物は、弥生後期前葉の土器片が１点検出された。（中野）

溝32（第200・209図）

溝は、１区の南東端部に位置し、溝30の東側に検出された。溝はほぼ南西方向に流路をとり、幅は約48cm、深さは約29cmを測る。断面形は椀形を呈している。

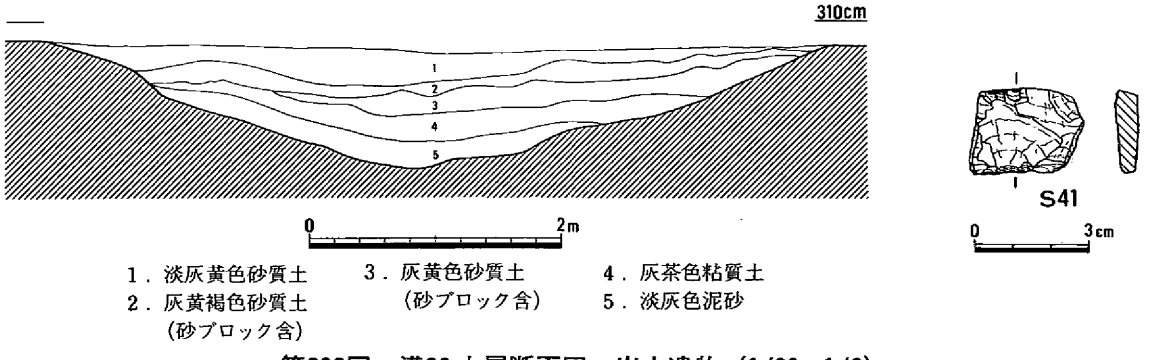
出土遺物は認められなかったが埋土等からみて弥生後期か。（中野）

溝33（第209・211図）

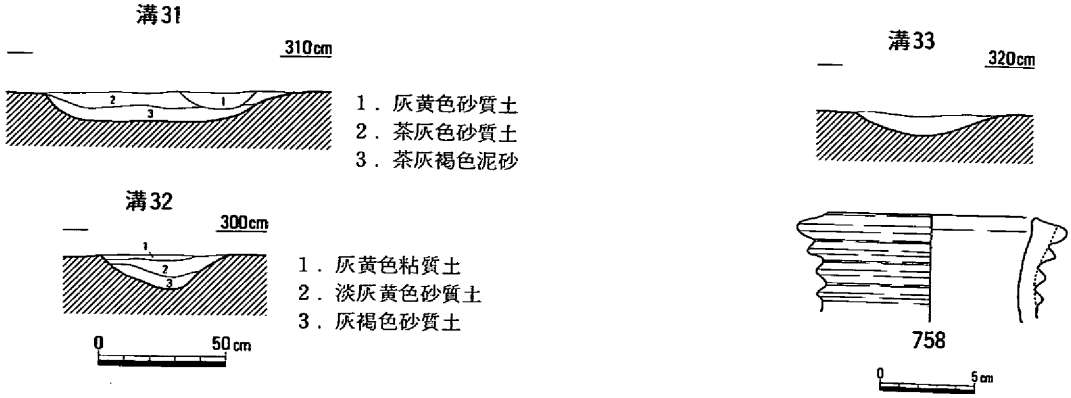
この溝は、２区の東端に位置する。溝は、ほぼ北から南方向に流走する。溝の位置する地点は、西側の低位部と東側の微高地の中間点に当たり、西から続く弥生後期水田もこの地点で終わっている。規模は、幅約67cm、深さは約18cmを測る。埋土等からみて弥生後期か。（中野）

溝34（第210・211図）

溝は、２区の北東隅部に位置し、溝33の東約４mに検出された。溝33とほぼ平行し、北から南に流れる。規模は、幅約67cm、深さ約18cmを測り、断面形は椀形を呈している。出土遺物は弥生後期の土器が数点検出された。（中野）



第208図　溝30土層断面図・出土遺物（1/60・1/2）



第209図　溝31～33土層断面図・溝33出土遺物（1/30・1/4）

溝35（第210・211図）

この溝は、２区から３区に検出された。溝は、２区で北西から南東方向に延び、３区（溝55）では東寄りに方向を変えている。規模は、幅約67cm、深さ約18cmを測る。断面形は椀形を呈する。出土遺物としては、弥生後期前葉の土器が少量検出された。（中野）

溝36（第210・211図）

溝は、２区東端の中央部に位置し、溝35の南側約３mに検出された。規模は、幅約48cm、深さ約11cmを測り、断面形は皿形を呈している。出土遺物は認められなかったが、埋土等から弥生後期の前葉であろうか。（中野）

溝37（第210・211図）

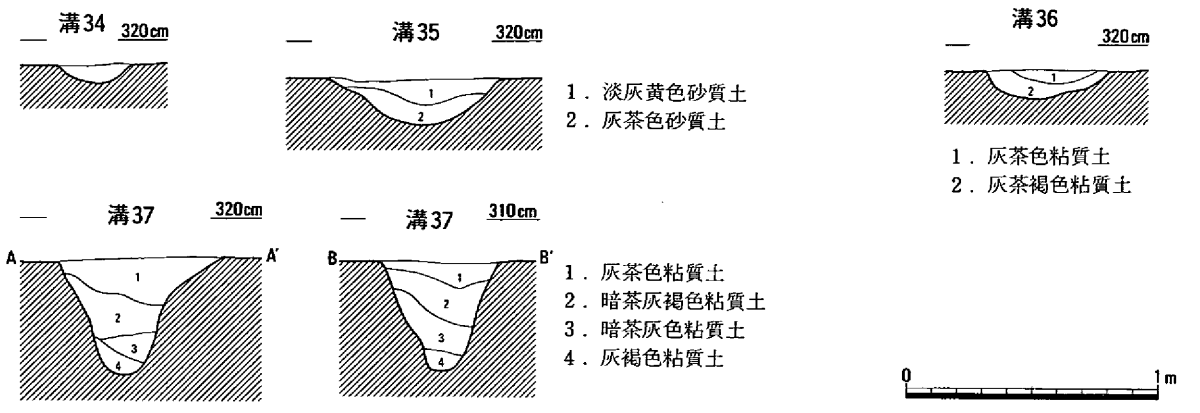
この溝は、２区の東端に位置し、溝33と交差して検出された。溝の存在する地点は、溝を境に東方向に上がっていき微高地部になる。規模は幅が約60cm、深さが約40cmを測り、断面形は「V」字形を呈する。出土遺物は、弥生後期の土器が数点検出された。（中野）

溝38（第211・212図）

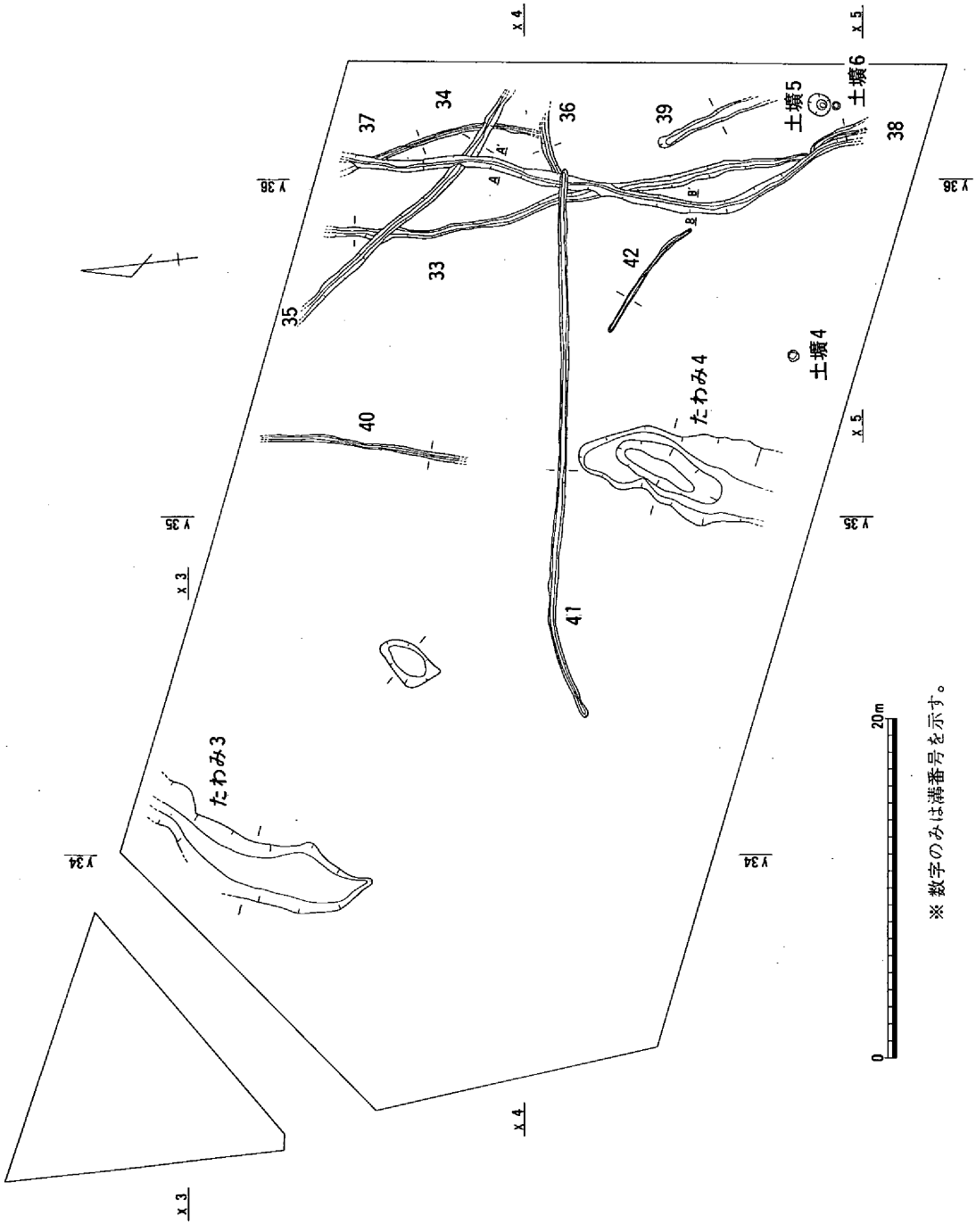
溝は、２区の南東隅に位置し、溝33の東側に隣接して検出された。規模は、幅約35cm、深さは約５cmと浅い。弥生後期か。（中野）

溝39（第211・212図）

溝は、２区の東端に位置し、溝33の東約２mに検出された。流路は、溝と平行でほぼ南北方向に延びる。弥生後期か。（中野）

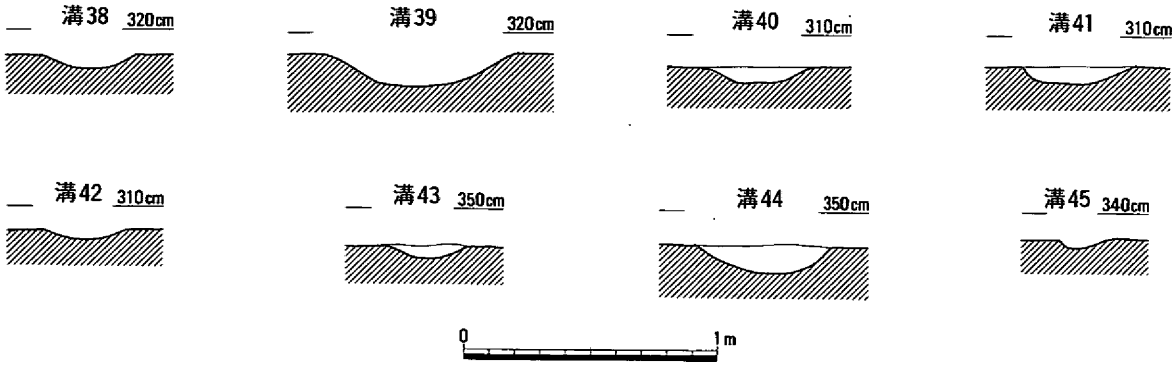


第210図　溝34～37土層断面図（1/30）



※ 数字のみは溝番号を示す。

第211図　北方地蔵遺跡２区弥生時代中期～後期中葉遺構配置図（1/400）



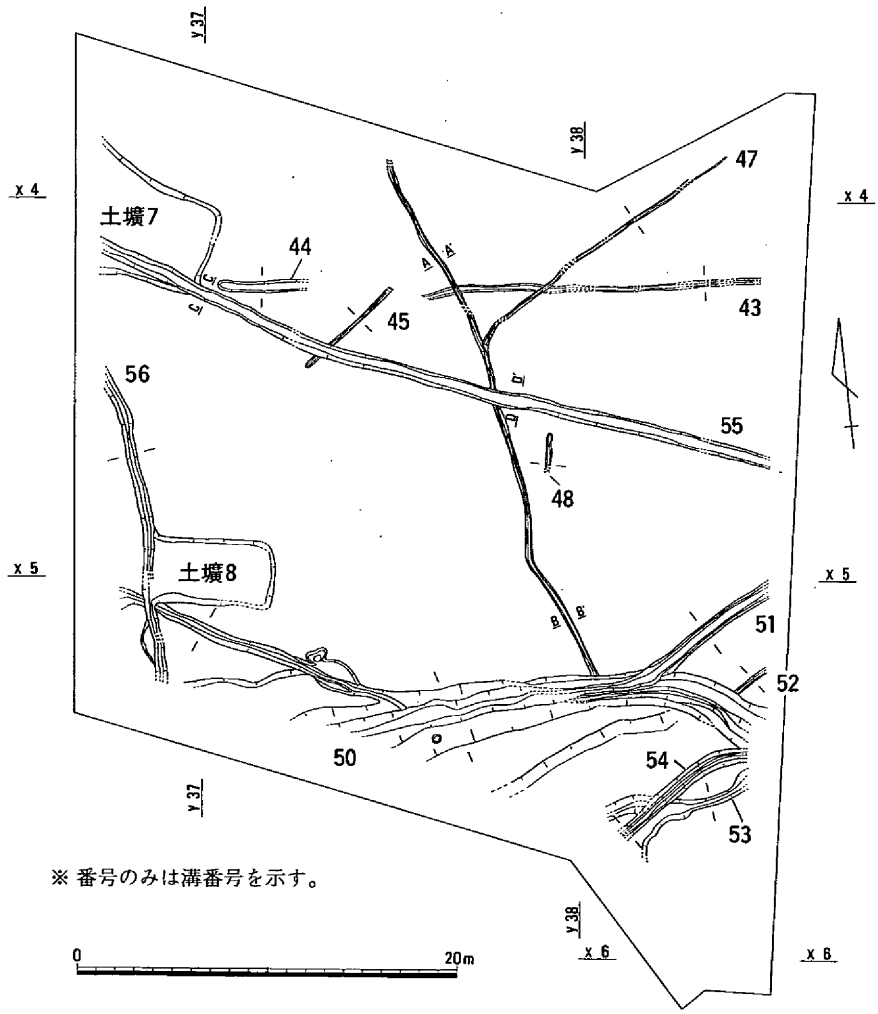
第212図　溝38～45断面図（1/30）

溝40（第211・212図）

この溝は、２区の中央やや東寄りに位置する。溝は、弥生後期前葉の水田下層に検出された。幅は約40cm、深さ約６cmを測る。出土遺物はない。　（中野）

溝41（第211・212図）

この溝は、２区の中央から東側に位置している。溝は、３区の溝43・44に続くものと考えられる。規模は、幅約43cm、深さ約６cmを測る。弥生後期か。　（中野）



第213図　北方地蔵遺跡３区弥生時代中期～後期中葉遺構配置図（1/400）

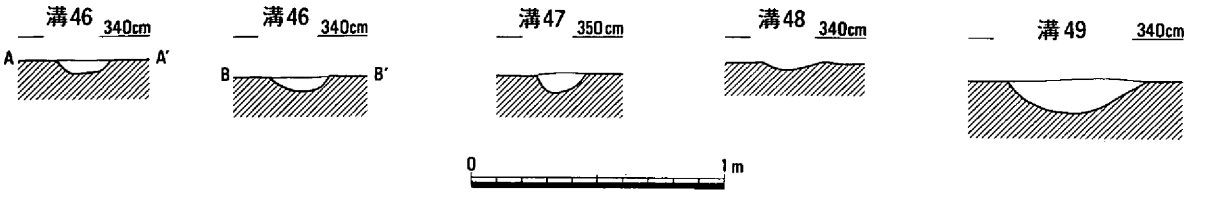
溝42（第211・212図）

溝は、２区の東側に位置する。規模は、幅約33cm、深さ約３cmと浅く、断面形は皿形を呈する。出土遺物はないが、溝40・41と同時期であろうか。（中野）

溝43（第212・213図）

溝は、３区の北東部に位置し、ほぼ東西方向に延びる。溝の西側には、溝41・44が直線上の位置に存在するため同一の溝の可能性も考えられる。規模は、幅約35cm、深さ約５cmを測る。出土遺物はない。　（中野）

溝44（第212・213図）



第214図　溝46～49断面図（1/30）

この溝は、３区の北西部に位置し、溝42と同様にほぼ東西方向に検出された。規模は、幅約48cm、深さ約４cmを測り、断面形は皿形を呈している。

出土遺物は認められなかったが埋土等からみて弥生後期か。　（中野）

溝45（第212・213・219図）

この溝は、３区の中央部に位置し、溝43・44の間に検出された。溝は、北東から南西方向に延びており、幅は約20cm、深さ３cmを測る。出土遺物はない。弥生後期か。　（中野）

溝46（第213・214図）

溝は、３区の中央部に位置し、北北西から南南東方向に流走する。規模は、幅が約23cm、深さは約５cmと残存状態は良くない。断面形は皿形を呈する。出土遺物は、弥生後期の土器が数点検出された。弥生後期か。　（中野）

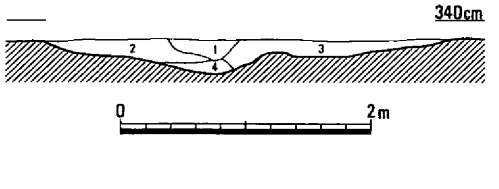
溝47（第213・214図）

溝は、３区の北東部に位置し、東北東から南南西方向に流走する溝は、溝46と直交する位置にあり、「T」字形に接続する。規模は、幅約18cm、深さ約８cmを測り、断面形は椀形を呈する。出土遺物はないが埋土等から弥生後期か。　（中野）

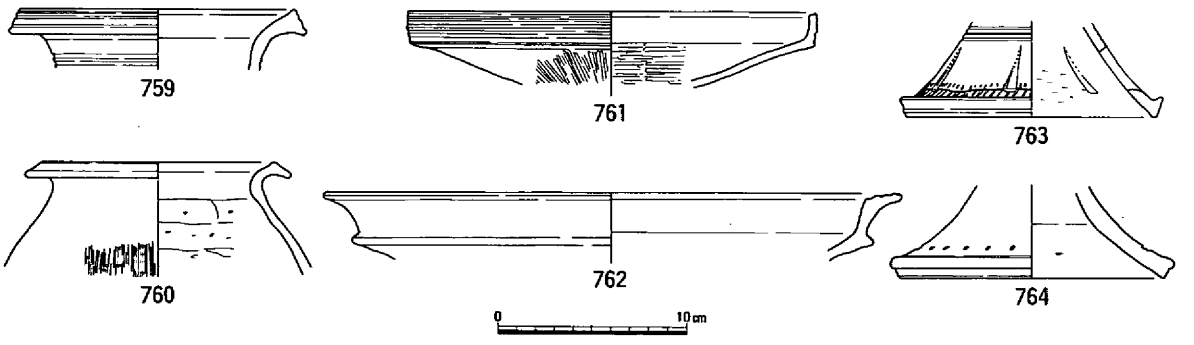
溝48（第213・214図）

この溝は、３区中央のやや東寄りに位置し、溝46の東側に検出された。溝は、ほぼ南北方向に延びており、幅は約23cm、深さは約２cmと残存状態は良くない。

出土遺物は認められなかったが埋土等からみて弥生後期と考えられる。　（中野）



1．灰茶色砂質土
（焼土ブロック含）
2．淡灰黄色粘質土
3．灰黄色粘質土
4．灰色砂質土



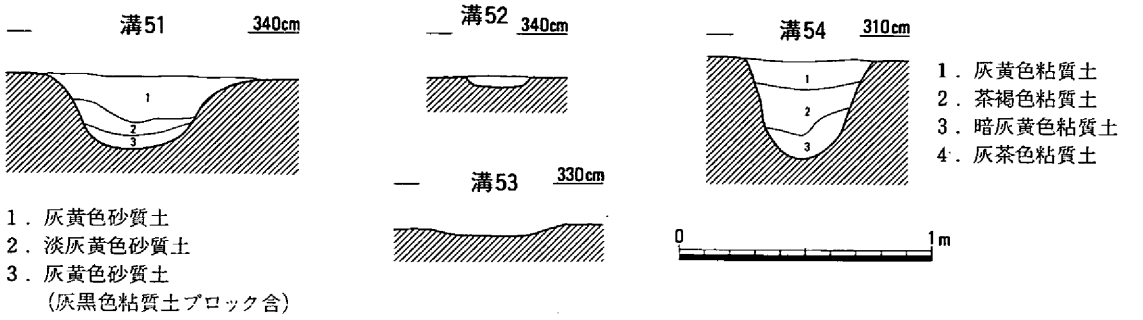
第215図　溝50土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）

溝49（第213・214・219図）

この溝は、３区南西部に位置し、北西から南東方向に検出された。溝は、調査区の南側で溝50と重なり、位置関係からみて溝51と連続する可能性もある。規模は、幅約54cm、深さは約14cmを測る。出土遺物は、土器が数点出土したが時期は不明である。（中野）

溝50（第213・215・219図）

この溝は、３区の南側に位置する。溝の南側は、徐々に下がっていき微高地端部に位置すると考えられる。溝は、ほぼ東西方向に延びており、幅は約327cm、深さは約26cmを測る。断面形は皿形を呈している。出土遺物は、図示した759～764の他に少量検出されている。759～764は、弥生中期末から後期前葉の特徴を示している。（中野）



第216図　溝51～54土層断面図（1/30）

溝51（第213・216図）

溝は、３区の南東部に位置している。溝は、北東から南西方向に延び、溝50の下層部と接続する。溝50は、当初溝51から溝50に流走していたのがのちに本来の溝50の流路に変わったと考えられる。規模は、幅が約80cm、深さが約29cmを測る。弥生中期～後期の土器が少量検出された。（中野）

溝52（第213・216図）

この溝は、３区の南東部に位置しており、溝51の南側に検出された。溝は、残存状態が良くなく一部しか検出できず、幅は約23cm、深さは約４cmを測る。溝50と切り合っているが前後関係は不明である。弥生後期か。（中野）

溝53（第213・216図）

この溝は、３区の南東隅に位置している。溝は南側に下がる微高地の隣に存在する。規模は、幅約50cm、深さは約５cmを測る。

出土遺物は認められないが弥生後期か。（中野）

溝54（第213・216図）

溝は、３区の南東隅に位置し、溝50と溝53の間に検出された。溝の方向は、北東から南西方向に延びており、一部溝53と切り合っている。規模は、幅約50cm、深さ５cmを測り、断面形は「V」字形を呈している。弥生後期前葉の土器が数点出土した。（中野）

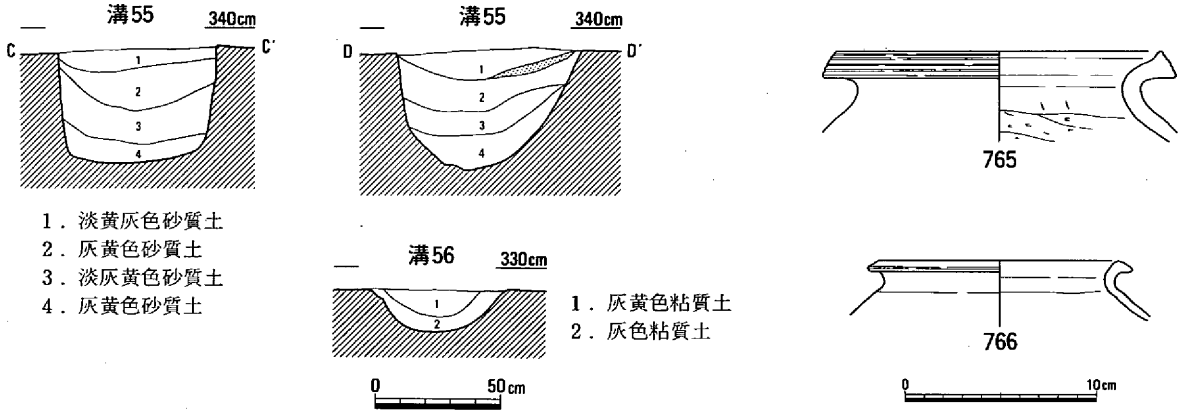
溝55（第213・217・219図）

この溝は、３区の中央部に位置し、東北東から北北西方向に延びている。また、２区の溝35に接続すると考えられる。溝は、幅が約66cm、深さが約46cmを測り、断面形は「V」字形を呈している。溝内は、第１～４層がレンズ状に堆積している。

出土遺物は、弥生後期前葉の土器が少量検出された。（中野）

溝56（第213・217・219図）

溝は、３区の西端部に位置している。溝49、土壙８と切り合っており、北から南方向に流走する。規模は、幅が約53cm、深さは約17cmで、断面形は椀形を呈する。出土遺物としては、弥生後期前葉の土器が少量出土した。（中野）



第217図　溝55・56土層断面図・出土遺物（1/30・1/4）

(2) 土　　壙

土壙２（第200・218図）

溝13の分岐する部分で検出された。径約70cm前後、深さは約80cmである。掘方の底部は丸みをもっておわる。形状から井戸とも考えられるが、湧水は認められない。埋積層は、４層でほぼ水平な堆積状況を示している。（岡田）

土壙３（第200・218図）

この土壙は、１区の南側に位置し、溝26・27の間に検出された。土壙は、66×63cmで、ほぼ円形を呈する。深さは約32cm残存していた。土壙内には、第１～４層が堆積しており、出土遺物は認められなかった。また、性格についても不明である。（中野）

土壙４（第211・218図）

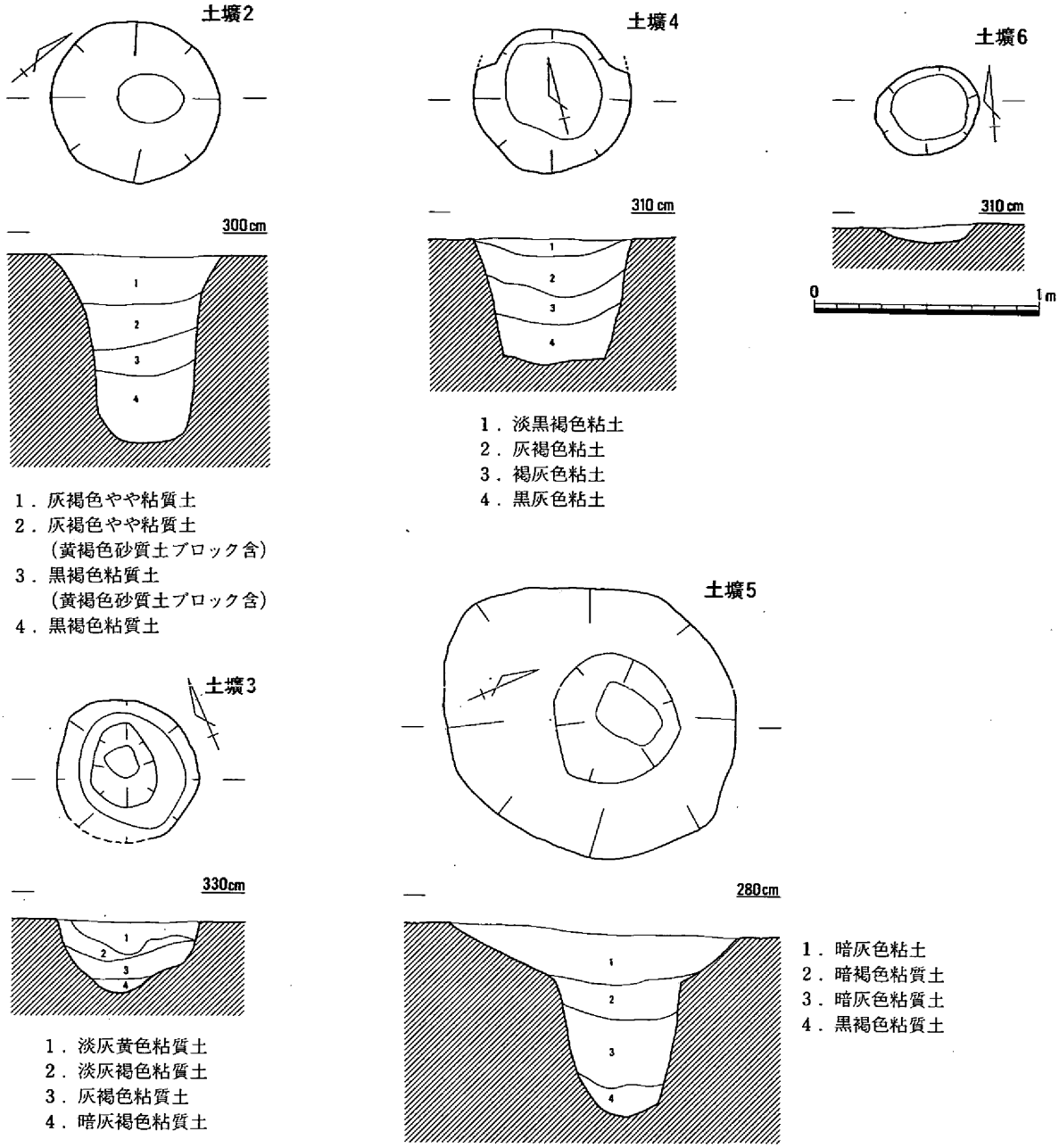
土壙は、２区の南側に位置し、溝38の西約10ｍに検出された。平面形は、一部削平を受けているが70×65cmの円形を呈しており、深さは約56cmを測る。土壙内は、第１～４層がレンズ状に堆積しており、出土遺物は認められなかった。（中野）

土壙５（第211・218図）

この土壙は、２区の南東隅に位置し、溝38の東約１ｍに検出された。平面形は、129×120cmの円形を呈し、深さは約82cmを測る。土壙は、２段に掘られており、上部を椀形に掘り、さらに下部をＶ字形に掘り下げている。土壙は、その形態等からみて井戸の可能性が高い。出土遺物としては、弥生期の土器が少量と、下層からシソ、ウリ科などの種子が検出されている。（中野）

土壙６（第211・218図）

２区の南東隅に位置し、45×40cmのほぼ円形で深さは約７cmを測る。（中野）



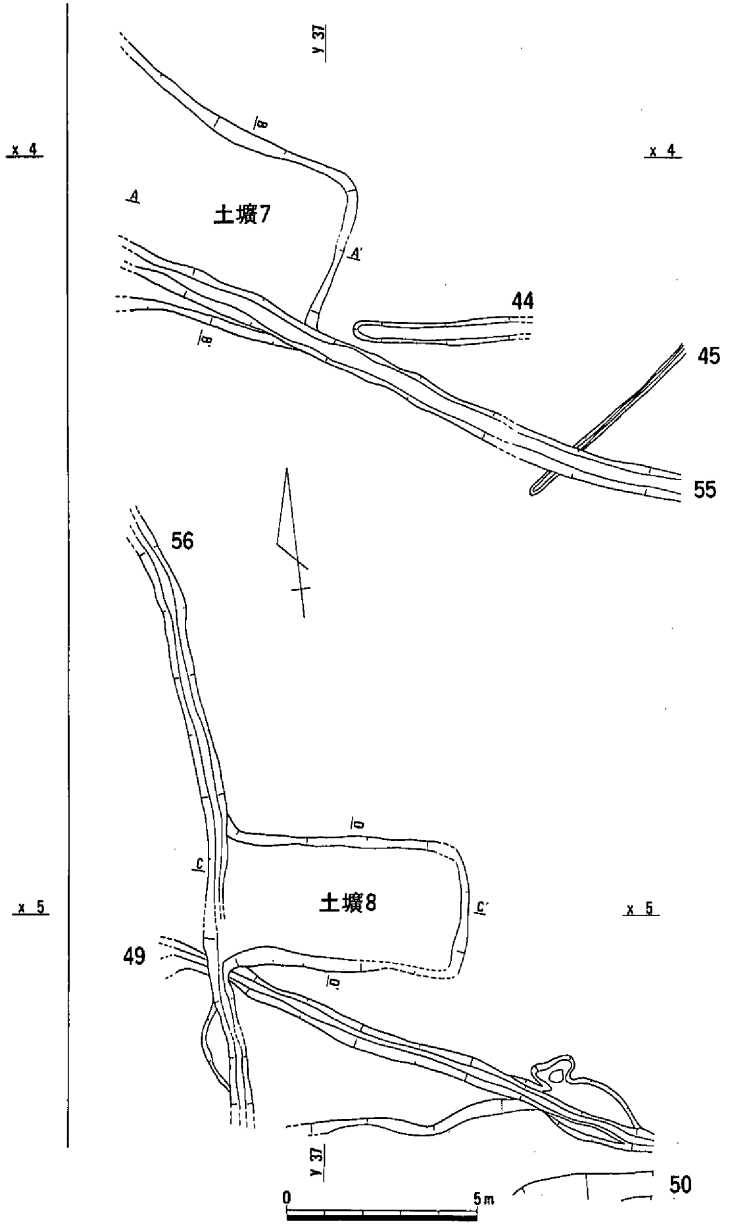
第218図　土壙２～６（1/30）

土壙７（第213・219・220図）

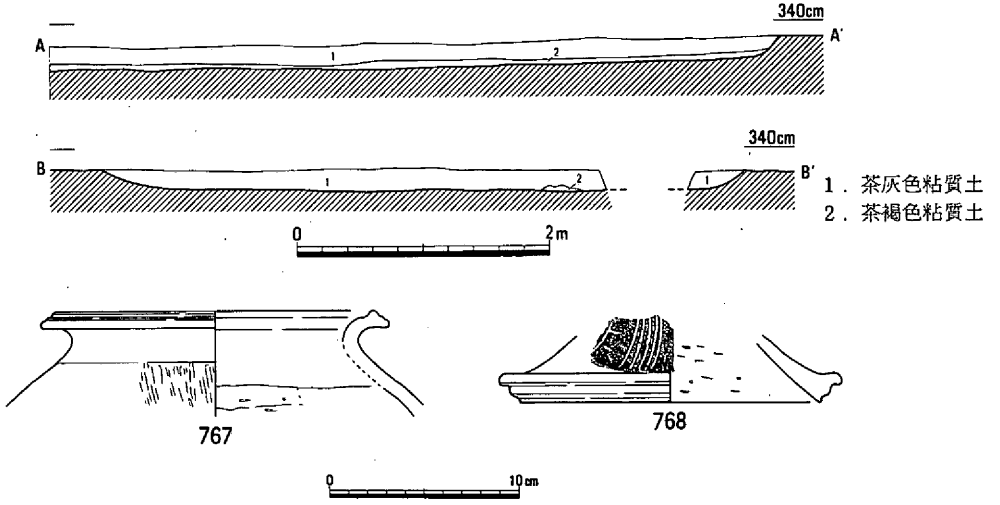
土壙は、３区の北西部に位置し、西側部は確認できなかった。規模は長さが320cm以上で幅は252cmを測り、土壙８と同様に隅丸長方形を呈すると考えられる。土壙の性格については不明である。遺物は弥生後期前葉の土器が少量出土した。（中野）

土壙８（第213・219・221図）

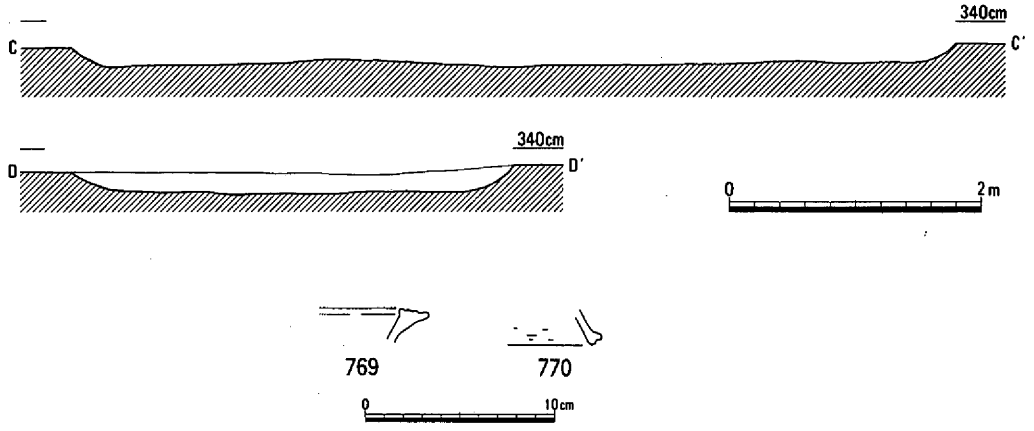
この土壙は、３区の南西隅に位置し、溝56に接して東側に検出された。土壙は、700×350cmの隅丸長方形を呈しており、土壙７と同様なものと考えられる。深さは約10cm残存しており、堆積土も土壙７と類似する。出土遺物は、弥生後期前葉の土器が少量検出された。（中野）



第219図　土壙７・８、溝44・45・49・50・55・56（1/200）



第220図　土壙７土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）



第221図　土壙８断面図・出土遺物（1/60・1/4）

(3) た　わ　み

たわみ１（第200・222図）

１区の北西隅で検出された浅いたわみ状の遺構である。南北・東西ともに約２ｍを測る範囲が約10㎝あまりくぼむ。周囲やその内部でも柱穴などは検出されなかった。

出土遺物には771～775の弥生土器が出土している。いずれも甕であるが、時期的には後期前葉から中葉と幅を示している。（岡田）

たわみ２（第200・223図）

この溝状の落ち込みは、１区の北側で検出された。長さ約８ｍ程検出できたが性格については不明である。出土遺物もなく、時期不明である。（中野）

たわみ３（第211・224図）

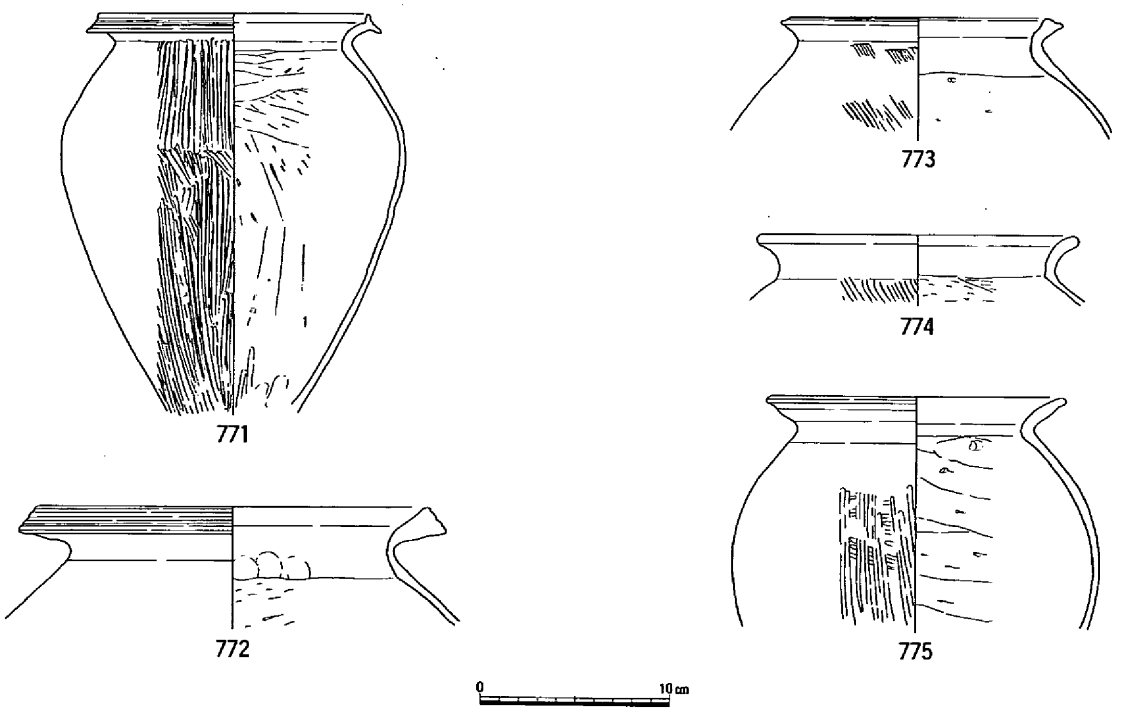
２区の北西部に位置し、弥生前期水田面に不整形な落ち込みを検出した。落ち込み内には、砂層が堆積しており、前期水田が放棄されたのちの落ち込みと考えられ、人工的なものではないと考えられる。たわみ４も同様なものである。

出土遺物は、弥生前期から中期前半期の土器が若干量検出されている。（中野）

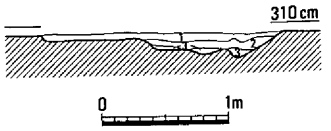
たわみ４（第211・225図）

２区の南側に位置しており、さらに調査区外に続いている。弥生前期水田面で検出されたこの落ち込みは、たわみ３と同様なものと考えられる。深さは約35㎝を測り、長さは10ｍ以上検出されている。

出土遺物は、弥生後期の土器が少量検出されている。（中野）

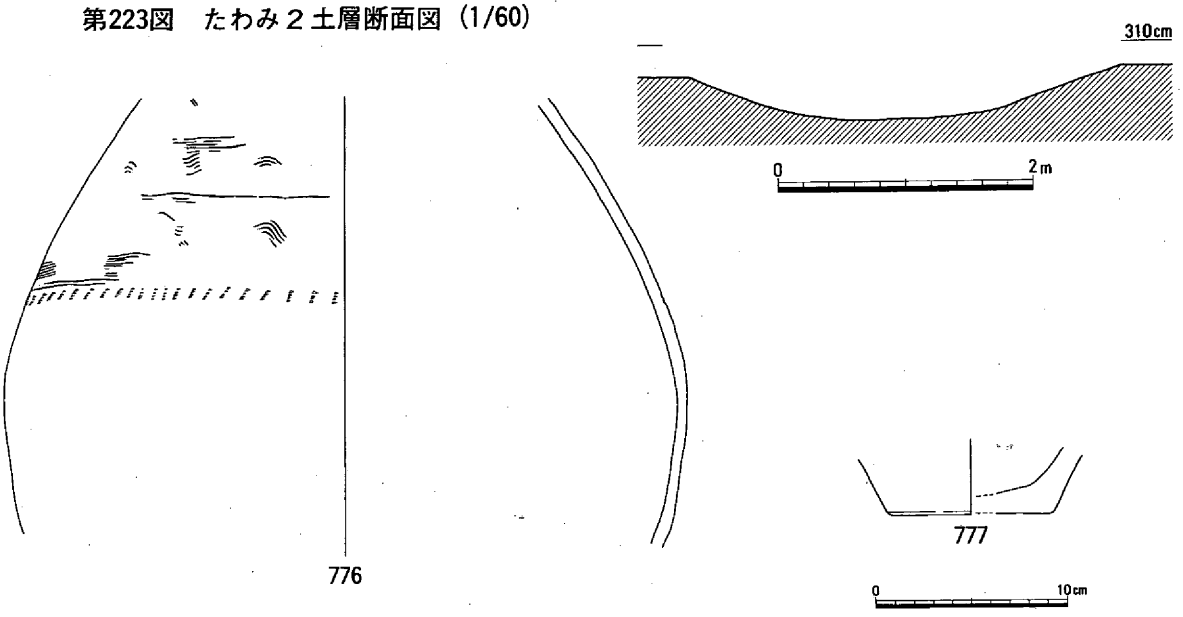


第222図　たわみ１出土遺物（1/4）

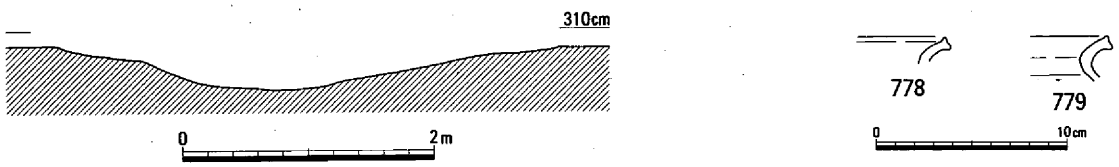


1．黄灰褐色泥砂
2．灰黄褐色砂泥
（マンガン・砂ブロック含）
3．暗茶褐色砂質土

第223図　たわみ２土層断面図（1/60）



第224図　たわみ３断面図・出土遺物（1/60・1/4）

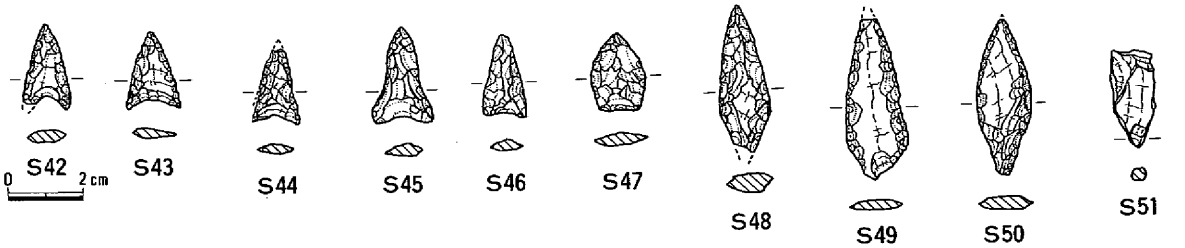


第225図　たわみ４断面図・出土遺物（1/60・1/4）

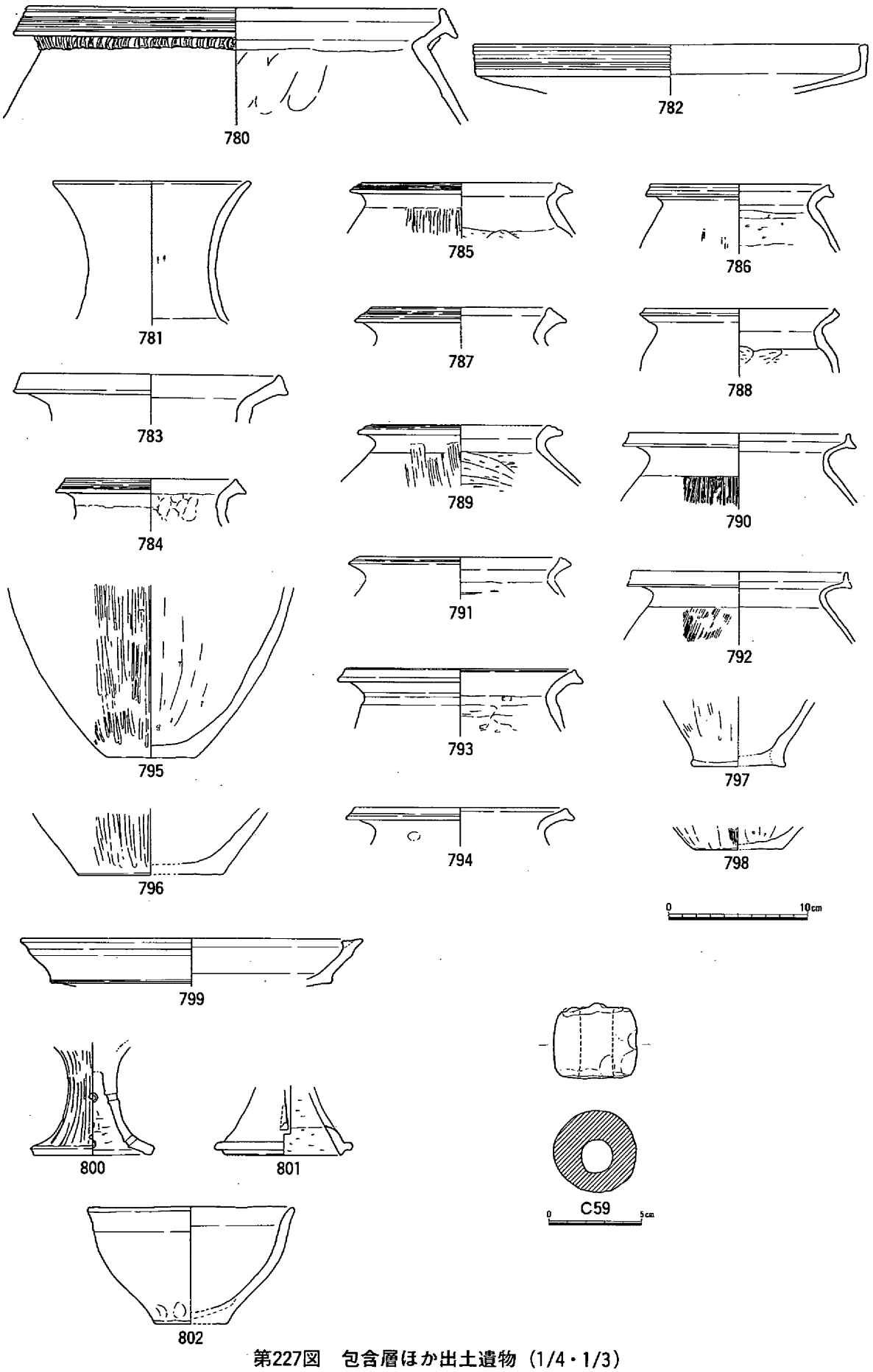
(4)　その他の出土遺物

北方地蔵遺跡では、中期～後期にはおおむね１・３区が微高地部にあたり、後期後葉水田の存在しない地点と合致する。中期～後期では、微高地を中心に遺構が認められ、それに伴って遺物も出土している。これらの出土遺物も後期前半期のものが多く、遺構との対応が認められる。今回第227図に示した遺物は、中期も一部含むもののその大半は後期の前半期の特徴を示している。

780は頸部から「く」の字に屈曲する口縁部をもつ。口縁端部は上下に肥厚させ、端面には凹線を施す。782の高杯は、杯部口縁が上方に立ち上がりその端面に凹線を施している。また、Ｃ59の土錘、Ｓ42～51の石鏃なども出土している。　（中野）



第226図　包含層ほか出土石器（石鏃・石錐；1/2）



第227図　包含層ほか出土遺物（1/4・1/3）

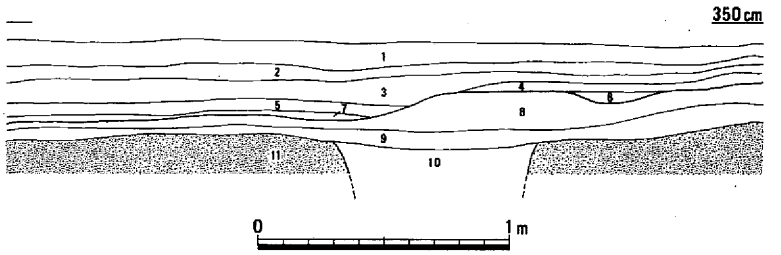
４．弥生時代後期後葉の遺構・遺物

はじめに

弥生時代後期後葉と前項と別に時期を設定したのは、水田遺構について述べるためである。すでに概要を述べた、北方下沼遺跡、北方横田遺跡、北方中溝遺跡などでも当然この項を設けるべきであったが、溝群が複雑でしかも発掘調査も幾度かに分けて実施されたため行なわなかった。

この項で述べる水田遺構は、先に述べた北方中溝遺跡２区から連続して存在するものである。ＪＲ津山線に分断されている。このあたりが北方中溝遺跡２区の少し高まった地点で、畦畔の残りはさほど良くない。

北方地蔵遺跡１区では、北方中溝遺跡１区で検出された。洪水砂でおおわれた水田遺構とまったく同様な層位、堆積した状態で姿を現わすこととなった。第182図に示すようにｙ32ラインからｙ33ラインにかけては畦畔の検出が不鮮明で、微高地状にわずかに高まる可能性があり、第183図に示すように溝の集中がそのことを示唆しているといえる。（岡田）



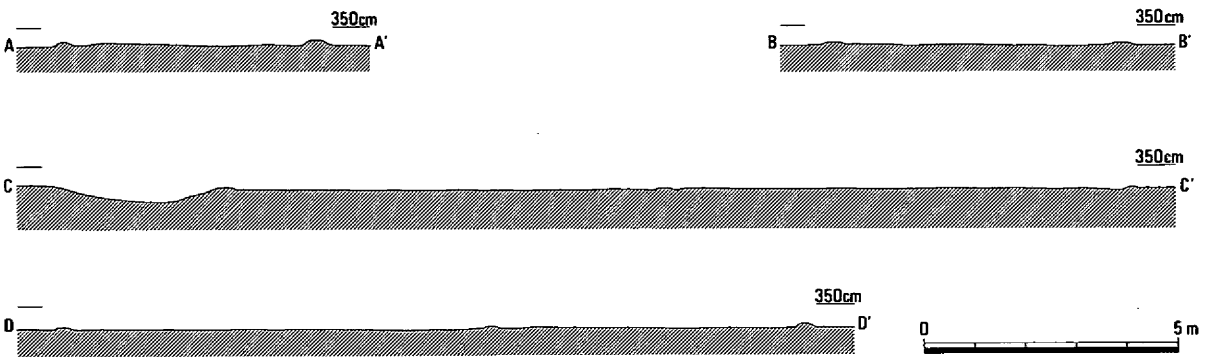
1．淡灰黄色砂質土
2．淡茶褐色砂質土（マンガン含む）
3．淡灰色粘質土（古墳時代）
4．灰褐色粘質土（古墳時代）
5．黄灰色泥砂（洪水砂）
6．黄灰褐色砂質土（溝58）
7．灰茶色粘質土（水田耕作土）
8．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
9．黄褐灰色粘質土
10．淡灰黄色砂質土（溝37）
11．黒褐色粘土（弥生時代前期）

第228図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図（微高地部分；1/30）

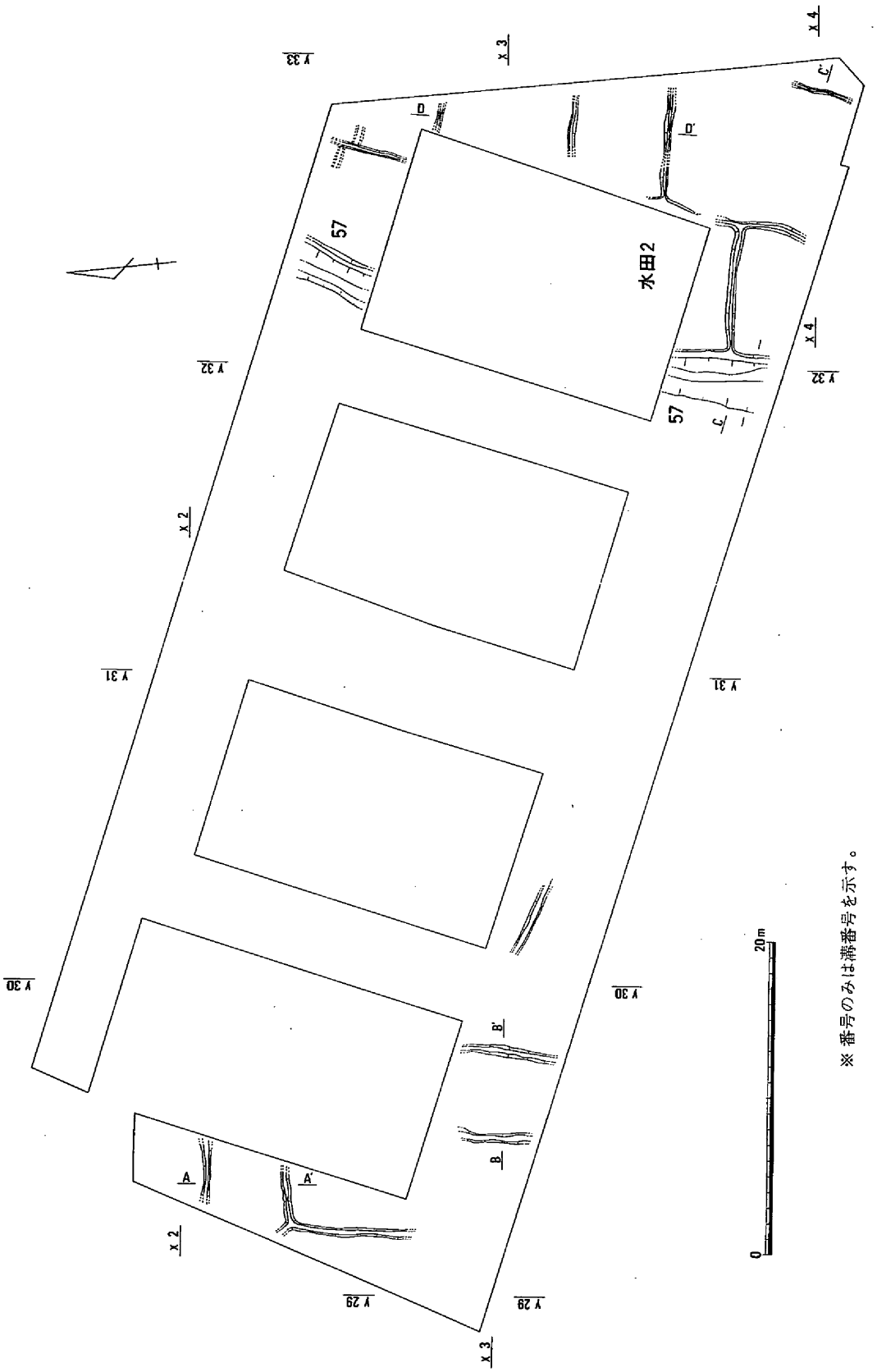
(1) 水　　田

水田２（第229～233図）

この時期の水田は、１・２区で検出された。水田は、調査区西側の中溝遺跡から続いており、１区西側（ｙ30ライン）まで存在する。ｙ30ラインから東は、水田層が確認できず微高地部と考えられ、１区東側の溝57（ｙ32ライン）まで微高地として存在し、水田として開田されていないと思われる。

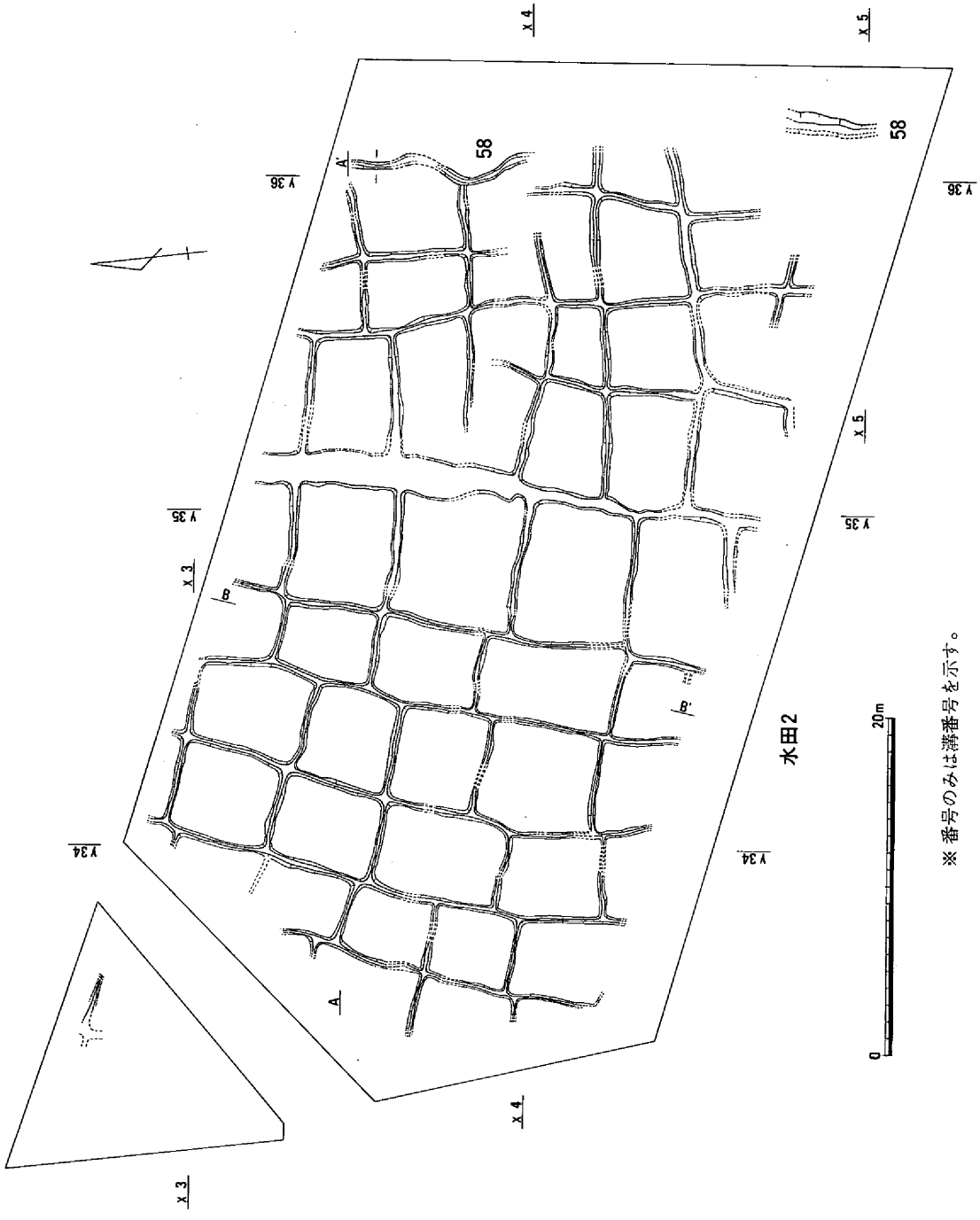


第229図　北方地蔵遺跡１区水田２断面図（1/150）



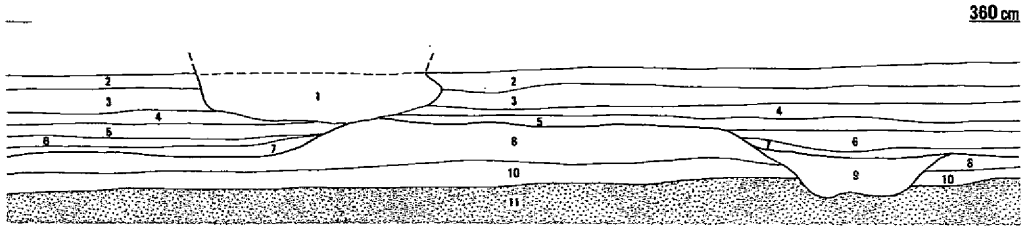
※番号のみは溝番号を示す。

第230図　北方地蔵遺跡１区弥生時代後期後葉遺構配置図（1/400）



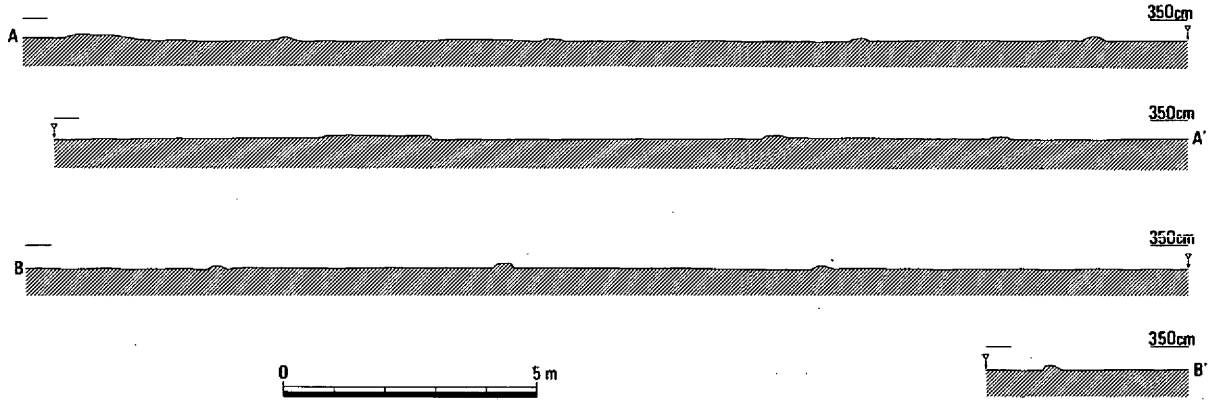
※番号のみは溝番号を示す。

第231図　北方地蔵遺跡２区弥生時代後期後葉遺構配置図（1/400）



1．黄灰色砂質土
　（灰色粘質土をブロック状に含む）
2．橙灰色泥砂
3．淡茶褐色砂質土（マンガン含む）
4．淡灰色粘質土（古墳時代）
5．灰褐色粘質土（古墳時代）
6．黄灰色泥砂（洪水砂）
7．灰茶色粘質土（水田耕作土）
8．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
9．灰黄色砂質土（溝40）
10．黄褐灰色粘質土
11．黒褐色粘土（弥生時代前期）

第232図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図（大畦部分；1/30）



第233図　北方地蔵遺跡２区水田２断面図（1/150）

１区の東側でまた水田域がはじまり、２区東端の溝58まで水田域が広がっている。溝58から東へは、水田層は認められず、徐々に地形が高くなって微高地部となっている。このように、弥生時代の中、後期からの地形を踏襲するように、微高地部と開析部が存在し、水田はその開析部のやや低い地形の場所に存在している。水田と微高地部の境は、ｙ30ライン付近では不明確ではあるが、１区東端から２区東端までの水田域では、その境に溝57・58が存在している。これらの溝57・58は、水田に伴う水路と考えられ、北から南方向に流走している。溝57の東側肩部は、水田畦畔と同様のものが取り付いている。溝58は、第234図のように、水田面が端部で凹み溝状を呈している。畦畔は、幅約30cm、高さ約５cmで、ｙ35ラインの南北方向には幅約200cm高さ約15cmの大畦も存在する。畦畔は、地形に規則されるように、ほぼ南北および東西方向に地割されている。畦畔で区画された水田は、おおむね長方形を呈しており、長軸は南北、東西にとっている。畦畔は、「＋」、「Ｔ」、「Ｙ」字状に取り付いている。これらの水田は、全面にわたって水田層直上に砂層が堆積しており、洪水によって埋没したと考えられる。また、溝57・58も同様の堆積である。さらに洪水層の一部は微高地上にまで堆積しており、大規模な洪水であったと考えられる。この水田層および上層の洪水砂層からは、図示できなかったものの、弥生後期後葉の特徴を示す土器が若干量検出されている。出土した土器は、旭川東岸の百間川遺跡群などで確認されている水田と同時期と考えられ、今回検出された洪水層で覆われた水田の状況も酷似しており、共通の洪水によって埋没した可能性が高い。　（中野）

(2)　溝

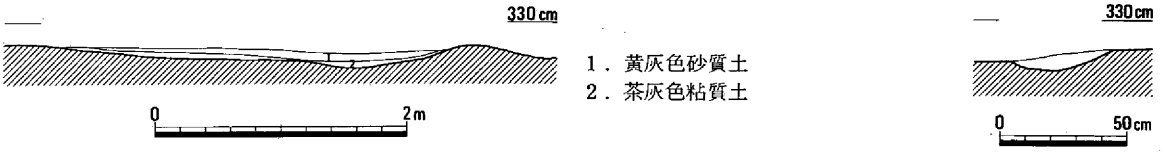
溝57（第230・234図）

この溝は、１区東部に位置し、微高地末端部に沿うように北北東から南南西方向に検出された。溝の東側の微高地低位部には水田が展開しており、水田の用水としての技能をもつ。溝の東肩部には水田との境に畦畔を伴っている。溝内には、水田を覆っているものと同様な土層が堆積していた。

（中野）

溝58（第231・234図）

溝は、２区の東端に位置し、溝57と相対するように微高地西端に沿うように検出された。溝の西側は、水田が溝57まで間に開田されている。溝は、一部検出しがたかったが、湾曲しながらほぼ南北方向に流走する。規模は、幅30～50cm、深さ約15cmを測り、断面形は皿形を呈する。溝内には、溝57と同様な土層が堆積していた。水田に伴う溝と考えられる。（中野）

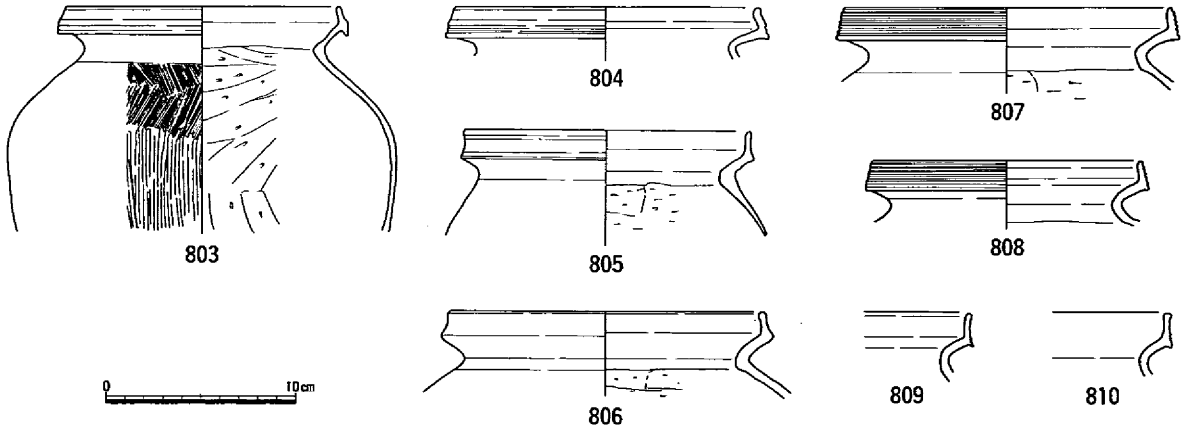


第234図　溝57・58土層断面図（1/60・1/30）

(3)　その他の出土遺物

弥生時代後期後葉では、微高地と水田が交互に存在しており、微高地上にも遺構が検出されていないため、この時期の遺物は極めて少ない。

遺物は、微高地上の包含層および水田層から若干量の遺物を確認したにとどまっている。図示した803～810の他に少量出土したのみである。いずれも１区の包含層から出土したものである。いずれも甕で、頸部から大きく屈曲気味に外反する口縁部をもつ。口縁端部は、上下に肥厚されるもの803・804や、上方に立ち上がる805～810がある。体部外面は、基本的にはハケメののちヘラミガキを施している。内面体部は頸部までヘラケズリで調整している。803・804は古い様相を示しているが、805～810は後期後葉の特徴をもつ。（中野）



第235図　包含層ほか出土遺物（1/4）

５．古墳時代の遺構・遺物

はじめに

今回の調査で検出された古墳時代の遺構としては、溝が主体で他には柵列状遺構や畦畔の一部であった。溝は、１区を中心に確認され、特に溝64・65は微高地の高所に幹線水路として存在した可能性もある。また、２区で検出した柵列状遺構は、弥生時代後期水田の大畦とその位置が重複するように水田上部より確認されている。また、３区では水田畦畔の一部とそれに沿う溝なども検出されている。

遺物は、包含層から若干量の土器などが出土している。検出されたものは、須恵器、土師器を中心とするものである。

遺構・遺物ともいずれも居住地域を想定できるものではなく、むしろ生産遺構としての性格を帯びているといえよう。（中野）

(1)　溝

溝59（第236・237図）

北方地蔵遺跡１区の西端で検出されたやや蛇行する溝である。ｙ29ラインからｙ30ラインにかけての全長約25ｍにわたって検出された。幅約1.8ｍ、深さ約10㎝ほどで溝底は浅く平らである。

検出位置や埋積土からみると、下層の溝12と重なることが明らかで、この溝が埋没した後のたわみと考えてよいだろう。

出土遺物には土器細片がみられたが、実測可能な遺物は811の土師器甕口縁部のみである。口縁部の特徴から古墳時代前葉に比定することができる。（岡田）

溝60（第236・237図）

北方地蔵遺跡１区のｙ31ライン付近で検出された。溝62に切られた状態で検出されている。

溝というよりはたわみといった方が適切で、幅約3.6ｍと広いが、深さは10㎝以下である。溝底は平坦であるがわずかな凹凸がある。

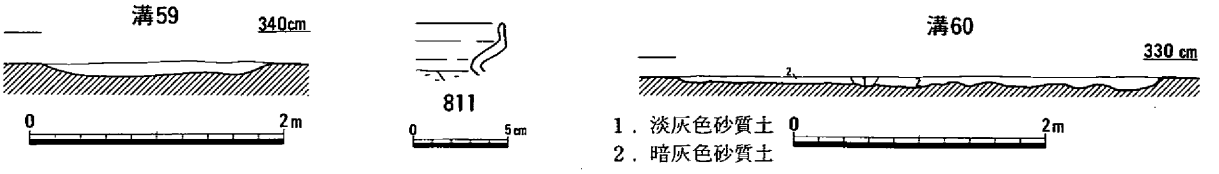
出土遺物は皆無である。（岡田）

溝61（第237・238図）

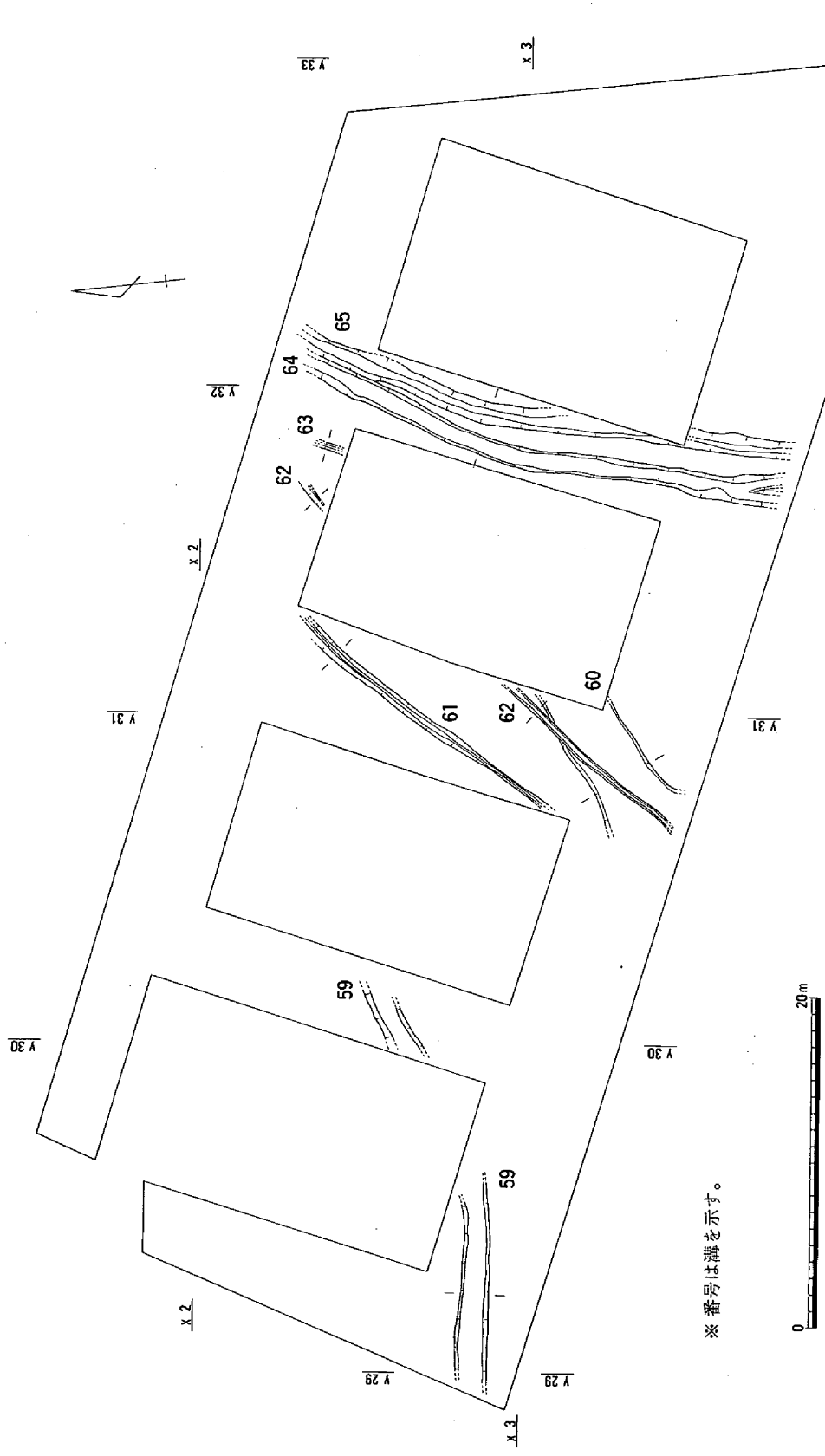
溝60すぐ西側で検出されたほぼ直線的な細い溝である。検出全長約20ｍ、幅約90㎝前後を測る。深さは20㎝に満たないが、断面形が明瞭にＶ字形を呈する部分が観察され、流水機能があったことがわかる。出土遺物は土器片少量がみられるにとどまる。（岡田）

溝62（第237・238図）

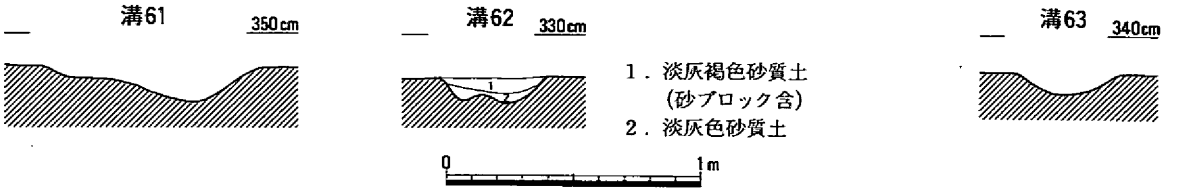
溝61東側でほぼ平行して北東から南西へ、直線的に検出された溝である。検出全長約30ｍを測り溝61より少し細い。上下２層の埋積土が確認され、いずれも砂質である。



第236図　溝59・60土層断面図・溝59出土遺物（1/60・1/4）



第237図　北方地蔵遺跡１区古墳時代遺構配置図（1/400）



第238図　溝61～63土層断面図（1/30）

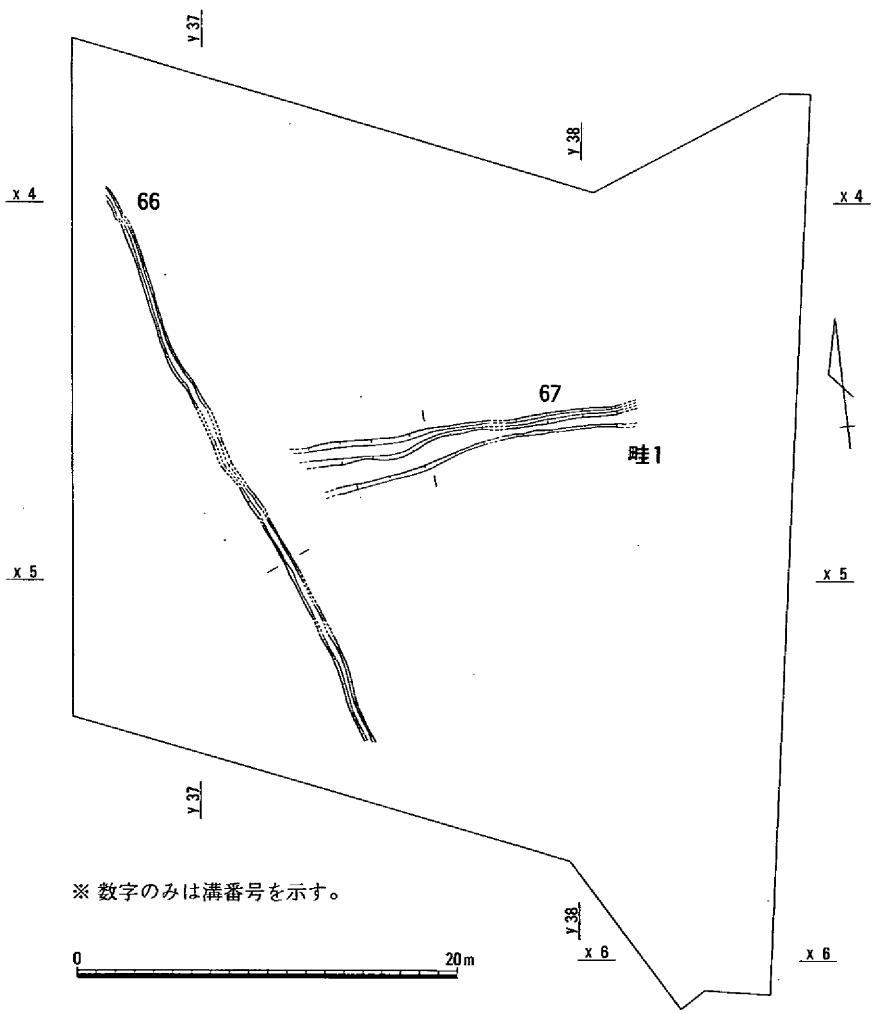
出土遺物は、土師器と思われる土器細片が少量認められる。（岡田）

溝63（第237・238図）

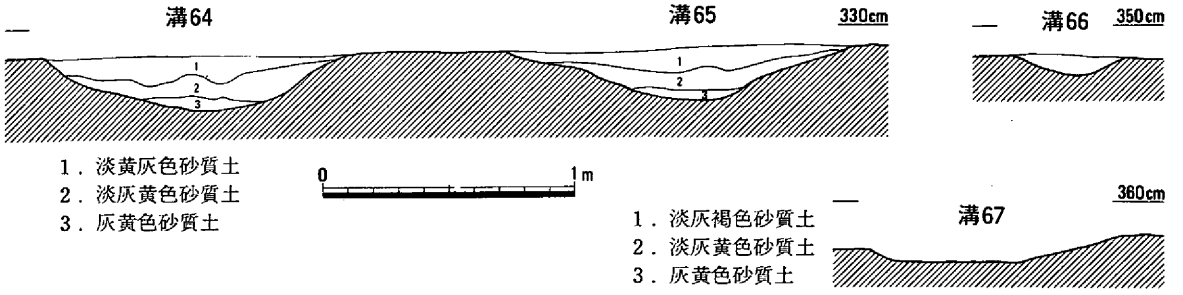
溝は、１区の北側に位置し、溝62の東約２ｍに検出された。溝は北北東から南南西の方向に延び、幅約42cm、深さ約８cmを測る。断面形は皿形を呈する。出土遺物はなく時期不明である。（中野）

溝64（第237・240図）

この溝は、１区中央のやや東寄りに位置し、溝65と隣接してほぼ平行に北北東から南南西方向に流走する。規模は、幅が約120cm、深さは約22cmを測り、断面形は皿形を呈している。溝内には、第１～



第239図　北方地蔵遺跡３区古墳時代遺構配置図（1/400）



第240図　溝64～67土層断面図（1/30）

３層がレンズ状に堆積しており、１区の微高地上に存在した弥生時代を含めた他の溝とは埋土に差異が認められた。出土遺物は、須恵器の小片が検出されており、古墳時代とした。（中野）

溝65（第237・240図）

溝は、１区の溝64の東約１ｍに検出された。溝64と同様に西側にやや湾曲しながら北北東から南南西方向に流れている。規模は、幅が約135cm、深さが約20cmで断面形も皿形を呈し溝64と規模、形態ともに類似する。さらに、溝内の堆積層と同様である。出土遺物は、弥生後期後葉の土器が少量出土したが、時期は溝64と同時期であろう。（中野）

溝66（第239・240図）

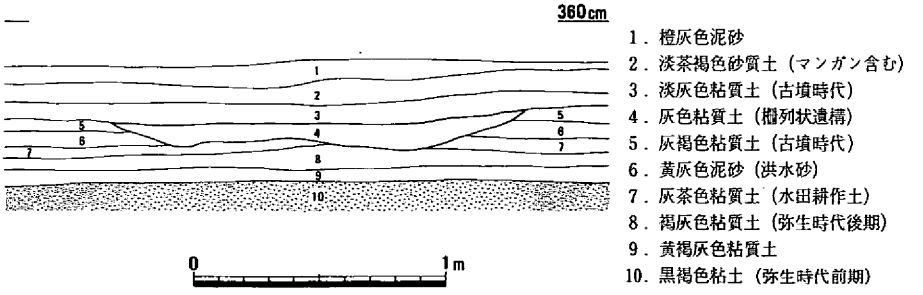
この溝は、３区の西側に位置し、北北西から南南東方向に流走する。規模は、幅約60cm、深さ約10cmを測る。出土遺物はないが埋土等から、弥生時代の可能性も考えられる。（中野）

溝67（第239・240図）

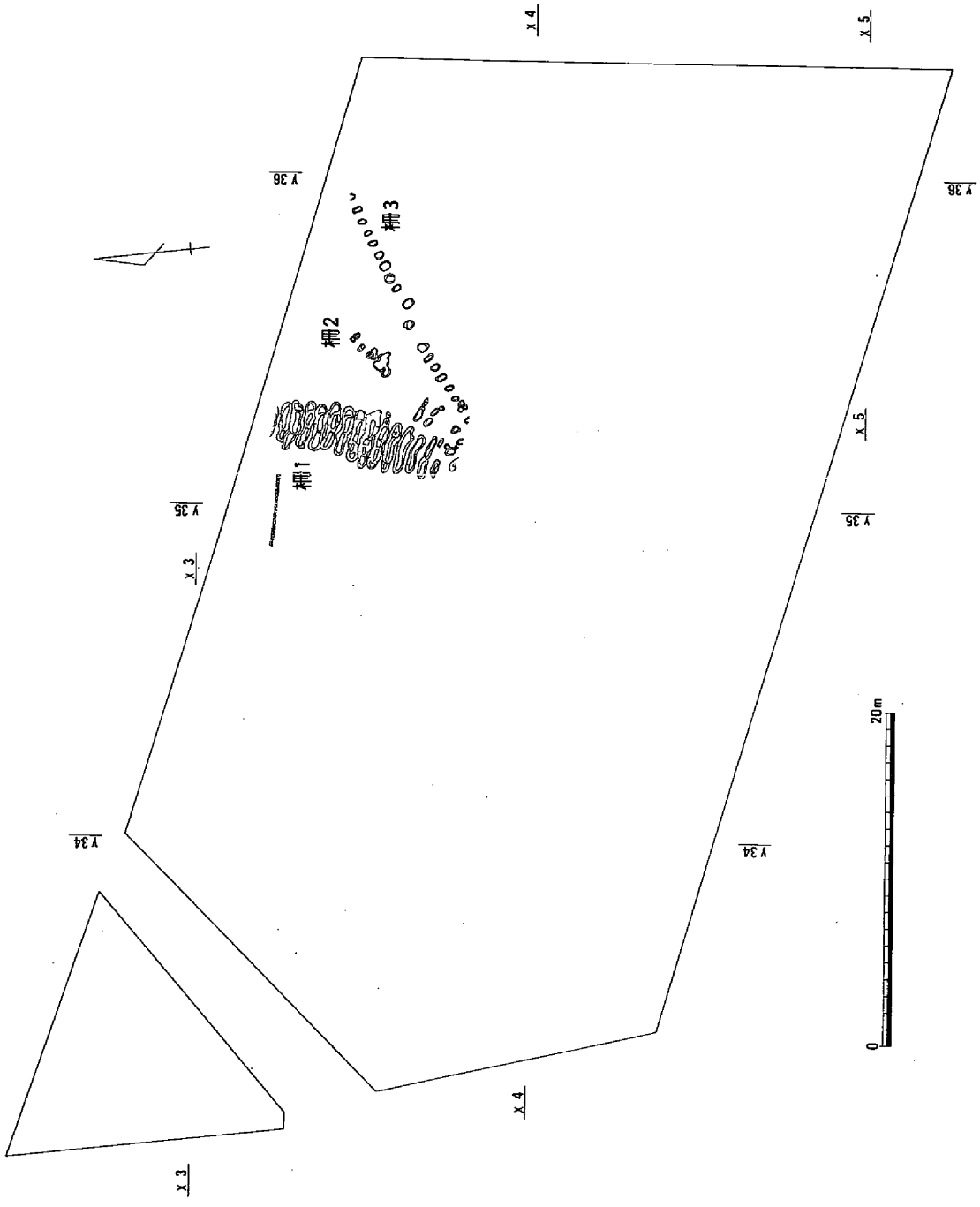
この溝は、３区の中央部に検出された。溝は、南側に畦畔が存在し、その畦畔に沿うようにほぼ東西方向に延びている。規模は、幅が約100cm、深さが約６cmを測り、断面形は皿形を呈している。出土遺物はなく時期不明。（中野）

(2)　柵列状遺構

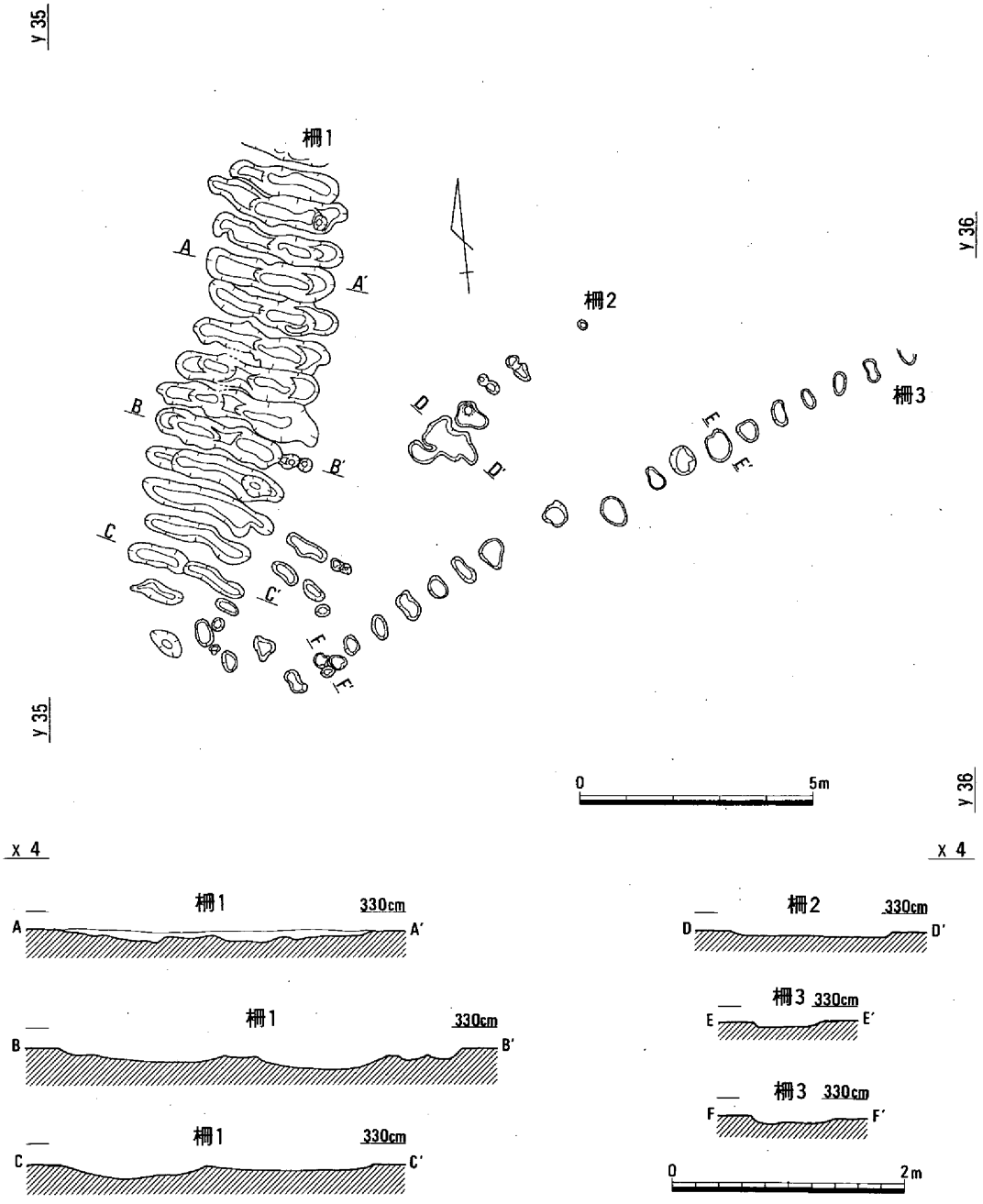
柵列状遺構は、２区北側の中央から東側にかけて検出された。この柵列状遺構は、細長い溝状のものがほぼ等間隔に列をなしている。細長い溝状の落ち込みは、底部は水平でなく凹凸がある。このような溝状のものとその残存部を異なる方向に３列検出した。検出された南側は、存在しないのではなく、残存状態が良くなく、検出できなかったと考えている。また、この柵列状遺構の上面は、マンガン、鉄分の分離集積層が顕著に認められた。これらの柵列状遺構は、県内でも散見できるもので性格については不明な点が多い。（中野）



第241図　北方地蔵遺跡２区北壁土層断面図（柵列状遺構部分；1/30）



第242図　北方地蔵遺跡２区古墳時代遺構配置図（1/400）



第243図　柵列状遺構1～3（1/150・1/60）

柵列状遺構1（第242・243図）

この遺構は、検出された3列の内で最も残存状態がよい。長さが300cm前後で、幅は約50cmの溝状のものが約70cm間隔で連続している。遺構の上部は、マンガン、鉄分の分離集積層が固くしまっている。方向は、北北東から南南西方向に延びており、北に向かって残存状態が良く、南側にも続くと考えられるが削平を受けていた。柵列状遺構は、道路であるという指摘が出されているが、この遺構の下部には弥生後期後葉水田の大畦が存在し、位置、方向ともに一致する。出土遺物はなく層位から古墳時代～古代としておく。（中野）

柵列状遺構2（第242・243図）

この遺構は、残存状態が悪く最深部が検出された。北東～南西方向に延びている。出土遺物は認め

られないが、古墳時代～古代と考えられる。（中野）

柵列状遺構３（第242・243図）

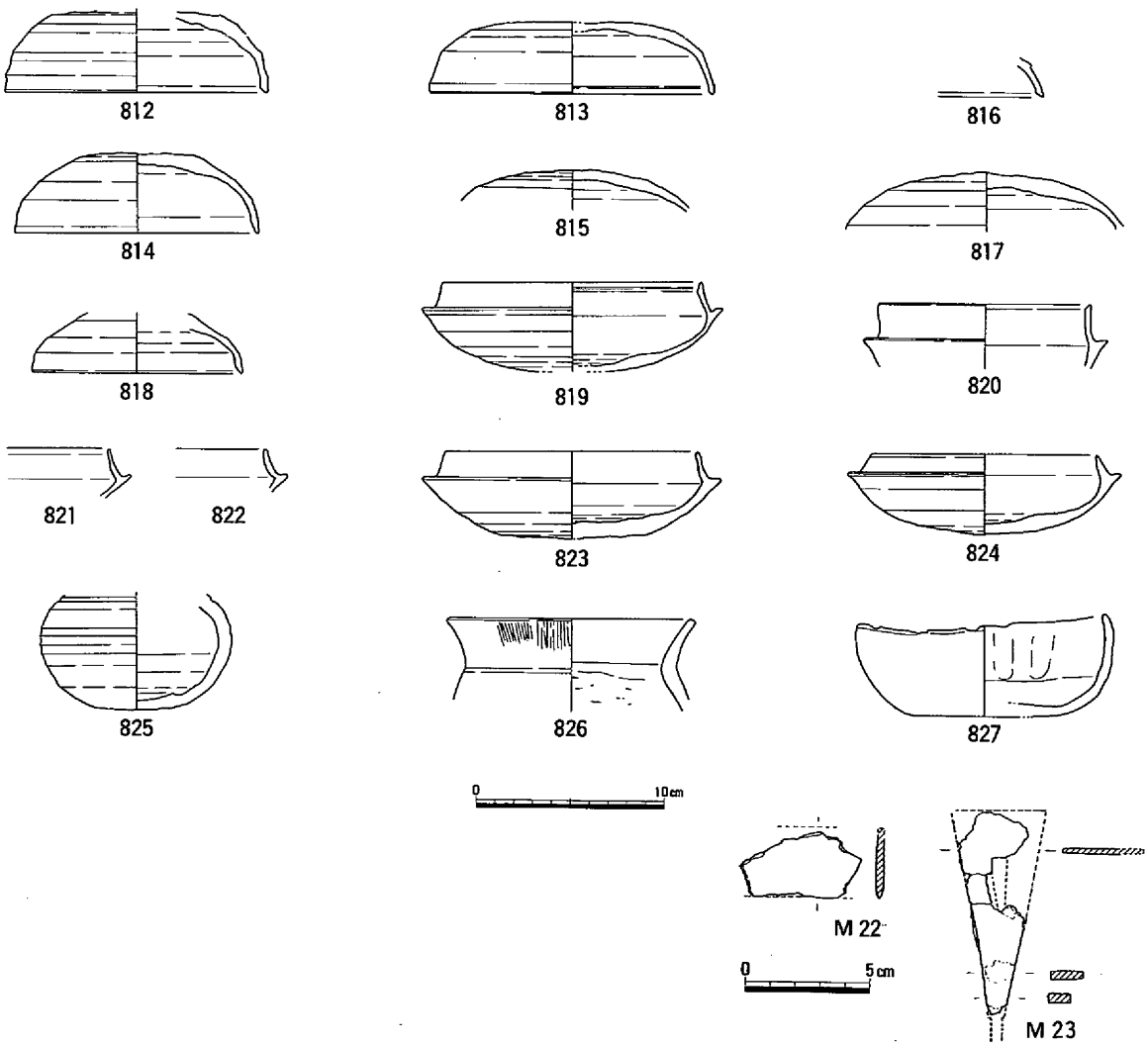
この柵列状遺構は、検出された３列の東端にあたる。柵列状遺構２と同様に残存状態が良くない底部が検出された。長さ約50cm前後の楕円形の落ち込みが東北東から西北西方向に続いている。出土遺物はないが他の遺構と同時期であろう。（中野）

(4)　その他の出土遺物

今回の調査では、古墳時代は水田を中心とするものであったため、出土遺物はあまり検出されなかった。

図示した812～827は、いずれも古墳時代後半期のものである。812～818は、須恵器の杯蓋で６世紀後半を中心とする。812は、その中でも古相のもので、天井部と縁部の境に稜線を残し、口唇部にも端面が残存している。819～824は、須恵器の杯身で６世紀前半～後半の特徴を有している。825は、口径が小さく、立上がりも上方に延び古相の特徴を示す。826・827などの土師器も少量出土している。

また、M22・23の鉄器も検出されている。（中野）



第244図　包含層ほか出土遺物（1/4・1/3）

6．古代・中世の遺構・遺物

はじめに

北方地蔵遺跡では、古代・中世においては一時期を例外的に除くと水田として利用されている。水田としては、弥生時代から続いており、のち近世・近代に至るまで終始水田が営まれた状況を堆積層が示している。

水田関連の遺構としては、明瞭な状況で検出されなかったものの、畦畔の痕跡等によって水田の存在が明かとなっている。

古代では、明確な時期を限定できないものの第245・246図のように畦畔痕跡、溝など水田関連の遺構が検出されている。また、これらの畦畔の方位も異なるものも存在していた。

中世においては、1区では、幹線水路および溝などが検出されている。2・3区では、水田と考えられる水平堆積層が広範に認められるものの、鎌倉時代前半の一時期に第259図のように無数の土壙群が検出された。

これらの土壙群は、規模も同じようなものが多く、また連続して掘削されていた。平面的には、直線的に列をなすものが多く、土壙の軸線は南北および東西方向にとるものがその大半を占めている。土壙は個々に埋めた状態ではなく、堆積土が共通しているものも確認されている。このような状況からみて、粘土の採掘坑であると判断された。（中野）

(1) 水　　田

水田3（畦2～6）（第245図）

この水田は、2区で断続的に畦畔痕跡が検出されたものである。畦2～畦6畦畔は検出されていないものの鉄分の集積層が筋状に確認され畦畔痕跡と考えられた。

畦2・畦3・畦6は、ほぼ南北および東西方向に検出され、南北線の畦2と畦3は約10cm、畦3と畦6は約20cmと一定の法則性をもっている地割が想定できる。

また、畦4・畦5は、畦2・畦6とはやや方向が異なっている。時期は検出石からみて古代～中世と考えられる。（中野）

水田4（畦7～9）（第245図）

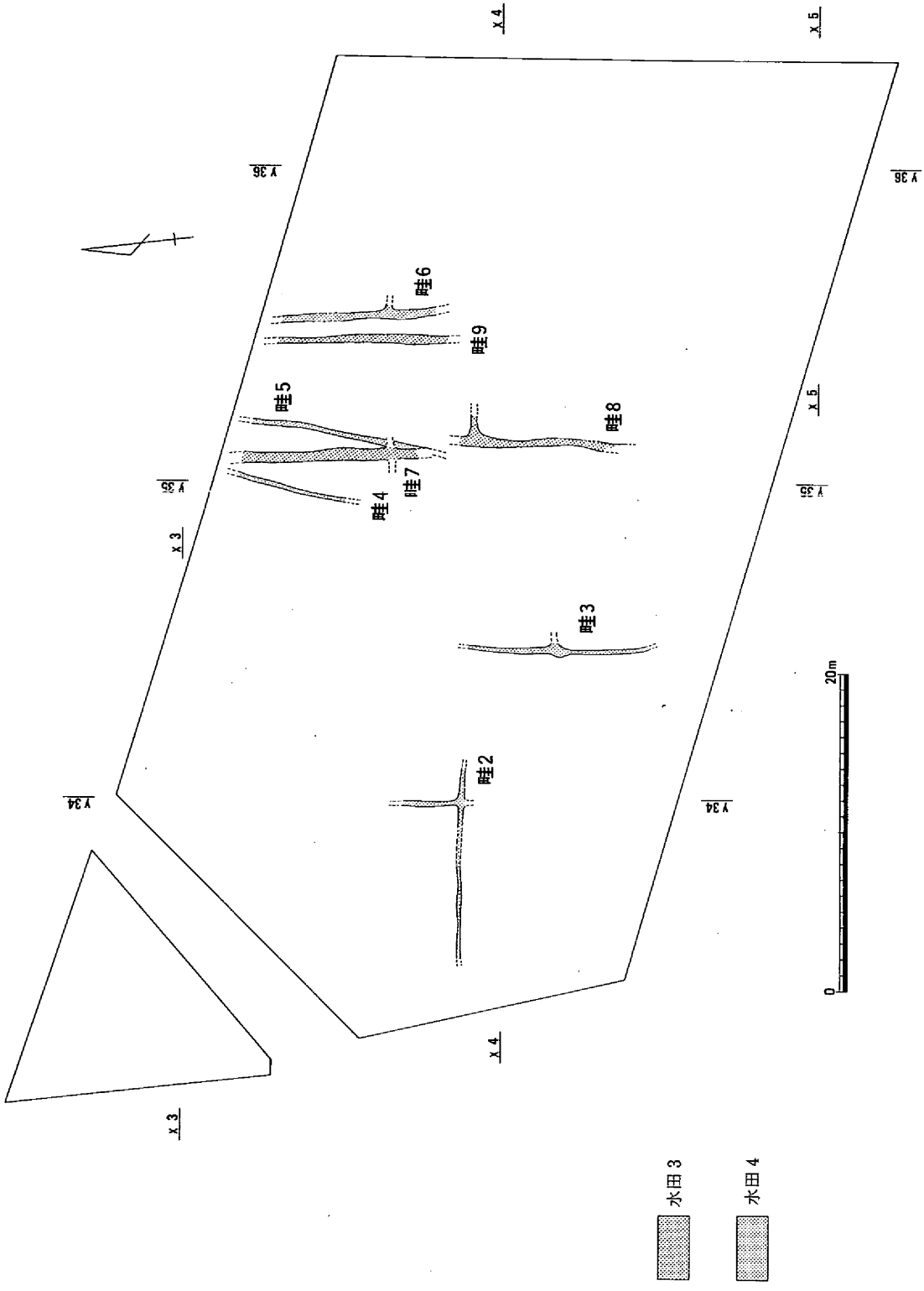
畦7～畦9は、水田3と同様に畦畔痕跡である。方位は、畦2・畦3などと合致している。水田面としては水田3より下層にあたる。（中野）

水田5（畦10・11）（第246図）

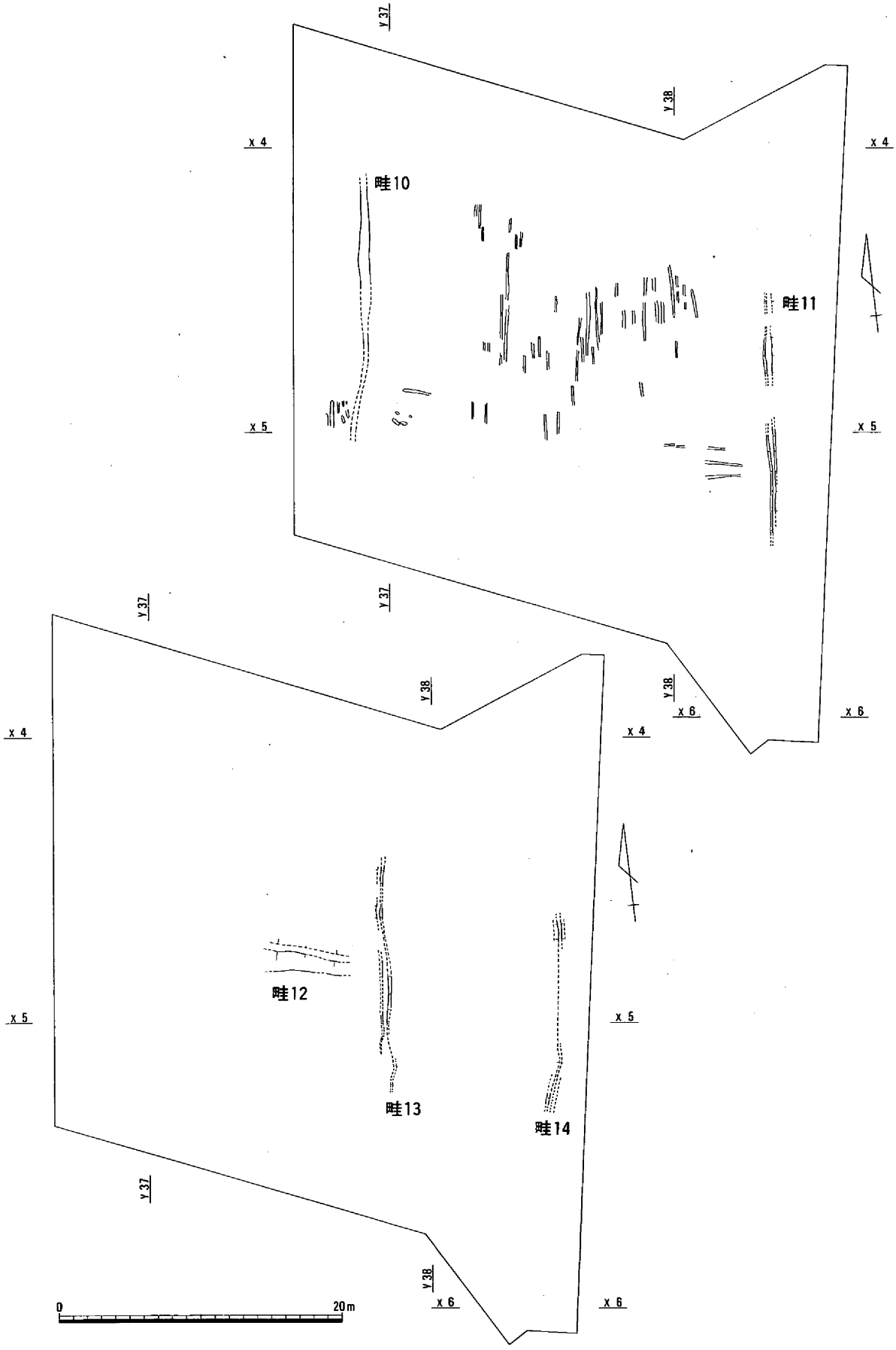
水田5は、3区に検出された畦畔痕跡と鋤跡である。方向は南北および東西方向に延びている。畦10と畦11の間は約30cmを測る。古代～中世。（中野）

水田6（畦12～14）（第246図）

水田6は、2区の水田5の下部に検出された。畦畔痕跡は、南北および東西方向で水田5と同様な地割と考えられる。古代～中世。（中野）



第245図　北方地蔵遺跡２区古代遺構配置図（1/400）



第246図　北方地蔵遺跡３区古代遺構配置図（1）・（2）（1/400）

(2) 溝

溝68～76（第247～249図）

これらの溝は、幅約50cmを測り、いずれも南北、東西方向に延びており、ほぼ350cmを単位として存在している。畝状の溝痕跡と考えられる。（中野）

溝77（第250・251図）

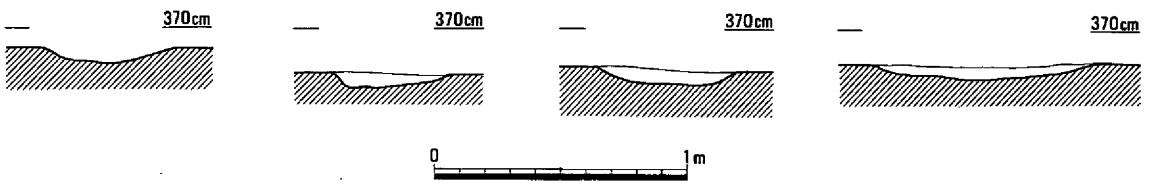
この溝は、１区北端部に位置している。溝の南側肩部を調査区北東隅から中央にかけて検出でき、そこから西へは調査区外に続く。溝の肩部は凹凸が激しいものの東南東から西北西に延びているが、２区の北西部では検出されていない。溝の規模は、検出が一部であるため、不確定であるが、状況からみて規模の大きな溝であると考えられる。溝内には、砂が厚く堆積しており、溝の肩部などから考えて、大きな洪水等によって溝が氾濫したような状況である。このような状況の溝は、北方地蔵遺跡の西の北方横田遺跡、北方中溝遺跡で検出されている溝24・30・35と類似しており、方向、埋土、時期なども合致する。出土遺物としては、図示した土師器椀、小皿などの早島式土器と呼ばれる一群である。また、他の遺物としては古代末の土器も若干含まれている。（中野）

溝78（第250・252図）

１区の西端で検出された南北方向の直線的な溝である。検出全長約18m、幅約1.1m、深さ約10cmを測る。埋積土は黄灰色～淡灰黄色を呈する砂質土である。

溝底は丸みをもって窪んでいる。東側の溝80あるいは、溝81・82などと共存して、区画溝となる可能性もある。また、約51m東方には同じ南北方向の溝87があり、同時期に存在した可能性が高い。

出土遺物には、832・833の土師器がある。いずれも早島式土器の椀の破片で、この溝が鎌倉時代前半に機能し、埋没したことを示唆している。（岡田）



第247図　溝68～71断面図（1/30）

溝79（第250・253図）

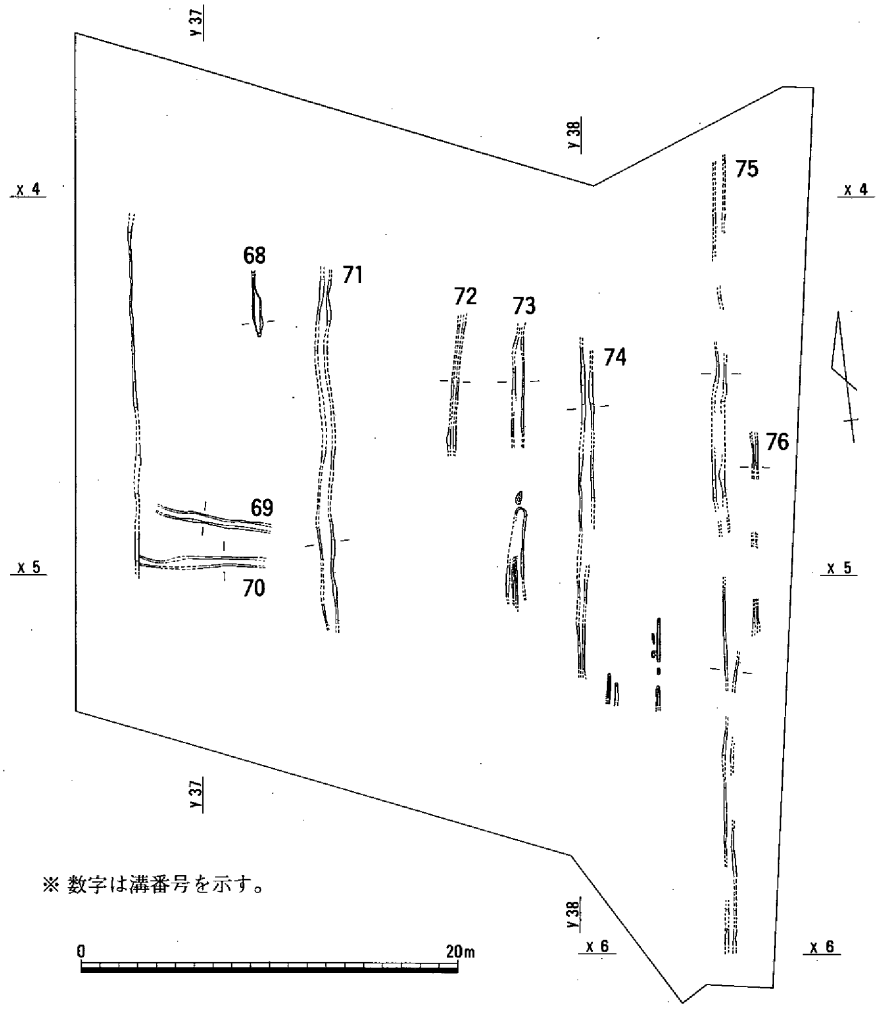
溝78のすぐ西側で検出された南北方向の溝である。検出全長約４m、幅約80cm前後、深さ約10cmを測る。埋積土は溝78と同様である。

出土遺物は土師器細片のみであるが、いずれも鎌倉時代前半の早島式土器の破片である。（岡田）

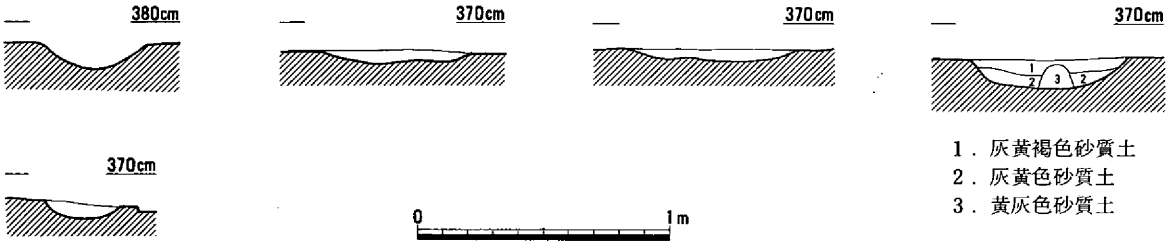
溝80（第250・253図）

溝78の東約６mに位置する、ほぼ東西方向を示す直線的な溝である。検出全長は約14m、幅約１m、深さ約10cm前後を測る断面形皿形の溝である。溝81・82などと平行しており、全体の地形に沿った形状を示している。東の方が高くなっていくため、東端は不明瞭である。

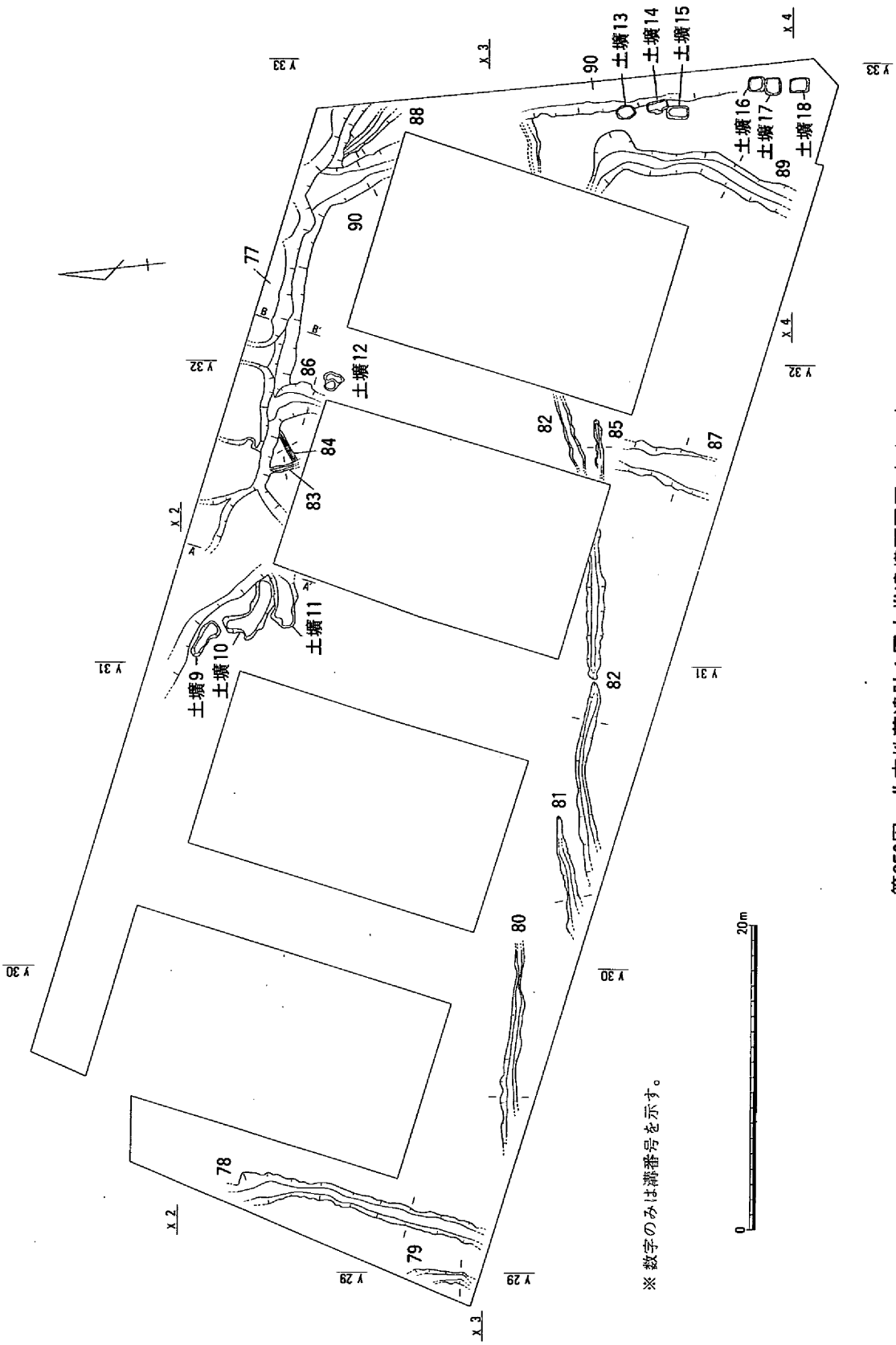
出土遺物には834の鎌倉時代の早島式土器椀底部があり、溝の時期を示している。（岡田）



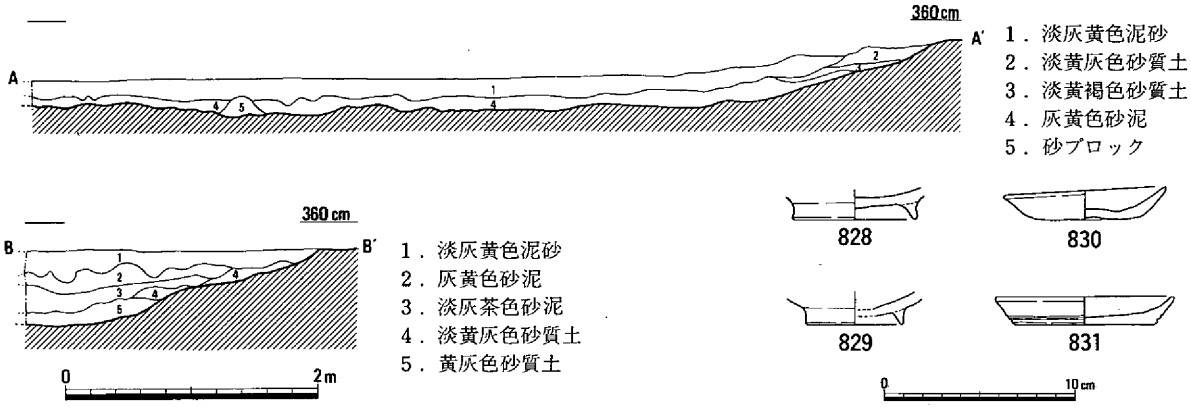
第248図　北方地蔵遺跡３区古代遺構配置図　(3)　(1/400)



第249図　溝72～76断面図　(1/30)



第250図　北方地蔵遺跡１区中世遺構配置図（1/400）



第251図　溝77土層断面図・出土遺物（1/60・1/4）

溝81（第250・254図）

溝80の東約６ｍに位置する。検出全長約８ｍ、最大幅約80cm前後、深さ約10cmを測る。溝82と平行するかのように検出されている。付近の溝と同様に埋積土は淡灰黄色の砂質土である。

出土遺物には、鎌倉時代前半に比定される835の土師器がある。（岡田）

溝82（第250・254図）

この溝は、１区の溝81の南側に検出された。溝は、やや蛇行しながらほぼ東西方向に延びており、溝内は砂が堆積しており、洪水等によって埋没したと考えられる。規模は、幅が約80cm、深さは約９cmを測り、断面形は皿形を呈している。出土遺物は土師器の椀、小皿、鍋などで鎌倉時代前半期の特徴を示している。（中野）

溝83（第250・255図）

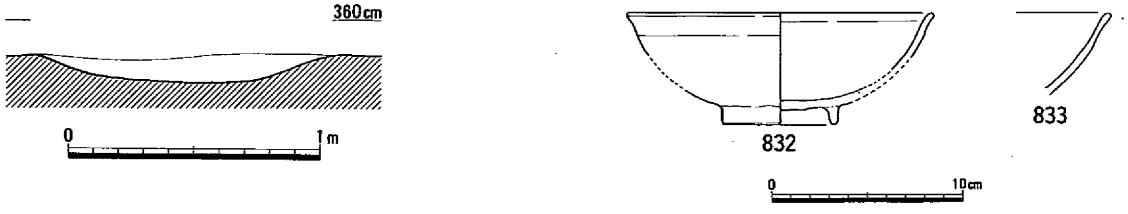
１区中央の北側に位置し、溝77と接して一部が検出された。幅約36cm、深さ約２cmを測る。出土遺物はないが堆積土等から中世か。（中野）

溝84（第250・255図）

この溝は、１区中央の北側に位置し、溝77・83と接して一部が検出された。溝83とは直交するような位置関係にある。出土遺物は、早島式土器と呼ばれる土師器の椀、小皿などが少量検出され、鎌倉時代前半の特徴をもっている。（中野）

溝85（第250・255図）

溝は、１区の溝82の南側に検出された。検出できたのは一部であり、位置関係から溝82から派生したような溝と考えられる。



第252図　溝78断面図・出土遺物（1/30・1/4）

出土遺物は、土師器が少量出土した。時期は溝82と同時期であろう。　（中野）

溝86（第250・255図）

溝は、１区北側の中央やや西寄りに位置し、溝77と接しており、堆積土等からみて溝77の支流と考えられ、また１区南側の溝87と連続すると思われる。規模は、幅約170cm、深さ約30cmを測る。出土遺物は認められないが鎌倉時代前半か。　（中野）

溝87（第250・256図）

この溝は、１区の南側に位置し、溝86と連続する。規模は、幅約270cm、深さ約17cmを測る。出土遺物はないが溝77・86と同時期であろう。　（中野）

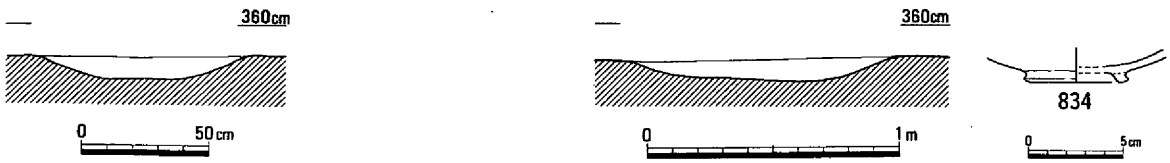
溝88（第250・256図）

溝は、１区の北東隅に位置し、溝77と溝90の間に検出された。北西から南東方向に延びており、幅は約90cm、深さは約10cmを測る。断面形は皿形を呈する。

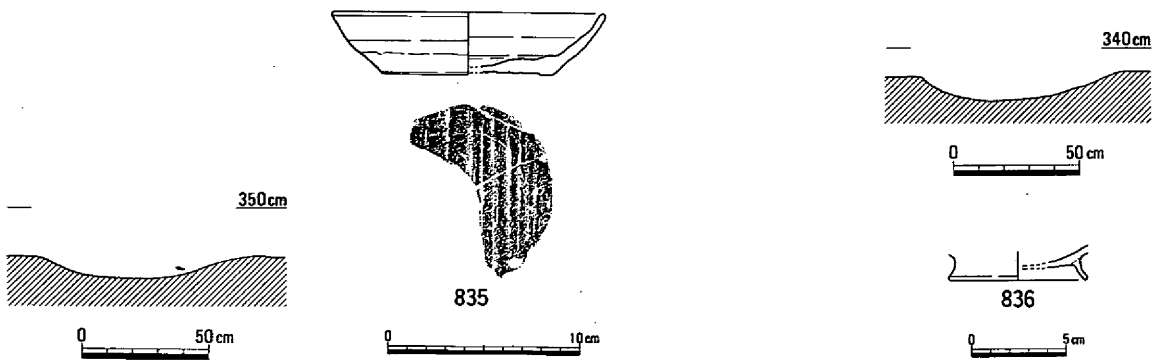
出土遺物はないが堆積土などから中世か。　（中野）

溝89（第250・256図）

この溝は、１区の南東部に検出された。溝はやや蛇行しており、北東方向から南西方向に延びている。規模は、幅が約170cm、深さは約37cmを測る。出土遺物はない。　（中野）



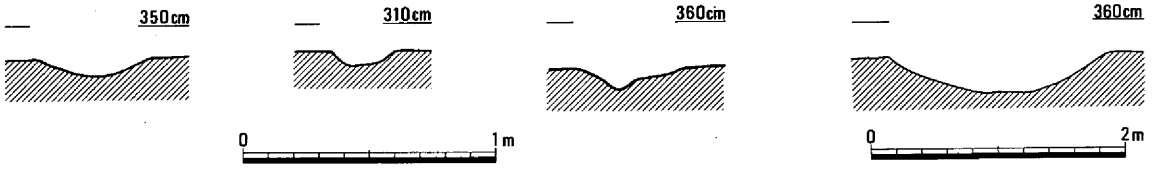
第253図　溝79・80断面図・溝80出土遺物（1/30・1/4）



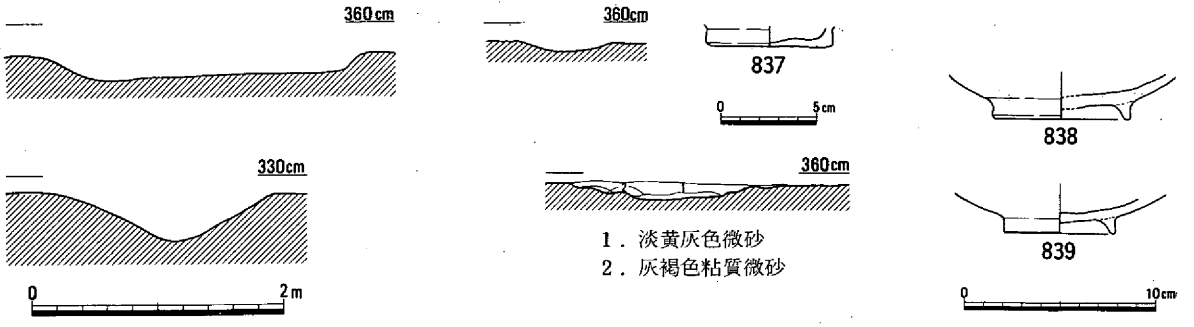
第254図　溝81・82断面図・出土遺物（1/30・1/4）

溝90（第250・256図）

溝は、１区の西端部に位置し、北側では溝77と接し溝77と同様に砂が堆積しており、溝77の支流であると考えられる。溝は、溝77から分流し、ほぼ南方向へ流走する。調査区の南東部では、土壙13～18の下部に存在し、幅は約180cm、深さは約16cmを測る。出土遺物は、少量の土器が検出され、鎌倉時代の前半の特徴を示している。　（中野）



第255図　溝83～86断面図（1/30・1/60）



第256図　溝87～90断面図・溝88・90出土遺物（1/60・1/4）

(3) 土　　壙

土壙９（第250・257図）

土壙９～11は、１区中央の北側に位置し、溝77の南側肩部に接するように検出された。土壙９は、255×72cmの規模で細長い不整楕円形を呈し、深さは約15cmを測る。出土遺物は認められなかったが埋没等からみて中世～近世の時期か。（中野）

土壙10（第250・257図）

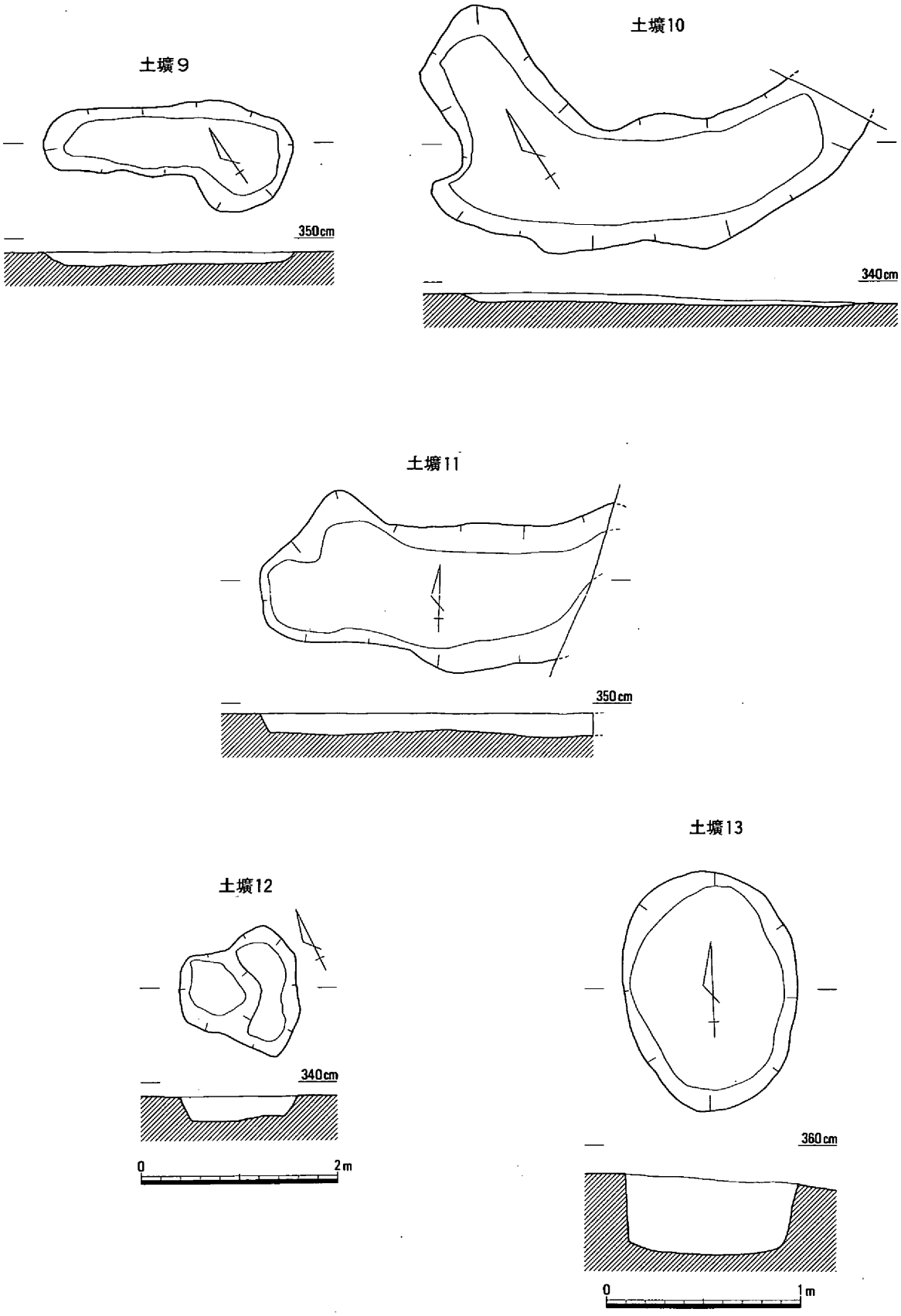
この土壙は、土壙９の南側に隣接して検出された。土壙は、長さが約477cmで幅が約130cmを測り、平面形は土壙９と同様に細長い不整の楕円形を呈しており、深さは約13cmを測る。土壙９～11は、その位置と状況からみて連続する遺構の残痕であるとも考えられる。（中野）

土壙11（第250・257図）

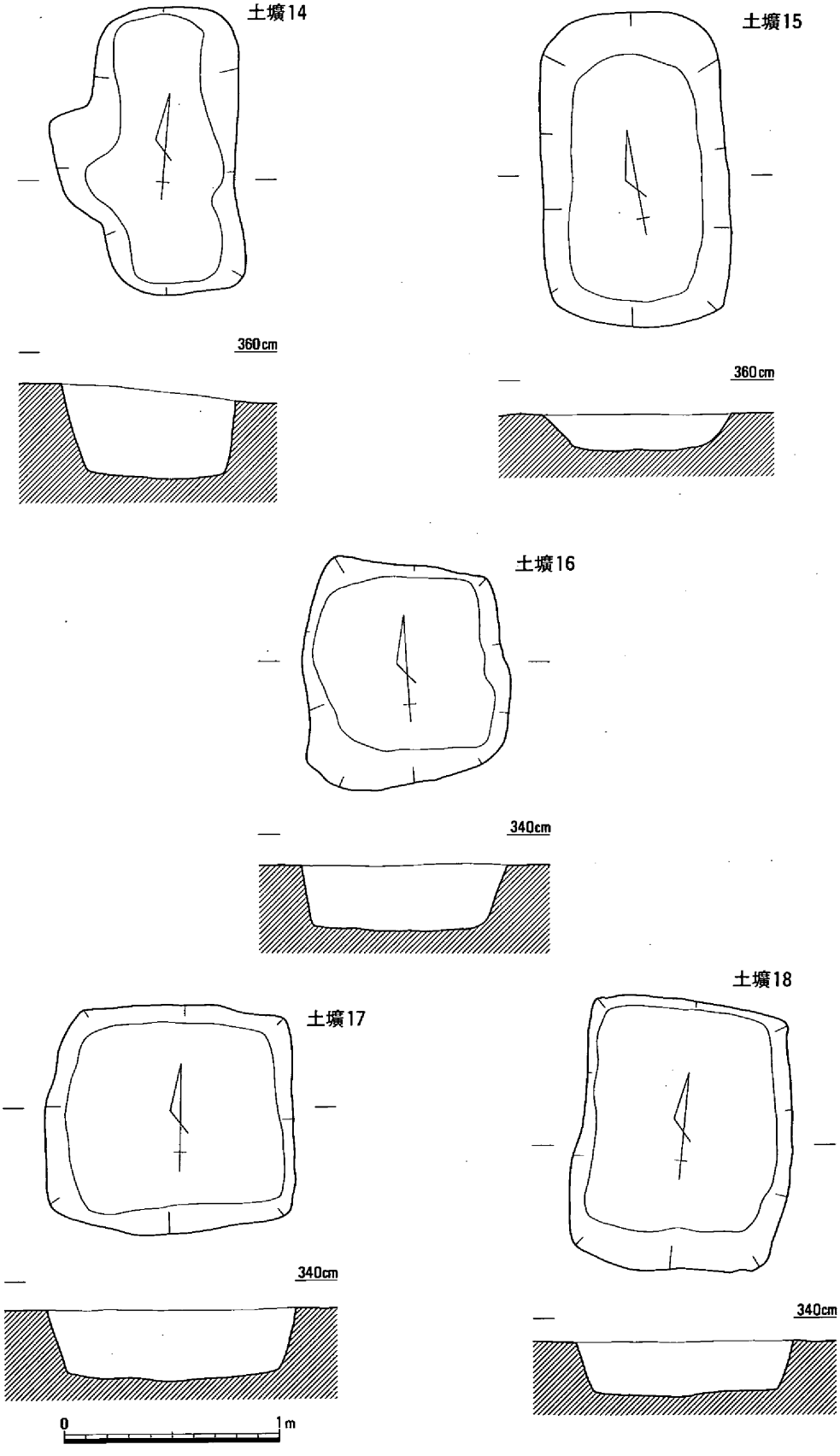
土壙11は、土壙10の南側に位置し、土壙の東側は、溝77と重なり合っている。規模は、幅が約124cmで、長さは350cm前後と推定され平面形は、土壙９・10と同様に不整楕円形を呈する。深さは約24cmを測る。出土遺物はないが中世～近世か。（中野）

土壙13～18（第250・257・258図）

土壙13～18は、１区の西端部に位置し、ほぼ直線的に検出された。この土壙が存在する１区と２区の間は、条理地割りの南北線にあたり、現在でも道路として利用されている。この地割線に沿うように土壙は存在する。また、土壙は土壙と同様に地割線に存在する溝90の上部に位置している。土壙の規模は、102～146×81～108cmのもので、平面形は隅円正方形、隅丸長方形を基本としている。土壙の長軸は、地割に沿うように南北方向にとっている。深さは、17～38cmを測り、断面形は逆台形を呈している。底部の深さは、土壙15はやや浅いものの他の土壙はほぼ高さが類似している。このような土壙の特徴は、後述する粘土採掘坑と類似する状況ではあるが、埋土など差違点もありここでは別の土壙としてとりあつかった。（中野）



第257図　土壙９～13（1/60・1/30）



第258図　土壙14～18（1/30）

(4)　粘土採掘坑

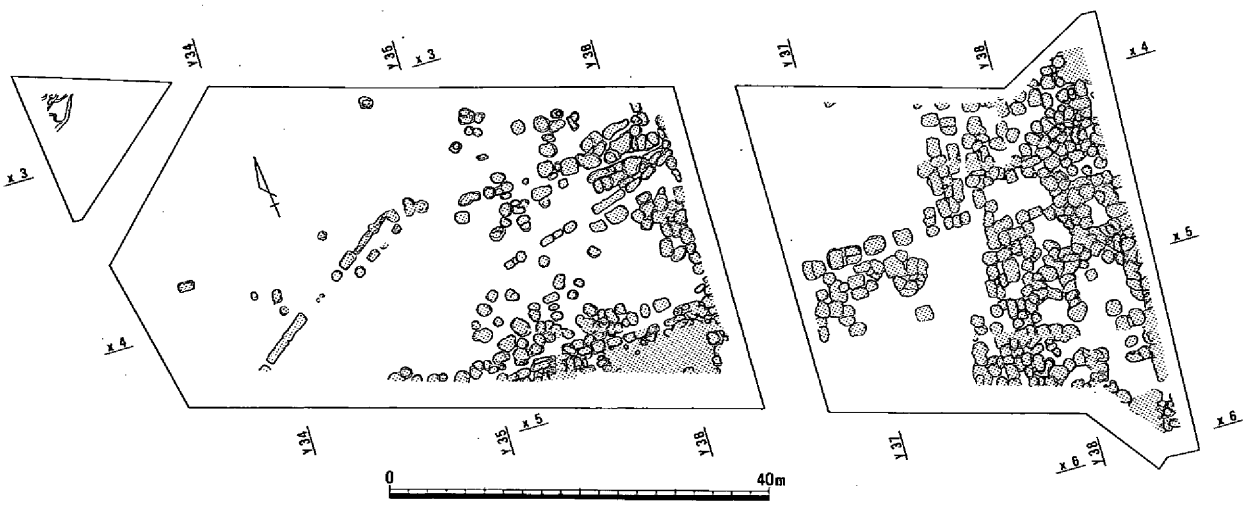
２区の調査当初、調査区の東半分において、不定形な落ち込みが広範囲に確認された。この落ち込みは３区でも断続的にみられ、その規模は単体のものから百数基が集中している大規模なものの存在が認められた。これらはそのほとんどが黒褐色粘土の上層でとまっており、この広範囲に検出された落ち込みは、その分布状況、形態などの状況から弥生後期の水田層と考えられる褐灰色粘質土・黄褐灰色粘質土、古墳時代の包含層と考えられる灰褐色粘質土・淡灰色粘質土の採掘を目的とした土壙、つまり粘土採掘坑と推測できた。

分布状況

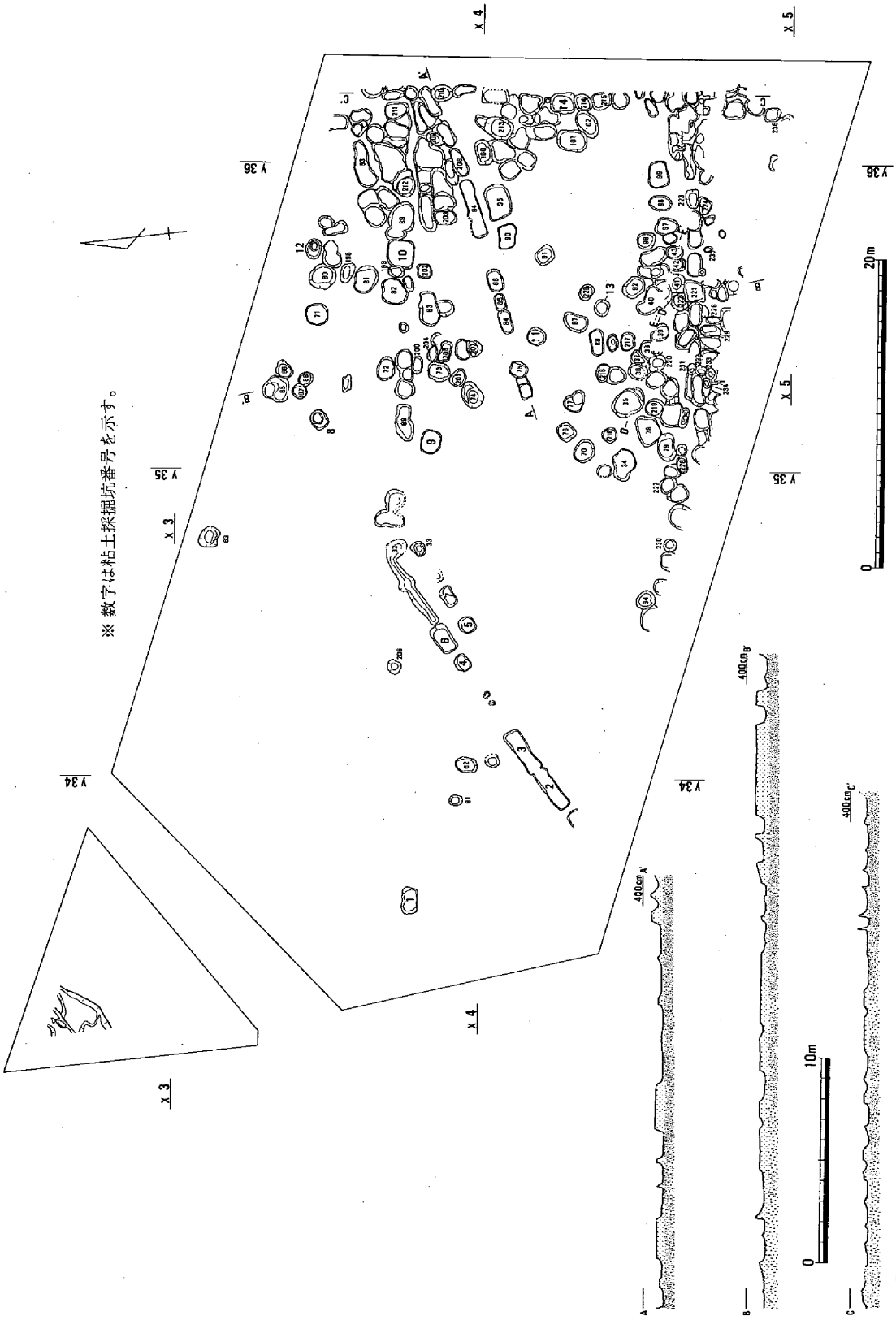
２区ｘ５・ｙ36北西付近、３区ｘ６・ｙ38北東付近など近代の削平を受けているために調査区全体の土壙の正確な数は不明だが、検出できたものは581基である。この内訳は２区では248基、３区では333基である。調査区全体でみると、土壙の集中部と空白の部分があり、特に東西方向のｘ５上、南北方向のｙ36上、ｙ38上に土壙が集中して存在する。このことは、ある一定の規則性をもって採掘が行われたことをうかがわせる。また土壙集中部のｙ38上の部分にも空白地帯があり、採掘作業の際に何らかの役割を果たした部分であると思われる。

形状

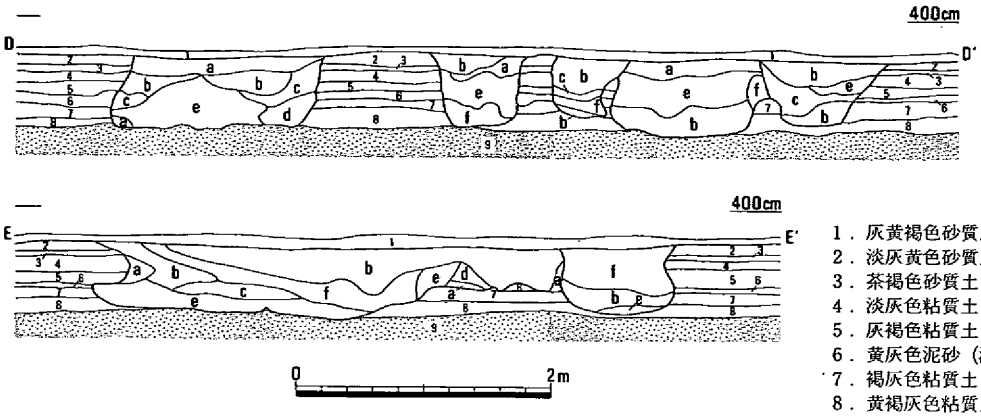
粘土採掘坑（以下粘と記す）の平面形状は円、不整円、不整楕円、隅丸長方形、隅丸方形、アメーバ状と多種にわたる。土壙が集中的に重複しているためにその正確な形状は不明なものが多いが、粘２・３は隅丸長方形、粘10・15などは隅丸長方形の代表的なものである。しかし形状が明瞭に分類しえるほど規格性の高いものではない。断面形状ついては不整形なものがほとんどであり、底部は凹凸からみられ、特に２区東側・３区東側の土壙集中部では、全体が30～40cm落ち込み全体として埋没している状況を示していた。各土壙の壁面を観察してみると、基本的には垂直な落ち込み、あるいは底部付近の粘土質の層の部分でオーバーハングしており、これは土壙集中部でも同じような状況を呈していた。



第259図　北方地蔵遺跡２・３区中世遺構配置図（1/800）



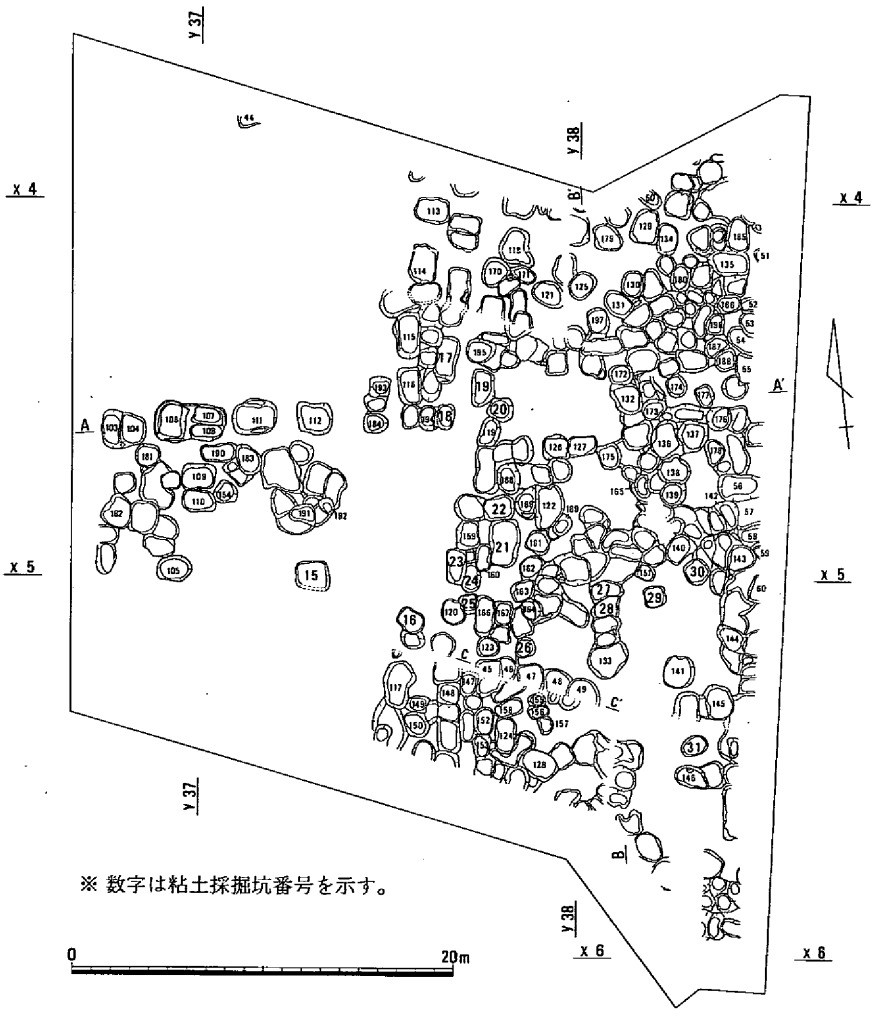
第260図　北方地蔵遺跡２区中世遺構配置図・粘土採掘坑断面図（1/400・1/300）



第261図　北方地蔵遺跡２区粘土採掘坑部土層断面図（1/60）

規模

土壙581基のうち、236基について測定を試みた結果、検出レベルの違いはあるが土壙の規模は概ね長軸は約100～300cm・短軸約50～150cmのものが大半を占めることが確認された。中には粘２・３のように長軸300cmを越えるものも存在する。深さは約20～50cmであり、底部は凹凸がある。面積・体積の平均はそれぞれ、1.49㎡・0.64㎥であるが粘21のように面積・体積が3.10㎡・1.55㎥と巨大な土壙も確認された。



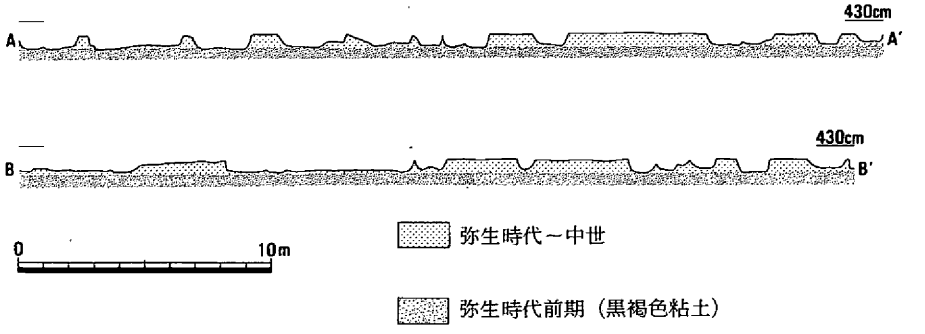
第262図　北方地蔵遺跡３区中世遺構配置図（1/400）

埋土

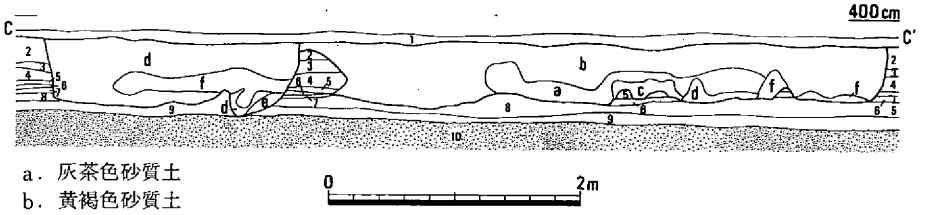
土壙の埋土は概ね砂質土であった。その多くは堆積層ではなく全体として埋没している状況であった。砂質の埋土に淡灰色粘土、淡茶褐色粘質土をブロック状に含み、埋め戻しの後がみられた。

出土遺物

粘土採掘坑にともなう出土遺物は全体では少量であった。遺物が出土した採掘坑は２区では248基



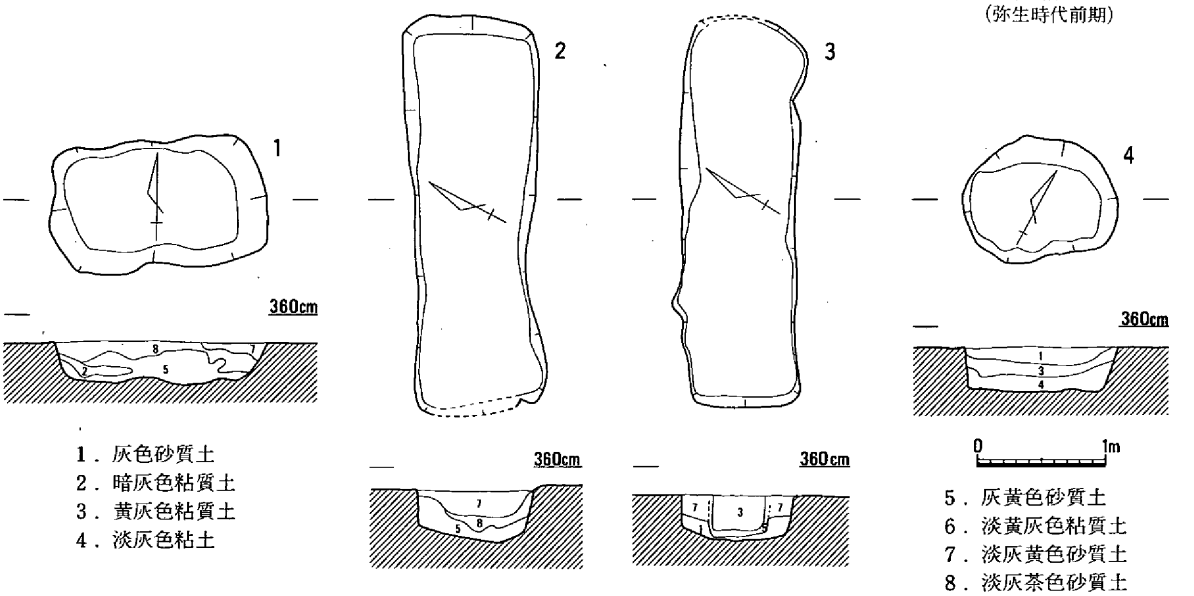
第263図　北方地蔵遺跡３区粘土採掘坑断面図（1/300）



a．灰茶色砂質土
b．黄褐色砂質土
c．黄灰褐色砂質土
d．淡灰褐色粘質土
e．淡灰黄色泥砂
f．黄褐色砂泥

1．灰黄褐色砂質土（粘土採掘坑上層）
2．淡灰黄色砂質土
3．橙灰色泥砂
4．淡茶褐色砂質土（マンガン含）
5．淡灰色粘質土（古墳時代）
6．灰褐色粘質土（古墳時代）
7．黄灰色泥砂（洪水砂）
8．褐灰色粘質土（弥生時代後期）
9．黄褐灰色粘質土
10．黒褐色粘土（弥生時代前期）

第264図　北方地蔵遺跡３区粘土採掘坑部土層断面図（1/60）



1．灰色砂質土
2．暗灰色粘質土
3．黄灰色粘質土
4．淡灰色粘土

5．灰黄色砂質土
6．淡黄灰色粘質土
7．淡灰黄色砂質土
8．淡灰茶色砂質土

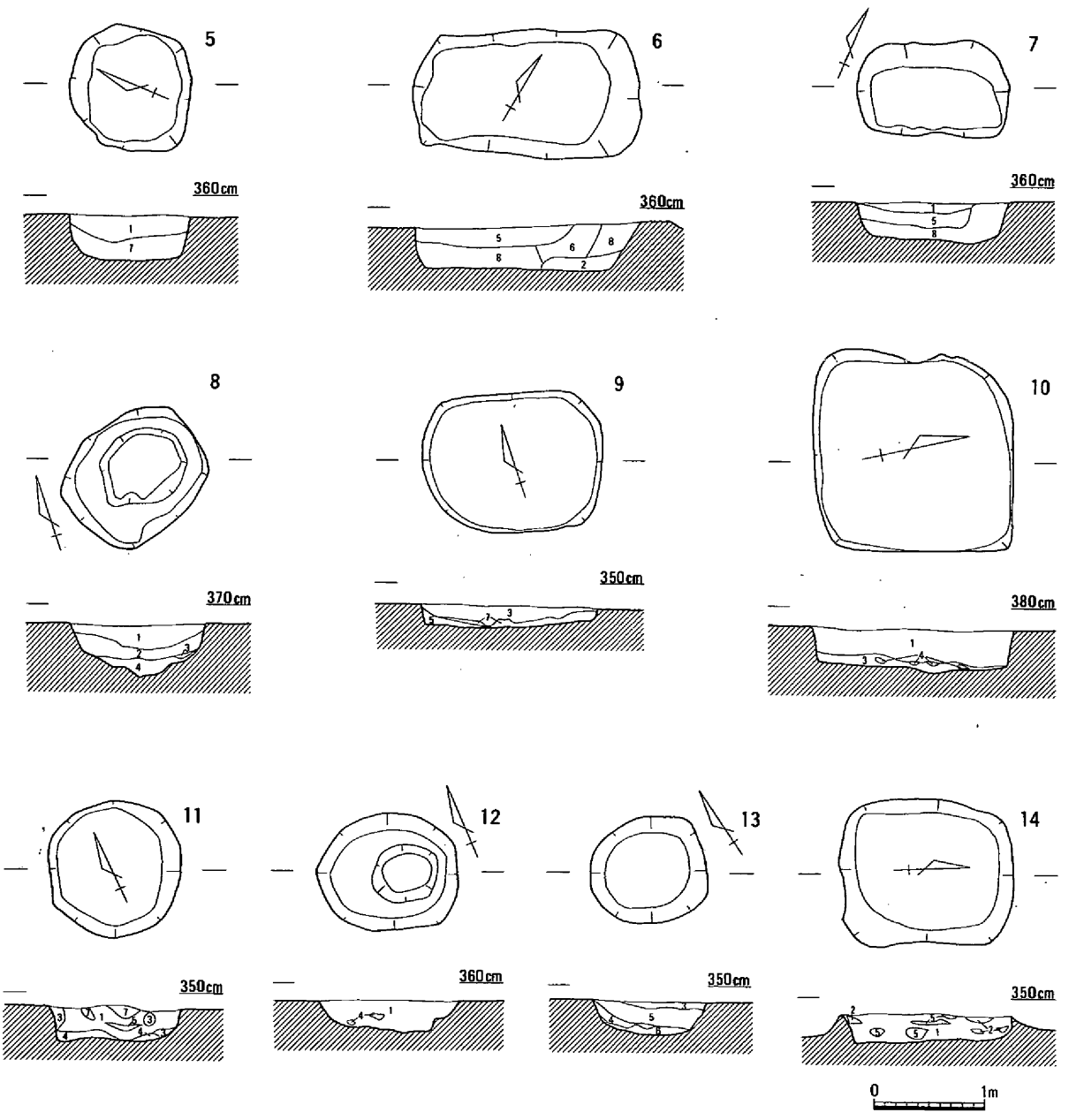
第265図　粘土採掘坑１～４（1/60）

中106基、３区では333基中160基、全体で、581基中266基で約45.8％の割合であった。遺物は109～138以外はほとんどが小・細片であった。土師器の椀、小皿、鍋が中心であるが847の土師器の竈、845の須恵器の椀、848の白磁の椀、860の魚住焼のこね鉢、867～869の外面格子目タタキ、内面布目の平瓦なども出土している。また840・841は土師器の椀で内外面、外面のみにヘラミガキが見られるものである。これらは12世紀後半前後の状況を呈するものであった。

まとめ

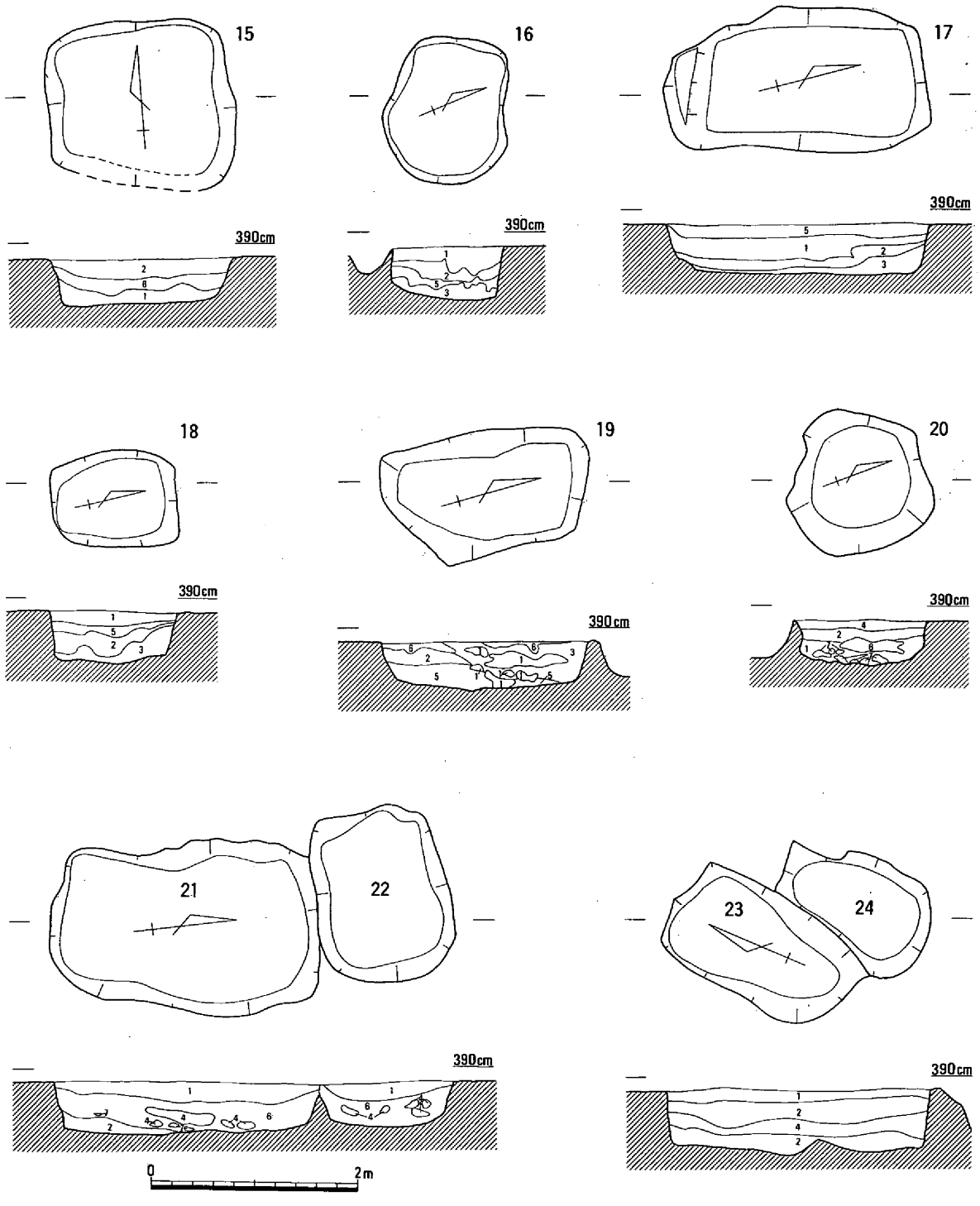
粘土採掘坑は北方地蔵遺跡では２区・３区の広範囲に渡って断続的に集中する事が確認できた。３区の東端の状況をみると調査区以東にも採掘坑がさらに広がることを推測できる。またその状況は新旧の切り合いが認められるものも若干存在したが、大半は落ち込みとして全体として埋没していた。

粘土採掘坑の底面の凹凸は複数の土壙の重複、連続的な粘土採掘の結果生じたものと思われる。採掘は弥生時代後期、古墳時代の水田層が目的であるが、弥生時代前期の黒褐色粘土はその目的としていない。このことは粘土の質、つまり弥生時代後期、古墳時代の粘土が弥生時代前期よりも適していたことを示すものである。これらの粘土質の土は土壙１基あたり平均で弥生時代後期の粘土が0.18㎥、古墳時代の粘土が0.22㎥であった。また粘土採掘坑の上層、灰黄褐色砂質土からは13世紀中頃～14世紀の土器が出土しており、出土遺物の状況からも、北方地蔵遺跡で確認された粘土採掘坑は12世紀後半から13世紀前半の限られた一時期に採掘が行われ、その後埋め戻されたものと考えられる。(前田)



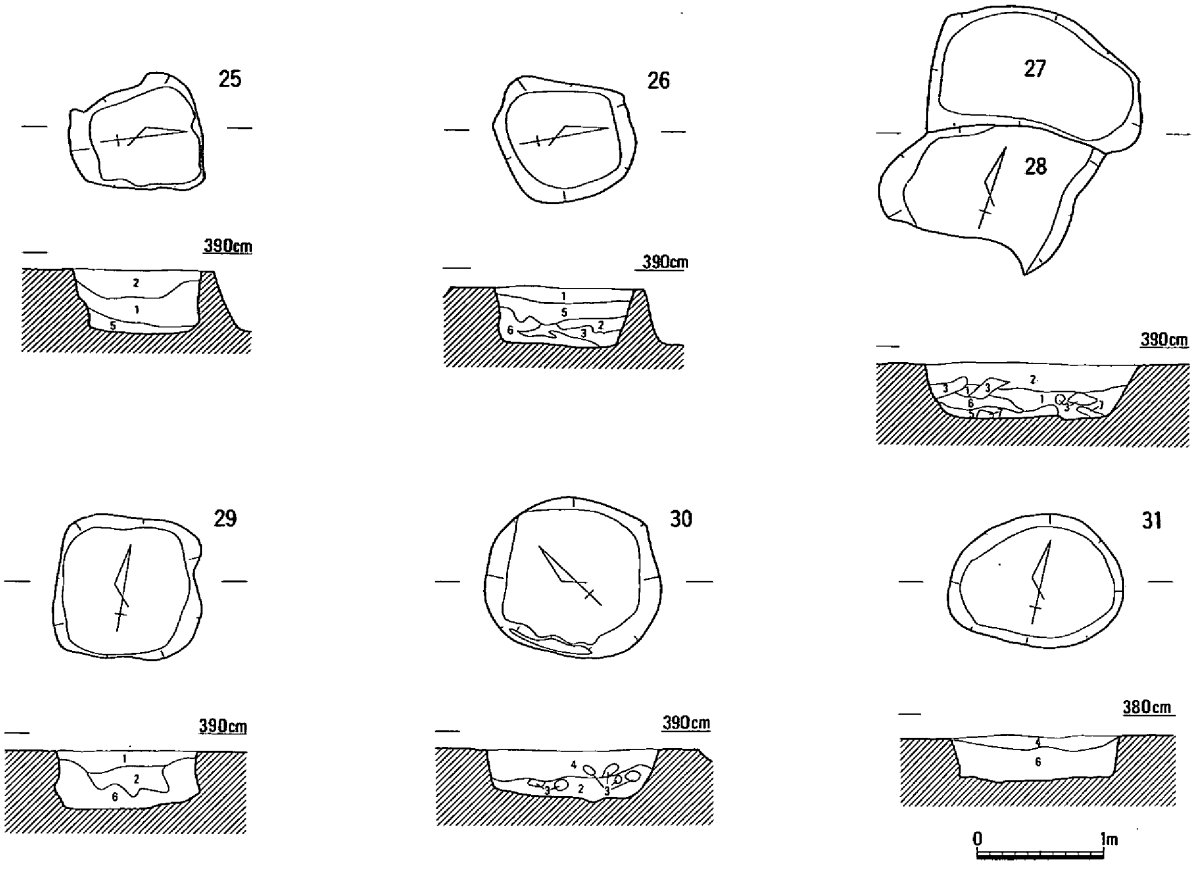
1．灰色砂質土
2．暗灰色粘質土
3．黄灰色粘質土
4．淡灰色粘土
5．灰黄色砂質土
6．淡黄灰色粘質土
7．淡灰黄色砂質土
8．淡灰茶色砂質土

第266図　粘土採掘坑５～14　(1/60)



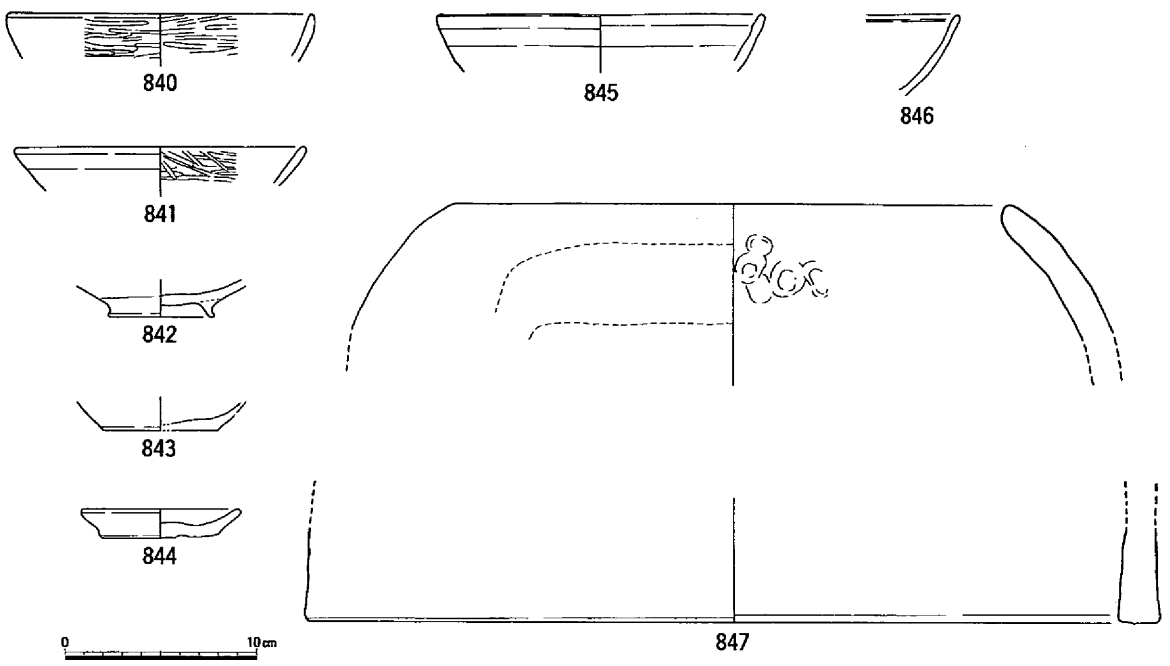
1．淡灰黄色砂質土
2．灰黄色砂質土
3．黄灰色砂質土
4．茶灰色砂質土
5．淡黄灰色砂質土
6．灰茶色砂質土
7．淡茶褐色砂質土

第267図　粘土採掘坑15～24（1/60）

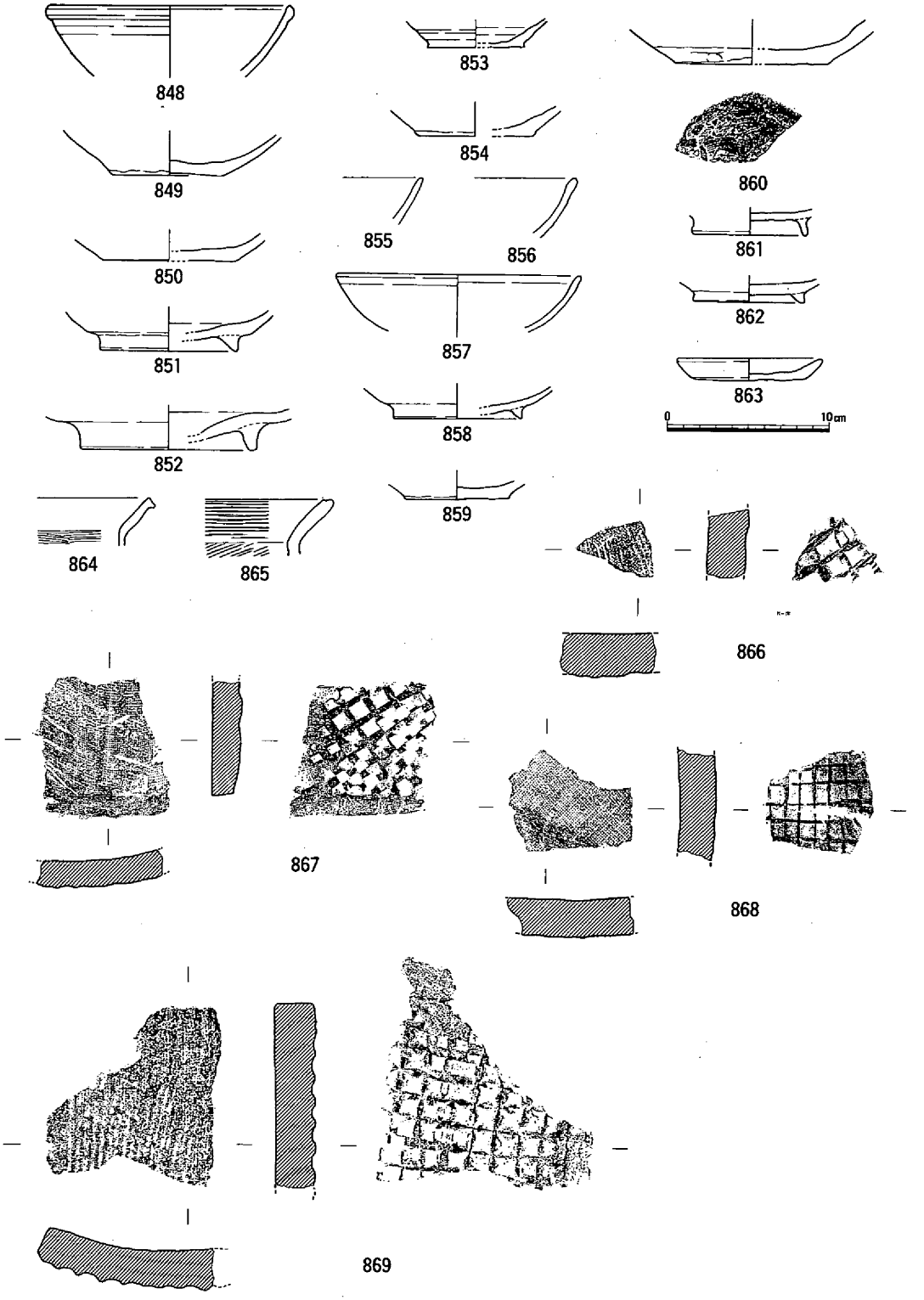


1．淡灰黄色砂質土
2．灰黄色砂質土
3．黄灰色砂質土
4．茶灰色砂質土
5．淡黄灰色砂質土
6．灰茶色砂質土
7．淡茶褐色粘質土

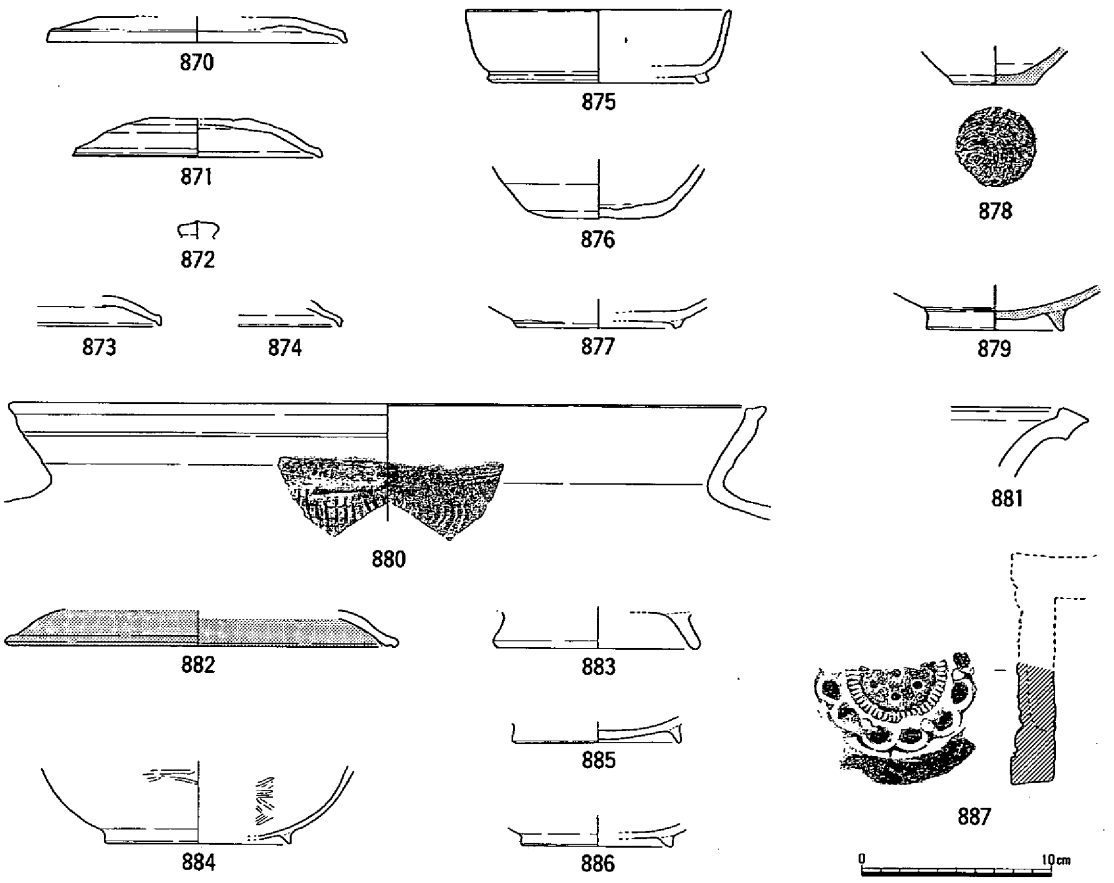
第268図　粘土採掘坑25～31　(1/60)



第269図　粘土採掘坑出土遺物（２区；1/4)



第270図　粘土採掘坑出土遺物（３区；1/4）



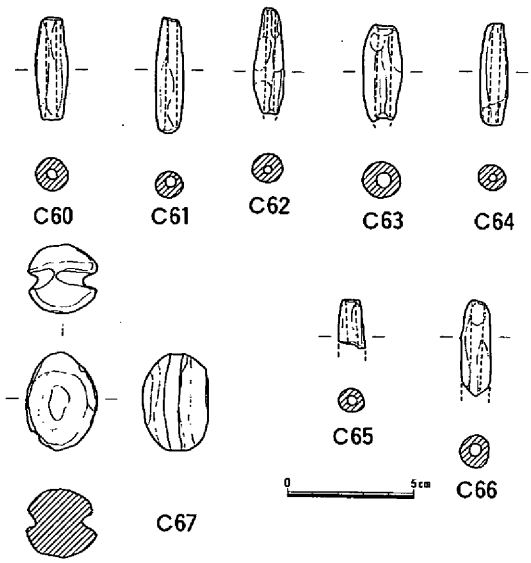
(5)その他の出土遺物

北方地蔵遺跡の古代・中世の遺物は、第271・272図で示したようなものが検出された。奈良時代の遺物は少なく、古代後半から中世の遺物が大半を占めた。

870～876の須恵器は、870～874が杯蓋で、875・876が杯身である。870～874は、天井部分をヘラケズリを施し、口縁端部はつまみ出している。875は、貼り付け高台の径はやや大きく、立ち上がりはやや短めである。877は、貼り付け高台の須恵器であるが時期不明である。880・881は甕である。

878・879は緑釉の椀で、878は底部に糸切り痕が残る。879は、貼り付け高台で、防長産の可能性がある。

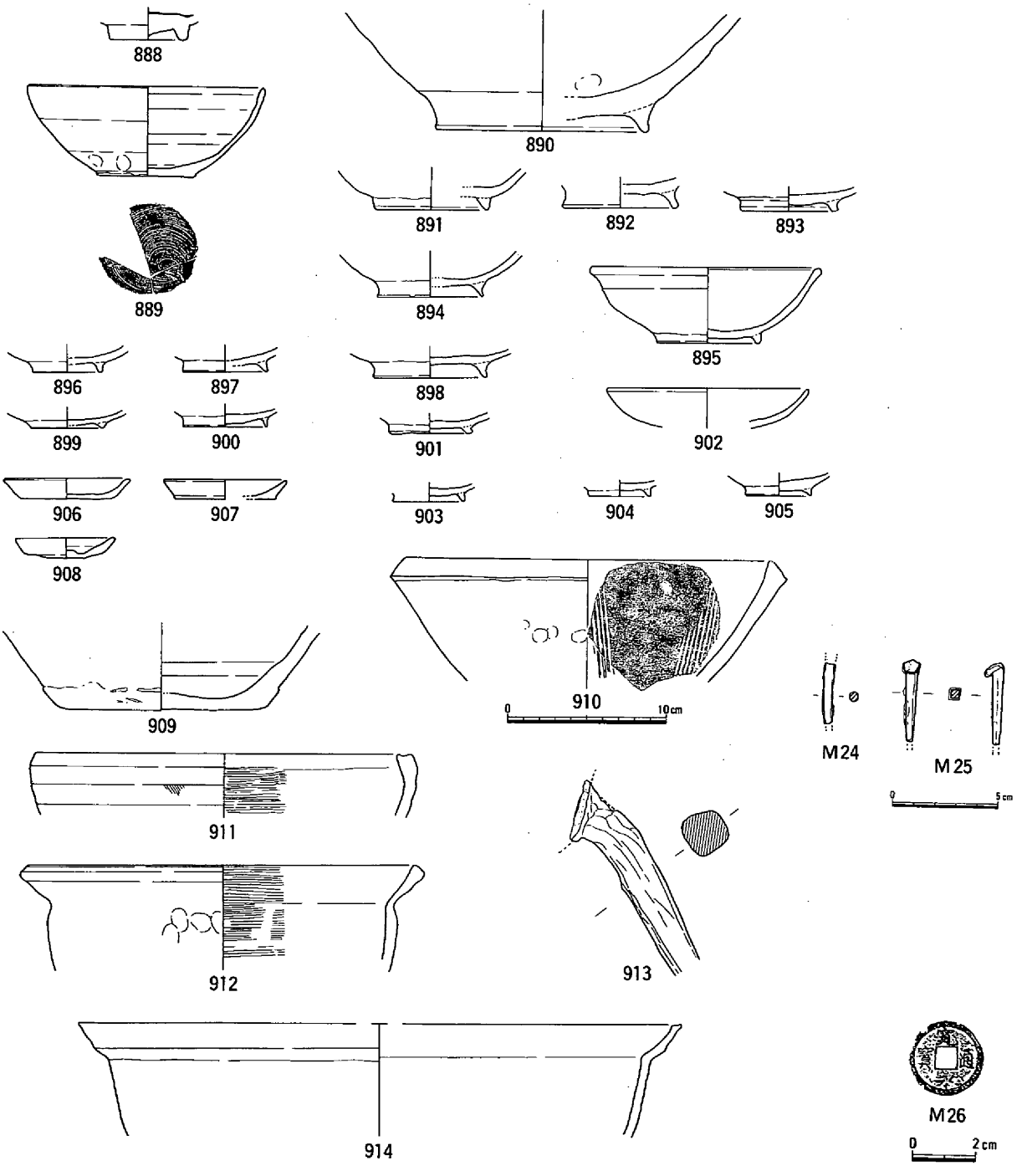
882は、丹塗りの土師器の杯である。口縁端部は丸く施めており、内側には凹線が廻る。丹



第271図　包含層ほか出土遺物（古代；1/4・1/3）

塗りは内側面を行っている。883は高めの高台部が付く。884・885は黒色土器で、内面が黒くＡ類である。887は軒丸瓦で、須恵質に焼成されている。888は、同安窯系の青磁碗である。891・892は、貼り付け高台をもつ土師器で古相の特徴を示している。893は瓦器で内外面にナデを施している。894～905は、いわゆる早島式土器の椀である。906～908は早島式土器の小皿で、底部にはヘラ切り痕が残る。器911は、瓦質の鉢で内面にはハケメを施している。

その他の遺物としては、Ｃ60～Ｃ67の土錘がある。Ｃ60～Ｃ66は小形の管状土錘で、Ｃ67はやや大型の有溝土錘である。M24・M25は、鉄製の釘で、M26の寛永通宝も１枚出土している。　（中野）



第272図　包含層ほか出土遺物（中世；1/4・1/3・1/2）

第4章　ま　　と　　め

第3章第2節から第4節にかけて発掘調査の概要報告を、主に事実報告を重点的に行なった。遺跡の名称は、便宜上それぞれ異なるが、本来は一体となった巨大な遺跡であった可能性がきわめて高いといえる。

発掘調査の対象となった東西約700m、約17,000㎡の範囲のほぼ全域で検出された弥生時代前期の田遺構は、国指定史跡「津島遺跡」（註1）で検出された水田遺構との関連性や連続性が十分に考えられる。今回の発掘調査では、大小の畦畔と明らかに水田に伴う溝の発見によって平面的な広がりに加えて給水や排水施設としての溝の重要な役割が確認された点は大きな成果である。北方横田遺跡溝5・北方中溝遺跡溝3などの肩は、それ自体が畦のように盛り上がっているのが確かめられるほど、保存状態も良好であった。出土遺物から、時期的には弥生時代前期中葉と比定されるが、津島遺跡では前葉の遺物も数多くみられるので、この地域での水田耕作はさらに遡る可能性が高い。（註2）北方中溝遺跡1区の溝1・2などがこの時期あるいは、それ以前の時期に比定される可能性がある。

また、北方に広がる津島岡大遺跡では、本遺跡と同様な水田遺構が検出されており、海抜3m前後と本遺跡の水田遺構より80～100cmほど高位に位置している。水田層の形成が縄文時代晩期に遡り得る点が明確である。（註3）

一方、北方横田遺跡2区の水田9から出土した磨製石包丁S2は、確実に水田に伴う可能性があり、古いタイプの形態とともに注目される。

水田遺構の発掘調査の課程で、この水田の下層の精査もさらに行なった地点もあるが、水平堆積層の存在が確認されたにとどまり、平面的な検出には至らなかった。これらの試行錯誤の一環で、付載の土壌分析なども発掘調査と平行して実施した。

以上弥生時代前期の水田遺構について周辺の遺跡と比較検討してみた。いずれにせよ、この時期のし拠点的な集落がどこに存在したのか、今後の精密な調査が待たれる。

つづく弥生時代中期においては、一部の水田遺構たとえば北方横田遺跡の水田などが中期中葉に比定される可能性をもつが、ほかに明確な遺構は存在しない。微高地に存在する遺跡の宿命、後世の遺構によって削平あるいは、水田遺構の場合多くは踏襲されてゆくので、画期となる時期の遺構のみ明瞭に存在する場合が多い。ただ、出土遺物には土器や石器などが少なからず見受けられるので、遺跡の南に位置する南方遺跡との関連も今後の研究課題の一つとなろう。（註4）

弥生時代後期においても、本遺跡では水田耕作を軸にした展開が確認されている。北方下沼遺跡では後期に埋没が始まった河道の一部も存在し、一方では北方中溝遺跡でも溝や土器溜りから多くの出土遺物も得られている。中でも線刻の動物が描かれた後期前葉の壺形土器418の出土は、注目に値する。

水田遺構としては後期後葉から終末期に比定される、洪水砂に覆われた明瞭な畦畔痕跡を残す水田遺構が特筆される。百間川遺跡群などでもほぼ同時期の水田遺構が検出されているので、この時期にあい前後する時期に、自然災害による短時間の埋没が推察される。本遺跡の洪水砂は百間川遺跡群のそれに比べると埋積の厚さがやや薄い。同時に埋没したとみられる溝にもやはり同じ洪水砂が埋積し

ている状況が確認されている。この時期の集落の存在もまた今後の課題といえるが、北方中溝遺跡の北側の「子供の森」の一帯では、後期の出土遺物も確認されているので、集落が存在する可能性がきわめて高い地点といえる。

古墳時代では、北方下沼遺跡において本遺跡ただ一ケ所、集落的な景観が確かめられた竪穴住居群がある。周辺からは鉄滓や鞴の羽口など、鍛冶に関わる遺物が目立っている。椀形滓の出土によってこの遺跡で鍛冶が行なわれたことは確実であろう。これらの時期が古墳時代前期である点は十分に注意する必要がある。

北方中溝遺跡では、明らかに須恵器を伴う時期の水田遺構が検出されているが、遺跡南側のＯＨＫ（岡山放送）の社屋建設に伴う発掘調査でも、この時期の水田遺構が検出されており、同一の水田遺構と考えられている。（註５）

古代から中世にかけては、北方下沼遺跡から北方横田遺跡、北方中溝遺跡におよぶ広い範囲に長大な溝が存在する。古い時期の遺構をことごとく破壊している“罪深い”大溝ではあるが、多量の出土遺物によって、間近に集落の存在を示唆することは確実であろう。また、条里の坪境となる可能性もまた十分に考えられる。

奈良時代から平安時代にさかのぼる出土遺物の中には、丹塗りの土師器のほかに緑釉陶器・灰釉陶器などのほかに多様な須恵器、黒色土器などが数多く認められ、山陽道に近い津島岡大遺跡における知見（註６）や津島江道遺跡（註７）の成果などとも比較検討すべき豊富な内容がある。緑釉陶器については、巻末に付載として分析結果も掲載したが、さまざまな産地からもたらされたことが明らかで、山陽道に近い点も考慮すべきであろう。（註８）

中世、主として鎌倉時代における出土遺物は、早島式土器をはじめ多様な土師器、瓦器、輸入陶磁器等によって占められている。ことに早島式土器は比較的古い段階のものから新しい段階のものまで器種の変遷が鮮明である。

これらの多様な土器は、周辺に存在する集落内での遺構出土遺物と対比検討すべきもので、大半が層位的な出土状態を示さないことから、編年的な作業については行なわなかった。ただ、良好な資料がまとまって存在することから、今後の周辺での知見や従来の成果と併せて重要な編年資料となるだろう。

この時期の遺構としては北方地蔵遺跡の粘土採掘坑群がもっとも注目すべき遺構である。検出数もさることながらこの穴の採掘に要した労力の目的は、一体何なのか。そこで、土器焼成に必要な粘土採掘という有力な推測のもと、同時期の土器との比較土壌分析、胎土分析も行なった。その興味深い結果は、巻末付載に掲載した。

以上、今回の発掘調査報告のおおまかなまとめを記してみた。足掛け10年もの長期間に亘る発掘調査の報告書をまとめるにあたって、まず初期の発掘調査の記憶や記録をどこまで正確に復原できるかということであった。初期の発掘調査担当者のうち、椿　真治さんは1994年に島根県教育委員会に転出されたが、今回もっとも重要な弥生時代前期の水田遺構について、短時間での原稿執筆に快諾して取り組んで頂いた。ほかの執筆者各位には、寸暇を割いての執筆を半ば強要し、不十分な情報の伝達にもかかわらず、鋭意取り組んで頂いた。深い敬意を表する次第である。

また紙幅の都合により、出土遺物の成果について事実報告のみにとどまったが、古代の土師器・黒色土器等について多大なご教示やご指導を得た、岡山大学埋蔵文化財調査室山本悦世さん、総社市教

育委員会武田恭彰さん、邑久町教育委員会馬場昌一さんのほか、わが古代吉備文化財センター同僚諸兄に深甚の謝意を表する次第である。　（岡田）

註

（註1）『岡山県津島遺跡調査概要―昭和44年』津島遺跡調査団　1969
『岡山県津島遺跡調査概要』岡山県教育委員会　1970

（註2）藤田憲司「中部瀬戸内の前期弥生土器の様相」『倉敷考古館研究集報』17　1982

（註3）山本悦世ほか「津島岡大遺跡3－3次調査」（岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊）岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1992

（註4）岡山市埋蔵文化財文化財調査の概要　1994（平成6）年度　岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化財文化財調査の概要　1995（平成7）年度　岡山市教育委員会

（註5）岡山市教育委員会埋蔵文化財担当調査員各位のご教示を得た。また、遺跡名の検討確定に際しても有益なご教示を得た。

（註6）山本悦世「備前地域における古代後半の土器様相」『津島岡大遺跡6－第6・7次調査－』～岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊～岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1995年

（註7）「津島江道遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告』18　岡山県教育委員会　1988

（註8）やはり山陽道沿いで発掘された「馬屋遺跡」でも緑釉陶器のほかに越窯の青磁も出土している。
「馬屋遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書』99　岡山県教育委員会　1995

付 載　自然科学的分析

付載１　北方地蔵遺跡出土土師質土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所
白　石　　純

付載２　北方下沼・北方横田・北方中溝・北方地蔵遺跡出土緑釉陶器の分析

岡山理科大学自然科学研究所
白　石　　純

付載３　北方下沼・北方中溝遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

付載４　北方横田遺跡２区・北方中溝遺跡１区土壌の自然科学分析調査（植物珪酸体）

パリノ・サーヴェイ株式会社

付載５　北方地蔵遺跡・北方中溝遺跡の自然科学分析（花粉分析ほか）

パリノ・サーヴェイ株式会社

付載１　北方地蔵遺跡出土土師質土器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所　白　石　　純

１．はじめに

同遺跡の調査区中央部から東の部分で中世の粘土採掘坑が検出された。そこで、この分析では粘土採掘坑の粘土と同遺跡出土の中世土師質土器との胎土分析での比較を実施し、この粘土採掘坑の粘土を使用して、土師質土器のどの器種が焼成されたか推測することを目的とした。

胎土分析の方法は、波長分散型蛍光Ｘ線分析装置により分析し、試料の調整・測定方法などは現在まで行っている方法である。また、分析試料は第１表に掲載した63点である。試料の詳細は、土師質土器椀20点、土師質土器小型品（小皿など）12点、土師質土器大型品（鍋など）18点、黒色土器10点、粘土採掘坑粘土３点である。土師質土器および粘土の時期は、10世紀～13世紀代とそれぞれに時期幅がある。

２．分析結果

分析の結果、Ca、K、Sr、Rbの元素に顕著な違いがみられることから、この元素を用いてＸ－Ｙ散布図を作成し検討した。

第１図のK－Ca散布図では、土師質土器小型品がCa量の多少により二つのグループに分かれた。一つは試料№４・６・７・８・９の土器、もう一つは１・２・３・５・10・11・12の土器である。そして、前者のグループの分布範囲に粘土採掘坑の粘土がすべて分布した。また、その他の土器では土師質土器椀がK量が２％以下、Ca量が１％以下の範囲に分布し（№15の土器を除き）、土師質土器大型品はK量が２％以上、Ca量が１％以下の範囲に分布する傾向があり椀と大型品（鍋など）では胎土に差がみられた。黒色土器はCa量が１％前後に集中し、1.5％位まで含まれているものがみられる。

第２図のSr－Rb散布図では、土師質土器小型品、大型品の土器が二つのグループに分かれた。

次に、器種を土師質土器椀に限定し比較を行った。比較試料とした遺跡は百間川当麻遺跡・岩間遺跡、窪木薬師遺跡、清水角遺跡、殿砂遺跡の各遺跡である[1]。第１・２図の散布図にこれら遺跡から出土した椀の分布領域を点線で示してある。これによると土師質土器椀、小型・大型土器などはほぼこの分布領域に含まれている。しかし、黒色土器は、Ca量がこの分布領域よりやや多い傾向がみられる。また、粘土採掘坑の粘土もCa量が多く椀の分布領域と異なっていることがわかった。

３．まとめ

以上のような検討結果から今回の分析について若干の考察を加えてまとめとしたい。

同遺跡出土の土師質土器を器種別に比較した結果、小型品（４，６，７，８，９）と黒色土器（５，６）にCa量がやや多いものがみられ、他のものと区別できる。また、粘土採掘坑の粘土もこの小型品の分布領域に入り土師質土器椀、小型品（１，２，３，５，10，11，12）、大型品、黒色土器（１，２，３，４，７，８，９，10）とは分布領域が異なった。この結果より、北方地蔵遺跡の粘土採掘壙の粘土が土師質土器の小型品と同じ分析結果となり、分析値からの検討では、この小型品の粘土として使用されていたことが十分考えられる。しかし、これはあくまでも胎土分析からの一側面的

な推測である。今回の分析では、まだ試料的に不足しており分析した土器自体の時期・器種に制約があり、これらの点を解決し再検討する必要がある。

この胎土分析を実施する機会を与えて頂きました岡田博氏をはじめ岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々には、記して感謝いたします。

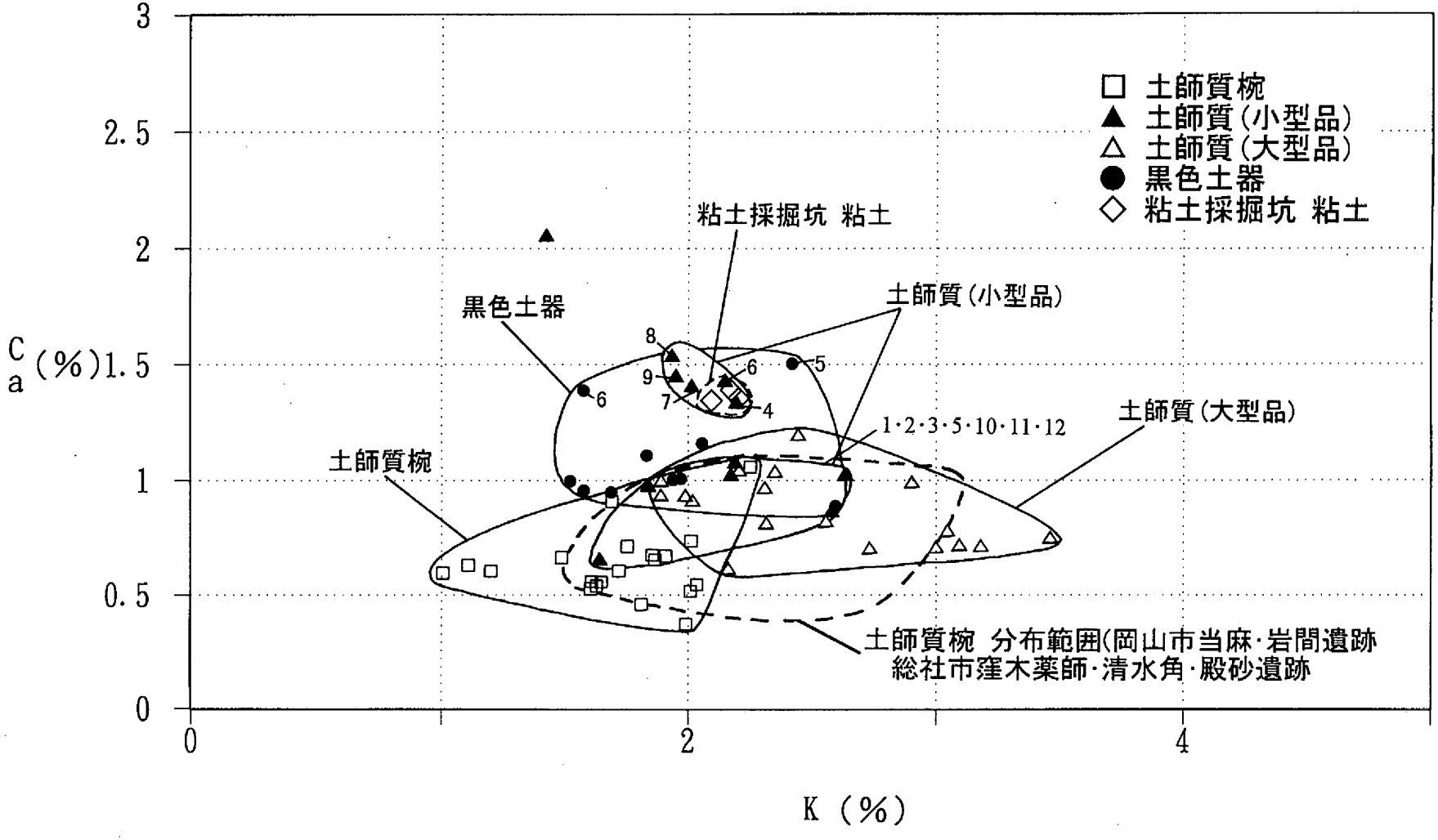
註

(1) 鈴木康之・白石　純「土師質土器椀の需給体制について―草戸千軒町遺跡および周辺遺跡出土資料の分析―」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅴ―中世瀬戸内の集落遺跡―』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編　1996年3月

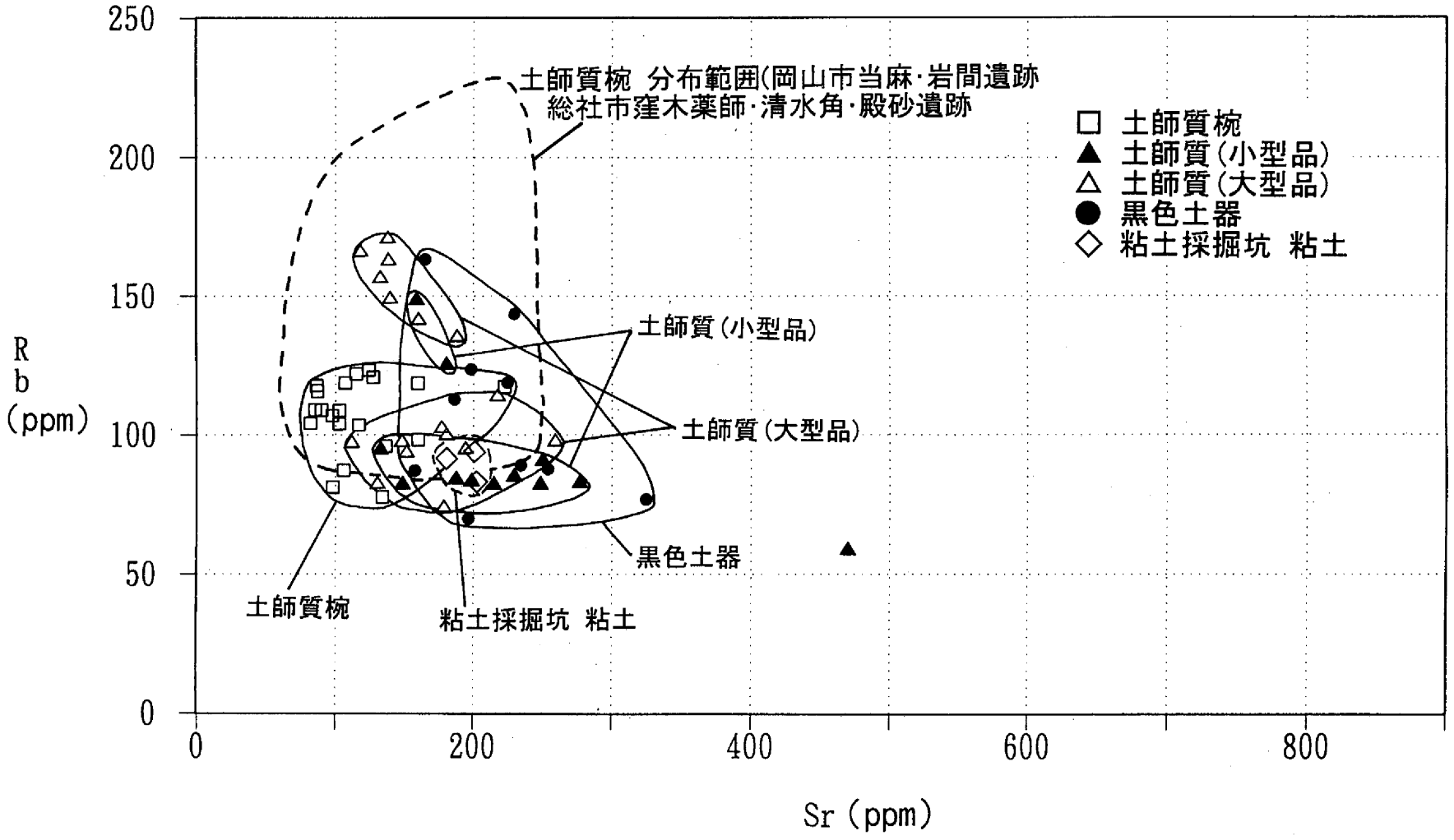
第1表　北方地蔵遺跡出土土師質土器分析値（%）

ただしSr, Rbはppm

試料番号	器種	出土地点	K	Fe	Si	Ti	Al	Ca	Sr	Rb
1	土師質椀	北方中溝遺跡2区	0.99	3.50	65.22	0.61	22.82	0.60	98	81
2	土師質椀	〃	1.59	3.21	66.14	0.84	23.67	0.56	88	109
3	土師質椀	〃	1.68	3.82	64.63	0.72	22.88	0.91	158	98
4	土師質椀	〃	1.74	3.50	68.76	0.82	20.93	0.71	116	103
5	土師質椀	〃	1.19	4.15	63.64	0.74	23.36	0.60	133	77
6	土師質椀	〃	2.02	2.75	71.96	1.04	20.35	0.54	106	119
7	土師質椀	〃	2.00	3.15	68.87	0.64	21.29	0.51	85	116
8	土師質椀	〃	1.80	3.18	66.08	0.85	23.32	0.46	86	117
9	土師質椀	〃	1.63	3.14	68.87	0.73	21.94	0.56	101	104
10	土師質椀	〃	1.10	3.48	65.68	0.67	22.94	0.64	106	87
11	土師質椀	〃	2.00	3.00	66.27	0.71	22.56	0.74	122	123
12	土師質椀	〃	1.85	3.54	59.96	0.84	24.38	0.65	113	122
13	土師質椀	〃	1.84	3.09	65.76	0.86	22.03	0.67	157	119
14	土師質椀	〃	1.98	2.24	77.50	0.93	18.46	0.37	81	104
15	土師質椀	〃	2.24	2.40	62.57	0.69	20.60	1.06	221	117
16	土師質椀	〃	1.90	2.33	68.86	0.73	22.43	0.67	127	120
17	土師質椀	〃	1.71	3.15	70.58	0.77	20.84	0.60	101	108
18	土師質椀	〃	1.62	3.35	64.49	0.86	23.29	0.54	84	109
19	土師質椀	〃	1.59	3.27	64.75	0.87	22.91	0.52	96	107
20	土師質椀	〃	1.47	2.77	63.94	0.77	23.51	0.66	135	96
1	土師質小型品	〃	1.63	2.78	64.23	0.88	19.08	0.65	132	95
2	土師質小型品	〃	2.63	3.98	64.85	0.71	16.94	1.02	179	125
3	土師質小型品	〃	2.58	3.73	60.88	0.66	19.05	0.86	157	149
4	土師質小型品	〃	2.18	4.98	57.30	1.01	18.03	1.34	248	91
5	土師質小型品	〃	2.16	8.85	57.16	1.14	19.57	1.02	145	83
6	土師質小型品	〃	2.14	7.20	58.21	1.05	18.59	1.42	227	86
7	土師質小型品	〃	2.00	7.44	55.42	1.12	18.35	1.40	246	82
8	土師質小型品	〃	1.92	8.26	53.16	1.07	18.36	1.53	277	83
9	土師質小型品	〃	1.93	9.23	53.82	1.07	16.96	1.44	213	82
10	土師質小型品	〃	1.41	4.63	63.55	0.77	18.85	2.06	468	59
11	土師質小型品	〃	1.82	7.33	54.17	0.97	18.54	0.97	186	84
12	土師質小型品	〃	2.17	7.87	58.93	1.06	17.69	1.08	196	84
1	土師質大型品	〃	2.99	4.78	63.58	0.62	16.63	0.70	130	156
2	土師質大型品	〃	1.87	6.16	60.78	0.87	16.08	1.00	177	74
3	土師質大型品	〃	2.00	8.28	56.23	1.18	16.52	0.90	129	82
4	土師質大型品	〃	3.04	3.63	63.73	0.66	17.47	0.77	131	157
5	土師質大型品	〃	2.72	3.55	64.38	0.63	16.93	0.70	136	163
6	土師質大型品	〃	2.30	4.14	70.01	0.85	14.41	0.81	146	97
7	土師質大型品	〃	2.55	4.06	63.81	0.72	18.47	0.81	158	142
8	土師質大型品	〃	2.89	5.36	58.06	0.86	18.69	0.99	186	135
9	土師質大型品	〃	1.97	3.36	64.37	0.69	17.83	0.93	192	95
10	土師質大型品	〃	2.30	5.03	59.42	0.73	18.43	0.96	174	102
11	土師質大型品	〃	2.19	5.45	62.55	0.57	17.02	1.04	178	100
12	土師質大型品	〃	2.15	4.00	70.34	0.85	17.59	0.60	110	97
13	土師質大型品	〃	3.09	4.67	61.53	0.72	17.80	0.71	137	149
14	土師質大型品	〃	1.87	6.70	61.03	0.80	16.65	0.93	150	94
15	土師質大型品	〃	3.18	3.22	66.88	0.66	17.69	0.71	136	171
16	土師質大型品	〃	2.33	4.21	59.82	0.79	19.72	1.03	216	114
17	土師質大型品	〃	3.46	3.99	64.46	0.59	17.29	0.74	116	166
18	土師質大型品	〃	2.43	4.09	68.02	0.57	15.77	1.19	257	98
1	黒色土器	〃	2.58	4.27	59.54	0.75	19.08	0.89	162	164
2	黒色土器	〃	2.04	4.12	58.24	0.74	19.57	1.17	221	118
3	黒色土器	〃	1.67	4.75	66.75	0.90	15.83	0.96	157	88
4	黒色土器	〃	1.56	3.55	67.74	0.96	17.24	0.97	194	71
5	黒色土器	〃	2.41	5.46	55.30	0.75	21.61	1.51	227	145
6	黒色土器	〃	1.56	4.17	62.16	0.94	17.48	1.40	323	77
7	黒色土器	〃	1.51	3.41	66.03	0.80	17.33	1.01	232	90
8	黒色土器	〃	1.96	4.67	56.33	0.84	20.46	1.02	197	125
9	黒色土器	〃	1.93	4.82	56.25	0.91	20.63	1.01	184	114
10	黒色土器	〃	1.82	4.23	60.71	1.05	19.70	1.11	251	89
試料1	淡灰色粘質土	北方地蔵遺跡3区	2.16	7.68	54.49	1.05	17.87	1.39	199	83
試料2	灰褐色粘質土	〃	2.19	6.69	55.84	1.02	18.25	1.35	198	94
試料3	褐灰色粘質土	〃	2.08	8.92	53.80	1.04	17.14	1.34	179	91



第１図　北方地蔵遺跡出土土師質土器と粘土（粘土採掘坑出土）の比較



第２図　北方地蔵遺跡出土土師質土器と粘土（粘土採掘坑出土）の比較

付載２　北方下沼・北方横田・北方中溝・北方地蔵遺跡出土緑釉陶器の分析

岡山理科大学自然科学研究所　白　石　　純

１．はじめに

この分析では、同遺跡出土の緑釉陶器の表面に付着している釉を蛍光Ｘ線分析法により非破壊で分析し、各生産地（京都産・近江産・防長産）で差があるかどうか検討した。

分析方法は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（セイコー電子工業株式会社卓上蛍光Ｘ線分析計ＳＥＡ2010Ｌ）を用いた。また、分析に供した試料は表１に掲載した33点の緑釉陶器で陶器の表面にかかっている釉を非破壊で分析した。測定方法は、測定部分をエチルアルコールで洗浄し、測定面（測定面積は直径10㎜）とした(1)。

２．分析結果

分析の結果、一部の試料を除いてほぼ全てからPb（鉛）、Fe（鉄）、Si（珪素）、Al（アルミニウム）、Ti（チタン）、K（カリウム）、Cu（銅）、Ca（カルシウム）の元素が検出された。そして、形態・技法的・肉眼観察で京都産、近江産、防長産に分類されている陶器を分析値から比較すると、主にPb・Cu・Si・Alなどの元素量に差異がみられた。

そこで、これら元素比（Pb／Cu, Si／Al）を用いて第１図のようにPb／Cu－Si／AlのＸＹ散布図を作成し各生産地のまとまりについて検討した。この散布図によると、Pb／Cu比が40前後を境としてそれより大きいところに京都産が、また小さいところに近江産が分布していることがわかる。そして、防長産は両方の分布域に重なるように分布していることがわかった。また、防長産のうち試料番号28，29は、表面の釉の付着が少なく試料測定面の定量性が悪いことが考えられることから、京都産の領域に分布したのかもしれない。灰釉陶器30，31，33は、Pb・Cuの元素が全く検出されなかった。

以上のように、表１に示した33点の緑釉陶器の釉を分析したところPb量の多少により京都産と近江産にわかれることが推測される。京都産の緑釉陶器は、Pb量が平均20％以下と含有量が低く、近江産のそれは、平均50％以上と高い。また、各産地の陶器を肉眼観察による色調差からみると、京都産は、灰オリーブ色、近江産は暗緑灰色、防長産は暗緑色の色調となっている。この緑釉の色調差は、Pb・Cuの含有量が関係していることが考えられる。

このように、緑釉陶器の釉の分析からPb量により京都産と近江産が、明らかに識別されたが防長産は前者の両方の分布領域に分布し識別できない結果となった。また、今回は非破壊という限定された測定法のため試料測定面が均一でなく、分析値にある程度ばらつきがあることが予測されるし、試料点数も量的に少ないなど問題がある。今後これらの問題点について改めて再考する必要がある。

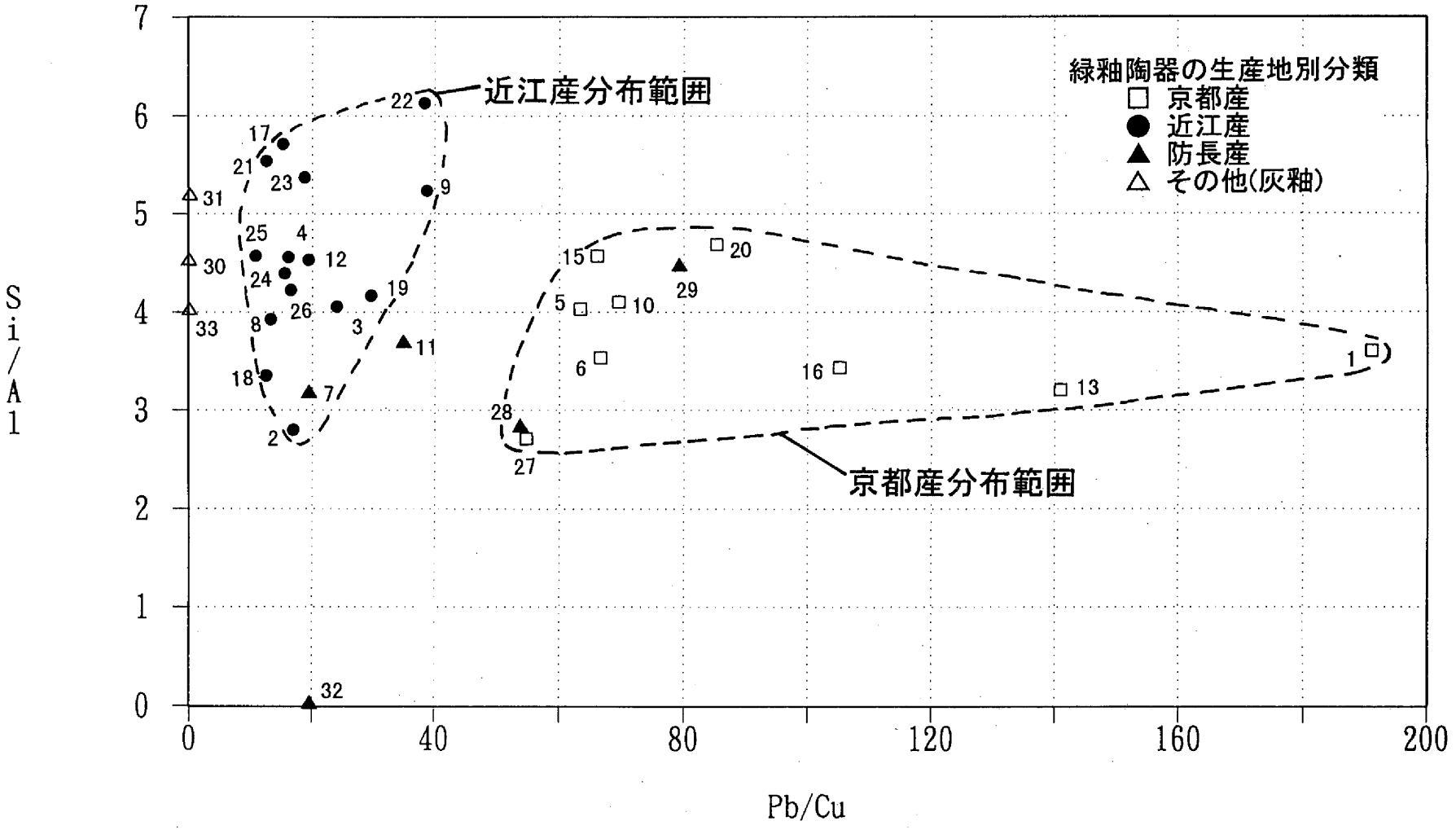
この分析を実施する機会を与えて頂きました岡田博氏をはじめ岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々には、記して感謝いたします。

註

(1)　定量は、ファンダメンタル・パラメーター法（理論計算法）により算出した。

表1　出土緑釉陶器の分析値（%）

試料番号	実測図番号	出土地区	出土遺構・層位	器種	釉調	素地	特徴	Pb	Fe	Si	Al	Ti	K	Cu	Ca	生産地
1		北方下沼遺跡	溝22	皿	濃緑	須恵	小片	15.29	10.02	49.75	13.83	2.01	3.65	0.08	0.27	京都産９C後半
2		北方下沼遺跡	溝22	椀	濃緑	土師	小片	49.45	5.37	23.95	8.60	1.05	1.51	2.92	0.15	近江産
3		北方下沼遺跡	溝22	椀	濃緑	土師	小片	68.04	2.01	15.40	3.82	-	-	2.85	0.37	近江産
4		北方下沼遺跡	溝22	椀	濃緑	土師	小片	69.42	2.18	17.26	3.80	0.30	0.66	4.32	0.32	近江産
5	180	北方下沼遺跡	溝24	皿	濃緑	須恵	小片	17.06	7.79	52.53	13.07	1.54	3.25	0.27	0.36	京都産９C後半
6		北方横田遺跡１区	中世水田	皿	淡灰緑	須恵	小片	15.95	7.38	53.55	15.22	1.42	3.10	0.24	0.62	京都産９C後半10C
7		北方横田遺跡２区	溝30	椀	灰緑	瓦質	小片（被熱）	62.72	3.46	19.06	6.03	0.52	0.92	3.26	0.76	防長産の可能性大
8	341	北方横田遺跡２区	溝30	椀	濃緑	土師	内面圏線、段あり、２点	62.97	2.00	17.10	4.38	0.27	0.17	4.74	0.15	近江産10C後半
9		北方横田遺跡２区	溝30	椀	濃緑	土師	三叉とちん痕跡	78.48	2.12	11.99	2.30	-	-	2.04	0.15	近江産
10	340	北方横田遺跡２区	溝30	皿	濃緑	須恵		17.35	7.58	51.40	12.57	1.49	2.82	0.25	0.38	京都産
11	342	北方横田遺跡２区	溝30	椀	濃緑	須恵	高台部	74.16	0.83	12.05	3.29	0.24	-	2.14	-	防長産？９C代
12	708	北方中溝遺跡１区	溝35	皿	濃緑	土師	段皿、圏線	73.85	1.97	13.37	2.96	0.23	-	3.84	0.92	近江産10C後半
13	715	北方中溝遺跡１区	淡灰黄色粘質土層	皿	灰緑	須恵	口縁部内反で終わる	8.45	9.90	54.15	16.90	2.07	5.97	0.06	0.36	京都産９C中、後半
14		北方中溝遺跡１区	溝35	椀	濃緑	須恵	高台部ケズリだし	53.05	5.81	27.39	7.72	0.65	1.26	0.09	0.39	京都産
15		北方中溝遺跡１区	溝35	皿	濃灰緑	須恵	口縁部	23.06	6.71	50.01	10.99	1.22	2.44	0.35	0.40	京都産
16		北方中溝遺跡１区	溝35	皿	黒変	須恵	高台部（被熱）	12.62	7.59	48.43	14.16	1.05	12.91	0.12	-	京都産
17		北方中溝遺跡２区	溝35	椀	濃緑	土師	高台部	72.58	2.48	14.43	2.53	-	-	4.85	-	近江産10C末～11C
18		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	土師	小片	61.76	2.37	17.54	5.23	0.29	0.33	5.04	0.25	近江産
19		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	土師	小片	68.44	1.87	15.01	3.63	0.24	-	2.33	0.28	近江産（９C後半に多いタイプ）
20		北方中溝遺跡２区	大溝下層東（砂利層）	皿	灰緑	須恵	口縁部	17.89	6.70	54.37	11.64	1.34	3.10	0.21	0.71	京都産
21		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	小片	68.07	2.41	17.04	3.08	0.29	-	5.45	0.34	近江産
22		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	土師	口縁部	57.31	2.86	25.69	4.20	0.35	-	1.51	1.27	近江産か防長産
23		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	口縁部光沢	54.61	2.87	25.60	4.78	0.38	1.21	2.92	0.46	近江産（典型的）10C後半
24		北方中溝遺跡２区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	高台部	67.31	1.54	14.93	3.41	-	0.00	4.35	0.12	近江産
25		北方中溝遺跡１区	溝35下層	椀	濃緑	土師	小片	68.55	1.86	15.56	3.41	0.27	0.03	6.35	0.13	近江産
26		北方中溝遺跡１区	溝35下層	椀	淡緑	土師	小片	63.37	2.60	15.90	3.79	0.22	0.34	3.95	0.29	近江産
27	878	北方地蔵遺跡２区	表面採集	壺	黄緑	土師	底部完存。糸切底。	49.02	2.33	28.94	10.73	0.42	1.15	0.90	0.17	京都産か防長産か不明
28		北方地蔵遺跡２区	表面採集	椀	黄緑	土師	小片	51.83	3.47	25.17	8.95	0.56	1.59	0.97	0.77	防長産、９C代
29	879	北方地蔵遺跡３区	側溝	椀	黄緑	土師	高台部完存	30.82	2.47	46.21	10.41	0.52	1.05	0.39	3.50	防長産９C～10C
29		北方地蔵遺跡３区	中世土壙	椀	黄緑	土師	↑接合									防長産９C～10C
30		北方横田遺跡２区	溝30	皿	灰	須恵	灰釉	-	3.23	51.69	11.39	1.11	3.27	-	27.66	参考資料（灰釉陶器）
31		北方中溝遺跡１区	溝35下層	皿	灰	須恵	灰釉	-	3.40	61.71	11.81	0.23	7.41	-	13.61	参考資料（灰釉陶器）
32		北方横田遺跡２区	溝30	壺	濃緑	須恵		80.20	2.67	9.99	-	-	-	4.08	0.36	防長産
33		北方中溝遺跡１区	溝35下層	椀	濃緑	須恵		-	6.60	59.38	14.73	0.94	12.39	-	2.49	



第１図　北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡
出土緑釉陶器の表面（釉）分析による各生産地の比較

付載３　北方下沼・北方中溝遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

中溝遺跡および津島遺跡周辺地域では、百間川原尾島遺跡・岡山大学構内遺跡・百間川遺跡群等で出土した縄文時代から近世までの木製品の樹種が明らかにされている（能城，1992，1995；パリノ・サーヴェイ株式会社，1995；未公表資料）。これらの調査では、縄文時代や弥生時代ではコナラ亜属などの落葉広葉樹が多いが、平安時代にはマツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）等の針葉樹やアカガシ亜属などの常緑広葉樹が多い。中世以降の木製品等については、百間川遺跡群や津寺遺跡で報告例があるが、資料数は少ない。

本報告では、中溝遺跡および津島遺跡から出土した中世の木製品の樹種を明らかにし、当該期の用材選択について考察する。

１．試料

試料は、北方中溝遺跡から出土した木製品５点（Ｗ－５，６，７，８，９）と北方下沼遺跡から出土した木製品４点（Ｗ－１，２，３，４）である。各試料の詳細については、樹種同定結果と共に表１に記した。

２．方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

３．結果

９点の木製品は、針葉樹３種類（スギ・ヒノキ属・カヤ）と広葉樹４種類（シキミ・クスノキ科・トチノキ・カキノキ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

- スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、接線方向に配列する。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はスギ型で２～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

- ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）　ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、接線方向に配列する。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で１～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

- カヤ（*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。

表1　木製品の樹種同定結果

番号	名称	出土位置	遺構・土層名	法量（mm）		木取法	手法	時期	樹種
				長さ	幅				
W－1	下駄	北方下沼遺跡	溝24	170	－	板目	面取り	中世	スギ
W－2	卒塔婆	北方下沼遺跡	溝24	397	－	板目	面取り	中世？	カヤ
W－3	杭	北方下沼遺跡	溝24	511	－	芯持ち	挽物	中世	クスノキ科
W－4	加工木片	北方下沼遺跡	溝24	507	－	板目	板物	中世	カキノキ属
W－5	椀(漆器)	北方中溝遺跡1区	溝35	－	100	板目	板物	中世	トチノキ
W－6	有頭棒	北方中溝遺跡2区	溝35	160	－	芯持ち	丸物	中世？	シキミ
W－7	木簡？	北方中溝遺跡1区	溝35	89	－	板目	板物	中世末～近世？	ヒノキ属
W－8	木簡	北方中溝遺跡1区	溝35	189	－	板目	板物	中世末～近世？	カヤ
W－9	加工木片	北方中溝遺跡2区	溝35	618	－	板目	板物	中世	スギ

放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。仮道管内壁には対をなしたらせん肥厚が認められる。

• シキミ（*Illicium anisatum* L.）　　シキミ科シキミ属

散孔材で管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または2～4個が複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型、1～2細胞幅、1～20細胞高。

• クスノキ科（Lauraceae sp.）

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独まれに2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

以上の特徴から、クスノキ属およびタブノキ属を除くクスノキ科のいずれかと考えられる。

• トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　　トチノキ科トチノキ属

散孔材で管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3（5）個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

• カキノキ属（Diospyros sp.）　　カキノキ科

散孔材で管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2～4個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で対列状に配列する。放射組織は異性Ⅲ型、1～2（3）細胞幅、10～20細胞高で階層状に配列する。柔組織は周囲状および接線状。年輪界は不明瞭。

4．考察

今回分析対象とされた木製品は、卒塔婆・木簡・漆器椀・杭・下駄と用途不明の有頭棒・加工木片である。卒塔婆はカヤであった。民俗事例では、卒塔婆にはモミをよく用いたという（平井，1980）。遺跡出土の卒塔婆について種類を明らかにした例は少なく、現時点では用材選択の傾向などは不明である。カヤは、木目が細かく木理が通直で板状の加工が施しやすい木材を使用している点でモミ属と共通点がある。このことから、樹種の違いはあるが、卒塔婆には板状の加工が容易な木材を利用していたことを示している。

木簡は、卒塔婆と同様に板状の加工を施す製品である。木簡の樹種は、これまで行われた調査ではヒノキ属が最も多い（島地・伊東，1988；伊東，1991）。また、仙台市仙台城三ノ丸跡では東北地方に多く生育するヒノキアスナロ、長野県屋代遺跡群ではモミ属など、それぞれの地方で入手が容易な木材を利用していると考えられる例も見られる（光谷，1985；（財）長野県埋蔵文化財センター，1996）。今回の試料では、試料番号W－7は木簡の材として最も普通に利用されていたヒノキ属を使用しており、これまでの調査結果とも調和的である。一方試料番号W－8は、これまでの調査結果で木簡にはほとんど確認されていないカヤである。カヤは、本地域で入手可能であったと考えられることから、仙台城三ノ丸跡や屋代遺跡群の例のように地域の植生を反映した用材と考えられる。

杭は、これまで各地で樹種同定が行われているが、同時代でも隣接する遺跡や遺構で種類が異なっていたり、同一地域で時代によって種類が異なるなど、使用されている種類に統一性は見られない（島地・伊東，1988）。このような結果から、杭には遺跡周辺で入手が容易な木材が主として利用され、時には廃材の転用なども行われたことが推定される。今回の杭に確認されたクスノキ科は、これまで周辺地域で行われてきた調査結果から、中世には遺跡周辺で入手可能な木材であったことが推定される。

本地域の漆器椀については、津寺遺跡で中世の漆椀にトチノキ、中世～近世の漆皿および漆椀にカツラとブナ属、兼基遺跡で中世の漆椀にケヤキなどの例が知られている（未公表資料）。今回のトチノキは、これまでの調査でも確認されており、当時よく利用されていたことが推定される。本地域で漆椀や皿に確認されている種類は、これまで各地で行われた調査でも多数確認されている。このことは、民俗事例（橋本，1979）とも調和的であり、これらの種類が椀などの木地として古くから一般的であったことがうかがえる。

橋本（1979）は、ろくろ用材の樹種を、木材組織や木材の性質などから2系4種に分類した。ブナ属・トチノキ・カツラは、散孔材のブナ・トチノキ系に含まれ、乾燥が難しく歪みやすいが、大量に入手できるために使用量は多かったとされる。一方ケヤキは、環孔材のケヤキ系に含まれ、靱性が高く薄手物に適するとされる。漆椀には、下地と漆塗りの特徴から上品・下品のランクがある（北野，1990）。近世の遺跡からは多くの漆器が出土しており、その漆断面の観察を行った例も多い。その結果を見ると、下品と判断される漆器では、使用されている種類は多種多様である。一方、上品と判断される資料は出土例が少ないが、樹種はほとんどがケヤキである（北野，1989，1992）。これらの結果を考慮すると、今回出土した漆椀は、大量に使用されていた下品に相当する可能性がある。しかし、中世の漆椀に関する資料は少なく、近世に見られる木地と漆塗りの関係が中世においても一般的であったか否かは、現時点では不明である。今回同定した試料については、漆塗りの部分が残存している。今後この試料を用いた漆断面の観察も行い、樹種同定結果と合わせて総合的に検討したい。

下駄はスギであった。本遺跡周辺では、兼基遺跡で中世の下駄にヒノキ属が確認されている（未公表資料）。広島県福山市草戸千軒町遺跡では、中世の下駄にスギ・ヒノキ・ホオノキが確認されている（山内，1976）。この結果は、本地域の結果とも一致しており、これらの種類が下駄の材として一般的であったことがうかがえる。下駄の樹種については、近世で多くの資料が得られており、下駄の使用者の性別・年齢・階級や下駄の使用目的（日常用・礼装用）等によって使用される種類が異なる可能性が指摘されている（田中，1990；高橋，1995）。近世の下駄では、一般に長方形が男性用、楕円形が女性用といわれる。しかし、長方形の下駄が出現するのは草戸千軒町遺跡の15世紀後半であり、中

世では性別の差は明確ではなかったとも指摘されている（市田，1990）。しかし、中世の下駄について樹種を明らかにした例は少なく、用材選択の実態については不明である。今後さらに資料を蓄積した上で検討したい。

〈引用文献〉

橋本鉄男（1979）ものと人間の文化史31　ろくろ．444p.，法政大学出版局．

平井信二（1980）木の事典　第5巻．かなえ書房．

市田京子（1992）江戸時代の下駄．江戸遺跡研究会第5回大会　考古学と江戸文化　発表要旨，p.237－255．

伊東隆夫（1991）日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ．木材研究・資料，　p.26，p.91－189．

北野信彦（1992）壬生寺境内遺跡出土の漆器資料．元興寺文化財研究　（財）元興寺文化財研究所通信，p.40，p.2－11．

北野信彦（1990）近世出土漆器に関する一調査法．考古学ジャーナル，322，p.24－28．

北野信彦（1989）中・近世寺社什器としての朱漆器　―播州姫路書写山円教寺の什器資料を例として―．日本民具学会編「信仰と民具　―日本民具学会論集3―」，p.135－154，雄山閣．

光谷拓実（1985）樹種同定結果について．仙台市文化財調査報告書第76集「仙台城三ノ丸跡　発掘調査報告書」，p.197－199，仙台市教育委員会．

能城修一（1992）岡山大学津島地区から出土した木材化石の樹種．「岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊」，p.169－187．

能城修一（1995）百間川原尾島遺跡から出土した弥生時代前期橋脚列の柱の樹種．岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97「百間川原尾島遺跡4　旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査X」，p.266－274，岡山県文化財保護協会．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1995）百間川原尾島遺跡出土の木器樹種同定、種子同定．岡山県埋蔵文化財発掘調査報告97「百間川原尾島遺跡4　旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査X」，p.290－301，岡山県文化財保護協会．

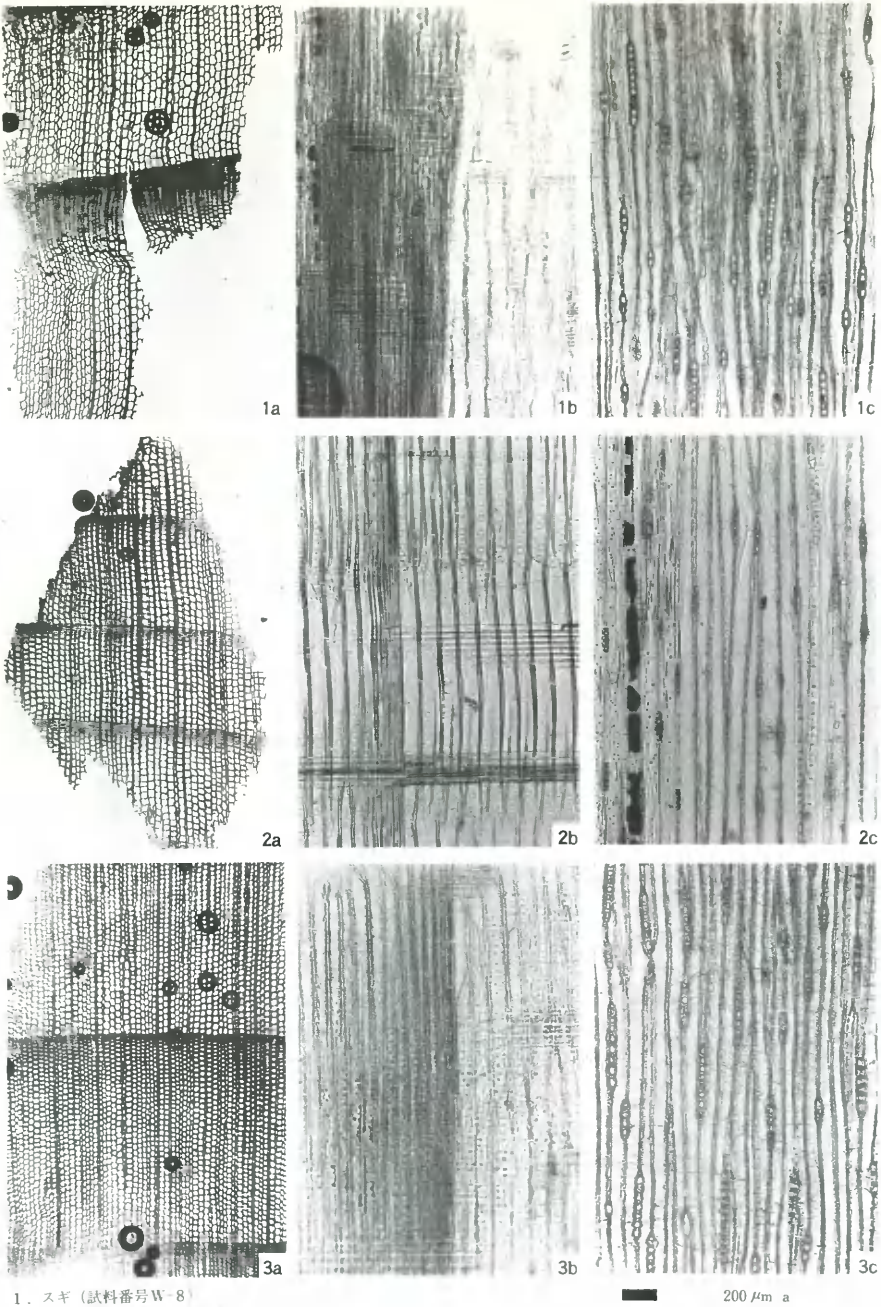
島木　謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣．

高橋　敦（1995）木製品の樹種について．「飯田町遺跡」，p.419－420，飯田町遺跡調査会．

田中真貴（1990）木製品．「白鴎2」，p.134－144，都立学校遺跡調査会．

山内　文（1976）植物性出土品、木材．「草戸千軒町遺跡　―第11～14次発掘調査概要―」，p.47－49，広島県教育委員会．

（財）長野県埋蔵文化財センター（1996）　（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書21　「長野県屋代遺跡群出土木簡　上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書23　更埴市内その2」，221p.

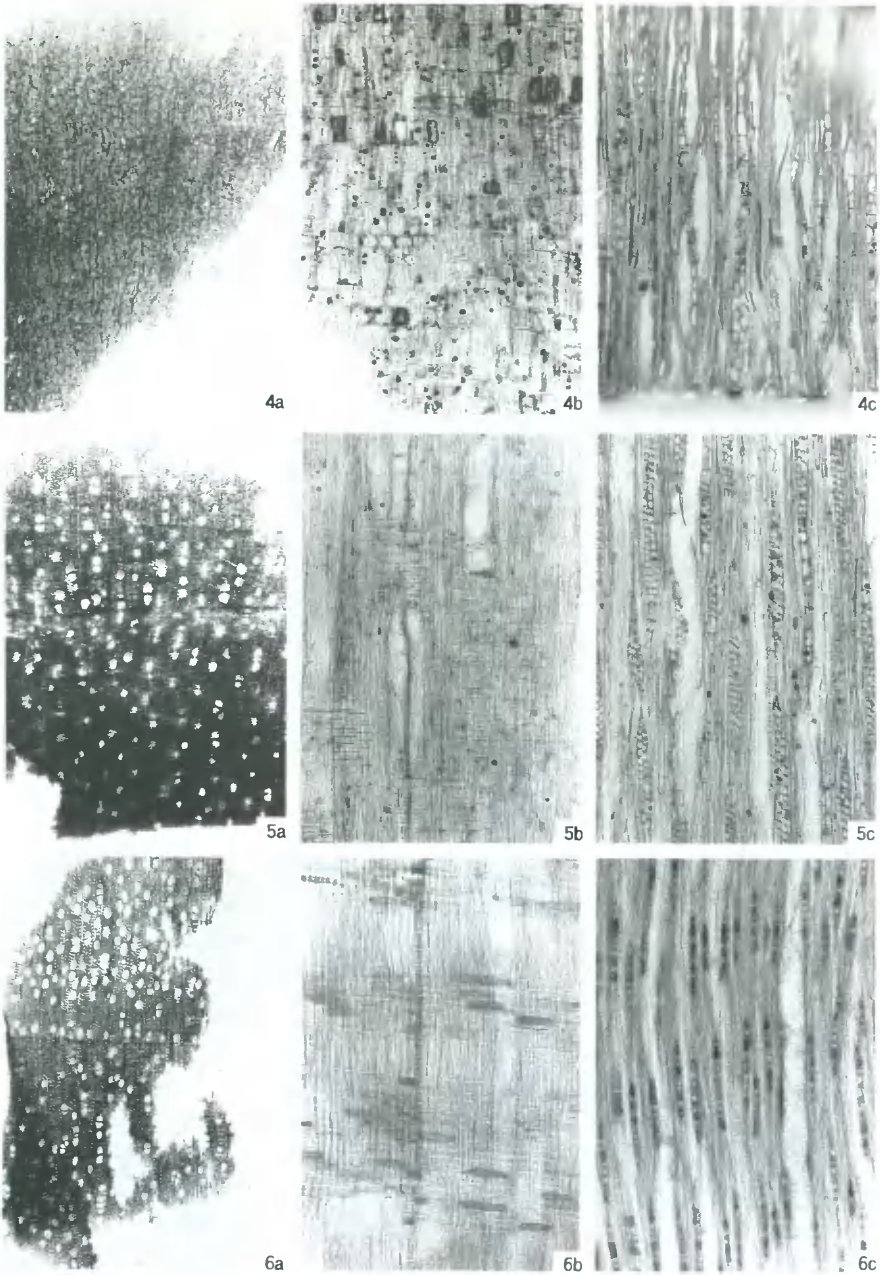


1．スギ（試料番号W-8）
2．ヒノキ属（試料番号W-4）
3．カヤ（試料番号W-2）
a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm a
200 μm b, c

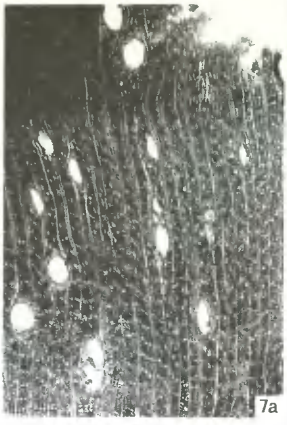
木材（1）

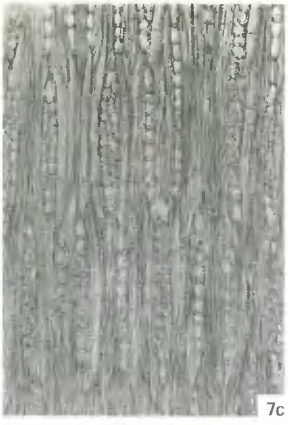
図版２



4．シキミ（試料番号W-1）
5．クスノキ科（試料番号W-6）
6．トチノキ（試料番号W-5）
a：木口，b：柾目，c：板目

木材（２）





7．カキノキ属（試料番号W-7）
a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm a
200 μm b, c

木材（３）

付載４　北方横田遺跡２区・北方中溝遺跡１区土壌の自然科学分析調査（植物珪酸体）

パリノ・サーヴェイ株式会社

経緯・立地

今回、岡山県古代吉備文化財センターにより、北方横田遺跡２区と北方中溝遺跡１区の発掘調査が行われ、各調査区の土層断面から土壌試料が採取された。そこで、各遺跡における過去の稲作の消長と様態を知る目的で、植物珪酸体分析を実施することにした。

北方横田遺跡２区と北方中溝遺跡１区が立地する岡山市から倉敷市にかけて拡がる岡山平野の旭川西岸は、旭川が分流し、土砂によって形成された北東～南西方向に細長い自然堤防状の高まり（微高地）やそれに挟まれた低地・沼地など複雑な地形上に位置する。今回、分析調査を行う両遺跡の堆積物は、旭川が幾度となく氾濫し、上流より運搬された堆積物が堆積したと考えられる。また、周辺では、南方・上伊福・津島江道など数多くの集落遺跡や水田跡が分布している。

第Ⅰ章．北方横田遺跡２区

はじめに

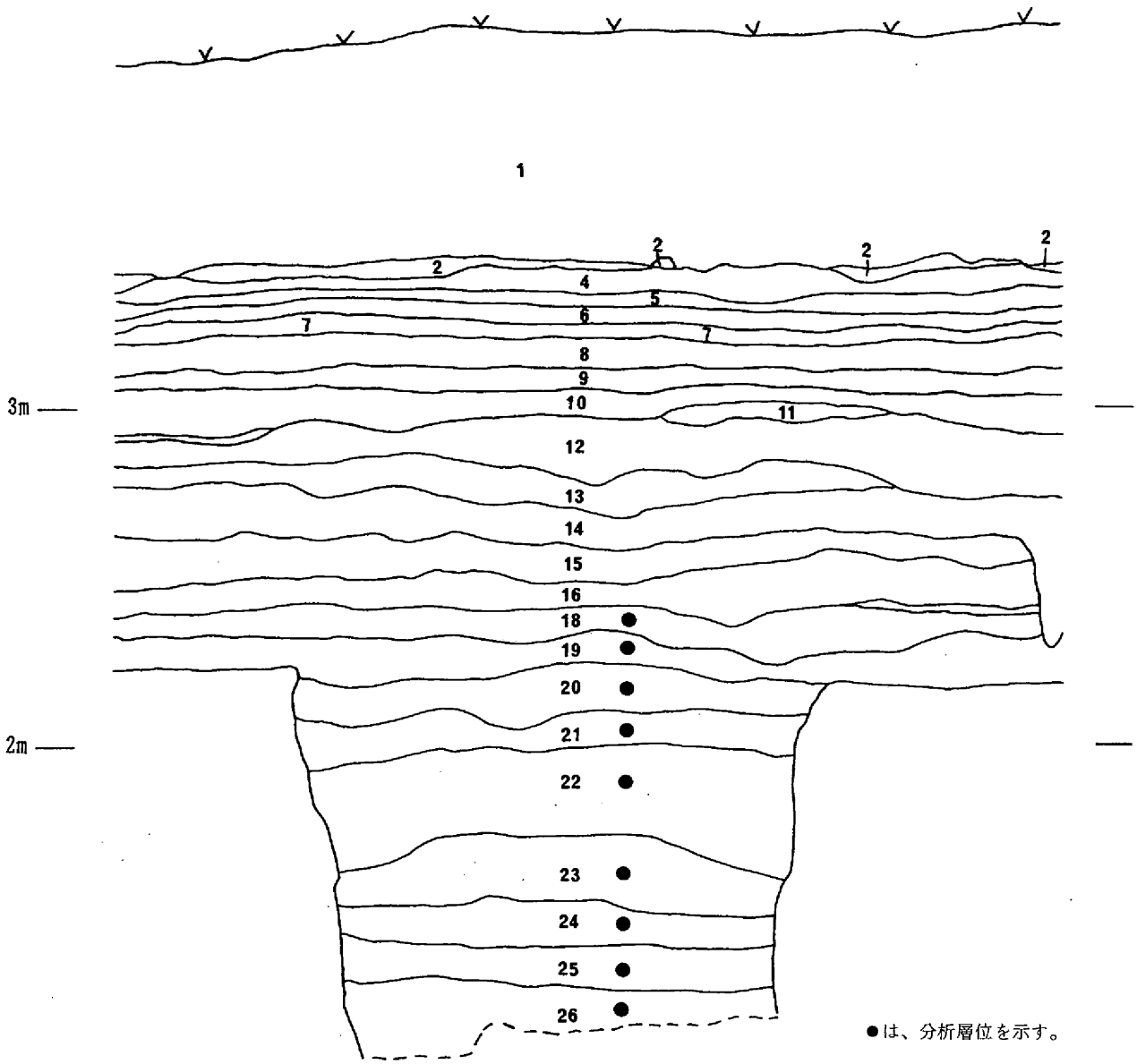
津島遺跡は、1960年代から発掘調査が行われ、国指定史跡とされている。これまでの発掘調査で縄文時代晩期末・弥生時代前期初頭・同時代中期の遺物包含層のほか、弥生時代後期の竪穴住居や穴倉などが確認された。また、弥生時代前期前半の水田跡、同時代の杭列や水路・後期の水路・乾田跡・住居跡・穴倉・祭祀遺構も確認された。とくに弥生時代前期以降の水田跡が確認され、稲作の様態などを知るために土壌断面の形態観察・花粉分析・種実遺体同定など自然科学分析調査が応用されていることは著名である。本調査区は、国指定史跡とされている部分の東に位置し、今回の発掘調査により、縄文時代晩期末～弥生時代中期の遺物包含層などが検証されており、とくに弥生時代前期の水田跡が２面（上層水田・下層水田と称される）確認された点で注目されている。添付資料によれば、上層水田・下層水田ともに方形ないし長方形を呈する小区画水田とみられる。

本調査区の自然科学分析では、弥生時代前期の稲作の様態を検討することと縄文時代における水田の存在の可能性について検証するため、植物珪酸体分析を実施することとした。

１．試料

試料は、東調査区南壁土層断面で上位より、第１層～第26層に分層されている。層相は、添付資料に基づく。そのうち分析試料は、第26層～第18層を対象として層位試料として採取された（図１）。第26層～第20層では出土遺物がないため、時代時期が不明である。ただし、発掘調査所見から第23層・第21層が縄文時代の水田層の可能性があるとされている。第19層・第18層が弥生時代前期の水田跡が確認された層であり、第19層が下層水田、第18層が上層水田とされている。

採取された試料９点を対象として、植物珪酸体分析を行った。



1．盛土
2．黄色粘質微砂
3．淡黄灰色粘質土
4．淡灰色粘質土
5．淡灰色粘質土（粘性強い）
6．淡灰色粘質土
7．灰白色粘質土
8．黄色粘質土
9．淡灰白色粘質土（黄色微砂含む）
10．黄褐色粘質土（灰色微砂含む）
11．灰白色微砂（黄色微砂含む）
12．淡褐灰色粘質土（微砂まじり）
13．黄灰色微砂
14．褐灰色粘質土（微砂含む）
15．褐灰色粘質土
16．淡灰褐色粘土
17．灰褐色粘土
18．黒褐灰色粘土（上層水田の水田層）
19．暗褐灰色粘土（下層水田の水田層）
20．淡褐灰色粘質土
21．暗灰色粘土（水田層？）
22．灰黄色粘質土（粘性強い）
23．暗灰色粘土（水田層？）
24．淡黄灰色粘土
25．灰色粘土
26．淡灰色粘土

図２　北方横田遺跡２区における植物珪酸体組成

2．分析方法

試料約５ｇについて、過酸化水素水と塩酸による有機物と鉄分の除去、超音波処理による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタングステン酸ナトリウム（比重2.5）による重液分離を順に行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。これを、プリュウラックスで封入してプレパラートを作成する。

検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、同定には、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にする。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と個数を一覧表で示す。また、各種類の出現傾向から、生育していたイネ科植物を検討するために、植物珪酸体組成図を作製する。出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数として百分率で算出する。なお、○●は１％未満を示し、機動細胞珪酸体で100個未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、検出した種類を＋で表示する。

3．植物珪酸体の産状

結果は、表１・図２に示す。短細胞珪酸体は、全試料から良好に検出されるが、機動細胞珪酸体は第24層・第20層・第19層・第18層で検出個数が少ない。

植物珪酸体の組成は、第26層～第23層および第22層～第18層で差異が認められる。第26層・第25層では、タケ亜科（クマザサ属・ネザサ節・ヤダケ属を含む）が多産し、次いでヨシ属が多い。この他、キビ族・ウシクサ族（コブナグサ属・ススキ属を含む）・イチゴツナギ亜科などを伴う。また、第25層でウシクサ族機動細胞珪酸体が増加する。

第24層・第23層でもタケ亜科・ヨシ属が多産するが、タケ亜科、ヨシ属が減少する傾向を示す。また、ウシクサ族機動細胞珪酸体が多く、イチゴツナギ亜科が増加傾向を示す。

第22層～第18層では、タケ亜科が減少し、ヨシ属が約10％以下の出現率である。また、キビ族が上位にかけて増加する傾向を示し、栽培種のイネ属機動細胞珪酸体が第21層・第19層で僅かに検出される。

4．考察

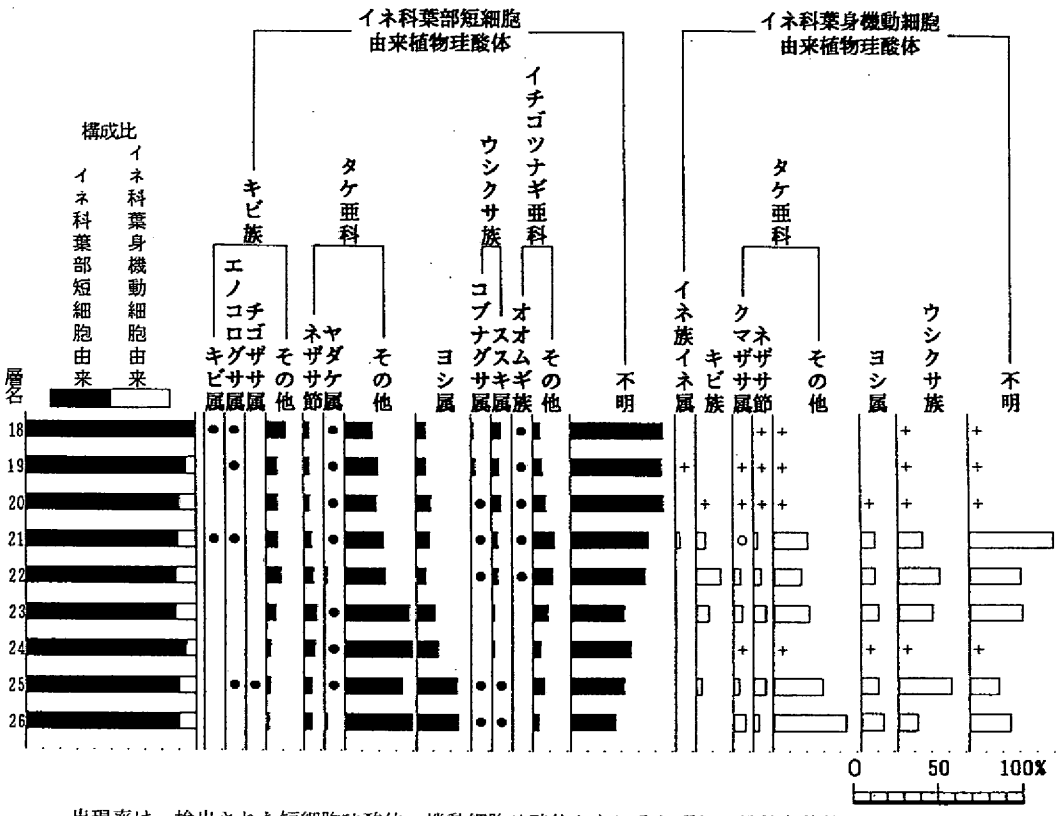
本調査区における植物珪酸体分析結果は、旭川によって運搬された上流のイネ科植物も含んでいることを考慮して、以下に考察を行う。

栽培種のイネ属に由来する植物珪酸体が第21層、第19層で僅かに検出された。第23層・第21層は、発掘調査所見から縄文時代の水田層と推測されているが、第23層からは栽培種のイネ属の植物珪酸体が検出されないため、今回の分析結果のみで水田層と判断することはできない。第21層では、栽培種のイネ属機動細胞珪酸体が僅かに検出されたものの、稲作の存在を断定するほどの結果とはいえない。なお、ヨシ属・コブナグサ属が検出されたことから、湿潤な場所が周辺に存在した可能性もある。

弥生時代前期の水田跡が検出されている第19層（下層水田）・第18層（上層水田）は、小区画水田

表１　北方横田遺跡２区における植物珪酸体分析結果

種　類（Ｔａｘａ）　層名	18	19	20	21	22	23	24	25	26
イネ科葉部短細胞珪酸体									
キビ族キビ属	1	－	－	1	－	－	－	－	－
キビ族エノコログサ属	3	1	－	1	－	－	－	1	－
キビ族チゴザサ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－
キビ族（その他）	63	22	32	49	60	36	12	16	11
タケ亜科ネザサ節	16	12	14	32	34	56	35	36	40
タケ亜科ヤダケ属	1	2	2	8	9	5	5	2	12
タケ亜科（その他）	95	70	94	183	172	280	223	307	374
ヨシ属	27	20	40	62	38	79	66	213	231
ウシクサ族コブナグサ属	7	6	1	3	3	－	－	1	1
ウシクサ族ススキ属	28	16	26	23	19	10	7	6	5
イチゴツナギ亜科オオムギ族	1	3	1	3	3	－	－	－	－
イチゴツナギ亜科（その他）	24	19	36	100	85	59	22	55	31
不明キビ型	140	79	134	181	132	115	78	95	52
不明ヒゲシバ型	4	4	11	10	2	7	5	6	4
不明ダンチク型	167	112	141	187	187	114	118	184	198
イネ科葉身機動細胞珪酸体									
イネ族イネ属	－	2	－	2	－	－	－	－	－
キビ族	－	－	1	5	15	7	－	3	－
タケ亜科クマザサ属	－	1	4	1	4	5	2	3	7
タケ亜科ネザサ節	1	1	1	2	4	8	－	7	3
タケ亜科（その他）	1	6	10	20	17	22	9	30	43
ヨシ属	－	－	5	8	8	11	5	11	13
ウシクサ族	3	6	14	14	25	21	8	33	11
不明	1	6	22	49	32	33	11	18	24
合　計									
イネ科葉部短細胞珪酸体	577	366	532	843	744	761	571	923	959
イネ科葉身機動細胞珪酸体	6	22	57	101	105	107	35	105	101
検　出　個　数	583	388	589	944	849	868	606	1028	1060



出現率は、検出された短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は、機動細胞珪酸体で100個未満の検出を示す。

図１　北方横田遺跡２区試料採取位置の土層断面

と判断される。今回の分析結果では、栽培種のイネ属の植物珪酸体が第19層で僅かに検出され、第18層では検出されなかった。この結果が、水田区画に対する生産性に関連するものなのか、微化石の保存状態の結果によるものなのか現段階では判断できない。

次に、各層準におけるイネ科植物相について述べる。

第26層・第25層が堆積する時代では、タケ亜科・ヨシ属の出現率が高いことから、この当時微高地などでタケ亜科・ウシクサ族・キビ族・イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育し、低地や河川周辺では、ヨシ属などが生育していたと推定される。

第24層・第23層では、タケ亜科・ヨシ属が多産するが上位層に向かい減少する傾向を示す。このことから、主に、タケ亜科・ヨシ属が生育する環境から水位や河川変化、人為的影響などにより、イネ科植生に変化があった可能性がある。ただし、珪藻分析・花粉分析を今回は行っていないため、水域の変化や広域的植生の変化について詳細は不明である。

第22層～第18層では、タケ亜科・ヨシ属が減少し、キビ族・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科などがやや増加する。このことから、縄文時代～弥生時代前期にかけて本遺跡周辺では、タケ亜科・ヨシ属が卓越する環境から、キビ族・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科などが生育する環境へと変化したものと考えられる。

まとめ

今回、北方横田遺跡２区では、縄文時代の水田層と推測される第23層でイネ属珪酸体が認められなかったが、同じく縄文時代の水田層と推測される第21層で僅かにイネ属の機動細胞珪酸体が認められた。また、キビ族・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科などがやや多いことから、人為的影響を受けた可能性がある。ただし、第20層以下では、時代時期が不明確であることや畦畔など水田を示唆する遺構あるいは遺物などが確認されていないので、縄文時代の稲作については慎重な評価が必要であり、本結果のみから断定できるものではない。今後、考古学的所見を踏まえながら本層準に対する平面的な土壌断面観察調査や珪藻分析・花粉分析・種実同定などの自然科学分析調査の実施が必要であろう。なお、縄文時代の水田の存在については、考古学でもこれまでに着目している課題であり、発掘調査で畦畔が確認された報告例もある。弥生時代前期とされる下層水田（第19層）でイネ属機動細胞珪酸体が極めて少なく、短細胞珪酸体が認められなかった。上層水田（第18層）では、イネ属珪酸体が認められない結果であった。これが当時の様態、とくに生産性を考えていく上で留意しなければならないと思われるが、考察でも述た様に水田層に対する空間的な分析調査や津島遺跡で水田跡が湿地水田とされることからも（柳瀬、1988）、各時代の平面的なつながりも考慮してさらに資料蓄積をした上で改めて考えていきたい。

引用文献

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p. 31－64.

柳瀬昭彦（1988）津島遺跡．「日本における稲作農耕の起源と展開」，p. 78－80，日本考古学協会　静岡大会実行委員会・静岡県考古学会.

第Ⅱ章．北方中溝遺跡１区

はじめに

北方中溝遺跡１区は、津島遺跡より東へ約500m程離れた場所に位置する。これまでの発掘調査では、弥生時代中期から中世にかけての遺構・遺物がこれまで確認されている。とくに、弥生時代中期から中世に至る６時期の水田跡が確認されている。

今回発掘調査が行われた１区では、弥生時代後期～古墳時代前半期の水田跡が確認された。本調査区の自然科学分析では、弥生時代後期～古墳時代前半期の水田層について、植物珪酸体分析を実施し、稲作の様態に関する検討を行うこととした。

１．試料

試料は、土層断面を①～28層に分層されている。層相は、添付資料に基づく。そのうち分析試料は、22層の淡黄灰色粘土と細粒砂を含む淡灰色粘質土、21層の灰色粘質土、⑳層の灰色細粒砂を含む淡灰色粘質土を対象として層位試料で採取された（図３）。22層～⑳層は、弥生時代後期～古墳時代前半期の水田層とされている。

採取された試料３点を対象として、植物珪酸体分析を行った。なお、試料番号Ａ（⑳層）・Ｂ（21層）・Ｃ（22層）で記載されているが本報告では層名を用いる。

２．分析方法

先述の北方横田遺跡２区に示した方法と同様である。

３．植物珪酸体の産状

結果は、表２・図４に示す。植物珪酸体は、短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体ともに全試料で良好に検出される。

植物珪酸体組成は、栽培種のイネ属機動細胞珪酸体が多産し、22層で約34％、21層で約43％、⑳層で45％の出現率を示す。タケ亜科（ネザサ節・ヤダケ属など含む）短細胞珪酸体も多産し、キビ族（ヒエ属・キビ属・エノコログサ属・チゴザサ属を含む）・ヨシ属・ウシクサ族（コブナグサ属・ススキ属を含む）・イチゴツナギ亜科などを伴う。

４．考察

本調査区における植物珪酸体分析結果は、旭川によって運搬された上流のイネ科植物も含んでいることを考慮して、以下の考察を行う。

弥生時代後期～古墳時代前半期の水田層とされる22層・21層・20層で栽培種のイネ属機動細胞珪酸体が多産した。現水田耕土のイネ属の植物珪酸体の産状を調査した近藤（1988）の研究成果と過去の水田耕土の産状を比較することは、栽培方法や形態が現水田と同様とは限らないため、過大評価できないが、一つの指標にはなる。現水田耕土と比較した結果、今回の結果ではイネ属は高い比率を示した。このことから、現水田と同等の稲作が行われていた可能性がある。

また、ヒエ属・キビ属・エノコログサ属・キビ族・オオムギ族・イチゴツナギ亜科などは、栽培種

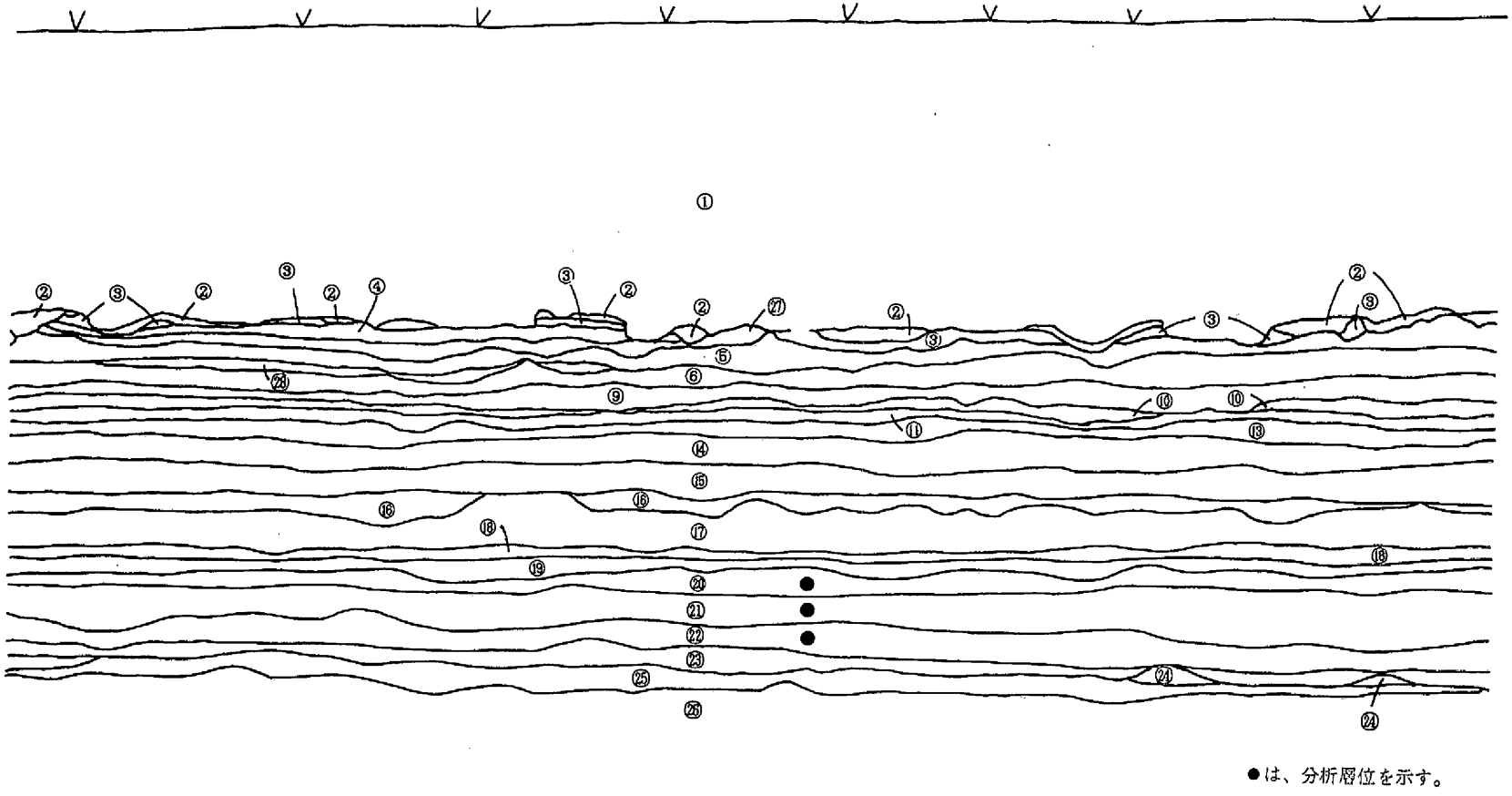
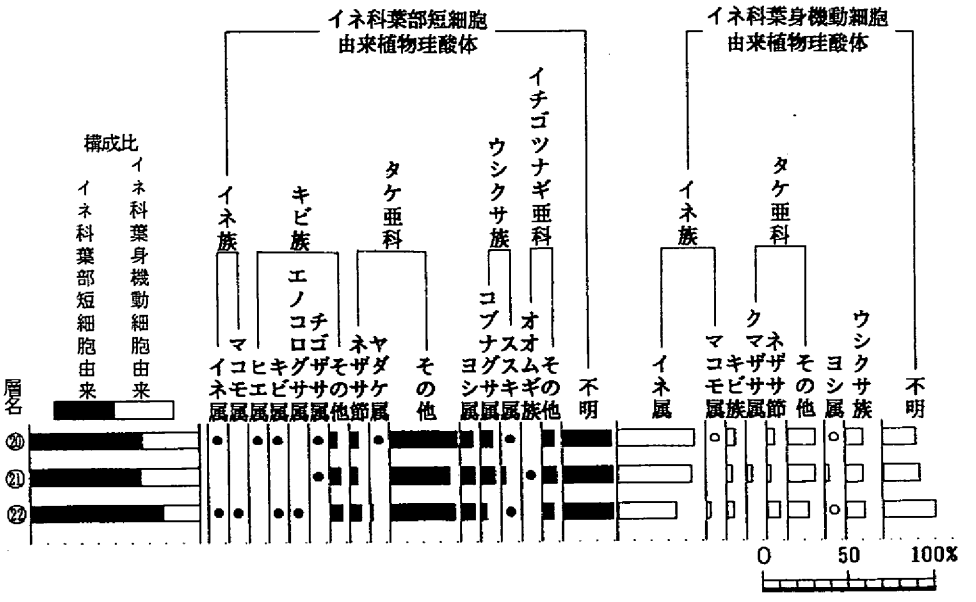


図３　北方中溝遺跡１区試料採取位置の土層断面

表２　北方中溝遺跡１区における植物珪酸体分析結果

種　類（Ｔａｘａ）	層名	⑳	㉑	㉒
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属		1	－	1
イネ族マコモ属		－	－	4
キビ族ヒエ属		1	－	－
キビ族キビ属		1	－	1
キビ族エノコログサ属		－	－	1
キビ族チゴザサ属		1	1	－
キビ族（その他）		11	13	26
タケ亜科ネザサ節		15	8	24
タケ亜科ヤダケ属		1	－	5
タケ亜科（その他）		112	76	153
ヨシ属		21	17	30
ウシクサ族コブナグサ属		19	17	13
ウシクサ族ススキ属		1	4	4
イチゴツナギ亜科オオムギ族		－	1	－
イチゴツナギ亜科（その他）		20	18	24
不明キビ型		24	21	41
不明ヒゲシバ型		3	2	3
不明ダンチク型		51	40	71
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属		66	50	38
イネ族マコモ属		1	－	2
キビ族		7	4	4
タケ亜科クマザサ属		－	4	－
タケ亜科ネザサ節		6	2	8
タケ亜科（その他）		24	19	13
ヨシ属		1	2	1
ウシクサ族		14	12	12
不明		28	24	34
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体		282	218	401
イネ科葉身機動細胞珪酸体		147	117	112
検　出　個　数		429	335	513
組織片				
イネ属短細胞列		－	－	1



出現率は、検出された短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満の検出を示す。

図４　北方中溝遺跡１区における植物珪酸体組成

の種類を含むが、今回検出された植物珪酸体に由来するかどうか現段階では判断できない。このため、今後の自然科学分析結果を含めてさらに検討して行きたい。そのほか、ヨシ属やマコモ属は、周辺の湿地・沼沢地などに生育し、ネザサ節などのタケ亜科が微高地上に広い地域で生育していたと考えられる。

まとめ

今回、北方中溝遺跡1区は、弥生時代後期～古墳時代前半期の水田層を対象に分析を行った。いずれも、とくにイネ属機動細胞珪酸体が良好に検出され、短細胞珪酸体が⑳層のみ僅かに認められた。短細胞珪酸体が検出されない問題はあるが、発掘調査所見を裏付ける結果であった。

これまで、当社では岡山平野に分布する各遺跡で古植生や稲作の消長・様態について分析調査を行ってきた。しかし、各遺跡において花粉分析を試みた時に花粉化石の保存状態が悪い場合が多く、植物珪酸体から周辺のイネ科植物相を検討する事例が大半であったため、岡山平野を中心とした古植生変遷の関する資料が充分に得られていないのが現状である。今後、岡山平野における稲作の消長・様態を明らかにしていく上では、周辺地域の人々を取りまく自然環境に関する情報が重要である。したがって、今後も植物珪酸体分析の他、花粉分析・珪藻分析・種実同定・材同定などを併せて行い、さらに稲作に関する詳細な検討をしていきたい。これらは、さらに地域的な地形発達や時代時期ごとの生活環境も明らかにする資料になるであろう。

引用文献

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p. 31－64.

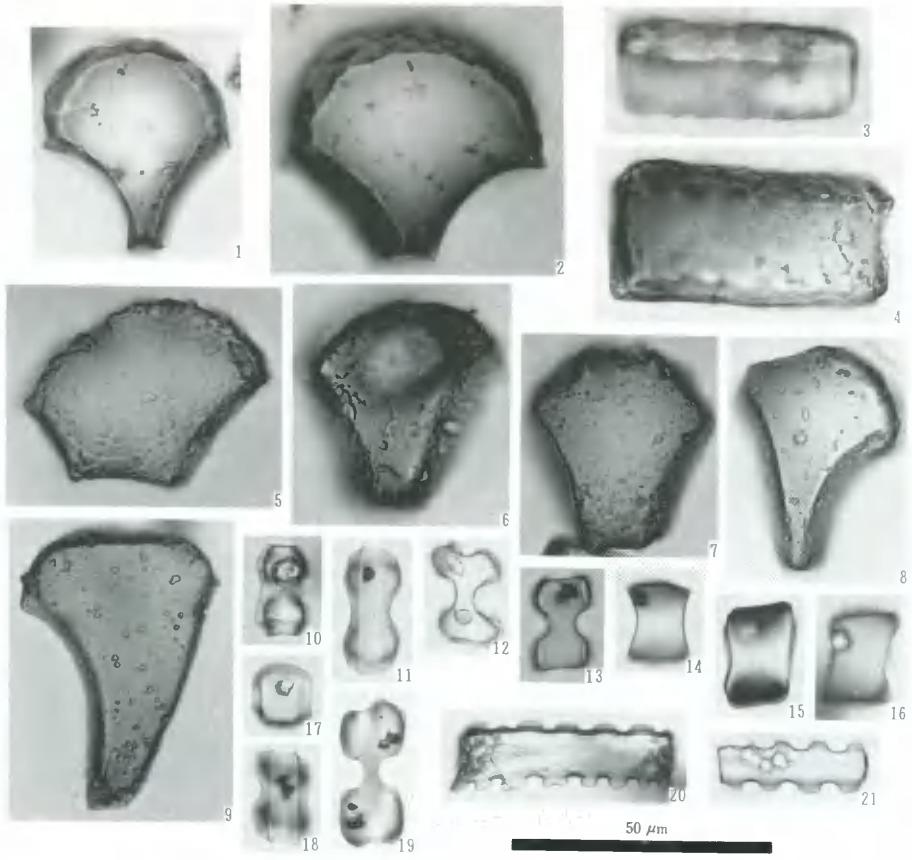
近藤錬三（1988）十二遺跡土壌の植物珪酸体分析．「鋳師屋遺跡群十二遺跡　―長野県北佐久群御代田町十二遺跡発掘調査報告書―」，p. 377－383，御代田町教育委員会．

図版 1

1．キビ属短細胞珪酸体（18層）
2．ネザサ節短細胞珪酸体（18層）
3．ヤダケ属短細胞珪酸体（18層）
4．タケ亜科短細胞珪酸体（18層）
5．ヨシ属短細胞珪酸体（23層）
6．コブナグサ属短細胞珪酸体（18層）
7．ススキ属短細胞珪酸体（18層）
8．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（22層）
9．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（18層）
10．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（18層）
11．イネ属機動細胞珪酸体（21層）
12．キビ族機動細胞珪酸体（22層）
13．ネザサ節機動細胞珪酸体（24層）
14．クマザサ属機動細胞珪酸体（19層）
15．タケ亜科機動細胞珪酸体（26層）
16．ヨシ属機動細胞珪酸体（25層）

北方横田遺跡２区の植物珪酸体

図版２



1．イネ属機動細胞珪酸体（20層）
2．イネ属機動細胞珪酸体（21層）
3．キビ族機動細胞珪酸体（22層）
4．キビ族機動細胞珪酸体（21層）
5．クマザサ属機動細胞珪酸体（21層）
6．タケ亜科機動細胞珪酸体（22層）
7．タケ亜科機動細胞珪酸体（20層）
8．ウシクサ族機動細胞珪酸体（21層）
9．ウシクサ族機動細胞珪酸体（20層）
10．イネ属短細胞珪酸体（22層）
11．ヒエ属短細胞珪酸体（20層）
12．キビ族短細胞珪酸体（22層）
13．キビ族短細胞珪酸体（22層）
14．ネザサ節短細胞珪酸体（21層）
15．ヤダケ属短細胞珪酸体（21層）
16．タケ亜科短細胞珪酸体（20層）
17．タケ亜科短細胞珪酸体（20層）
18．ヨシ属短細胞珪酸体（21層）
19．コブナグサ属短細胞珪酸体（20層）
20．ススキ属短細胞珪酸体（22層）
21．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（20層）
22．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（20層）

付載５　北方地蔵遺跡・北方中溝遺跡における自然科学分析（花粉分析ほか）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

北方地蔵遺跡および中溝遺跡が位置する岡山平野は、その内部を流れる高梁川・旭川・笹ヶ瀬川・吉井川などの河川により形成された沖積低地である。北方地蔵遺跡では、縄文時代後期～晩期以降の遺物包含層、弥生時代前期の水田に伴う水路の可能性がある溝が確認されている。隣接する中溝遺跡では、弥生時代前期の水田および溝が確認されている。

今回の自然科学分析調査では、縄文時代後期以降の古植生変遷および稲作の消長に関して検討することを目的として、花粉分析および植物珪酸体分析を実施することにする。また、遺跡周辺の堆積環境について検討するために珪藻分析を実施する。

Ⅰ．分析方法

１．珪藻分析

試料を湿重で約８ｇ秤量し、過酸化水素水・塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個以上同定・計数する。種の同定は、K. Krammer and LangeBertalot（1986・1988・1991ａ・1991ｂ）、K. Krammer（1992）などを用いる。同定結果は、産出種をアルファベット順に並べた一覧表で示す。

２．花粉分析

花粉・胞子化石は、湿重約10ｇの試料について水酸化カリウム処理、篩別（250μｍ）、重液分離（臭化亜鉛，比重2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝９：１）の順に物理・化学的な処理を施して分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら、出現する全ての種類について同定・計数を行う。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。なお、表中で複数の種類をハイフォン（－）で結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

３．植物珪酸体分析

湿重５ｇ前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，１分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入し永久プレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、

その間に出現する短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類と個数の一覧表および植物珪酸体群集の層位的分布図で示す。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の各珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。なお、検出個数が短細胞珪酸体で200個未満の試料は組成が歪曲する恐れがあるため、出現する種類を＋で示すにとどめる。

Ⅱ．北方地蔵遺跡

1．試料

試料採取地点である3区D調査区北壁の層序は、30層に分層されている。試料は、18層～30層から層位試料として1点ないし2点、合計16点（試料番号1～16）が採取された（図1）。発掘調査の所見によると、28層が縄文時代後期、21層・20層が縄文時代中期の遺物包含層とされている。また、18層が弥生時代前期の水田層の可能性があるとされている。

分析試料は、珪藻分析が試料番号1・2・4・6・8～16の計13点、花粉分析・植物珪酸体分析が試料番号1・2・4・6・8～10・12～16の計12点である。

2．結果

(1) 珪藻化石

結果を表1に示す。各試料とも珪藻化石は、ほとんど検出されない。また、産出した珪藻化石は壊れたり、溶解している。産出種は、池沼などの止水域を好む好止水性の *Achnanthes crenulata*、河川などの流水域を好む好流水性の *Achnanthes inflata*、陸上の乾いた好気的環境に生育する陸生珪藻の *Navicula mutica*、珪藻殻の保存が悪く種の同定まで至らない *Cylotella* などである。

(2) 花粉化石

結果を表2に示す。各試料とも花粉化石の保存状態が悪く、しかも検出個体数も少ない。検出される種類は、コナラ属アカガシ亜属・イネ科・ヨモギ属・他のキク亜科・タンポポ亜科・ミズワラビ属・シダ類胞子の合計7種類である。

(3) 植物珪酸体

結果を表3・図2に示す。試料番号10では、植物珪酸体がほとんど検出されない。これ以外の試料では、良好に検出される。植物珪酸体群集は、試料番号16～12、試料番号9・8、試料番号6・4、試料番号2・1で異なる。試料番号16～12では、タケ亜科が多産し、ヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科などを伴う。試料番号9・8になると、引き続きタケ亜科が多産するが、その出現率が低下し、イネ属が検出される。試料番号6・4では、イネ属が検出されなくなり、タケ亜科が増加する。試料番号1・2では、再びタケ亜科が減少し、イネ属が増加する。特にイネ属機動細胞珪酸体は、試料番号1で30％と高率である。

3．考察

堆積物中からは、珪藻化石が検出されないために堆積環境について詳しく検討することは困難であ

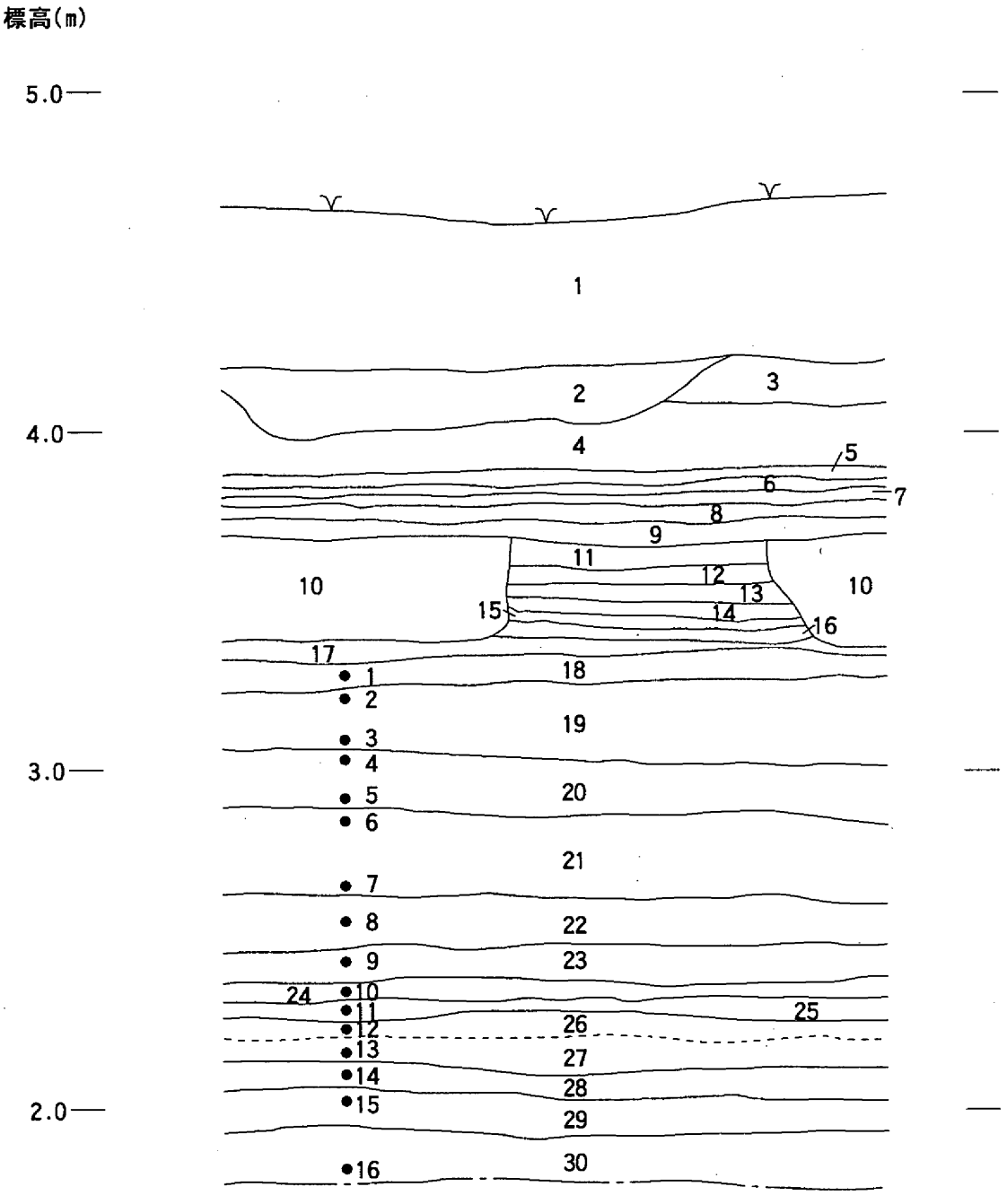


図１　北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区の北壁土層断面および試料採取層位

表1　珪藻分析結果

種類	生態性 塩分	生態性 pH	生態性 流水	環境指標種	北方地蔵遺跡3区D調査区 1	2	4	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	中溝遺跡7区 17	18	19	20
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh−hil	al−bi	l−ph	T	−	1	−	−	−	−	−	−	−	2	2	−	−	4	−	−	−
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh−ind	al−il	r−ph	T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	1	−	−	−
Cocconeis sp.	Ogh−unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Cyclotella sp.−1	Ogh−unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	3	1	−	−
Cyclotella spp.	Ogh−unk	unk	unk		2	2	1	1	2	−	−	2	3	3	3	3	3	10	4	7	2
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh−hob	ac−il	l−ph	RB,O,T	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh−ind	al−il	ind	RA,U	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
Navicula mutica Kuetzing	Ogh−ind	al−il	ind	RA,S	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
Synedra spp.	Ogh−unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
Stephanodiscus sp.	Ogh−unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	−
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水−汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					2	3	1	1	2	0	0	2	3	5	6	4	4	22	7	7	2
珪藻化石総数					2	3	1	1	2	0	0	2	3	5	6	4	4	22	7	7	2

凡例

H. R. ：塩分濃度に対象する適応性
- Ogh−hil ：貧塩好塩性種
- Ogh−ind ：貧塩不定性種
- Ogh−hob ：貧塩嫌塩性種
- Ogh−unk ：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対象する適応性
- al−bi ：真アルカリ性種
- al−il ：好アルカリ性種
- ac−il ：好酸性種
- unk ：pH不明種

C. R. ：流水に対する適応性
- l−ph ：好止水性種
- ind ：流水不定性種
- r−ph ：好流水性種
- unk ：流水不明種

環境指標種

O：沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）

S：好汚濁性種　T：好清水性種（以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995）

RI：陸生珪藻（RA：A群，RB：B群、伊藤・堀内，1991）

表2　花粉分析結果

種類	北方地蔵遺跡3区D調査区													北方中溝遺跡1区			
試料番号	1	2	4	6	8	9	10	12	13	14	15	16		17	18	19	20
木本花粉																	
マキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		−	−	1	−
モミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	−	−
ツガ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	1	−	−
マツ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		5	1	1	2
スギ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		2	−	1	−
ヤマモモ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	1	−
クルミ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		−	−	1	−
クマシデ属−アサダ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	2	1
ハンノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		2	−	−	−
イヌブナ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		−	−	4	−
コナラ属コナラ亜属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		27	−	1	−
コナラ属アカガシ亜属	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		121	−	39	6
シイノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		9	−	−	−
アカメガシワ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		−	−	1	−
イボタノキ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	−	−
草本花粉																	
イネ科	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		48	3	24	2
カヤツリグサ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		7	−	5	1
クワ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	1	−
サナエタデ節−ウナギツカミ節	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		9	−	2	9
ナデシコ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		2	−	−	1
セリ科	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		1	−	−	−
ヨモギ属	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		9	3	8	−
キク亜科	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−		5	3	2	1
タンポポ亜科	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		−	−	−	−
不明花粉	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−		5	−	−	−
シダ類胞子																	
ミズワラビ属	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−		−	−	−	−
他のシダ類胞子	13	19	11	1	2	1	−	5	9	3	4	1		379	143	203	113
合計																	
木本花粉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		171	2	52	9
草本花粉	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		82	9	42	14
不明花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		5	0	0	0
シダ類胞子	13	19	11	1	2	1	0	5	9	3	5	1		379	143	203	113
総計（不明を除く）	17	22	12	1	2	1	0	5	9	3	5	1		632	154	297	136

る。検出される種類は、止水域を好む好止水性種、流水域を好む好流水性種、好気的環境に生育する陸生珪藻など様々な環境を指標する種類が混在している。このような特徴は、沖積低地内の洪水などの一過性の堆積物に認められる珪藻化石群集（堀内ほか，1996）で認められている。よって、本遺跡の周辺は、遺跡が旭川左岸の沖積低地に立地することを考慮すると、河川の氾濫により堆積した可能性がある。また、珪藻化石が少なかった原因は現時点で断定することができないが、珪藻殻の保存状態が悪いことから堆積後に何らかの要因により溶解した可能性がある。

また、花粉化石もほとんど検出されなかった。なお、中溝遺跡で検出された弥生時代の溝埋積物から花粉化石が得られているので、弥生時代頃の周辺植生については中溝遺跡の項で述べる。一方、イネ科に由来する植物珪酸体は、比較的良好に検出された。その中で最も多く検出されるタケ亜科珪酸体は他の珪酸体と比較して生産量が多く、しかも風化に強いとされている（近藤，1982：杉山・藤原，1986）。このことを考慮すると、周辺は、タケ・ササ類に覆われていたわけでなく、むしろ周辺にはススキ属やイチゴツナギ亜科などが認められ、湿った場所にヨシ属が生育していたと考えられる。

弥生時代前期の水田層の可能性があるとされている18層では、短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体ともイネ属に由来するものが検出される。特に機動細胞珪酸体はその出現率が約30％と高率に出現する。これまで岡山平野における弥生時代以降の水田層では、イネ属機動細胞珪酸体が約30～50％出現する。このことを考慮すると、18層は水田耕作土である可能性が高い。したがって、この時期に本遺跡の近辺では稲作が行われていたと考えられる。なお、19層で検出されるイネ属に関しては、18層からの落ち込み等が考えられる。また、23層・22層で検出されるイネ属は、21層・20層でイネ属が検出されていないことから、上位からの落ち込みとは考えられない。しかし、その出現率は、18層と比較して低率であるため、他の場所から運搬・堆積した誘導化石の可能性もある。以上のことを考慮すると、少なくとも本地域では、18層が堆積する以前から稲作が営まれていたと推定される。これについては、今後、地域的に検討を加えた上で改めて検討を行いたい。

Ⅲ．北方中溝遺跡

1．試料

試料は、1区北壁の溝4の覆土から1点（試料番号18）、溝5の覆土から1点（試料番号19）、溝4覆土から1点（試料番号17）、畦畔部から1点（試料番号20）の合計4点が採取され、これらを分析試料とした（図3）。

2．結果

(1) 珪藻化石

結果を表1に示す。珪藻化石は、2～22個体検出される程度である。産出する珪藻化石は壊れたり、溶解している。産出種は、好止水性の *Achnanthes crenulata*、好流水性の *Achnanthes inflata*、陸生珪藻の *Nantzschia amphinoxys*、保存が悪く種の同定まで至らない *Cylotella* 等である。

(2) 花粉化石

結果を表2に示す。花粉化石は、全体的に保存状態が悪い。また、試料番号18～20では、花粉化石

の検出個体数も少ない。試料番号17では、アカガシ亜属が多産し、マツ属・コナラ亜属・シイノキ属などが検出される。草本花粉では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科・サナエタデ節—ウナギツカミ節・ヨモギ属などが検出される。

(3) 植物珪酸体

結果を表3・図4に示す。4試料とも植物珪酸体が検出される。試料番号17～19では、イネ属・タケ亜科が多産し、キビ族・ヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亜科が検出される。特に試料番号17では、イネ属機動細胞珪酸体が30%以上と高率に出現する。試料番号20でもタケ亜科が多産するが、試料番号17～19と比較してイネ属機動細胞珪酸体の出現率が著しく低く、また短細胞珪酸体も検出されない。

3．考察

溝4や畦畔部での珪藻化石の産状は北方地蔵遺跡と類似しており、さまざまな環境を指標する種類が混在し、それぞれ数個体検出される程度である。したがって、畦畔を構築する土層や構内部埋積物は、本来、北方地蔵遺跡の堆積物と同様に氾濫等により堆積した一過性の堆積物に由来している可能性がある。

溝4堆積物（試料番号18）、溝5堆積物（試料番号19）、および溝4・5の両遺構を覆う土層（試料番号17）からは、イネ属珪酸体が検出される。したがって、溝4の内部には、水田土壌が流入していると考えられる。これは、水田内の水が耕土とともに水路内に流入したことを示唆し、発掘調査の所見通り水田に伴う導排水路と見なしてよいであろう。水田に関連する水路が存在することを考慮すると、この水田は表面水型水田、いわゆる乾田型の水田であったと思われる。また、畦畔部（試料番号20）でもイネ属の機動細胞珪酸体が検出される。しかし、その出現率は約3%であり、溝埋積物や北方地蔵遺跡の水田耕作土層と考えられた18層と比較して著しく低い。したがって、畦畔は水田耕土があまり混入していない可能性がある。これは、畦畔が何度も作り替えられたものでなかったことを示しているのではないだろうか。なお、水田の周辺には、カヤツリグサ科・クワ科・サナエタデ節—ウナギツカミ節・ナデシコ科・セリ科・ヨモギ属・他のキク亜科など、現在でも人里付近でごく普通に見られる草本類が周辺に生育していたと考えられる。

一方、試料番号17で検出される木本花粉では、アカガシ亜属の花粉化石が多産し、この他にもヤマモモ属・シイノキ属・アカメガシワ属など暖温帯林の特徴的な種類が検出される。これより、調査地点の周辺は暖温帯に属していたと考えられる。この他にも、針葉樹のマツ属・スギ属、広葉樹のハンノキ属・コナラ亜属などが森林構成種として存在していたのであろう。これまで実施された花粉分析等によると、岡山平野では、アカガシ亜属などを中心とした暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）が成立していたとされている（三好，1988；三好・臼井，1977；パリノ・サーヴェイ株式会社，1993a・1993b・1995）。したがって、ここで得られた花粉化石群集は比較的広域的植生を反映していると考えられ、弥生時代の頃、周辺地域は常緑広葉樹を中心とした暖温帯林が成立していたと考えられる。

〈引用文献〉

近藤錬三（1982）Plant opal分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究．昭和56年度科学研究費（一般C）研

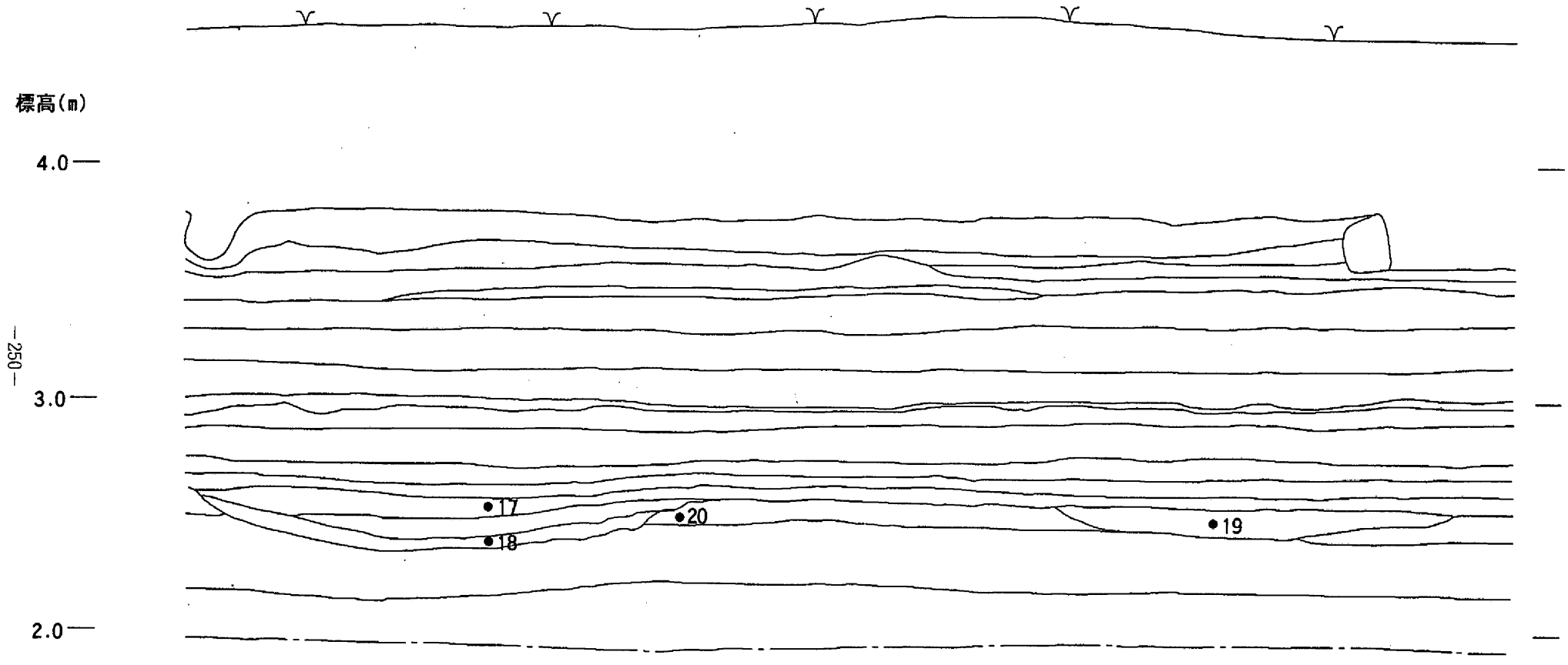
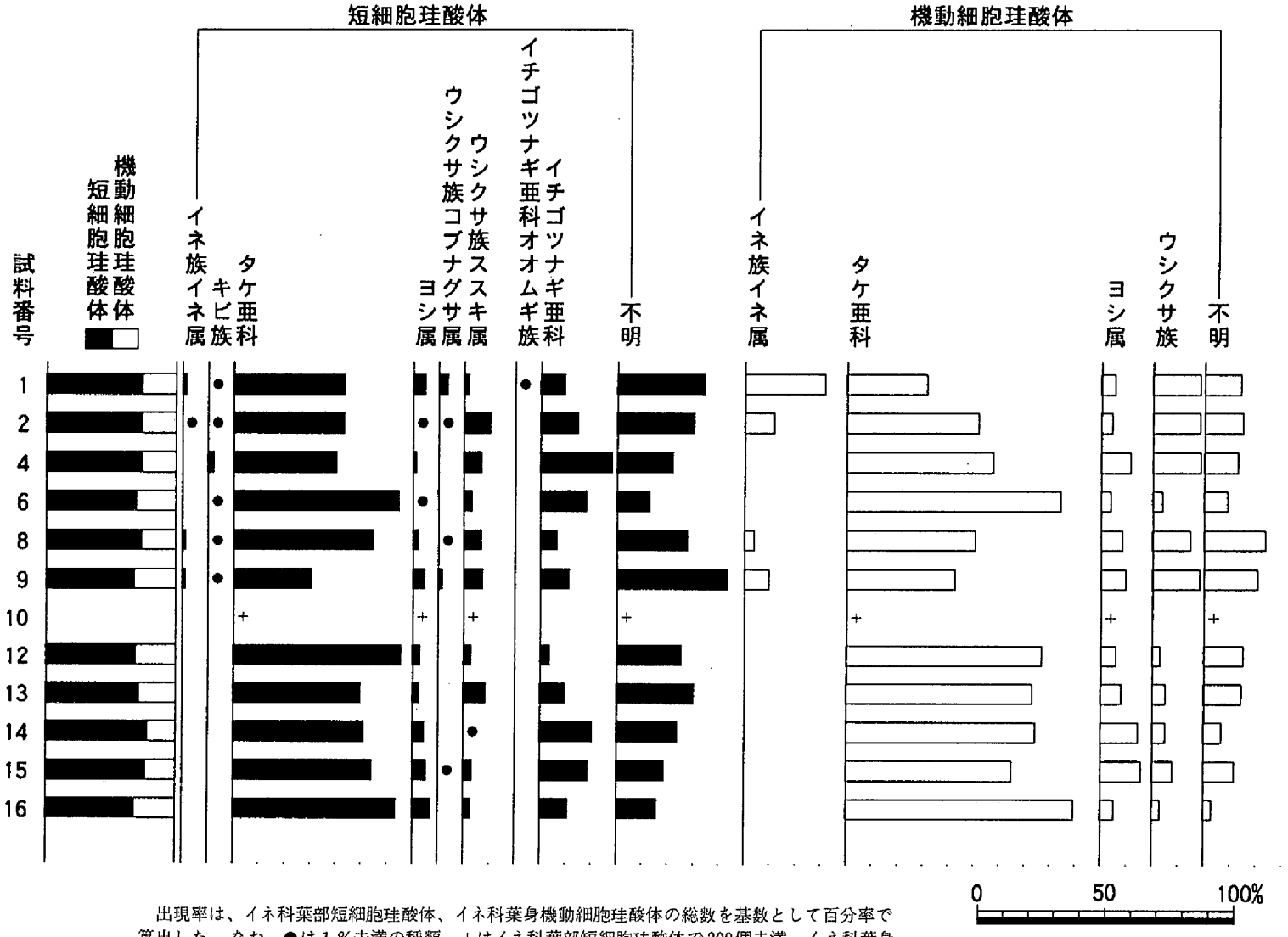


図３　北方中溝遺跡７区北壁の土層断面および試料採取層位

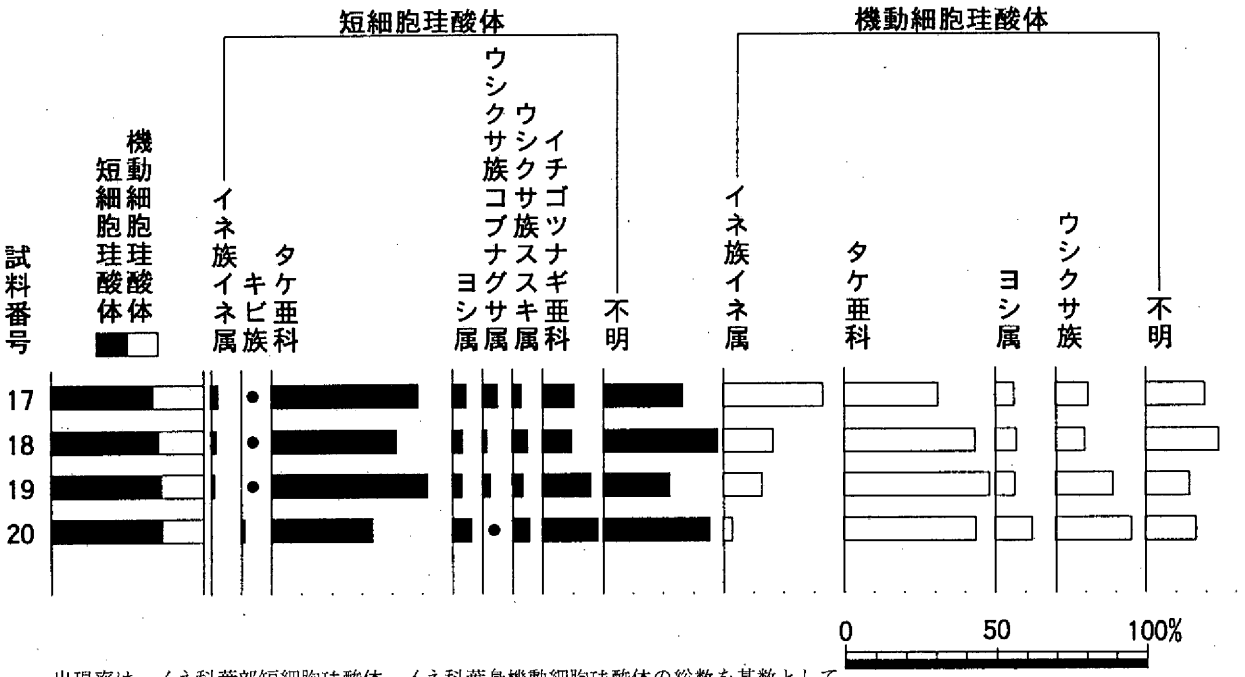
表3　植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	北方地蔵遺跡3区D調査区 1	2	4	6	8	9	10	12	13	14	15	16	中溝7遺跡区 17	18	19	20
イネ科葉部短細胞珪酸体																	
イネ族イネ属		5	2	-	-	4	3	-	-	-	-	-	-	5	4	3	-
キビ族		2	2	8	2	2	2	-	-	-	-	-	-	2	1	2	3
タケ亜科		144	151	144	166	169	81	16	159	131	193	184	141	109	101	147	97
ヨシ属		16	3	5	2	7	12	2	7	7	17	18	16	10	8	9	18
ウシクサ族コブナグサ属		12	1	-	-	2	4	-	-	-	-	1	-	11	3	7	1
ウシクサ族ススキ属		6	36	24	8	21	20	1	7	22	3	11	6	6	12	9	16
イチゴツナギ亜科オオムギ族		3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科		32	51	101	46	20	30	-	9	25	77	64	24	23	23	45	53
不明キビ型		43	52	57	21	58	49	2	38	55	62	30	13	35	50	28	53
不明ヒゲシバ型		43	23	14	6	20	35	3	7	18	16	25	17	22	26	21	28
不明ダンチク型		28	31	8	6	8	32	-	16	7	12	8	5	2	17	14	22
イネ科葉身機動細胞珪酸体																	
イネ族イネ属		36	14	-	-	4	12	-	-	-	-	-	-	37	17	14	3
タケ亜科		36	63	71	95	56	54	7	82	76	77	67	92	35	45	53	47
ヨシ属		6	5	14	4	9	12	2	6	8	15	16	5	7	7	7	13
ウシクサ族		21	22	23	4	16	23	-	3	5	5	8	3	12	10	21	27
不明		16	18	16	10	26	26	1	16	15	7	12	3	22	25	16	18
合計																	
イネ科葉部短細胞珪酸体		334	352	361	257	311	268	24	243	265	380	341	222	225	245	285	291
イネ科葉身機動細胞珪酸体		115	122	124	113	111	127	10	107	104	104	103	103	113	104	111	108
総計		449	474	485	370	422	395	34	350	369	484	444	325	338	349	396	399
組織片																	
イネ属穎珪酸体		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は１％未満の種類、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の種類を示す。

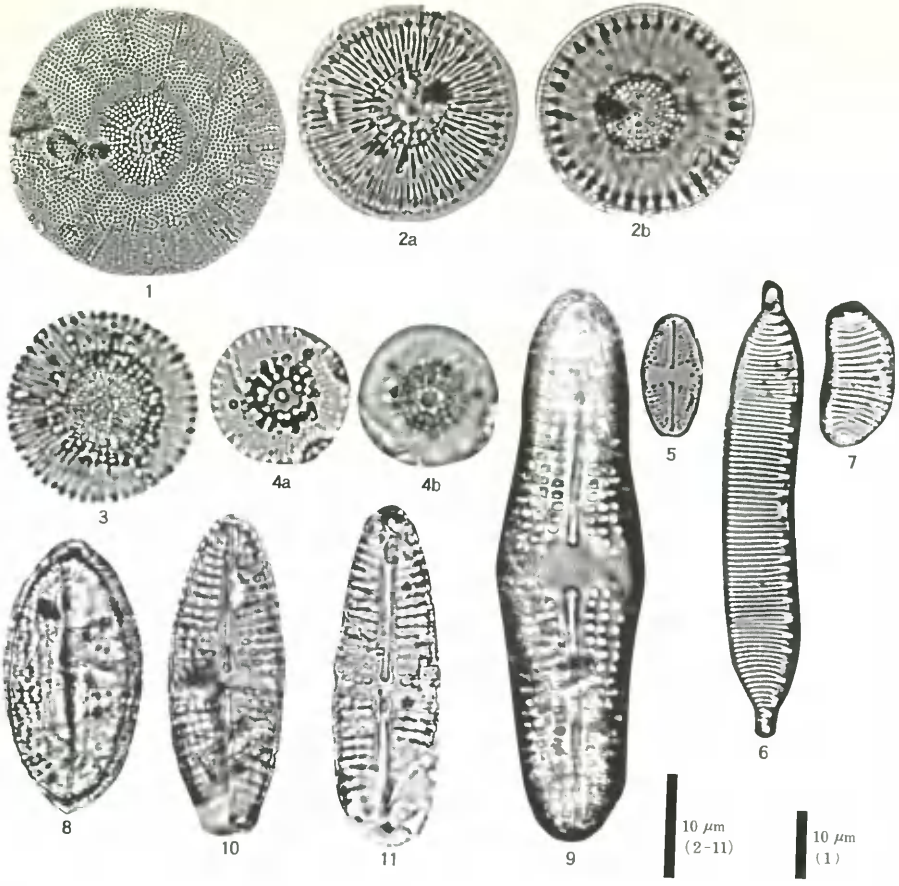
図２　北方地臓遺跡３区Ｄ調査区の植物珪酸体群集の層位的分布



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は１％未満の種類を示す。

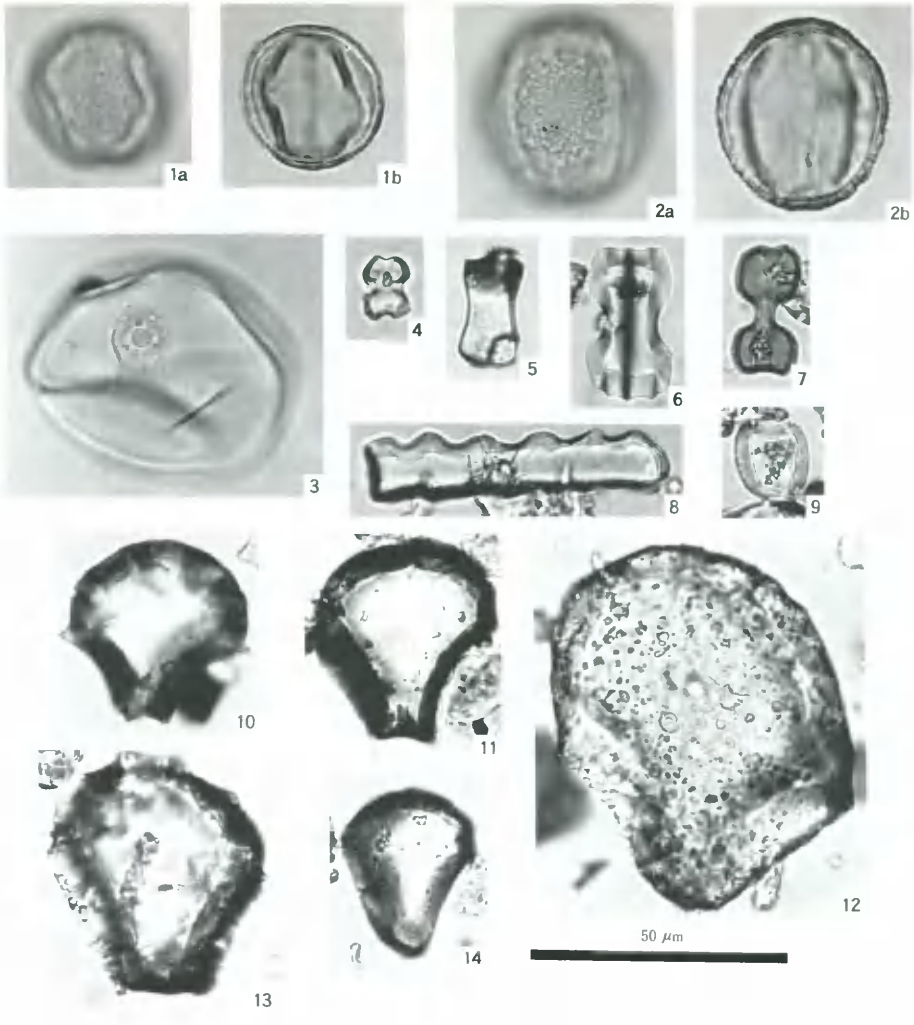
図４　北方中溝遺跡１区の植物珪酸体群集の層位分布図

究成果報告書，32ｐ．．
近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31－64．三好教夫（1988）岡山県の植生変遷史．岡植研，７，p.１－９．
三好教夫・臼井洋輔（1977）上東遺跡（岡山県）の花粉分析．昭和51年度特定研究「稲作の起源と伝播」年次報告，p.30－35．
パリノ・サーヴェイ株式会社（1993ａ）植物化石分析報告．岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84「百間川沢田遺跡３　旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅷ（本文）」，p.405－417，岡山県文化財保護協会．
パリノ・サーヴェイ株式会社（1993ｂ）自然科学分析．岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84「百間川沢田遺跡３　旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅷ（本文）」，p.418－426，岡山県文化財保護協会．
パリノ・サーヴェイ株式会社（1995）津寺遺跡西川調査区の土壌分析．岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98「津寺遺跡２　山陽自動車道建設に伴う発掘調査10（その２）」，p.629－634，岡山県文化財保護協会．
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定―古環境推定の基礎資料として―．考古学と自然科学，19，p.69－84．



1．*Stephanodiscus* sp.（北方中溝遺跡 7 区；17）
2．*Cyclotella* sp.（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；16）
3．*Cyclotella* sp.（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；2）
4．*Cyclotella* sp.（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；1）
5．*Navicua mutica* Kuetzing（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；14）
6．*Hantzschia amphioxys*（Ehr.）Grunow（北方中溝遺跡 7 区；18）
7．*Eunotis praerupta* Ehrenberg（北方中溝遺跡 7 区；17）
8．*Cocconeis* sp.（北方中溝遺跡 7 区；17）
9．*Achnanthes inflata*（Kuetz.）Grunow（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；15）
10．*Achnanthes crenulata* Grunow（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；13）
11．*Achnanthes crenulata* Grunow（北方地蔵遺跡 3 区 D 調査区；2）

図版２



1　コナラ属アカガシ亜属（北方中溝遺跡７区；17）
2．コナラ属コナラ亜属（北方中溝遺跡７区；17）
3　イネ科（北方中溝遺跡７区；17）
4．イネ属短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；１）
5　タケ亜科短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；12）
6．コブナグサ属短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；19）
7　ススキ属短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；４）
8．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区．１）
9　ヨシ属短細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；９）
10．イネ属機動細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；１）
11．イネ属機動細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区：18）
12．ヨシ属機動細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；４）
13．タケ亜科機動細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；12）
14．ウシクサ族機動細胞珪酸体（北方地蔵遺跡３区Ｄ調査区；20）

第4表　土製品一覧表

遺物番号	出土地区	遺構・土層	器種	重量(g)	時期	備考
C1	北方下沼遺跡	竪穴住居5	羽口		古墳時代前期	鈍い黄橙色
C2	北方下沼遺跡	竪穴住居6	羽口		古墳時代前期	灰色～黄橙色
C3	北方下沼遺跡	包含層	羽口		古墳時代前期	灰黄色
C4	北方下沼遺跡	包含層	羽口		古墳時代前期	先端には鉄滓付着
C5	北方横田遺跡1区	包含層	羽口		古墳時代前期	鈍い黄橙色
C6	北方横田遺跡1区	包含層	炉底滓	80	古墳時代	
C7	北方横田遺跡1区	包含層	炉底滓	65	古墳時代	
C8	北方横田遺跡1区	包含層	炉底滓	160	古墳時代	
C9	北方下沼遺跡	溝24	土錘	8.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C10	北方横田遺跡1区	溝24	土錘	5.7	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C11	北方下沼遺跡	溝24	土錘	4.2	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C12	北方下沼遺跡	溝24	土錘	1.9	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C13	北方横田遺跡1区	溝24	土錘	2.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C14	北方横田遺跡1区	溝24	土錘	3.4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C15	北方下沼遺跡	溝24	土錘	1.2	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C16	北方下沼遺跡	溝24上層	土錘	92.8	古代？	上下を欠く。黄灰色で軟質。丁寧な面取り。
C17	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C18	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘	2.6	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C19	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘	3.4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C20	北方横田遺跡2区	溝30	土錘	4.1	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C21	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘	4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C22	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘	9.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C23	北方横田遺跡2区	溝30	土錘	8.5	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C24	北方横田遺跡2区	溝30上層	土錘	7.9	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C25	北方横田遺跡2区	溝30下層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C26	北方中溝遺跡1区	溝11	土錘	48.4	弥生時代後期	完形品。
C27	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	24.2	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C28	北方中溝遺跡2区	溝35	土錘	10.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C29	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	10.2	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C30	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	8.7	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C31	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	5.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C32	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	5.4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C33	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	3.7	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C34	北方中溝遺跡2区	溝35	土錘	5.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C35	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	5.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C36	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	8.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C37	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	6.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C38	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	5.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C39	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	4.1	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C40	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	4.1	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C41	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	6.5	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C42	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C43	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C44	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C45	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C46	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	3.1	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C47	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘	2.6	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C48	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	3.5	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C49	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	5.5	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C50	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C51	北方中溝遺跡1区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C52	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	2.8	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C53	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C54	北方中溝遺跡1区	溝35	土錘	36.8	古代～中世	黒斑あり。
C55	北方中溝遺跡2区	包含層	土錘	2.2	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C56	北方中溝遺跡2区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C57	北方中溝遺跡2区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C58	北方中溝遺跡2区	包含層	土錘	7.6	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C59	北方地蔵遺跡3区	包含層	土錘	86.6	弥生後期？	やや大型の単孔土錘。
C60	北方地蔵遺跡2区	包含層	土錘	5.3	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C61	北方地蔵遺跡3区	包含層	土錘	4.9	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C62	北方地蔵遺跡3区	包含層	土錘	5.5	古代～中世	棒状単孔。土師質。

C63	北方地蔵遺跡２区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C64	北方地蔵遺跡１区	包含層	土錘	5.4	古代～中世	棒状単孔。土師質。
C65	北方地蔵遺跡２区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C66	北方地蔵遺跡２区	包含層	土錘		古代～中世	棒状単孔。土師質。
C67	北方地蔵遺跡２区	包含層	土錘	24.7	古代～中世	完形品。

第５表　石器・石製品一覧表

番　号	調　査　区	出　土　地　点	時　　期	器　　種	石　　材	重量g	残存率・備考
S１	北方下沼遺跡	包含層	弥生時代前期	石鏃？	サヌカイト	1.6	欠
S２	北方横田遺跡	水田９	弥生時代前期	磨製石包丁	粘板岩	58.2	完形品
S３	北方横田遺跡	溝５	弥生時代前期	スクレイパー	サヌカイト	17.8	完形品
S４	北方横田遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	0.8	完形品
S５	北方横田遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	1.2	欠
S６	北方横田遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	0.7	欠
S７	北方横田遺跡	包含層（水田層	弥生時代前期？	石鏃	サヌカイト	15.5	欠
S８	北方下沼遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	5.3	欠
S９	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石包丁	サヌカイト	62.3	完形品
S10	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石包丁	サヌカイト	11.7	欠
S11	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石包丁	サヌカイト	42.5	欠
S12	北方横田遺跡	包含層（水田層	弥生時代中期	石包丁	サヌカイト	16.2	欠
S13	北方横田遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	剝片	サヌカイト	31.4	完形品
S14	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	スクレイパー	サヌカイト	9.2	欠
S15	北方横田遺跡	包含層	弥生時代中期～後	不明	粘板岩	76.9	完形品
S16	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石斧	不明	121.8	完形品
S17	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石斧	花崗岩	302.5	完形品
S18	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石鏃	閃緑岩	269.3	完形品
S19	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	叩き石	花崗斑岩	268.3	欠
S20	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	叩き石	花崗斑岩	620.1	欠
S21	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	砥石	流紋岩	357.8	完形品
S22	北方下沼遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	砥石	流紋岩	620.7	欠
S23	北方横田遺跡	柱穴	弥生時代中期～後	砥石	流紋岩	966.8	欠
S24	北方下沼遺跡	包含層	古墳時代前期	勾玉	滑石	2	完形品
S25	北方下沼遺跡	包含層	古墳時代前期	有孔円板	滑石	6.6	欠
S26	北方下沼遺跡	包含層	古墳時代前期	勾玉	滑石	10.4	完形品
S27	北方中溝遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	スクレイパー	サヌカイト	24.5	完形品
S28	北方中溝遺跡	灰黒褐色土（包	弥生時代中期～後	スクレイパー	サヌカイト	22.9	欠
S29	北方中溝遺跡	黒色土	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	1.6	欠
S30	北方中溝遺跡	古代～中世溝	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	1.8	完形品
S31	北方中溝遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	1.9	完形品
S32	北方中溝遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	0.5	欠
S33	北方中溝遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	0.7	完形品、先端を
S34	北方中溝遺跡	包含層	弥生時代中期～後	石鏃	サヌカイト	2.5	完形品
S35	北方中溝遺跡	溝35	古代～中世	砥石	細粒花崗岩	938.4	欠
S36	北方中溝遺跡	溝35	古代～中世	砥石	石英斑岩	2300	欠
S37	北方中溝遺跡	包含層	古代～中世	砥石	流紋岩	116	欠
S38	北方中溝遺跡	近世以降の溝	中世	砥石	流紋岩	315.9	欠
S39	北方地蔵遺跡	溝９	弥生時代後期	石鏃	サヌカイト	0.8	欠
S40	北方地蔵遺跡	溝29	弥生時代後期	石鏃	サヌカイト	1.2	完形品
S41	北方地蔵遺跡	溝30	弥生時代後期	楔形石器	サヌカイト	6.4	完形品
S42	北方地蔵遺跡	溝	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	0.8	欠
S43	北方地蔵遺跡	水田層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	0.8	完形品
S44	北方地蔵遺跡	水田層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	0.8	欠
S45	北方地蔵遺跡	水田層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	0.9	完形品
S46	北方地蔵遺跡	包含層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	0.6	欠
S47	北方地蔵遺跡	包含層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	1	欠
S48	北方地蔵遺跡	水田層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	2.2	欠
S49	北方地蔵遺跡	包含層	弥生時代前期	石鏃	サヌカイト	2.2	欠

S50	北方地蔵遺跡	包含層	弥生時代中期前葉	石鏃	サヌカイト	2.3	欠
S51	北方地蔵遺跡	包含層	弥生時代中期前葉	石鏃	サヌカイト	1.4	欠

第6表　緑釉陶器観察表

実測図番号	掲載図番号	出土地区	出土遺構・層位	器種	釉調	素地	生産地	備考
		北方下沼遺跡	溝22	皿	濃緑	須恵	京都産（9C後半）	小片
		北方下沼遺跡	溝22下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
		北方下沼遺跡	溝22下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
		北方下沼遺跡	溝22下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
180	第66図	北方下沼遺跡	溝24	皿	濃緑	須恵	京都産（9C後半）	小片
		北方横田遺跡1区	中世水田	皿	淡灰緑	須恵	京都産9C後半～10C	小片
		北方横田遺跡2区	溝30	椀	灰緑	瓦質	防長産の可能性大	小片（被熱）
339	第81図	北方横田遺跡2区	溝30	皿	濃緑	須恵	京都産	
340	第81図	北方横田遺跡2区	溝30下層	壺？	淡黄緑	土師	京都産か？	
341	第81図	北方横田遺跡2区	溝30下層	椀	濃緑	土師	近江産10C後半	内面圏線、段あり、2片
342	第81図	北方横田遺跡2区	溝30	椀	濃緑	須恵	防長産？9C代	高台部
		北方横田遺跡2区	溝30下層	椀	濃緑	土師	近江産	三叉とちん痕跡
708	第171図	北方中溝遺跡1区	溝35	皿	濃緑	土師	近江産10C後半	段皿、圏線
709	第171図	北方中溝遺跡1区	溝35	椀	濃灰緑	須恵	京都産	高台部ケズリだし
710	第171図	北方中溝遺跡1区	溝35	壺？	淡黄緑	須恵	京都産？	
711	第171図	北方中溝遺跡1区	溝35	皿	濃灰緑	須恵	京都産	口縁部
712	第171図	北方中溝遺跡1区	溝35	皿	黒変	須恵	京都産	高台部（被熱）
715	第177図	北方中溝遺跡1区	淡灰黄色粘質土	皿	灰緑	須恵	京都産9C中～後半	口縁部内反で終わる
		北方中溝遺跡1区	溝35下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
		北方中溝遺跡1区	溝35下層	椀	淡緑	土師	近江産	小片
		北方中溝遺跡2区	溝35	椀	濃緑	土師	近江産10C末～11C	高台部
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	土師	近江産	小片
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	皿	灰緑	須恵	京都産	口縁部
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	近江産	小片
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	土師	近江産か防長産	口縁部
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	近江産	口縁部光沢
		北方中溝遺跡2区	溝35下層	椀	濃緑	須恵	近江産	高台部
878	第268図	北方地蔵遺跡2区	表採	壺	黄緑	土師	京都産か防長産か不明	底部完存。糸切底。
879	第268図	北方地蔵遺跡2区	表採	椀	黄緑	土師	防長産、9世紀代	小片
		北方地蔵遺跡3区	側溝	椀	黄緑	土師	防長産9C～10C	高台部完存。
		北方地蔵遺跡3区	中世土壙	椀	淡黄緑	土師	防長産9C～10C	2片接合。（被熱？）

第7表　土器観察表

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
1	縄文土器	鉢	にぶい黄 2.5Y6／3	外面の一部にタール状の付着痕あり。	北方横田遺跡2区	津島遺跡4区	溝30	SD10
2	弥生土器	蓋	にぶい黄橙 10YR7／3	外面に丹が残っており、彩文土器であった可能性高い。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦東1層
3	弥生土器	壺	橙 5YR6／6	頸部に段。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦
4	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	外面タテハケ。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦～東1層
5	弥生土器	鉢	にぶい橙 7.5YR7／4	内外面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦～東I層
6	弥生土器	壺	橙 5YR6／6	胴部上位に2条の沈線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦上層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
7	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	内外面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
8	弥生土器	甕	橙 5YR6／6	口縁部キザミ目。胴部8条のヘラ描き沈線。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	北東1層
9	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部キザミ目。煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
10	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	口縁部キザミ目。ヘラ描き沈線2条。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅱ層上面
11	弥生土器	甕	灰白 2.5Y7／1	L字状口縁。ヘラ描き沈線6条巡る。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	北東1層
12	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	L字状口縁。ヘラ描き沈線6条巡る。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
13	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2		北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
14	弥生土器	壺	橙 5YR6／8	外底部は上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
15	弥生土器	甕	にぶい橙 5YR6／4	底部穿孔。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	Ⅰ～Ⅱ層上
16	弥生土器	甕	灰褐 5YR5／2	内面に煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	大畦上層
17	弥生土器	壺	灰褐 7.5YR6／1	外底部は上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区	水田1・2関連	東水田耕土
18	弥生土器	甕	にぶい橙 5YR6／4	被熱により器表面剝落。	北方横田遺跡1区	津島2区	水田3	
19	弥生土器	壺	褐灰 10YR5／1	ケズリダン突帯上に沈線。	北方横田遺跡2区	津島4区	水田9	下層水田層
20	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／4	完成品。底部に豆類の圧痕。胴部上位に煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	溝3	SD18
21	弥生土器	甕	灰黄褐 10YR4／2	口縁部キザミ目。13条のヘラ描き沈線。	北方下沼遺跡	津島1区	溝3	SD18
22	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	被熱により赤変。	北方下沼遺跡	津島1区	溝3	SD18
23	弥生土器	甕	橙 5YR6／6	外底部には穿孔を試みた痕跡が残る。	北方下沼遺跡	津島1区	溝3	SD18
24	弥生土器	甕	黄橙 7.5YR7／8	L字口縁にはキザミ目。5条のヘラ描き沈線。	北方下沼遺跡	津島1区	溝4	SD16
25	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	胴部下半ヘラミガキ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝5	SD15 最下層
26	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	胴部上位にヘラ描き沈線。口縁部キザミ目。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
27	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／4	頸部にヘラ描き沈線。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
28	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
29	弥生土器	壺	にぶい橙 7.5YR7／3		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
30	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR6／4	頸部にヘラ描き沈線。	北方下沼遺跡	津島1区		№6
31	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR6／4	口縁部に刺突文。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
32	弥生土器	甕	灰白 2.5Y8／1	煤付着。口縁部キザミ目。	北方下沼遺跡	津島1区		北側溝一括
33	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部キザミ目。胴部上位にヘラ描き沈線14条。	北方下沼遺跡	津島1区		淡黄色砂質土
34	弥生土器	甕	浅黄 2.5Y7／3	内面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
35	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR／4	外面ハケメ。内面ケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
36	弥生土器	長頸壺	にぶい橙 7.5YR7／4	外面ハケメ。内面ケズリ。頸部に接合痕。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
37	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／3	口縁上端に凹線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
38	弥生土器	台付壺	浅黄橙 7.5YR8／3	胴部内面はケズリ。台部器壁は分厚い。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
39	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／4	ほぼ完形。外面はナデ、ハケメ調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
40	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部はやや上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
41	弥生土器	甕	明褐灰 5YR7／2	外面タテハケ。内面ケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝16	SD17
42	弥生土器	甕	灰黄褐 10YR6／2	小片。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝12	SD13
43	弥生土器	壺	にぶい橙 7.5YR6／3	無頸壺の口縁部。刺突文が巡る。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝12	SD13
44	弥生土器	壺	オリーブ褐 2.5Y4／3	外面ヘラミガキ、内面ケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝13	SD14
45	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／4	内面ケズリ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝15	SD10
46	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／4	胴部外面ヘラミガキ、内面ケズリ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
47	弥生土器	壺	浅黄橙 7.5YR8／4		北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
48	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部凹線。頸部タテハケ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
49	弥生土器	高杯	明赤褐 2.5YR5／6	杯部内外面ヘラミガキ、ナデ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
50	弥生土器	壺	にぶい橙 5YR7／4	内面ユビオサエ痕。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
51	弥生土器	壺	浅黄橙 7.5YR8／4		北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
52	弥生土器	壺	灰白 2.5Y8／1	外面ヘラミガキ、内面ケズリ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝16	SD11
53	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／3	精製土器	北方横田遺跡1区	津島2区	溝17	SD12
54	弥生土器	ミニチュア土器	にぶい橙 7.5YR7／4	手づくね土器。指頭痕残す。	北方下沼遺跡	津島1区	溝17	SD12
55	弥生土器	甕	浅黄橙 10YR8／3	底部上げ底。	北方横田遺跡1区	津島3区	土壙1	SK01 上層
56	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	胴部外面タテハケ、内面ケズリ。煤付着。	北方横田遺跡1区	津島3区	土壙1	SK01 上層
57	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR6／3	外底部上げ底、ミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
58	弥生土器	鉢	にぶい橙 7.5YR7／3	外底部上げ底、刻痕あり。	北方下沼遺跡	津島1区		SD05 上層
59	弥生土器	壺	灰黄 2.5Y7／2	外底部上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
60	弥生土器	壺	灰褐 7.5YR5／2	内面は被熱により器表面剝落。	北方横田遺跡1区	津島3区		SD13
61	弥生土器	鉢	にぶい橙 7.5YR7／3	外底部上げ底。	北方横田遺跡1区	津島2区		SD01
62	弥生土器	壺	橙 5YR6／6		北方横田遺跡1区	津島3区		XⅡ層（包含層）
63	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3		北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
64	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
65	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2		北方下沼遺跡	津島1区		東水田直上 1層
66	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
67	弥生土器	壺	灰白 2.5Y8／2	外底部上げ底。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
68	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／4	口縁部には竹管文を加飾する。	北方下沼遺跡	津島1区		SH2 P1

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
69	弥生土器	甕	浅黄橙 10YR8／3	口縁部には凹線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区		SH2 覆土
70	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部には凹線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区		SD09
71	弥生土器	甕	淡黄 2.5Y8／3	口縁部には凹線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
72	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部には凹線が巡る。胴部煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区		SD04
73	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部には凹線が巡る。胴部煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
74	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部上端には凹線が巡る。杯部はヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
75	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部上端には凹線が巡る。杯部はヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD04
76	黒色土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2	脚部には細長い三角形の透かし孔が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区		SD05 上層
77	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2	脚部には櫛描き沈線文が飾られる。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
78	弥生土器	高杯	灰黄 2.5Y7／2	脚部には櫛描き沈線文が飾られる。	北方下沼遺跡	津島1区		SD05 上層
79	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部には凹線が巡る。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
80	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部には凹線が巡る。	北方横田遺跡1区	津島2区		V層（上層）
81	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部ヨコナデ。	北方横田遺跡1区	津島2区		XⅢ層（包含層）
82	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR6／3	胴部内面ヘラケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD05 下層
83	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／6	口縁部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
84	弥生土器	甕	にぶい橙 5YR6／4		北方下沼遺跡	津島1区		SK10 下層
85	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
86	弥生土器	鉢	にぶい黄橙 10YR7／2	胴部外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ。	北方横田遺跡1区	津島3区		Ⅸ層（包含層）
87	弥生土器	鉢	浅黄橙 10YR8／4	口縁部ヨコナデ。	北方横田遺跡1区	津島2区		SD01
88	弥生土器	製塩土器	にぶい橙 5YR6／4	被熱。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
89	弥生土器	製塩土器	にぶい赤褐 7.5R5／3	被熱。	北方横田遺跡2区	津島4区		水田層
90	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／4	ミニチュア土器。内面にはユビオサエ痕残す。	北方横田遺跡1区	津島2区		V層（包含層）
91	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	内外面にハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1 覆土
92	土師器	壺	橙 5YR7／6	煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1 床面着
93	土師器	高杯	橙 7.5YR7／6	ハケメ、ナデ調整。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1
94	土師器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4	ハケメ、ナデ調整。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1
95	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR6／4	内外面にハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1 覆土
96	土師器	甕	浅黄橙 10YR8／4	外面ハケメ、内面ヘラケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居1	SH1 床上
97	土師器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居2	№12土壙
98	土師器	甕	暗灰黄 2.5Y5／2	内面ハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居2	№12住居
99	韓式土器	鉢	橙 7.5YR6／6		北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居3	SH4
100	土師器	甕	にぶい黄橙 10YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居3	SH4
101	土師器	甕	灰黄 2.5Y6／2	外面ハケメ、内面ヘラケズリ。煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居3	SH4 P5
102	土師器	鉢	浅黄橙 7.5YR8／4	内外面ユビオサエ、ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居4	SH3 床着
103	土師器	高杯	橙 2.5YR6／8	外面は丁寧なナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居4	SH3 床着
104	土師器	甕	にぶい橙 5YR6／3	被熱により胴部赤変。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居4	SH3 床着
105	土師器	鉢	浅黄橙 10YR8／3	外面ナデ、内面ケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居5	SH2 床着
106	土師器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	竪穴住居5	SH2
107	土師器	高杯	橙 7.5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	掘立柱建物1	SB1 P1
108	土師器	壺	浅黄橙 10YR8／4	内外面にハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	掘立柱建物1	SB1 P4
109	土師器	高杯	にぶい橙 7.5YR6／4	内外面にハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	掘立柱建物1	SB1 P4
110	土師器	坩	橙 7.5YR7／6	口頸部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝21	SD03
111	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	外面ハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝21	SD03
112	土師器	高杯	橙 5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	土壙2	SK11
113	土師器	高杯	橙 7.5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	土壙3	SK3
114	弥生土器	高杯	橙 5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	土壙5	SK04
115	弥生土器	高杯	浅黄橙 7.5YR8／4	器表面磨滅。	北方下沼遺跡	津島1区	土壙6	SK05
116	土師器	壺	橙 2.5YR7／8		北方下沼遺跡	津島1区	土壙7	SK09
117	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	口縁部内面ハケメ。胴部内外面には指頭痕残る。	北方下沼遺跡	津島1区	土壙8	SK10 上層
118	土師器	高杯	にぶい黄 2.5Y6／3		北方下沼遺跡	津島1区	土壙8	SK10
119	土師器	壺	浅黄橙 7.5YR8／3	外面ハケメ、内面ヘラケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区	土壙8	SK10 上層
120	土師器	鉢	にぶい黄橙 10YR6／3	外底部には木葉圧痕が残る。	北方下沼遺跡	津島1区	柱穴	P3
121	弥生土器	高杯	浅黄橙 10YR8／3		北方下沼遺跡	津島1区	柱穴	P15
122	弥生土器	高杯	浅黄橙 7.5YR8／6	煤付着、蓋に転用か。	北方下沼遺跡	津島1区	柱穴	P4
123	韓式土器	鉢	にぶい黄橙 10YR7／3	土師質。体部外面に格子目タタキ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
124	韓式土器	鉢	橙 5YR7／6	土師質。体部外面に格子目タタキ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
125	韓式土器	甑	黒褐 2.5Y3／1	外面に格子目タタキ。底部円孔の痕跡。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
126	須恵器	蓋	灰白 N7／Y	天井部ケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
127	須恵器	蓋	灰白 5Y7／1	天井部と体部の境界には突帯。	北方下沼遺跡	津島1区		SD04
128	須恵器	蓋	灰白 N7／Y		北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
129	須恵器	蓋	灰 N6／	天井部に櫛描き文が巡る。	北方横田遺跡2区	津島4区		T2
130	須恵器	壺	灰白 N7／B	頸部に2条の突帯が巡り、その間に櫛描き波状文。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
131	須恵器	壺	灰 N6／B	頸部に2条の突帯が巡り、その間に櫛描き波状文。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
132	須恵器	高杯	灰白 N7／B	台部か。円孔あり。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
133	須恵器	杯	青灰 5B5／1	底部ヘラケズリ。	北方横田遺跡2区	津島4区		SD01 下層
134	須恵器	蓋	灰 N6／		北方下沼遺跡	津島1区		№14住居
135	土師器	甕	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
136	土師器	壺	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
137	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	内外面ハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
138	土師器	甕	淡黄 2.5Y8／3	胴部外面は荒いハケメ。	北方横田遺跡1区	津島2区		V層（上層）
139	土師器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3		北方下沼遺跡	津島1区		包含層
140	土師器	壺	橙 7.5YR7／6	胴部ハケメ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
141	土師器	壺	淡黄 2.5Y8／3	胴部は球形。煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
142	土師器	甕	橙 7.5YR6／6	口縁部ヨコナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
143	土師器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4	完形片。	北方下沼遺跡	津島1区		SD08
144	土師器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区		№14住居
145	土師器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
146	土師器	高杯	浅黄橙 7.5YR8／6	脚部内面にはシボリ目。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
147	土師器	高杯	浅黄橙 10YR8／4	脚部内面にはシボリ目。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
148	土師器	高杯	浅黄橙 10YR8／4		北方下沼遺跡	津島1区		№14住居
149	土師器	高杯	橙 2.5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
150	土師器	高杯	橙 5YR6／8		北方横田遺跡1区	津島2区		SD06
151	土師器	甕	灰黄 2.5Y7／2	尖底となる。被熱による赤変顕著。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
152	土師器	ミニチュア土器	浅黄橙 7.5YR8／6	手づくね土器。指頭痕残す。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
153	土師器	ミニチュア土器	橙 7.5YR6／6	手づくね土器。指ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 上層
154	土師器	ミニチュア土器	にぶい黄橙 10YR6／4	手づくね土器。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
155	土師器	ミニチュア土器	にぶい黄橙 10YR7／4	手づくね土器。脚部内面シボリ目。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
156	土師器	ミニチュア土器	灰黄 2.5Y7／2	手づくね土器。	北方下沼遺跡	津島1区		SD05 下層
157	土師器	ミニチュア土器	にぶい黄橙 10YR7／2	手づくね土器。内面ヘラケズリ。	北方下沼遺跡	津島1区		SD06 下層
158	土師器	ミニチュア土器	にぶい黄橙 10YR7／4	手づくね土器。内外面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
159	土師器	ミニチュア土器	灰白 2.5Y8／2	手づくね土器。内外面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区		包含層
160	須恵器	椀	灰黄 2.5Y7／2	外底部糸切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 下層
161	土師器	中皿	にぶい橙 5YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 下層
162	瓦器	椀	灰黄 2.5Y7／2	内面に暗文。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
163	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
164	土師器	椀	灰黄 2.5Y8／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 下層
165	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
166	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD04 上層
167	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD04 上層
168	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD04 上層
169	土師器	椀	浅黄橙 10YR8／3	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD06 上層
170	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
171	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外面指頭圧痕。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
172	土師器	小皿	浅黄橙 7.5YR8／3	外面指頭圧痕。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
173	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外面ナデ、指頭圧痕。	北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
174	土師器	皿	灰白 10YR8／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝22	SD05 上層
175	須恵器	杯	灰白 2.5Y7／1	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
176	須恵器	杯	灰白 2.5Y8／1		北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
177	須恵器	杯	灰白 2.5Y8／1	瓦質。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
178	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	黒色土器の一種か。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
179	土師器	椀	黄灰 2.5Y5／1	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝23	SD08
180	緑釉陶器	皿	灰白 5Y4／1	素地は須恵質。京都産。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD01
181	須恵器	杯	灰 N6／	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
182	須恵器	椀	灰 7.5Y6／1	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
183	須恵器	杯	青灰 10BG6／1	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
184	須恵器	杯	灰白 N7／Y	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD08 下層
185	須恵器	杯	オリーブ灰 2.5GY6／1	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
186	須恵器	椀	灰 N5／B	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
187	須恵器	杯	黄灰 2.5Y6／1		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
188	須恵器	杯	灰白 5Y7／1		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
189	黒色土器	椀	暗灰 N3／	内外面丁寧なヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
190	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	内外面丁寧なヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
191	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	内外面丁寧なヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
192	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	内外面丁寧なヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
193	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	内面ヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
194	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR6／4	内面ヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
195	黒色土器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
196	黒色土器	椀	明黄褐 10YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
197	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	内面ヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
198	黒色土器	椀	浅黄橙 7.5YR8／3	内面ヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
199	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
200	黒色土器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
201	黒色土器	椀	橙 5YR7／6		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
202	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／4		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝
203	黒色土器	椀	オリーブ黒 10Y3／1		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
204	黒色土器	鉢	灰黄褐 10YR6／2	体部内面ヘラミガキ。煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
205	黒色土器	鉢	にぶい黄橙 7.5YR7／4	内面丁寧なヘラミガキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
206	瓦器	椀	浅黄 5Y7／3	内面に暗文。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝8
207	瓦器	椀	灰白 5Y8／2	内面に暗文。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
208	瓦器	椀	浅黄 5Y7／3	内面に暗文。貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝8
209	青磁	壺	不明	釉は明淡緑色。南宋か。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
210	土師器	椀	灰白 2.5Y7／1	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
211	土師器	椀	浅黄 2.5Y7／3	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
212	黒色土器	椀	浅黄 2.5Y7／3		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
213	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
214	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
215	黒色土器	椀	にぶい赤橙 10R6／3		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
216	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
217	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。完形品。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	№6大溝
218	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝
219	土師器	椀	灰白 7.5YR8／1	早島式土器か不明瞭。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
220	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器か不明瞭。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
221	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝
222	土師器	杯	灰白 10YR8／2	外底部ヘラ切り後不調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
223	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7／5		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
224	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7／3		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
225	土師器	皿	浅黄橙 7.5YR8／4	ほぼ完形品。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	T8
226	土師器	大皿	浅黄橙 7.5YR8／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
227	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
228	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
229	土師器	小皿	灰黄褐 10YR6／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
230	土師器	皿	灰白 10YR7／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
231	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	内面に煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
232	土師器	皿	灰黄 2.5Y7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
233	土師器	小皿	灰白 10YR8／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
234	土師器	皿	灰黄 2.5Y7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
235	土師器	皿	灰黄 2.5Y7／2	口縁部に煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
236	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
237	土師器	小皿	灰白 10YR8／2	ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
238	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
239	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／4	ナデ、指頭調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
240	土師器	皿	浅黄 2.5Y7／3	ナデ、指頭調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
241	土師器		にぶい黄橙 10YR7／3	ナデ、指頭調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
242	土師器	皿	灰黄褐 10YR6／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 上層
243	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／3	ナデ。指頭調整。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06
244	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR8／3	ヘラ切り後、ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
245	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	ヘラ切り後、ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
246	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
247	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
248	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
249	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／3	貼付高台。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
250	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR6／3	早島式土器か。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
251	土師器	椀	灰黄褐 10YR6／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
252	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7.5／4	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝中層
253	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
254	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
255	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
256	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
257	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
258	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
259	土師器	皿	灰白 10YR8／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
260	土師器	椀	灰黄 2.5Y7／2	外底部ヘラ切り後ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
261	土師器	椀	灰白 10YR8／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
262	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
263	土師器	椀	明褐灰 7.5YR7／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
264	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
265	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
266	土師器	皿	灰白 2.5Y8／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
267	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR6／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
268	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
269	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
270	土師器	皿	灰白 10YR8／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
271	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
272	土師器	皿	灰白 2.5Y7／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
273	土師器	小皿	灰白 2.5Y7／1	内面に煤付着。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
274	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／4	完形品。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝下層
275	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	ヘラ切り後、ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
276	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
277	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
278	土師器	小皿	灰白 2.5Y7／1	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
279	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
280	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
281	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	大溝上層
282	土師器	甕	灰黄褐 10YR6／2	外面煤付着。内面ナデ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	SD06 下層
283	瓦	平瓦	灰 N4／Y	凸面格子目タタキ。	北方下沼遺跡	津島1区	溝24	溝
284	瓦	平瓦	灰黄 2.5Y7／1～7／2	凸面格子目タタキ。	北方横田遺跡	津島	溝24	溝
285	土師器	杯	灰白 2.5Y7／1	瓦質。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01
286	黒色土器	椀	暗褐灰 7.5YR7／2		北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01
287	土師器	椀	灰黄 2.5Y7／2	貼付高台。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 下層
288	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4	早島式土器。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01
289	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01
290	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR9／4	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡	津島	溝24	T11
291	土師器	皿	明褐灰 7.5YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01
292	土師器	皿	灰白 10YR7／1	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 下層
293	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4		北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 上層
294	土師器	皿	灰白 2.5Y7／1	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 上層
295	土師器	皿	にぶい橙 5YR6／4	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 下層
296	瓦	平瓦	灰黄 2.5Y6／1	凸面斜格子タタキ。	北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 下層
297	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方横田遺跡1区	津島2区	溝24	SD01 下層
298	須恵器	杯	灰白 2.5Y6／1	瓦質。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
299	瓦器	椀	灰 N4／	暗文。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
300	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
301	土師器	皿	にぶい橙 5YR6／4	丹塗り。	北方横田遺跡2区	津島3区	溝24	T5
302	土師器	椀	橙 7.5YR7／4	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
303	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／3	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
304	土師器	椀	灰白 2.5Y7／1	底部に穿孔。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
305	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	底部ヘラ切り。	北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
306	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4		北方横田遺跡2区	津島6区	溝24	SD01
307	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／3	内面ヘラミガキ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
308	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
309	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
310	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
311	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
312	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方横田遺跡1区	津島6区	溝30	SD01
313	黒色土器	椀	にぶい黄橙 8.75YR7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
314	黒色土器	椀	灰 N4／		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
315	須恵器	杯蓋	灰 10Y6／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
316	須恵器	杯	灰 7.5Y6／1	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
317	須恵器	杯	灰白 5Y8／1	貼付高台。	北方横田遺跡1区	津島3区	溝30	大溝下層
318	須恵器	杯	灰白 5Y7／1	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
319	須恵器	杯	灰白 N7／Y	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
320	須恵器	横瓶	灰白 SY8／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
321	須恵器	短頸壺	灰 10Y6／1	肩部に自然釉。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 上層
322	須恵器	平瓶	灰 N6.6／	提梁のみ。丁寧な面取り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
323	須恵器	杯	灰黄 2.5Y7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
324	須恵器	杯	灰 7.5Y6／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
325	須恵器	杯	灰白 5Y7／1	瓦質。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
326	須恵器	壺	灰 10Y5／1	内面に自然釉付着。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
327	須恵器	杯	灰 N6／	貼付高台。	北方横田遺跡1区	津島3区	溝30	大溝下層
328	須恵器	壺	青灰 5B6／1	内面に同心円タタキ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
329	須恵器	甕	灰 10Y6／1	内面に同心円タタキ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
330	須恵器	椀	灰白 5Y8／1	内面に墨書痕跡。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
331	須恵器	椀	灰 5Y6／1	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
332	須恵器	椀	灰白 7.5Y7／1	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
333	須恵器	椀	灰白 2.5Y7／1	外底部糸切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
334	須恵器	椀	灰白 10Y7／1	外底部糸切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
335	亀山焼	甕	灰 N6／	内面に同心円タタキ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 上層
336	須恵器	鉢	黄灰 2.5Y6／1	東播系。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	包含層
337	須恵器	壺	灰白 N7／	外底部糸切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
338	瓦	平瓦	灰白	凸面は縄目タタキ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
339	緑釉陶器	皿	オリーブ 2.5GY5／1	素地は須恵質。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
340	緑釉陶器	壺	明緑色	素地は須恵質（瓦質）。防長産か。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
341	緑釉陶器	椀	浅黄橙 7.5YR8／4	素地は土師質。見込みに段状に巡る圏線。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
342	緑釉陶器	椀	暗緑色		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
343	土師器	杯	灰黄 2.5Y7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
344	土師器	杯	橙 7.5YR6／6	内外面丹塗り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 中層
345	土師器	杯	灰白 10YR8／2	内外面丹塗り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 中層
346	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7／3	外底部ヘラ切りの後、指オサエ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
347	土師器	皿	浅黄 5Y7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
348	土師器	杯	黄灰 2.5Y7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
349	土師器	椀	灰白 10YR7／1	早島式土器と同様な焼成・色調。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
350	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
351	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
352	土師器	椀	浅黄 2.5Y7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
353	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
354	土師器	椀	灰白 10YR7／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
355	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部に煤付着。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
356	土師器	椀	灰黄 2.5Y6／2	内面横位のハケ目。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
357	土師器	椀	橙 5YR7／6		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
358	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	貼付高台。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
359	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR8／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
360	土師器	椀	にぶい黄橙 8.75YR7／3	体部下位指オサエ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
361	土師器	皿	浅黄橙 10YR8／3		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
362	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
363	土師器	皿	黄灰 2.5Y4／1	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
364	土師器	皿	灰白 10YR7／1	完形品。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
365	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
366	土師器	皿	にぶい橙 8.75YR7／2	外底部ヘラ切り後、ナデ。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
367	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	内面煤付着。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
368	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
369	土師器	皿	灰黄 2.5Y7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
370	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
371	土師器	皿	灰白 2.5Y7／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
372	土師器	皿	灰白 2.5Y7／1	完形品。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
373	土師器	皿	灰白 10YR8／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
374	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
375	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
376	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。ほぼ完形品。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
377	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
378	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
379	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
380	土師器	椀	灰白 10YR7／1	早島式土器。内底部に重ね焼痕跡。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
381	土師器	椀	灰白 2.5Y7／1	早島式土器。内底部に重ね焼痕跡。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
382	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1.5	早島式土器。完形品。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
383	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。ほぼ完形品。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 上層
384	土師器	羽釜	にぶい橙 7.5YR7／4		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
385	白磁	碗	灰白 7.5Y7／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 上層
386	白磁	皿	灰白 7.5Y8／1	北宋の白磁か。体部外面下位は露胎。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
387	青磁	碗	灰白 5Y7／2	同安窯。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
388	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。外底部に墨書。「二」か。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01
389	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。外底部に墨書。「右」か。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
390	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。外底部に墨書。「十」か。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
391	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。外底部に墨書。「十」か。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 下層
392	土師器	椀	灰白 3.75Y8／1	早島式土器。	北方横田遺跡2区	津島4区	溝30	SD01 上層
393	須恵器	杯	灰白 5Y8／1		北方横田遺跡2区	津島4区	溝32	SD01
394	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／3	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
395	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／3	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
396	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／3	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
397	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8／2	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
398	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8／3	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
399	黒色土器	椀	灰白 10YR8／1	内外面共に丁寧なミガキ。内面黒色。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
400	土師器	杯	浅黄橙 7.5YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX02
401	土師器	皿	明黄褐 10YR7／6		北方横田遺跡1区	津島2区	土壙9	SX01
402	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1.5	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙14	SK10
403	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
404	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
405	土師器	皿	にぶい橙 2.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
406	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
407	土師器	皿	浅黄橙 10YR8／3	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
408	青磁	鉢	灰白 N8／	暗灰緑色の釉面には、貫入がみられる。	北方中溝遺跡1区	津島4区	土壙17	SK04
409	土師器	杯	灰白 2.5Y7／1		北方中溝遺跡1区	中溝8区	水田17	水田層上層
410	縄文土器	鉢	褐灰 10YR6／1	外面沈線文で、磨り消し縄文と縄文がある。	北方中溝遺跡1区	中溝4区		SD01
411	縄文土器	甕	黄灰 2.5Y6／1～5／1	沈線2条。器表面磨滅。	北方中溝遺跡1区	中溝8区		大溝(B)砂だまり
412	縄文土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	無文。	北方中溝遺跡1区	中溝7区		基盤層直上
413	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7.5／2	ケズリダシ突帯に1条の沈線が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	水田1	水田層直上
414	弥生土器	鉢	灰白 7.5YR8／2	体部上位にヘラ描き沈線3条。内面ヘラミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝3	SD10 下層
415	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2	ケズリダシ突帯に3条の沈線が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝6	SD02
416	弥生土器	蓋	灰白 2.5Y8／2	中央に穿孔。紐を通す穴か。	北方中溝遺跡1区	中溝4区		SD02

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
417	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区		pit3
418	弥生土器	長頸壺	にぶい黄橙 10YR7／2	胴部上位に動物の線刻。器体の損傷目立つ。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
419	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／3	胴部最大部分に綾杉状の刺突文。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
420	弥生土器	壺	橙 2.5YR6／6	胴部上位に二枚貝腹縁文が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
421	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	頸部に刺突文が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
422	弥生土器	甕	灰白 2.5Y8／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
423	弥生土器	長頸壺	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部内側に2条の凹線が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 肩口
424	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2	頸部下位に2枚貝の刺突文。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
425	弥生土器	長頸壺	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
426	弥生土器	長頸壺	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 下層
427	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
428	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
429	弥生土器	甕	にぶい橙 5YR7／4		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
430	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
431	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	底部に焼成後穿孔。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
432	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
433	弥生土器	高杯	浅黄橙 7.5YR8／4	外面丁寧なミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
434	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR6／4		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
435	弥生土器	高杯	褐灰 10YR1／4		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
436	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／3	杯部、内外面ミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
437	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／3	脚部に透し穴。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
438	弥生土器	高杯	淡橙 5YR8／4		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
439	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2	櫛描き沈線文が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝9	SD02 上層
440	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝13	SD07 上層
441	弥生土器	鉢	浅黄 2.5Y7／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝14	SD08
442	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝15	SD02 上層
443	弥生土器	甕	灰白 2.5Y8／2		北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝17	SD04
444	弥生土器	甕	青黒 5B2／1	外底部ヘラミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝17	SD04
445	弥生土器	甕	浅黄 2.5Y7／3	口縁部には退化凹線が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝1区	溝20	SD01
446	弥生土器	甕	橙 5YR7／6	煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝30	SD05 中層
447	弥生土器	甕	橙 7.5YR7／6		北方中溝遺跡1区	中溝8区	溝30	SD05
448	弥生土器	長頸壺	灰黄 2.5Y6／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝31	SD06 中層
449	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部には櫛描き沈線文。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝31	SD06 中層
450	弥生土器	鉢	オリーブ黒 5Y3／1	内外面ハケ目。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝32	SD02 下層肩口
451	弥生土器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4	精製土器。杯部は丁寧なミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝32	SD02
452	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝32	SD02
453	弥生土器	鉢	灰黄 2.5Y7／2	鈍重なつくり。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝34	SD01 下層中層
454	弥生土器	鉢	浅黄橙 10YR8／3	内外面ハケ目。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝34	SD01 下層
455	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝34	SD01 下層肩口
456	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝34	SD01 肩口
457	土師器	甕	橙 5YR7／6		北方中溝遺跡1区	中溝1区	溝34	SD03
458	土師器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝1区	溝34	SD03
459	弥生土器	長頸壺	灰白 2.5Y8／2	復元完形品。全体に器表荒れる。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
460	弥生土器	長頸壺	にぶい黄橙 10YR7／2	復元完形品。全体に煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
461	弥生土器	壺	灰白 2.5Y8／1	復元完形品。煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
462	弥生土器	甕	灰白 10YR8／1	復元完形品。薄い底部は揚げ底。煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
463	弥生土器	甕	灰白 2.5Y8／1	復元完形品。煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
464	弥生土器	鉢	にぶい橙 5YR6／3	復元完形品。タール状煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
465	弥生土器	鉢	灰白 10YR7／1	復元完形品。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
466	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／1	復元完形品。櫛描き沈線文。円孔が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
467	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2	復元完形品。脚部は透かし穴で飾る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	土器溜り	SD02 土器溜り
468	弥生土器	壺	灰白 6／1	櫛描き平行沈線と波状文が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝8区		大溝
469	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2	貼付け突帯が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区		灰白色粘土層
470	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区		SD02、03
471	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2	2枚貝腹縁の刺突文で飾る。	北方中溝遺跡1区	中溝6区		SD02、03
472	弥生土器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／3	雲母を含む胎土は褐色で、特殊器台にみられる土。	北方中溝遺跡1区	中溝6区		灰色粘土
473	弥生土器	甕	浅黄橙 10YR8／3		北方中溝遺跡1区	中溝7区		SD01 下層肩口
474	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4		北方中溝遺跡1区	中溝7区		東拡張区1
475	弥生土器	壺	灰白 2.5Y8／2		北方中溝遺跡1区	津島1区		T1
476	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区		黒褐色粘土直上
477	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝7区		水田面
478	須恵器	平瓶	灰白 10YR8／1	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	津島1区	水田20	SD06 下層
479	須恵器	平瓶	灰白 N7／	肩部に円形浮文を飾る。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	水田20	第5水田面
480	須恵器	提瓶	灰白 N7／B	扁平なつくり。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	水田20	第5水田面
481	土師器	高杯	橙 7.5YR7／6		北方中溝遺跡1区	津島1区		水田層
482	土師器	甕	にぶい黄橙 10YR7.5／3	口縁部は櫛描き沈線。	北方中溝遺跡1区	中溝3区		古墳水田上
483	須恵器	蓋	明青灰 5PB7／1	天井部と体部の境界は突帯をなす。	北方中溝遺跡1区	中溝3区		古墳水田上

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
484	須恵器	蓋	灰白 N7／		北方中溝遺跡1区	中溝3区		古墳水田上
485	須恵器	蓋	灰白 N7／8		北方中溝遺跡1区	中溝3区		古墳水田上
486	土師器	鉢	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝1区		SD03
487	土師器	壺	浅黄 2.5Y7／4		北方中溝遺跡1区	中溝7区		洪水砂上
488	土師器	高杯	にぶい橙 2.5YR6／4		北方中溝遺跡1区	中溝4区		SD01
489	土師器	甕	浅黄橙 10YR8／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区		SD04
490	土師器	坩	浅黄橙 7.5YR8／4		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝32	SD02
491	土師器	坩	にぶい褐 7.5Y5／4	外面煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝32	SD02
492	土師器	甕	灰白 2.5Y7／1	手づくね土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区		大溝（C）
493	土師器	小型鉢	橙 7.5YR8／4	手づくね土器。	北方中溝遺跡2区	中溝9区		
494	土師器	甕	黄灰 2.5Y6／1	手づくね土器。	北方中溝遺跡2区	中溝9区	溝32	SD02
495	韓式土器	小型鉢	灰白 2.5Y7／1	胴部外面に細かな格子目タタキ。内面はナデ。	北方中溝遺跡2区	中溝8区		大溝
496	須恵器	蓋	灰 5Y6／1		北方中溝遺跡1区	中溝7区		洪水砂上
497	須恵器	高杯	青灰 5B6／1		北方中溝遺跡1区	中溝7区		洪水砂上
498	須恵器	蓋	灰白 5Y8／1		北方中溝遺跡1区	中溝6区		灰白色粘土層
499	須恵器	蓋	青灰 5PB6／1		北方中溝遺跡1区	中溝6区		包含層
500	須恵器	蓋	灰 N5.5／Y		北方中溝遺跡1区	中溝6区		灰色粘土層
501	須恵器	壺	灰 N4／	口頸部に櫛描き波状文。	北方下沼遺跡	津島		T1
502	須恵器	杯	灰 N6／		北方中溝遺跡1区	中溝5区		SD01
503	須恵器	蓋	灰白 N7／6		北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	包含層
504	須恵器	杯	灰白 N7／		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
505	須恵器	杯	灰白 2.5Y7／1	内外面共に丁寧なヨコナデ。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	中央トレンチ(C)
506	須恵器	杯	灰 2.5Y5／1	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
507	須恵器	杯	灰 N5／	灯心油痕か、煤付着。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD06 下層
508	須恵器	墨書土器	灰白 7.5Y7／1	外底部に墨書。「千」か。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
509	須恵器	杯	灰白 N8／	内外面ヨコナデ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
510	須恵器	杯	灰白 N7／	土師器杯に類似する。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
511	須恵器	椀	灰白 N7／8	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
512	須恵器	椀	灰 N5／	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
513	須恵器	杯	灰 N5／1	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
514	須恵器	椀	灰 7.5Y6／1		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
515	須恵器	椀	灰 N6／	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
516	瓦器	椀	灰 N4／Y	楠葉タイプ。内面横位の細かなミガキ（暗文）。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	SD01
517	須恵器	椀	灰 N5／	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
518	須恵器	椀	灰 N6／	貼付高台。口縁部に重ね焼の痕跡。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
519	黒色土器	椀	黒	瓦質。高い貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
520	須恵器	壺	灰 5Y5／1	瓦質焼成。揚げ底。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
521	須恵器	壺	灰 N6／B		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
522	須恵器	壺	青灰 5PB5／1	高く外方する貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
523	須恵器	鉢	灰白 5Y7／1	外底部に多数の刺突痕。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
524	須恵器	壺	灰白 N7／YR	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
525	須恵器	壺	灰 N5／	内面細かなハケ。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
526	須恵器	甕	灰白 7.5Y7／1		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
527	須恵器	甕	灰 N6／		北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
528	須恵器	甕	暗灰 N3／YR		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層
529	須恵器	鉢	灰白 N7／Y		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
530	須恵器	杯	灰白 N7／	外底部には火襷痕。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
531	須恵器	椀	灰白 5Y7／1	瓦質焼成。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
532	須恵器	鉢	灰白 5Y7／1	瓦質焼成。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
533	須恵器	甕	灰 7.5Y5／1		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	表採
534	須恵器	甕	灰 N5／0		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝(B)砂だまり
535	須恵器	甕	灰 N5／0		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
536	須恵器	甕	暗青灰 5B4／1		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01 下層
537	須恵器	鉢	青灰 5PB6／1	口縁部に自然釉。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
538	須恵器	甕	暗灰 N3／		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
539	須恵器	壺	灰白 5Y8／1		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
540	備前焼	壺	灰 7.5Y6／1	胴部上位に平行線文と波状文が巡る。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
541	瓦	平瓦	灰 N4／	亀山焼か？	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
542	瓦	平瓦	灰 N4／		北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
543	須恵器	杯	淡灰色	外底部不調整。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
544	須恵器	杯	灰 N4／		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
545	須恵器	椀	灰 N5／～4／	内面に重ね焼痕。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
546	須恵器	壺	灰 2.5Y0.5／1		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝肩口（C）
547	須恵器	壺	灰 5Y6／1	内面に淡灰緑色の自然釉。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
548	須恵器	平瓶	灰 N5／0		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
549	須恵器	長頸壺	灰 N6／～4／		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
550	須恵器	横瓶	灰 N5／		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
551	須恵器	長頸壺	灰 N5／		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
552	須恵器	椀	灰 N6／	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
553	須恵器	椀	灰 5Y6／1	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
554	須恵器	椀	灰色～灰褐色	口縁部に重ね焼痕跡。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
555	須恵器	椀	灰 N6／Y	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
556	須恵器	鉢	灰 N3.5／	内面に暗灰緑色を自然釉がみられる。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C） SD01
557	須恵器	甕	灰 10Y5／1		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
558	須恵器	壺	青灰 5PB6／1～5／1	胴部上位に突帯2条を巡らす。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
559	須恵器	甕	灰 N5／0		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
560	須恵器	甕	暗灰色	内面に「十」の車輪タタキ。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
561	須恵器	瓦	灰白 2.5Y7／1	凹面に斜格子文。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
562	須恵器	甕	灰 N6／Y		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	粘土層 砂利層
563	土師器	椀	にぶい橙 5YR7／4	内面煤付着。高い貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
564	土師器	椀	にぶい橙 5YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝7区	溝35	大溝下層
565	土師器	椀	灰白 2.5Y7／1	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
566	土師器	椀	淡赤橙 2.5YR7／4	体部内面に丹塗り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
567	土師器	椀	灰黄褐 10YR6／2	内面煤付着。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
568	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
569	土師器	椀	浅黄 2.5Y7／3		北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
570	土師器	椀	浅黄橙 7.5YR7／4	生焼けの須恵器か。外底部糸切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
571	土師器	杯	灰黄 2.5Y6／2		北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
572	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
573	土師器	皿	浅黄橙 7.5YR8／3	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
574	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
575	土師器	皿	にぶい橙 2.5YR6／4		北方中溝遺跡2区	中溝7区	溝35	大溝下層
576	土師器	皿	灰白 5Y7／1	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
577	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
578	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
579	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	体部下位に押圧痕。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
580	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡2区	中溝3区	溝35	SD01
581	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
582	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4		北方中溝遺跡2区	中溝7区	溝35	大溝中層 砂層
583	土師器	皿	灰白 5Y7／1	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
584	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
585	瓦質土器	羽釜	灰 N9／YR		北方中溝遺跡2区	中溝1区	溝35	東拡1
586	瓦質土器	羽釜	浅黄 2.5Y7／4		北方中溝遺跡2区	中溝7区	溝35	大溝下層
587	土師器	鍋	にぶい黄橙 10YR6／3		北方中溝遺跡2区	中溝7区	溝35	トレンチ1
588	土師器	鍋	にぶい黄褐 10YR5／3		北方中溝遺跡2区	中溝4区	溝35	SD01
589	土師器	杯	橙 2.5YR6／6	内外面丹塗り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝肩口
590	土師器	杯	灰白 10YR7／1	内外面丹塗り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
591	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7／2	丹塗り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層
592	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
593	土師器	杯	灰褐 7.5YR6／2	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
594	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
595	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7／3	外底部ヘラ切り後ナデ。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
596	土師器	椀	淡橙灰褐色	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
597	土師器	椀	灰黄 2.5Y6／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
598	土師器	椀	にぶい橙 5YR6／4		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
599	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
600	土師器	椀	淡橙褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
601	土師器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
602	土師器	椀	灰黒褐色～くすんだ黄褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
603	土師器	皿	黄褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
604	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	貼付高台。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
605	土師器	小皿	淡橙褐色	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
606	土師器	皿	肌色がかったくすんだ橙灰色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
607	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
608	土師器	皿	黄褐色～灰茶褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
609	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR6／4	内面ハケ目。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）表採
610	土師器	皿	くすんだ黄褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
611	土師器	皿	灰色がかった黄灰褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
612	土師器	皿	橙褐色～灰黒色～灰褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
613	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
614	土師器	皿	淡黄褐色～淡黒灰色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
615	土師器	皿	淡橙褐色～淡黄褐色	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
616	土師器	皿	橙褐色～黄灰褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
617	土師器	皿	くすんだ淡灰褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
618	土師器	皿	淡橙褐色	内面被熱。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
619	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	底部押圧痕。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（C）
620	土師器	皿	灰褐色～淡黒灰色	体部下位による押圧痕。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
621	土師器	皿	淡黄褐色～淡橙褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
622	土師器	皿	淡橙褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
623	土師器	皿	淡橙褐色～淡黄白褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
624	土師器	皿	淡橙白色～灰黒色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
625	土師器	皿	くすんだ黄褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
626	土師器	小皿	淡橙褐色	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
627	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）
628	土師器	小皿	淡橙褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
629	土師器	小皿	淡橙褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
630	土師器	小皿	淡黄灰褐色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
631	土師器	椀	浅黄橙 7.5YR8／4		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	SD01
632	土師器	鍋	灰オリーブ 5Y6／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝下層（B）
633	黒色土器	蓋	灰白 2.5Y7／1	内面ヘラミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
634	黒色土器	椀	灰 N5／	体部と高台の間に鍔状突帯をもつ。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
635	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR6／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
636	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8／2	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
637	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
638	黒色土器	椀	橙 2.5YR6／6	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
639	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	古いタイプの早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層
640	黒色土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／3	内外面ミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
641	瓦器	椀	灰 N4／	底面に暗文。	北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝中層
642	瓦器	椀	オリーブ黒 7.5Y3／1	底面に暗文。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
643	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
644	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
645	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	近世水路
646	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
647	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
648	土師器	椀	灰白 7.5YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
649	土師器	椀	にぶい橙 5YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
650	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
651	土師器	椀	褐灰 7.5YR6／1	外底部ヘラ切り。	北方中溝遺跡1区	中溝5区	溝35	SD01
652	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	外底部ヘラ切り後ナデ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
653	土師器	小皿	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
654	土師器	皿	にぶい橙 5YR7／4		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
655	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
656	土師器	小皿	灰白 10YR8／2		北方中溝遺跡1区	中溝6区	溝35	大溝下層 砂利層
657	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
658	土師器	皿	浅黄橙 10YR8／4		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
659	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7／4	内外面ヨコナデ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
660	土師器	皿	黄灰 2.5Y6／1	内外面ヨコナデ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
661	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
662	土師器	皿	浅黄 2.5Y7／3	外底部ヘラ切り後ナデ。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
663	土師器	甕	黄灰 2.5Y4／1	内外面ハケ目。口唇部丸くおさまる。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
664	土師器	甕	灰 5Y4／1		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
665	瓦質土器	羽釜	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
666	土師器	甕	にぶい橙 2.5YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
667	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
668	黒色土器	椀	灰白 2.5Y7／1		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01 西側下層
669	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3	体部凹凸顕著。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
670	黒色土器	椀	灰黄 2.5Y7／2		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
671	黒色土器	椀	灰黄褐 10YR6／2		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01 下層
672	黒色土器	椀	灰白 2.5Y7／2	古式の早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
673	土師器	椀	灰白 10YR7／1	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
674	土師器	椀	灰黄褐 10YR6／2	煮沸に使われたものか、被熱。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
675	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
676	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
677	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
678	土師器	椀	灰白 2.5Y7／1	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
679	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
680	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。内面刷毛痕付着。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
681	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	東拡張区
682	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	東拡張区
683	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	粘土層 砂利層
684	黒色土器	椀	黒褐 10YR3／1		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）下層
685	黒色土器	椀	灰黄褐 10YR6／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）表採
686	黒色土器	椀	くすんだ黄褐色～灰黒色		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
687	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）
688	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（C）
689	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
690	瓦器	椀	灰 N4／Y	楠葉タイプ。内面に細かな暗文。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
691	土師器	椀	灰褐色～茶褐色～灰黒色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
692	土師器	椀	淡黄灰白色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
693	土師器	椀	乳白色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
694	土師器	椀	黄褐色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
695	土師器	椀	淡黄褐色	早島式土器。完形品。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
696	土師器	椀	黄褐色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
697	土師器	椀	黄褐色	早島式土器。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
698	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。外底部に「二」の墨書。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
699	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3	早島式土器。外底部に「二」の墨書。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
700	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。外底部に「二」の墨書。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
701	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。外底部に薄い墨痕。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
702	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。外底部に墨書。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
703	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。外底部に「十」の墨書。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝
704	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。外底部に墨書。「十」か。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
705	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。外底部に墨書。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
706	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。外底部に「十」の墨書。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
707	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。外底部に墨書。	北方中溝遺跡2区	中溝8区	溝35	大溝（B）下層
708	土師器	皿	浅黄橙 10YR8／4	素地は土師質。近江産か。	北方中溝遺跡1区	中溝3区	溝35	SD01
709	緑釉陶器	皿	灰 N5.5／1	素地は須恵質。京都産、9C後半か。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
710	緑釉陶器	壺	灰白 7.5Y7／1	素地は須恵質。外面は丁寧なミガキ。	北方中溝遺跡1区	中溝7区	溝35	大溝下層
711	緑釉陶器	椀	にぶい橙 5YR6／4		北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
712	緑釉陶器	皿	灰白 7／1	素地は須恵質。京都産。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
713	施釉陶器	壺	灰白 N7／YR	貼付高台。	北方中溝遺跡1区	中溝4区	溝35	SD01
714	須恵器	杯	灰 N5／Y		北方中溝遺跡1区	中溝4区		水田面
715	須恵器	皿	明青灰 5PB7／1	素地は須恵質。9C中葉～後葉。	北方中溝遺跡1区	中溝4区		淡黄灰色粘質土層
716	瓦	軒丸瓦	灰白 N7／B	十葉複弁蓮華文。	北方中溝遺跡1区	中溝7区		包含層
717	須恵器		灰白 7.5Y7／1	口縁内面に自然釉。	北方中溝遺跡1区	中溝7区		大溝肩
718	須恵器	壺	灰 10Y6／1	胴部上位に突帯2条。	北方中溝遺跡1区	中溝7区		T2
719	須恵器	甕	灰 N6／YR		北方中溝遺跡1区	中溝7区		大溝
720	土師器	杯	灰黄 2.5Y7／2	内外面丹塗り。	北方中溝遺跡1区	中溝4区		水田面
721	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。外底部に「十」の墨書。	北方中溝遺跡2区	中溝8区		最上層(C)粒土層
722	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。	北方中溝遺跡1区	中溝7区		包含層
723	須恵器	椀	灰白 7.5Y7／1		北方中溝遺跡2区	中溝10区		包含層
724	青磁	碗	灰オリーブ 7.5Y6／2	内面には櫛描き文。	北方中溝遺跡2区	中溝9区		包含層
725	青磁	碗	にぶい黄 2.5Y6／3		北方中溝遺跡1区	中溝4区		灰色粘質土層
726	青磁	碗	灰オリーブ 7.5Y5／2	体部外面には鎬蓮弁文。	北方中溝遺跡1区	中溝1区		中世水田（上層）
727	天目	碗	にぶい黄橙 10YR7／3	瀬戸天目。	北方中溝遺跡1区	中溝6区		近代溝
728	陶器	碗	灰白 5Y8／1	唐津。17C代か。	北方中溝遺跡1区	中溝6区		大溝砂層（上層）
729	備前焼	擂鉢	にぶい赤褐 5YR5／3		北方中溝遺跡1区	中溝3区		表土層
730	備前焼	擂鉢	赤灰 2.5YR5／1		北方中溝遺跡1区	中溝3区		表土層
731	備前焼	擂鉢	褐灰 7.5YR5／1		北方中溝遺跡1区	中溝3区		表土層
732	縄文土器	深鉢	明褐 7.5YR7／1	口縁部に爪形文。円形刺突文が巡る。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
733	縄文土器	浅鉢	褐灰 10YR4／1	口縁部に沈線。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
734	縄文土器	深鉢	褐灰 5YR4／1	縦横に沈線文。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
735	弥生土器	甕	にぶい褐 7.5YR6／3	口唇部に刻み目。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	溝6	SD10
736	弥生土器	甕	にぶい褐 7.5YR5／4	口唇部に刻み目。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	水田1	
737	弥生土器	甕	褐灰 10YR6／1	口唇部に刻み目。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	土壙1	
738	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	ヘラ描き沈線3条。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
739	弥生土器	甕	灰白 7.5Y8／2	ヘラ描き沈線3条。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
740	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	胴部下端ハケ目。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
741	弥生土器	蓋	にぶい黄橙 10YR7／3	焼成前穿孔。穿孔は対になる。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
742	弥生土器	甕	褐灰 10YR6／1	胴部上半ハケ目。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝8	SD10
743	弥生土器	甕	橙 2.5YR6／6		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝8	SD10
744	弥生土器	甕	灰白 7.5YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝12	SD09、58、59
745	弥生土器	壺	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝13	SD13、SD60
746	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR6／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝13	SD13、SD60
747	弥生土器	甕	灰白 2.5Y7／1	脚部下端ハケ目。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝13	SD13、SD60
748	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝13	SD13、SD60
749	弥生土器	長頸壺	浅黄橙 10YR8／3	頸部凹線7条。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝15	SD21、SD66
750	弥生土器	甕	灰黄褐 10YR5／2	外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝15	SD21、SD66
751	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2	脚部に黒斑あり。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝15	SD21、SD66
752	弥生土器	鉢	橙 7.5YR7／6	精製土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝15	SD21、SD66
753	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	底部焼成後穿孔。完成品。被熱。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝26	SD22、SD51
754	弥生土器	甕	灰白 10YR8／1	口縁部凹線3条。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝26	SD22、SD51
755	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝26	SD22、SD51
756	弥生土器	長頸壺	灰白 2.5Y7／1		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝29	SD26、SD69
757	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	刺痕跡。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝29	SD26、SD69
758	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2	頸部貼付突帯。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	溝33	SD05、SD02
759	弥生土器	壺	橙 2.5YR6／6		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
760	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR7／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
761	弥生土器	高杯	浅黄橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
762	弥生土器	高杯	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
763	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2	ヘラ描き沈線文。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
764	弥生土器	高杯	橙 5YR7／6	脚部下半竹管文が巡る。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝50	SD05、SD11
765	弥生土器	甕	浅黄橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝55	SD05、SD14
766	弥生土器	甕	灰白 10YR7／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	溝56	SD03、SD06
767	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	土壙7	
768	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／1	脚部下半櫛描き沈線文。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	土壙7	
769	弥生土器	高杯	赤橙 10YR6／6		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	土壙8	
770	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	土壙8	
771	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2	外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	たわみ1	
772	弥生土器	甕	橙 7.5YR7／6	被熱。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	たわみ1	
773	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部被熱。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	たわみ1	
774	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	外面煤付着。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	たわみ1	
775	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3	外面煤付着。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	たわみ1	
776	弥生土器	壺	淡黄 2.5Y3／8	胴部上半クシ描き直線文、波状文、刺突文。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	たわみ3	

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
777	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	たわみ3	
778	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	たわみ5	
779	弥生土器	甕	淡黄 2.5Y8／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	たわみ5	
780	弥生土器	壺	灰白 2.5Y8／2	貼付刻目突帯。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
781	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
782	弥生土器	高杯	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
783	弥生土器	壺	灰白 7.5YR8／2	被熱。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
784	弥生土器	壺	灰白 10YR8／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
785	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
786	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	被熱。口縁部煤付着。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
787	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／4	被熱。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
788	弥生土器	甕	灰白 2.5Y7／1		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
789	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
790	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR6／4		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
791	弥生土器	甕	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
792	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR7／3	内外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
793	弥生土器	甕	浅黄 2.5Y7／3		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
794	弥生土器	甕	浅黄橙 10YR8／4		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
795	弥生土器	壺	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
796	弥生土器	壺	浅黄橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
797	弥生土器	甕	にぶい橙 2.5YR7／4		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
798	弥生土器	甕	灰 5Y4／1		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
799	弥生土器	高杯	灰白 2.5Y8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
800	弥生土器	高杯	浅黄橙 10YR8／3	脚部ミガキ、透かし孔。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
801	弥生土器	高杯	にぶい橙 7.5YR7／4		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
802	弥生土器	鉢	にぶい褐 7.5Y6／3		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
803	弥生土器	甕	橙 5YR7／6		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
804	弥生土器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2	外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
805	弥生土器	甕	橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
806	弥生土器	甕	灰黄褐 10YR5／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
807	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR6／4	外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
808	弥生土器	甕	にぶい橙 7.5YR6／4	外面煤付着。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
809	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／4		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
810	弥生土器	甕	浅黄橙 7.5YR8／4		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
811	土師器	甕	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝59	SD08、SD06
812	須恵器	杯蓋	灰 N6／	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
813	須恵器	杯蓋	灰 N6／13	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
814	須恵器	杯蓋	灰白 2.5Y8／1	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
815	須恵器	杯蓋	灰 N6／	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
816	須恵器	杯蓋	灰 5Y6／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
817	須恵器	杯蓋	灰白 N7／B	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
818	須恵器	杯蓋	灰 5Y6／1	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
819	須恵器	杯身	灰白 N7／		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
820	須恵器	杯身	青灰 5B6／1		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
821	須恵器	杯身	青灰 N6／B		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
822	須恵器	杯身	灰 N6／		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
823	須恵器	杯身	灰白＋黄 N7／Y	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
824	須恵器	杯身	青灰 N7／	天井部ケズリ。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
825	須恵器		灰白 N7／B		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
826	土師器	壺	灰白 2.5Y7／1		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
827	土師器	椀	黄灰 2.5YR5／1	被熱。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
828	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝77	SD31
829	土師器	椀	淡黄橙 7.5Y8／3	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝77	SD31
830	土師器	皿	浅黄橙 7.5YR8／4	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝77	SD31
831	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝77	SD31
832	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝78	SD02
833	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝78	SD02
834	瓦器	椀	暗灰		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝80	SD03
835	土師器	皿	にぶい橙 7.5YR7／4	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝81	SD04
836	土師器	椀	黄灰 2.5Y4／1	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝82	SD05、35、74
837	土師器	皿	浅黄橙 7.5YR8／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝88	SD39（38）
838	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	早島式土器。重ね焼き痕。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝90	SD03、SD06
839	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	溝90	SD32、SD73
840	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
841	須恵器	椀	灰白 N7／	口縁部黒色。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
842	須恵器	椀	灰白 5Y7／1		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
843	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
844	土師器	椀	灰白 5Y8／1	早島式土器。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
845	土師器	皿？	浅黄橙 10YR8／4		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
846	土師器	皿	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
847	土師器		橙 2.5YR7／8		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	粘土採掘坑	
848	白磁	碗	灰白 N7／Y		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
849	土師器	皿	にぶい黄橙 10YR7／2	底部糸切り。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
850	魚住焼	こね鉢	灰白 N7／	底部糸切り。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
851	土師器	皿	にぶい橙 10YR7／2	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
852	須恵器	椀	灰白 N8／		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
853	土師器	皿	灰白 5Y8／1	煤付着。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
854	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
855	土師器	椀	にぶい橙 10YR7／3	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	

番号	種別	器種	色調	備考	出土遺跡・地点	旧遺跡名	出土遺構	旧出土遺構・層位
856	土師器	椀	灰白 2.5Y8／1	丹塗り？	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
857	土師器	椀	灰白 10YR8／1	早島式土器。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
858	土師器	椀	灰白 10YR8／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
859	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
860	土師器	台付皿	橙 7.5YR7／6		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
861	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
862	土師器	皿	浅橙 5YR8／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
863	土師器	鍋	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
864	土師器	鍋	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
865	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
866	瓦	平瓦	にぶい黄橙 10YR7／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
867	瓦	平瓦	灰黄 2.5Y7／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
868	瓦	平瓦	浅黄橙 10YR8／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
869	瓦	平瓦	にぶい橙 7.5YR7／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	粘土採掘坑	
870	須恵器	杯蓋	灰白 5Y7／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
871	須恵器	杯蓋	灰白 N6／		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
872	須恵器	杯蓋	灰白 5Y7／3		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
873	須恵器	杯蓋	明青灰 5B7／1		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
874	須恵器	杯蓋	明青灰 5B7／B		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
875	須恵器	杯	灰 N65／B		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
876	須恵器	杯	灰白 5Y7／		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
877	須恵器	椀	灰 N7／		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
878	緑釉陶器	椀	灰	全面釉。貼付高台。防長産？	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
879	緑釉陶器	瓶	灰	防長産。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
880	須恵器	甕	灰 N6		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
881	須恵器	甕	明青白 5B7／1		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
882	土師器	高杯蓋	にぶい黄橙 10YR7／3	丹塗り。	北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
883	土師器	椀	浅黄橙 7.5YR7／4		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
884	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR7／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
885	黒色土器	椀	にぶい橙 7.5YR7／4		北方地蔵遺跡2区	北方地蔵遺跡2区	包含層	
886	黒色土器	椀	黒褐 2.5Y3／1	斜格子暗文。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
887	瓦	軒丸瓦	灰白 N7／Y	蓮子、花弁。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
888	青磁	碗	灰緑	体部釉。底部露胎。同安窯系。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
889	須恵器	椀	灰白 N7／Y		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
890	須恵器	壺	灰白 N7／B		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
891	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
892	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
893	瓦器	椀	暗灰		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
894	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
895	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
896	土師器	椀	浅黄橙 10YR8／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
897	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
898	土師器	椀	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
899	土師器	椀	灰白		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
900	土師器	椀	灰白 2.5Y8／2	早島式土器。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
901	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
902	土師器	皿？	灰白 10YR8／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
903	土師器	椀	淡黄 2.5Y8／3		北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
904	土師器	椀	灰白 10YR8／2	早島式土器。内外面煤付着。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
905	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
906	土師器	皿	灰白 10YR8／1	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡1区	北方地蔵遺跡1区	包含層	
907	土師器	皿	灰黄褐 10YR6／2	底部ヘラ切り。	北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
908	土師器	皿	橙 5YR6／6		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
909	須恵器	捏鉢	灰白 2.5Y7／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
910	備前焼	擂鉢	青灰 5B6／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
911	瓦質土器	鉢	灰白 7.5YR6／1		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
912	土師器	鍋	にぶい黄橙 10YR7／3		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
913	土師器	鍋	にぶい黄橙 10YR6／4		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	
914	土師器？	鍋	黒褐 10YR3／2		北方地蔵遺跡3区	北方地蔵遺跡3区	包含層	

1．発掘調査着手前の北方下沼遺跡
（東から）

2．街路建設に伴う発掘調査
（西から）

3．水田 1 畦畔検出状態
（北方下沼遺跡；
北東から）

図版２

1．水田１・溝１
（北方下沼遺跡；
北から）

2．大畦と溝１
（北方下沼遺跡；
南から）

3．溝２
（北方下沼遺跡；
北から）

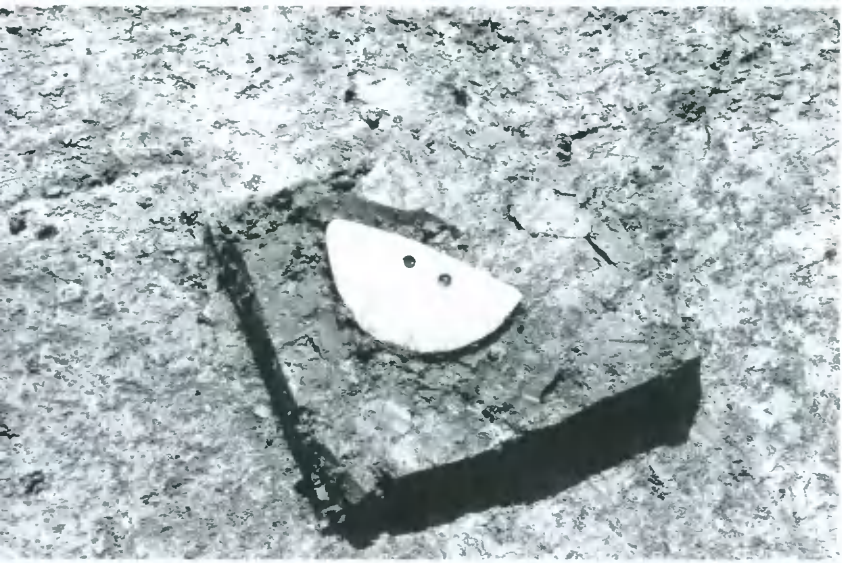
1．水田２
（北方下沼遺跡；
北から）

2．水田３
（北方横田遺跡１区；
東から）

3．溝５、水田４・５
（北方横田遺跡１区；
北西から）

図版４

1．水田５・９西半
（北方横田遺跡２区；
東から）



2．水田９磨製石包丁出
土状態
（北から）

3．水田９
（北方横田遺跡２区；
西から）

1．水田８検出状況
（北方横田遺跡２区；
南西から）

2．溝３土器出土状態
（北方下沼遺跡；
北から）

3．溝５
（北方横田遺跡１区；
北西から）

図版６

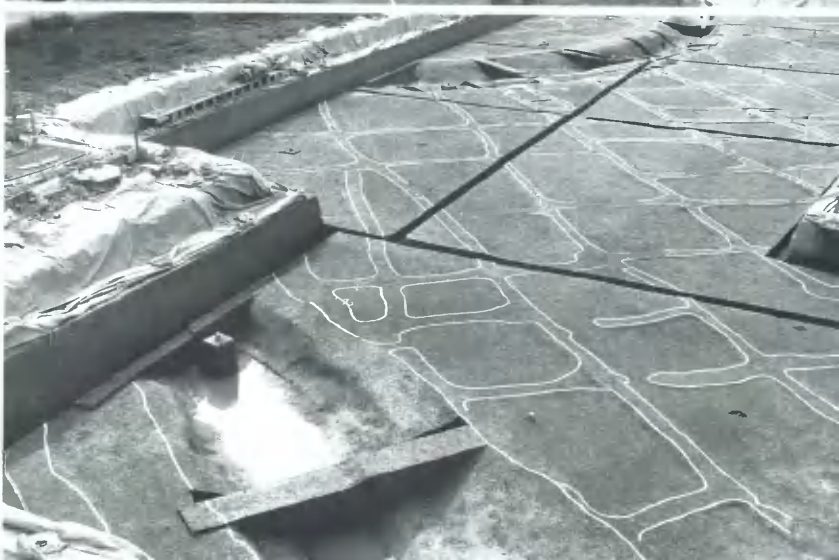
１．溝５南壁断面
（北方横田遺跡１区；
北から）

２．溝５断面
（北方横田遺跡１区；
北西から）

３．水田６・７全景
（北方横田遺跡１区；
南西から）

1．水田６・７全景
（北方横田遺跡１区；西から）

2．水田６畦畔痕跡
（北方横田遺跡１区；北西から）



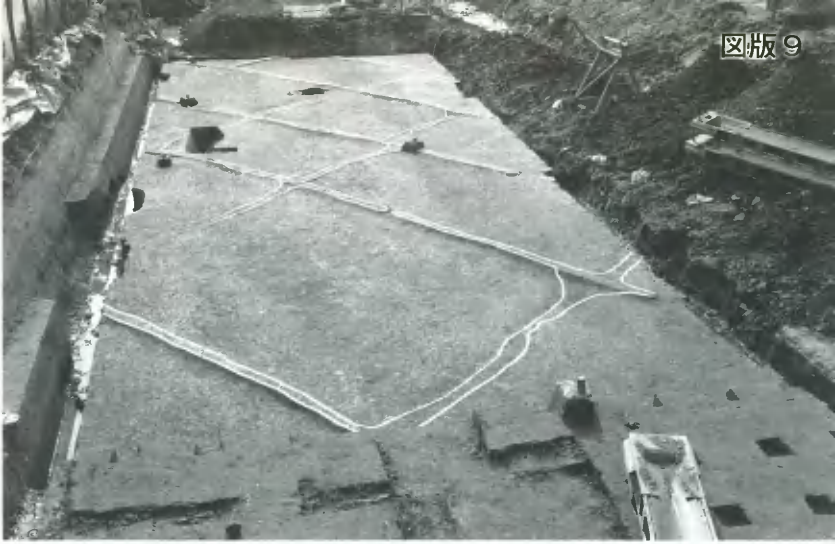
3．溝５、水田４
（北方横田遺跡１区；北から）

図版８

1．水田６・７全景
（北方横田遺跡１区；
西から）

2．水田６畦畔痕跡
（北方横田遺跡１区；
北西から）

3．溝５・水田
（北方横田遺跡１区；
北から）



1．水田９
（北方横田遺跡２区；東から）

2．水田12・13
（北方横田遺跡１区；東から）

3．水田11、溝12・13
（北方横田遺跡１区；東から）

図版10

1．水田14
（北方横田遺跡２区；東から）

2．水田14東半
（北方横田遺跡２区；東から）

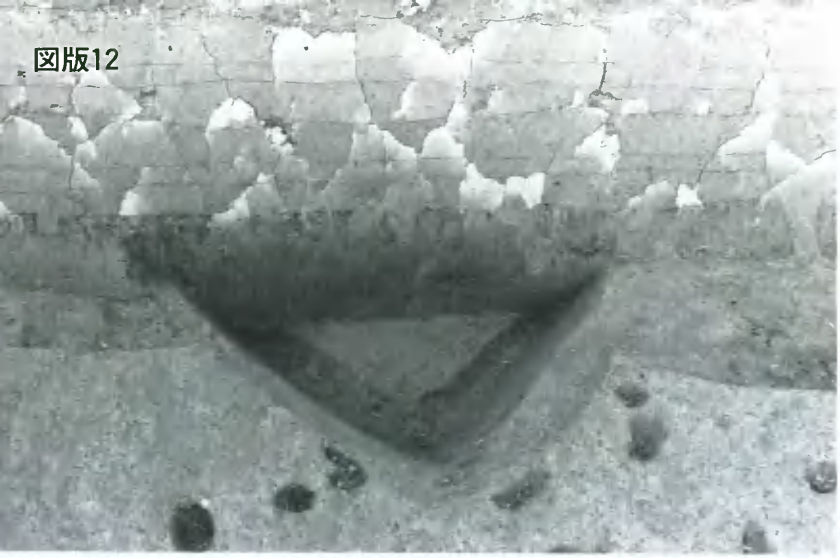
3．河道
（北方横田遺跡１区；北東から）

1．溝18
（北方横田遺跡２区；
南東から）

2．土壙１
（北方横田遺跡１区；
北西から）

3．竪穴住居１
（北方下沼遺跡；
北西から）

図版12

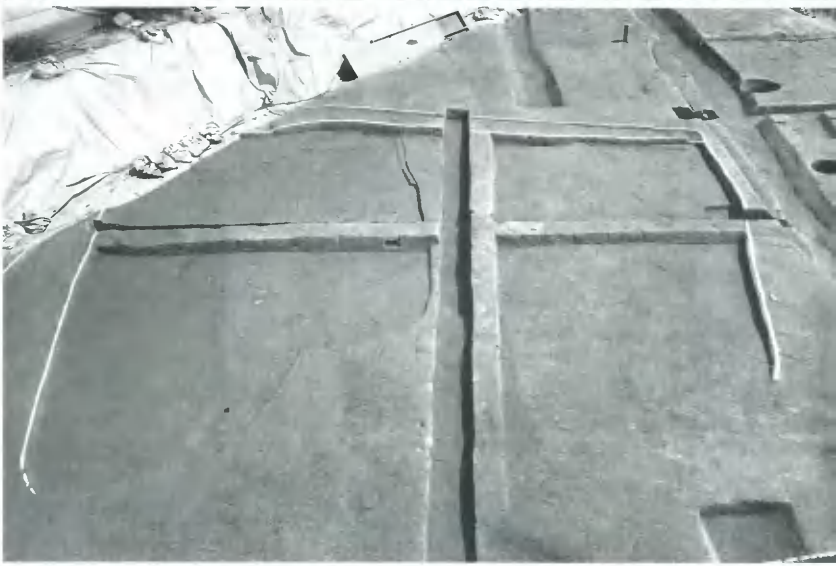


1. 竪穴住居２
（北方下沼遺跡；
南から）

2. 竪穴住居３
（北方下沼遺跡；
南東から）

3. 竪穴住居３遺物出土
状態
（北方下沼遺跡；
北西から）

1．竪穴住居４周辺
（北方下沼遺跡；
北西から）

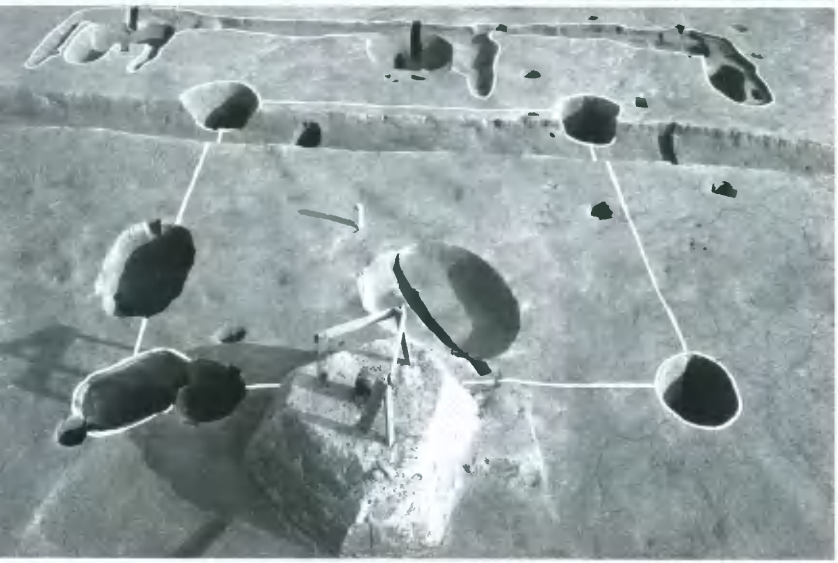


2．竪穴住居４検出状態
（北方下沼遺跡；
南西から）

3．竪穴住居５古段階
（北方下沼遺跡；
北東から）

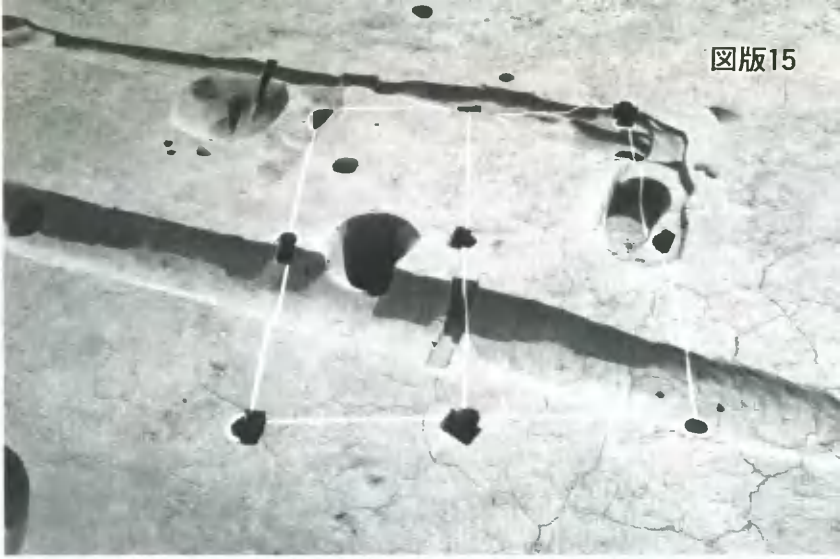
図版14

1．竪穴住居５新段階
（北方下沼遺跡；
北西から）



2．竪穴住居６
（北方下沼遺跡；
北西から）

3．竪穴住居６、Ｐ４断
面
（北方下沼遺跡；
南から）



1．掘立柱建物1
（北方下沼遺跡；
西から）

2．溝21
（北方下沼遺跡；
南から）

3．土壙7
（北方下沼遺跡；
北から）

1．溝22～24
（北方下沼遺跡；
北から）

2．溝22杭列
（北方下沼遺跡；
北から）

3．溝22杭列
（北方下沼遺跡；
南から）

1．溝22
（北方下沼遺跡；
南から）

2．溝22西端杭列
（北方下沼遺跡；
西から）

3．溝22断面
（北方下沼遺跡；
南から）

図版18

1．溝24周辺全景
（北方横田遺跡１区；
北東から）

2．土壙10
（北方横田遺跡１区：
南東から）

3．溝24土層断面
（北方横田遺跡１区；
南から）

1．溝31
（北方横田遺跡２区；東から）

2．水田16
（北方横田遺跡１区；北東から）

3．道路完成後の北方横田遺跡
（東から）

図版20

1．北方中溝遺跡発掘調査着手前の状況（西から）

2．溝1（北方中溝遺跡1区；南西から）

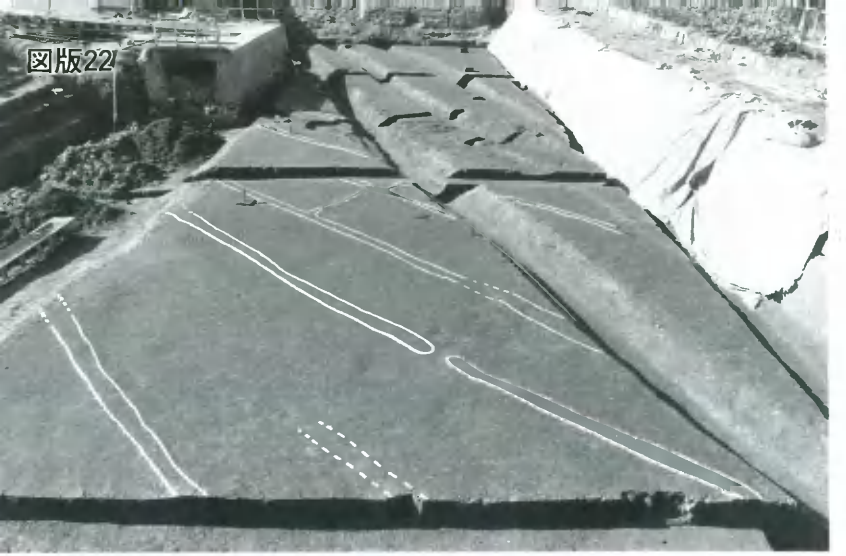
3．溝2（北方中溝遺跡1区；北から）

1　水田１
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

2．溝３、水田１
（北方中溝遺跡１区；
南西から）

3．水田２、溝11
（北方中溝遺跡１区；
南西から）

図版22



1．水田３
（北方中溝遺跡１区；
東から）

2．水田３、溝５
（北方中溝遺跡１区；
南西から）

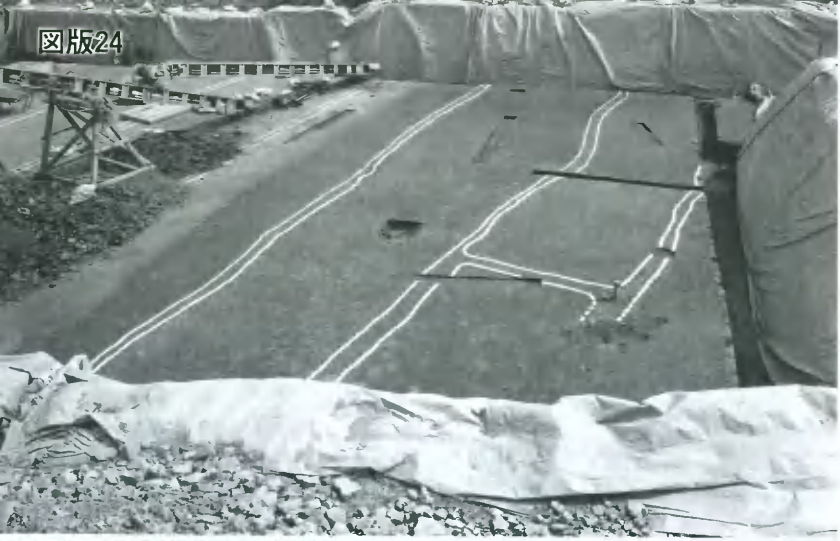
3．水田５、溝６
（北方中溝遺跡１区；
南から）

1．水田６
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

2．水田７検出作業
（北方中溝遺跡２区；
北から）

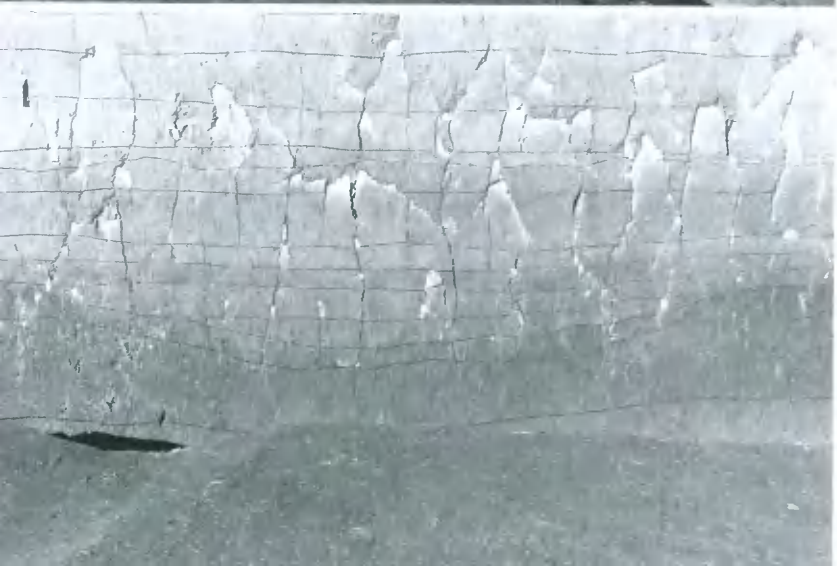
3．水田７東半
（北方中溝遺跡２区；
北から）

図版24



1．水田７西半
（北方中溝遺跡２区：
北西から）

2．溝４・５付近北壁
（北方中溝遺跡１区：
南東から）



3．溝４断面
（北方中溝遺跡１区；
南から）

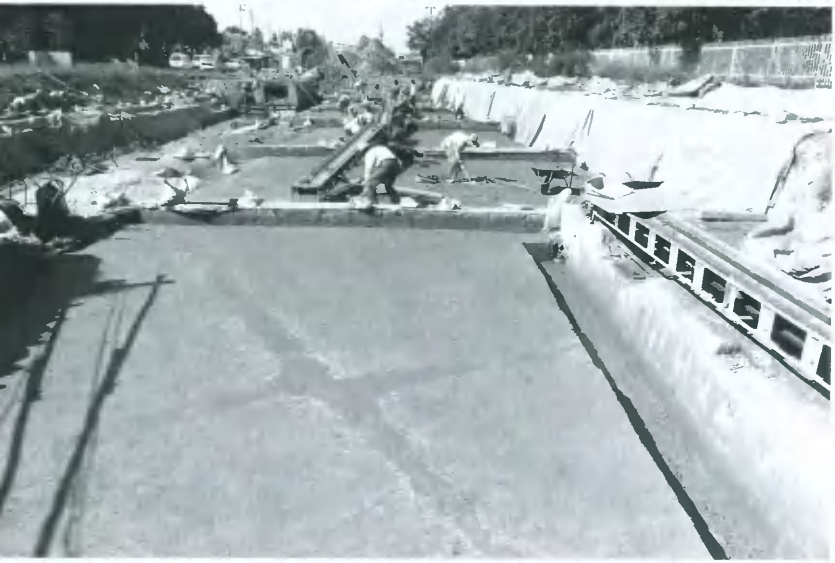
1．溝32・34、水田11
（北方中溝遺跡１区；
西から）

2．水田11
（北方中溝遺跡１区；
西から）

3．水田11
（北方中溝遺跡１区；
東から）

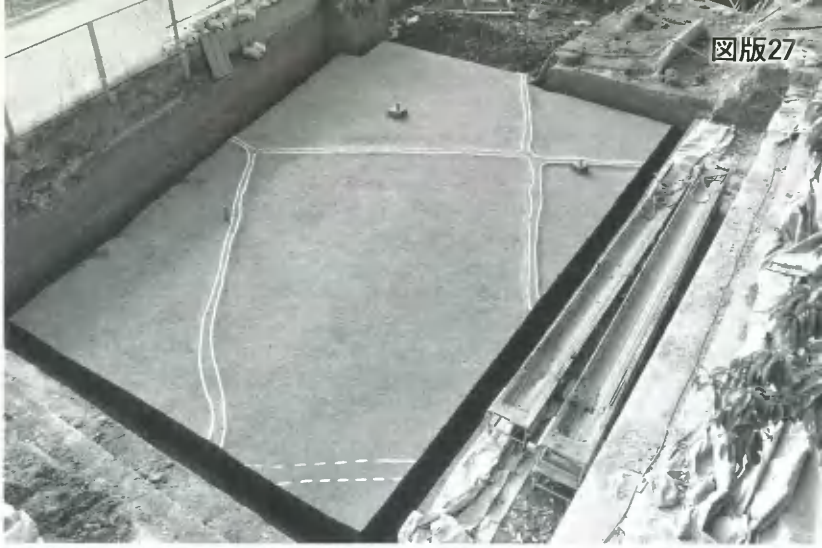
図版26

1．水田12
（北方中溝遺跡１区；
西から）

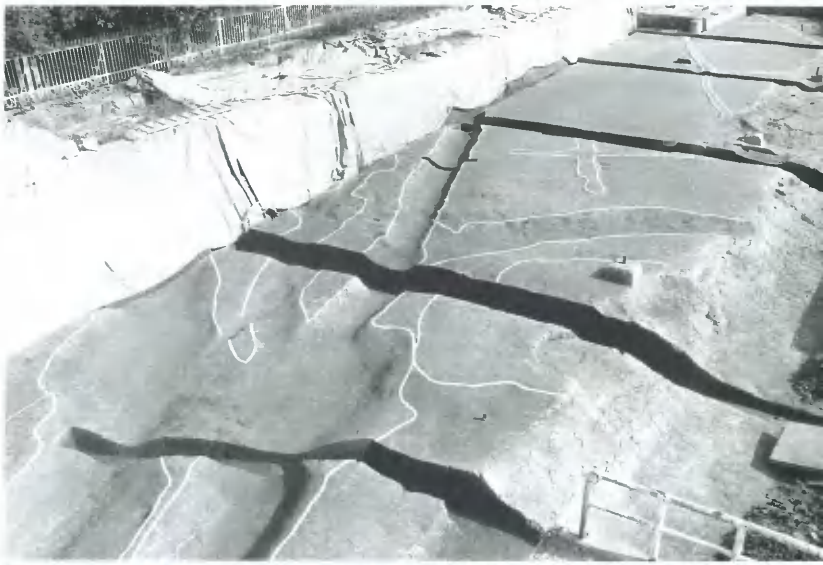


2．水田13検出状況
（北方中溝遺跡１区；
東から）

3．水田13畦畔断面
（北方中溝遺跡１区；
南から）



1．水田13東端
（北方中溝遺跡１区；北東から）



2．溝34、水田13
（北方中溝遺跡１区；西から）

3．水田13
（北方中溝遺跡１区；西から）

図版28

1．水田13
（北方中溝遺跡１区；
東から）

2．水田８
（北方中溝遺跡１区；
西から）

3．水田12西半
（北方中溝遺跡１区；
北から）

1．水田11、溝32・34
（北方中溝遺跡１区；
西から）

2．溝30・31、水田12
（北方中溝遺跡１区；
西から）

3．水田12
（北方中溝遺跡１区；
東から）

1．水田８畦畔痕跡
（北方中溝遺跡１区；
南西から）

2．水田12
（北方中溝遺跡１区：
東から）

3．水田18
（北方中溝遺跡２区；
北から）

1．水田17
（北方中溝遺跡２区；
西から）

2．水田20
（北方中溝遺跡１区；
西から）

3．溝９周辺
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

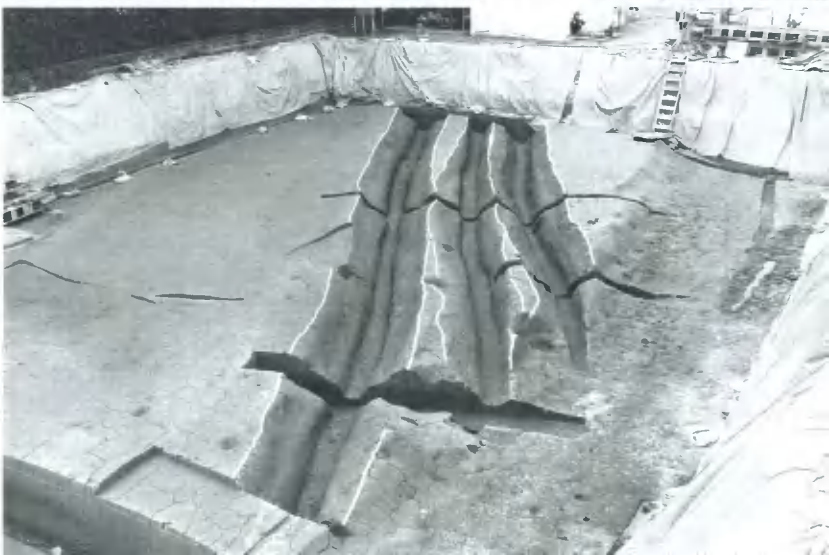
1．溝32～34
（北方中溝遺跡１区：
西から）

2．溝32～34
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

3．溝32上層洪水砂
（北方中溝遺跡１区；
東から）

1．溝34断面
（北方中溝遺跡１区；
西から）

2．溝27
（北方中溝遺跡２区；
南西から）



3．溝13・30・31
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

1．溝24～26
（北方中溝遺跡１区；
北東から）

2．土器溜り
（北方中溝遺跡１区；
西から）

3．水田19
（北方中溝遺跡２区；
西から）

1．水田20
（北方中溝遺跡１区；東から）

2．溝35
（北方中溝遺跡１区；東から）

3．溝35
（北方中溝遺跡１区；東から）

図版36

1．溝35
（北方中溝遺跡１区；東から）

2．溝35
（北方中溝遺跡１区；東から）

3．溝35
（北方中溝遺跡１区；西から）

1．溝35杭検出状況
（北方中溝遺跡２区；南から）

2．溝35断面
（北方中溝遺跡２区；南東から）

3．溝35断面
（北方中溝遺跡１区；西から）

図版38

1．溝35網代編み遺構
（北方中溝遺跡２区；
東から）

2．北方中溝遺跡から北
東方向（道路完成後、
中央の森が神宮寺山
古墳）
（南西から）

3．北方地蔵遺跡の発掘
調査着手前の状況
（東から）

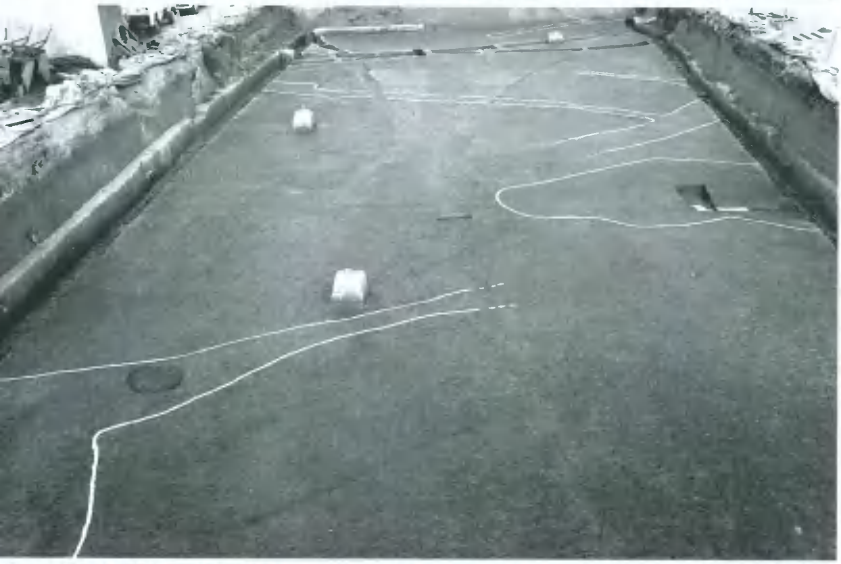
1．水田1
（北方地蔵遺跡1区；南東から）

2．水田1
（北方地蔵遺跡1区；南東から）

3．水田1畦畔、溝1
（北方地蔵遺跡1区；南から）

図版40

1．水田１
（北方地蔵遺跡１区；
西から）



2．水田１
（北方地蔵遺跡２区；
西から）

3．土壙１
（北方地蔵遺跡３区；
東から）

1．水田２
（北方地蔵遺跡１区；東から）

2．溝26・27・29・30
（北方地蔵遺跡１区；西から）

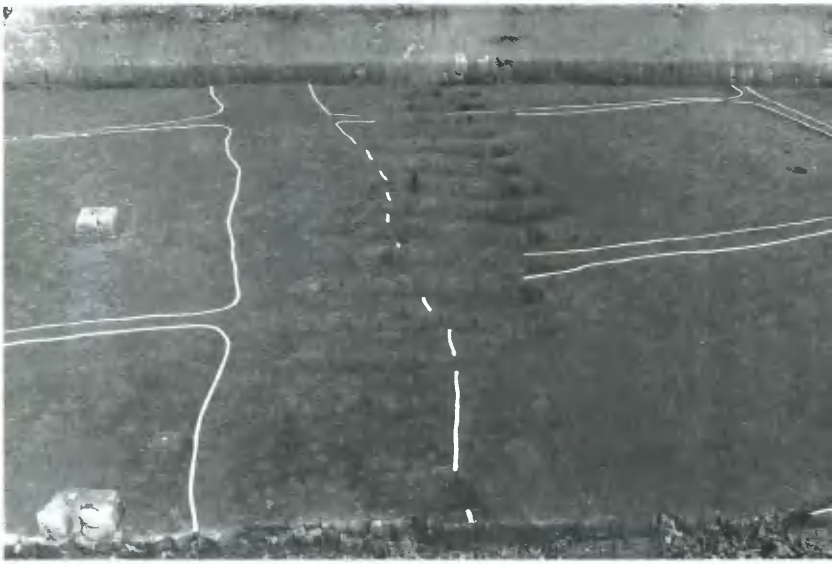
3．水田２
（北方地蔵遺跡２区；北東から）

1．水田２
（北方地蔵遺跡２区；
北東から）

2．水田２
（北方地蔵遺跡２区；
東から）

3．水田２
（北方中溝遺跡２区；
北西から）

1. 水田２、溝58
（北方地蔵遺跡２区；東から）



2. 水田２大畦
（北方地蔵遺跡２区；南から）

3. 水田２
（北方地蔵遺跡２区；東から）

1．溝４～７、ピット群
（北方地蔵遺跡３区；
南から）

2．溝４～７周辺
（北方地蔵遺跡３区；
西から）

3．溝12・13
（北方地蔵遺跡１区；
南東から）

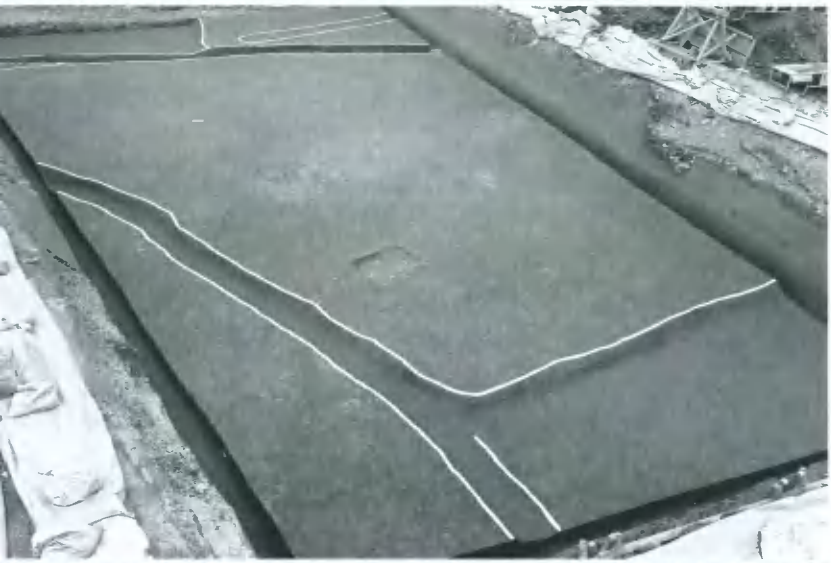
1．溝30・32周辺
（北方地蔵遺跡１区；東から）

2．溝33～36周辺
（北方地蔵遺跡１区；東から）

3．溝49・50周辺
（北方地蔵遺跡３区；東から）

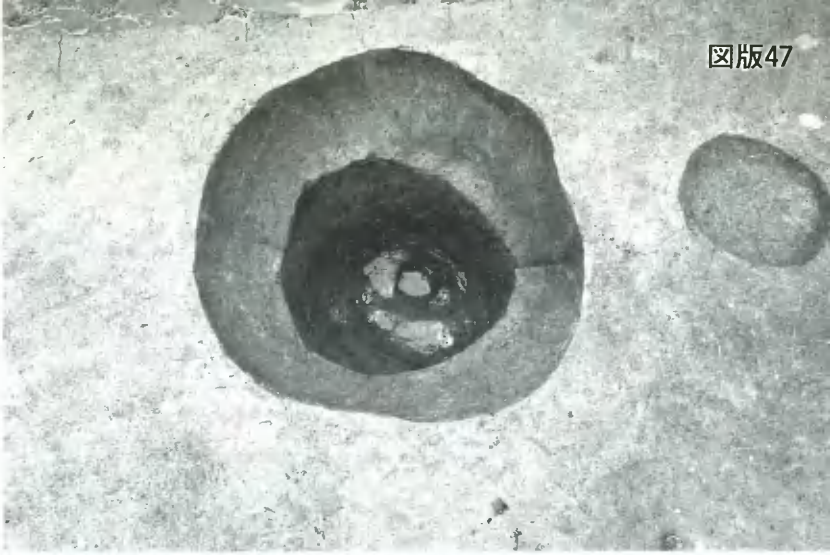
図版46

1．溝55周辺
（北方地蔵遺跡３区；
北西から）



2．土壙７・８、溝56
（北方地蔵遺跡３区；
南から）

3．土壙４
（北方地蔵遺跡２区；
西から）



1．土壙５
（北方地蔵遺跡２区；北から）

2．柵列状遺構１～３
（北方地蔵遺跡２区；東から）

3．柵列状遺構１～３
（北方地蔵遺跡２区；南から）

図版48

1．鋤痕跡
（北方地蔵遺跡３区；
北西から）

2．溝80
（北方地蔵遺跡１区；
西から）

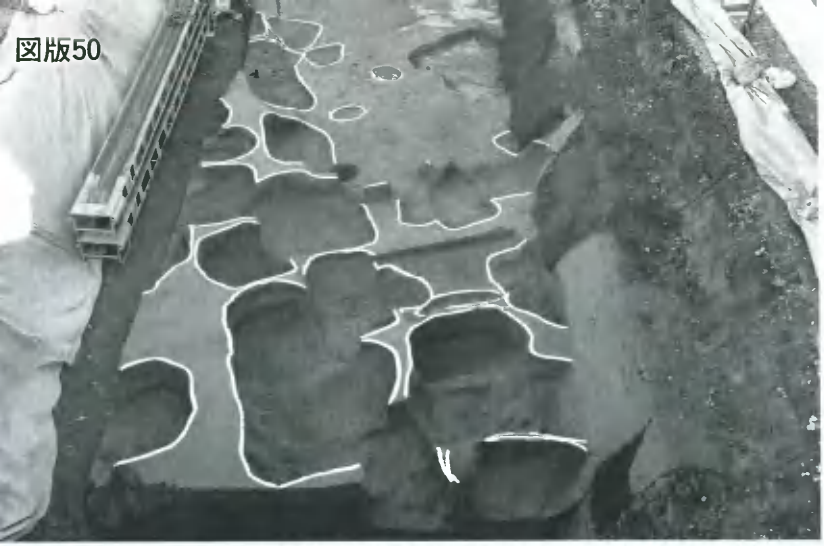
3．溝90周辺
（北方地蔵遺跡２区；
東から）

1. 粘土採掘坑y35～36ライン
（北方地蔵遺跡２区；東から）

2. 粘土採掘坑10付近
（北方地蔵遺跡２区；東から）

3. 粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡２区東半；東から）

図版50



1．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡２区
東半；西から）

2．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区
東半；東から）

3．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区
東半；東から）

1．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区
東半；西から）

2．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区
東半；西から）

3．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区
東半；南東から）

1．粘土採掘坑群
（北方地蔵遺跡３区；
北から）

2．粘土採掘坑126
（北方地蔵遺跡３区；
東から）

3．粘土採掘坑16
（北方地蔵遺跡３区；
西から）

1．粘土採掘坑 26
（北方地蔵遺跡３区；
北東から）

2．粘土採掘坑 29
（北方地蔵遺跡３区；
東から）

3．北方地蔵遺跡３区
（道路完成後；
東から）

図版54

20

21

33

46

26

94

99

93

117

136

104

125

142

149

弥生土器・土師器・韓式土器

図版55

163

165

168

171

175

176

172

173

192

214

178

226

228

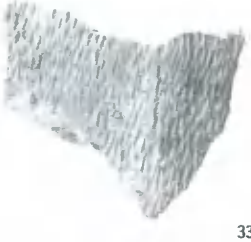
222

262

289

260

295


338

303

361

359

362

373

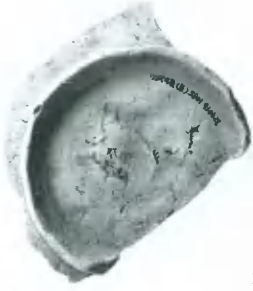
土師器・黒色土器・瓦・須恵器

図版56

376

378

383



388

389

390

391

392

392
外底部

394

396

397

398

土師器・墨書土器・黒色土器

410

410

411

414

416

418

424

438

437

縄文土器・弥生土器

図版58

451

453

460

459

461

462

弥生土器

463

466

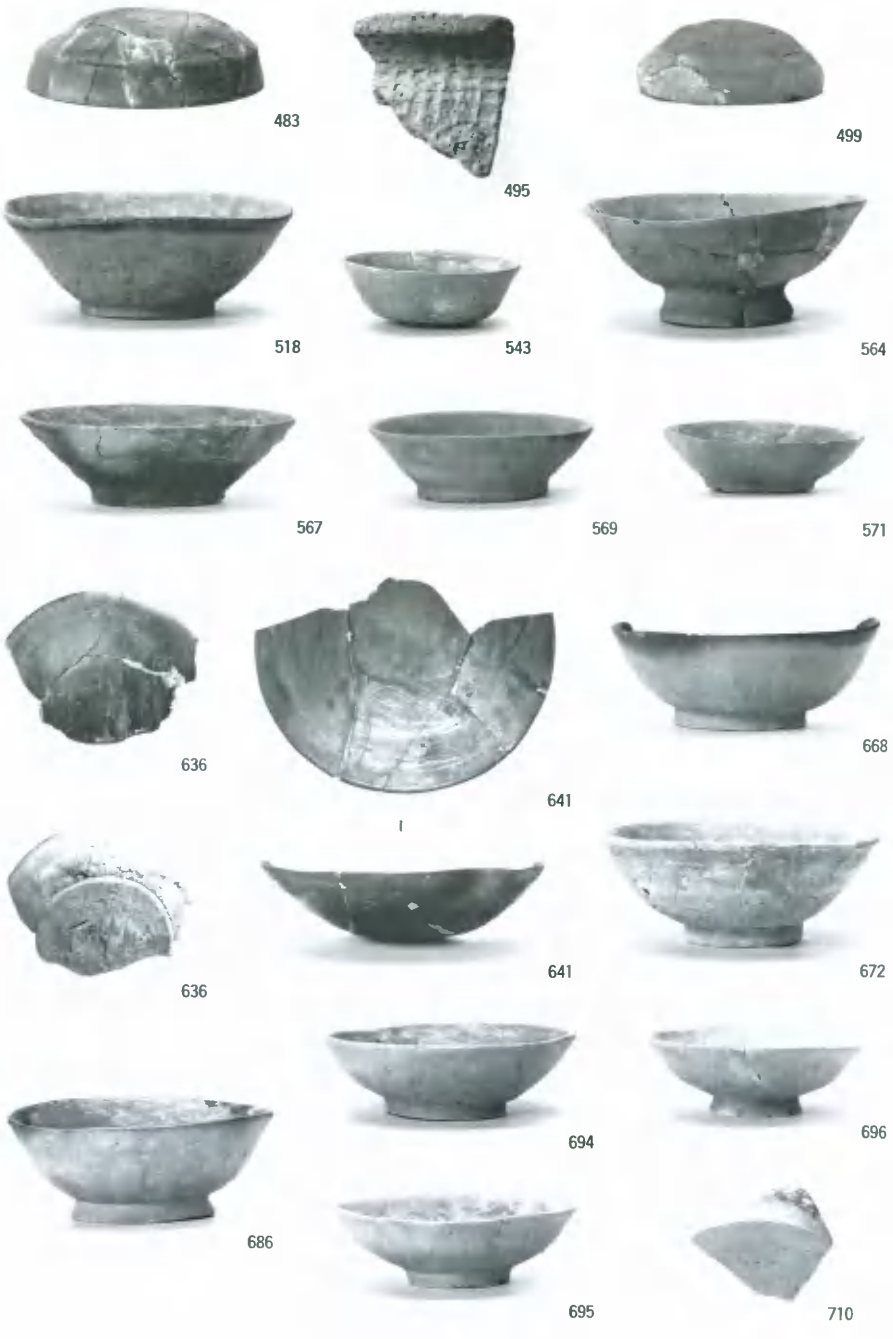
464

467

465

弥生土器

図版60



須恵器・韓式土器・土師器・黒色土器・瓦器

730

735

732

749

751

769

755

771

縄文土器・弥生土器

図版62

773

781

774

805

864

872

808

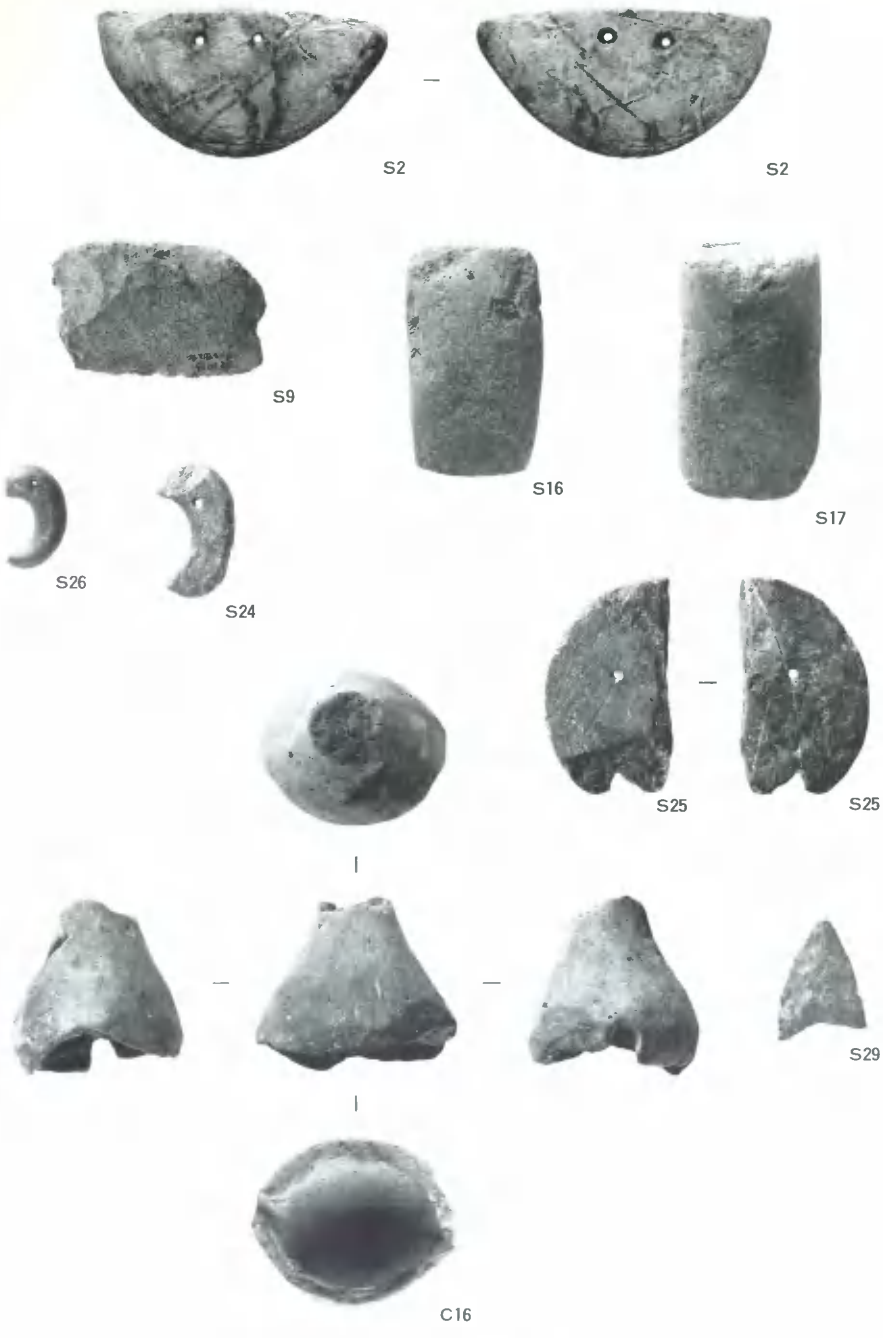
C57

C67

S44

S43

弥生土器・土師器・瓦・土錘・石鏃



石器（石包丁・石斧・石鏃）・勾玉・土鈴ほか

図版64

W1 表

W1 裏

W2

W8

W6

W7

M1

M5

M6

M13

M15

M14

M18

M19

木製品（下駄・卒塔婆・木札ほか）・鉄器（刀子・紡錘車・鋤先ほか）・砲弾

報告書抄録

ふりがな	きたかたしもぬま　きたかたよこた　きたかたなかみぞ　きたかたじぞう
書名	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡
副書名	都市計画道路万成・国富線建設に伴う発掘調査
巻次	I
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	126
編著者名	岡田　博・伊藤　晃・柳瀬昭彦・松本和男・中野雅美・平井泰男・光永真一・椿　真治・前田能成・山本晋也・白石　純
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター
所在地	〒701－0136　岡山県岡山市西花尻1325－3　TEL 086－293－3211
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
北方下沼(きたかたしもぬま)遺跡・ 北方横田(きたかたよこた)遺跡・ 北方中溝(きたかたなかみぞ)遺跡・ 北方地蔵(きたかたじぞう)遺跡	岡山県(おかやまけん) 岡山市(おかやま) 学南町(がくなん) 大和町(やまと)	33201	―――	34度 40分 40秒	133度 55分 30秒	19871005 ～ 19960331	17,079	都市計画道路万成・国富線建設に伴う事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北方下沼遺跡・ 北方横田遺跡・ 北方中溝遺跡・ 北方地蔵遺跡	集落跡	弥生	水田 8 土壙 1 溝 5 河道 たわみ	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦・緑釉陶器・灰釉陶器・石器・石製品・木器・土製品・鉄製品・鉄滓・椀形滓・鞴の羽口	• 弥生時代前期の水田遺構の発見 • 弥生時代後期の線刻絵画（動物）土器 • 弥生時代後期の水田遺構の発見 • 古代から中世の長大な大溝
		古墳	竪穴住居 5 建物 1 溝 2 水田		
		古代～中世	溝 11 杭列 14 土壙 17 粘土採掘坑 581 水田 柵列状遺構 3		

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告126

北方下沼遺跡・北方横田遺跡
北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡

都市計画道路万成・国富線
建設に伴う発掘調査Ⅰ

1998年 3月13日　印刷
1998年 3月31日　発行

編　集　岡山県古代吉備文化財センター
岡山市西花尻1325－3
発　行　岡山県教育委員会
印　刷　友野印刷株式会社
岡山市高柳西町１－23